平成24年度

学生、卒業生、就職先、保護者及び高等学校からの評価報告書

国立大学法人静岡大学

平成 25 年 3 月

学生等評価の結果公表にあたって

国立大学法人静岡大学
副学長（企画･評価担当） 浅利　一郎

静岡大学は、平成 24 年度、大学の基本的な使命である教育、研究、社会連携、国際交流等における過去 3 年間の取り組みを自ら主体的に点検し、現状と成果や課題を明らかにする「自己評価」に全部局をあげて取り組んでいます。そして自己評価の結果を基に、平成25年前半までには外部有識者･関係者による実地調査等を踏まえた「外部評価」を実施します。

静岡大学は、各部局の自己評価と外部評価の基礎データの収集のために、在学生、卒業･修了生、就職先、保護者及び高等学校を対象としたアンケート調査を実施しました。本アンケート調査は、在学生、卒業･修了生に対しては、本学への進学動機、勉学状況、学生支援の状況、教育の評価と成果等について調査しています。保護者と高等学校に対するアンケート調査では、本学への進学動機、就学支援等の評価、本学への期待等について聞いています。就職先アンケート調査では、本学卒業･修了生の採用、就業、期待等に関する評価等についてまとめています。

ここに、今回実施したアンケート調査の集計･分析結果の概要を公表します。

静岡大学は、社会と学生をはじめとする関係者の期待に応えるために、今回取り組んでいる自己評価･外部評価を、教育、研究、社会連携等の諸活動の改善と一層の推進に活かします。

しかし、今回の自己評価･外部評価、学生等評価は個々の改善に活かすだけでなく、「静岡県における国立総合大学」として静岡大学に求められている教育、研究、社会連携等の機能の強化をめざす大学改革につなげることではじめてその目的が達成されると考えています。

最後になりますが、本調査にご協力いただいた方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。

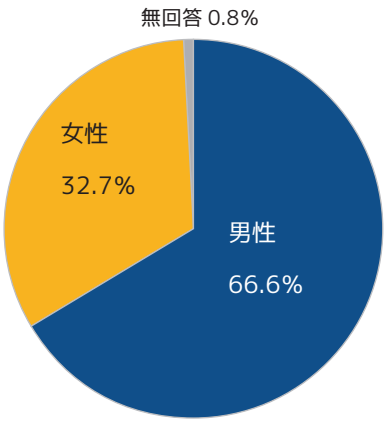
目　次

1	学部生アンケート報告書	1-1～1-37
2	大学院生アンケート報告書	2-1～2-35
3	学部卒業生アンケート報告書	3-1～3-24
4	大学院修了生アンケート報告書	4-1～4-24
5	学部卒業生就職先アンケート報告書	5-1～5-16
6	学部卒業生学校関係就職先アンケート報告書	6-1～6-6
7	大学院修了生就職先アンケート報告書	7-1～7-16
8	大学院修了生学校関係就職先アンケート報告書	8-1～8-5
9	保護者アンケート報告書	9-1～9-15
10	高等学校アンケート報告書	10-1～10-20

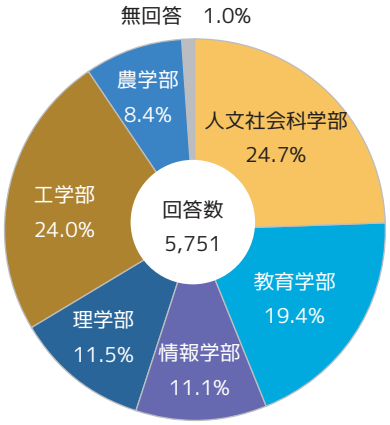
回答者の属性

アンケート対象者：本学在籍学部生全員（平成 24 年 10 月時点）
配布数：8,853 件　回答数：5,751 件
回収率：65.0%（学部別内訳は下記「学部別回収率」参照）

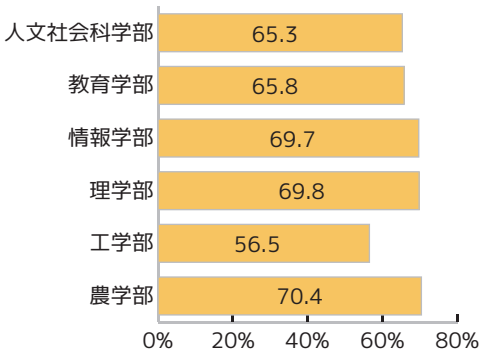
回答者の性別



所属学部

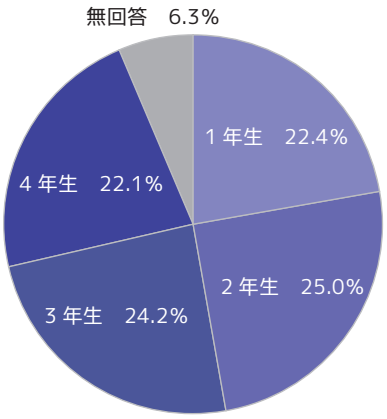


学部別回収率（%）

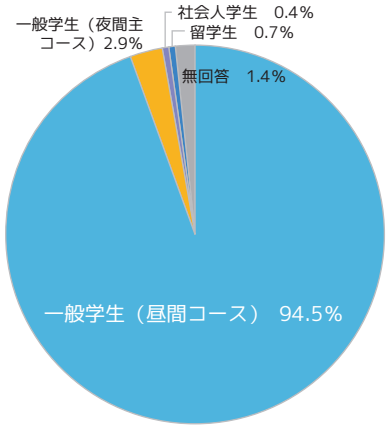


※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

学　年



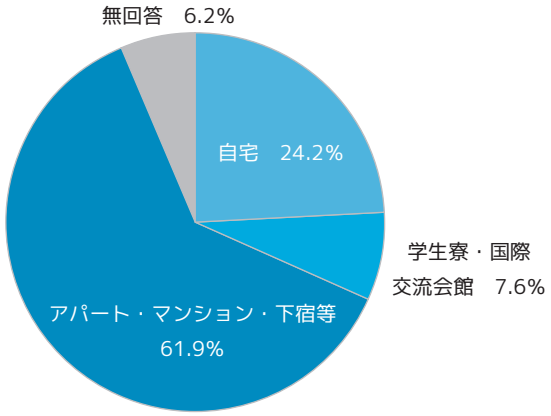
学生区分



※人文学部は便宜上、人文社会科学部で集計しています。（以下、全ページ共通）

回答者の属性

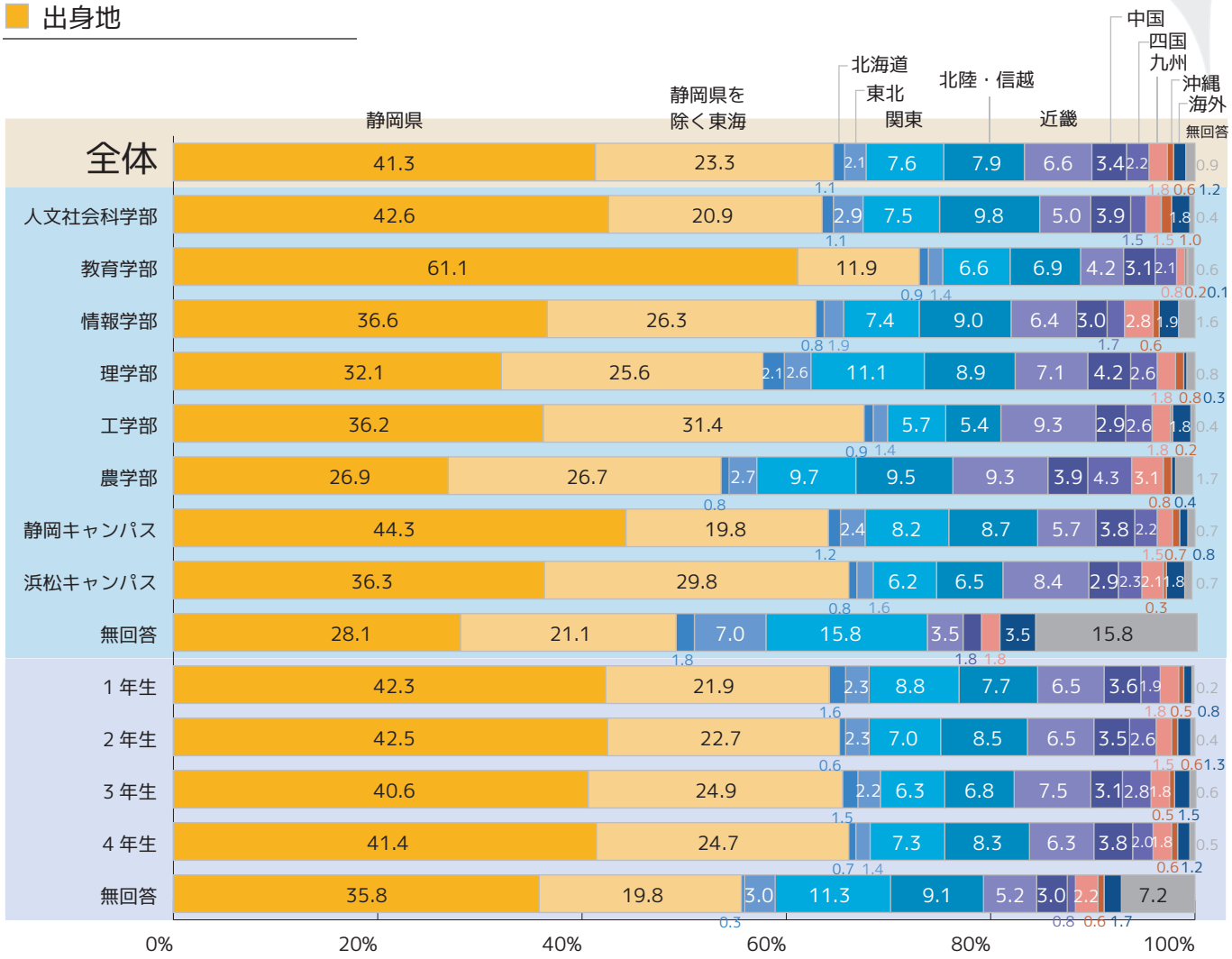
居住形態



「海外」回答者の出身国（内訳）

中国	38 人
韓国	12 人
ベトナム	11 人
ミャンマー	3 人
イギリス	1 人
インドネシア	1 人
オランダ	1 人
マレーシア	1 人

出身地

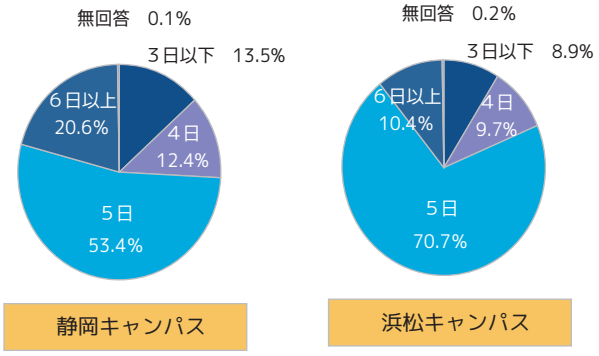


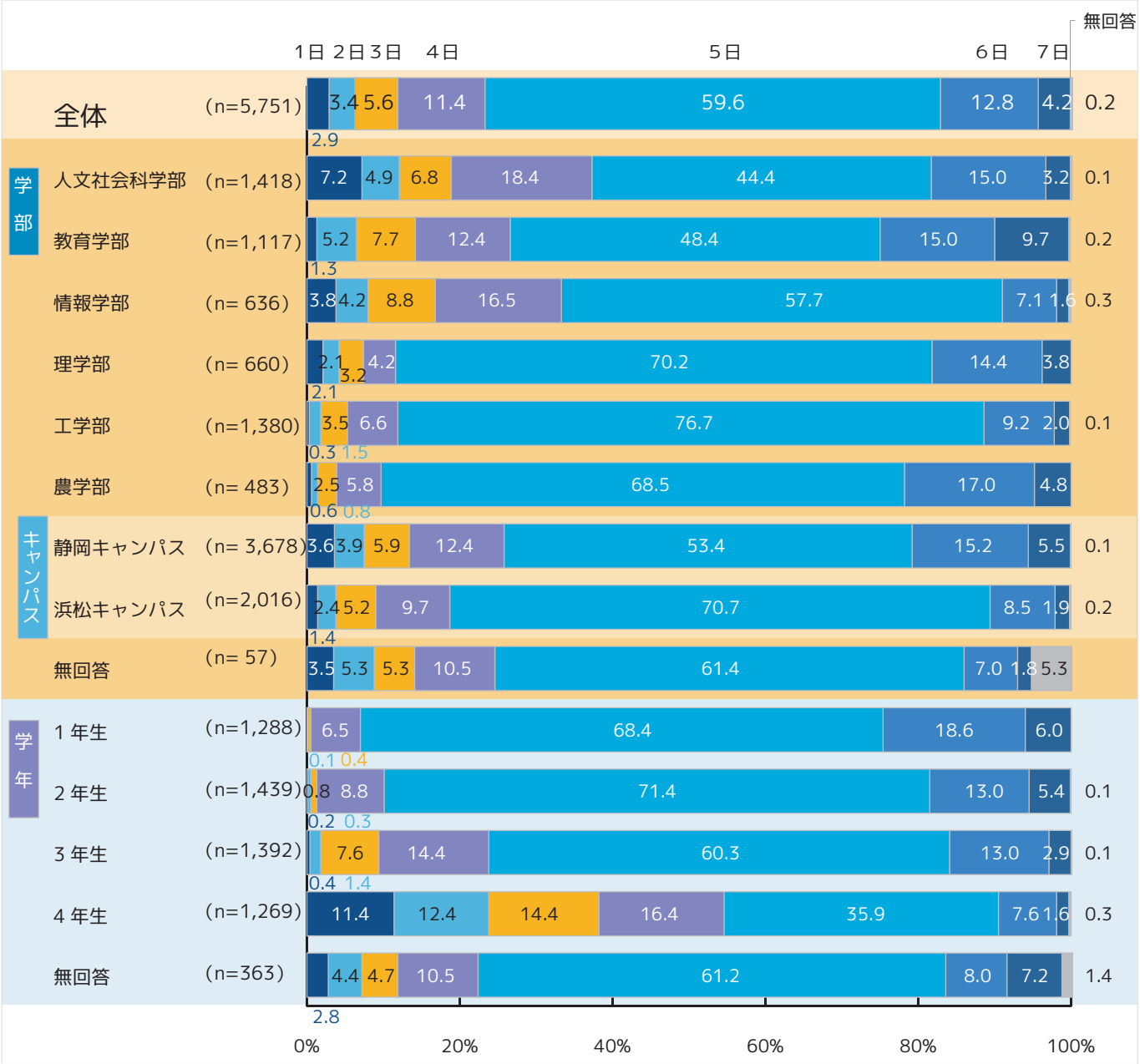
1週間の平均通学日数

全体における「５日」以上の回答割合は 76.6%、うち「５日」が 59.6%を占める。

解　説

- 学部別では、「５日」以上の割合が、「農学部」（90.3 %）、「理 学 部」（88.4 %）、「工 学 部」（87.9%）で高い。
- キャンパス別では、「５日」以上の割合は「浜松キャンパス」の方が７ポイント高い。





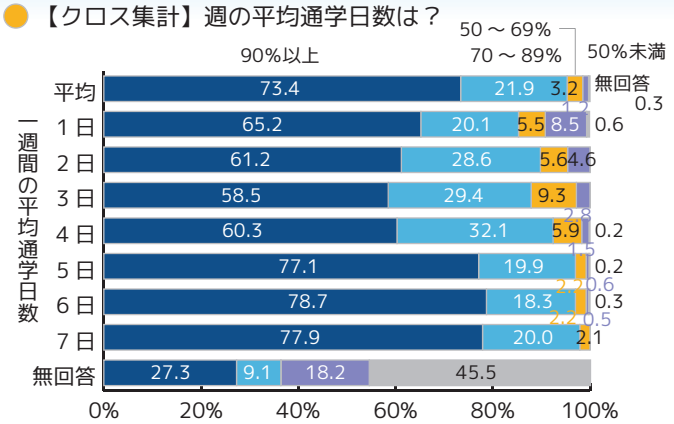
授業の平均出席率

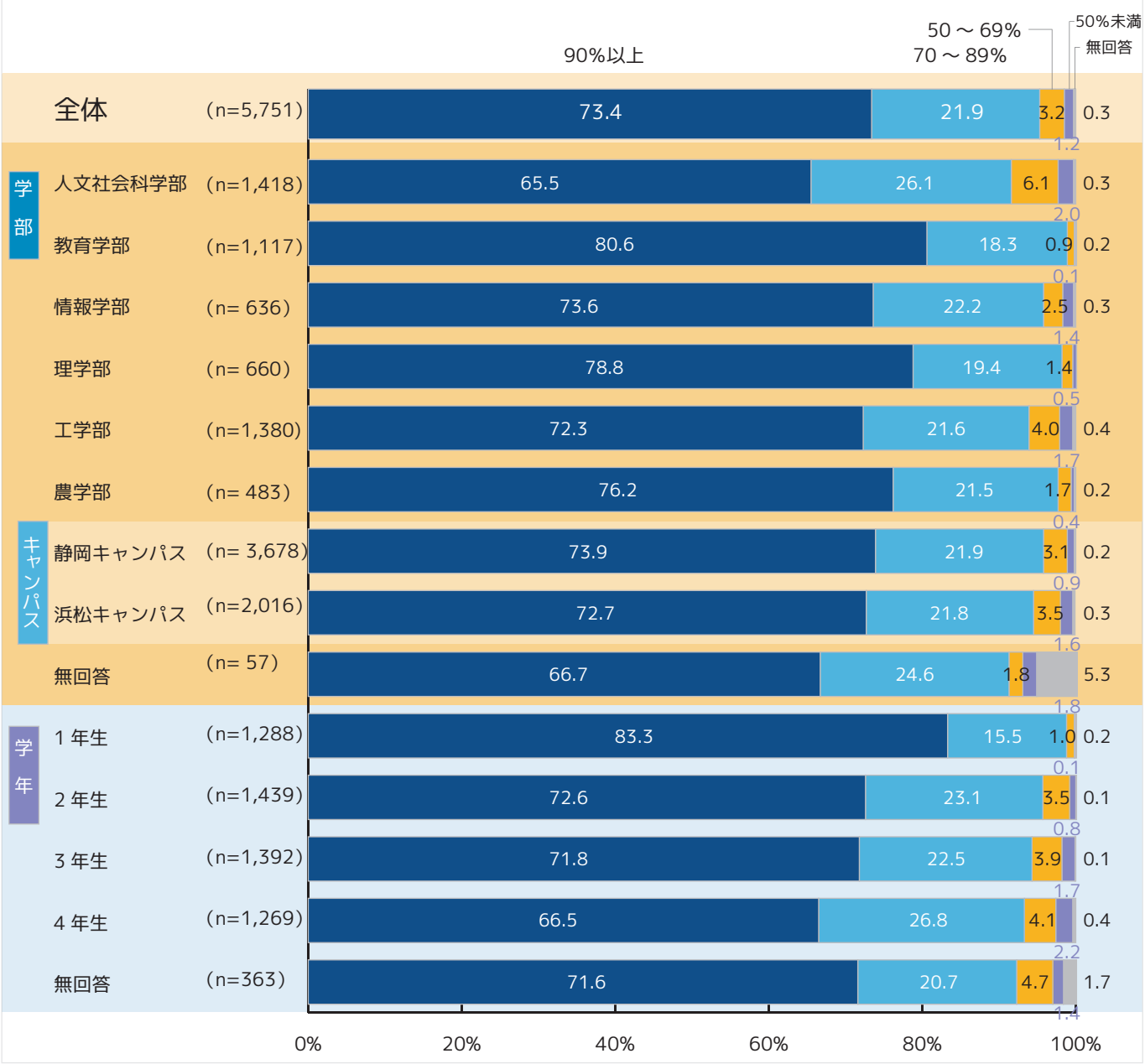
全体における「90%以上」の割合は 73.4%。
全体において、授業の出席率が７割以上の学生は 95%を越える。

解　説

- 学年が上がるにつれ「90%以上」の割合は低下。
- 学部別における「90%以上」の割合は、「教育学部」（80.6%）、「農学部」（76.2%）で高い。
- 「週の平均通学日数」とのクロス集計結果から、通学日数が少ないほど、授業の出席率「50%未満」の割合が高まる傾向にあることがわかる。

【クロス集計】週の平均通学日数は？



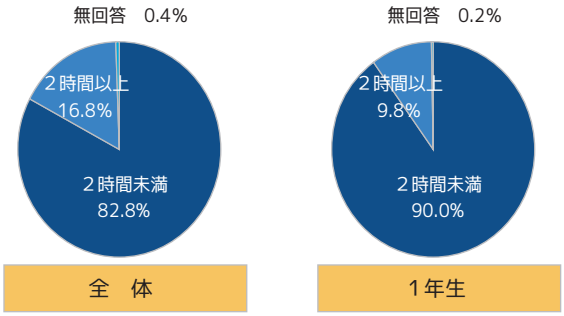


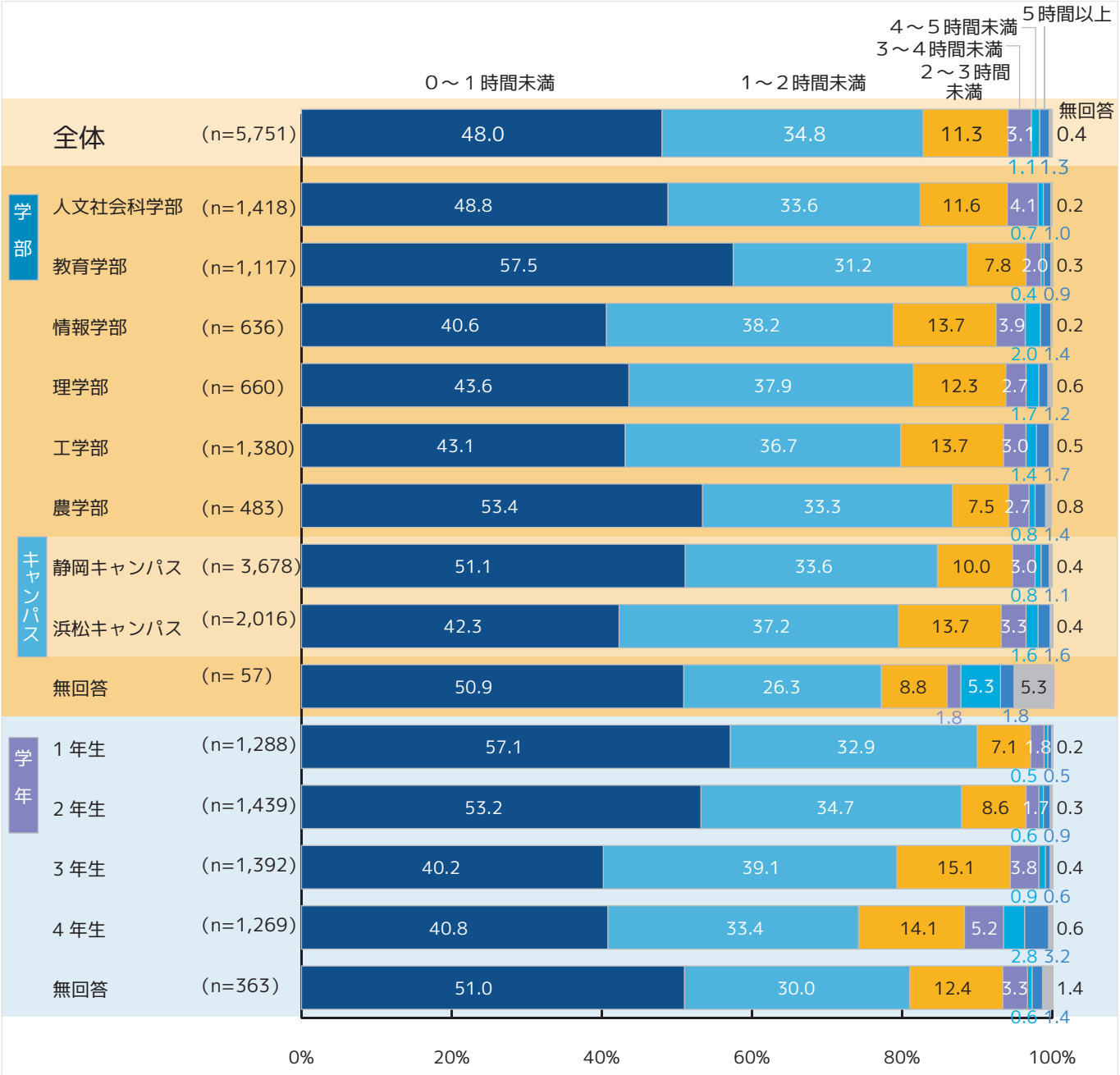
授業時間以外の一日の平均勉学時間

全体において、「０～１時間未満」が 48.0%、「１～２時間未満」が 34.8%と、２時間未満が８割以上を占める。

解　説

「０～１時間未満」の回答割合は、学部別では「教育学部」(57.5%)、学年別では「１年生」(57.1%)が最も高い。
逆に、「情報学部」(40.6%)、「３年生」(40.2%)で「０～１時間未満」の回答割合が低い。





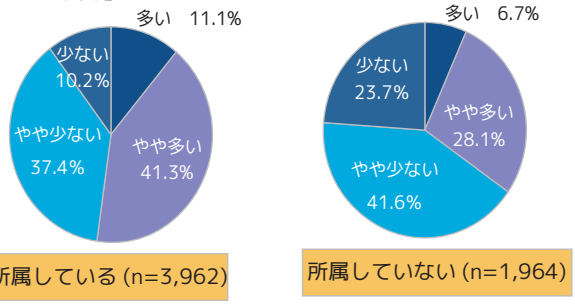
サークルや部活動の１週間の平均参加日数

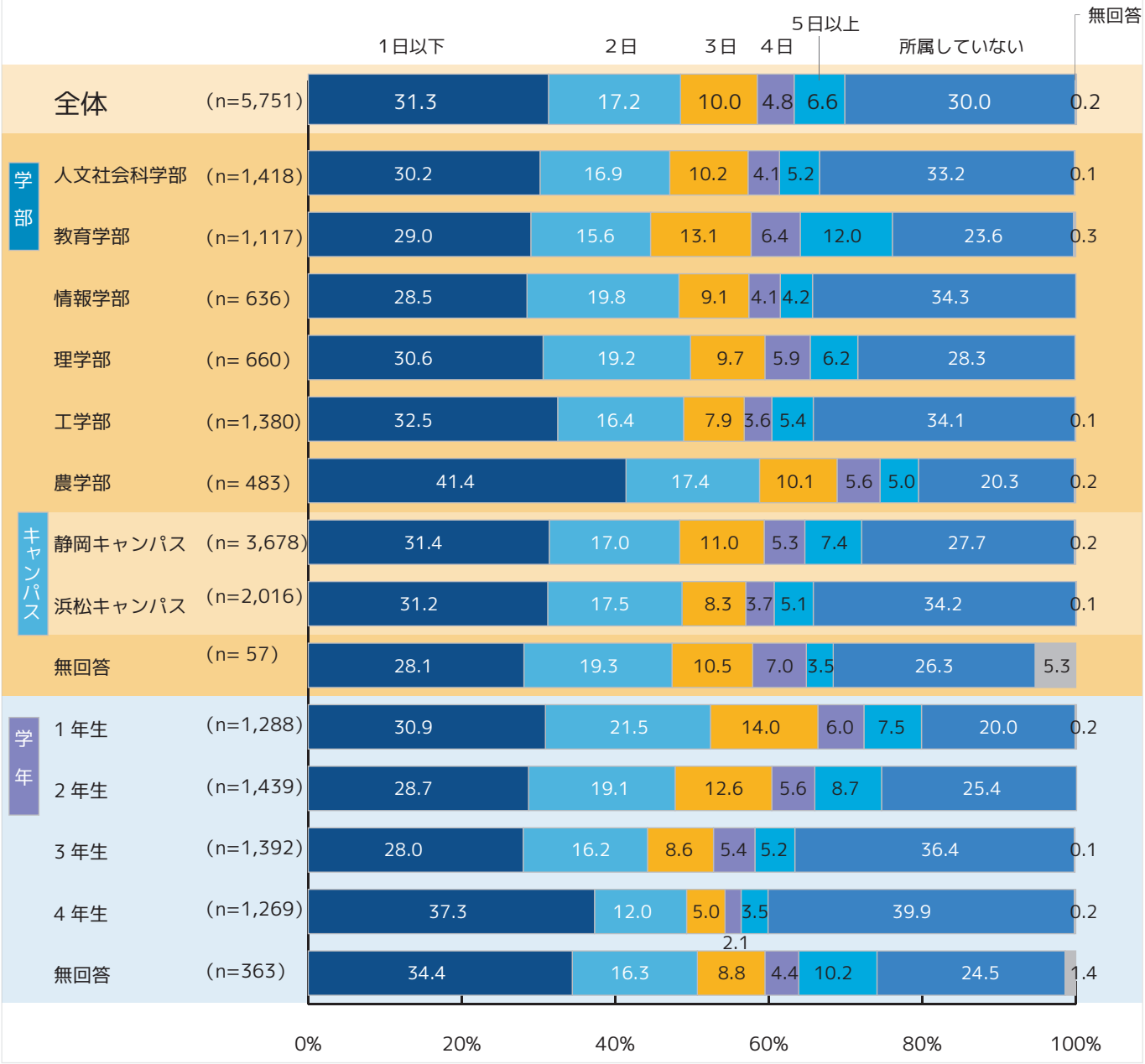
全体において、30%の学生が「所属していない」と回答。
また、「１日以下」の割合も 31.3%にのぼる。

解　説

- 学部別では、「教育学部」において「５日以上」の割合が 12.0%と他学部に比べ高い。
- 学年が上がるにつれ、「所属していない」の割合が高まる。
- 「友人数」とのクロス集計結果から、サークルや部活動に所属している学生の方が、友達は多い傾向にあることがわかる。

【クロス集計】友人数は？



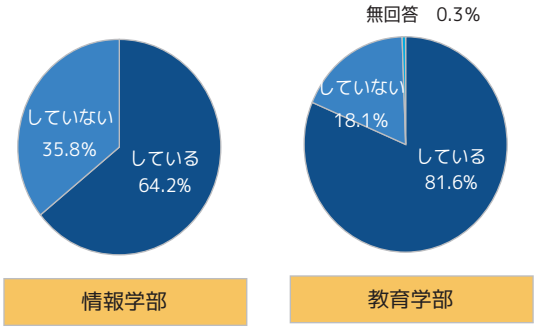


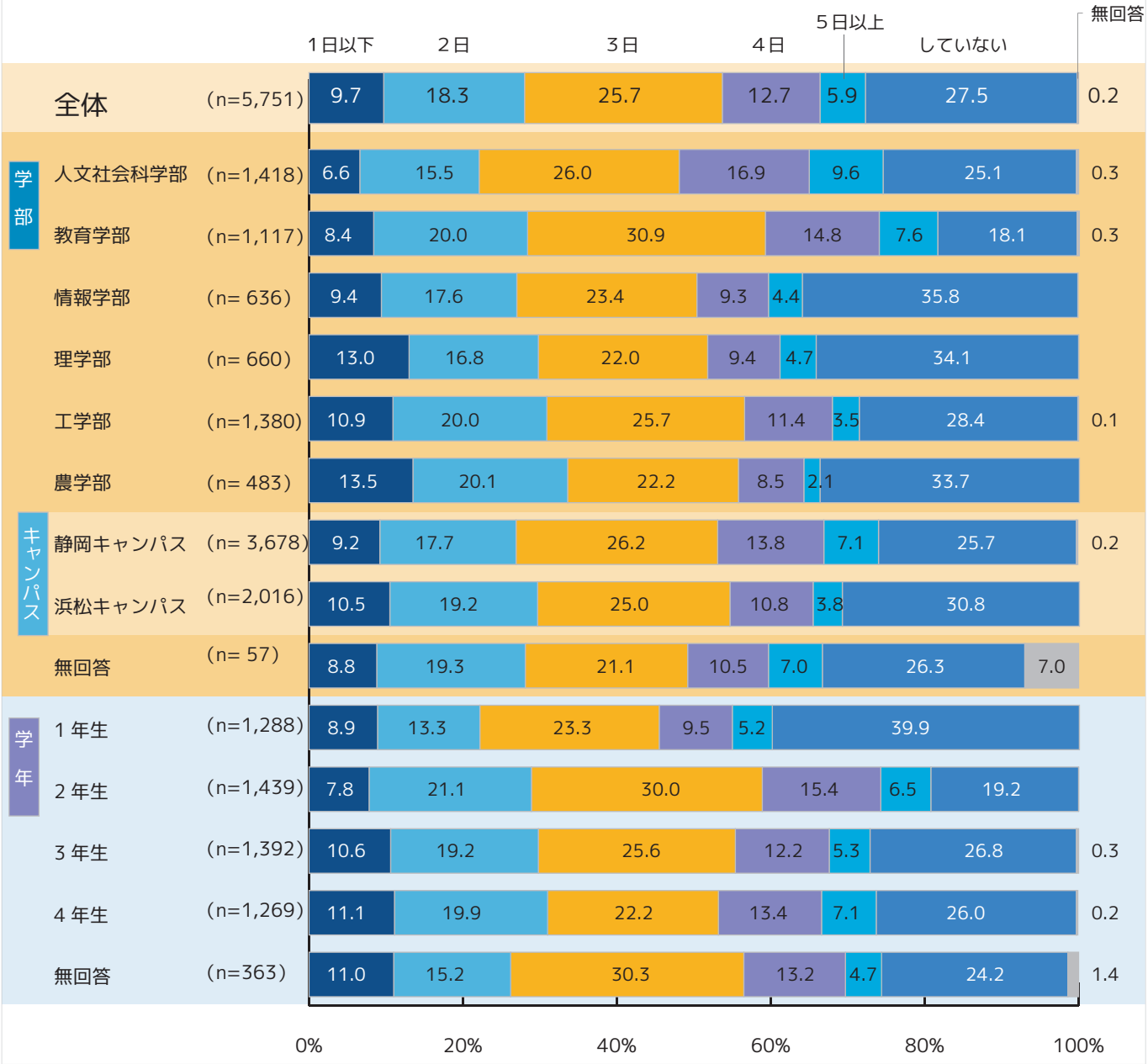
アルバイトの１週間の平均日数

全体では、「していない」（27.5％）の割合が最も高く、次いで「３日」（25.7％）が高い。

解　説

- 「していない」の割合は、学部別では「情報学部」（35.8％）、学年別では「１年生」（39.9％）が高い。逆に、「教育学部」（18.1％）、「２年生」（19.2％）で「していない」の割合が低い。
- 「５日以上」の割合は「人文社会科学部」（9.6％）で最も高い。





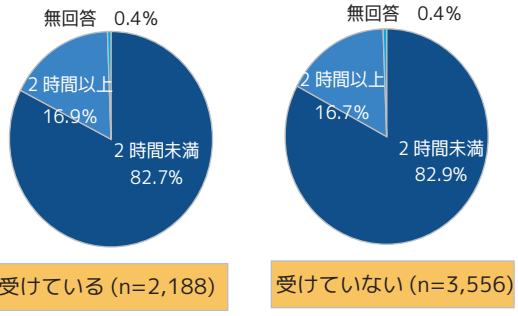
奨学金について

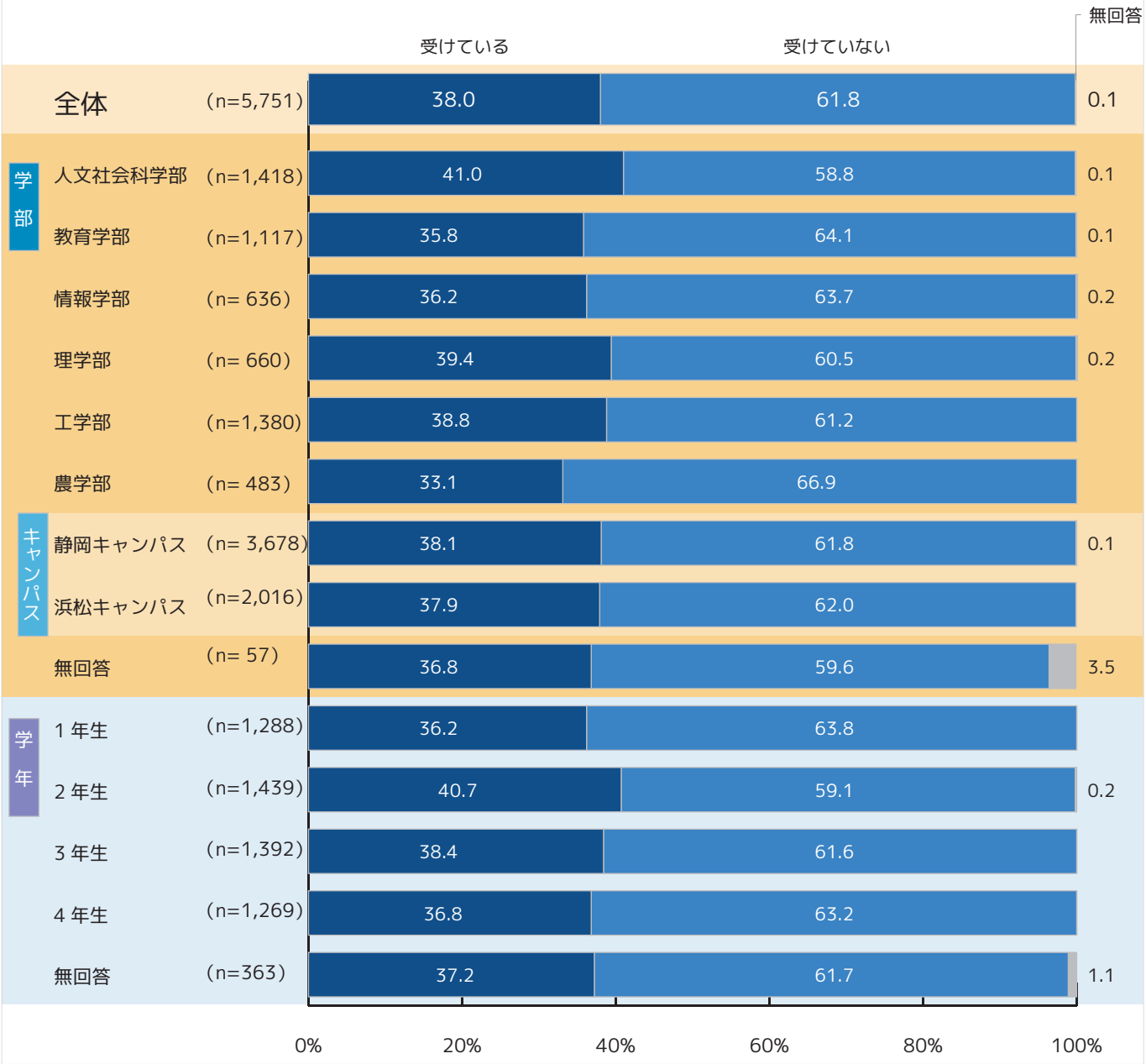
全体では、「受けている」の割合が 38.0%、「受けていない」の割合が 61.8%。

解　説

- 「受けている」の割合は、学部別では「人文社会科学部」(41.0%)、学年別では「2 年生」(40.7%) で高い。
- 「授業以外の勉学時間」とのクロス集計結果をみると、この 2 つの間に相関は見られないことがわかる。

【クロス集計】授業時間以外の一日の平均勉学時間は？





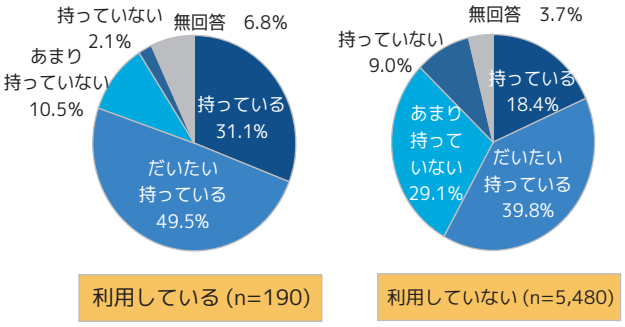
大学の授業以外の語学学校や資格取得・就職のための教育の利用について

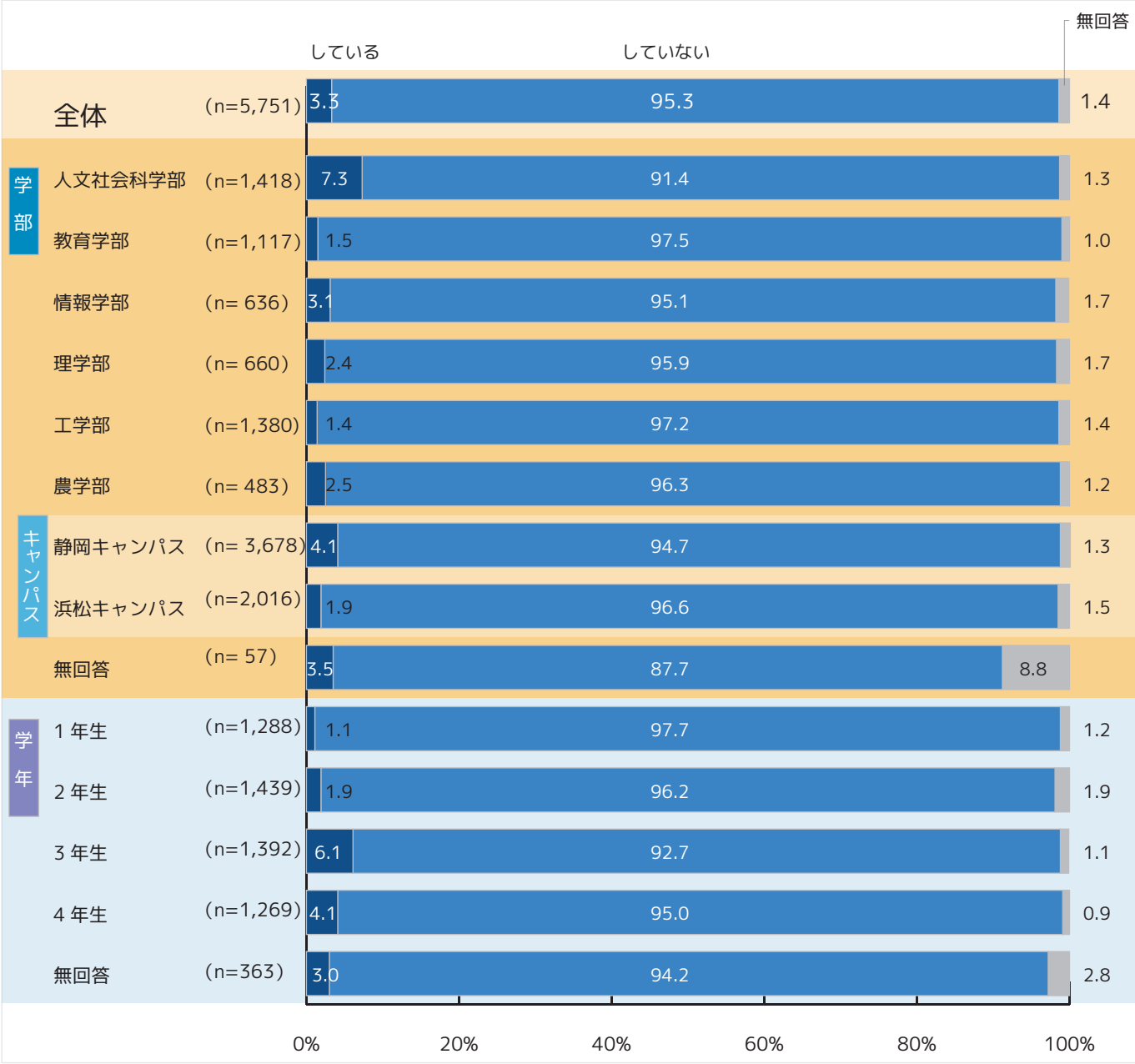
全体では、95%以上が「利用していない」と回答。
「利用している」学生は、わずか 3.3%。

解　説

- 「利用している」の割合は、学部別では「人文社会科学部」(7.3%)、学年別では「3年生」(6.1%)で高い。
- 「将来のはっきりした目標の有無」とのクロス集計結果から、「利用している」と回答した学生の方が、将来の目標を持っている傾向にあることがわかる。

●【クロス集計】将来のはっきりした目標は？



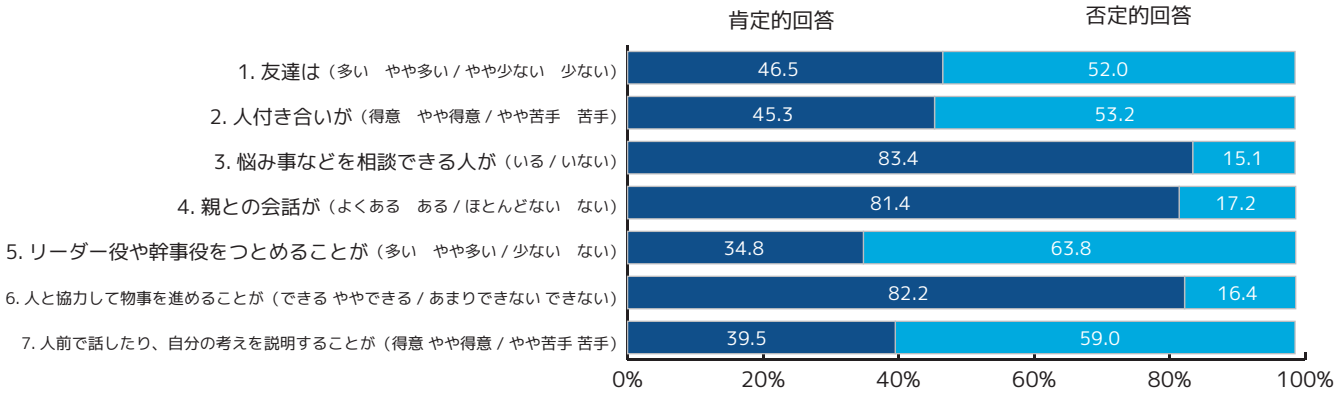


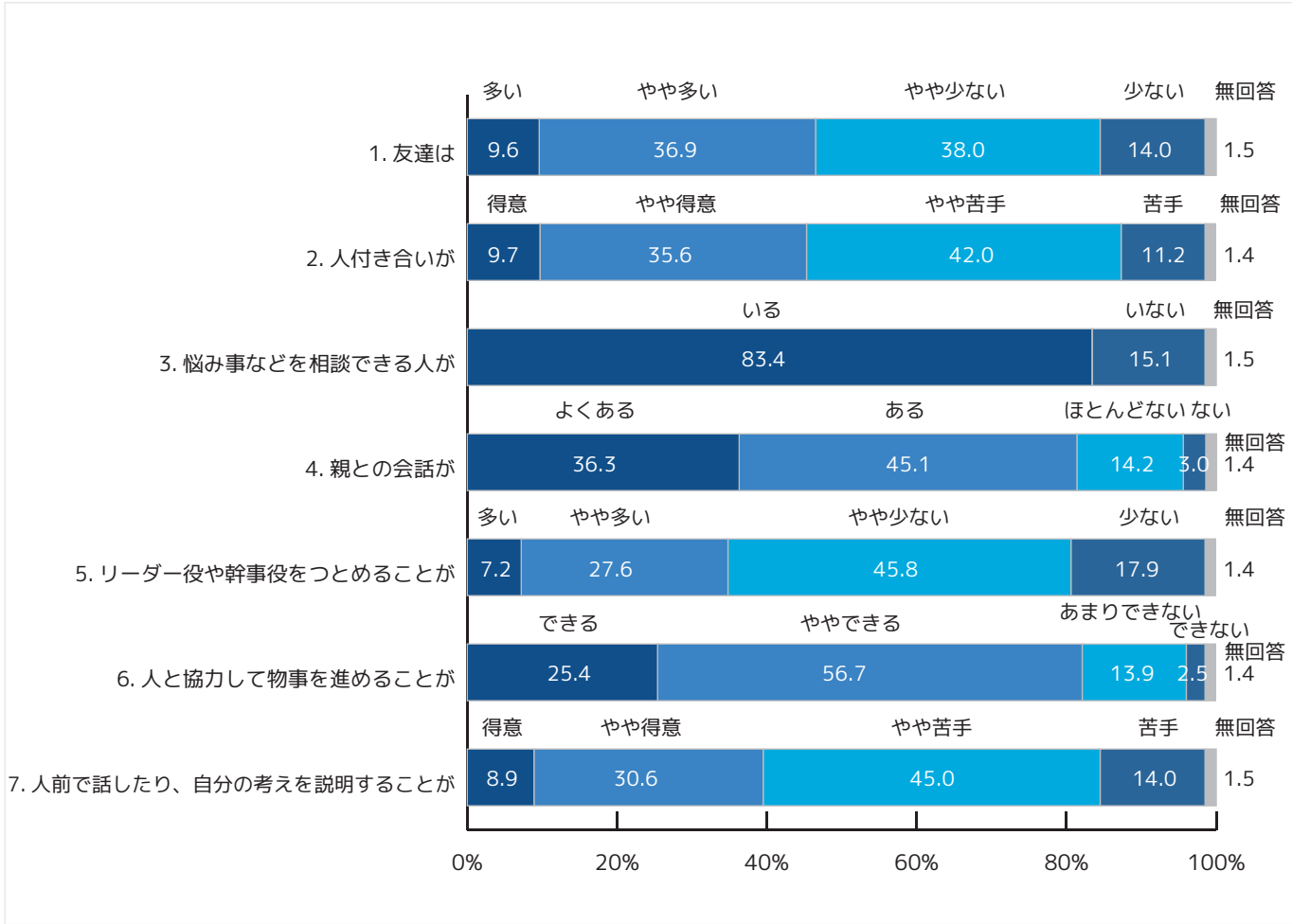
学生の意識や行動

「悩み事を相談できる人がいる」、「親との会話がある」、「人と協力して物事を進めることができる」において、肯定的回答が８割以上。

解　説

- 否定的回答割合は、「リーダー役や幹事役をつとめることが多い」（63.8%）、「人前で話したり、自分の考えを説明することが得意」（59.0%）で高い。





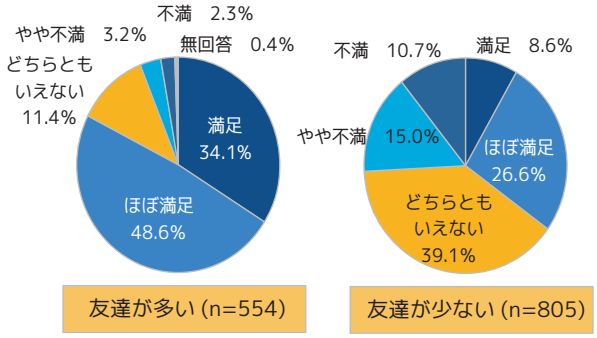
現在の学生生活の満足度

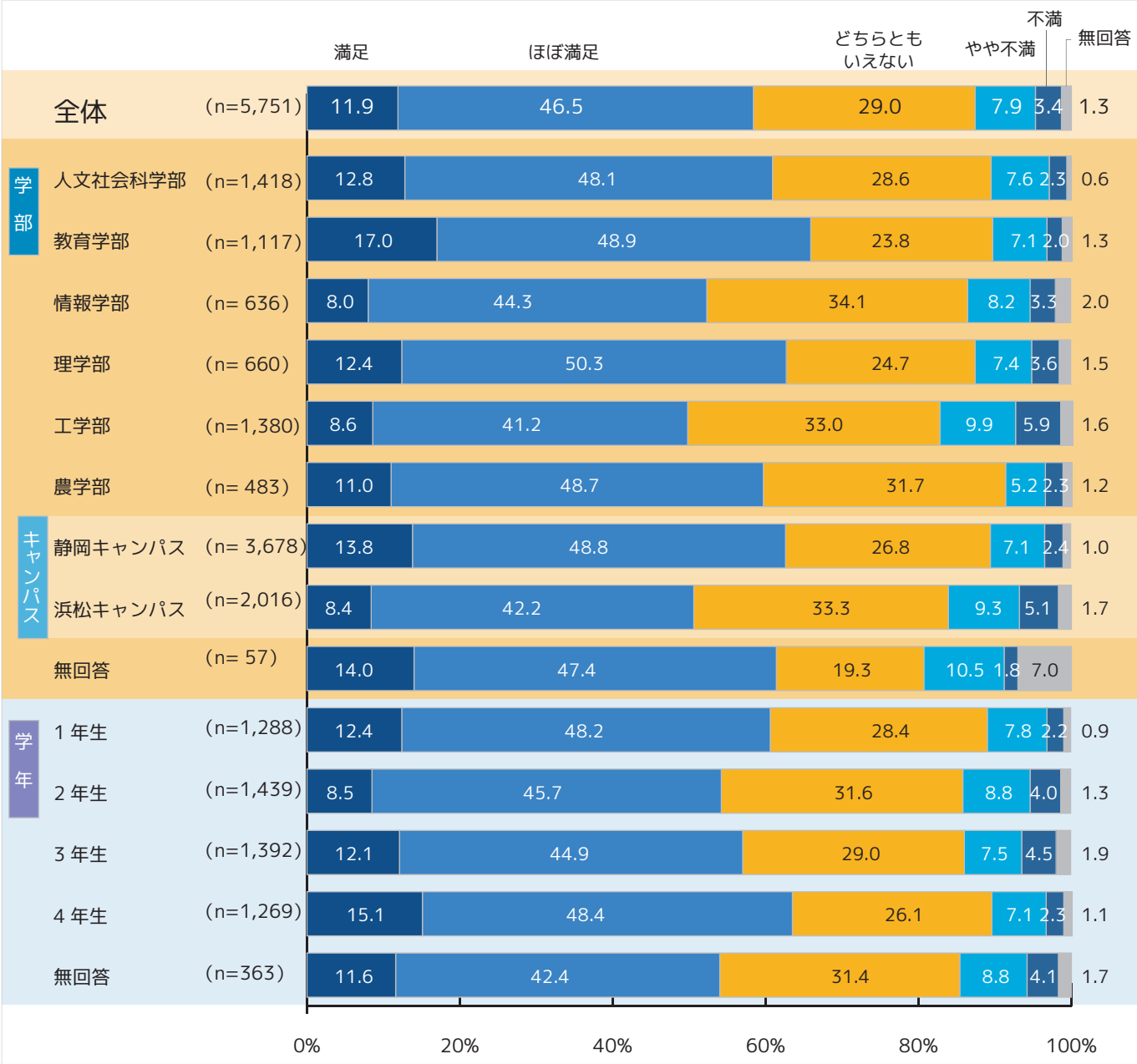
全体における「満足」「ほぼ満足」の合計は 58.4%と半数を超える。しかし、大学院生アンケート結果と比べると 2.2 ポイント低い。

解　説

- 学部別における､「満足」「ほぼ満足」の合計は、「教育学部」（65.9%）が最も高く、「工学部」（49.8%）が最も低い。
- 「友人数」とのクロス集計結果から､友人が「多い」学生ほど、学生生活の満足度が高い傾向がうかがえる。

●【クロス集計】友人数は？

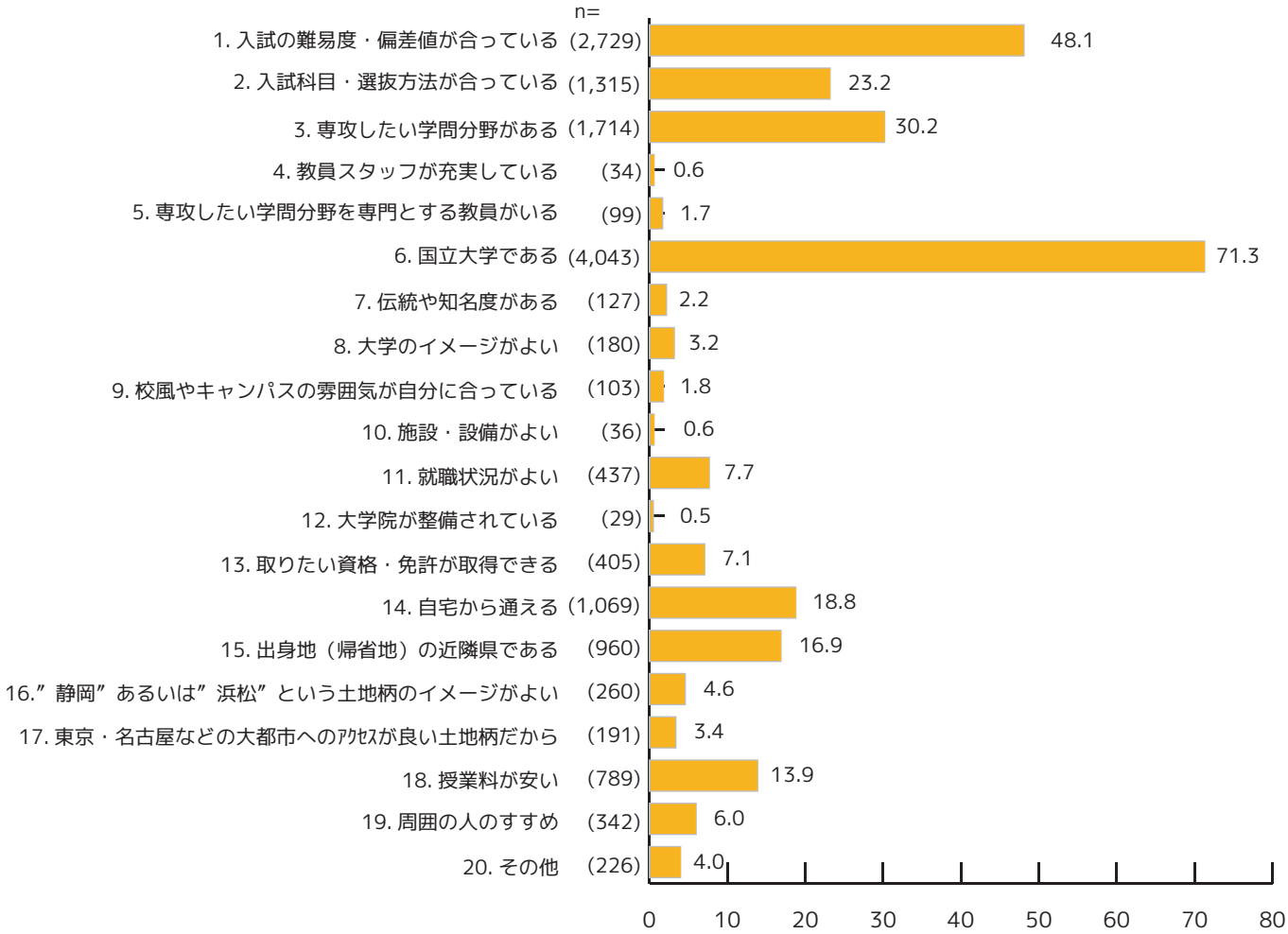




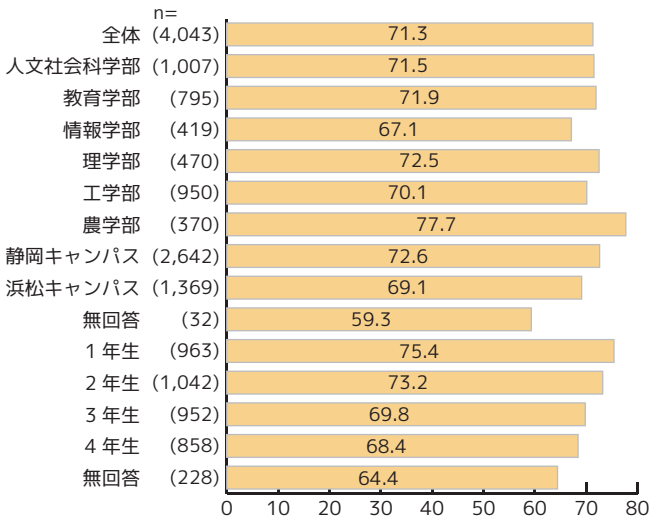
静岡大学を志望した理由（複数回答可）

「国立大学である」が最も高く、「入試の難易度・偏差値が合っている」、「専攻したい学問分野がある」が続く。

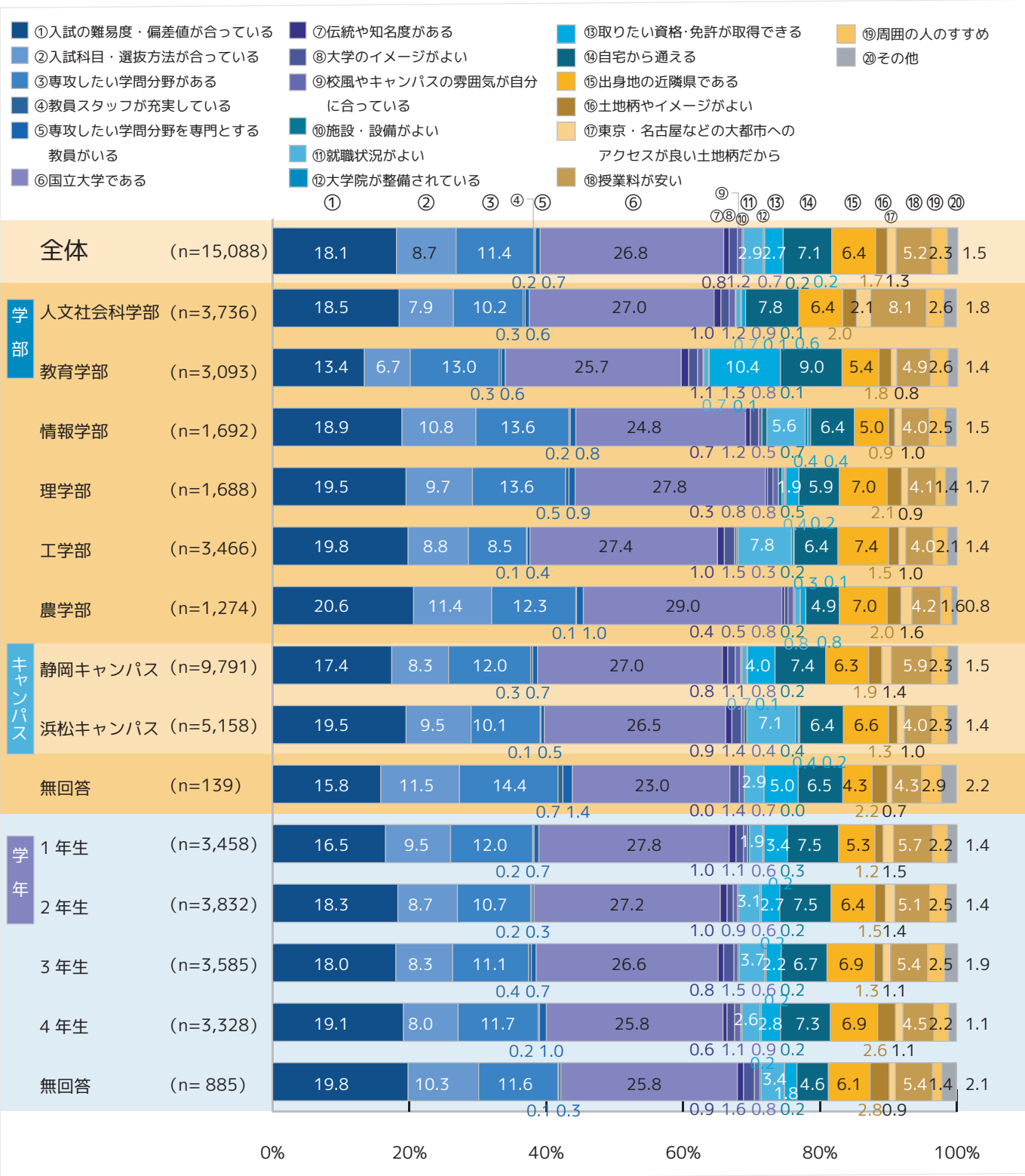
静岡大学を志望した理由（回答者（5,673 人）=100）



「国立大学である」（回答者 (4,043)＝100）の区分別回答割合



静岡大学を志望した理由（複数回答可）



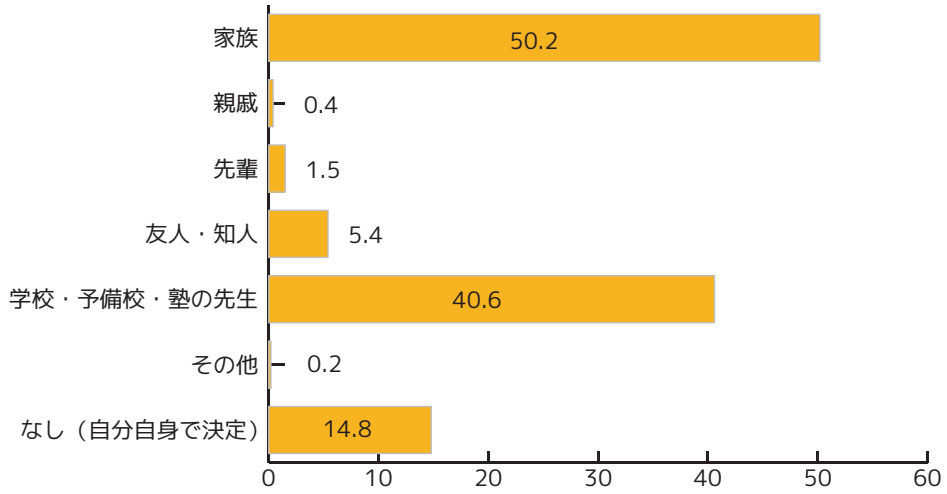
進学先を検討するうえで最も相談した人

全体では「家族」に相談した学生が最も多く、次いで「学校・予備校・塾の先生」が多い。

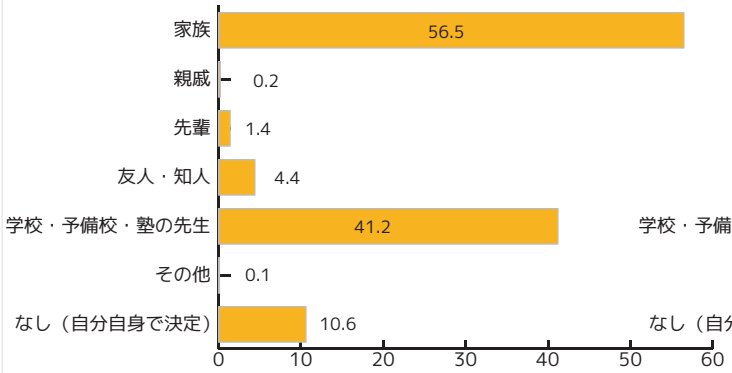
解　説

- 「親戚」、「先輩」に相談した学生は少ない。
- 「教育学部」の学生は「家族」に相談した学生が比較的多く、「工学部」の学生は「家族」に相談した学生が比較的少ない。

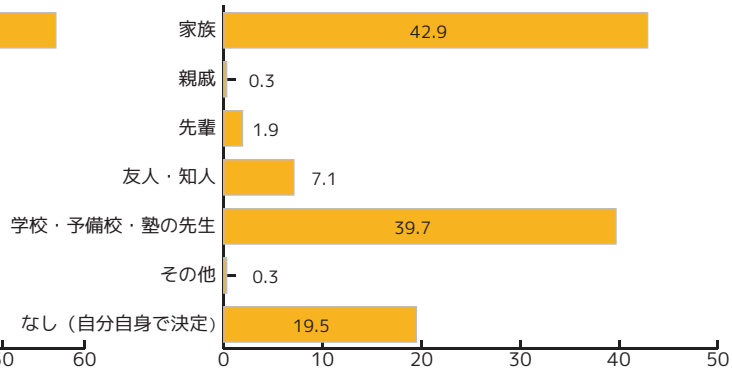
● 全体（回答者 5,681 人）=100）　※若干の複数回答者を含む



● 教育学部生（回答者 1,105 人）=100）



● 工学部生（回答者 1,361 人）=100）

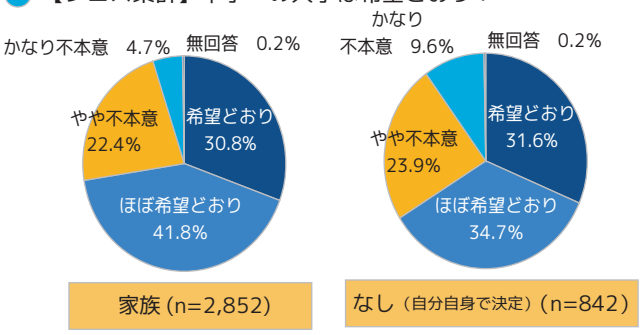


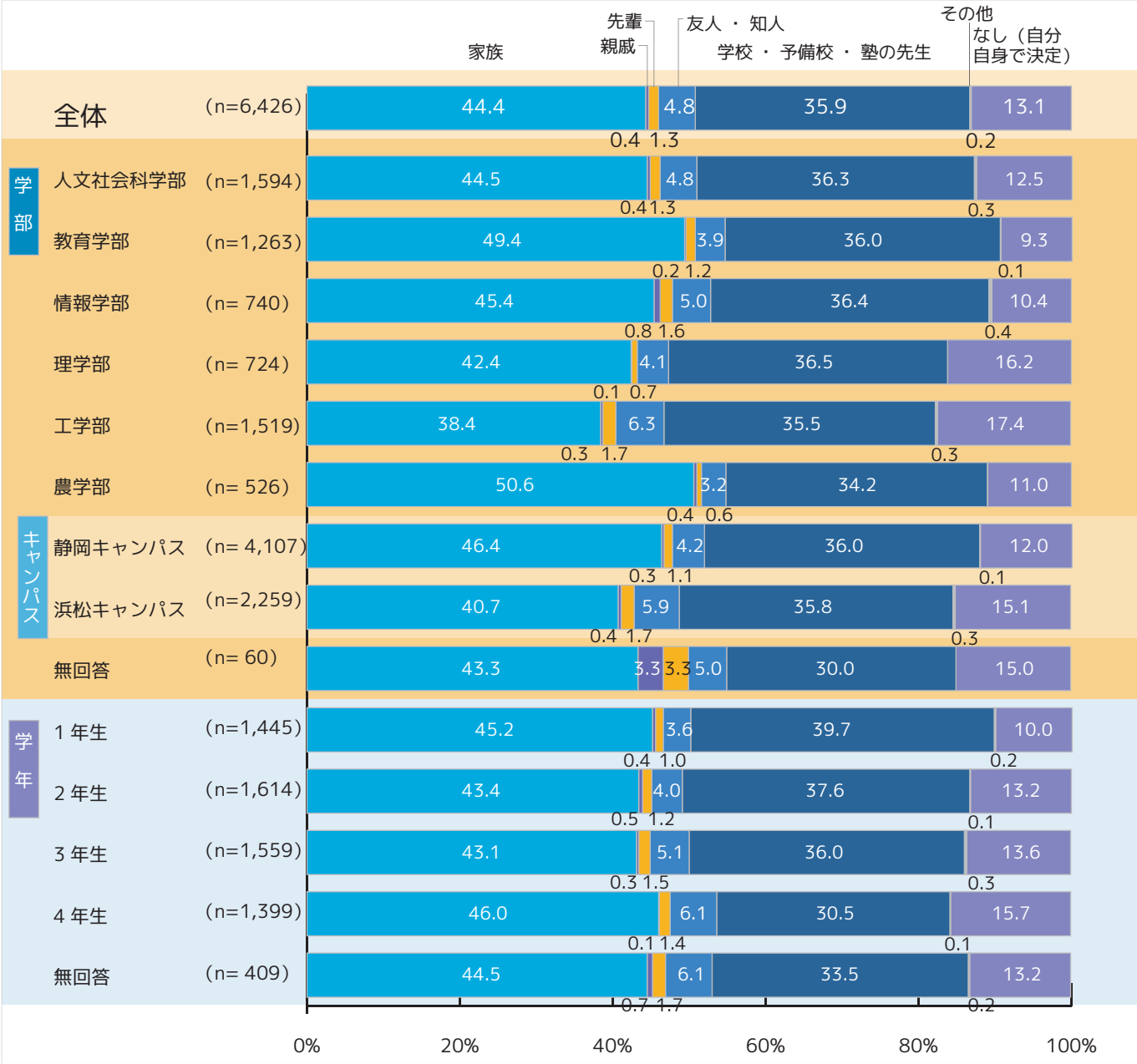
進学先を検討するうえで最も相談した人

解　説

「本学への入学は希望どおりか」とのクロス集計結果をみると、「家族」に相談した学生と「自分自身で決定」した学生の間で、大きな相違はみられない。

【クロス集計】本学への入学は希望どおり？





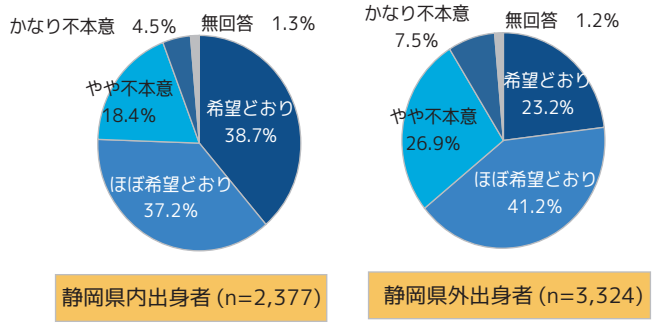
静岡大学への入学の希望度合い

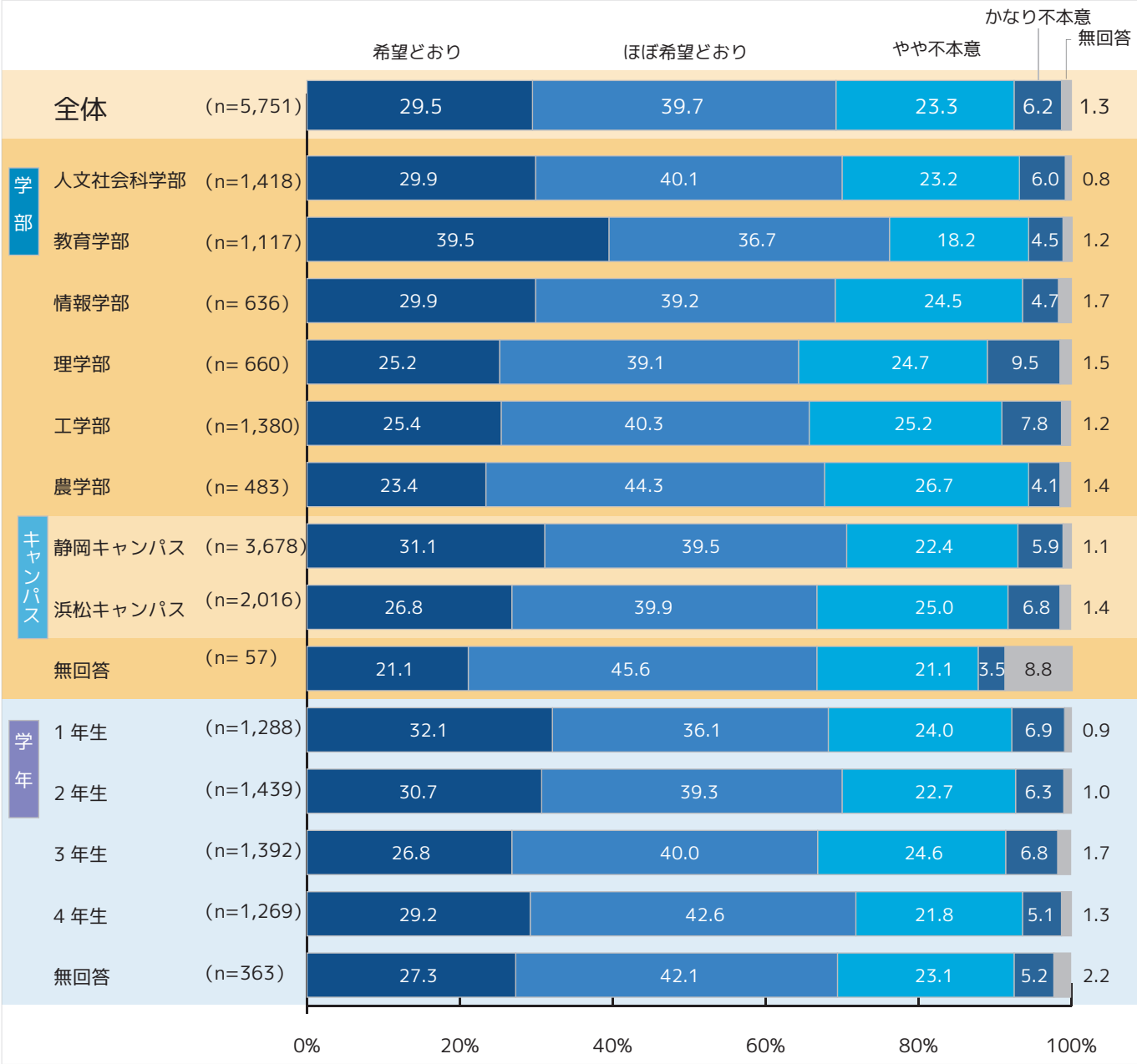
全体では、「希望どおり」「ほぼ希望どおり」の合計が 69.2%と半数以上を占める。

解　説

- 学部別では､「教育学部」で「希望どおり」と「ほぼ希望どおり」の合計が 76.2%と最も高い。
- 「出身地」とのクロス集計結果から、県内出身者の方が「希望どおり」の割合が高いことがわかる。

【クロス集計】出身地は？





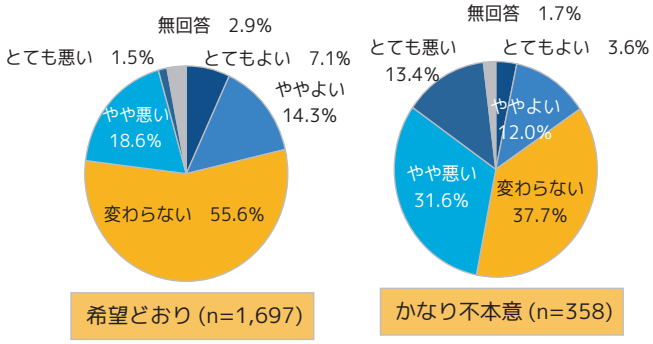
入学前に感じていた静岡大学に対するイメージと比較した実態

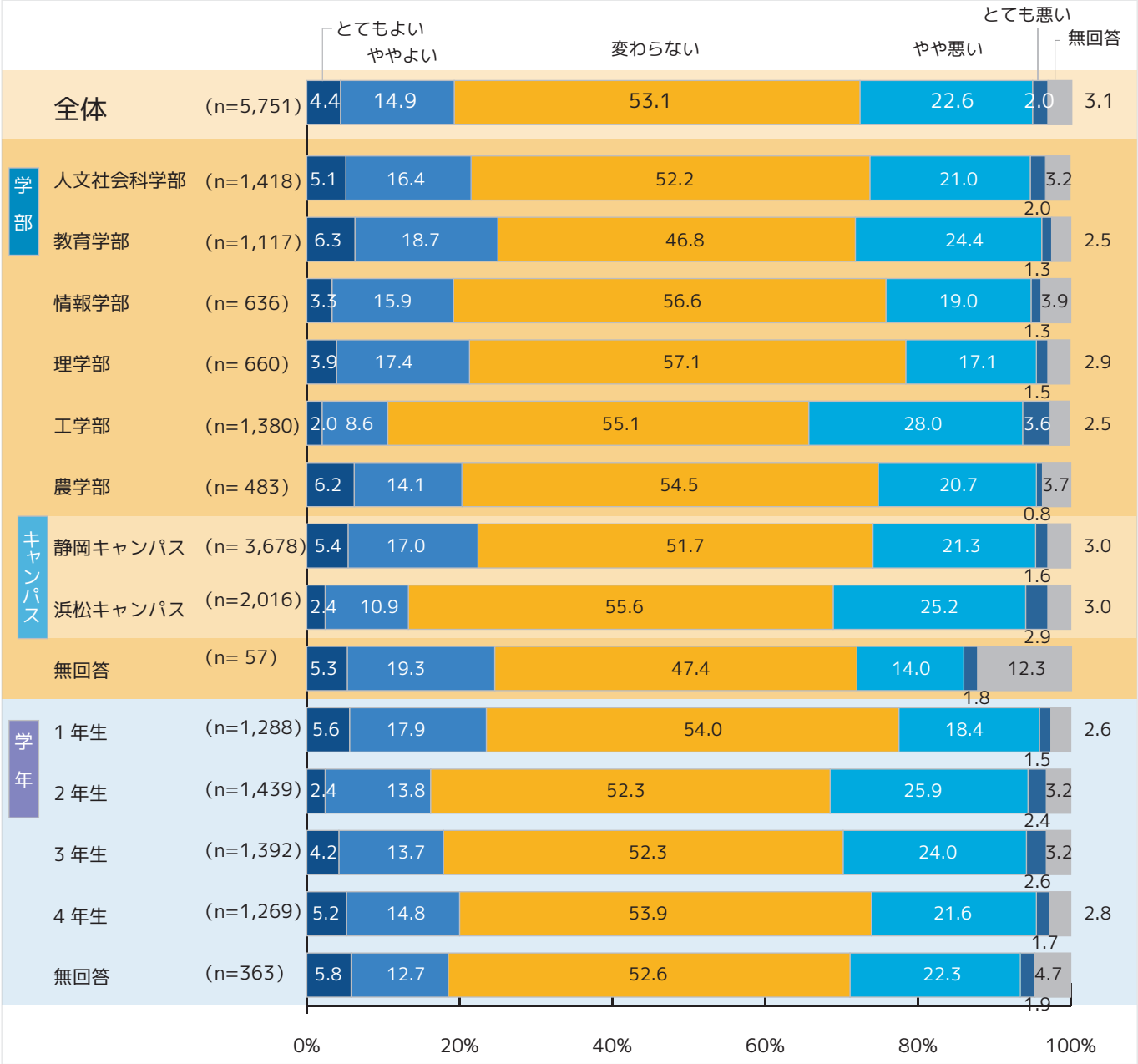
全体では、「変わらない」が 53.1%と半数を超える。
「とてもよい」「ややよい」の合計は 19.3%、「とても悪い」「やや悪い」の合計は 24.6%と、否定的イメージが上回る。

解　説

- 学部別における「とてもよい」「ややよい」の合計は、教育学部（25.0%）が最も高く、「工学部」（10.6%）が最も低い。
- 「本学への入学の希望度合い」とのクロス集計結果をみると、「不本意」に入学した学生の方が否定的イメージが強い傾向がある。

【クロス集計】本学への入学は希望どおり？



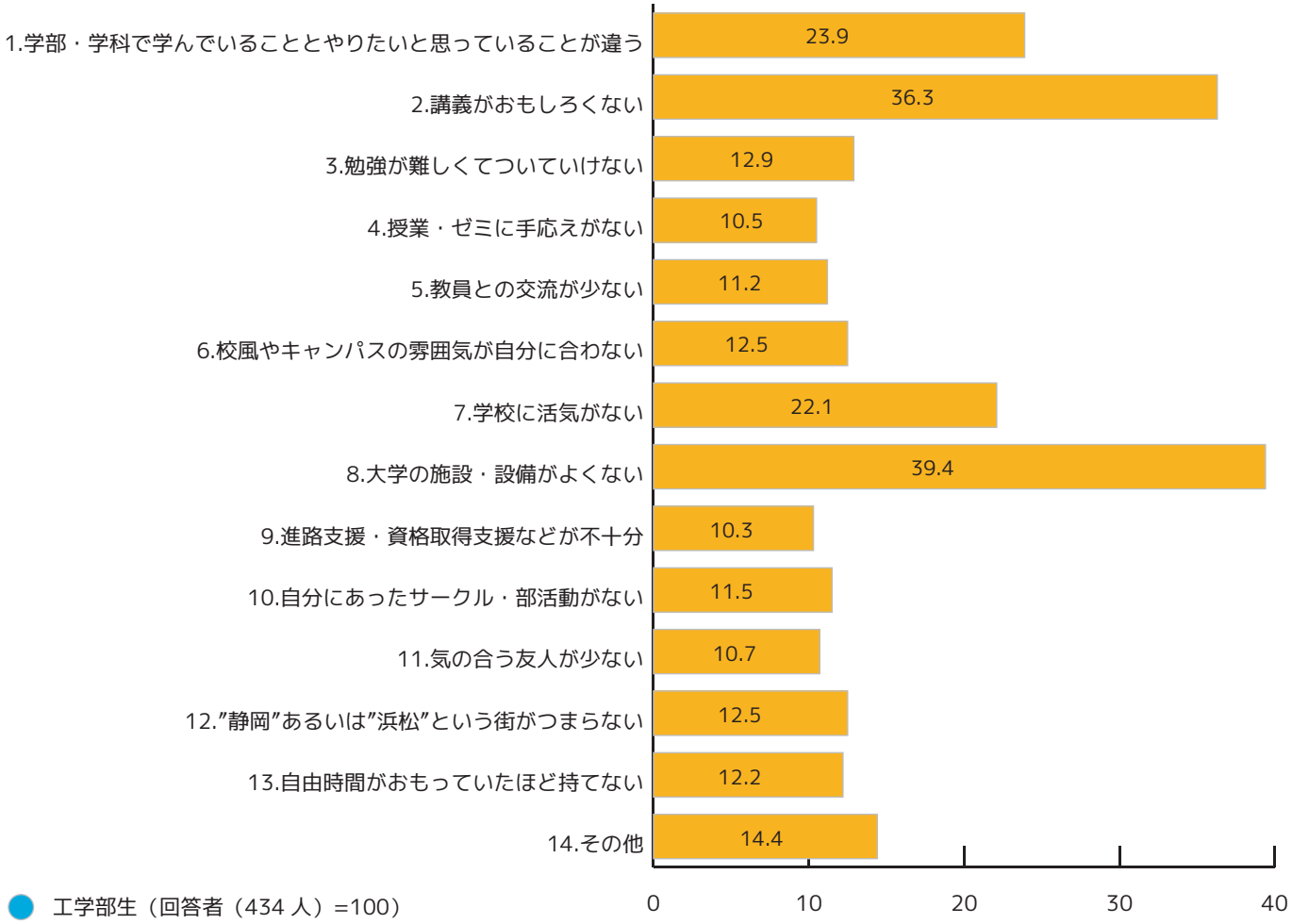


入学前のイメージと比べよくなかった理由（複数回答可）

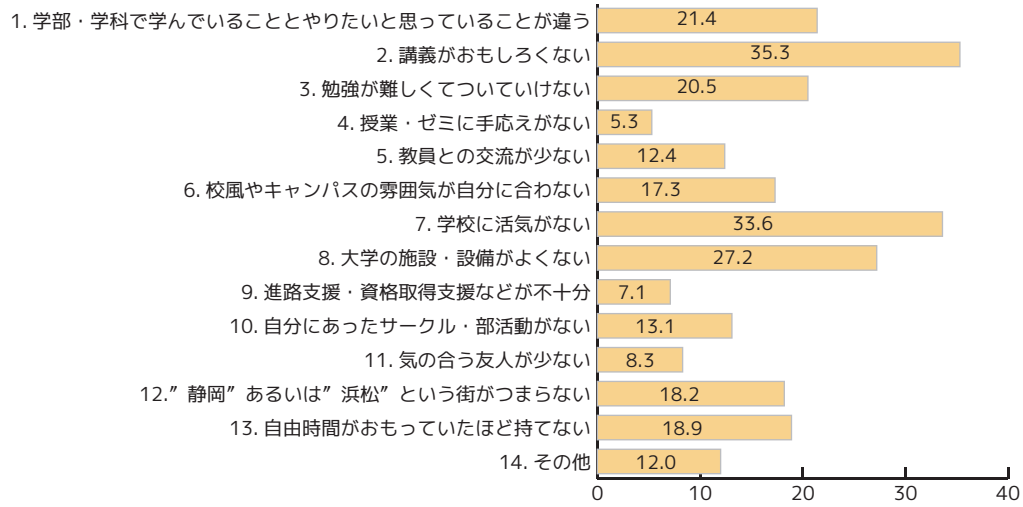
「大学の施設･設備がよくない」の割合が最も高く、「講義がおもしろくない」、「学部・学科で学んでいることとやりたいと思っていることが違う」が続く。

入学前のイメージと比べよくなかった理由（回答者（1,406 人）=100）

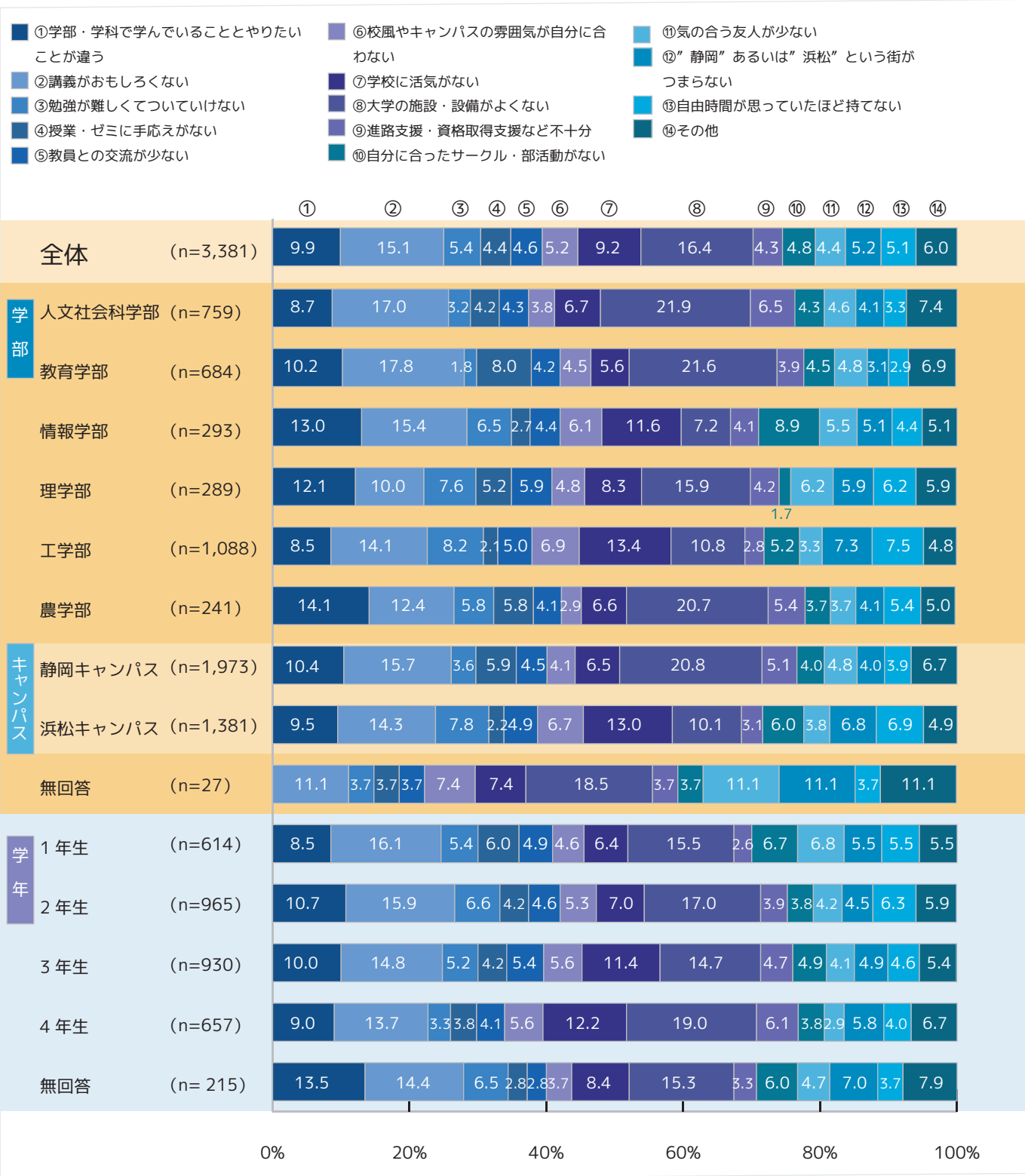
「入学前に感じていた静岡大学に対するイメージと比較した実態」で「やや悪い」「とても悪い」と回答した1,416人中1,406人が回答



工学部生（回答者（434 人）=100）



入学前のイメージと比べよくなかった理由（複数回答可）



入学前のイメージと比べよくなかった理由（複数回答可）

「その他」回答者の内訳

教育研究について

- 司法試験の合格者が少ない。[人文社会科学部、1 年生]
- １～２年でとれる授業が少ない！[人文社会科学部、2 年生]
- 将来役に立つのか不安。[教育学部、3 年生]
- 成績が出るのが遅い。[情報学部、2 年生]
- ID,IS,CS のコース別教育が特徴であるといいながら、それらに定員があったことと、選抜方法に疑問が残るため。[情報学部、3 年生]
- 講義の年別スケジュールのバランスの悪さ。[工学部、3 年生]
- 単位取得が思っていた以上に難しい。他大学等の話を聞いてそう感じた。[工学部、3 年生]
- 留学を考えていたが、提携している学校が少なすぎる。[工学部、3 年生]
- 研究室への配属が 4 年生からなので遅い。[工学部、4 年生]
- 講義の選択の幅が無い。[工学部、4 年生]
- 座学ばっかりだから。[工学部、4 年生]
- 学外との交流が無い。[農学部、2 年生]

施設 ・ 設備について

- キャンパス内の高低差。[人文社会科学部、1 年生]
- 交通の便が悪い。休み時間に対し移動の距離が遠すぎる。[人文社会科学部、1 年生]
- 坂がつらい。人文棟が遠い。[人文社会科学部、1 年生]
- 大学の立地環境が良くない。[人文社会科学部、4 年生]
- 教育棟が遠い。[教育学部、2 年生]
- サークル棟が小さい、もっと欲しい。[情報学部、学年無回答]
- キャンパスが狭い。[工学部、1 年生]
- 大学周辺の施設が乏しい。[工学部、3 年生]
- キャンパスが別れているので、学部を越えた友人が作れない。[工学部、4 年生]

その他

- 緊縛な手続きが多い。※特に奨学金関連事項 [人文社会科学部、1 年生]
- 田舎 [人文社会科学部、2 年生]
- 寮生活が大変。教科書が高い。授業システムが複雑で大変。[人文社会科学部、3 年生]
- もっと街中であってほしかった。[人文社会科学部、4 年生]
- どこまでも、「集団」的である。[教育学部、2 年生]
- 学生の意識が低い。[教育学部、2 年生]
- 男女比 [情報学部、1 年生]
- 情報が手に入りにくい。[情報学部、3 年生]
- 周囲があまり栄えていない。[理学部、2 年生]
- 重要な掲示は一つの所に統一して張り出すか、PC から一度に見れるようにして欲しい。[工学部、2 年生]
- 推薦が多い。[工学部、2 年生]
- やりたいことが無い。[工学部、学年無回答]

入学前のイメージに比べよかった理由

教育研究について

- 講義が楽しいものが多い。[人文社会科学部、1 年生]
- 先生方が生徒 1 人 1 人に向き合ってくれる。[人文社会科学部、2 年生]
- 公務員養成に力を入れていること。[人文社会科学部、2 年生]
- 入学前はあまり学部の授業の取り方やカリキュラムまで調べていなかったが、実際は他学科、他コースの授業が取りやすく幅広く勉強できるので、文系学生としてはとてもありがたい。[人文社会科学部、2 年生]
- 大学で学ぶためだけに静岡で暮らすつもりでいましたが、実際に授業を受けてたくさんの人々と知り合えたことで考え方が変わり、将来何をしたいかと思った時に、静岡で働きたい気持ちが強くなっていました。[人文社会科学部、4 年生]
- 先生方がとても熱心。生徒もみんないい人で、部活動など楽しい学生生活が送れている。[人文社会科学部、4 年生]
- 自分の体験談や研究を熱心に語ってくれる先生が多い。[教育学部、2 年生]
- 学科の雰囲気が良い。サークル活動が充実している。[教育学部、3 年生]
- 思っていた以上にいろいろなことができ、可能性、視野、考え方が大いに広がった。[教育学部、3 年生]
- 先生との距離が近い [教育学部、4 年生]
- 自分のやりたいことができている。[情報学部、3 年生]
- 入学前は高校の授業の延長のようなものを想定していたが、実際はかなり幅広く様々な内容について学べたのが良かった。[情報学部、3 年生]
- 近くの大学との交流。[情報学部、4 年生]
- 高校の頃は大学をレベルでしか見ることがなく、自分の中であまりいいイメージが無かったが、実際には他のレベルの高い大学にも劣らない技術をこの 4 年間で学べたと思うから。[情報学部、4 年生]
- 浜松という地域の気候や雰囲気が思っていたより過ごしやすかった。気の合う友人に出会えた。難しい講義も多いが面白い講義も多い。[情報学部、4 年生]
- 友達が努力家だったり面白いことをしてきていて、刺激を受けることができた。レベルが高い。[理学部、1 年生]
- 同じくらいのレベルの同級生と高められる点。[理学部、2 年生]
- 授業のレベルが高い。たくさん実習や実験ができる。[理学部、3 年生]
- 学芸員資格を取得できることや、放射線取扱主任者試験の勉強になる講義があったため。[理学部、4 年生]
- 厳しい部分（出席など）がしっかりあり、メリハリのつけやすい生活が送れる。[工学部、1 年生]
- 授業のシステム、大学の設備ともに整っており、集中して学業に取り組める。[工学部、1 年生]
- １年の時から技術を身に付けることができる機会があったため。[工学部、3 年生]
- 自分が興味の持てる研究内容がいくつかある。就職企業が幅広いため、先輩に様々な体験談が聞ける。[工学部、3 年生]
- 専門科目だけでなく教養科目等が充実している。実験・実習が面白い。[工学部、3 年生]
- 入学前は大学の講義は難解なものが多いというイメージであったが、入学後内容は高度であるがそれを分かりやすい形で教えてくれたから。講義の内容が就職試験に直結しているということが分かったから。[工学部、4 年生]
- 同じように、農学を勉強しにきている人がいて、自分もやる気になる。[農学部、1 年生]
- 農学部独自の研究用の農園が大学外にあること。田舎にも街にもどちらにもアクセスしやすいこと。[農学部、1 年生]
- 実習が多く選択でき、体験型授業が多い。[農学部、2 年生]
- 国際交流が思っていたよりできた。協定校が意外と世界中にあって、自分の行動や思考の幅が広がった。[農学部、4 年生]
- 地方大の良さを身をもって実感できた。[農学部、4 年生]

施設 ・ 設備について

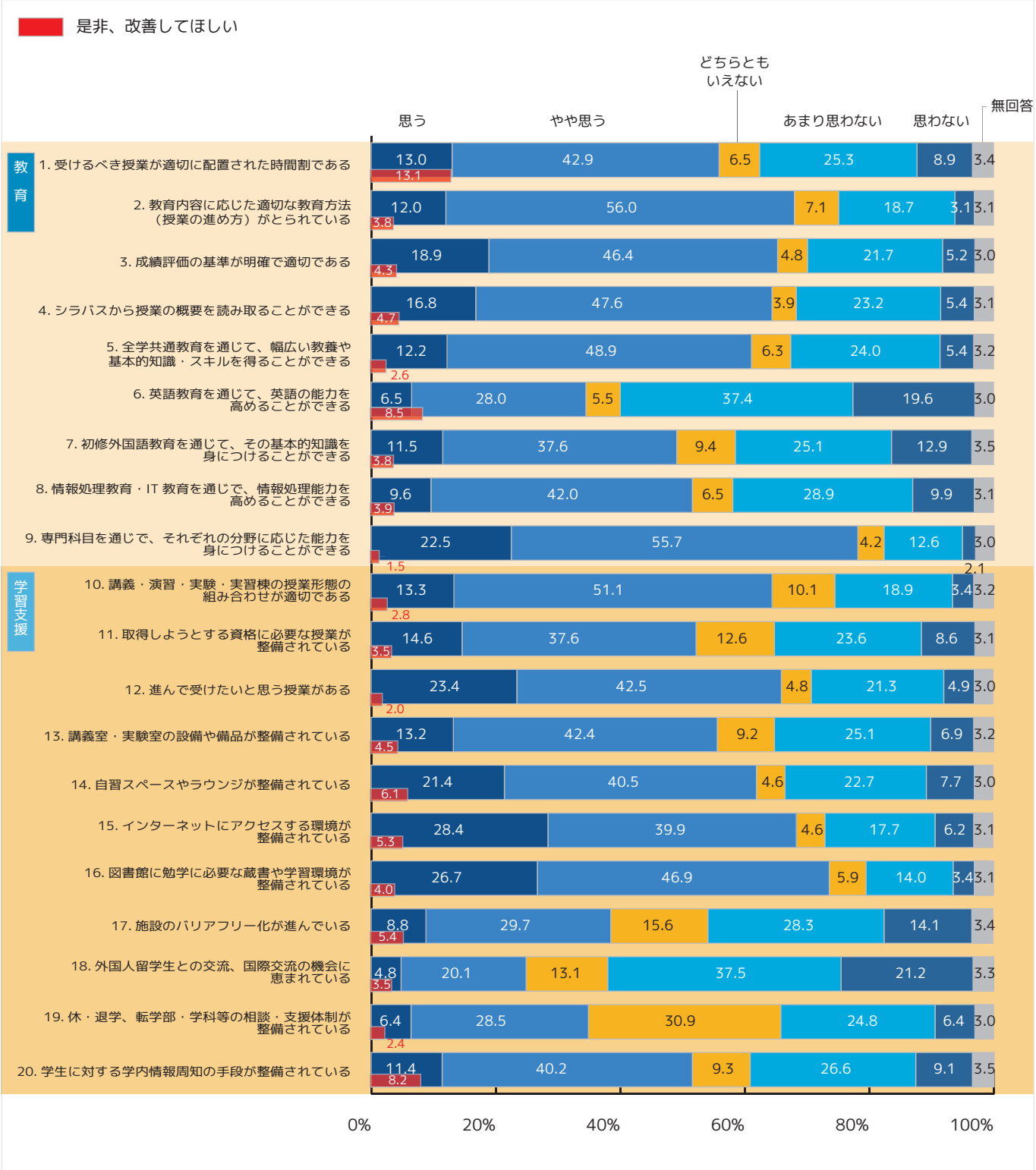
- 気候が温暖。大抵近くに何でもある。キャンパスが広い。[人文社会科学部、1 年生]
- 図書館の整備が整っている。学務の人たちがとても親切。[人文社会科学部、3 年生]
- 在学中にカフェテリアやハーベストルームなど、設備が整えられたこと。[人文社会科学部、4 年生]
- 教室の位置。（まとまっている）生協施設の多さ。インターネット環境の充実。図書館の設備。[教育学部、2 年生]
- 自然が豊か。[教育学部、4 年生]
- 浜松キャンパスは小さいが、きれいで設備が良かった。[情報学部、4 年生]
- 歴史的価値のある遺産が多いこと。[工学部、4 年生]
- 施設は古めかしいが、思っていたほど古くはないこと。共通棟がきれい。生協等購買が充実していたこと。[農学部、2 年生]

その他

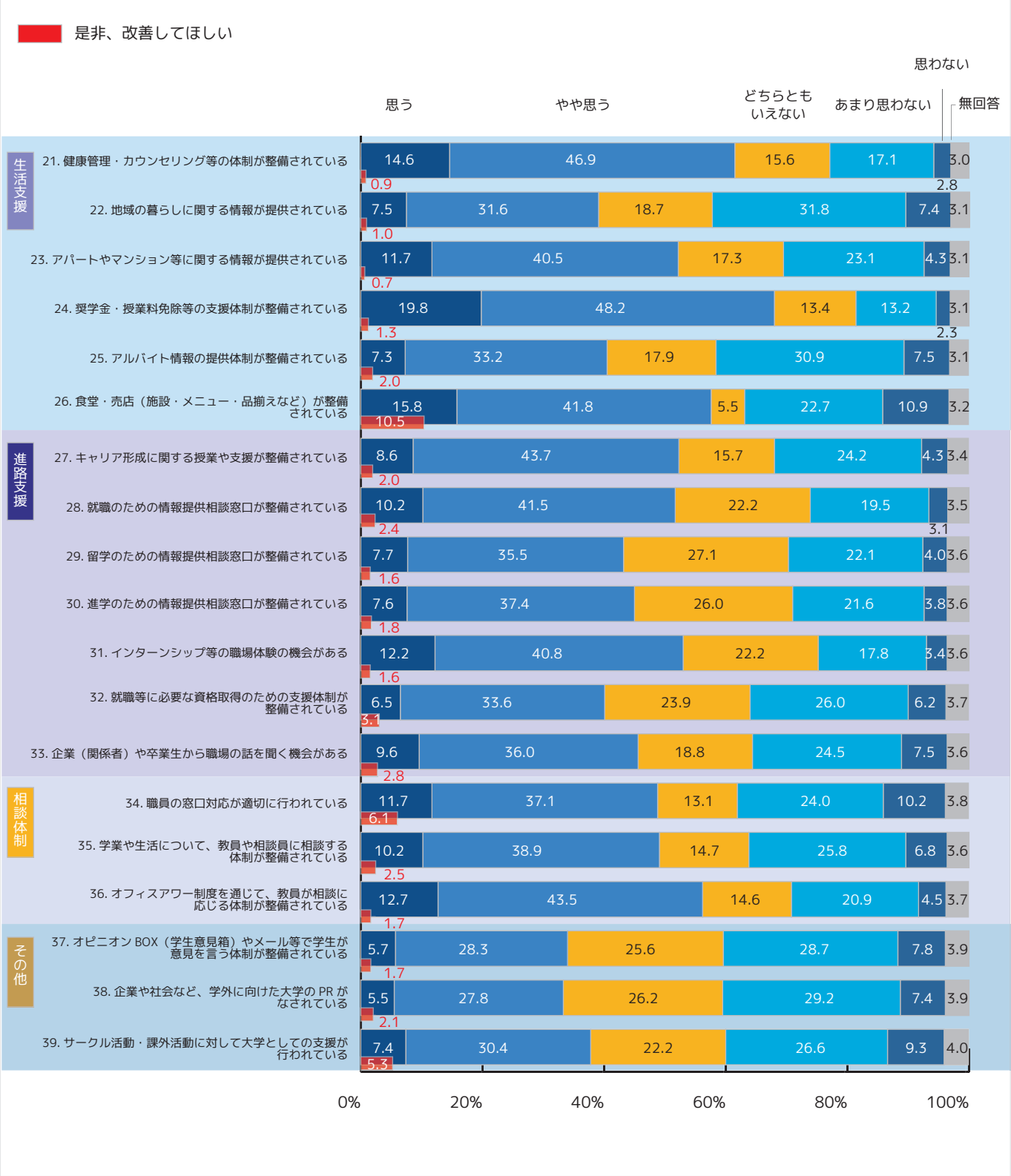
- 出身地やバックグラウンドが多種多様な人たちと出会えた。目標や夢を持っている人が多い。[人文社会科学部、2 年生]
- 大学で出会った友人が、皆素敵な人ばかりで、本当に幸せ。[教育学部、1 年生]
- イメージした理系学部より明るい雰囲気でした。先輩たちがとても親切に接してくれました。[情報学部、4 年生]
- 中堅国公立大学と甘んじてみていたが、地域の静大生への視線は温かく、静大生に多くの期待を寄せて下さっていることが分かった。地域に根付いていることが分かる。先生方やすばらしい人々との出会いがあり良かった。偏差値だけでは計れない大学の良さが分かった。[理学部、3 年生]
- 就職状況が非常に良いと思いました。[工学部、3 年生]
- 学年に関わらず仲がよい。サークルや部活動が盛んである。[農学部、1 年生]

教育・各種支援について

「是非、改善してほしい」の割合は、「受けるべき授業が適切に配置された時間割である」（13.1%）、「食堂・売店が整備されている」（10.5%）で高い。



教育・各種支援について


是非、改善してほしい
思う
やや思う
どちらともいえない
あまり思わない
思わない
無回答
生活支援
21. 健康管理・カウンセリング等の体制が整備されている 14.6 46.9 15.6 17.1 3.0 0.9 2.8
22. 地域の暮らしに関する情報が提供されている 7.5 31.6 18.7 31.8 7.4 3.1 1.0
23. アパートやマンション等に関する情報が提供されている 11.7 40.5 17.3 23.1 4.3 3.1 0.7
24. 奨学金・授業料免除等の支援体制が整備されている 19.8 48.2 13.4 13.2 3.1 1.3 2.3
25. アルバイト情報の提供体制が整備されている 7.3 33.2 17.9 30.9 7.5 3.1 2.0
26. 食堂・売店（施設・メニュー・品揃えなど）が整備されている 15.8 41.8 5.5 22.7 10.9 3.2 10.5
進路支援
27. キャリア形成に関する授業や支援が整備されている 8.6 43.7 15.7 24.2 4.3 3.4 2.0
28. 就職のための情報提供相談窓口が整備されている 10.2 41.5 22.2 19.5 3.5 2.4 3.1
29. 留学のための情報提供相談窓口が整備されている 7.7 35.5 27.1 22.1 4.0 3.6 1.6
30. 進学のための情報提供相談窓口が整備されている 7.6 37.4 26.0 21.6 3.8 3.6 1.8
31. インターンシップ等の職場体験の機会がある 12.2 40.8 22.2 17.8 3.4 3.6 1.6
32. 就職等に必要な資格取得のための支援体制が整備されている 6.5 33.6 23.9 26.0 6.2 3.7 3.1
33. 企業（関係者）や卒業生から職場の話を聞く機会がある 9.6 36.0 18.8 24.5 7.5 3.6 2.8
相談体制
34. 職員の窓口対応が適切に行われている 11.7 37.1 13.1 24.0 10.2 3.8 6.1
35. 学業や生活について、教員や相談員に相談する体制が整備されている 10.2 38.9 14.7 25.8 6.8 3.6 2.5
36. オフィスアワー制度を通じて、教員が相談に応じる体制が整備されている 12.7 43.5 14.6 20.9 4.5 3.7 1.7
その他
37. オピニオン BOX（学生意見箱）やメール等で学生が意見を言う体制が整備されている 5.7 28.3 25.6 28.7 7.8 3.9 1.7
38. 企業や社会など、学外に向けた大学の PR がなされている 5.5 27.8 26.2 29.2 7.4 3.9 2.1
39. サークル活動・課外活動に対して大学としての支援が行われている 7.4 30.4 22.2 26.6 9.3 4.0 5.3
0%
20%
40%
60%
80%
100%

教育・各種支援について（改善の緊急性に関する考察）

下図は、「教育・各種支援」に関する調査結果をもとに、「不満足度」(「思わない」「あまり思わない」「どちらともいえない」の合計回答割合)を縦軸に、不満足回答者のうち「改善を要望した者の割合」を横軸にとった「教育・各種支援について」の 39 項目の散布図である。

散布図は、不満足度の平均値と改善要望度の平均値により４つの領域に分けられる。右上の領域は不満足度が平均値 (44.6%) よりも高くかつ改善要望度もその平均値 (8.3%) よりも高い領域で、この領域にある項目の「改善の緊急性」は高い。同様に、右下は、不満足度は平均よりも低いが改善要望度は平均値よりも高い領域、左上は不満足度が平均値より高く、改善要望度は平均値より低い領域、そして左下は不満度も改善要望度も平均値より低い領域である。

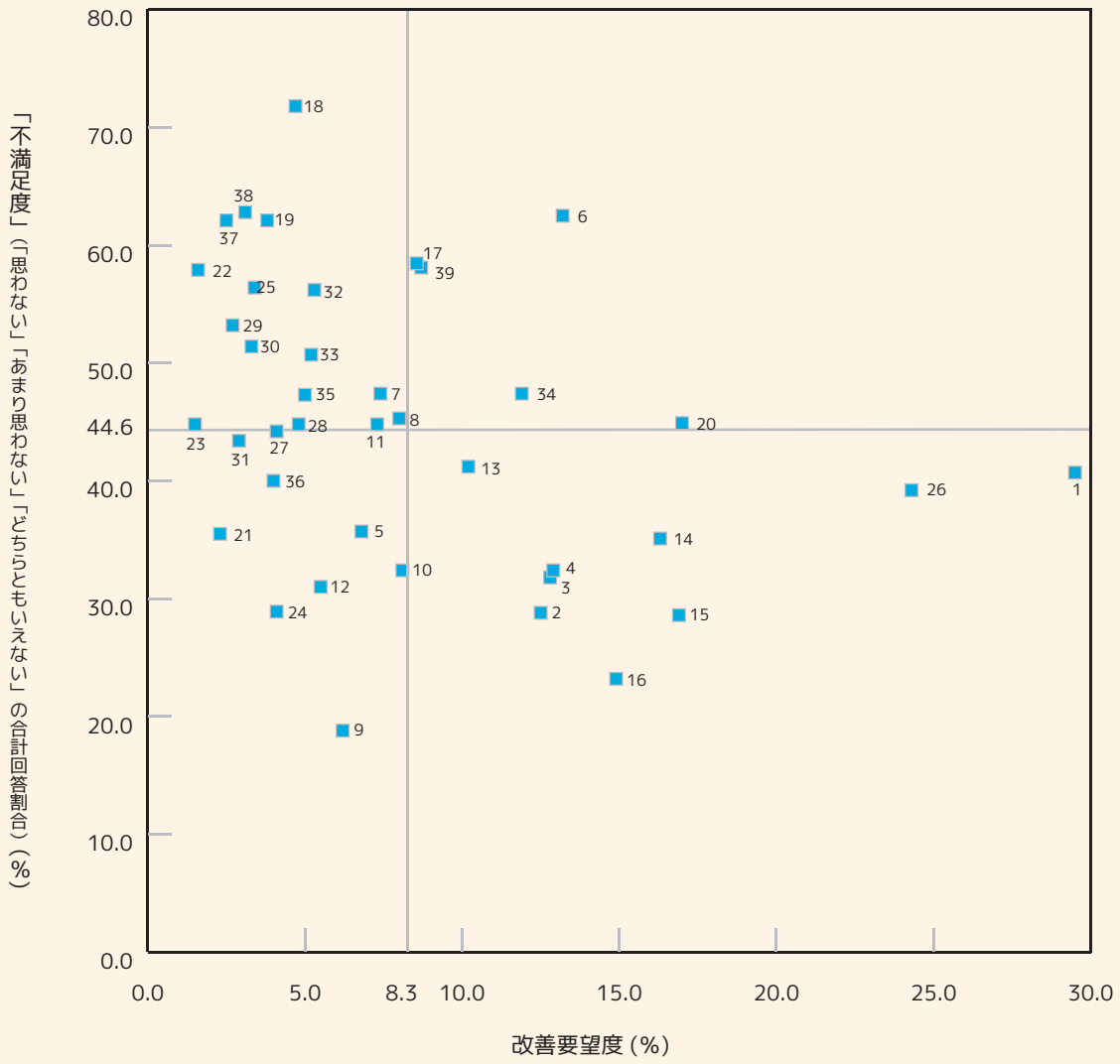
図から、教育面では「(6) 英語教育」の改善・充実や「(1) 時間割の編成」の一層の改善への取組が、改善の緊急性が高い課題として浮かび上がる。

学習・生活支援面では、「(17) 施設のバリアフリー化」、「(20) 学内情報周知手段の整備」、「(26) 食堂・売店等の整備」、相談体制等面では「(34) 職員の窓口対応」の改善、「(39) 課外活動への支援」が強く求められている。

39 個目の中で最も不満足度が高い「(18) 留学生との交流、国際交流の機会」は左上領域にあり、国際交流の機会が十分にある環境とは言えないが、改善の緊急性は教育や学習環境の項目と比べ高くないと考えられる。

全体的傾向として、教育関係項目は概ね右下領域に、進路支援関係項目は左上領域にある。

■ 教育・各種支援について



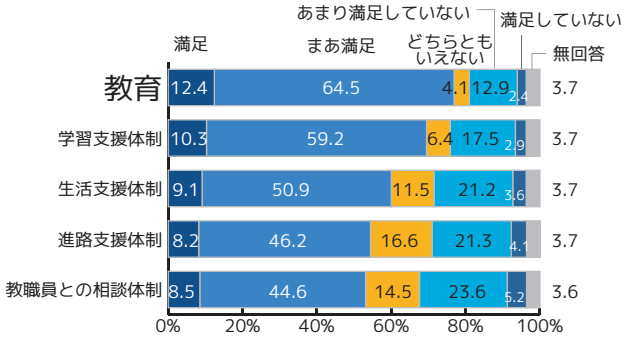
総合的な満足度
教　育

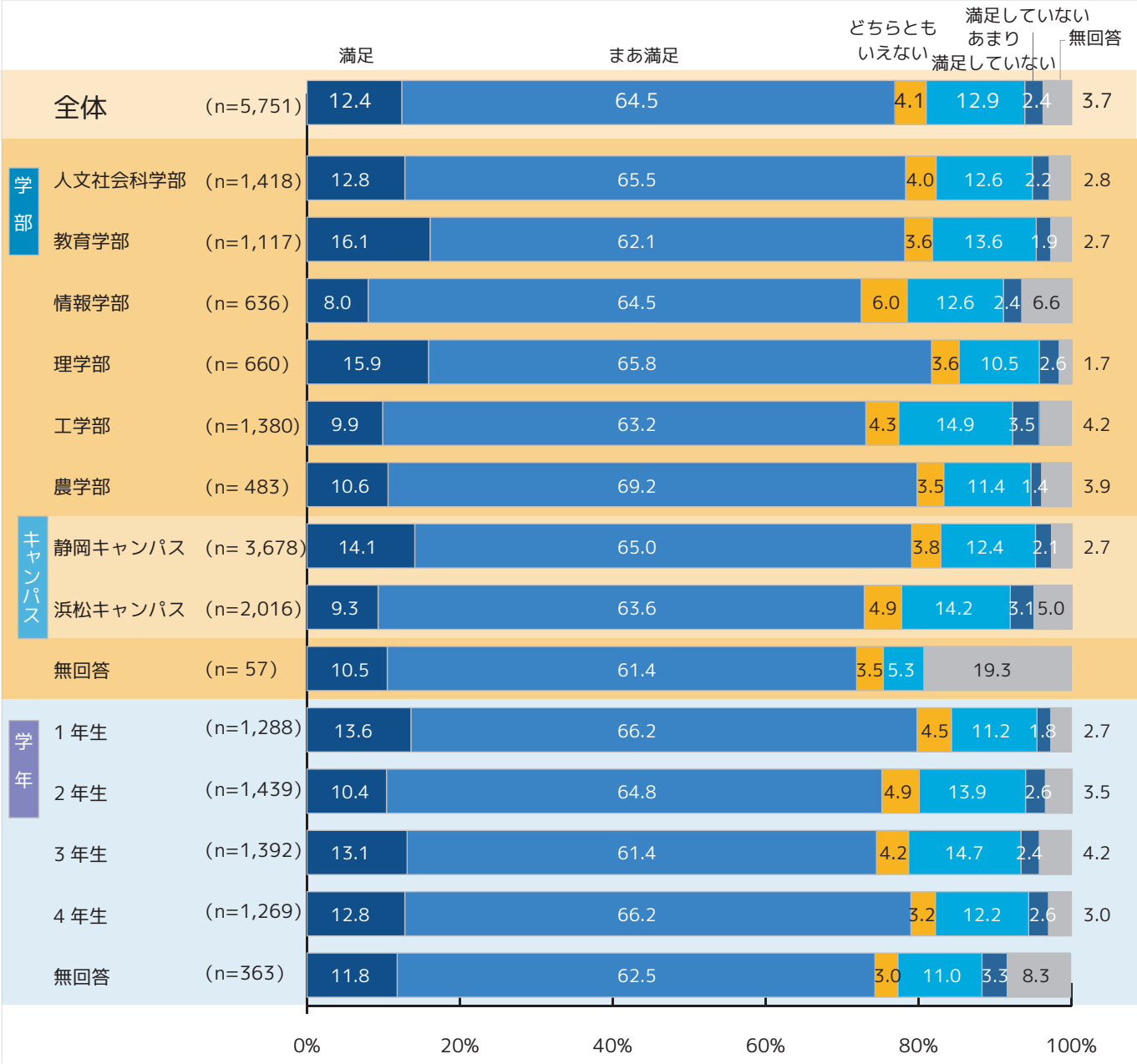
全体でみると、「満足」「まあ満足」の合計は 76.9%。
これは、「総合的な満足度」の回答肢の中で最も高い。

解　説

- 学部別における「思う」「やや思う」の合計は、「理学部」(81.7%) で最も高い一方、「情報学部」(72.5%) で最も低い。

【全体】各項目の総合的な満足度





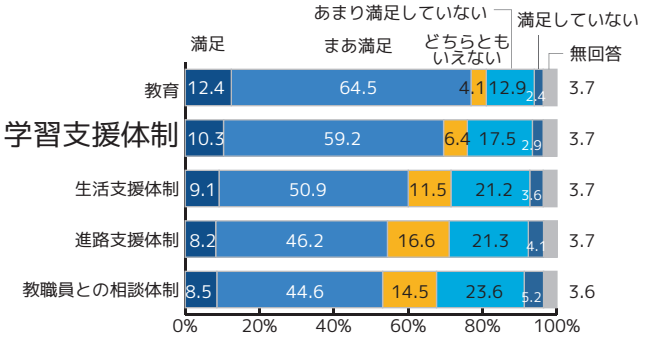
総合的な満足度
学習支援体制

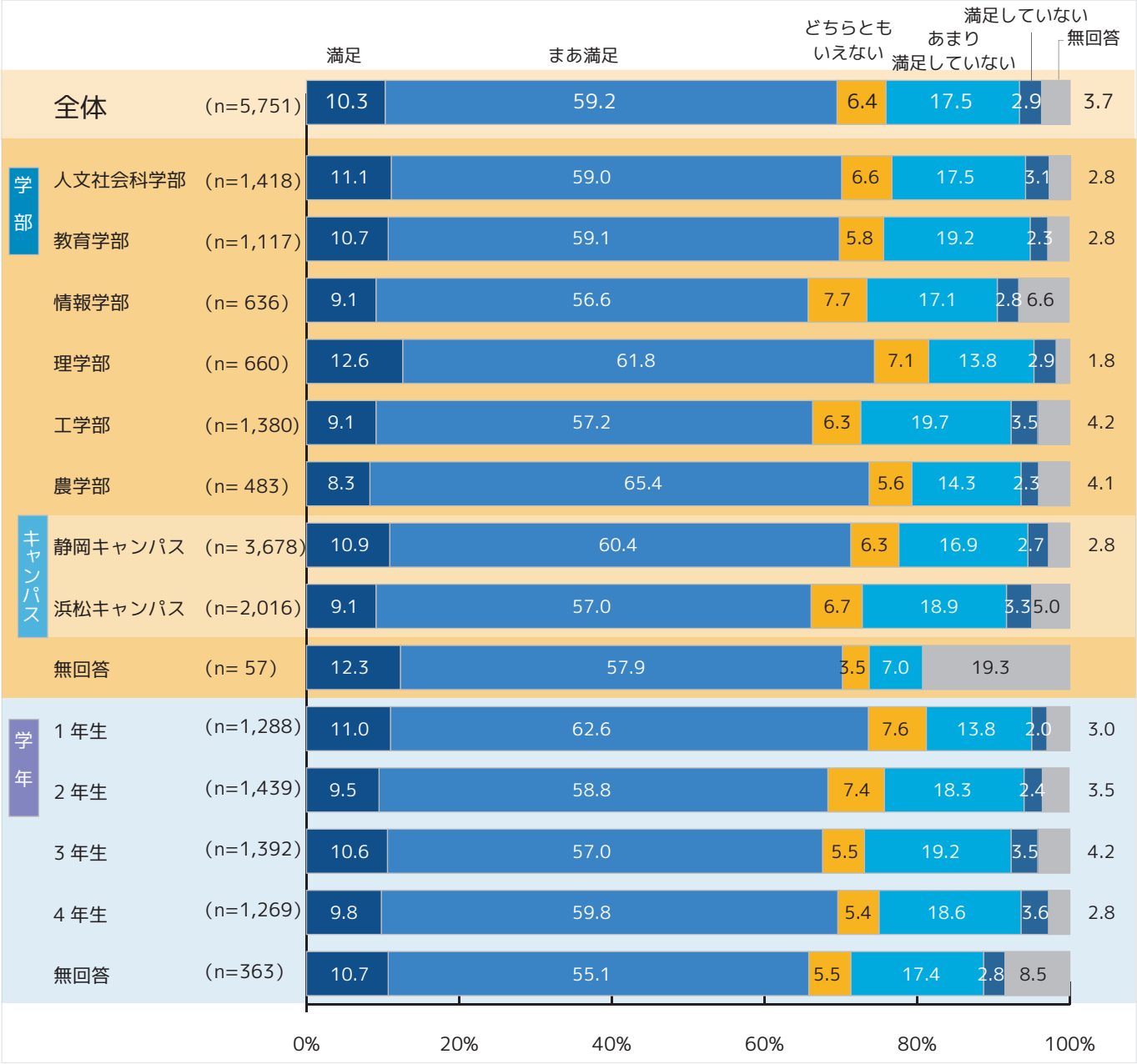
全体でみると、肯定的回答が 69.5%と高いが、うち「まあ満足」が 59.2%を占める。

解　説

- 学部別では大きな差異はみられないが、「満足」「まあ満足」の合計は、「理学部」（74.4%）で高く「情報学部」（65.7%）で低い。
- キャンパス別における「満足」「まあ満足」の合計は、「静岡キャンパス」で 71.3%と、「浜松キャンパス」に比べ 5.2 ポイント高い。

【全体】各項目の総合的な満足度





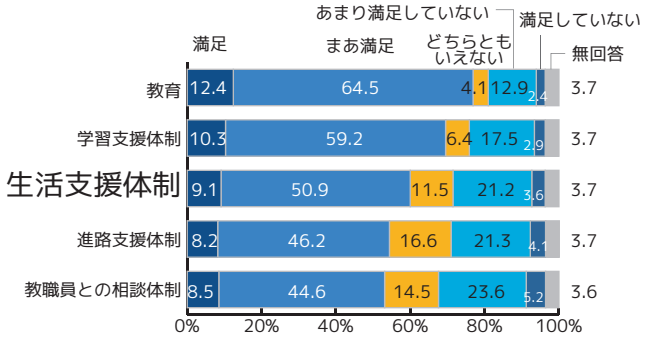
総合的な満足度
生活支援体制

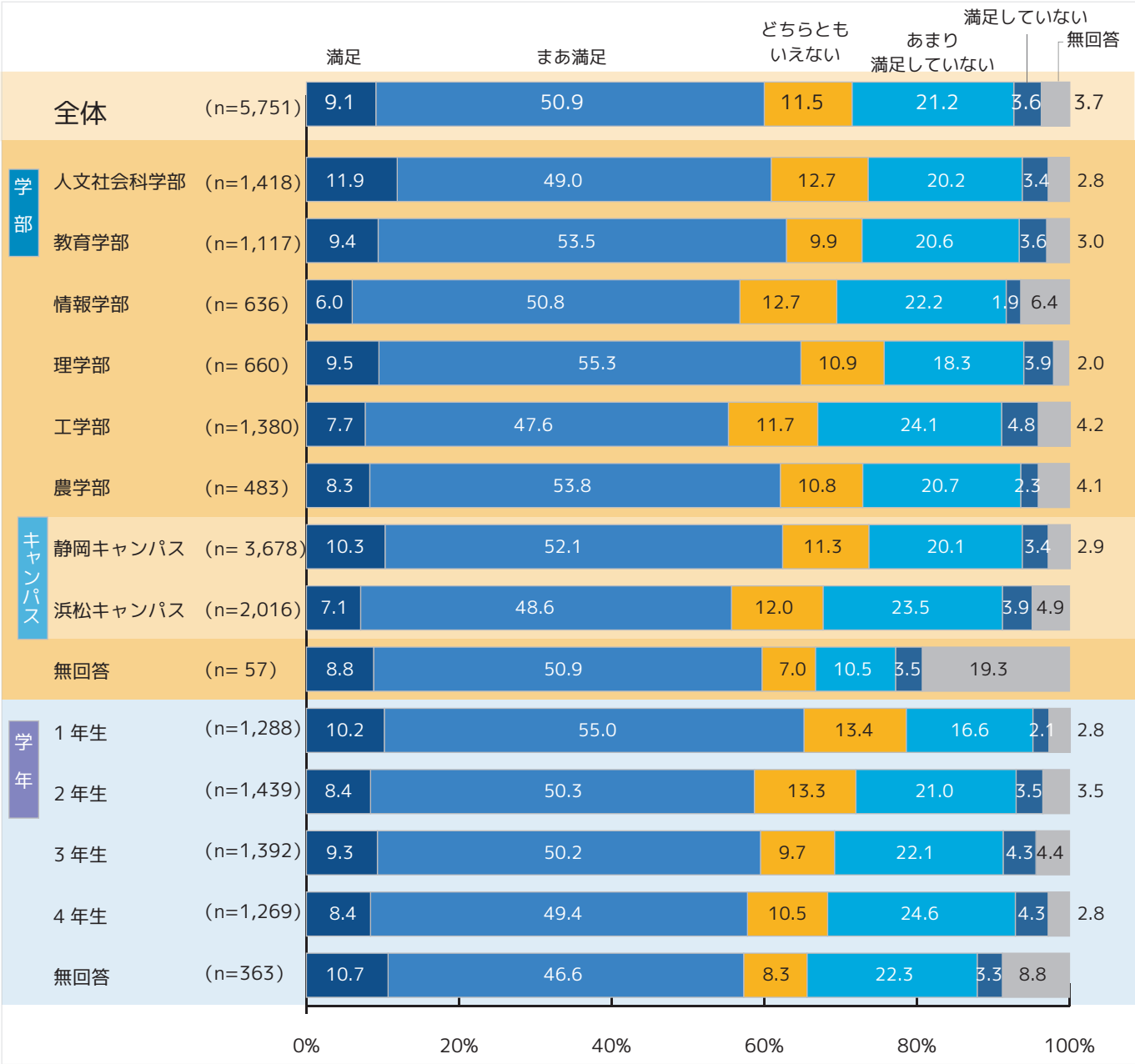
全体でみると、肯定的回答が 60.0%を占め、否定的回答は 24.8%にとどまる。

解　説

- 学部別では大きな差異はみられないが、「満足」「まあ満足」の合計は「理学部」(64.8%)で高く、「工学部」(55.3%) で低い。
- キャンパス別における「満足」「まあ満足」の合計は、「静岡キャンパス」で 62.4%と、「浜松キャンパス」に比べ 6.7 ポイント高い。

【全体】各項目の総合的な満足度





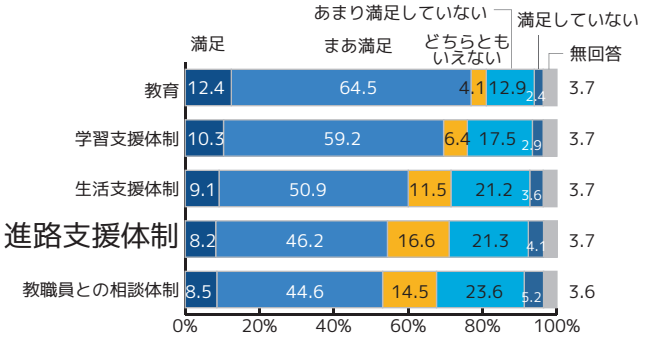
総合的な満足度
進路支援体制

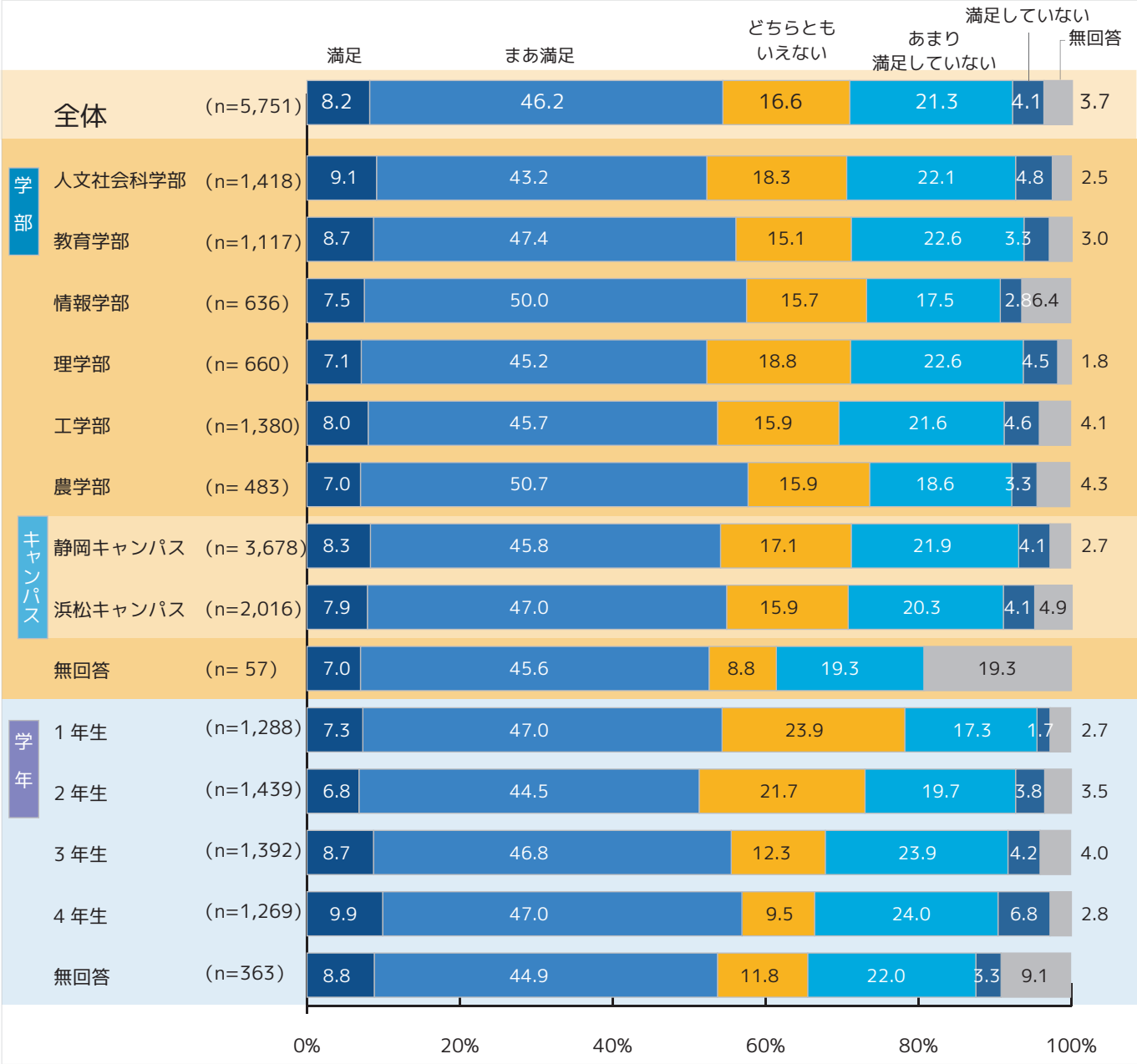
全体でみると、肯定的回答が 54.4%、否定的回答が 25.4%を占める。

解　説

- 学部別では大きな差異はみられないが、「満足」「まあ満足」の合計は「農学部」(57.7%)で高く、「人文社会科学部」(52.3%)、「理学部」(52.3%)で低い。

【全体】各項目の総合的な満足度





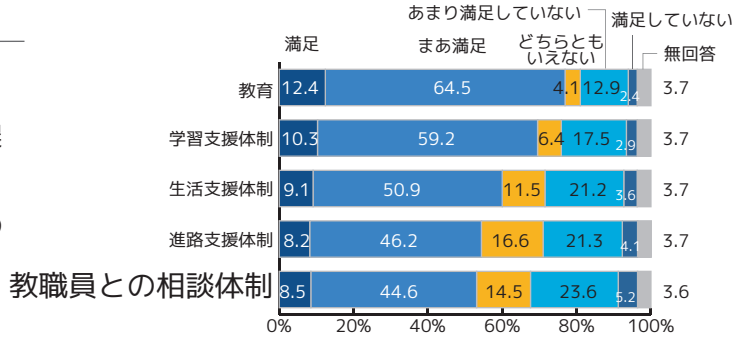
総合的な満足度
教職員との相談体制

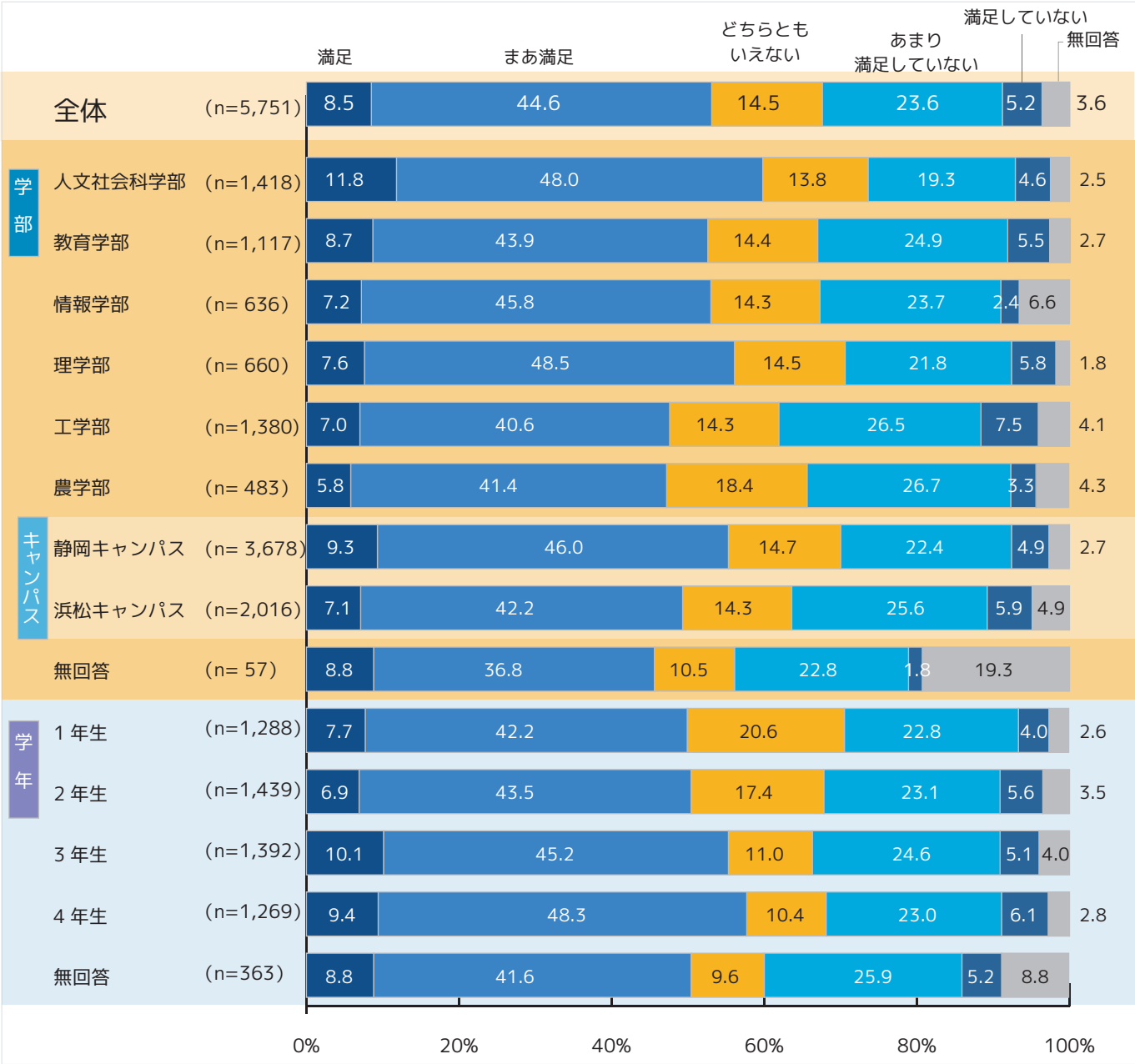
全体では、肯定的回答が 53.1％と過半数を超えるが、「総合的な満足度」の回答肢の中では最も低い。

解　説

- 学部別における「満足」「まあ満足」の合計は、「人文社会科学部」（59.8％）で最も高く、「農学部」（47.2％）で最も低い。
- 学年が上がるにつれ、「満足」「まあ満足」の合計は高まる。

【全体】各項目の総合的な満足度



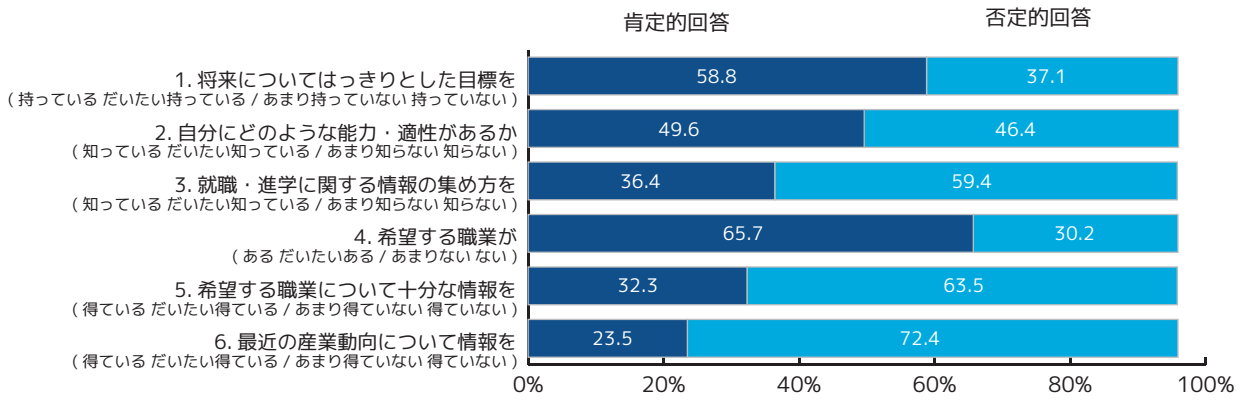


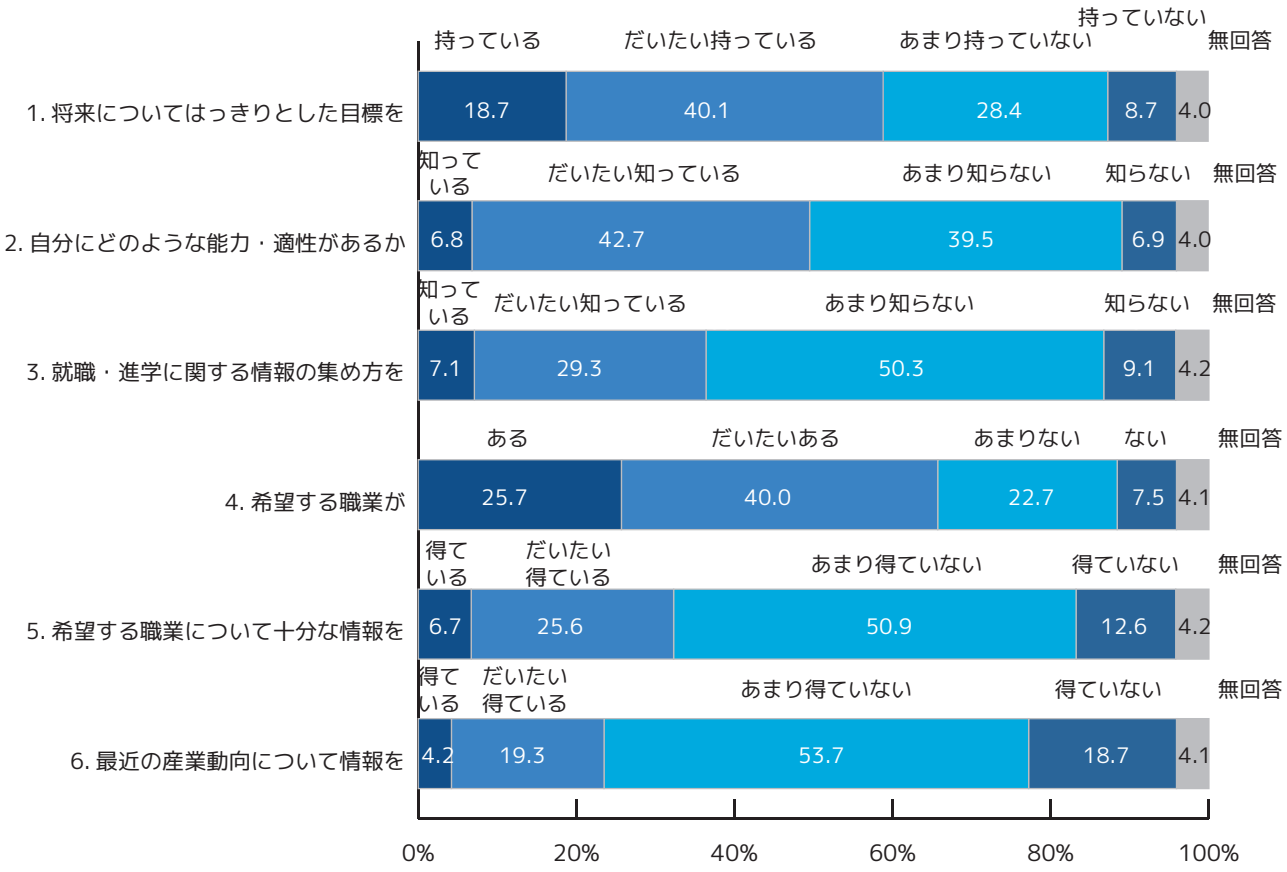
進路について

肯定的回答割合は、「希望する職業がある」が最も高く、次いで「将来についてはっきりとした目標を持っている」が続く。

解　説

- 否定的回答割合は、「最近の産業動向について情報を得ている」が最も高く、次いで「希望する職業について十分な情報を得ている」が続く。





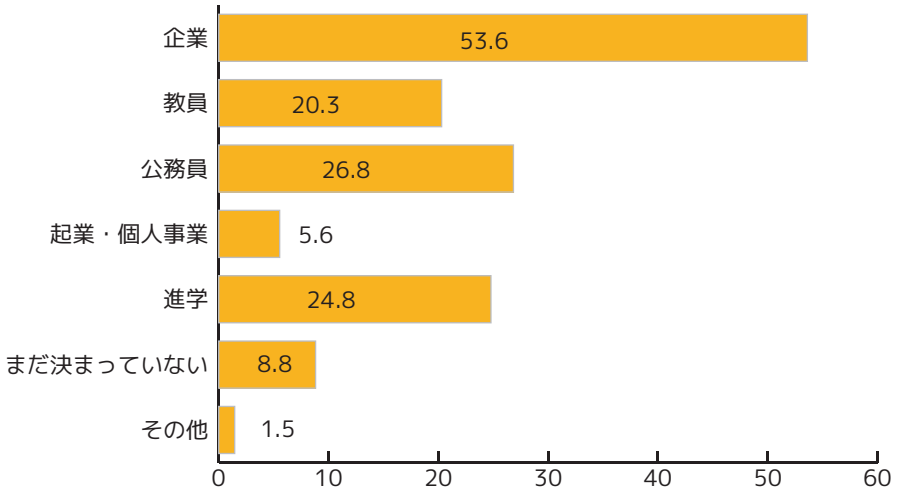
卒業後の進路について希望するもの（複数回答可）

全体でみると、「企業」の割合が最も高く、次いで「公務員」が続く。

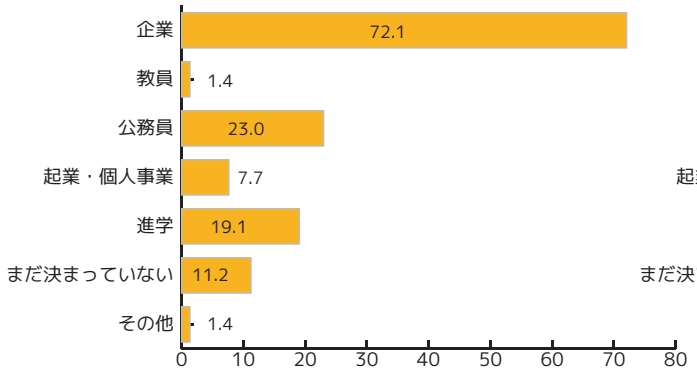
解　説

- 「情報学部」では「企業」を希望している割合が高い。
- 「人文社会科学部」では、「公務員」が高いことが目立つ。

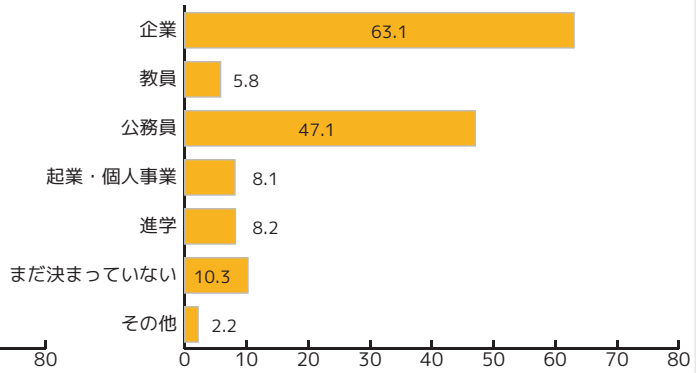
● 全体（回答者 5,566 人）=100）



● 情報学部生（回答者 587 人）=100）



● 人文社会科学部生（回答者 1,375 人）=100）

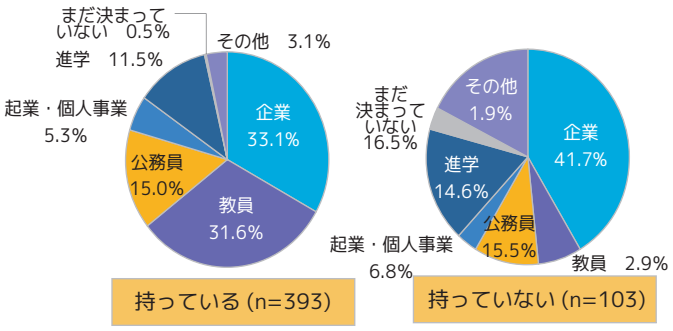


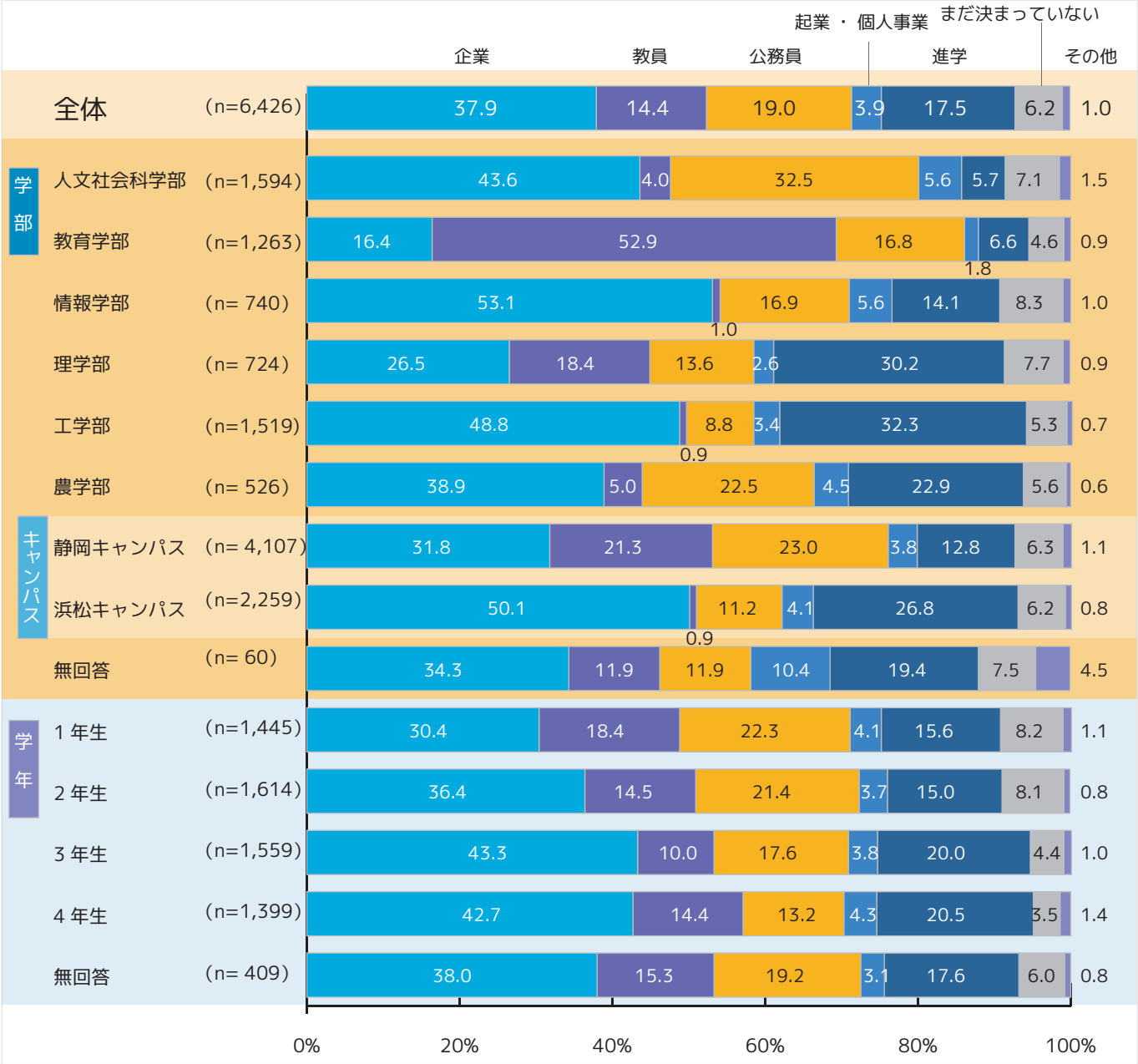
卒業後の進路について希望するもの（複数回答可）

解　説

- 学年別では、学年が上がるにつれ「公務員」の割合が低下する。
- 「将来の目標の有無」とのクロス集計結果をみると、将来の目標を「持っている」学生における「教員」の割合が高いことが目立つ。

【クロス集計】将来のはっきりした目標は？（4 年生 ）

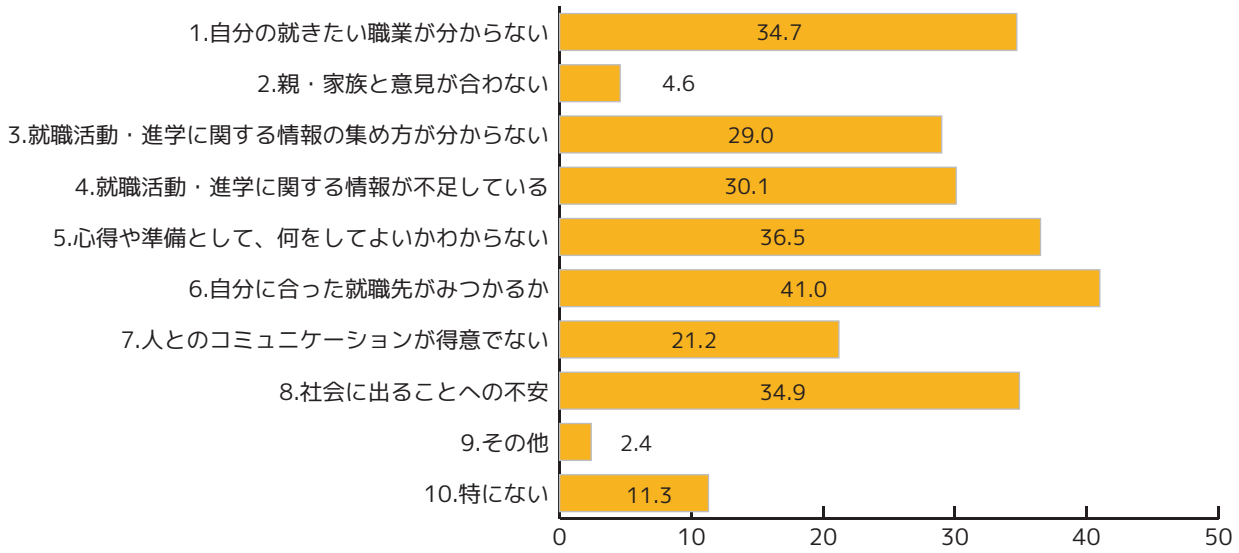




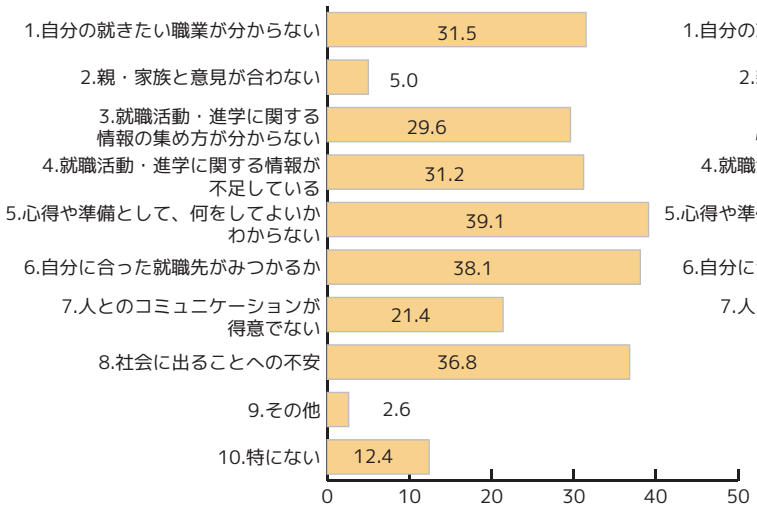
卒業後の進路について不安に感じていることや悩みなど（複数回答可）

全体では、「自分に合った就職先がみつかるか」、「心得や準備として、何をしてよいかわからない」の回答割合が高い。

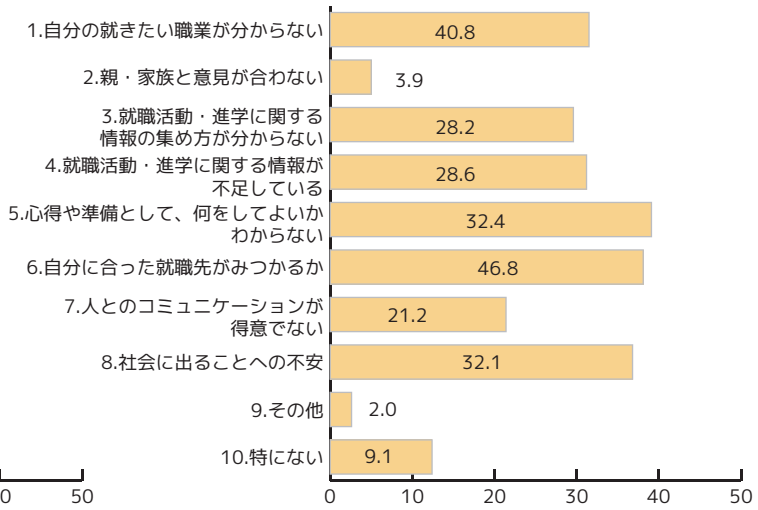
全体（回答者（5,464 人）=100）



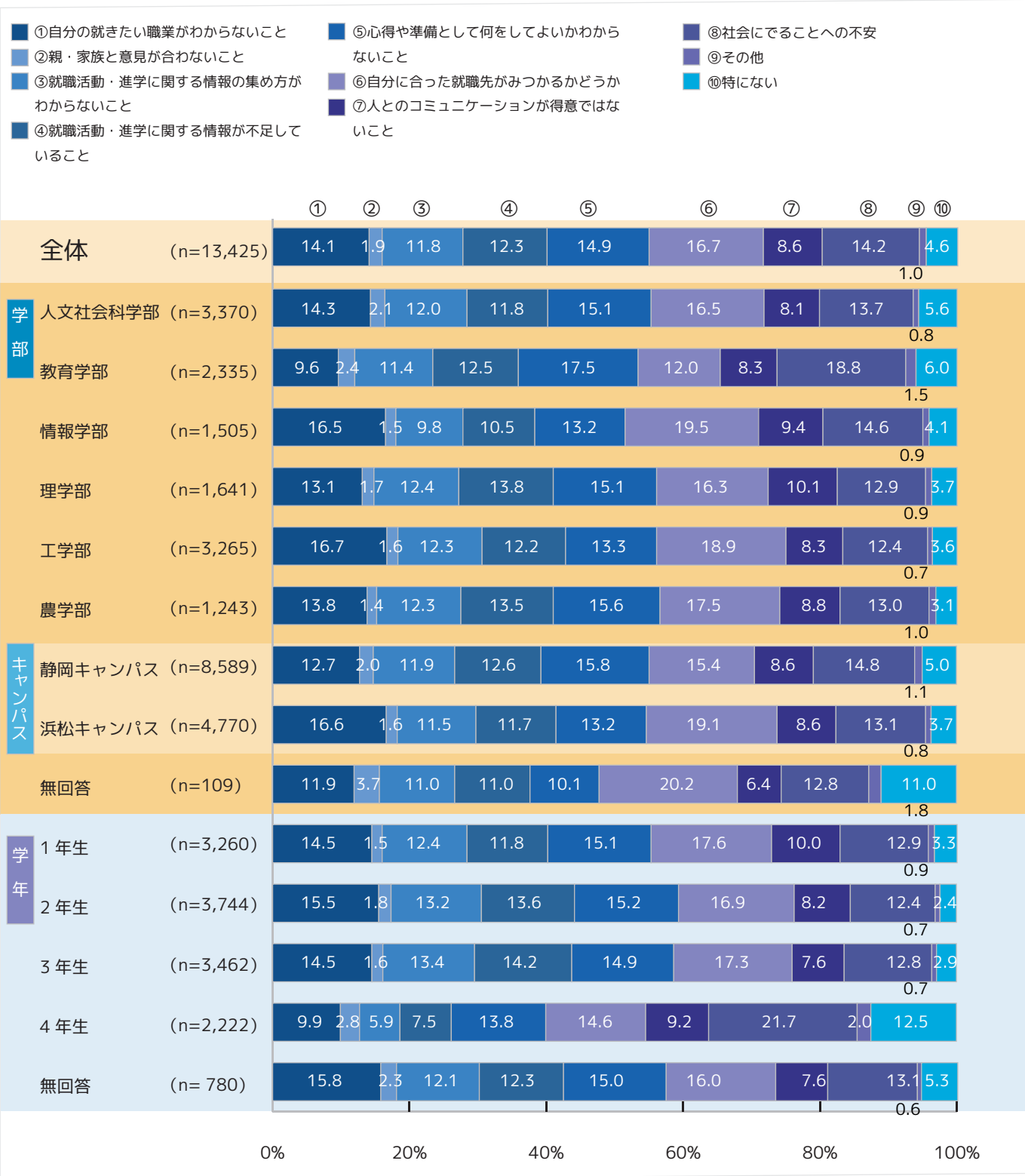
静岡キャンパス（回答者（3,469 人）=100）



浜松キャンパス（回答者（1,946 人）=100）



卒業後の進路について不安に感じていることや悩みなど（複数回答可）

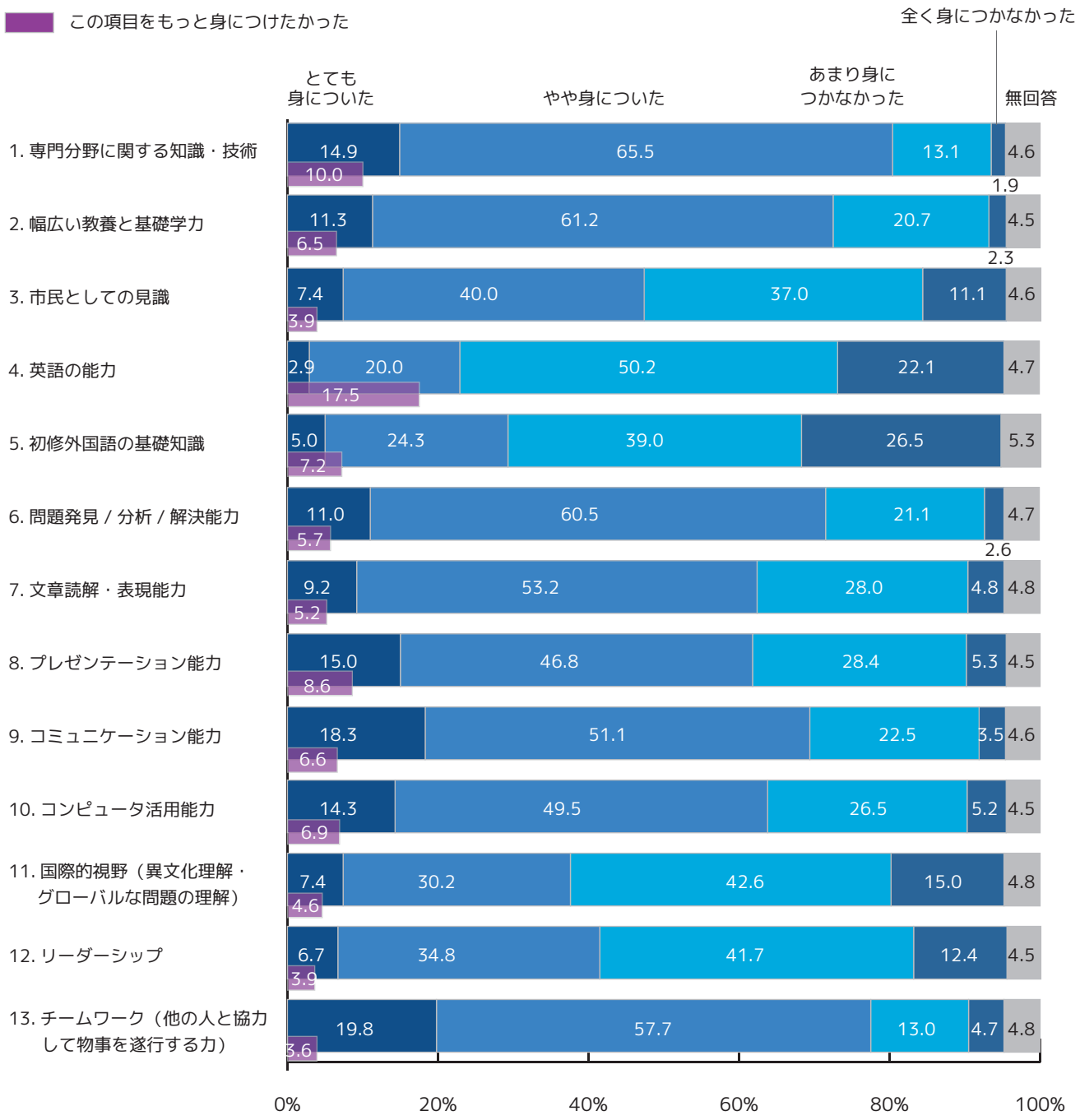


学業の到達度について［4年生のみ］

「とても身についた」「やや身についた」の合計は、「専門分野に関する知識・技術」（80.4%）が最も高く、次いで「チームワーク」（77.5%）が続く。

解　説

「全く身につかなかった」「あまり身につかなかった」の合計は、「英語の能力」（72.3%）が最も高く、「初修外国語の基礎知識」（65.5%）が続く。



学業の到達度について [4年生のみ]（習得度とその満足度に関する考察）

下図は、「学業の到達度」に関する調査結果をもとに、「身につかなかったと思う割合」(「全く身につかなかった」「あまり身につかなかった」の合計回答割合）を縦軸に、身につかなかったと回答した者のうち「もっと身につけたかったと思う者の割合」を横軸にとった 13 項目の散布図である。

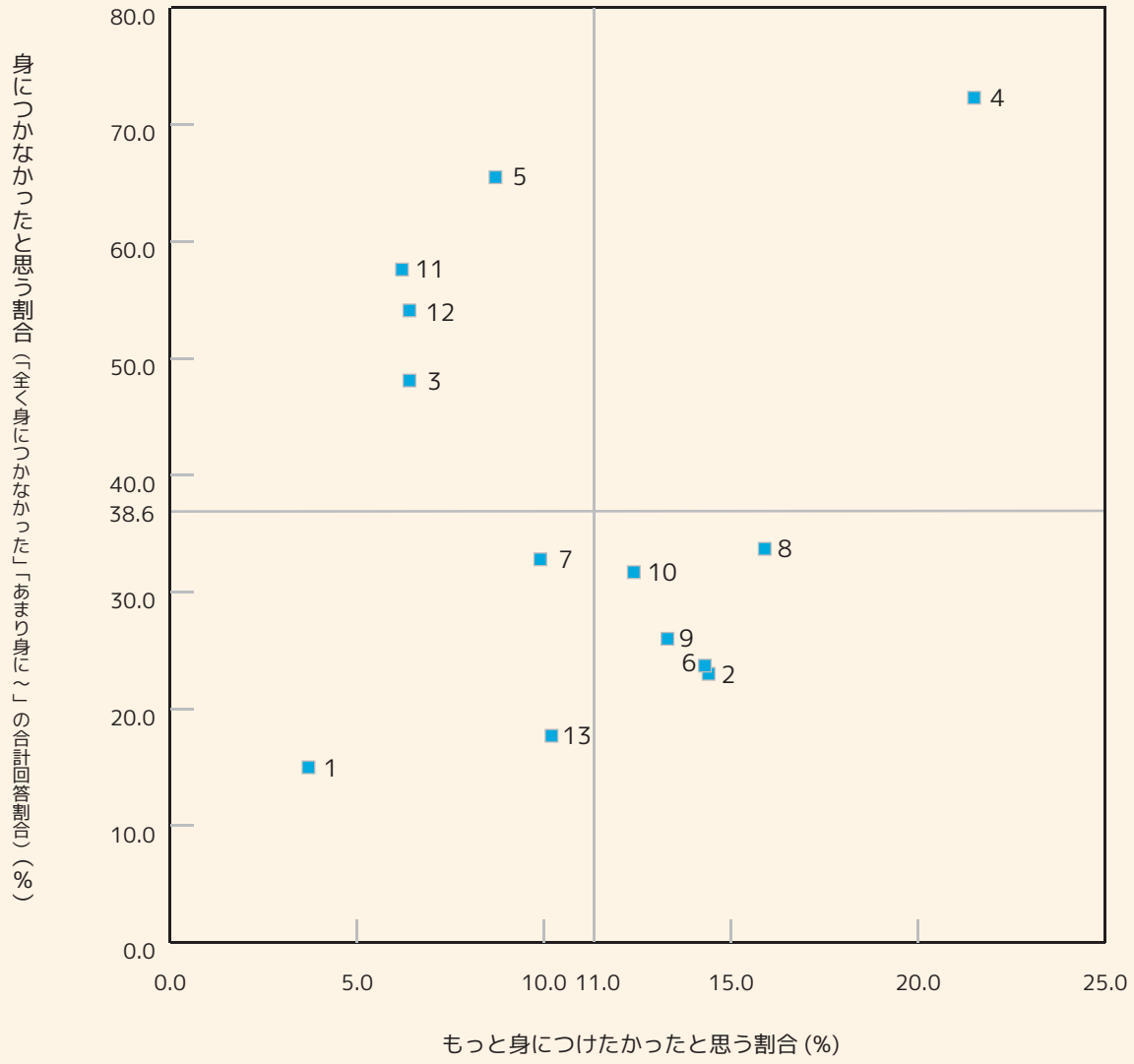
散布図は 13 項目の２つの平均値により４つの領域に分けられる。

右上の領域にある項目は、身につかず、かつもっと身につけたかった項目であり、「(4) 英語の能力」がある。身についたが一層ブラッシュアップしたい項目(右下領域)として、「(2)幅広い教養と基礎学力」、「(6) 問題発見／分析／解決能力」、「(8) プレゼンテーション能力」、「(9) コミュニケーション能力」、「(10) コンピュータ活用能力」がある。

左上領域にある「(3) 市民としての見識」、「(5) 初修外国語の基礎知識」、「(11) 国際的視野」、「(12) リーダーシップ」は、身につけることが難しい項目である。

身につけることができたと判断している項目（左下領域）として、「(1) 専門分野に関する知識･技術」、「(7) 文章読解・表現能力」、「(13) チームワーク」がある。

■ 学業の到達度について



教育・各種支援等についての要望

教育研究について

- 自主的に取り組まなくてはならないような授業が、少なすぎる気がする。[人文社会科学部、2 年生]
- だいたいの人は 1、2 年次で英語や初修外国語を履修し終えたらそれっきりなので、これでは 3 ,4 年次には知識や基礎も忘れてしまうのではないかと思う。[人文社会科学部、4 年生]
- 文章を書くことに重点を置いてほしい。レポート･論文も書きっぱなしで、何が良かったのか、悪かったのかなどの改善点が分からない。[人文社会科学部、4 年生]
- もっと英語の授業を増やして欲しかった。自分の姿勢にも問題はあったと思うけど、英語の実力をもっとつけたかったし、英語ができないとまずいと思えるようなことをして欲しかった。[人文社会科学部、学年無回答]
- 実習先の幼稚園を附属だけでなく、私立にも増やして欲しい。[教育学部、2 年生]
- 大学教育の中で、実際の教育現場へ行った後、役立てるようなスキルを身に付けさせて欲しい。教育に関する論理面に対する教育は多いように思うが、それだけでは教師になった後、発達障がいの子どもや、いじめ問題、学級崩壊などの諸問題に対応がしきれない。そうしたスキルを学ぶ場を、大学にも取り入れて欲しい。[教育学部、4 年生]
- 授業が 2、5 コマといった風に、間が空きすぎていて効率が悪い。実家生はとても時間のムダだと思う。[教育学部、学年無回答]
- 成績を出すのを早くして欲しい。[情報学部、2 年生]
- 講義の多様性を増やしてほしいです。キャンパスの特性によって、理工系の分野が多い気がします。[情報学部、4 年生]
- もう少し教職の授業を増やして欲しい。特に教育学部以外の学部に対するバックアップが不足しているのではないかと思う。又、日々が忙しいので、もう少し 1 つ 1 つの事にじっくり取り組めるような時間が欲しい。(時間割がキツすぎ) [理学部、3 年生]
- 今の静大のカリキュラムには、アウトプットの場が少なすぎます。そういう場を作って欲しいです。[理学部、3 年生]
- インターンシップ制度はあるけれど、単位取得のための手続きが複雑すぎると思いました。[理学部、4 年生]
- 講義で身に付けた知識･能力と、研究室（卒論）で必要な知識･能力にギャップがあり、学生側が改めて勉強し直さないといけない状況がある。研究室配属前に専門分野へのある程度の認識が持てるよう、各研究分野で活躍している教員側から最新の研究や業界の動向について、紹介する機会が欲しい。[工学部、4 年生]
- 文系講義は理系の人は取り組んでいないので、不利がある事を文系教授が理解しないといけないと思う。文系の人と一緒にされても困ります。[農学部、2 年生]

施設 ・ 設備について

- 荷物を一時的に入れられるロッカーがあれば非常に助かります。毎日荷物が重くて山登りがより大変です。[人文社会科学部、1 年生]
- 学食の値段が少し高いので、安くしてもらえると気軽に行けて助かる。[人文社会科学部、1 年生]
- もっと無線 LAN のエリアを広くして欲しい。[人文社会科学部、2 年生]
- 学寮をもう少しきれいにして欲しい。[人文社会科学部、2 年生]
- 生協の窓口時間が夜間主学生にとって不便である。時間割を 2 カ年ぐらいで作って欲しい。[人文社会科学部、3 年生]
- 静岡大学に入学してよかったです。私が入学してからも校舎の工事など、設備が整えられ、学習環境の改善が常に行われていることがわかりました。これから入学する学生がよりよい環境で学べるよう、期待しています。[人文社会科学部、4 年生]
- 体育館 3 階のウェイトトレーニング場にもっと充実した器具をそろえてほしい。[教育学部、2 年生]
- 野球場の施設を向上して欲しい。(ナイター、室内練習場、ネットなど備品など) [教育学部、2 年生]
- 音楽棟の練習室にグランドピアノを入れて欲しい。[教育学部、4 年生]
- 食堂、売店を増やすか、広くして欲しい。空き時間に勉強出来るスペースやカフェなどの施設ももっと充実して欲しい。[理学部、2 年生]
- 私が学習する際に図書館を多く利用させて頂きました。テスト前は席が足りない状況が多くあったので席を増やしたり、10 時まででではなく、もう少し長く開けておいてくれると嬉しかったです。[理学部、学年無回答]
- 学務情報システムや掲示板等連絡方法がバラバラなので統一して欲しい。[工学部、4 年生]
- 浜松キャンパスの食堂が 2 つしかなく、昼休みの時間は座れないほど混雑します。食堂の建物の外まで行列ができます。早急に食堂の増設を強く希望します。[工学部、学年無回答]
- 実験設備をもっとお金をかけて、質の良い実践的なことをして欲しい。[農学部、3 年生]

その他

- 授業やゼミでもっと地域の人と関わりたい。[人文社会科学部、3 年生]
- 講演会の先生を決定する際、学生の意見も取り入れて欲しいです。[人文社会科学部、3 年生]
- サークル活動への支援を充実させて欲しい。[教育学部、4 年生]
- 自分に積極性が足りないとも思うが、もっと教員の方々と交流できる場が欲しい。[情報学部、1 年生]
- 静岡と浜松の交流授業をして、たくさんの仲間ともっと出会いたい！[情報学部、4 年生]

＜学部生用＞

「大学生活・学習」に関するアンケート

平成24年10月

＜アンケートご協力のお願い＞　**【アンケート提出期限：10月31日（水）】**

このアンケート調査は、皆さんの静岡大学における学習・生活・進路支援などの環境についての改善点や問題点を明確にし、より快適な生活環境の実現をめざすために行うものです。アンケート用紙の回収は、配付した教職員が行いますが、所属の学生窓口（学務係、教務係、大学院係）にも提出場所を設けますので、是非協力してください。

アンケート後、皆さんの中から何人かに面談をお願いし、改善点や問題点を一層明確にします。

なお、調査結果、改善計画及び改善のための措置については、本学Webページで公表します。

問合せ：企画部企画課

整理番号（記入不要）

■あなた自身について

F1	学籍番号	※上5ケタの番号を、必ず記入してください。下3ケタは個人番号のため記入不要です。

F2	性別	1　男性　2　女性	F3　学部学年	1　1年生　2　2年生　3　3年生　4　4年生
F4	学生区分	1　一般学生（昼間コース）　2　一般学生（夜間主コース）　3　社会人学生　4　留学生		
F5	出身地	1　静岡県　2　静岡県を除く東海　3　北海道　4　東北　5　関東　6　北陸・信越 7　近畿　8　中国　9　四国　10　九州　11　沖縄　12　海外[国名：　　]		
F6	居住形態	1　自宅　2　学生寮・国際交流会館　3　アパート・マンション・下宿等		

■普段の生活・意識について

Q1　大学には、1週間を平均して何日くらい来ていますか。

1　1日　2　2日　3　3日　4　4日　5　5日　6　6日　7　7日

Q2　すべての授業を平均して、出席率はだいたい何%ですか。

1　90%以上　2　70～89%　3　50～69%　4　50%未満

Q3　授業時間以外の一日の平均勉学時間はどのくらいですか。

1　0～1時間未満　2　1～2時間未満　3　2～3時間未満　4　3～4時間未満　5　4～5時間未満　6　5時間以上

Q4　サークルや部活動には、1週間を平均して何日くらい参加していますか。

1　1日以下　2　2日　3　3日　4　4日　5　5日以上　6　所属していない

Q5　アルバイトには、1週間を平均して何日くらい行っていますか。

1　1日以下　2　2日　3　3日　4　4日　5　5日以上　6　していない

Q6　奨学金を受けていますか。

1　受けている　2　受けていない

Q7　大学の授業以外に、語学学校や資格取得・就職のための学校・通信教育を利用していますか。

1　している（資格の種類：　　）　2　していない

Q8　次の項目のうちで、あなたの意識や行動にあてはまるものに○を付けてください。

1	友達は	（多い　やや多い　やや少ない　少ない）
2	人付き合いが	（得意　やや得意　やや苦手　苦手）
3	悩みごとなどを相談できる人が	（いる　いない）
4	親との会話が	（よくある　ある　ほとんどない　ない）
5	リーダー役や幹事役をつとめることが	（多い　やや多い　少ない　ない）
6	人と協力して物事を進めることが	（できる　やややできる　あまりできない　できない）
7	人前で話したり、自分の考えを説明することが	（得意　やや得意　やや苦手　苦手）

Q9　現在の学生生活に、どの程度満足していますか。

1　満足　　2　ほぼ満足　　3　どちらともいえない　　4　やや不満　　5　不満

■入学について

Q10　あなたが静岡大学を志望した理由は何ですか。以下の中から当てはまるものに○を付けてください。（○は3つまで）

1	入試の難易度・偏差値が合っている	11	就職状況がよい
2	入試科目・選抜方法が合っている	12	大学院が整備されている
3	専攻したい学問分野がある	13	取りたい資格・免許が取得できる
4	教員スタッフが充実している	14	自宅から通える
5	専攻したい学問分野を専門とする教員がいる	15	出身地（帰省地）の近隣県である
6	国立大学である	16	″静岡″あるいは″浜松″という土地柄やイメージがよい
7	伝統や知名度がある	17	東京・名古屋などの大都市へのアクセスが良い土地柄だから
8	大学のイメージがよい	18	授業料が安い
9	校風やキャンパスの雰囲気が自分に合っている	19	周囲の人のすすめ
10	施設・設備がよい	20	その他（　　）

Q11　進学先を検討するうえで、どなたに相談しましたか。最も相談した方をお知らせください（○は1つ）

1	家族	3	先輩	5	学校・予備校・塾の先生	7	なし（自分自身で決定）
2	親戚	4	友人・知人	6	その他（　　）		

Q12　「静岡大学」に入学したことは、あなたの希望どおりでしたか。

1　希望どおり　　2　ほぼ希望どおり　　3　やや不本意　　4　かなり不本意

Q13-1　入学前に感じていた静岡大学に対するイメージと比較して実態は

1	2	3	4	5
とてもよい	ややよい	変わらない	やや悪い	とても悪い

Q13-2　入学前のイメージに比べよくなかった理由としてあてはまるものを、3つまで○を付けてください。

1	学部･学科で学んでいることと やりたいと思ってることが違う	8	大学の施設・設備がよくない
		9	進路支援・資格取得支援などが不十分
2	講義がおもしろくない	10	自分にあったサークル・部活動がない
3	勉強が難しくて、ついていけない	11	気の合う友人が少ない
4	授業・ゼミに手応えがない	12	″静岡″あるいは″浜松″という街がつまらない
5	教員との交流が少ない	13	自由時間が思っていたほど持てない
6	校風やキャンパスの雰囲気が自分に合わない	14	その他（　　）
7	学校に活気がない		

Q13-3　入学前のイメージに比べよかった理由を記入してください。

■教育・各種支援について

Q14　下記の項目について、あなたの意見に当てはまる数字に○を付けてください。
また、これらの項目について、今後、是非改善してほしいと思うものに、いくつでも○を付けてください。

＜教育について＞	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	どちらともいえない		是非、改善してほしい
(1) 受けるべき授業が適切に配置された時間割である	1	2	3	4	5	→	
(2) 教育内容に応じた適切な教育方法（授業の進め方）がとられている	1	2	3	4	5	→	
(3) 成績評価の基準が明確で適切である	1	2	3	4	5	→	
(4) シラバスから授業の概要を読み取ることができる	1	2	3	4	5	→	
(5) 全学共通教育を通じて、幅広い教養や基本的知識・スキルを得ることができる	1	2	3	4	5	→	
(6) 英語教育を通じて、英語の能力を高めることができる	1	2	3	4	5	→	
(7) 初修外国語教育を通じて、その基本的知識を身につけることができる	1	2	3	4	5	→	
(8) 情報処理教育・IT教育を通じて、情報処理能力を高めることができる	1	2	3	4	5	→	
(9) 専門科目を通じて、それぞれの分野に応じた能力を身につけることができる	1	2	3	4	5	→	

＜学習支援について＞							
(10) 講義・演習・実験・実習等の授業形態の組み合わせが適切である	1	2	3	4	5	→	
(11) 取得しようとする資格に必要な授業が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(12) 進んで受けたいと思う授業がある	1	2	3	4	5	→	
(13) 講義室・実験室の設備や備品が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(14) 自習スペースやラウンジが整備されている	1	2	3	4	5	→	
(15) インターネットにアクセスする環境が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(16) 図書館に勉学に必要な蔵書や学習環境が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(17) 施設のバリアフリー化が進んでいる	1	2	3	4	5	→	
(18) 外国人留学生との交流、国際交流の機会に恵まれている	1	2	3	4	5	→	
(19) 休・退学、転学部・学科等の相談・支援体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(20) 学生に対する学内情報周知の手段が整備されている	1	2	3	4	5	→	

＜生活支援について＞							
(21) 健康管理・カウンセリング等の体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(22) 地域の暮らしに関する情報が提供されている	1	2	3	4	5	→	
(23) アパートやマンション等に関する情報が提供されている	1	2	3	4	5	→	
(24) 奨学金・授業料免除等の支援体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(25) アルバイト情報の提供体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(26) 食堂・売店（施設・メニュー・品揃えなど）が整備されている	1	2	3	4	5	→	

Q14　つづき

＜進路支援について＞	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	どちらともいえない		是非、改善してほしい
(27) キャリア形成に関する授業や支援が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(28) 就職のための情報提供や相談窓口が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(29) 留学のための情報提供や相談窓口が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(30) 進学のための情報提供や相談窓口が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(31) インターンシップ等の職場体験の機会がある	1	2	3	4	5	→	
(32) 就職等に必要な資格取得のための支援体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(33) 企業(関係者)や卒業生から職場の話を聞く機会がある	1	2	3	4	5	→	

＜教職員との相談体制について＞							
(34) 職員の窓口対応が適切に行われている	1	2	3	4	5	→	
(35) 学業や生活について、教員や相談員に相談する体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(36) オフィスアワー制度を通じて、教員が相談に応じる体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	

＜その他＞							
(37) オピニオンBOX（学生意見箱）やメール等で学生が意見を言う体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(38) 企業や社会など、学外に向けた大学のPRがなされている	1	2	3	4	5	→	
(39) サークル活動・課外活動に対して大学としての支援が行われている	1	2	3	4	5	→	

Q15　総合的な満足度をお答えください。

	満足している	まあ満足	あまり満足していない	満足していない	どちらともいえない
教育	1	2	3	4	5
学習支援体制	1	2	3	4	5
生活支援体制	1	2	3	4	5
進路支援体制	1	2	3	4	5
教職員との相談体制	1	2	3	4	5

■進路について

Q16　進路について、あなたの意見や行動にあてはまるものに○を付けてください。

(1) 将来についてはっきりとした目標を	（持っている　だいたい持っている　あまり持っていない　持っていない）
(2) 自分にどのような能力・適性があるか	（知っている　だいたい知っている　あまり知らない　知らない）
(3) 就職・進学に関する情報の集め方を	（知っている　だいたい知っている　あまり知らない　知らない）
(4) 希望する職業が	（ある　だいたいある　あまりない　ない）
(5) 希望する職業について十分な情報を	（得ている　だいたい得ている　あまり得ていない　得ていない）
(6) 最近の産業動向について情報を	（得ている　だいたい得ている　あまり得ていない　得ていない）

Q17　卒業後の進路について、あなたが希望するものを、次の中から2つまで○を付けてください。

1	企業	4	起業・個人事業	7	その他（　　）
2	教員	5	進学		
3	公務員	6	まだ決まっていない		

Q18　卒業後の進路について、不安に感じていることや悩みはありますか。次の中から、いくつでも○を付けてください。

1	自分の就きたい職業がわからないこと	6	自分に合った就職先が見つかるかどうか
2	親・家族と意見が合わないこと	7	人とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝが得意ではないこと
3	就職活動・進学に関する情報の集め方がわからないこと	8	社会に出ることへの不安
4	就職活動・進学に関する情報が不足していること	9	その他（　　）
5	心得や準備として、何をしてよいかわからないこと	10	特にない

■学業の到達度について（４年生（卒業見込み）のみ回答してください）

Q19　大学入学時と比べ、学生生活を通じて、どれだけ以下の能力が身につきましたか。当てはまる数字に○を付けてください。
また、これらの項目の中で、もっと身につけたかったと思うものに、いくつでも○を付けてください。

	とても身についた	やや身についた	あまり身につかなかった	全く身につかなかった		この項目をもっと身につけたかった
(1) 専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	→	
(2) 幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	→	
(3) 市民としての見識	1	2	3	4	→	
(4) 英語の能力	1	2	3	4	→	
(5) 初修外国語の基礎知識	1	2	3	4	→	
(6) 問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	→	
(7) 文章読解・表現能力	1	2	3	4	→	
(8) プレゼンテーション能力	1	2	3	4	→	
(9) コミュニケーション能力	1	2	3	4	→	
(10) コンピュータ活用能力	1	2	3	4	→	
(11) 国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	→	
(12) リーダーシップ	1	2	3	4	→	
(13) チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	→	

■その他

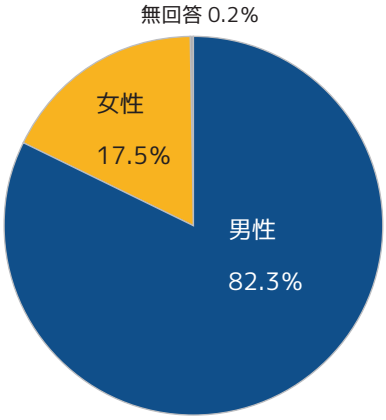
Q20　教育・各種支援等について、ご要望等がありましたら自由に記入してください。

これで終了です。ご協力ありがとうございました。

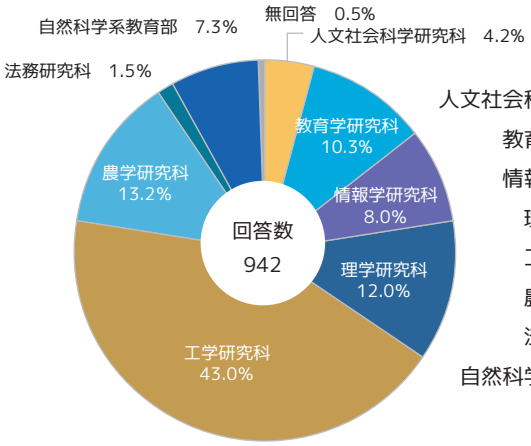
回答者の属性

アンケート対象者：本学在籍大学院生全員（平成 24 年 10 月時点）
配布数：1,536 件　回答数：942 件
回収率：61.3%（研究科別内訳は下記「研究科別回収率」参照）

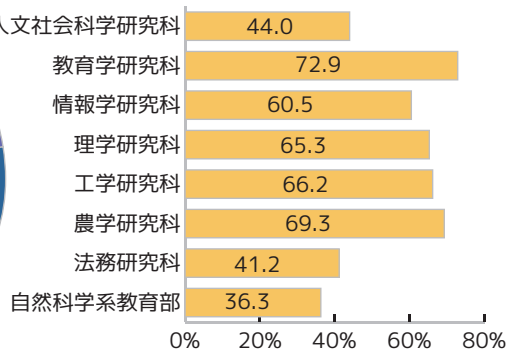
回答者の性別



所属研究科

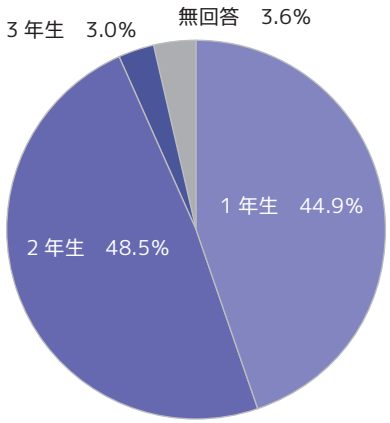


研究科別回収率（%）

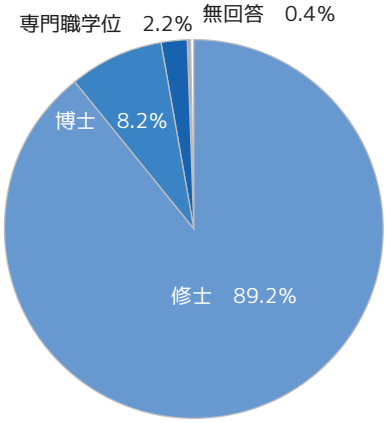


※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

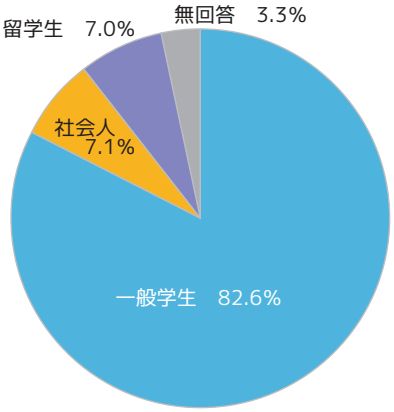
学　年



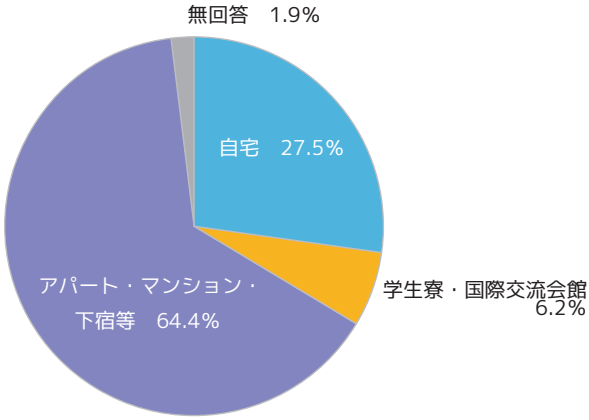
課　程



学生区分



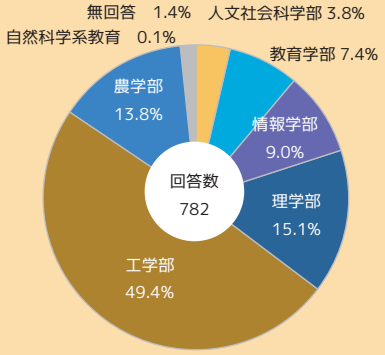
居住形態

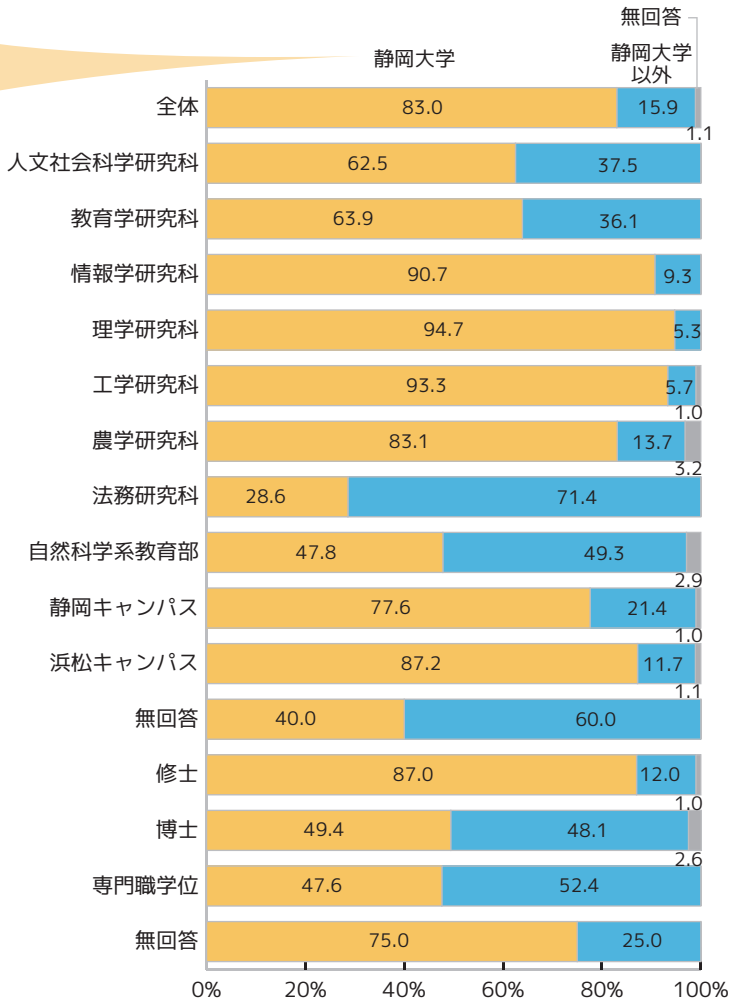


回答者の属性

出身大学

「静岡大学」回答者の出身学部（内訳）



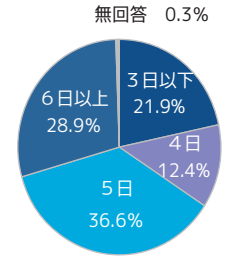


1週間の平均通学日数

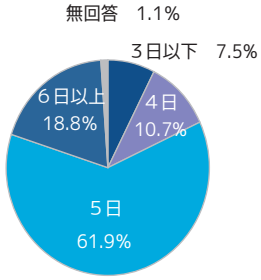
全体では「5日」以上の回答割合が 74.3%を占め、うち「5日」が 51.3%と高い。

解　説

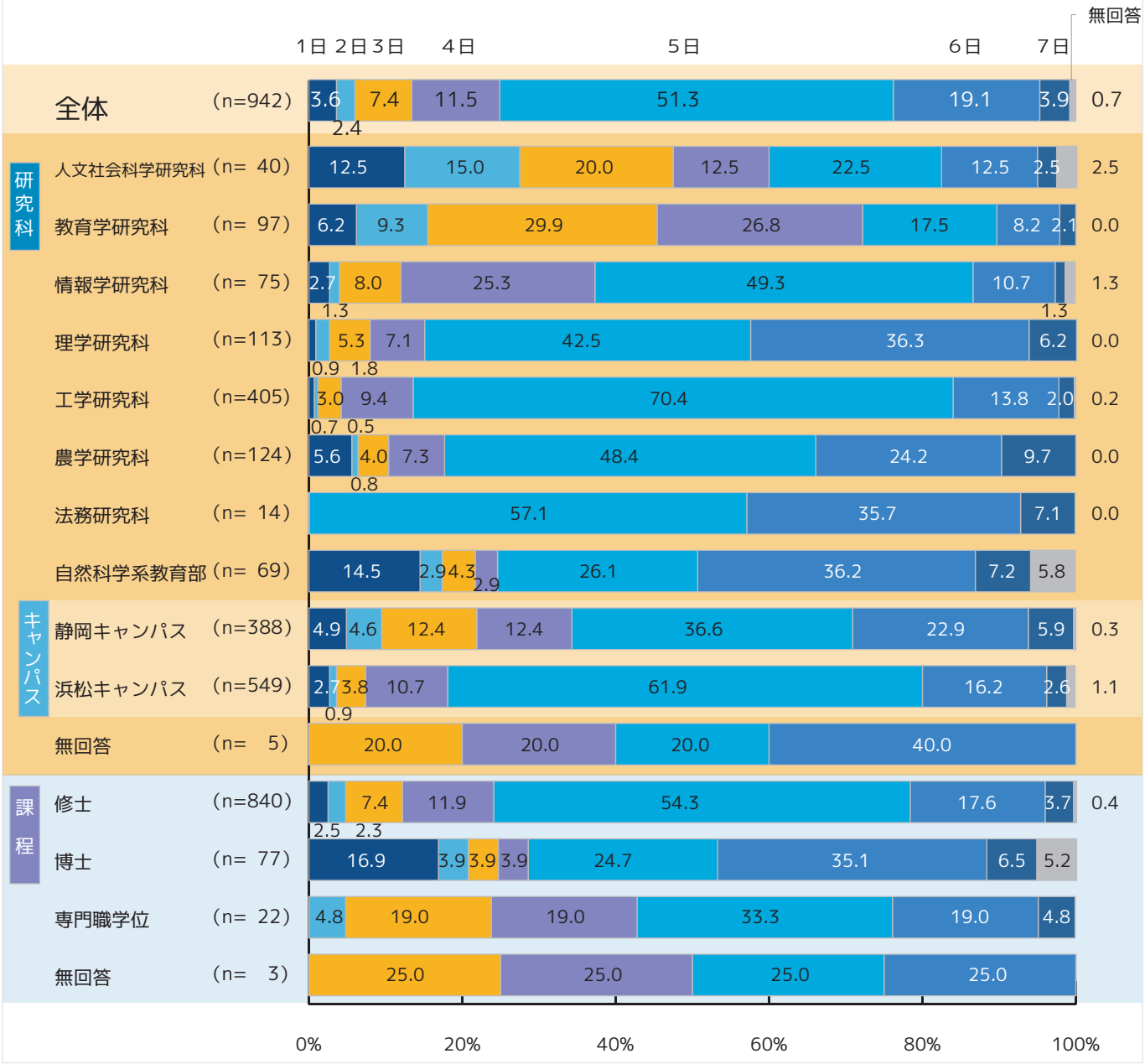
- 研究科別では、「5日」以上の割合が、「法務研究科」(100.0%)、「工学研究科」(86.2%)、「理学研究科」(85.0%)、「農学研究科」(82.3%)で高い。
- キャンパス別では、「5日」以上の割合は「浜松キャンパス」の方が 15.3 ポイント高い。



静岡キャンパス



浜松キャンパス

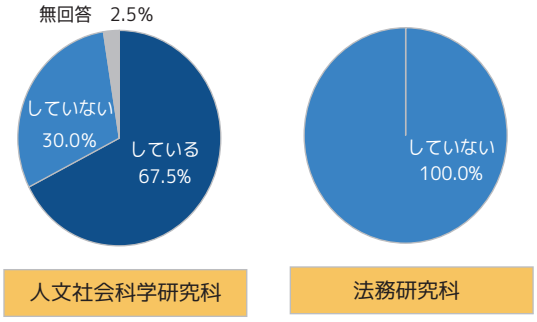


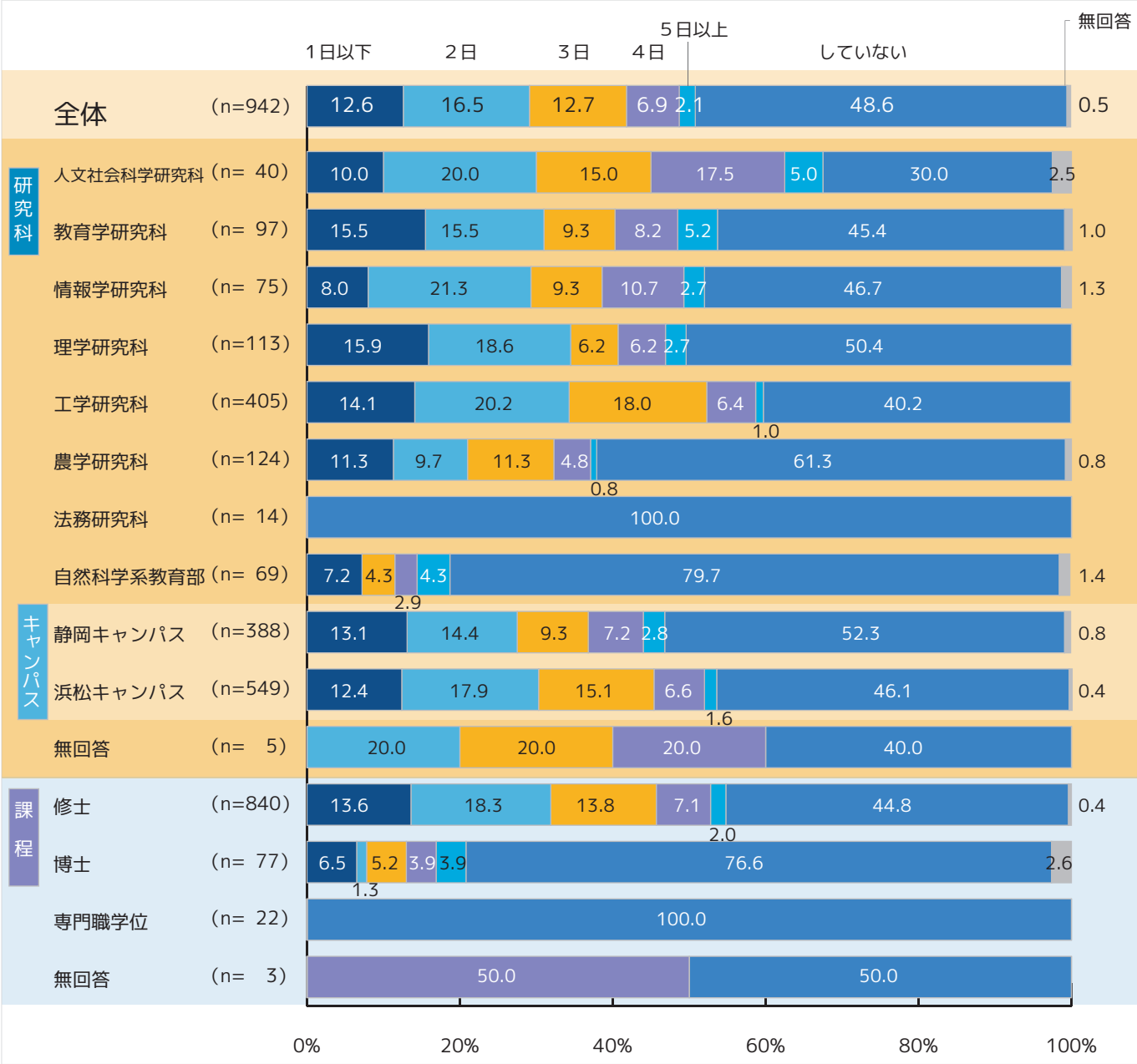
アルバイトの１週間の平均日数

全体では、「していない」（48.6%）の割合が最も高い。
学部生アンケート結果に比べ「していない」の割合は 21.1 ポイント高い。

解　説

- 研究科別では、アルバイトをしている割合は「人文社会科学研究科」（67.5%）で高い。
- アルバイトを「していない」割合は、「法務研究科」(100.0%)、「自然科学系教育部」(79.7%)で高い。





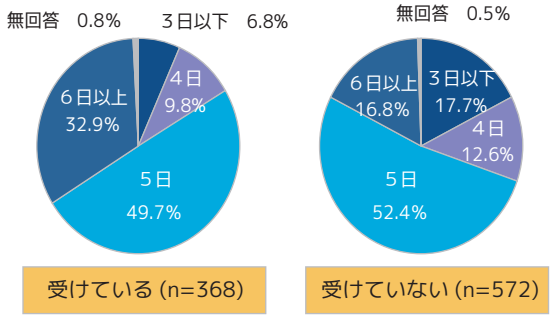
奨学金について

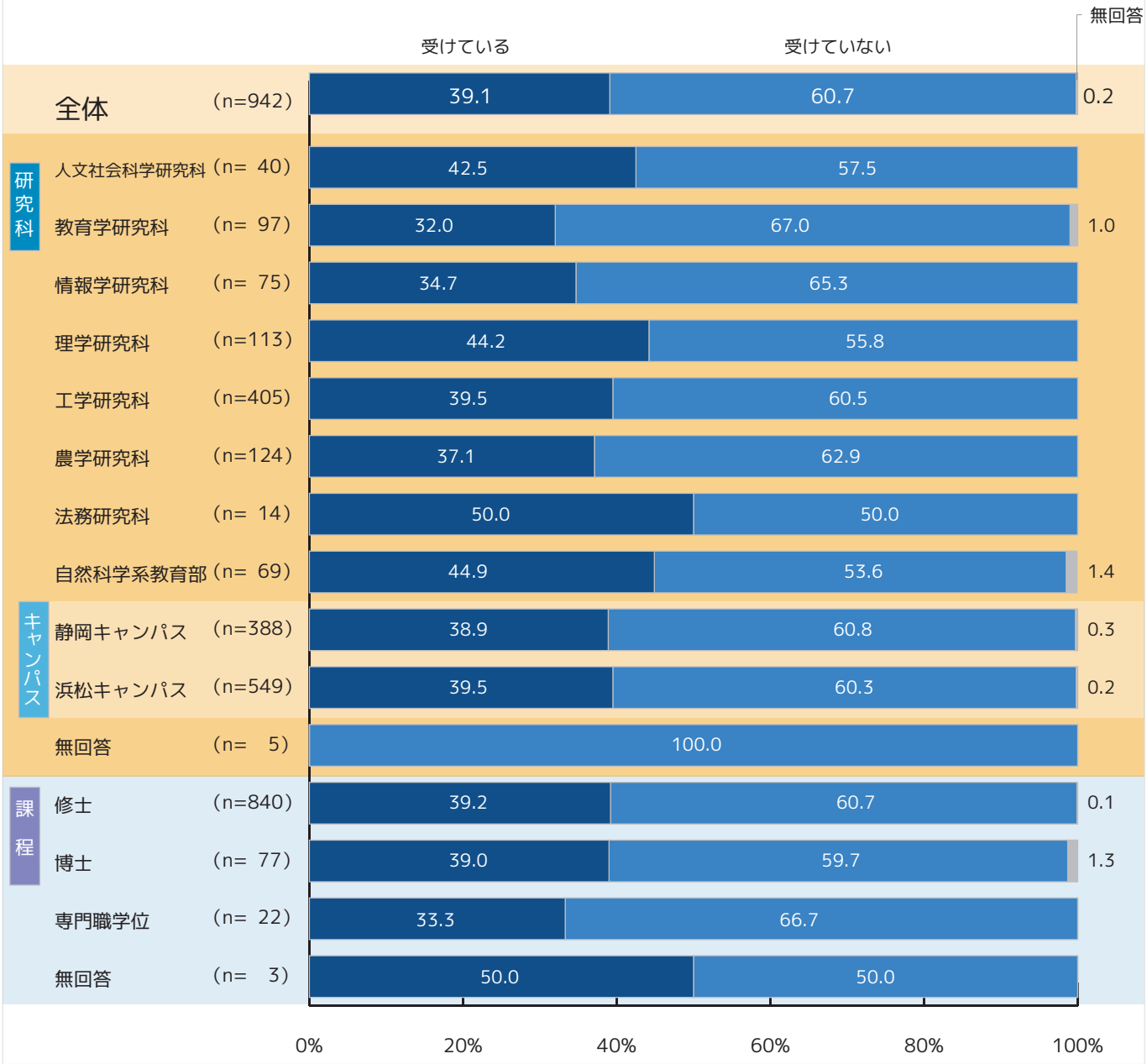
全体において、「受けている」の割合が 39.1%、「受けていない」の割合が 60.7%。

解　説

- 研究科別における「受けている」の割合は、「法務研究科」(50.0%)、「自然科学系教育部」(44.9%)で高い。
- 「週の平均通学日数」とのクロス集計結果から、奨学金を「受けている」学生の方が、通学日数が多い傾向にあることがわかる。

【クロス集計】週の平均通学日数は？





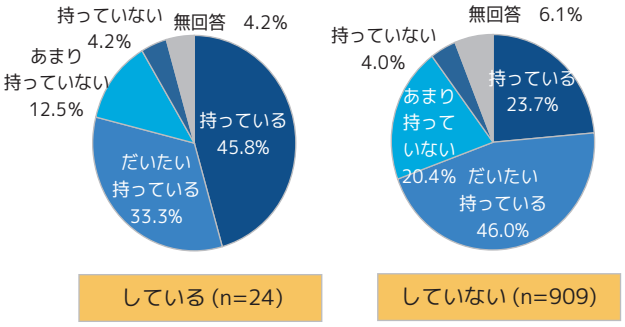
語学学校や資格取得・就職のための教育の利用について

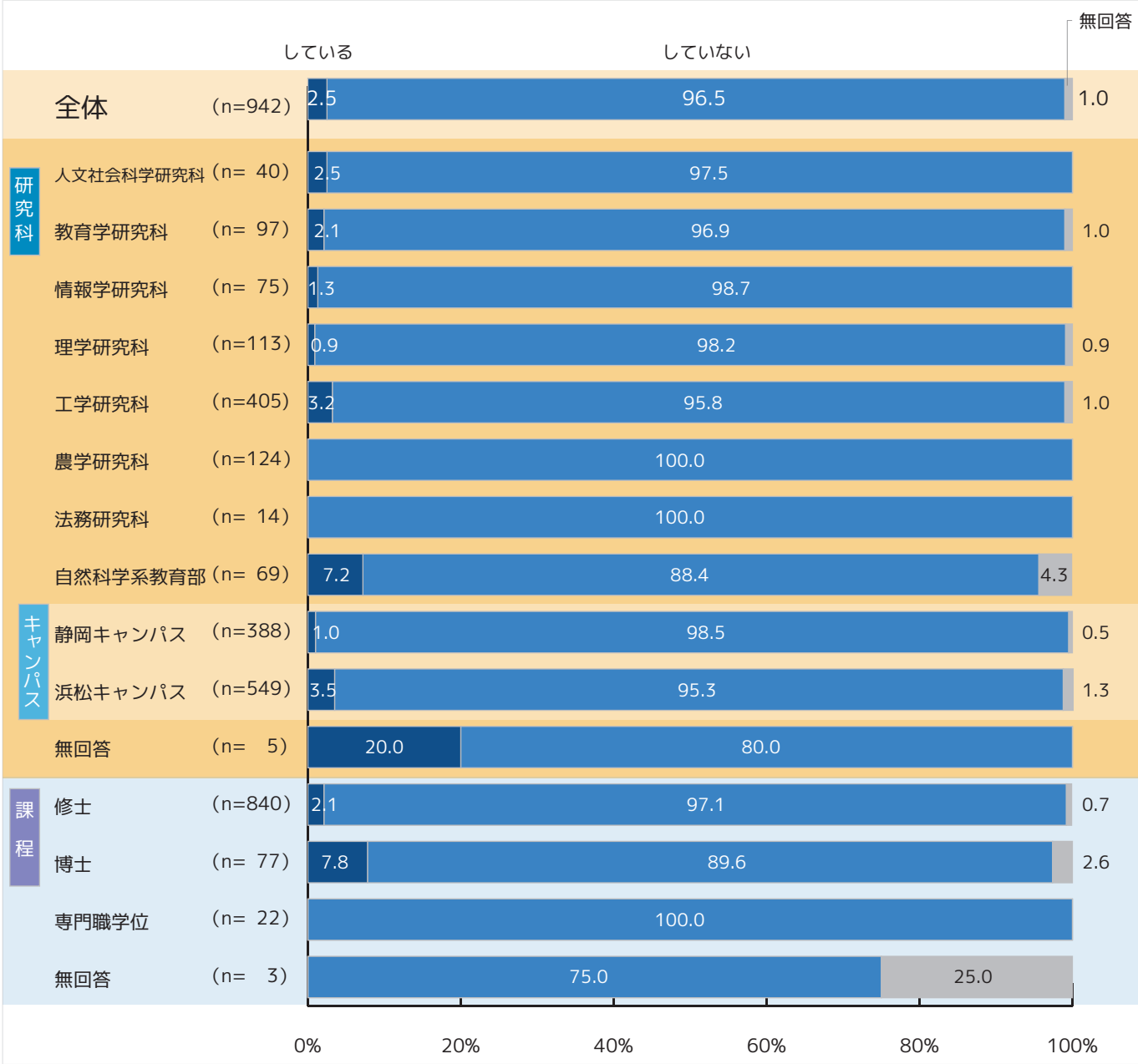
全体において 96.5%が「利用していない」と回答。「利用している」はわずか 2.5%。

解　説

「将来のはっきりした目標の有無」とのクロス集計結果をみると、「利用している」と回答した学生の方が、将来の目標を持っている傾向にあることがわかる。

【クロス集計】将来のはっきりした目標は？



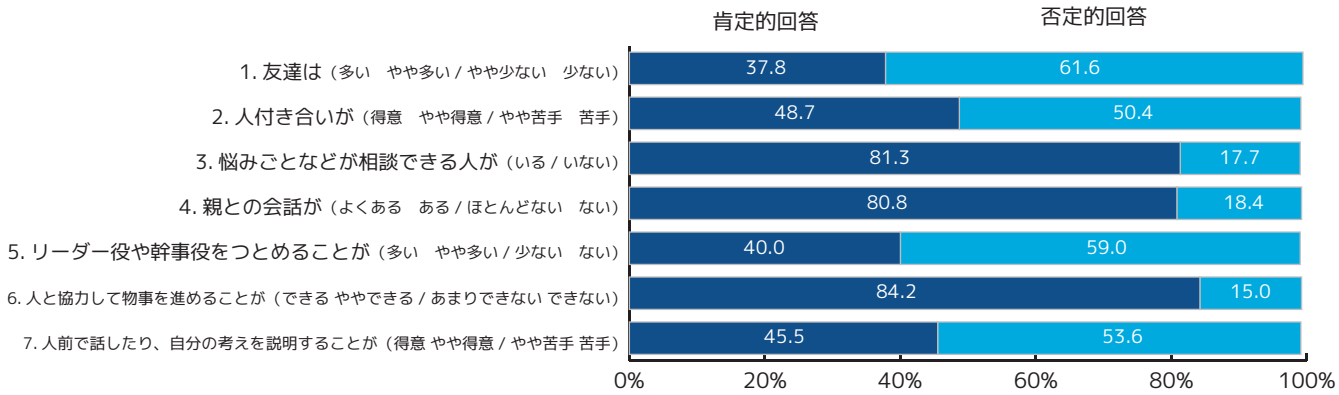


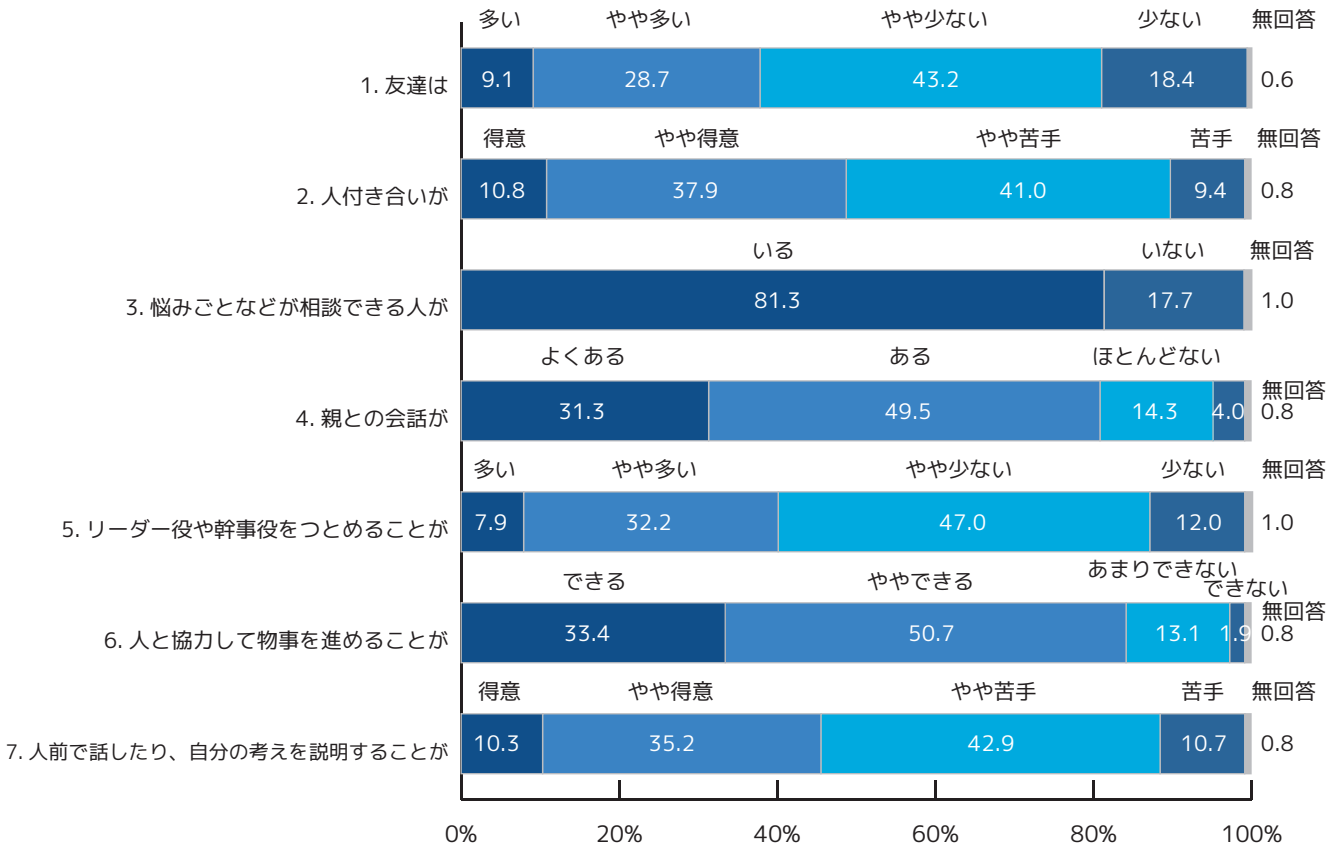
学生の意識や行動

「悩みごとなどを相談できる人がいる」、「親との会話がある」、「人と協力して物事を進めることができる」において、肯定的回答が８割以上。

解　説

- 否定的回答割合は、「友達は多い」(61.6%)、「リーダー役や幹事役をつとめることが多い」(59.0%)、「人前で話したり、自分の考えを説明することが得意」（53.6%）で高い。





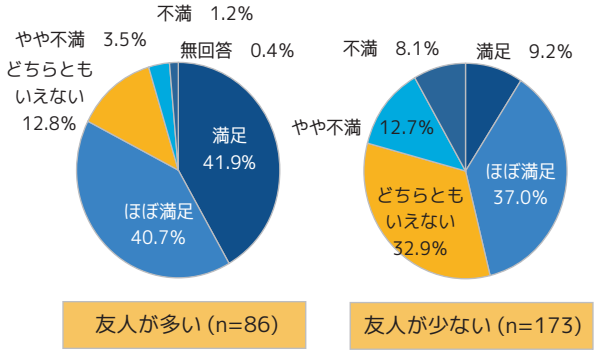
現在の学生生活の満足度

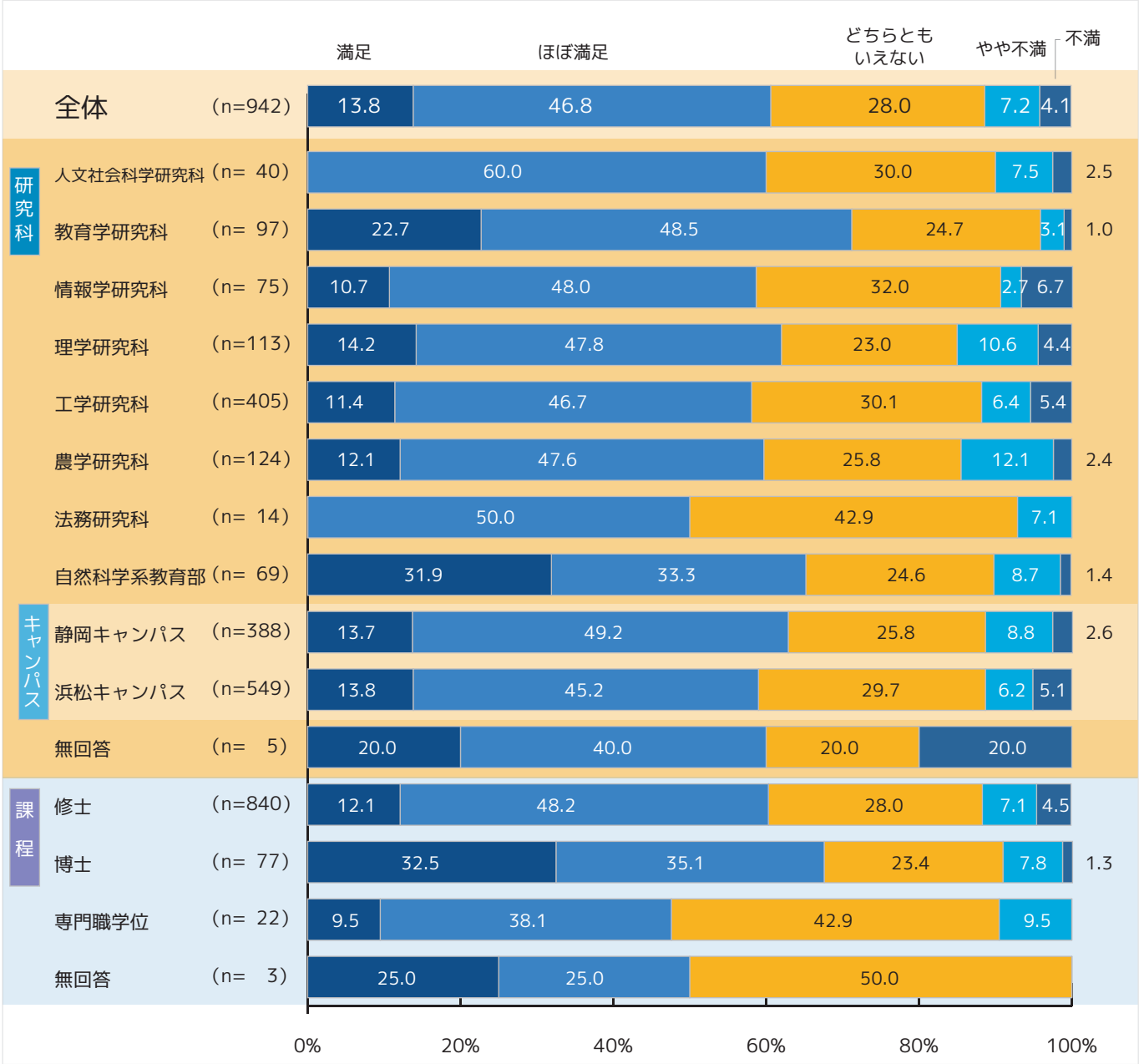
全体における「満足」「ほぼ満足」の合計は 60.6%と過半数を超える。

解　説

- 研究科別における、「満足」「ほぼ満足」の合計は、「教育学研究科」(71.2%)が最も高く、「法務研究科」(50.0%)が最も低い。
- 「友人数」とのクロス集計結果から、友人が「多い」学生ほど、学生生活の満足度が高い傾向がうかがえる。

【クロス集計】友人数は？

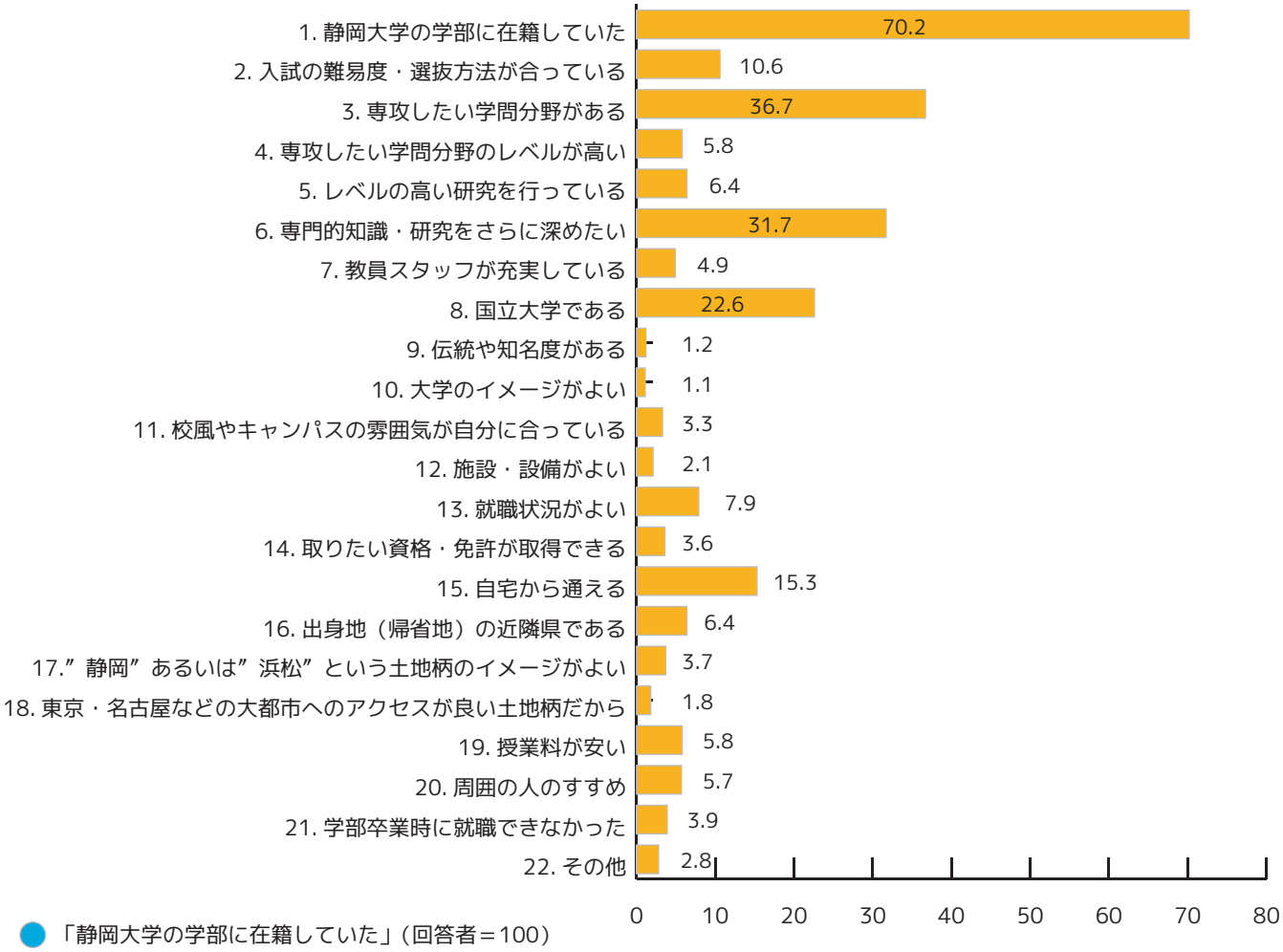




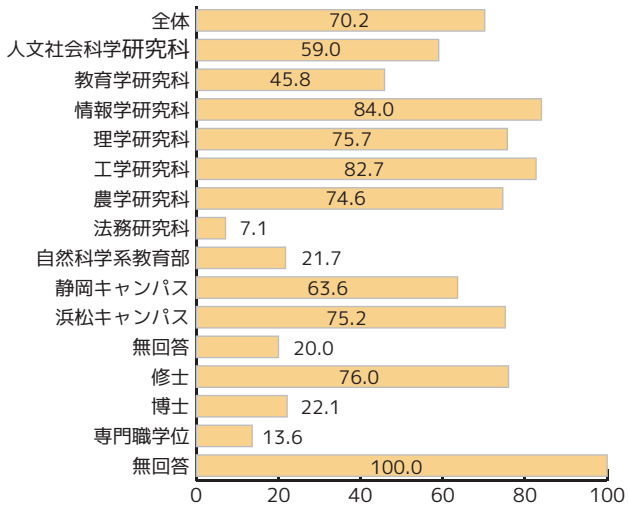
静岡大学大学院を志望した理由（複数回答可）

「静岡大学の学部に在籍していた」が最も高く、「専攻したい学問分野がある」、「専門的知識・研究をさらに深めたい」が続く。

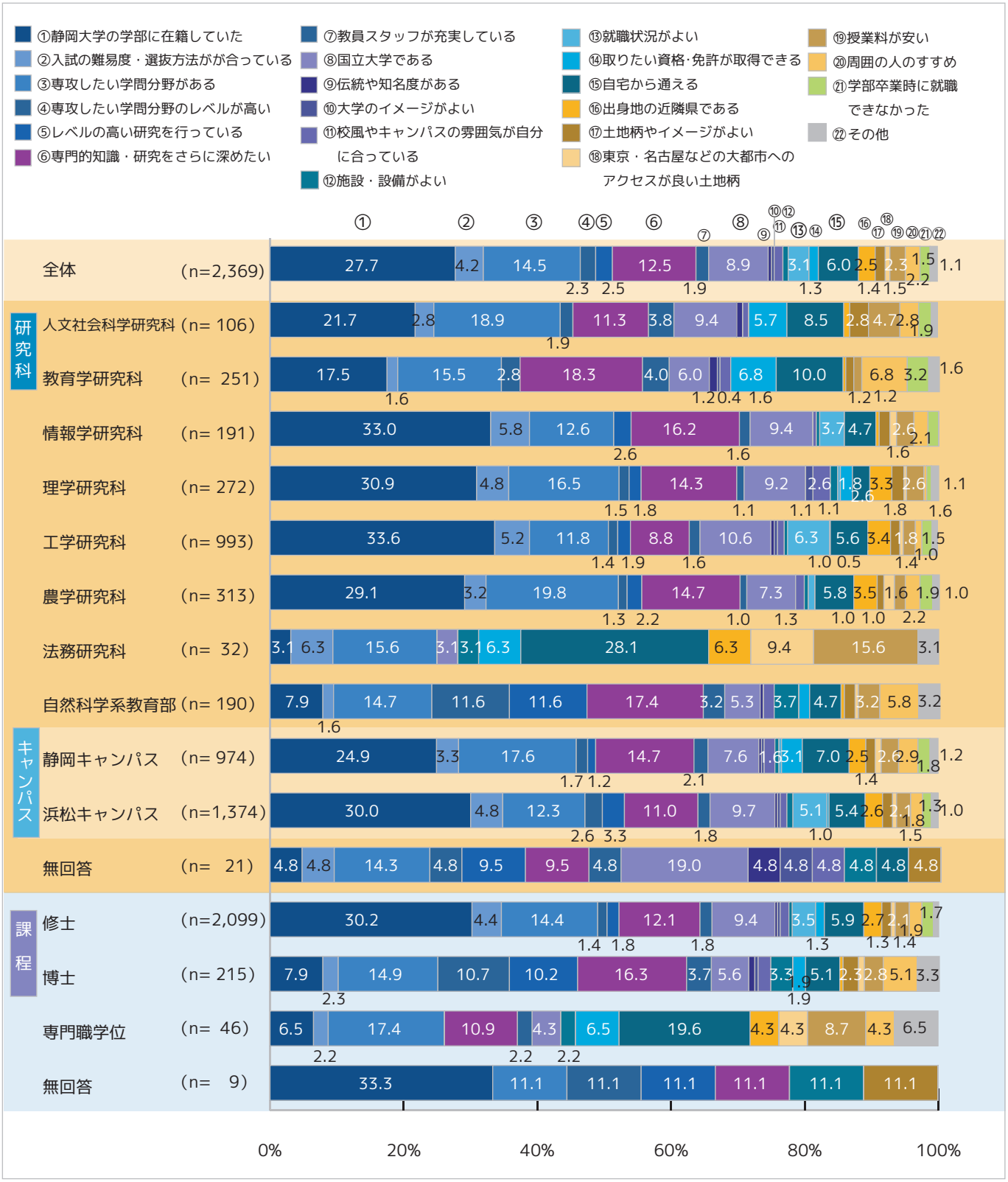
静岡大学大学院を志望した理由（回答者（935 人）=100）



「静岡大学の学部に在籍していた」（回答者＝100）



静岡大学大学院を志望した理由（複数回答可）



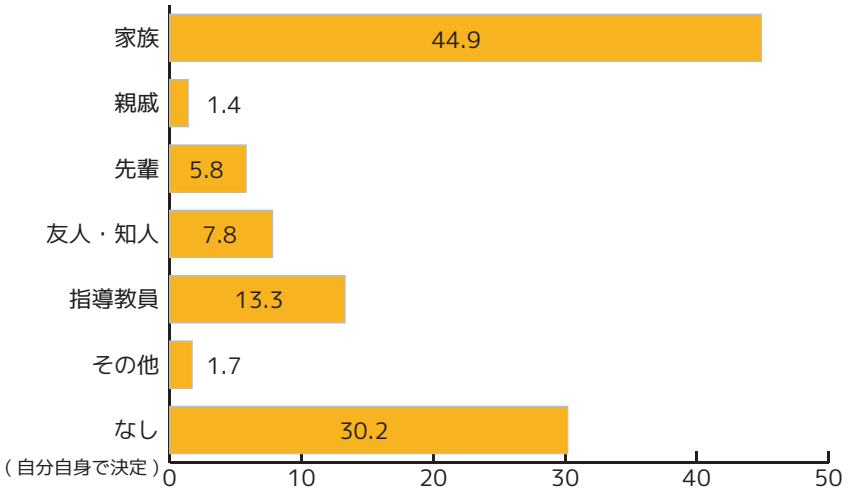
進学先を検討するうえで最も相談した人

全体では「家族」に相談した学生が最も多く、次いで「なし（自分自身で決定）」が多い。

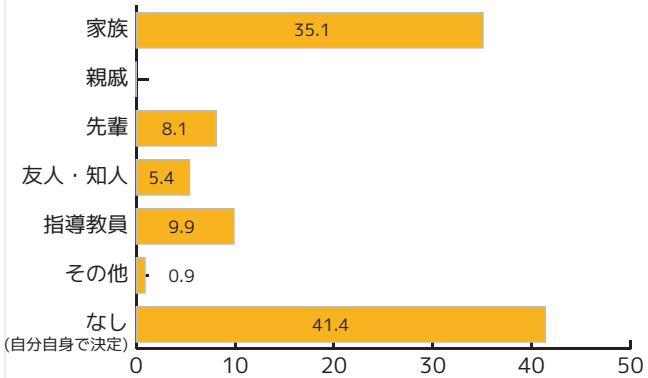
解　説

- 「親戚」、「先輩」に相談した学生は少ない。
- 「理学研究科」の学生は「なし（自分自身で決定）」の学生が比較的多く、「人文社会科学研究科」の学生は「指導教員」に相談した学生が比較的多い。

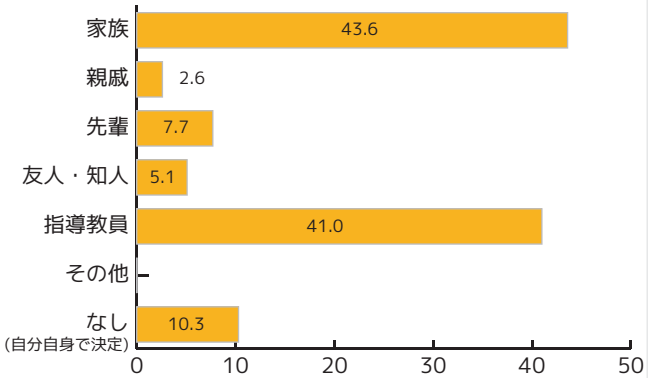
● 全体（回答者 934 人）=100



● 理学研究科（回答者 111 人）=100



● 人文社会科学研究科（回答者 39 人）=100

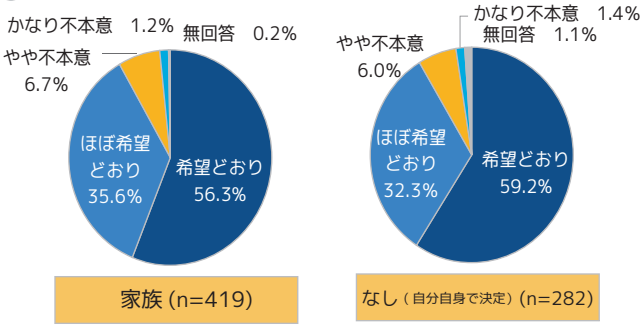


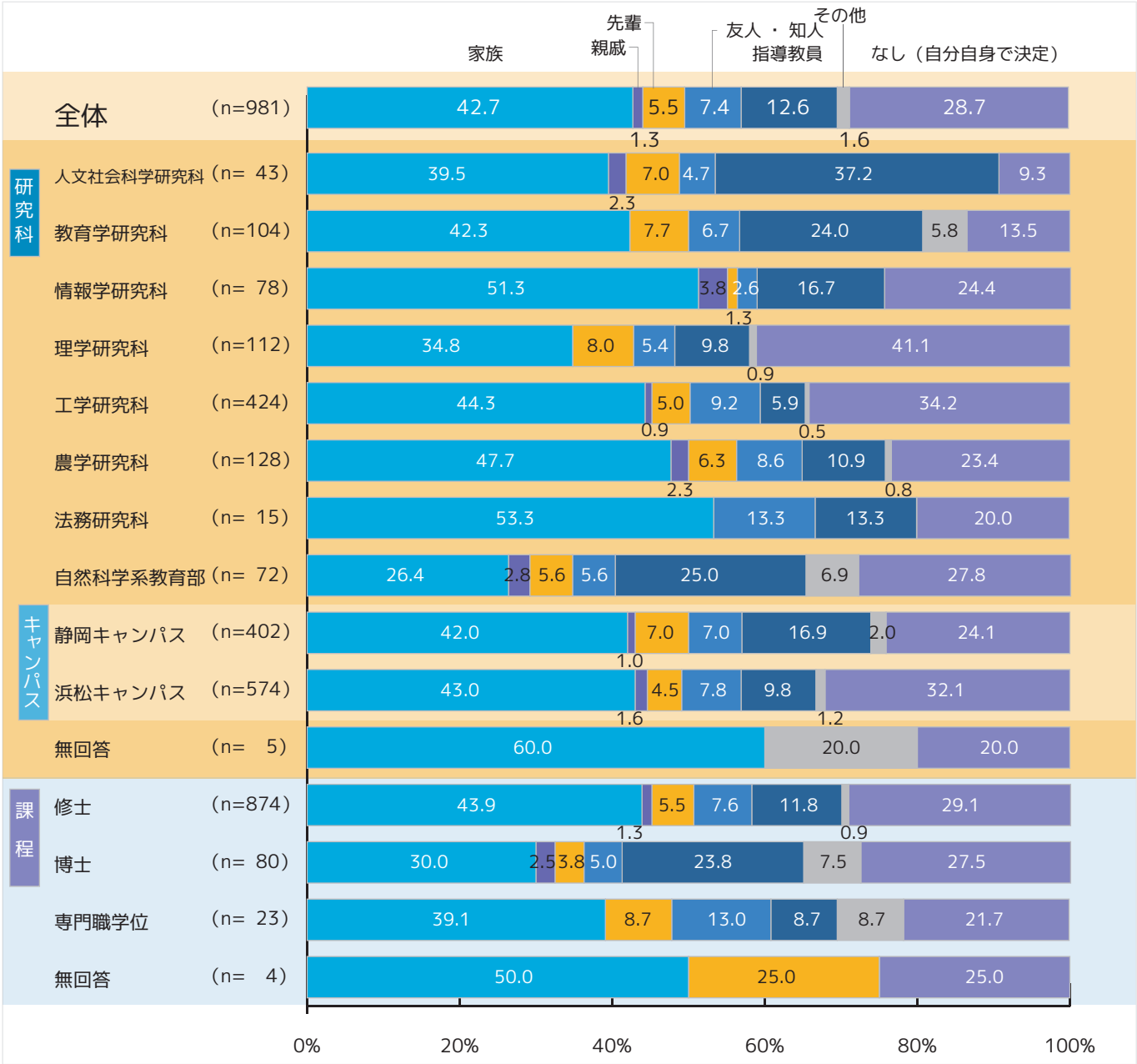
進学先を検討するうえで最も相談した人

解　説

「本学大学院への入学は希望どおりか」とのクロス集計結果をみると、「家族」に相談した学生と「なし（自分自身で決定）」した学生の間で、大きな相違はみられない。

【クロス集計】本学大学院への入学は希望どおり？





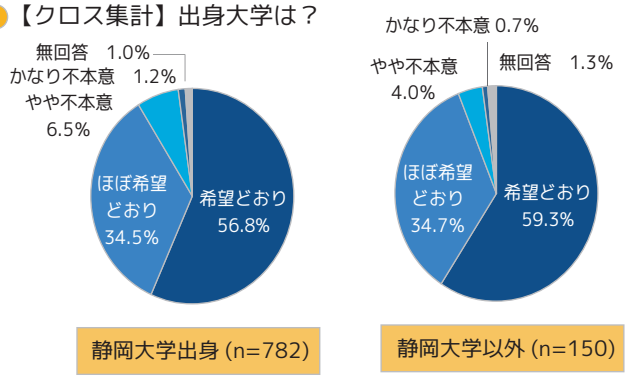
静岡大学大学院への入学・進学の希望度合い

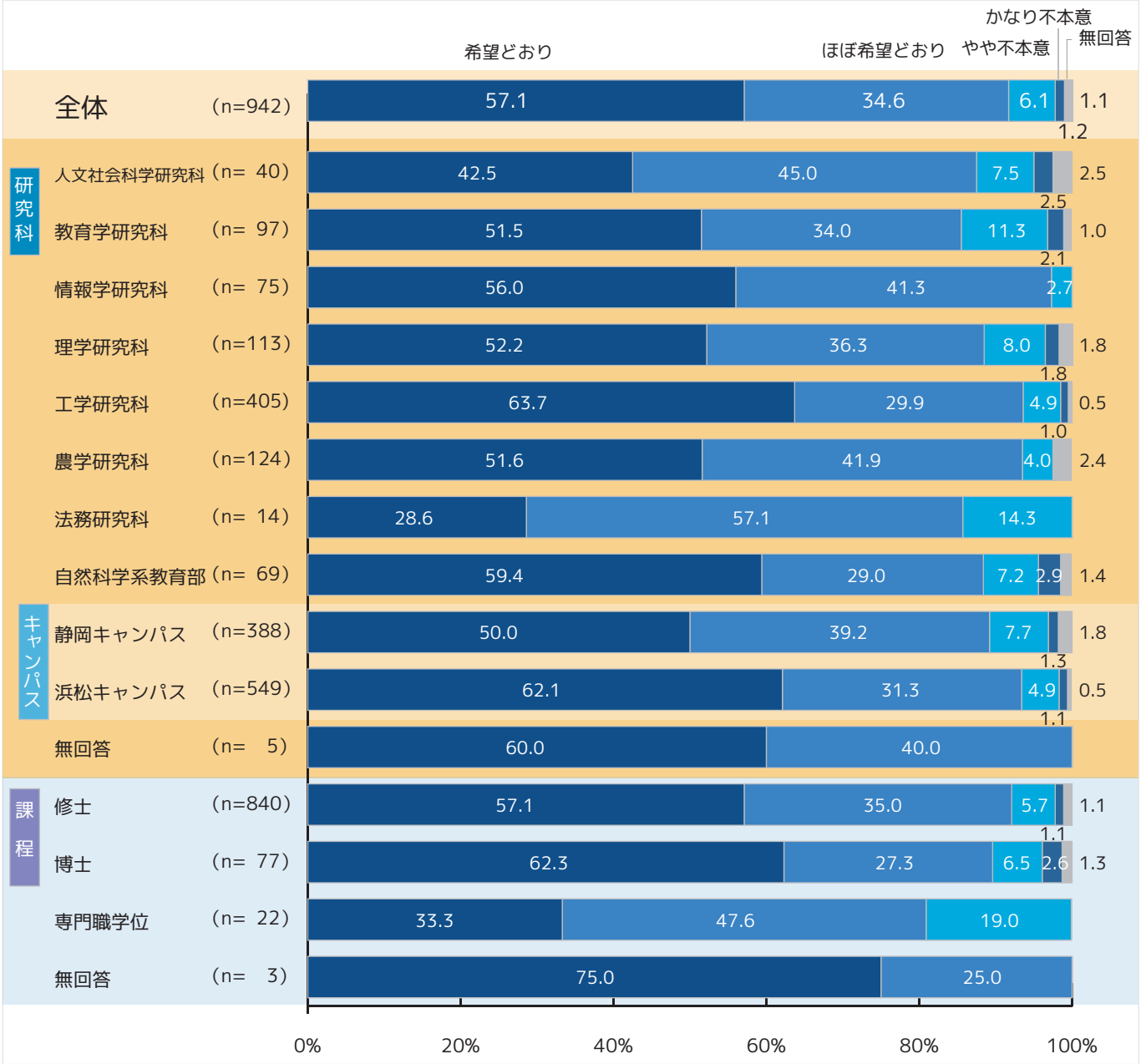
全体では「希望どおり」「ほぼ希望どおり」の合計が 91.7%と高い。

解　説

- 研究科別では、工学研究科で「希望どおり」の割合が 63.7%と最も高い。
- 「出身大学」とのクロス集計結果をみると、本学出身者とそれ以外の学生で、希望度合いに大差はみられない。

【クロス集計】出身大学は？





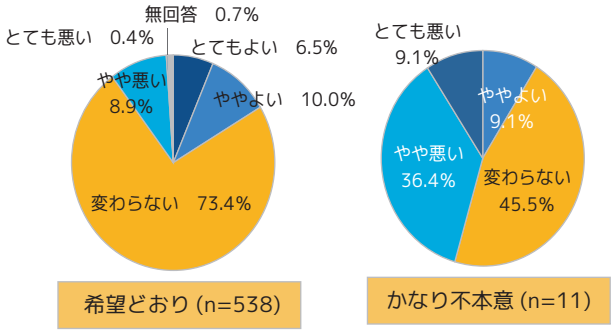
入学前に感じていた静岡大学大学院に対するイメージと比較した実態

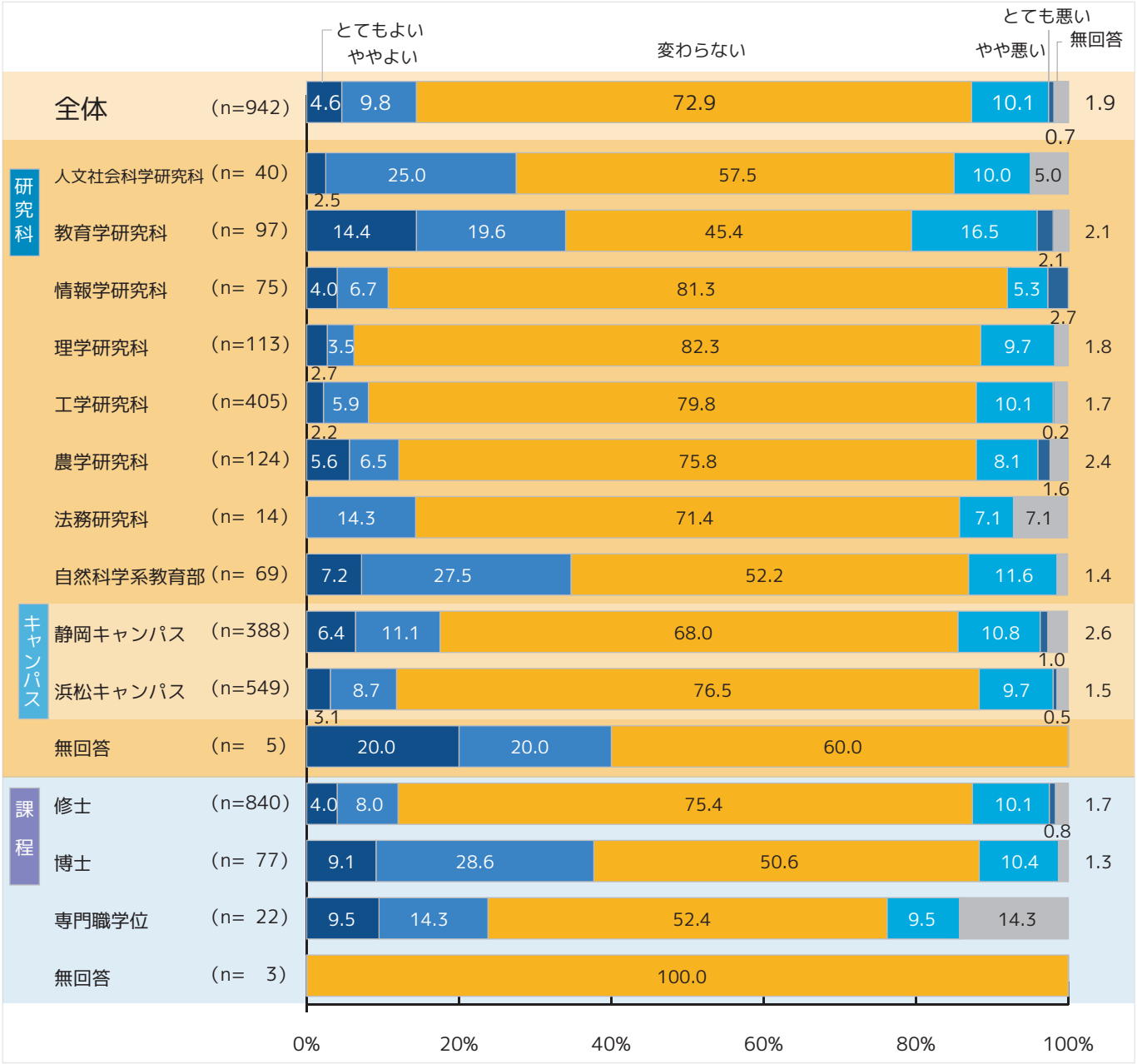
全体では、「変わらない」が 72.9%と最も高い。
「とてもよい」は 4.6%と低いものの、「とても悪い」も 0.7%にとどまる。

解　説

- 研究科別における「とてもよい」「ややよい」の合計は、「自然科学系教育部」（34.7%）、「教育学研究科」（34.0%）で高い。
- 「本学大学院への入学の希望度合い」とのクロス集計結果をみると、「希望どおり」に入学した学生の 73.4%が「変わらない」と回答。

【クロス集計】本学大学院への入学は希望どおり？



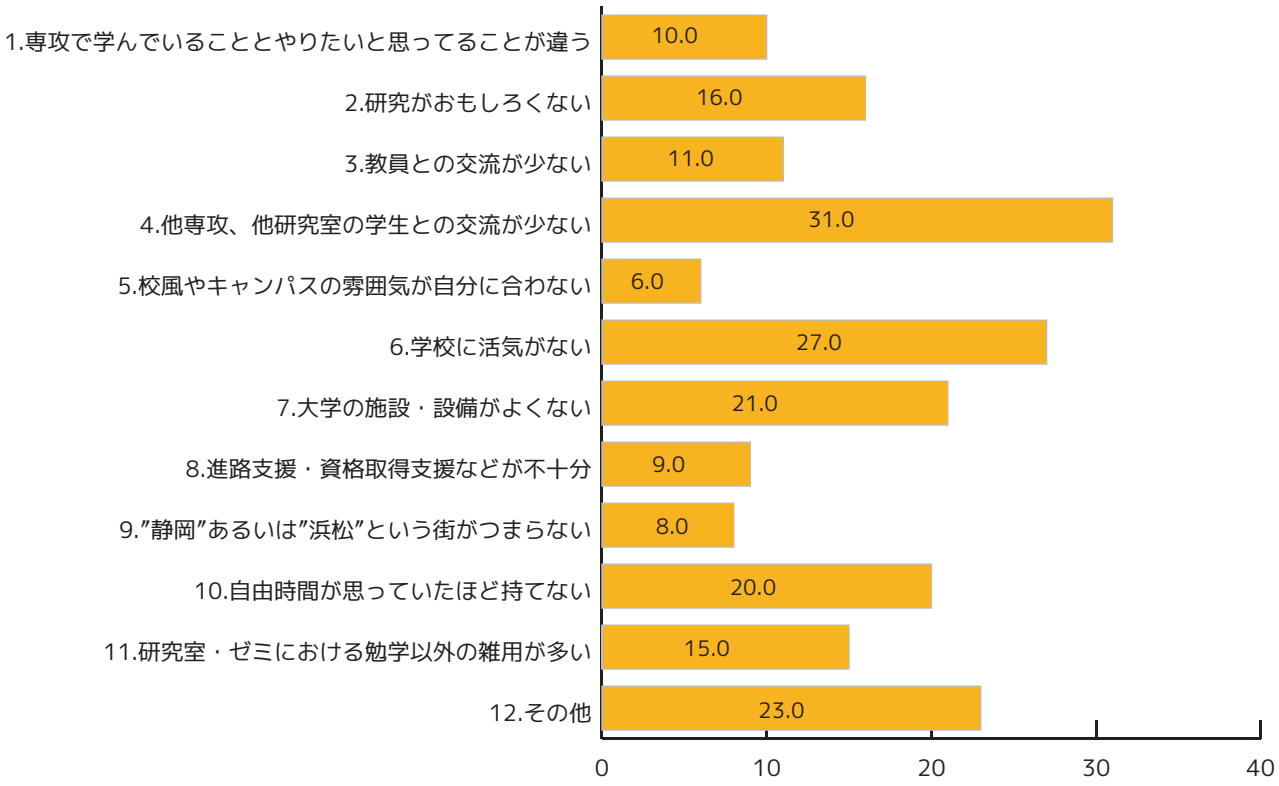


入学前のイメージと比べよくなかった理由（複数回答可）

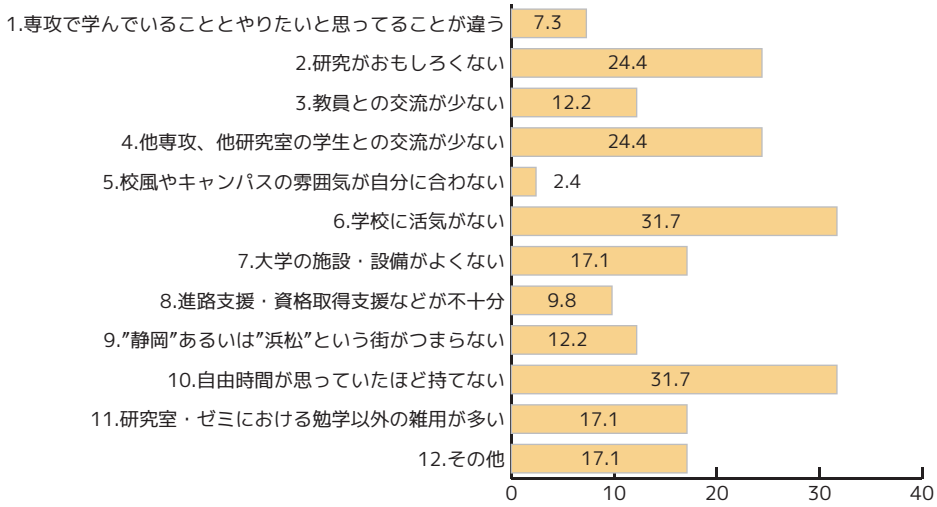
「他専攻、他研究室の学生との交流が少ない」が最も高く、「学校に活気がない」が続く。

入学前のイメージと比べよくなかった理由（回答者（100 人）=100）

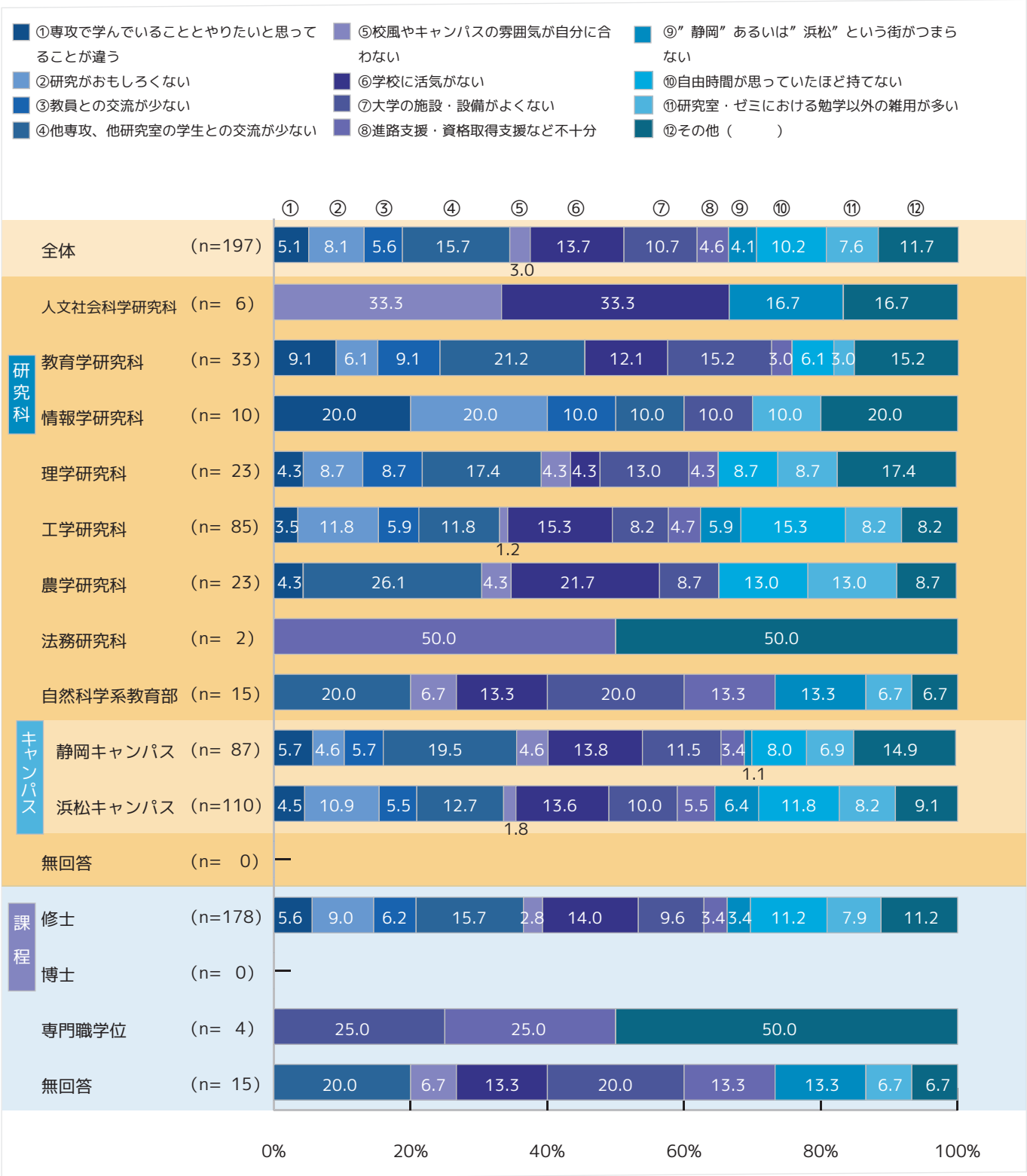
「入学前に感じていた静岡大学大学院に対するイメージと比較した実態」で「やや悪い」「とても悪い」と回答した102人中100人が回答



工学研究科生（回答者（41 人）=100）



入学前のイメージと比べよくなかった理由（複数回答可）



入学前のイメージと比べよくなかった理由（複数回答可）

「その他」回答者の内訳

入学前のイメージに比べよくなかった理由（その他）

- 学外校医、カウンセラーの対応。（保健室職員の方はとても丁寧です。）[人文社会科学研究科、1 年生]
- 教授の授業形態や内容が雑で手抜き感が否めない。[教育学研究科、1 年生]
- 授業に興味が持てない。（面白くない）[教育学研究科、1 年生]
- 院生の意識が低い。[教育学研究科、2 年生]
- 駅から遠い。[教育学研究科、2 年生]
- 必修科目の一部に必要性の無い、または必要性がよくわからないものがある。[教育学研究科、2 年生]
- 授業の質が悪い。[情報学研究科、1 年生]
- 授業内容がつまらない。[情報学研究科、1 年生]
- 研究費が少なすぎる。[理学研究科、1 年生]
- 学部生の学習意欲の低下。[理学研究科、2 年生]
- 研究室が合わなかった。[理学研究科、2 年生]
- 奨学金がもらいにくい。[理学研究科、2 年生]
- 授業内容 [工学研究科、1 年生]
- イメージがそんなに良くなかった。研究室の仲間が楽しい。[工学研究科、2 年生]
- やる気のない研究室が多い。自分の研究室には非常に満足。[工学研究科、2 年生]
- 華がない。[工学研究科、2 年生]
- 学部生に対する教育にまじめさが足りない。（先生が）[工学研究科、2 年生]
- 思った以上にストレス、研究が大変。[工学研究科、2 年生]
- 就職が良くならない。[工学研究科、2 年生]
- 食堂がひどい。[工学研究科、2 年生]
- 詰め込み式の授業内容に終始している。[法務研究科、3 年生]

入学前のイメージに比べよかった理由

教育研究について

- 学生のニーズに合わせて先生方が指導してくださるため。[人文社会科学研究科、1 年生]
- 学部の時よりも研究に対しての環境が整っており、自分の研究したい分野の資料も、質・量共に豊富で満足している。[人文社会科学研究科、1 年生]
- 講義の内容が興味深いものが多い。多くの知識を得ることができる。[人文社会科学研究科、1 年生]
- 教授とフランクに話ができ、担当以外でも対応してくれる。[人文社会科学研究科、2 年生]
- 社会人学生に配慮した講義を設定してくれているため、仕事に負担をかけずに通うことができた。[人文社会科学研究科、2 年生]
- 学部の頃より教授との距離が縮まり、相談しやすくなった。[教育学研究科、1 年生]
- 教員になるために必要な知識・技能が思っていたより身についたところ。専門分野の研究ができるところ。学部の授業が受講できるため、取り逃した免許も取れるところ。[教育学研究科、1 年生]
- 分野のレベルや授業内容のレベルが非常に高い。[教育学研究科、1 年生]
- 教育について理論だけでなく、実践に則した理論を学ぶことができる。[教育学研究科、2 年生]
- 教育学部では「研究」ということについてあまり学ばなかったので、苦労することもありますが、大学院の授業は大変身になるものが多かったです。学部の時とは違った視点を持てたり、討論などをするうちに話し合うことに苦手意識が減りました。[教育学研究科、2 年生]
- 学会等で自分の研究について知ってもらうことが学部より増えて楽しい。[情報学研究科、1 年生]
- 研究が想像以上にできる。[情報学研究科、2 年生]
- 講義の内容がより面白く感じる。TA や社会人との交流など様々な経験ができている。[情報学研究科、2 年生]
- イメージしていた以上に自分の勉強したいこと、学びたいことを自由に学習できるところがよかった。[理学研究科、2 年生]
- 望めばより多くの研究を行わせていただけること。[理学研究科、学年無回答]
- 世界最先端の研究を行っているから。[工学研究科、1 年生]
- 研究室ごとでだいぶ違うと思いますが、私が多数の論文を書き(英語含む)、多くの学会や交流会にも参加させていただき、大変でしたがとても良い経験をさせていただきました！[工学研究科、1 年生]
- 研究室の先生はすごく優しいし、先輩もなんでも相談でき、生活と勉強も協力してもらっています。[工学研究科、2 年生]
- 院生を育てるのに優秀な先生が多い [工学研究科、学年無回答]
- 学部生の頃よりも、自分で考えて行動することが多くなり、充実している。[農学研究科、1 年生]
- 学部時代に比べ、授業も少人数で先生との距離も近く、指導もして頂けるため。[農学研究科、2 年生]
- 特に研究室内での活動内容のレベルが高い。[農学研究科、2 年生]
- 集中講義を受講し、私と同じような社会人ドクターコースの方が何人かいることが分かり安心した。講義も少人数で密度の濃い内容だった。[自然科学系教育部、1 年生]
- 論文等の文献が入手し易い。学生との交流が増えた。[自然科学系教育部、1 年生]
- 研究に対し、十分な資金面援助とサポートがある。[自然科学系教育部、3 年生]

施設 ・ 設備について

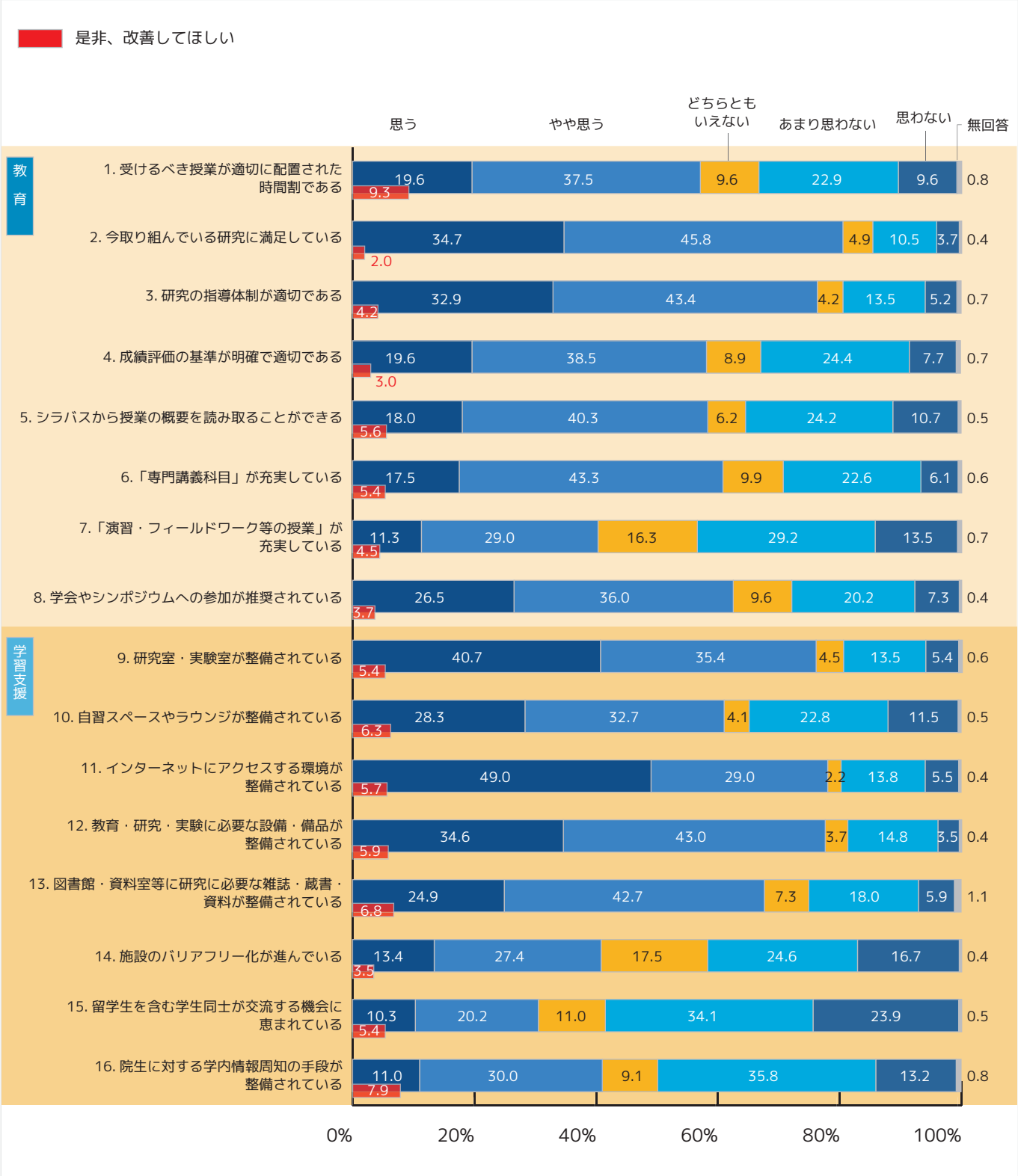
- 研究を行うための備品が整備されている。[人文社会科学研究科、2 年生]
- 学習環境が整っている。[教育学研究科、1 年生]
- 設備が予想よりも充実していた。[工学研究科、2 年生]
- 勉学のために私が必要とする施設・設備は十分にキャンパスに揃っており、サンプル等の分析も速やかに行うことができる。海外で行われるものを含め、国際会議に行く機会が多くある。静岡大学で学ぶ留学生がたくさんいるので、友達を見つけるのも容易である。[自然科学系教育部、2 年生]

その他

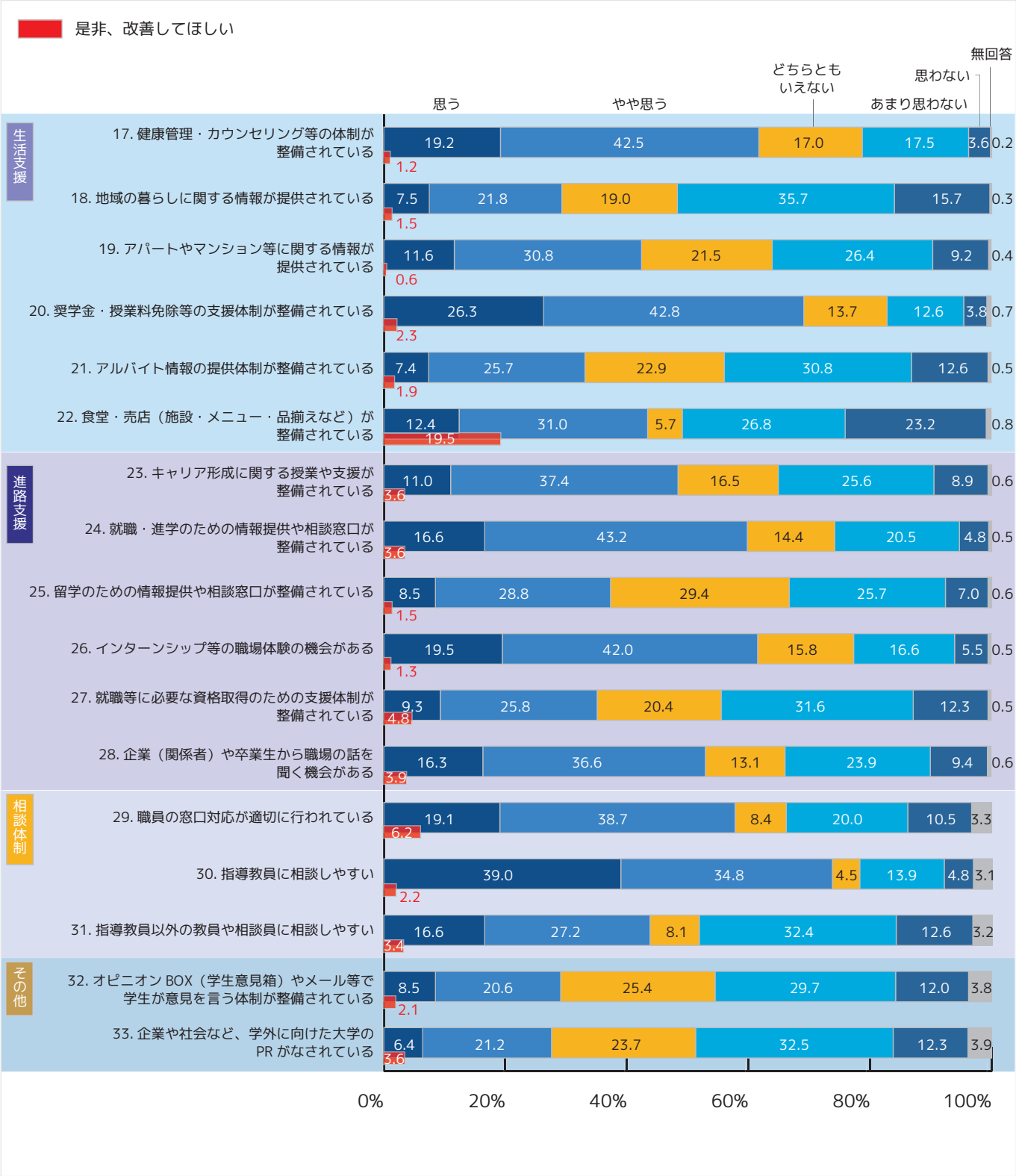
- 丁度よく自主性に任せている点。[人文社会科学研究科、2 年生]
- 同じような立場の仲間に囲まれ刺激を受けている。時間があるため今までできない、できなかったことが少しできている。[教育学研究科、1 年生]
- 他の大学から来たので不安はありました。しかし、同級生や先輩や先生方がとても良い人たちであるため、学校生活に慣れてきました。[教育学研究科、2 年生]
- 研究室の先輩たちがとても親しい。先生はいつもいろいろなことを教えてくれた。[情報学研究科、1 年生]
- 自分のプレゼン能力が上手くなったり、人とのつながりも多くなり、多くの人々に必要とされる。[工学研究科、2 年生]
- 就職先に良い企業が多い。[工学研究科、2 年生]
- 環境や人の意識がゆったりしているので、自分のペースで物事を進められる。[農学研究科、2 年生]
- 真面目な学生が多い。大学全体の雰囲気が落ち着いており、学問に集中し易い。[法務研究科、2 年生]
- 日本の生活と大学における学生生活に慣れるのが、思ったより容易であった。[自然科学系教育部、1 年生]
- 落ち着いた雰囲気がよかった。[自然科学系教育部、2 年生]

教育・各種支援について

「是非、改善してほしい」の割合は、「食堂・売店が整備されている」(19.5%)「受けるべき授業が適切に配置された時間割である」(9.3%)、で高い。



教育・各種支援について


是非、改善してほしい
思う
やや思う
どちらともいえない
あまり思わない
思わない
無回答
生活支援
17. 健康管理・カウンセリング等の体制が整備されている 19.2 42.5 17.0 17.5 3.6 0.2 1.2
18. 地域の暮らしに関する情報が提供されている 7.5 21.8 19.0 35.7 15.7 0.3 1.5
19. アパートやマンション等に関する情報が提供されている 11.6 30.8 21.5 26.4 9.2 0.4 0.6
20. 奨学金・授業料免除等の支援体制が整備されている 26.3 42.8 13.7 12.6 3.8 0.7 2.3
21. アルバイト情報の提供体制が整備されている 7.4 25.7 22.9 30.8 12.6 0.5 1.9
22. 食堂・売店（施設・メニュー・品揃えなど）が整備されている 12.4 31.0 5.7 26.8 23.2 0.8 19.5
進路支援
23. キャリア形成に関する授業や支援が整備されている 11.0 37.4 16.5 25.6 8.9 0.6 3.6
24. 就職・進学のための情報提供や相談窓口が整備されている 16.6 43.2 14.4 20.5 4.8 0.5 3.6
25. 留学のための情報提供や相談窓口が整備されている 8.5 28.8 29.4 25.7 7.0 0.6 1.5
26. インターンシップ等の職場体験の機会がある 19.5 42.0 15.8 16.6 5.5 0.5 1.3
27. 就職等に必要な資格取得のための支援体制が整備されている 9.3 25.8 20.4 31.6 12.3 0.5 4.8
28. 企業（関係者）や卒業生から職場の話を聞く機会がある 16.3 36.6 13.1 23.9 9.4 0.6 3.9
相談体制
29. 職員の窓口対応が適切に行われている 19.1 38.7 8.4 20.0 10.5 3.3 6.2
30. 指導教員に相談しやすい 39.0 34.8 4.5 13.9 4.8 3.1 2.2
31. 指導教員以外の教員や相談員に相談しやすい 16.6 27.2 8.1 32.4 12.6 3.2 3.4
その他
32. オピニオン BOX（学生意見箱）やメール等で学生が意見を言う体制が整備されている 8.5 20.6 25.4 29.7 12.0 3.8 2.1
33. 企業や社会など、学外に向けた大学の PR がなされている 6.4 21.2 23.7 32.5 12.3 3.9 3.6
0%
20%
40%
60%
80%
100%

教育・各種支援について（改善の緊急性に関する考察）

下図は、「教育・各種支援」に関する調査結果をもとに、「不満足度」（「思わない」「あまり思わない」「どちらともいえない」の合計回答割合）を縦軸に、不満足回答者のうち「改善を要望した者の割合」を横軸にとった「教育・各種支援」関係の 33 項目の散布図である。

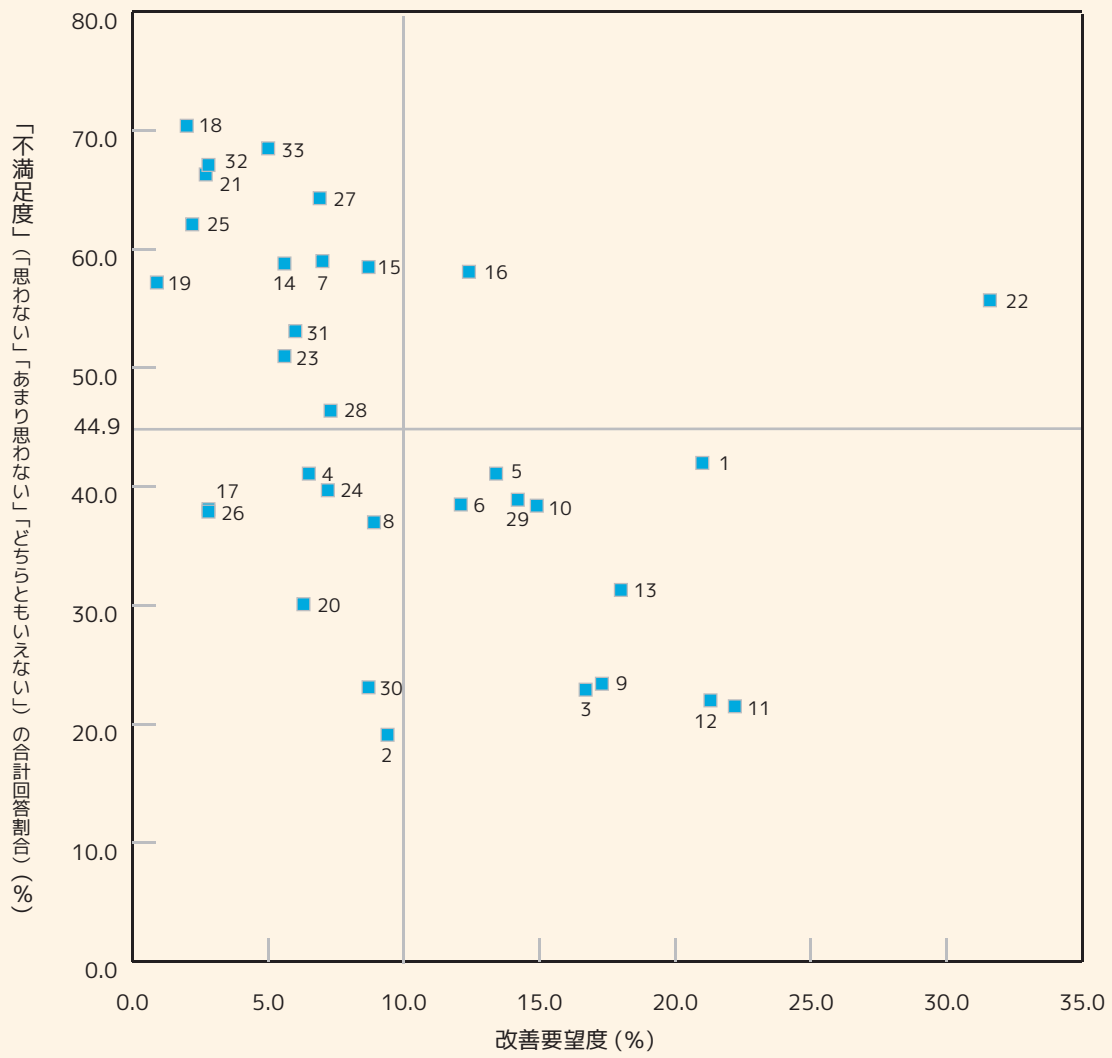
散布図は不満足度の平均値と改善要望度の平均値により４つの領域に分けられる。右上の領域は不満足度が平均値 (44.9%) よりも高くかつ改善要望度もその平均値 (10.0%) よりも高い領域で、この領域にある項目の「改善の緊急性」は高い。同様に、右下は、不満足度は平均よりも低いが改善要望度は平均よりも高い領域、左上は不満足度が平均より高く、改善要望度は平均より低い領域、そして左下は不満度も改善要望度も平均より低い領域である。

右上の領域には、「(16) 学内情報周知の手段の整備」と「(22) 食堂・売店等の整備」があり、学習・生活支援面の改善の緊急性が高いことが示されている。

教育面では、現在の状況に概ね満足しているが、その上で一層の改善・充実を求める項目として、「(1) 時間割の編成」、「(3) 研究指導体制」、「(5) シラバスの改善」、「(6) 専門講義の充実」がある。

学習支援面では、「(9) 研究室・実験室」、「(10) 自習スペース等」、「(11) インターネット環境」、「(12) 教育研究に必要な設備・備品」「(13) 図書館や資料室等」、の環境の整備・充実が求められている。

■ 教育・各種支援について



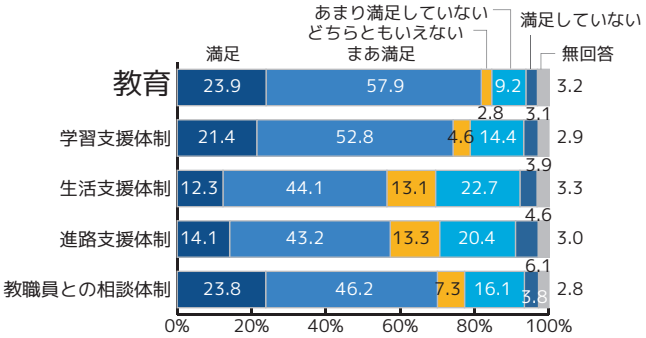
総合的な満足度
教　育

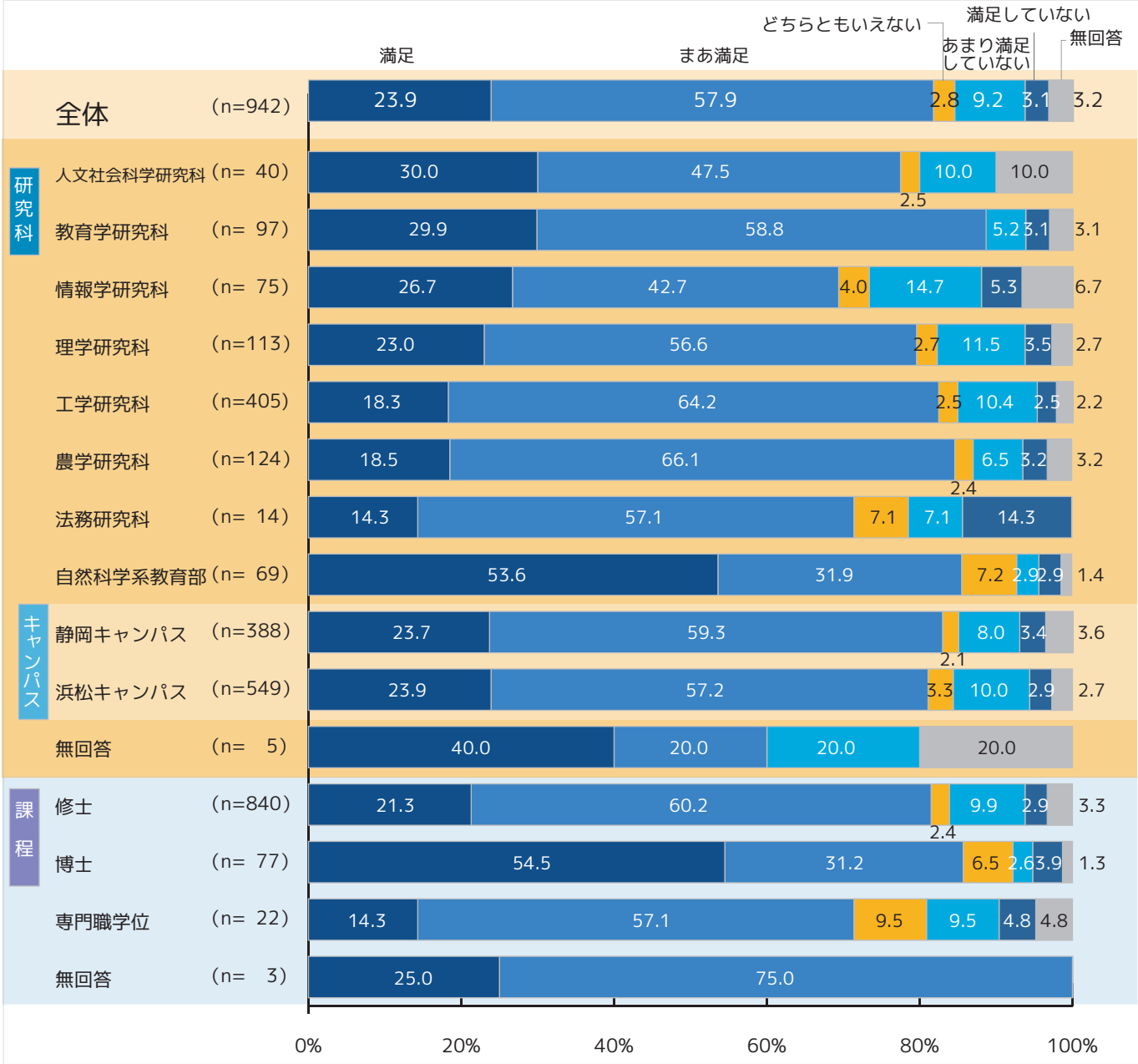
全体でみると、「満足」「まあ満足」の合計は 81.8%。
これは、「総合的な満足度」の回答肢の中で最も高い。

解　説

- 研究科別における「満足」「まあ満足」の合計は、「教育学研究科」（88.7%）で最も高く、「情報学研究科」（69.4%）で最も低い。
「自然科学系教育部」の 53.6%の学生が「満足」と回答。

【全体】各項目の総合的な満足度





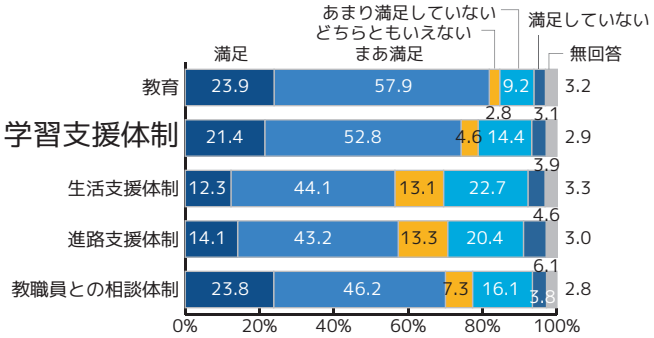
総合的な満足度
学習支援体制

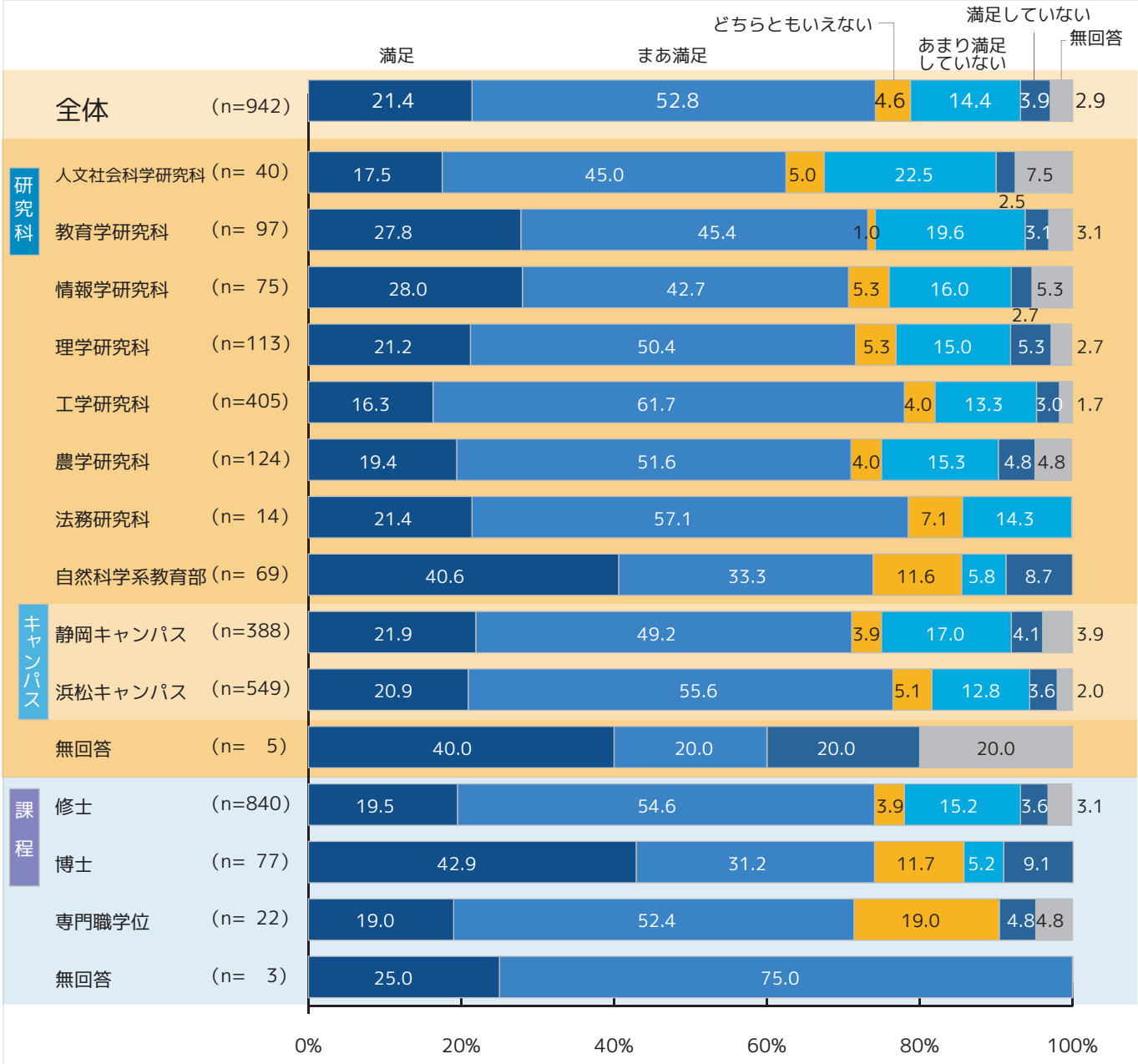
全体では、「満足」「まあ満足」の合計は 74.2%、「満足していない」「あまり満足していない」の合計は 18.3%。

解　説

- 研究科別における「満足」「まあ満足」の合計は、「法務研究科」(78.6%)、「工学研究科」(78.0%)で高い。
- 学部生アンケート結果に比べ、「満足」「まあ満足」の合計は 4.7 ポイント高い。

【全体】各項目の総合的な満足度





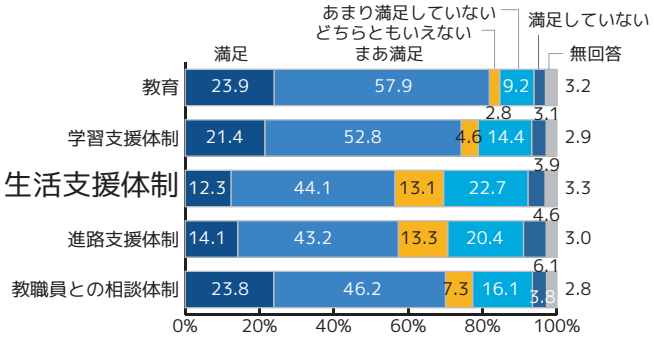
総合的な満足度
生活支援体制

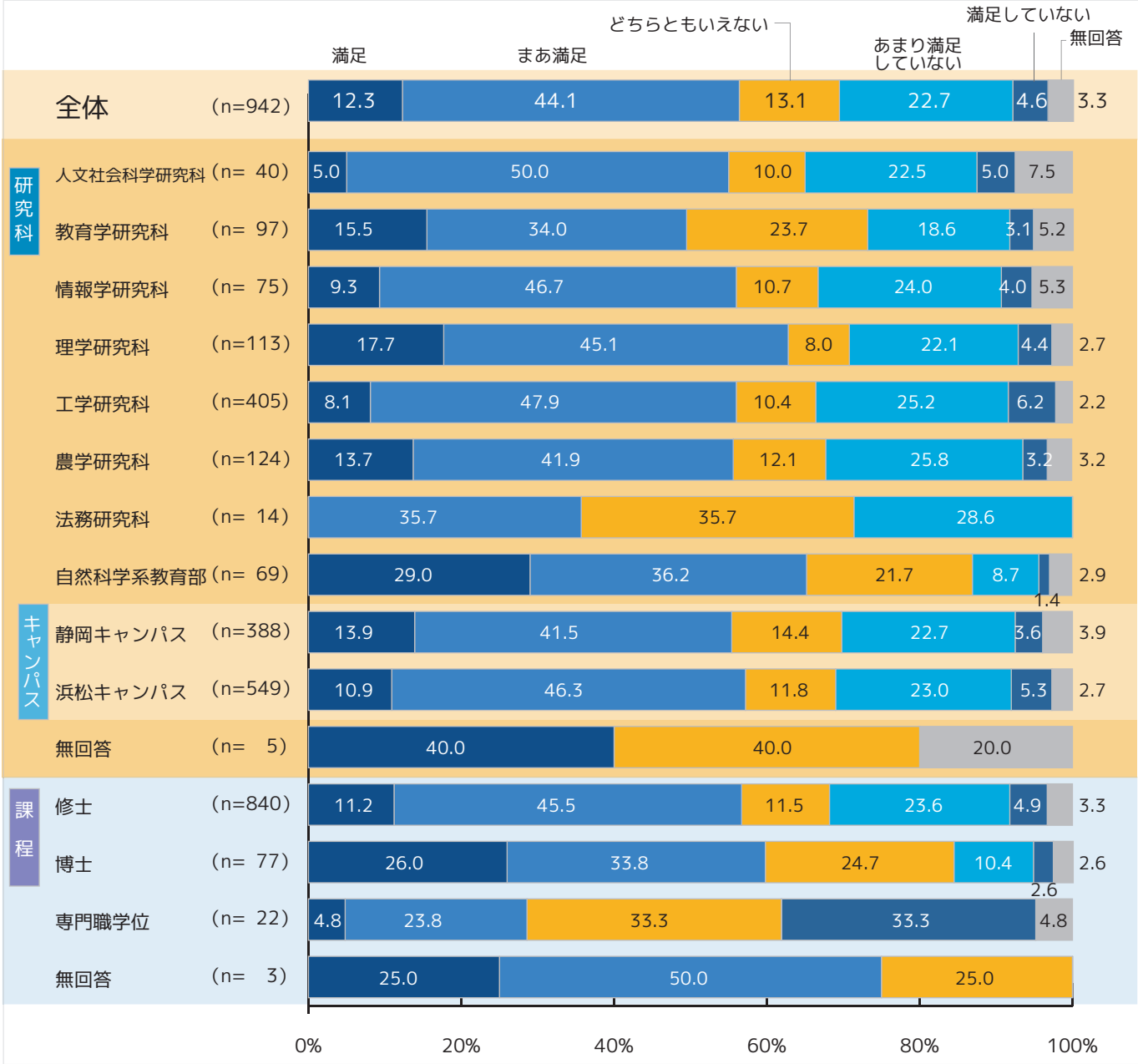
全体では、「満足」「まあ満足」の合計は 56.4%、「満足していない」「あまり満足していない」の合計は 27.3%。

解　説

- 研究科別における「満足」「まあ満足」の合計は、「自然科学系教育部」（65.2%）で最も高く、「法務研究科」（35.7%）で最も低い。
- キャンパス別において、大きな差異はみられない。

【全体】各項目の総合的な満足度





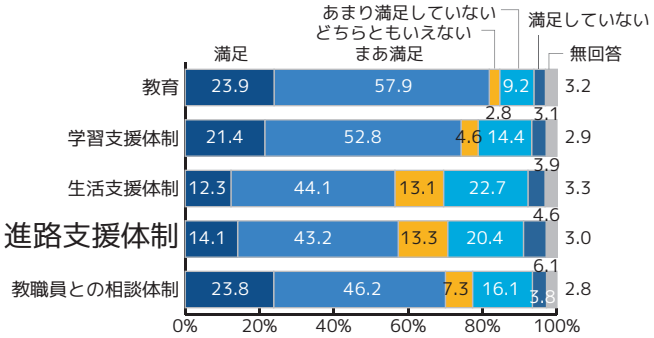
総合的な満足度
進路支援体制

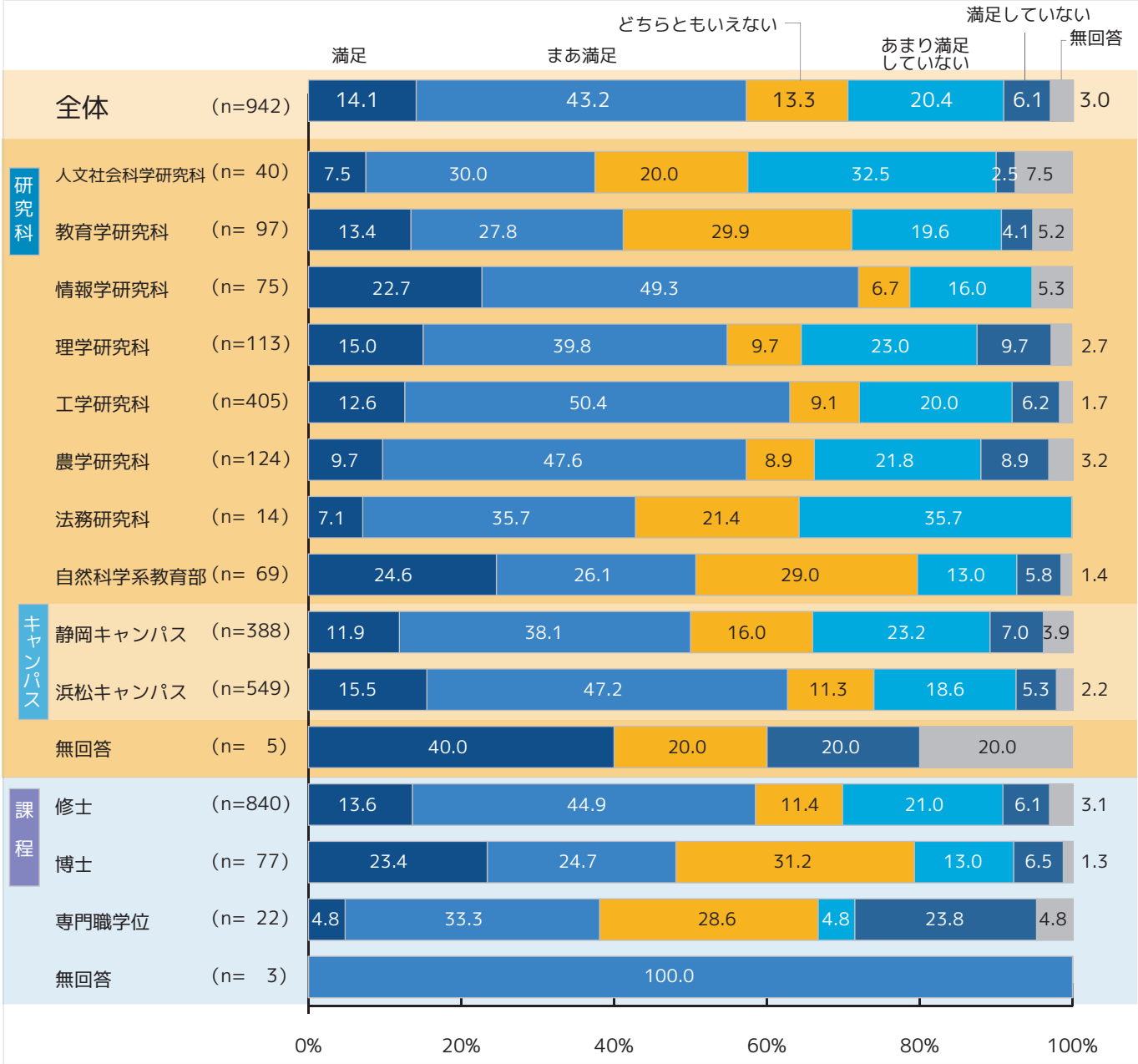
全体では、「満足」「まあ満足」の合計は 57.3%、「満足していない」「あまり満足していない」の合計は 26.5%。

解　説

- 研究科別における「満足」「まあ満足」の合計は、「情報学研究科」（72.0%）で最も高く、「人文社会科学研究科」（37.5%）で最も低い。
- 学部生アンケート結果に比べ、「満足」「まあ満足」の合計は 2.9 ポイント高い。

【全体】各項目の総合的な満足度





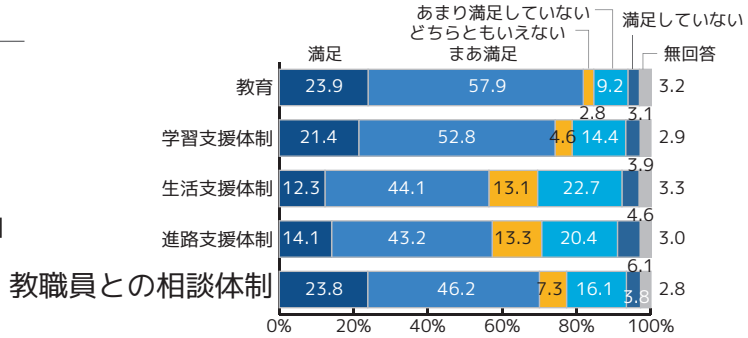
総合的な満足度
教職員との相談体制

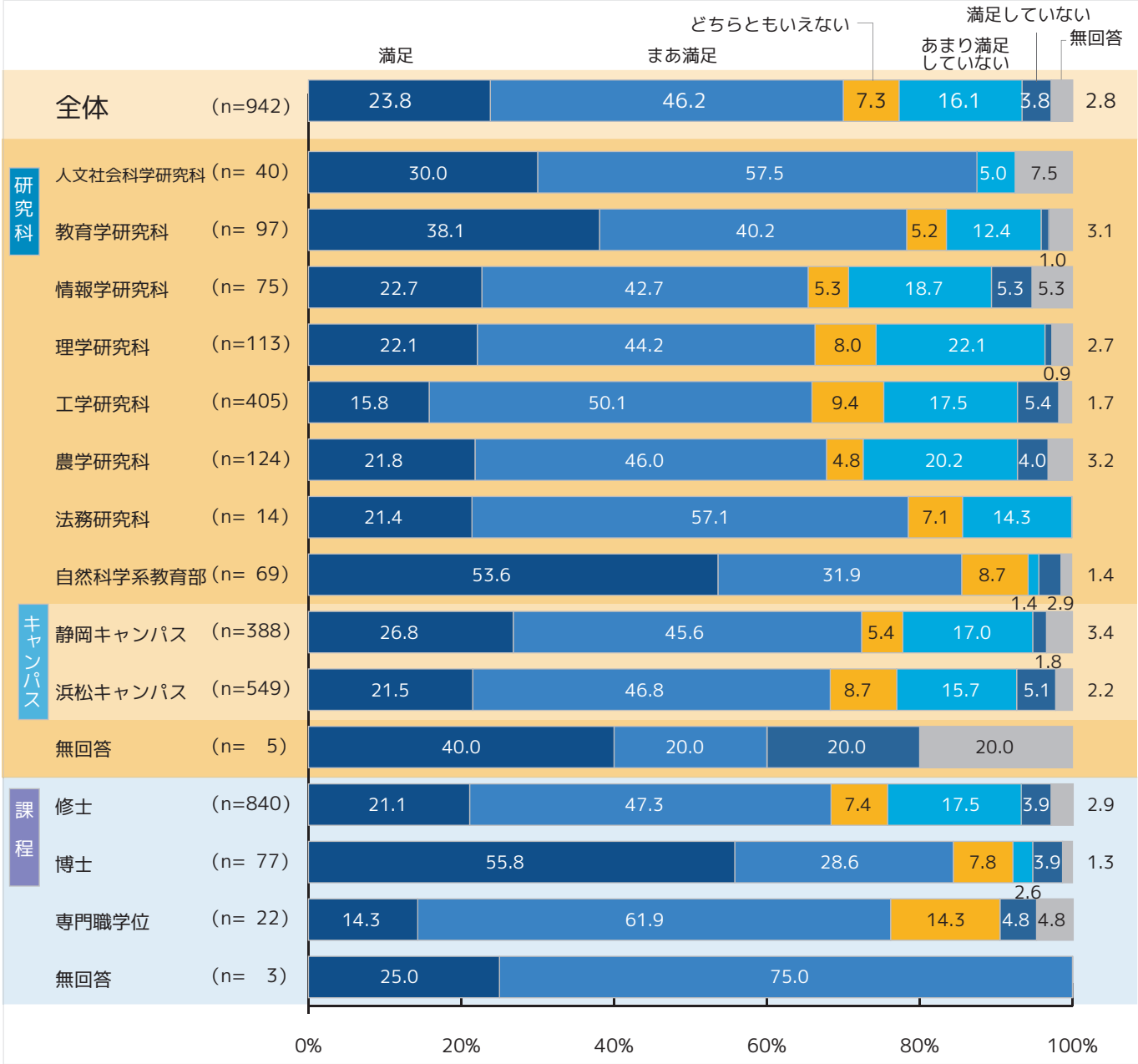
全体における「満足」「まあ満足」の合計は 70.0%。これは、学部生アンケート結果に比べ 16.9 ポイント高い。

解　説

- 研究科別における「満足」「まあ満足」の合計は、「人文社会科学研究科」（87.5%）で最も高く、「教育学研究科」（65.4%）で最も低い。「自然科学系教育部」の 53.6%の学生が「満足」と回答。

【全体】各項目の総合的な満足度



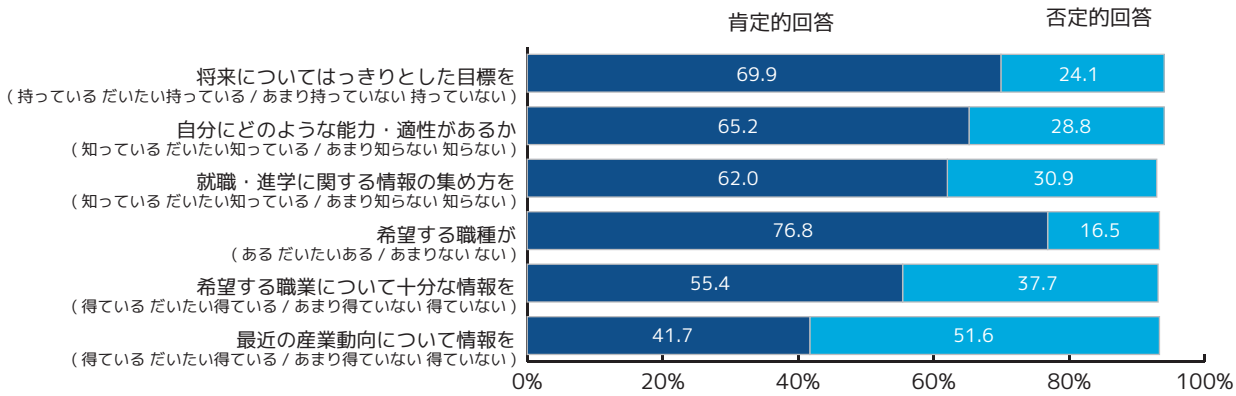


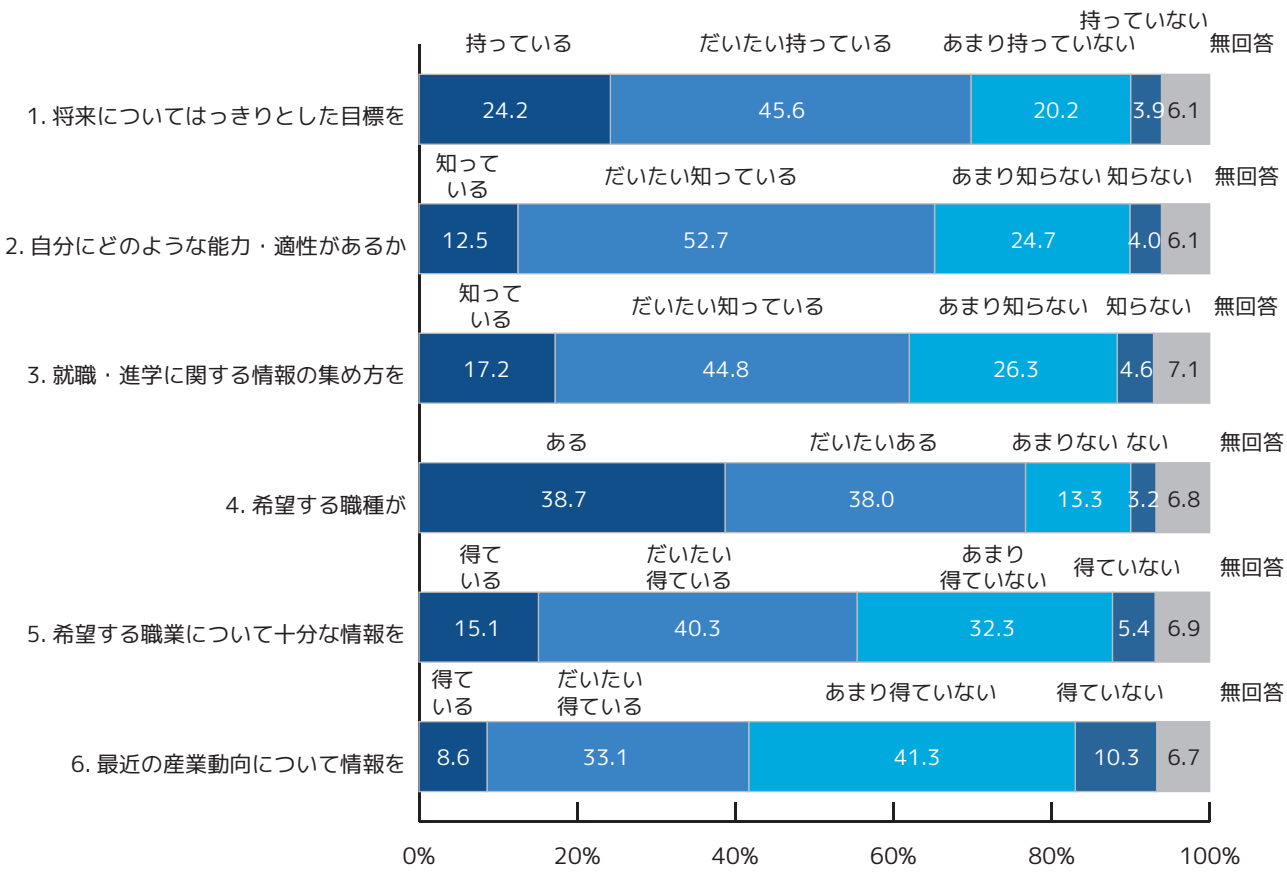
進路について

肯定的回答割合は、「希望する職業がある」が最も高く、次いで「将来についてはっきりとした目標を持っている」が続く。

解　説

否定的回答割合は、「最近の産業動向について情報を得ている」が最も高く、次いで「希望する職業について十分な情報を得ている」が続く。





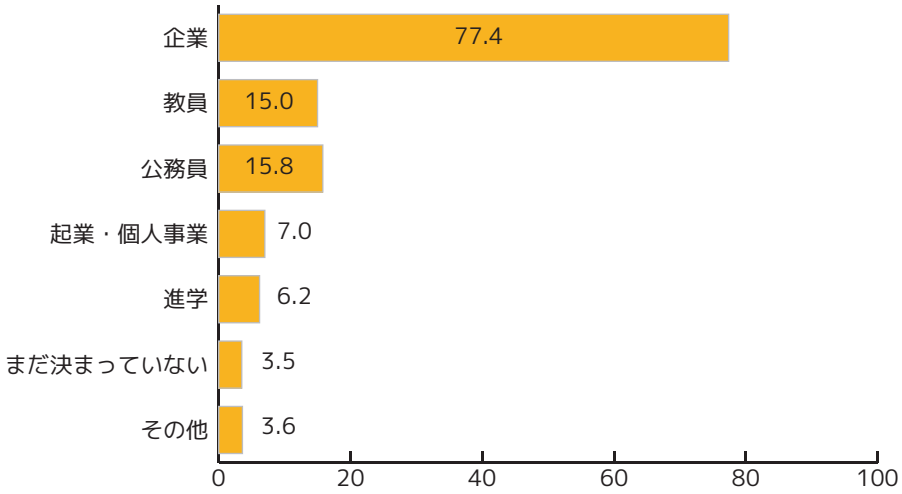
修了後の進路について希望するもの（複数回答可）

全体でみると、「企業」の割合が最も高く、次いで「公務員」、「教員」が続く。

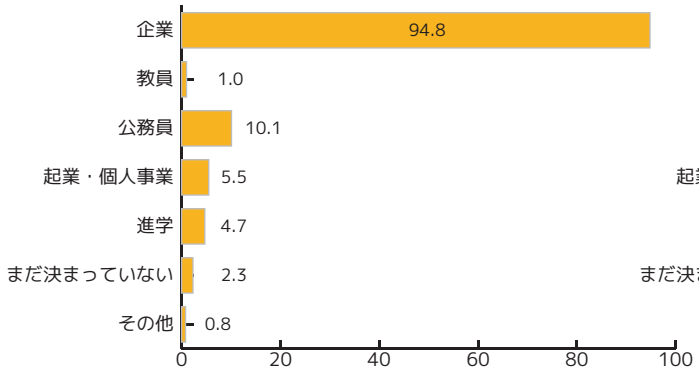
解　説

- 「工学研究科」では「企業」を希望している割合が高い。
- 「教育学研究科」では、「教員」を希望している割合が高い。

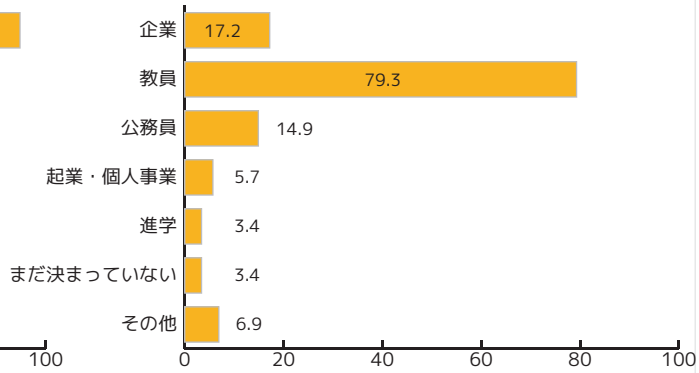
● 全体（回答者 885 人）=100）



● 工学研究科生（回答者 385 人）=100）



● 教育学研究科生（回答者 69 人）=100）

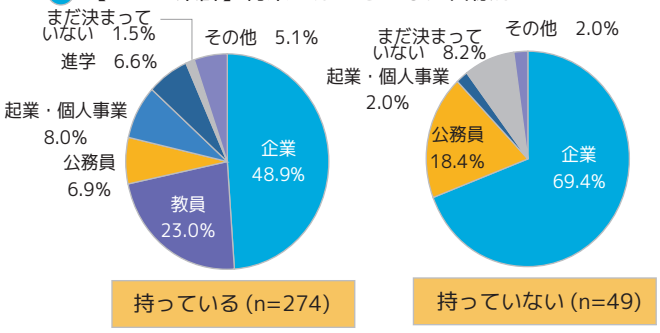


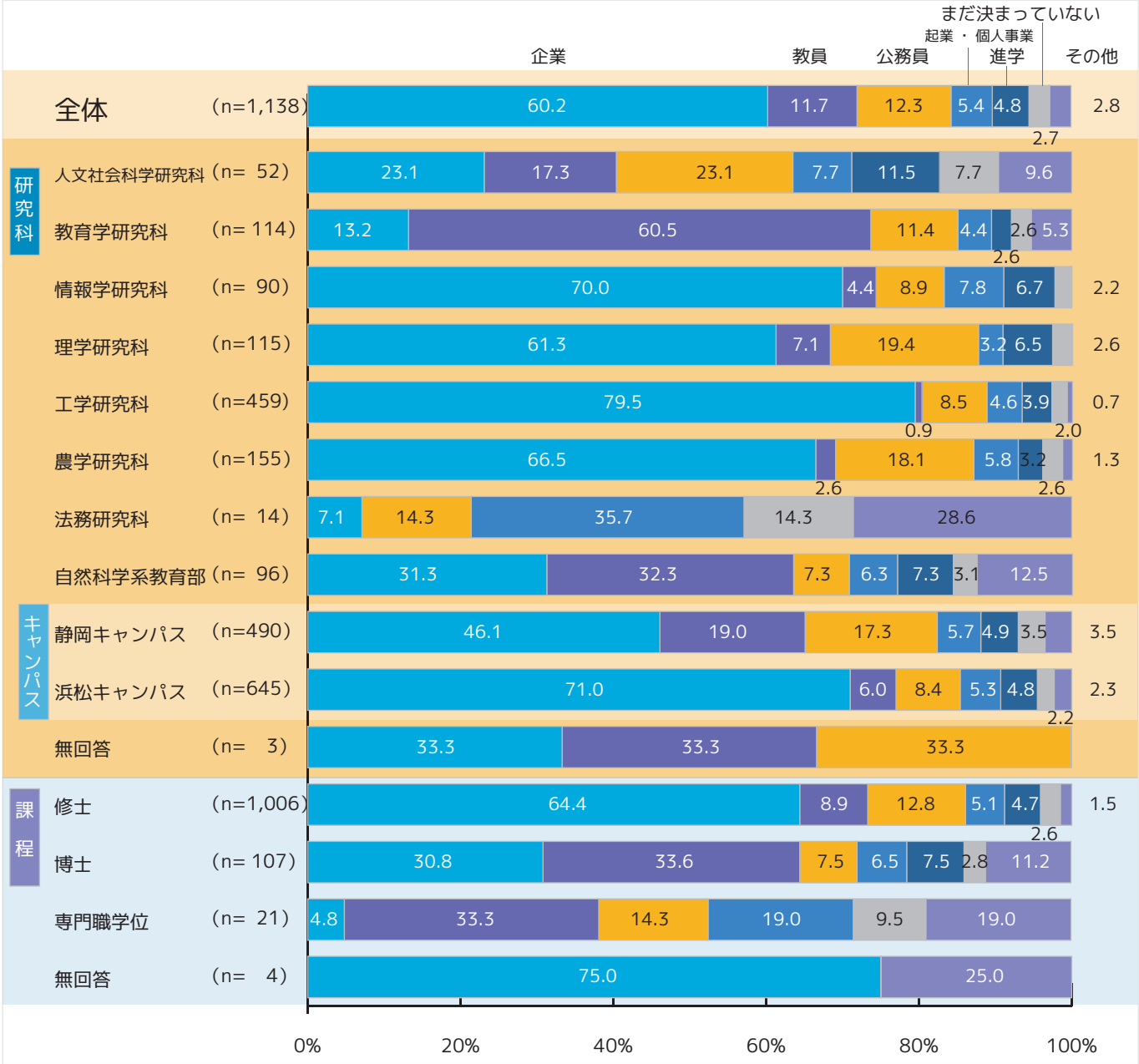
修了後の進路について希望するもの（複数回答可）

解　説

「将来の目標の有無」とのクロス集計結果から、将来の目標を「持っていない」学生において、「教員」「進学」を回答した学生はいないことがわかる。

【クロス集計】将来のはっきりした目標は？

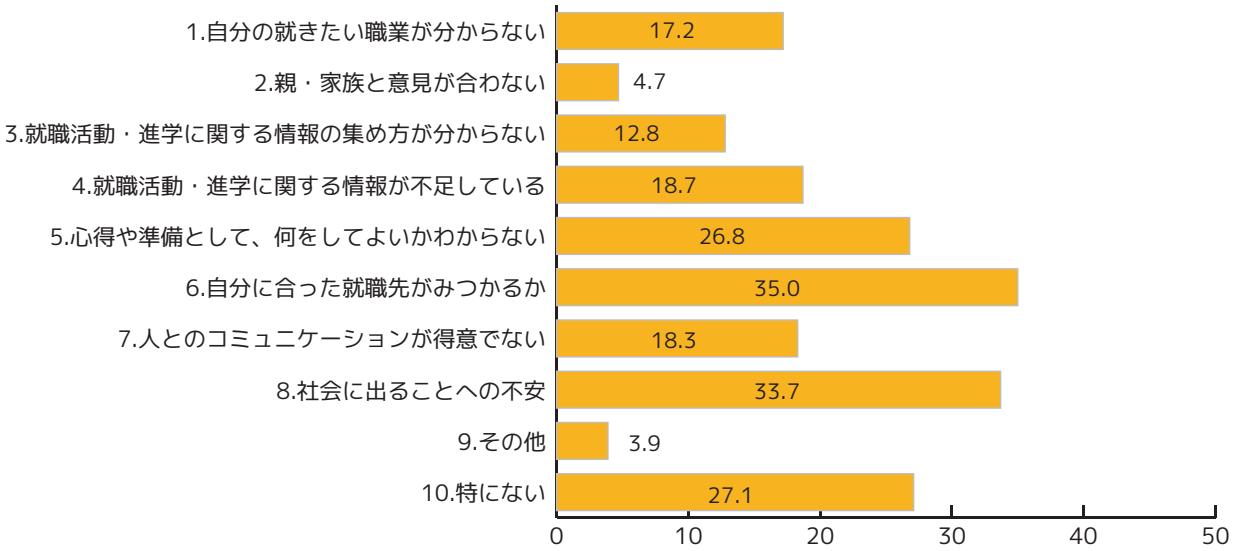




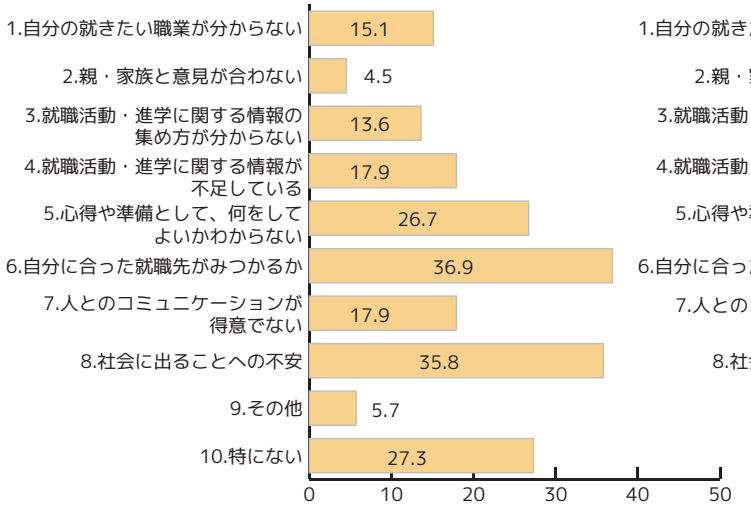
修了後の進路について不安に感じていることや悩みなど（複数回答可）

全体では、「自分に合った就職先がみつかるか」、「社会に出ることへの不安」の割合が高い。

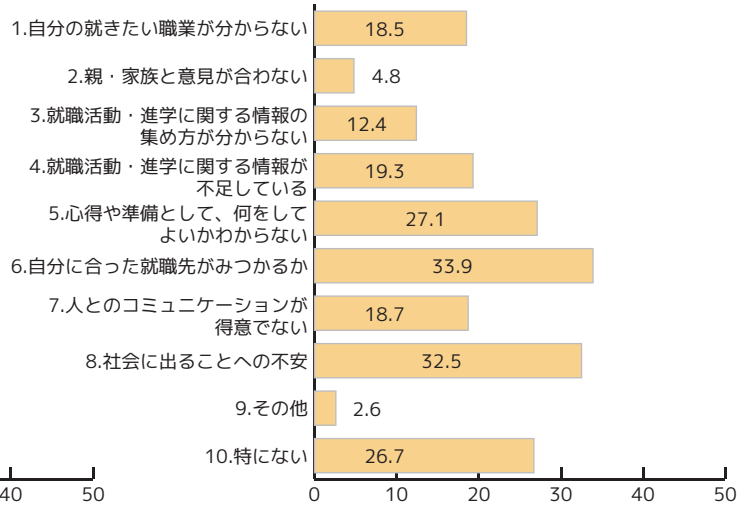
● 全体（回答者（857 人）=100）



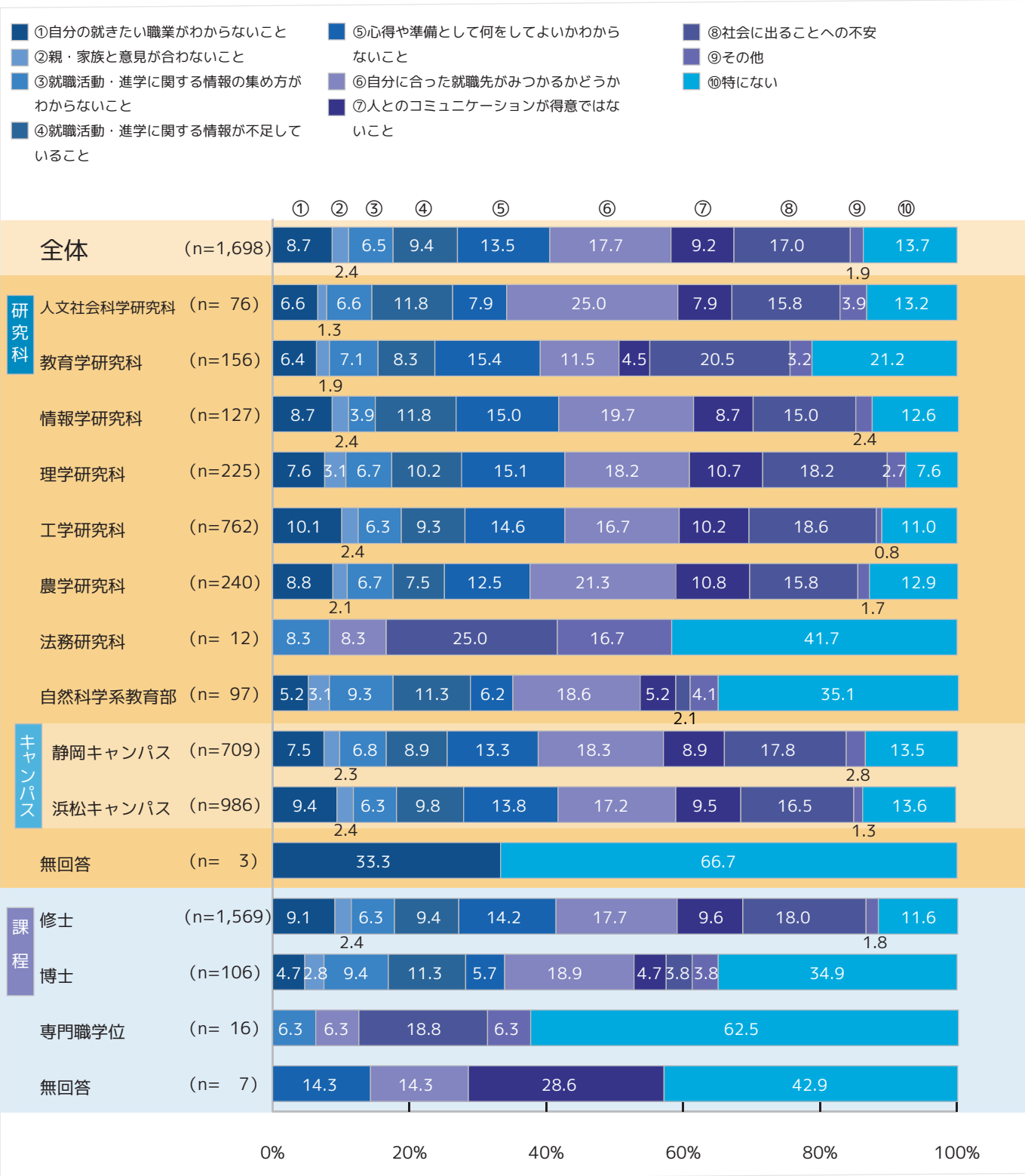
● 静岡キャンパス（回答者（352 人）=100）



● 浜松キャンパス（回答者（502 人）=100）



修了後の進路について不安に感じていることや悩みなど（複数回答可）

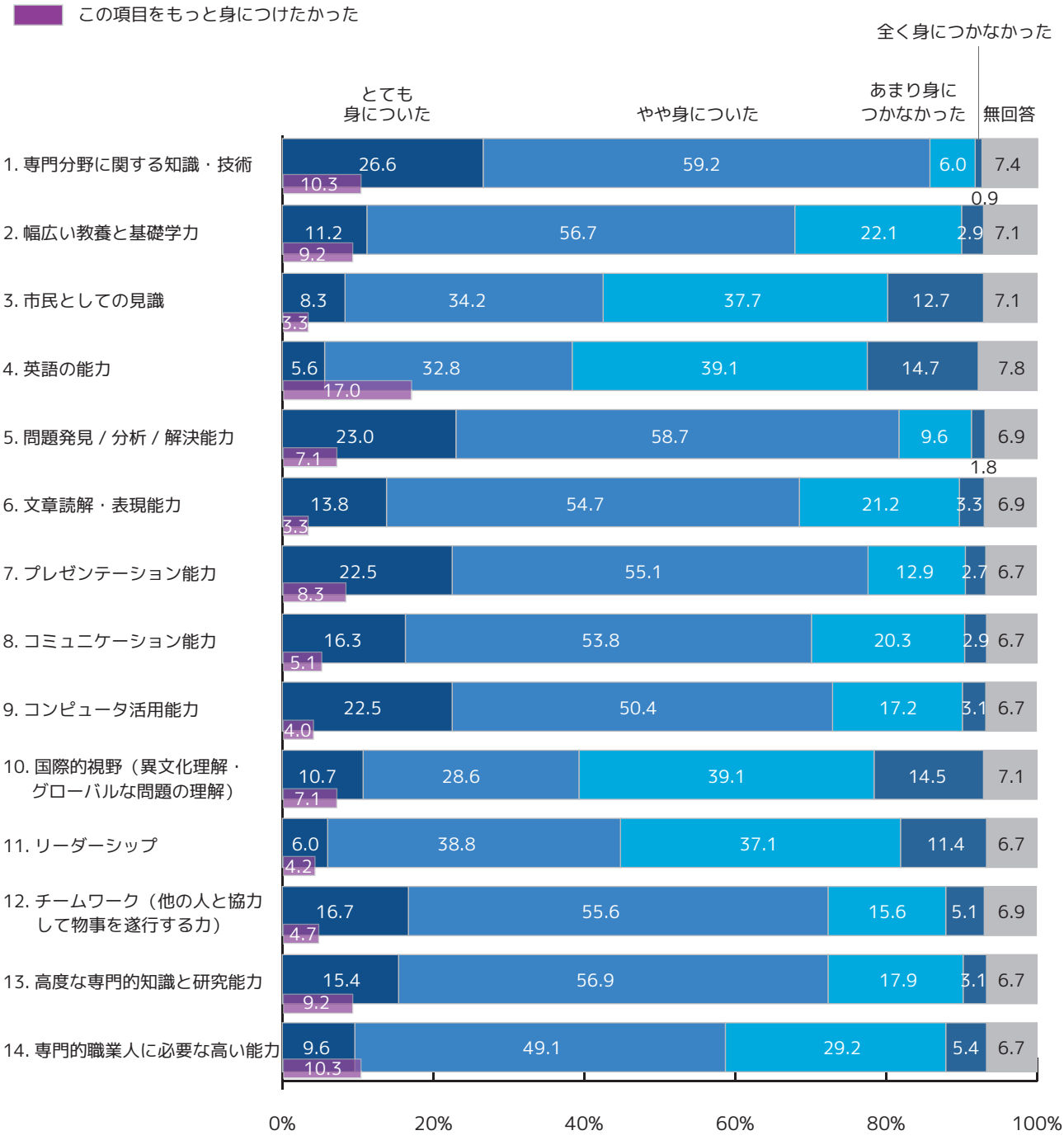


学業の到達度について［大学院修了見込みの院生のみ］

「とても身についた」「やや身についた」の合計は、「専門分野に関する知識・技術」（85.8%）が最も高く、次いで「問題発見 / 分析 / 解決能力」（81.7%）が続く。

解　説

「全く身につかなかった」「あまり身につかなかった」の合計は、「英語の能力」（53.8%）が最も高く、「国際的視野」（53.6%）が続く。



学業の到達度について [大学院修了見込みの院生のみ]（習得度とその満足度に関する考察）

下図は､｢学業の到達度｣に関する調査結果をもとに､｢身につかなかったと思う割合｣(｢全く身につかなかった｣｢あまり身につかなかった｣の合計回答割合）を縦軸に、身につかなかったと回答した者のうち「もっと身につけたかったと思う者の割合」を横軸にとった「学業関係」14 項目の散布図である。

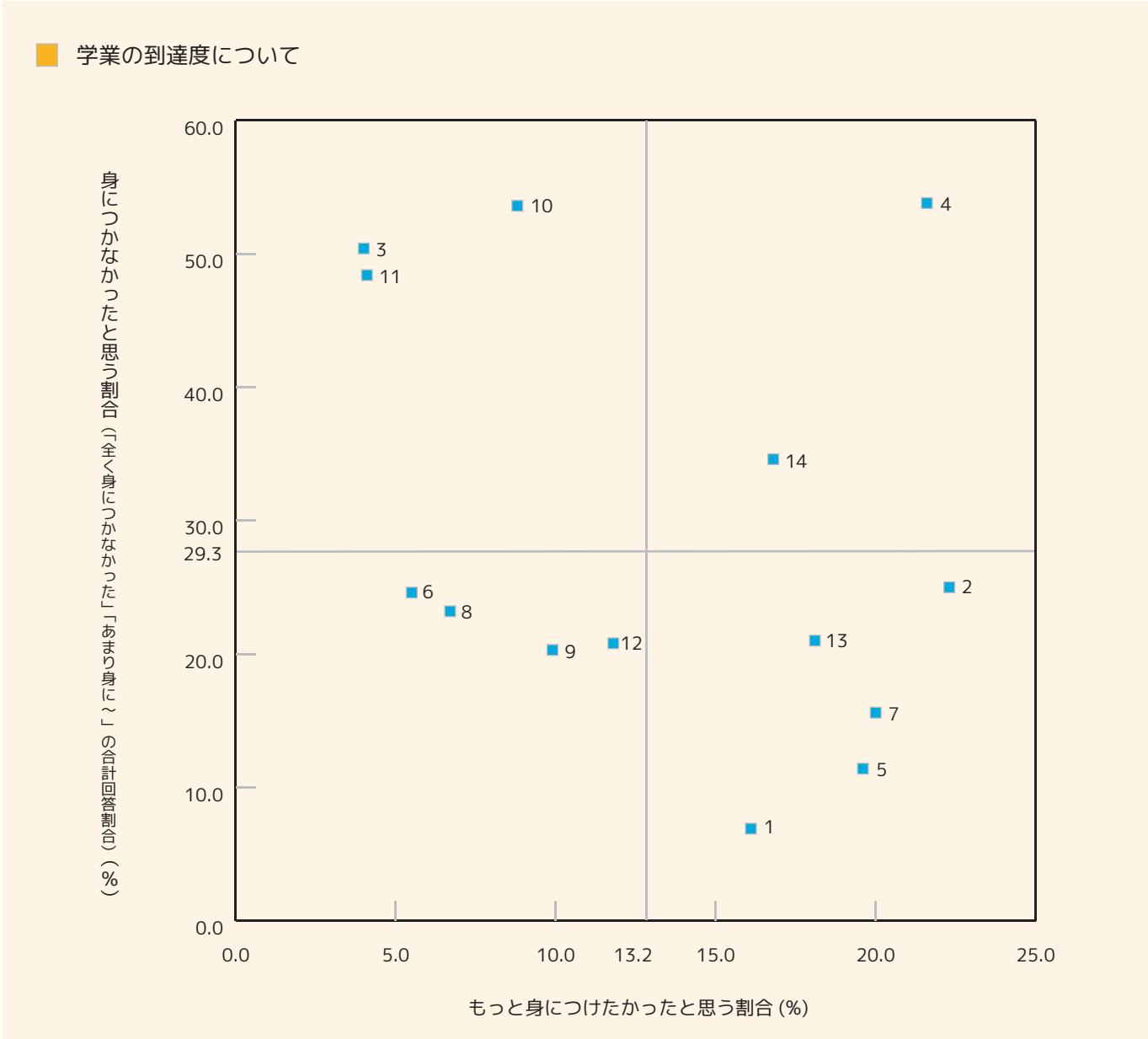
散布図は 14 項目の２つの平均値により４つの領域に分けられる。

右上の領域にある項目は、身につかず、かつもっと身につけたかった項目であり、「(4) 英語の能力」、「(14) 専門職業人に必要な高い能力」がある。

身についたが一層ブラッシュアップしたい項目（右下領域）として、「(1) 専門分野に関する知識・技術」、「(2) 幅広い教養と基礎学力」、「(5) 問題発見／分析／解決能力」、「(7) プレゼンテーション能力」、「(13) 高度な専門知識と研究能力」がある。

左上領域にある「(3) 市民としての見識」、「(10) 国際的視野」、「(11) リーダーシップ」は身につけることが難しい項目である。

身につけることができたと判断している項目（左下領域）として「(6) 文章読解･表現能力」､「(8) コミュニケーション能力」、「(9) コンピュータ活用能力」「(12) チームワーク」がある。



本大学院に学部から継続して進学した理由

学部から継続して進学した理由

- 実家（愛知）から近く、静岡の土地柄をとても気に入っているため。[人文社会科学研究科、1 年生]
- 学部時代の指導教員の先生が行っている研究の領域と、自分の研究したい領域が重なっていたので、引き続いて、その先生のご指導を受けたいと思ったから。[人文社会科学研究科、1 年生]
- 臨床心理学コースが臨床心理士養成大学院第I種であるとともに、自分が研究したいと考えているテーマについて、高い専門性を持つ先生がいらっしゃるため。[人文社会科学研究科、1 年生]
- 学内の様子（地理的にも、人的資源的も）がわかること。[人文社会科学研究科、2 年生]
- 教員になるにあたって、専門的知識や高い能力、様々な経験を獲得し、人間性豊かで高い能力を持った教員になるための力をつけたかったから。[教育学研究科、1 年生]
- 県内出身で、県内就職を考えているので。[教育学研究科、1 年生]
- 先生方が学部から知っている信頼できる方々だから。[教育学研究科、1 年生]
- 静岡という土地が好きだから。[教育学研究科、1 年生]
- 学部時代にはあまり学ぶ事ができなかった専門性を身につけるため。[教育学研究科、1 年生]
- 教員修士免許を取得したかった。また、学部時代の卒論研究を更に進めていくことで、問題解決能力やプレゼンテーション能力を伸ばしていきたいと思ったため。[教育学研究科、2 年生]
- 教育学をより専門的に学べる環境だと思ったから。[教育学研究科、2 年生]
- 自分の研究を学部の 1 年間の卒業研究だけでなく、より打ち込んでいきたかったから。[情報学研究科、1 年生]
- 院に進学した方が就職に有利だと思ったから。[情報学研究科、2 年生]
- 学部と同じ環境で継続して研究を行えるというメリットから、教員に対する安心感もあった。[情報学研究科、2 年生]
- 研究環境が適していたため。社会科系の科目も受講でき、幅広い知識が得られると思ったため。[情報学研究科、2 年生]
- 家が近い、国立、漠然とした自己成長欲。[情報学研究科、学年無回答]
- 学部４年の一年では自分の研究を満足にすることができないため。[理学研究科、1 年生]
- 県内出身だから。大学の雰囲気が自分に合っている。[理学研究科、1 年生]
- 入試の選抜方法が適していたため。[理学研究科、1 年生]
- 教員を目指す上でさらなる知識が必要だったから。[理学研究科、1 年生]
- 研究室内の様子がわかっていたため。出身が静岡県内だったため。[理学研究科、1 年生]
- 慣れ親しんだ環境で、しっかり研究成果を上げてから卒業したかったから。[理学研究科、2 年生]
- 数学に対する知識、理解を深めるため。また、教育学研究科の授業にも参加し得る環境が静岡大学理学研究科にはあると判断したため。[理学研究科、2 年生]
- 研究の継続のため。論文に載るような結果が（研究の）欲しかった。できると思った。[理学研究科、2 年生]
- 続けて同じ研究室で研究がやりたいと考えたからです。また、指導教員が頼れる存在であったことも理由です。[工学研究科、1 年生]
- 今の研究室。とにかく真剣に必死に研究をやっていて、自分もそこで活躍したかった。[工学研究科、2 年生]
- 専門知識以外にも、コミュニケーション能力やプレゼン能力など、社会に出る際に必要な能力を伸ばしておきたかった。[工学研究科、2 年生]
- 自宅から通え、国立大学で授業料が安い方だから。[工学研究科、2 年生]
- 希望する職が院生のみ採用していたため。[工学研究科、2 年生]
- 他大に進学するつもりだったが、３年次後半から研究室へ通う中でこの研究分野がおもしろいことに気が付いたため。静岡が住みやすいから。[農学研究科、1 年生]
- 学部時代の研究を継続していきたい、また専門分野への理解を深めることができる環境が整っていたから。[農学研究科、1 年生]
- 学部時代に行っていた研究をより深めたいと考えたから。学部時代に学んでいた先生から、まだ学ぶ事がたくさんあると思ったから。[農学研究科、2 年生]
- 自分が就職して働くイメージが大学４年間では持てなかったため。[農学研究科、2 年生]
- 静岡大学の雰囲気がとても自分に合っていた為。[農学研究科、2 年生]
- 自分の興味を引く教授、研究室があり、そこで能力を高めたいと思ったため。また、その研究室においては設備、研究費用が充実しており、海外学生との交流も盛んに行われていたため。[自然科学系教育部、2 年生]
- 一つのことを突きつめたかったから。[自然科学系教育部、2 年生]
- 自宅から社会人と両立するため。[自然科学系教育部、3 年生]
- 学部にて何が研究できるか良く分かっていた。また、指導教官も良く存じ上げていた。[自然科学系教育部、3 年生]
- 現在の指導教員の元で学びたかったから。彼が万が一他大学へ移るならば、海外であろうとも異動先へ追学したと思う。[自然科学系教育部、3 年生]
- 静岡大学に愛着があるから。[自然科学系教育部、学年無回答]

教育・各種支援等についての要望等

教育研究について

- 学部、研究科（専攻）の垣根を越えた、受講あるいは交流をもっと全面的に推奨して頂けたらと思う。専門分野を掘り下げることも大切だが、幅広い知識も必要だと思うので。[人文社会科学研究科、2 年生]
- 博士課程は休日中心に授業を行っていただき、学習機会を与えていただきありがたいです。先生方にも大変ご負担になったかと思いますが、感謝しています。休日中心であるので、学割等の手続き（機械で自動）が利用できるようにしてもらえれば便利になります。[教育学研究科、1 年生]
- 基礎学力に力を入れるべき。[理学研究科、1 年生]
- 授業について、学生が積極的に参加できるような、例えば討論系の授業を望みます。[理学研究科、2 年生]
- 化学工学をなくさない方がいい。静岡大学から化学工学をなくしたら、共同研究の就職先が少なくなる。[工学研究科、1 年生]
- 基礎学力（電気回路、電磁気や数学）はとても重要で、しっかり身に付けるべきだと思いますが、具体的にどんなものに応用され、実用化されているのか分からなかったので、勉強する意欲がわかなかったことも事実です。学部 1 年生の早い段階で、実際の機器や製品に触れさせ、「電気電子ってすごいんだぜ！！」（自分は電気電子なので）という授業、ガイダンス、見学会みたいなもがあれば、少なからず勉強・研究に関心が持てるかと思います。将来の自分のイメージをだせることですね！[工学研究科、1 年生]
- 静大の授業はとても質が良いと思う。しかし残念なのは、研究室に配属されるまで、研究らしいことに一切触れないことです。せっかく一流の先生方がいらっしゃるので、最新の研究とか将来の展望といった、学習意欲のそそる話をもっと聞きたかったです。先生方の中には、大学生なのだから、そんなものは勝手に勉強しろとおっしゃる方もいるかもしれない。しかし、我々ゆとり世代は、日本はダメだと教えられ育ってまいりましたので、将来に対し、なんら希望を持っていない連中が大半であり、私もその一人です。時代背景を考慮して、ある程度将来に明るいきざしが持てるようになるよう指導をすることも大切なことだと思うのです。[工学研究科、1 年生]
- 資格等に関する情報や教育も必要だと思う。[農学研究科、2 年生]
- 学部も含めてなのですが、中学の教員免許を取得出来る講義を設置してほしい。[農学研究科、2 年生]
- 社会人ドクターコースなので、可能であれば土・日・祝、連休等に集中講義を開講してもらえるとありがたい。集中講義の日程について出来るだけ早く連絡してもらえると助かります。[自然科学系教育部、1 年生]
- 社会人学生にとって集中講義のスケジュールが週の中三日など非常に受講しづらい構成になっているので、できれば再考いただきたい。[自然科学系教育部、2 年生]

施設・設備について

- 図書館で一度に借りることのできる資料の冊数を増やしていただきたいです。[人文社会科学研究科、1 年生]
- 図書館の蔵書を充実させてください。特に授業などで先生方が推奨する本は置いてもらえると助かります。[教育学研究科、1 年生]
- 研究室の古さはなんとか我慢しますが、トイレは早急に改修をして欲しいです。トイレが改修されれば、学生のやる気も上昇すると思うのですが。学生が自由に使えるフリースペースもあれば良いかな、とも思います。[教育学研究科、1 年生]
- 研究に必要な道具や整備の充実と、学会等に参加する際の支援体制を整えて欲しい。[教育学研究科、2 年生]
- 研究室でインターネットに接続する時に安定しない。（接続が有線・無線に関わらずとぎれる）[理学研究科、1 年生]
- 授業（大学院生向け）の充実。実験器、分析機器の充実。生協食堂の充実。[理学研究科、2 年生]
- 論文（電子ジャーナル）の契約を増やして欲しい。[理学研究科、学年無回答]
- 図書館の英語論文購読を充実させて欲しい。[工学研究科、1 年生]
- 施設がもっとキレイになるとよいです。[農学研究科、1 年生]
- 学食に提案がある。私も含め留学生の中にはイスラム教徒がいるので、ハラール認定を受けた食べ物を食堂で提供して欲しい。[自然科学系教育部、1 年生]
- 学割、証明書の発行機の時間を平日は 7 時くらいまで、土曜日は 1 時間でも良いので稼動させて下さい。夜学や社会人にも使える体制が欲しい。[自然科学系教育部、2 年生]

その他

- TA としての院生の処遇について、鍵の貸し借りなどもう少し効率よく出来るのではないかと思います。[人文社会科学研究科、1 年生]
- 社会人の中には出会いがないために学ぶ機会を逸している人が多いと思います。人伝いのような小さな形であれ、大学から意欲のある社会人を探すアプローチがあればと思います。そうした大人を介して、社会時に知識や技術が還元されていく社会の在り方もあるのではと思います。[情報学研究科、2 年生]
- 障害者の就職支援の情報がもっと欲しい。[情報学研究科、学年無回答]
- 地域の暮らしに関する情報が欲しいです。[理学研究科、2 年生]
- 博士課程の卒業生の進路先を明確にして欲しい。[工学研究科、2 年生]
- インターン企業少ない。[工学研究科、2 年生]
- 日本人学生と留学生の間のコミュニケーションは、公式あるいは非公式を問わず、もっとある方が良い。そのためには、それぞれの留学生はチューターの学生や日本語会話パートナーと友人になるべきである。[自然科学系教育部、3 年生]

＜大学院生用＞

「大学生活・学習」に関するアンケート

平成24年10月

＜アンケートご協力のお願い＞　**【アンケート提出期限：10月31日（水）】**

このアンケート調査は、皆さんの静岡大学における学習・生活・進路支援などの環境についての改善点や問題点を明確にし、より快適な生活環境の実現をめざすために行うものです。アンケート用紙の回収は、配付した教職員が行いますが、所属の学生窓口（学務係、教務係、大学院係）にも提出場所を設けますので、是非協力してください。

アンケート後、皆さんの中から何人かに面談をお願いし、改善点や問題点を一層明確にします。

なお、調査結果、改善計画及び改善のための措置については、本学Webページで公表します。

問合せ：企画部企画課

整理番号（記入不要）

■あなた自身について

F1	学籍番号	※上5ケタの番号を、必ず記入してください。下3ケタは個人番号のため記入不要です。
F2	性別	1　男性　2　女性
F3	学生区分	1　一般学生　2　社会人　3　留学生
F4	課程	1　修士　2　博士　3　専門職学位
F5	学年	1　1年　2　2年　3　3年
F6	出身大学	1　静岡大学（　　）学部　2　静岡大学以外
F7	居住形態	1　自宅　2　学生寮・国際交流会館　3　アパート・マンション・下宿等

■普段の生活・意識について

Q1　大学には、1週間を平均して何日くらい来ていますか。

1　1日　2　2日　3　3日　4　4日　5　5日　6　6日　7　7日

Q2　アルバイトには、1週間を平均して何日くらい行っていますか。

1　1日以下　2　2日　3　3日　4　4日　5　5日以上　6　していない

Q3　奨学金を受けていますか。

1　受けている　2　受けていない

Q4　語学学校や資格取得・就職のための学校・通信教育を利用していますか。

1　している（資格の種類：　　）　2　していない

Q5　次の項目のうちで、あなたの意識や行動にあてはまるものに○を付けてください。

1	友達は	（多い　やや多い　やや少ない　少ない）
2	人付き合いが	（得意　やや得意　やや苦手　苦手）
3	悩みごとなどを相談できる人が	（いる　いない）
4	親との会話が	（よくある　ある　ほとんどない　ない）
5	リーダー役や幹事役をつとめることが	（多い　やや多い　少ない　ない）
6	人と協力して物事を進めることが	（できる　ややできる　あまりできない　できない）
7	人前で話したり、自分の考えを説明することが	（得意　やや得意　やや苦手　苦手）

Q6　現在の学生生活に、どの程度満足していますか。

1　満足　2　ほぼ満足　3　どちらともいえない　4　やや不満　5　不満

■入学・進学について

Q7　あなたが静岡大学大学院を志望した理由は何ですか。以下の中から当てはまるものに○を付けてください。（○は3つまで）

1	静岡大学の学部に在籍していた	12	施設・設備がよい
2	入試の難易度・選抜方法が合っている	13	就職状況がよい
3	専攻したい学問分野がある	14	取りたい資格・免許が取得できる
4	専攻したい学問分野のレベルが高い	15	自宅から通える
5	レベルの高い研究を行っている	16	出身地（帰省地）の近隣県である
6	専門的知識・研究をさらに深めたい	17	″静岡″あるいは″浜松″という土地柄やイメージがよい
7	教員スタッフが充実している	18	東京・名古屋などの大都市へのアクセスが良い土地柄だから
8	国立大学である	19	授業料が安い
9	伝統や知名度がある	20	周囲の人のすすめ
10	大学のイメージがよい	21	学部卒業時に就職できなかった
11	校風やキャンパスの雰囲気が自分に合っている	22	その他（　　）

Q8　進学先を検討するうえで、どなたに相談しましたか。最も相談した方をお知らせください。（○は1つ）

1	家族	3	先輩	5	指導教員	7	なし（自分自身で決定）
2	親戚	4	友人・知人	6	その他（　　）		

Q9　大学院に入学・進学したことは、あなたの希望どおりでしたか。

1　希望どおり	2　ほぼ希望どおり	3　やや不本意	4　かなり不本意

Q10-1　入学・進学前に感じていた静岡大学大学院に対するイメージと比較して実態は

1	2	3	4	5
とてもよい	ややよい	変わらない	やや悪い	とても悪い

Q10-2　入学前のイメージに比べよくなかった理由としてあてはまるものを、3つまで○を付けてください。

1	専攻で学んでいることと やりたいと思ってることが違う	7	大学の施設・設備がよくない
		8	進路支援・資格取得支援などが不十分
2	研究がおもしろくない	9	″静岡″あるいは″浜松″という街がつまらない
3	教員との交流が少ない	10	自由時間が思っていたほど持てない
4	他専攻、他研究室の学生との交流が少ない	11	研究室・ゼミにおける勉学以外の雑用が多い
5	校風やキャンパスの雰囲気が自分に合わない	12	その他（　　）
6	学校に活気がない		

Q10-3　入学前のイメージに比べよかった理由を記入してください。

■教育・各種支援について

Q11　下記の項目について、あなたの意見に当てはまる数字に○を付けてください。
また、これらの項目について、今後、是非改善してほしいと思うものに、いくつでも○を付けてください。

＜教育について＞	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	どちらともいえない		是非、改善してほしい
(1) 受けるべき授業が適切に配置された時間割である	1	2	3	4	5	→	
(2) 今取り組んでいる研究に満足している	1	2	3	4	5	→	
(3) 研究の指導体制が適切である	1	2	3	4	5	→	
(4) 成績評価の基準が明確で適切である	1	2	3	4	5	→	
(5) シラバスから授業の概要を読み取ることができる	1	2	3	4	5	→	
(6) 「専門講義科目」が充実している	1	2	3	4	5	→	
(7) 「演習・フィールドワーク等の授業」が充実している	1	2	3	4	5	→	
(8) 学会やシンポジウムへの参加が推奨されている	1	2	3	4	5	→	

＜学習支援について＞							
(9) 研究室・実験室が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(10) 自習スペースやラウンジが整備されている	1	2	3	4	5	→	
(11) インターネットにアクセスする環境が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(12) 教育・研究・実験に必要な設備・備品が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(13) 図書館・資料室等に研究に必要な雑誌・蔵書・資料が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(14) 施設のバリアフリー化が進んでいる	1	2	3	4	5	→	
(15) 留学生を含む学生同士が交流する機会に恵まれている	1	2	3	4	5	→	
(16) 院生に対する学内情報周知の手段が整備されている	1	2	3	4	5	→	

＜生活支援について＞							
(17) 健康管理・カウンセリング等の体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(18) 地域の暮らしに関する情報が提供されている	1	2	3	4	5	→	
(19) アパートやマンション等に関する情報が提供されている	1	2	3	4	5	→	
(20) 奨学金・授業料免除等の支援体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(21) アルバイト情報の提供体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(22) 食堂・売店（施設・メニュー・品揃えなど）が整備されている	1	2	3	4	5	→	

＜進路支援について＞							
(23) キャリア形成に関する授業や支援が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(24) 就職・進学のための情報提供や相談窓口が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(25) 留学のための情報提供や相談窓口が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(26) インターンシップ等の職場体験の機会がある	1	2	3	4	5	→	
(27) 就職等に必要な資格取得のための支援体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(28) 企業(関係者)や卒業生から職場の話を聞く機会がある	1	2	3	4	5	→	

Q11　つづき

＜教職員との相談体制について＞

	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	どちらともいえない		是非、改善してほしい
(29) 職員の窓口対応が適切に行われている	1	2	3	4	5	→	
(30) 指導教員に相談しやすい	1	2	3	4	5	→	
(31) 指導教員以外の教員や相談員に相談しやすい	1	2	3	4	5	→	

＜その他＞

(32) オピニオンBOX（学生意見箱）やメール等で学生が意見を言う体制が整備されている	1	2	3	4	5	→	
(33) 企業や社会など、学外に向けた大学のPRがなされている	1	2	3	4	5	→	

Q12　総合的な満足度をお答えください。

	満足している	まあ満足	あまり満足していない	満足していない	どちらともいえない
教育	1	2	3	4	5
学習支援体制	1	2	3	4	5
生活支援体制	1	2	3	4	5
進路支援体制	1	2	3	4	5
教職員との相談体制	1	2	3	4	5

■進路について

Q13　進路について、あなたの意見や行動にあてはまるものに○を付けてください。

⑴ 将来についてはっきりとした目標を	（持っている　だいたい持っている　あまり持っていない　持っていない）
⑵ 自分にどのような能力・適性があるか	（知っている　だいたい知っている　あまり知らない　知らない）
⑶ 就職・進学に関する情報の集め方を	（知っている　だいたい知っている　あまり知らない　知らない）
⑷ 希望する職業が	（ある　だいたいある　あまりない　ない）
⑸ 希望する職業について十分な情報を	（得ている　だいたい得ている　あまり得ていない　得ていない）
⑹ 最近の産業動向について情報を	（得ている　だいたい得ている　あまり得ていない　得ていない）

Q14　修了後の進路について、あなたが希望するものを、次の中から2つまで○を付けてください。

1	企業	4	起業・個人事業	7	その他（　　）
2	教員	5	進学		
3	公務員	6	まだ決まっていない		

Q15　修了後の進路について、不安に感じていることや悩みはありますか。次の中から、いくつでも○を付けてください。

1	自分の就きたい職業がわからないこと	6	自分に合った就職先が見つかるかどうか
2	親・家族と意見が合わないこと	7	人とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝが得意ではないこと
3	就職活動・進学に関する情報の集め方がわからないこと	8	社会に出ることへの不安
4	就職活動・進学に関する情報が不足していること	9	その他（　　）
5	心得や準備として、何をしてよいかわからないこと	10	特にない

■学業の到達度について（大学院修了見込みの方のみ回答してください）

Q16　大学院入学時と比べ、学生生活を通じて、どれだけ以下の能力が身につきましたか。当てはまる数字に○を付けてください。
また、これらの項目の中で、もっと身につけたかったと思うものに、いくつでも○を付けてください。

	とても身についた	やや身についた	あまり身につかなかった	全く身につかなかった		この項目をもっと身につけたかった
(1) 専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	→	
(2) 幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	→	
(3) 市民としての見識	1	2	3	4	→	
(4) 英語の能力	1	2	3	4	→	
(5) 問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	→	
(6) 文章読解・表現能力	1	2	3	4	→	
(7) プレゼンテーション能力	1	2	3	4	→	
(8) コミュニケーション能力	1	2	3	4	→	
(9) コンピュータ活用能力	1	2	3	4	→	
(10) 国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	→	
(11) リーダーシップ	1	2	3	4	→	
(12) チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	→	
(13) 高度な専門的知識と研究能力	1	2	3	4	→	
(14) 専門的職業人に必要な高い能力	1	2	3	4	→	

■【静岡大学学部卒業生にお聞きします】

Q17　本大学院に学部から継続して進学した理由を記入してください。

■その他

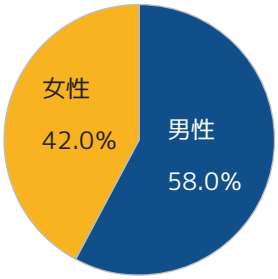
Q18　教育・各種支援等について、ご要望等がありましたら自由に記入してください。

これで終了です。ご協力ありがとうございました。

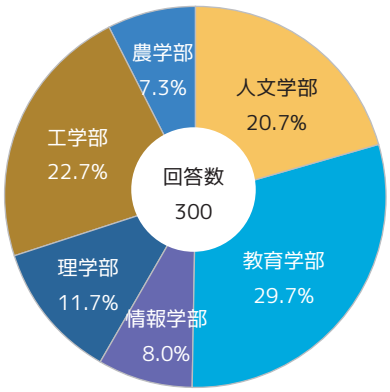
回答者の属性

アンケート票送付対象：平成 21 年度卒業生全員（卒業後３年目）
送付数：1,899 件　不達数：86 件　回答数：300 件
回収率：16.5%（不達数を除いた回収率：学部別内訳は下記「学部別回収率」参照）

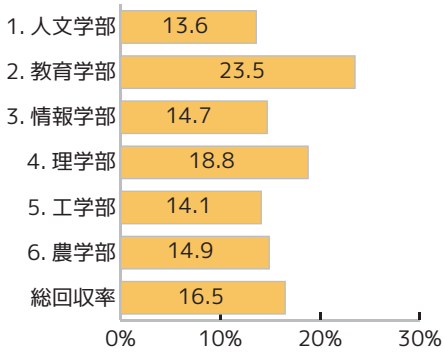
回答者の性別



所属していた学部

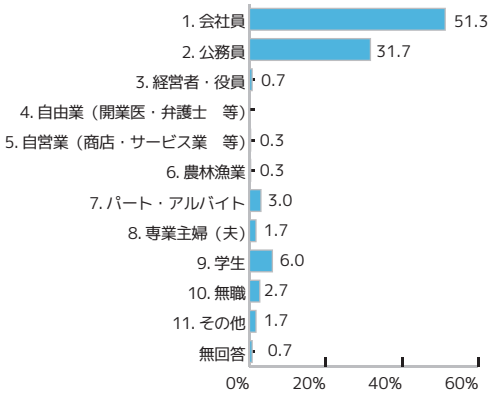


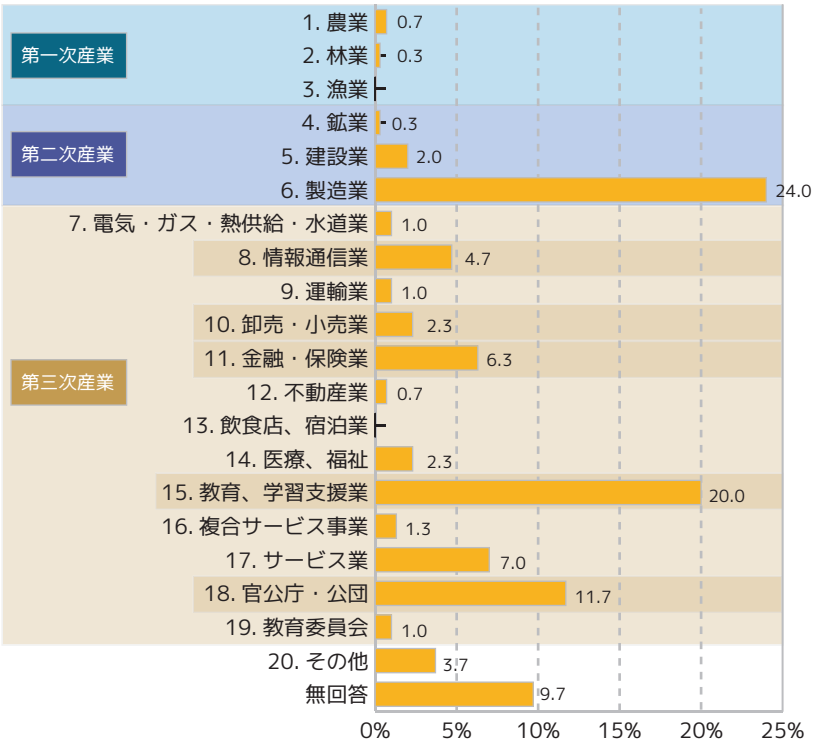
学部別回収率（%）



※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

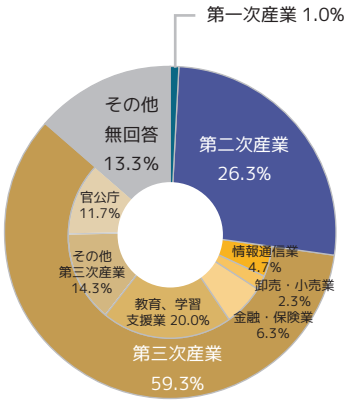
回答者の現在の職業





20. その他の内訳
・大学院生－５件　・研究職－１件　・無職－１件

回答者の業種（大分類）

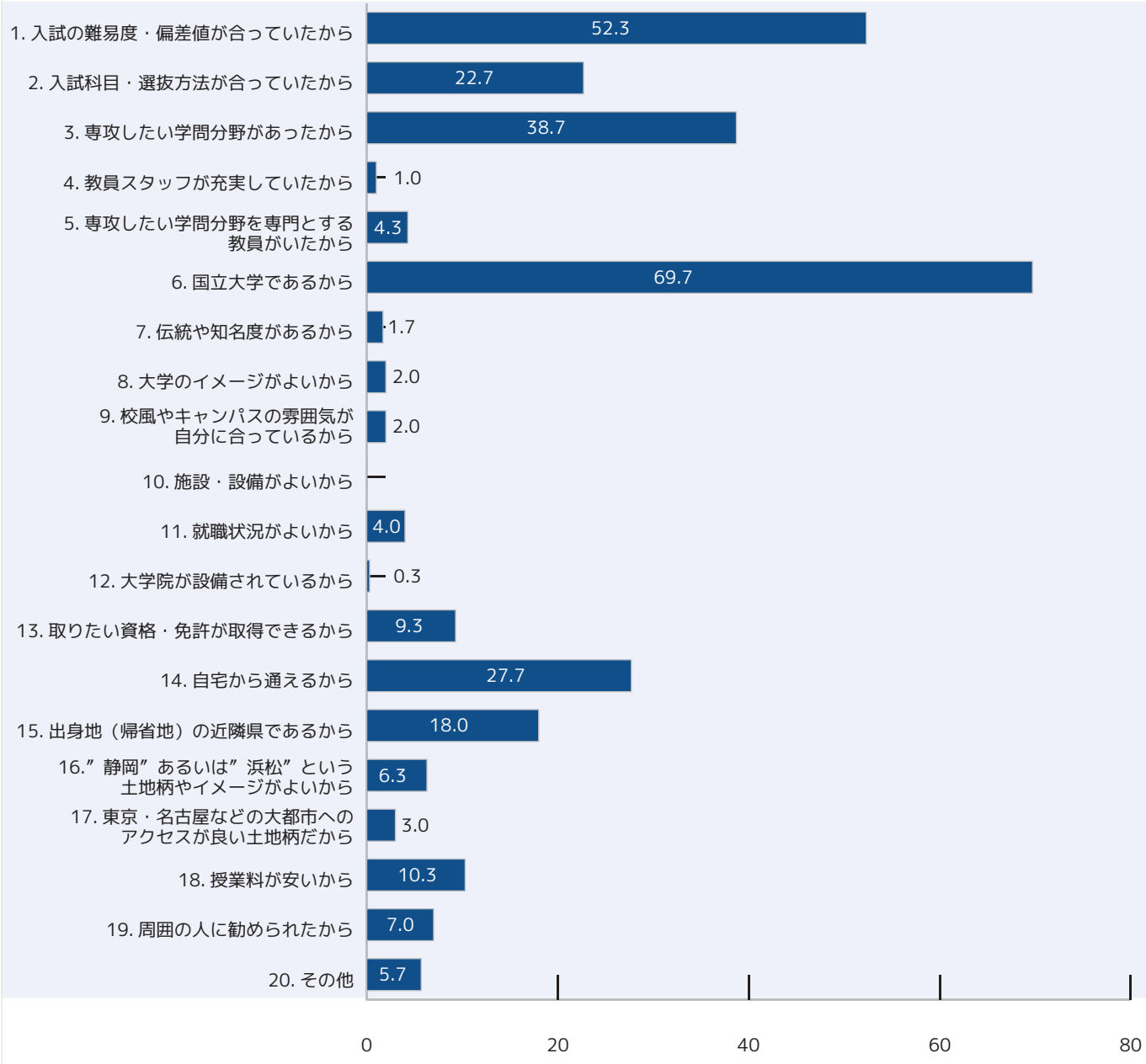


クロス集計用業種分類　業種により回答数が０のものがあるため、左円グラフ［回答者の業種（大分類）］をクロス集計用の業種とする

静岡大学を選択した理由（複数回答可）

「国立大学であるから」（69.7%）が最も高く、「入試の難易度・偏差値が合っていたから」（52.3%）が次ぐ。

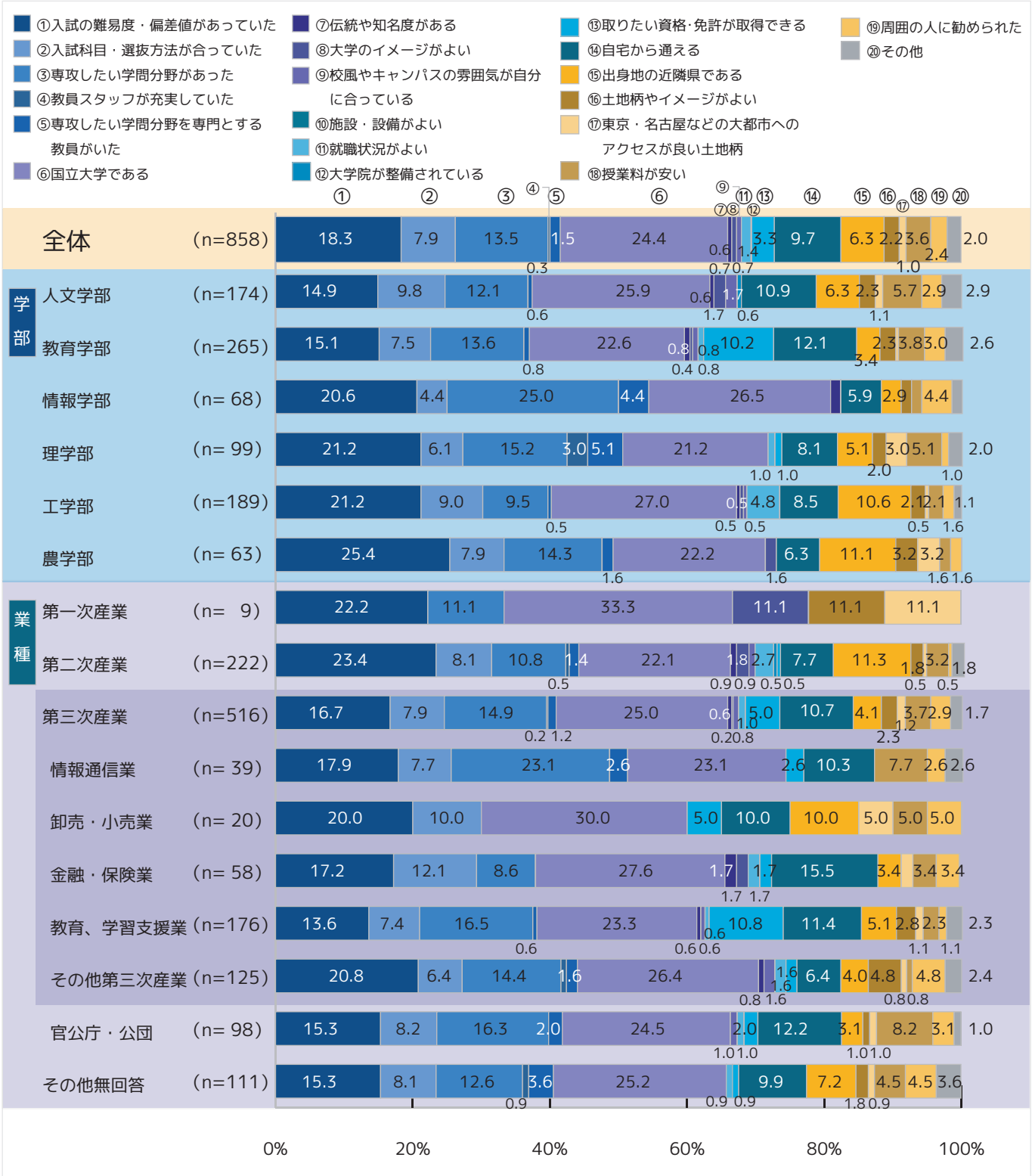
回答者 300 人＝100



その他

- 夜間希望だったから (人文学部)
- 社会人であったので夜間主が希望 (人文学部)
- 静岡の教員になるなら地元の情報や基盤を得やすいと思ったから。(教育学部)
- 静岡市の教員になるために静岡市の教育を学びたかったから (教育学部)
- 教職課程を取り教員となるため (工学部)
- 出身地だから (教育学部)
- 出身地の県の大学だから (理学部)
- そこの研究室に入りたいと思える先生がいた (情報学部)
- 大学寮があったから (人文学部)
- 部活動のレベルが自分にあっていると考えたから (教育学部)
- やりたい部活があったから。(教育学部)
- 残念ながらスベリ止めで、しかたなく。正直入る前はがっかりしてた。(教育学部)
- 第一志望の大学からのすべり止め (人文学部)
- 姉がいたから (理学部)
- 静岡県が工業に強いイメージがあったから (工学部)
- センター試験の点数がちょうど良かったから (人文学部)

静岡大学を選択した理由（複数回答可）

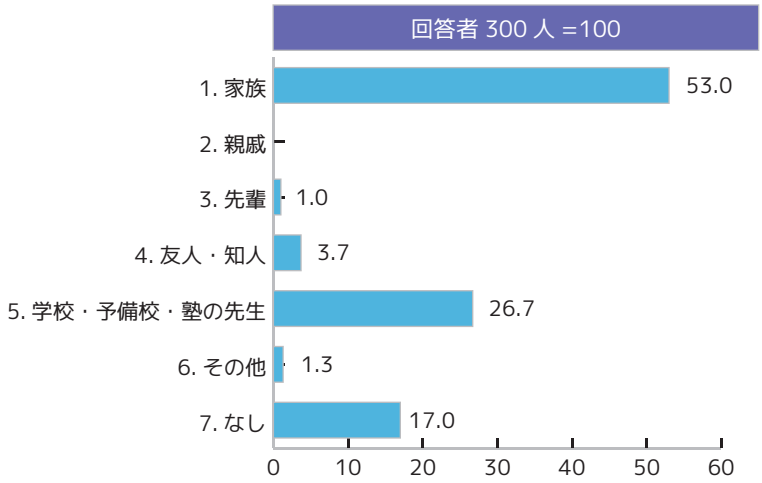


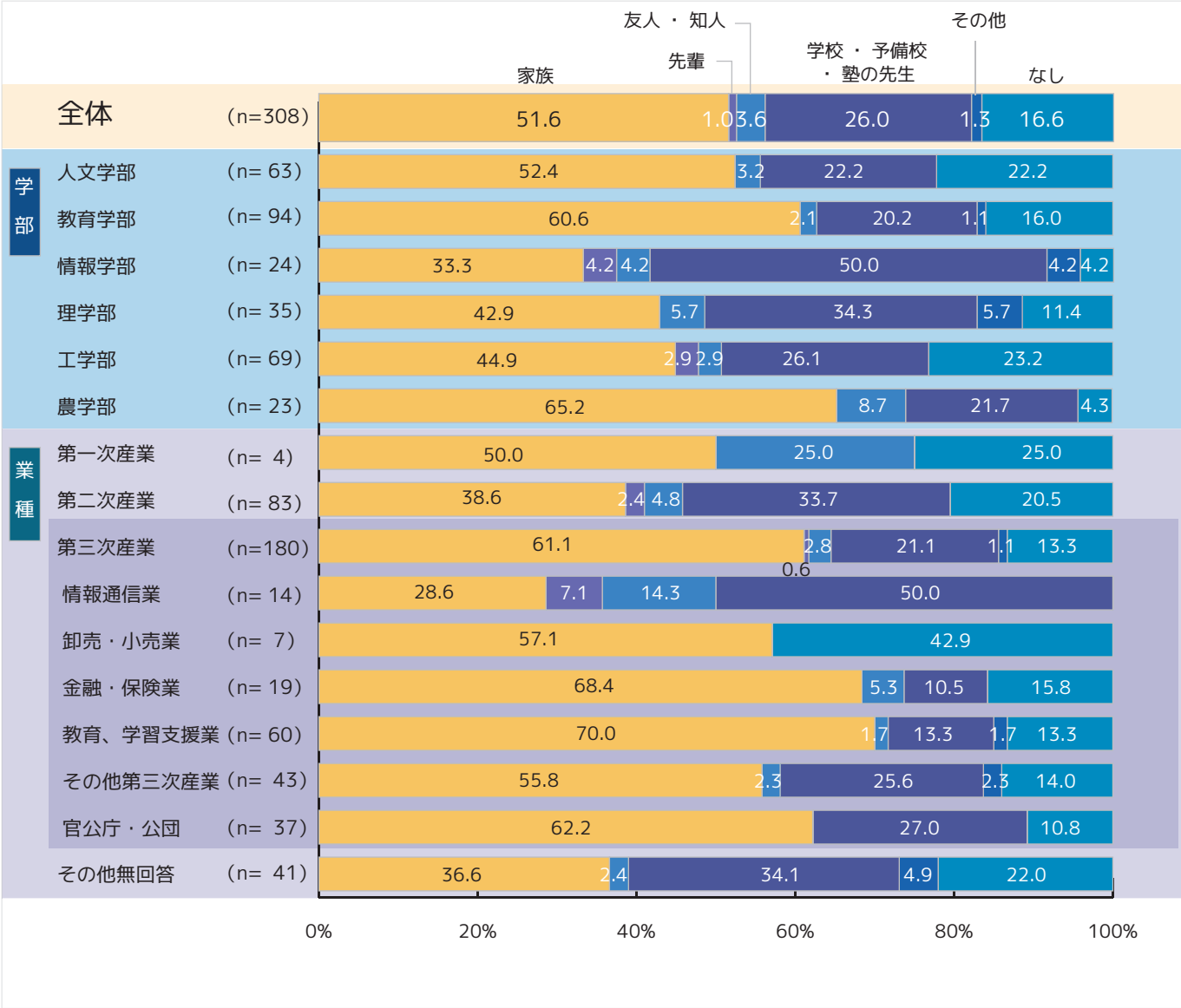
進学先を検討する上で最も相談した人

全体でみると「家族」と回答した割合が最も高い。

解　説

- 全体では「学校・予備校・塾の先生」の回答割合が２番目に高い。
- 「親戚」「先輩」「友人・知人」の回答割合は低い。
- 学部別でみると、「情報学部」では「学校・予備校・塾の先生」（50.0%）の回答割合が１番高い。



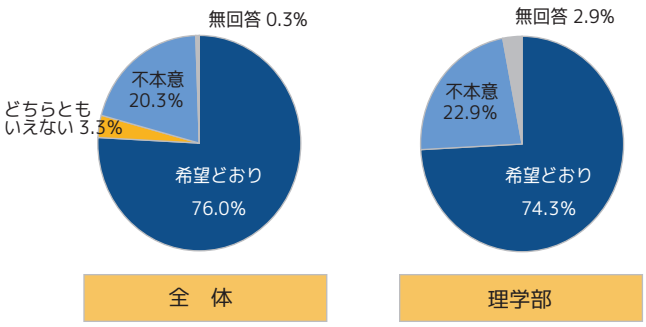


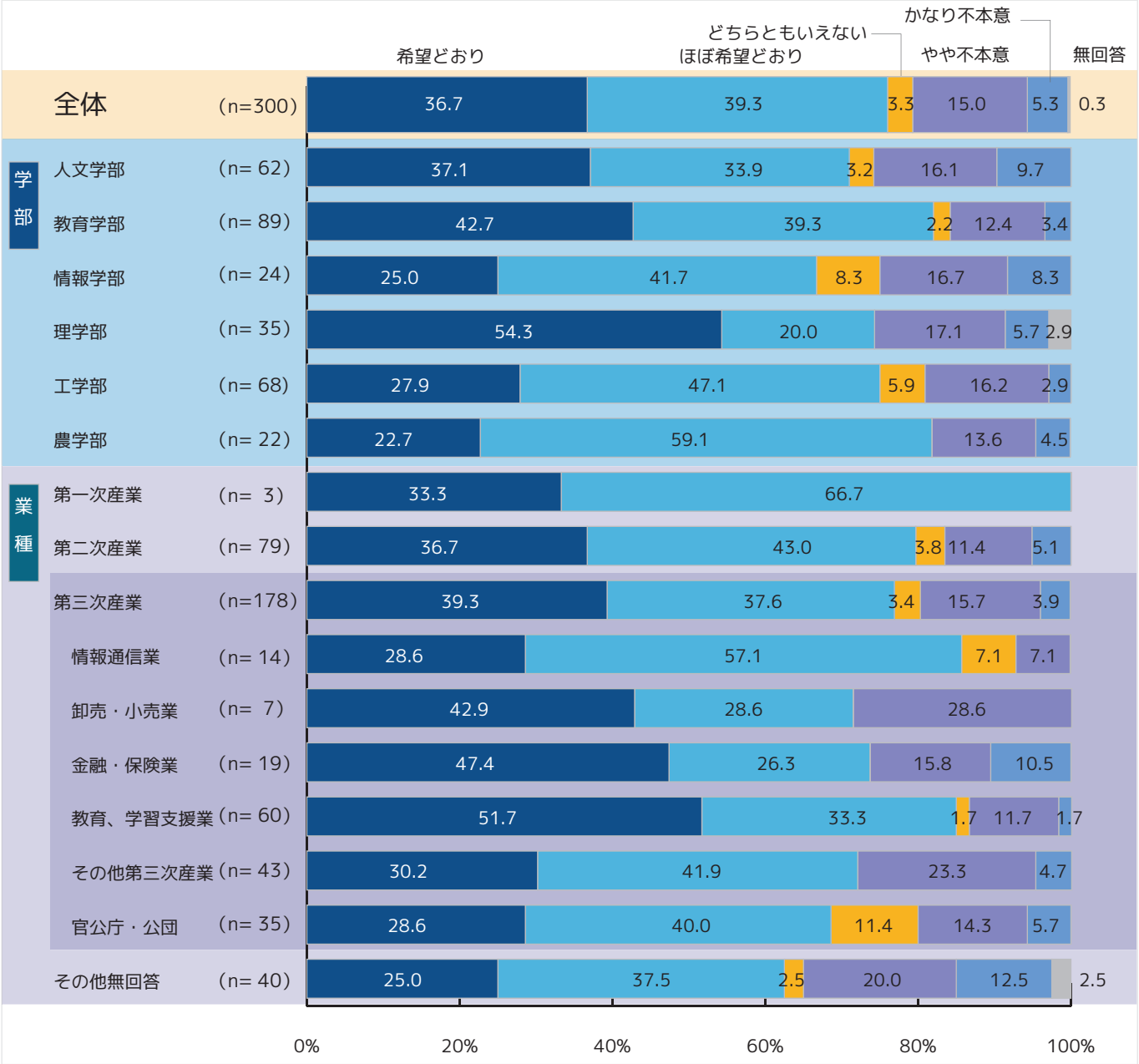
静岡大学への入学の希望度合い

全体でみると「希望どおり」の回答割合は 36.7%で、「ほぼ希望とおり」との合計は 76.0%にのぼる。

解　説

- 全体における「やや不本意」「かなり不本意」の合計は 20.3%。
- 学部別では、「理学部」において「希望どおり」の回答割合が 54.3%と最も高い。



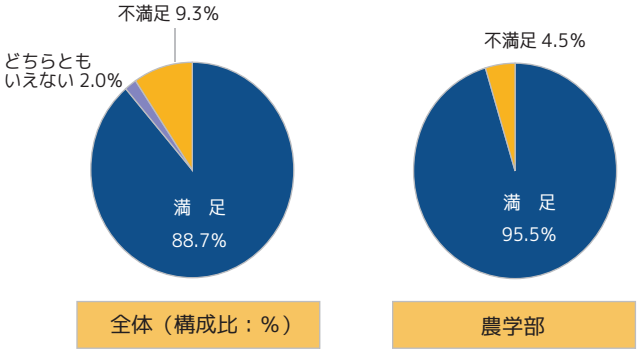


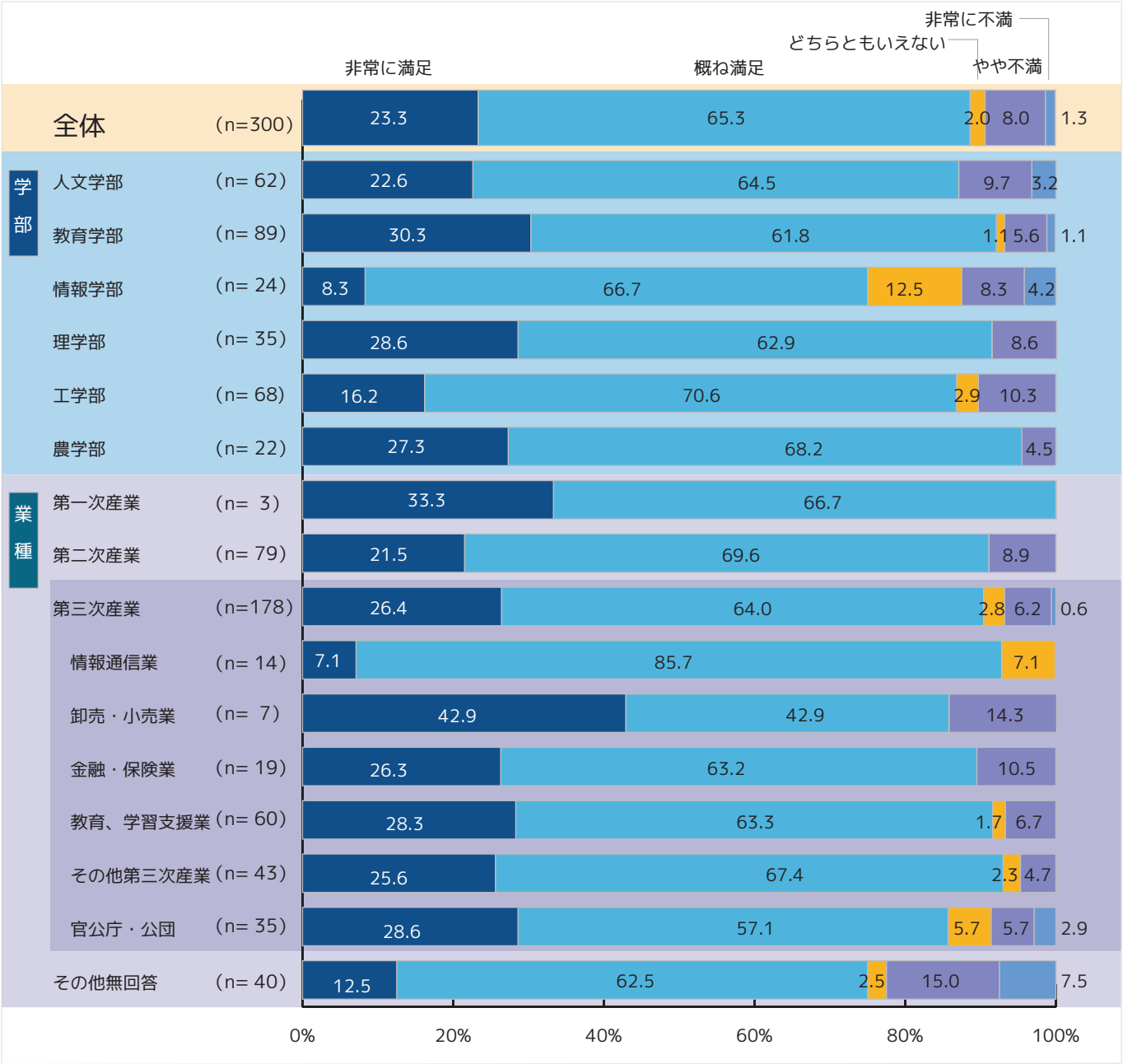
静岡大学の学生生活について総合的な満足度

全体でみると「非常に満足」の回答割合が 23.3%で、「概ね満足」との合計は 88.7%。

解　説

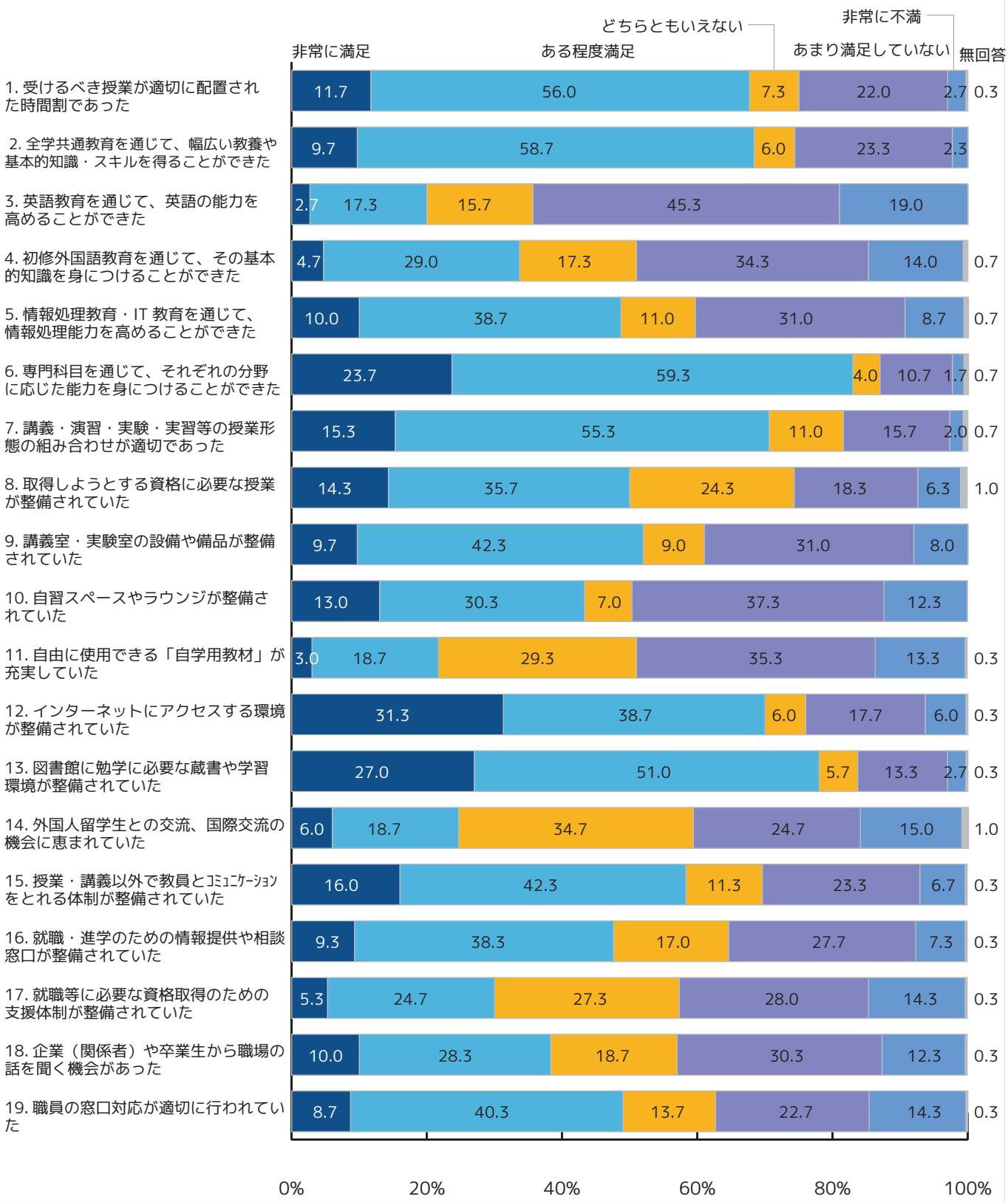
- 学部別でみると、教育学部において「非常に満足」の回答割合が最も高く、「非常に」と「概ね」満足の合計は、農学部で最も高い。





静岡大学の学生生活の各項目についての満足度

肯定的回答割合は、「専門科目を通じてそれぞれの分野に応じた能力を身につけることができた」（83.0%）、「図書館に勉学に必要な蔵書や学習環境が整備されていた」（78.0%）において高い。

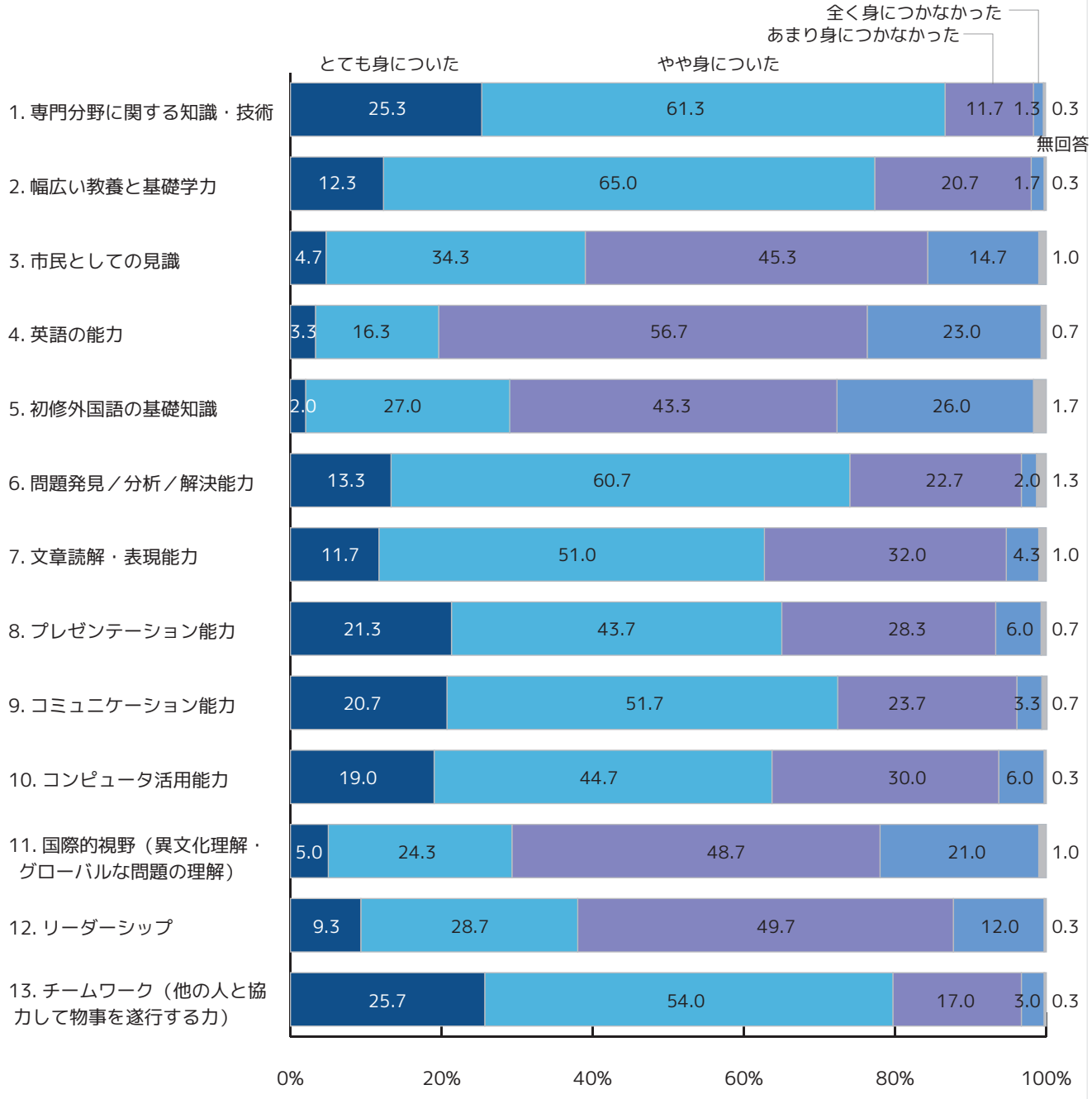


学生生活を通じて身につけることができたと思う能力

肯定的回答の上位は、「専門分野に関する知識・技術」（86.7%）、「チームワーク」（79.7%）、「幅広い教養と基礎学力」（77.3%）の順。

解　説

否定的回答の上位は、「英語の能力」（79.7%）、「国際的視野」（69.7%）、「初修外国語の基礎知識」（69.3%）の順。なお、「初修外国語の基礎知識」で「全く身につかなかった」が 26.0%と高いことが目立つ。

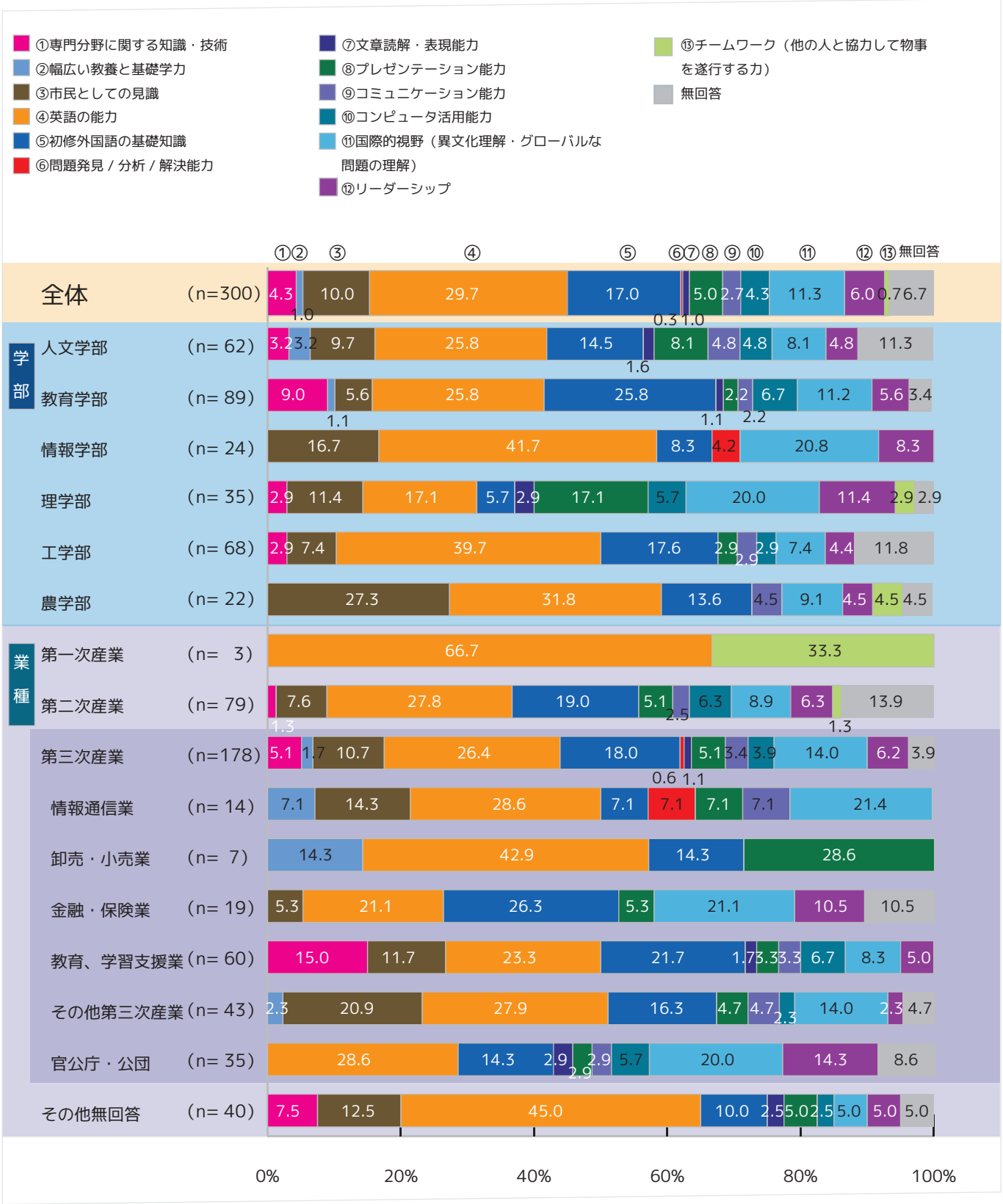


学生生活の中でもっと身につけたかったと思う能力（複数回答可）

全体でみると、「英語の能力」(15.4%)、「専門分野に関する知識・技術」(12.9%)、「プレゼンテーション能力」（11.6%）の順に回答割合が高い。
「学生生活を通じて身につけることができたと思う能力」の問いでは、「専門知識に関する知識・技術」は肯定的回答割合が最も高い（86.7%）が、もっと身につけたかったと感じている学生が多い。

学生生活の中で最も習得できなかったと思う能力

全体でみると、「英語の能力」（29.7%）、「初修外国語の基礎知識」（17.0%）、「国際的視野」（11.3%）の順に回答割合が高い。
「学生生活を通じて身につけることができたと思う能力」の問いの否定的回答割合においても、「英語の能力」が最も高い。（79.7%）



学生生活の中で最も習得できなかったと思う能力（理由）

専門分野に関する知識 ・ 技術

- 現場の実態や現場で必要な能力（授業のつくり方）が身につかなかった。(教育学部)
- 現在、国語の教員をしているが、高校の国語と大学の国語の違いが大きく、大学での授業を活かせていない。古典の知識､様々な評論を学ぶ機会が必要。(人文学部)
- 知識はある程度身に付いていますが、技術をもっと身に付けておきたかったと痛感しています。低学年時の実習に真剣に取組み積極的に学んでおく必要があったと思っています。仕事で、ガラス器具の使い方、有機合成分析を生徒に教える時に、だいたいの事しか分からず、細かい所は今も勉強しています。(工学部)
- 教科書通りの理想論の学習は行ったが、それでは社会に出て役に立たなかった。特に電気回路は、理論的に解決する事はほぼなく、問題発見能力や応用力がとても重要であった。実際の製品を分解するなど、今現在現場で使われている技術を習得したかった。(工学部)

市民としての見識

- 勉強（産学）ばかりに目がいき、政治、経済の動き等に敏感でなかった。(教育学部)
- 静岡県あるいは浜松市を意識させるような授業があったという記憶がない。「静大生」という言葉は県内どこでも通じたので、意識させられたのは、そういう瞬間ぐらい。(情報学部)

英語の能力

- 英語が社会に出てから必要になることが分かっていながらも、あまり力を入れて学んでこなかったから。(教育学部)
- 英語の授業が少ないと思う。(工学部)
- 自分も努力していない。(人文学部)
- 英語を使用する頻度が非常に少ない。英語の重要性を感じる機会が少ない。英語ができないことに危機感を持つような環境でない。(工学部)
- 実践がなかった (工学部)
- 英語で何かをする目的が無かったので、学習自体の気がすすまなかった。目的がないと英語学習は面白いものではないので辛い。(農学部)
- 日常に必要な英語能力として学んでおらず、必修科目として勉強していたため。身につけようという心掛けがなかったため。(情報学部)

初修外国語の基礎知識

- 授業時間が短く､学んだ内容が実践的な内容ではなかったため。(農学部)
- 体系的に理解ができなかった｡勉強に時間が割けなかったこと。(教育学部)
- 海外で働く機会があるので、初修外国語で英語以外の言語を学びたかった。(工学部)
- 単に単位修得のための学習になってしまい、その後の生活に活かされていないから。(教育学部)

プレゼンテーション能力

- 卒業後、プレゼンをやってみて、情報が足らない事やプレゼン（話の構成）がうまくできないことに直面したから。(理学部)
- プレゼンテーションを行う機会が少なかったため。(理学部)

コミュニケーション能力

- 大学ではいつも仲の良い友人といたため、その他の人との関わりが少なかったため。(工学部)
- 授業終わったら友人と遊びに行くこともなく、即帰宅していました。もっと友人との時間をとるべきだった。(人文学部)

コンピュータ活用能力

- コンピュータを使う機会がほとんどなかった｡(理学部)
- 基本的なことのみしか活用できなかった。(教育学部)

国際的視野（異文化理解等）

- 異文化理解に興味はあったが、特別に活動などをする場がなかった、見つけられなかったから。(教育学部)
- 外国人と会話をしたり、外国・世界の文化等と交流したりする機会を十分に持てなかったため。(工学部)

リーダーシップ

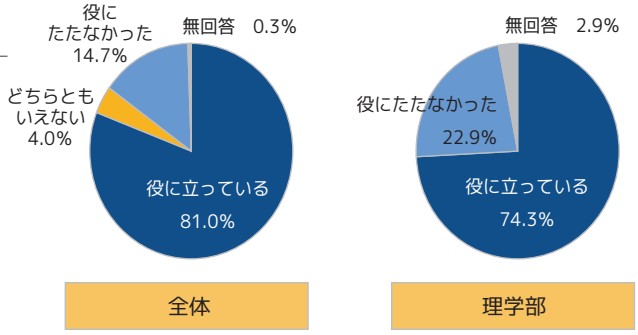
- 普段の授業で培われるものではないし、サークルなどの団体にも所属していなかったため。(人文学部)
- 授業を受けてテストを受ける、というだけの生活ではリーダーシップを発揮する場がなく、ほとんど身についていないと思うから。(理学部)

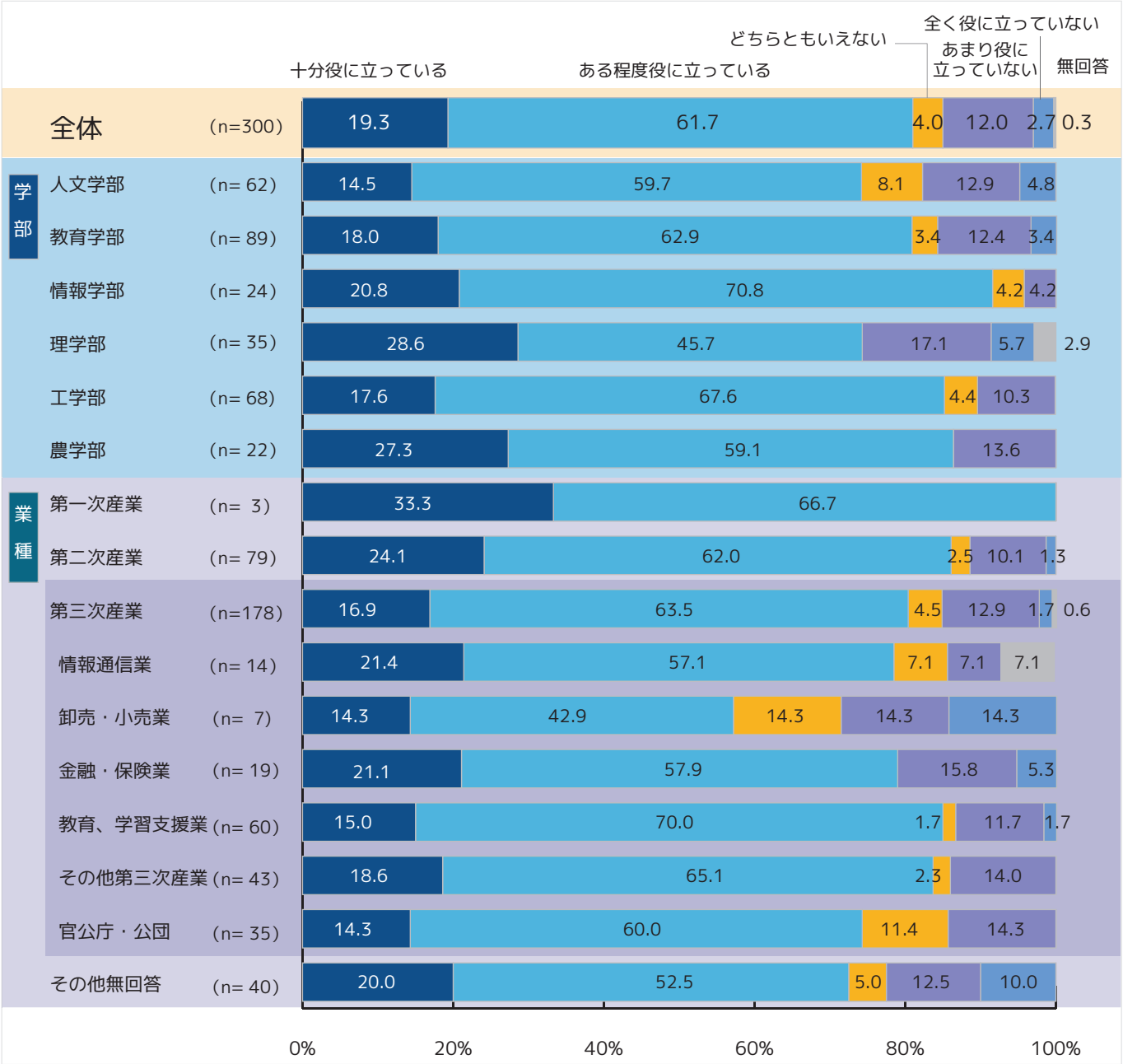
仕事や日常生活の中で静岡大学で学んだ事や経験の総合的な役立ち度

全体における肯定的回答割合は 81.0%であるが、「十分役に立っている」の回答割合は 19.3%にとどまる。

解　説

学部別にみると、「理学部」において「十分役に立っている」の回答割合が他学部に比べ高いが、「あまり役にたっていない」「全く役に立っていない」の各割合も比較的高い。



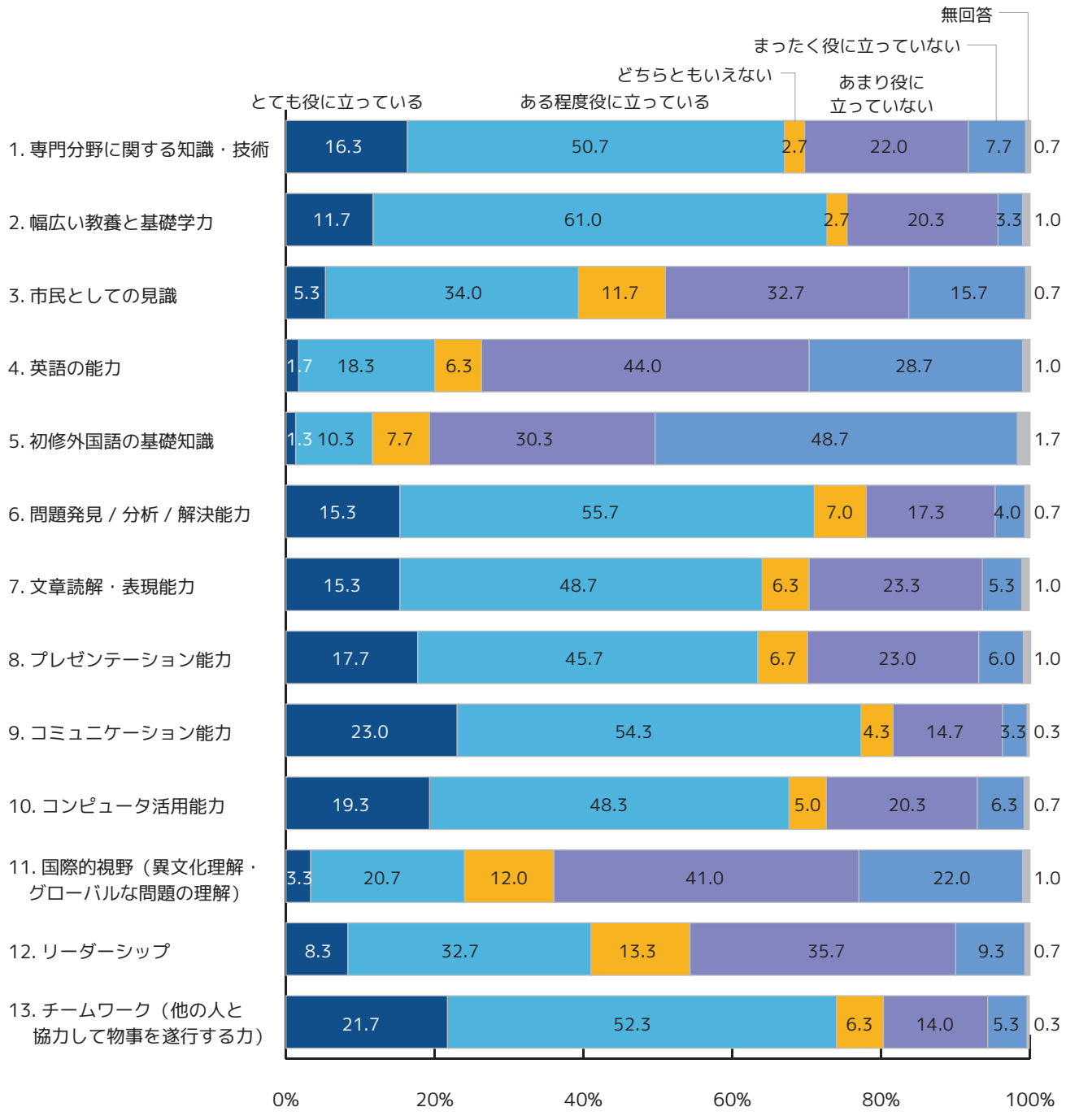


静岡大学で学んだことや経験が役に立っていると感じること（項目別）

肯定的回答割合は、「コミュニケーション能力」（77.3%）、「チームワーク」（74.0%）、「幅広い教養と基礎学力」（72.7%）の順に高い。

解　説

否定的回答割合は、「初修外国語の基礎知識」（79.0%）、「英語の能力」（72.7%）、「国際的視野」（63.0%）の順に高い。これらは、順不同ながら「学生生活を通じて身につけることができたと思う能力」と同じ。

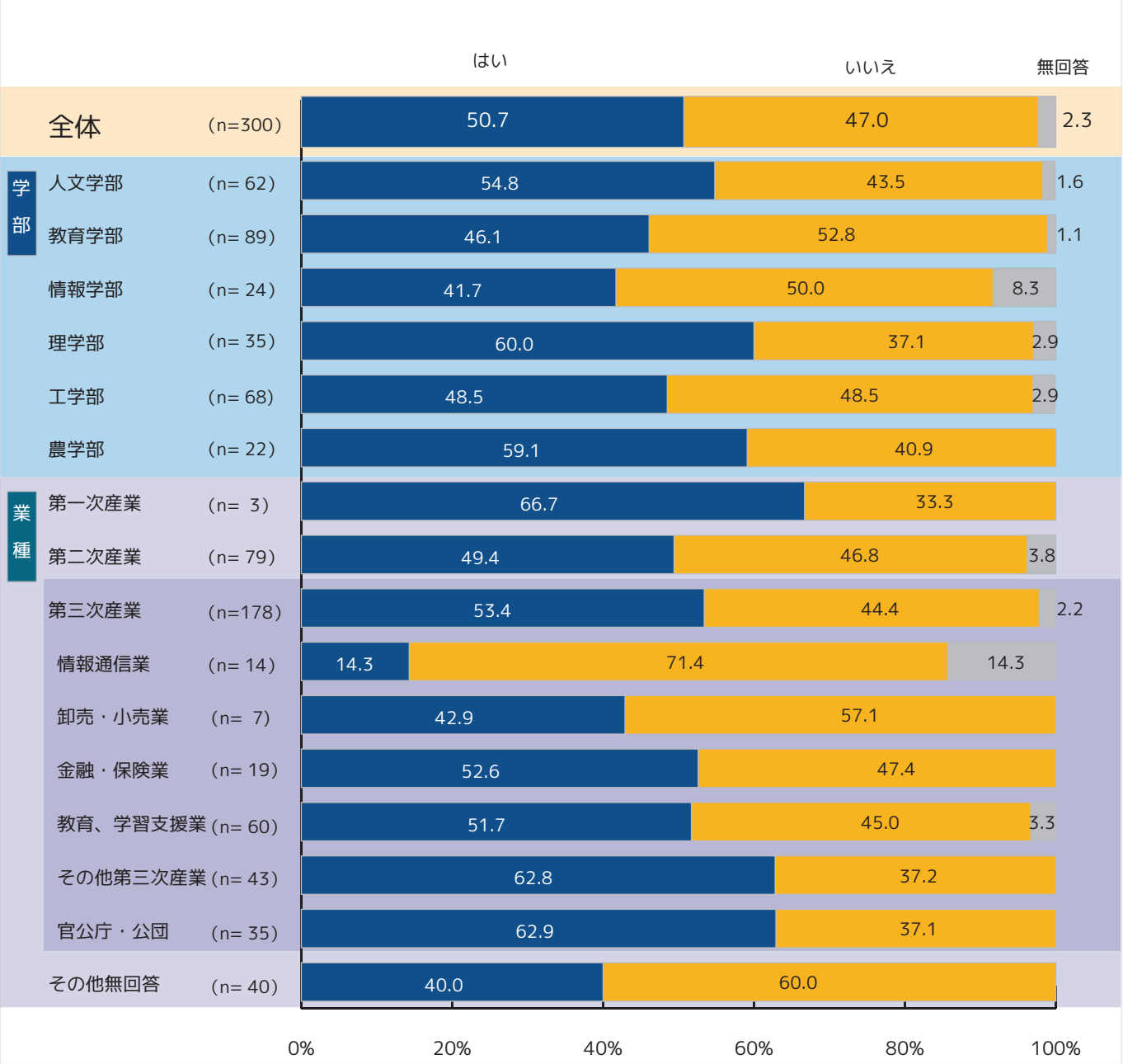


静岡大学で再び学ぶ機会を持つ希望の有無

全体でみると、「はい」（50.7%）が「いいえ」（47.0%）を若干上回る。
大学院修了生の結果と比べ、「はい」の回答割合（修了生：46.7%）は若干高い。

解　説

学部別でみると、「はい」の回答割合は「理学部」（60.0%）、「農学部」（59.1%）の順に高く、「いいえ」の回答割合は「教育学部」（52.8%）、「情報学部」（50.0%）の順に高い。



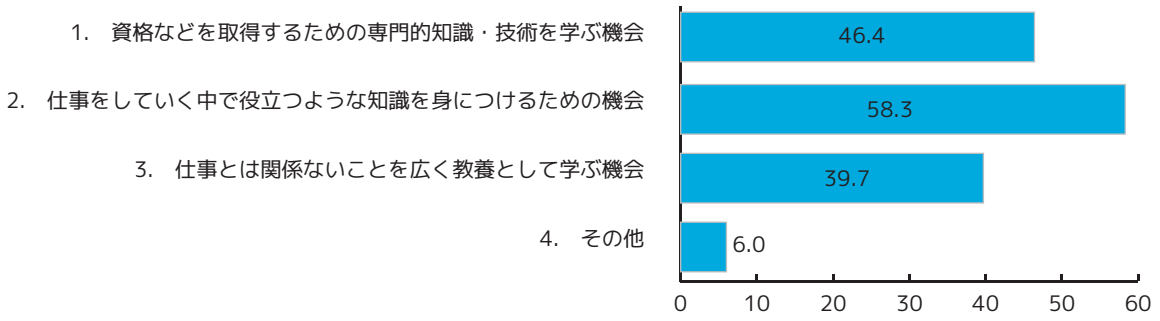
静岡大学で再び学びたい機会の内容（希望者のみ回答、複数回答可）

本学で再び学びたい内容としては、「仕事で役立つような知識を身につける機会」の回答割合が高い。

解　説

「資格等を習得するための知識・技術」について学びたいと考えている卒業生も 46.4％にのぼる。

回答者数 151 人 =100



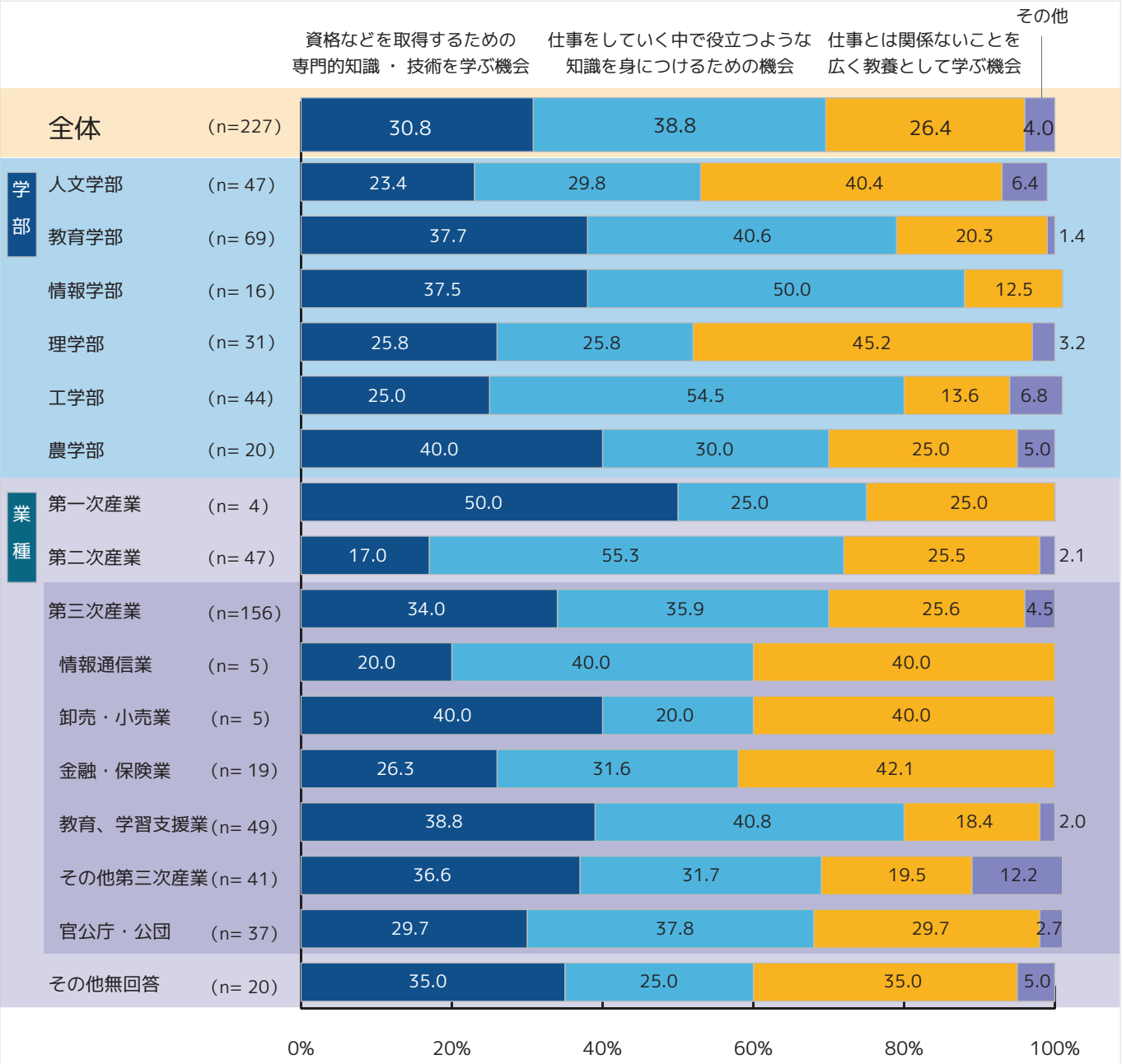
その他

- より実用的なパソコン操作能力を身に付ける機会 (教育学部)
- 教授のもとで深く見識を深めるための機会 (工学部)
- 研究に必要な能力や議論の機会を特定の教員と持ちたい (理学部)
- 研究者として (人文学部)
- 思い出がたくさんある場所でもう 1 度学ぶ事ができたら嬉しいので (人文学部)
- 今まで学んだ事をよく深く学びたい (人文学部)

静岡大学で再び学びたい機会の内容（希望者のみ回答、複数回答可）

解　説

- 学部別にみると、「資格等を習得するための知識･技術」の回答割合は、「農学部」（40.0%）が最も高い。「仕事で役立つような知識」の回答割合は「工学部」（54.5%）が最も高く、「仕事とは関係ない教養」の回答割合は「理学部」（45.2%）が最も高い。
- 業種別では、「第二次産業」において「仕事で役立つような知識」の回答割合（55.3%）が高い。

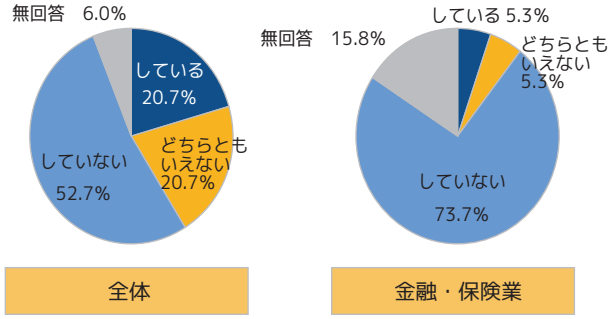


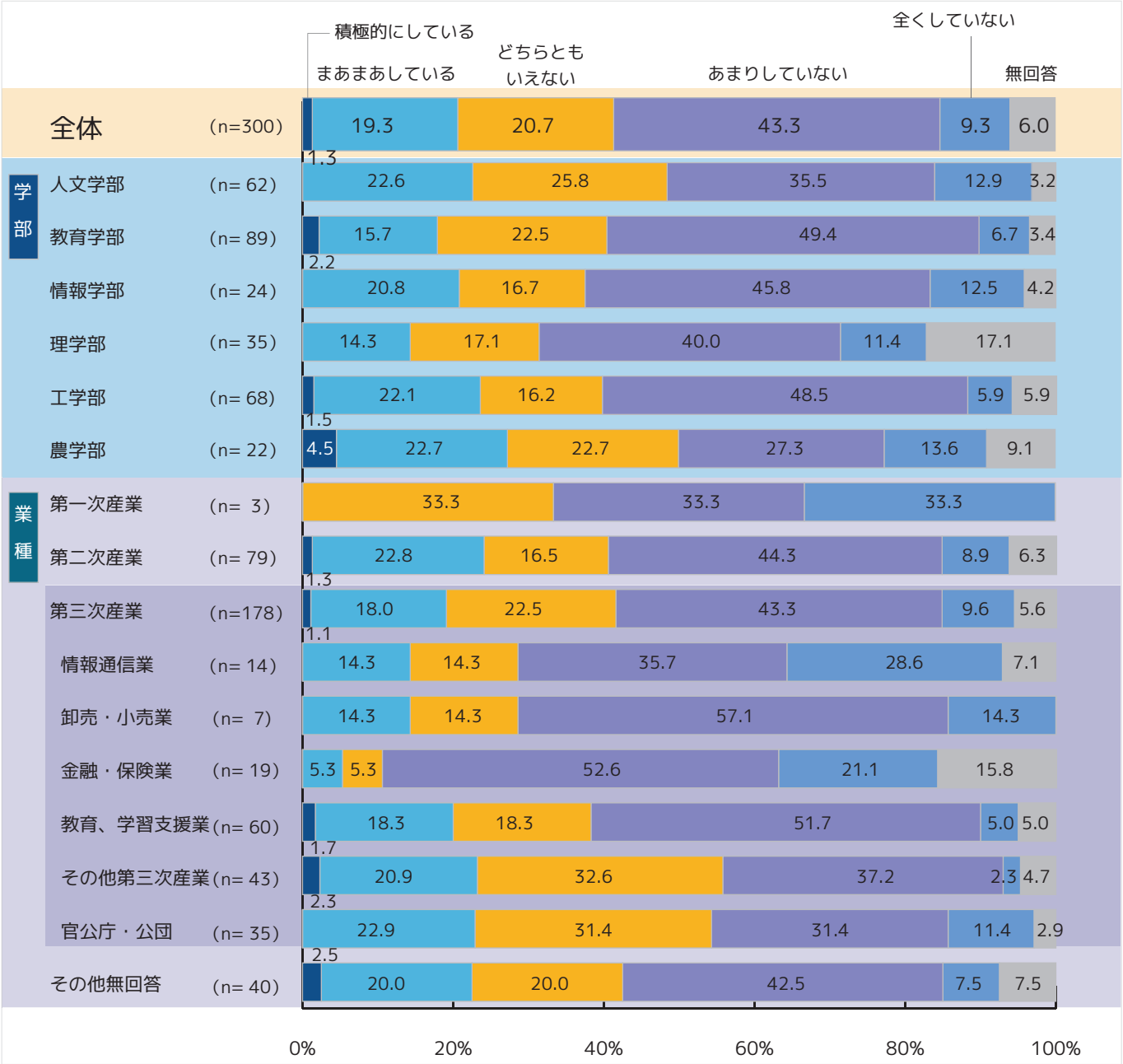
静岡大学の学外向け（企業や社会など）ＰＲ活動について

全体でみると、否定的回答割合が 52.7%と過半数を超える。
「積極的にしている」は僅か 1.3%にとどまる。

解　説

- 学部別では、肯定的回答割合は「農学部」（27.2%）が、否定的回答割合は「情報学部」（58.3%）が最も高い。
- 業種別でみると、「金融・保険業」における否定的回答割合（73.7%）が高い。





静岡大学の学外向け（企業や社会など）ＰＲ活動について

ＰＲしていると思われる点

- ホームページの内容が充実している点。(理学部)
- 先生方による高校等での出張講義が行われている点 (人文学部)
- サイエンスカフェなど (理学部)
- 企業説明会等 (工学部)
- 静岡大学の先生は、企業と共同研究をよくされていると思う。地域連携プロジェクトで PR をしている (農学部)
- テクノフェスタの開催 (工学部)
- 創造教育のロボットコンテストは、メディアに取り上げられているところをよく見かけた。(工学部)
- 静岡県内で「静大卒」と言えば、基本的に悪くない印象を持ってもらえる点。(情報学部)
- 公開講座、市民開放授業等。(人文学部)
- 時々静岡新聞で静岡大学の話題を目にするから (人文学部)
- インターンシップなどの職業体験 (人文学部)
- 企業との共同研究をして PR をしている。(教育学部)

ＰＲのためのアイデア等

- 優れた分野を一つでもつくる。県外に出ると、静大といっても国立しか特徴がない。(人文学部)
- 研究内容について一般に公開する機会を増やす。(農学部)
- 広報が十分ではない。他企業との共同研究等を積極的に行い PR したらよい。(農学部)
- 卒業生が入学希望者（高校生）に静大の PR をする機会をもつ。(教育学部)
- 静大ならではの特長をつくればいいのかなと思う。(教育学部)
- メディア発信。東海大地震、富士山噴火は注目度が高いと思う。(人文学部)
- 積極的なインターンシップの組み入れなど。(人文学部)
- 市民がもっと気軽に利用できる環境づくり。大学施設の利用推進。(工学部)
- インターネットを通じて以外に、静岡大学のことを聞いたことがない。他の媒体も使うべきだと思います。(教育学部)
- 静大独自の学問分野や地域貢献を更に行うこと。他の国立大学との違いをアピールする。(人文学部)
- 規模の大きなボランティア活動を企画したり、活動している学生を支援してみては？(工学部)
- 特色のある、また、優れた結果を残している研究内容をもっと強くアピールすべき。この大学で何ができるのか、できないかをはっきりすべき。(工学部)
- 過去の功績や最近の研究成果について、学外はおろか学生ですら知らないことが多いので、HP 以外でもアピールしていく必要があると思う。(工学部)
- 若年層に向けた、本格的かつ楽しめる「サイエンスカフェ」のようなイベント。高校生を対象とした、一定期間の研究インターンのような制度の実施。(理学部)
- まずは、何か PR できるものを探したり伸ばしたりして、他の大学にはない、静大の特徴をつくりだす。(教育学部)
- より幅広い職種の企業に静大学生の良さを PR することは必要だと思いますが、大学の知名度を上げる為の社会への PR（CM など）はあまり行う必要は無く、社会貢献活動を通して PR することが良いと思います。(教育学部)
- 卒業生を通してその企業の人事広報の方々と積極的に交流する。(工学部)
- 県内にはアピールは十分だと思う。県外企業にもっとアピールしてほしい。国立ということも知られていない。(人文学部)
- 静岡大学として PR したいものを学生の活動を通じて発信できるような環境を整備する。(理学部)
- オープンキャンパスや学祭以外に学術的な内容の出展物を出すイベントで研究内容や強みをアピール (工学部)
- 工学部系では、歴史・実績共に豊富だと思うので、その点を看板として大々的に掲げると良いと思う。(情報学部)
- HP をもっと活用したら良いと思う。(理学部)
- 街おこしに協力したり、地元企業との連携などを積極的に行ったほうがいいと思います。(情報学部)
- 地元企業との協働、地元プロスポーツチームとの協働、テレビ CM、地元自治体と協同で講座開講。（生涯学習）(教育学部)
- 地元企業と連携して何かやっている様子だが、もっと幅広く、行ってほしい。（年齢層、業種等含め）(理学部)
- 30 ～ 50 代に向けた学びの場を設け、教養教育を中心とした学習機会を展開、PR すること。(教育学部)

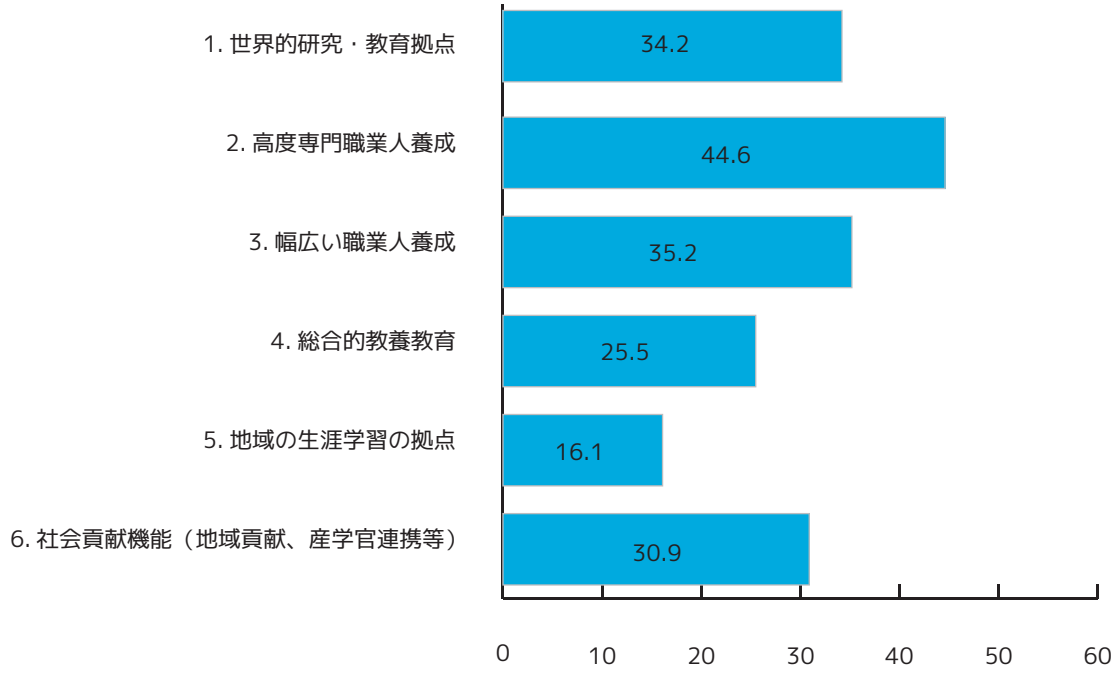
静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）

「高度専門職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「世界的研究・教育拠点」の順に高い。
この上位３つは、大学院修了生のアンケート結果と同じ。（順位は相違あり）

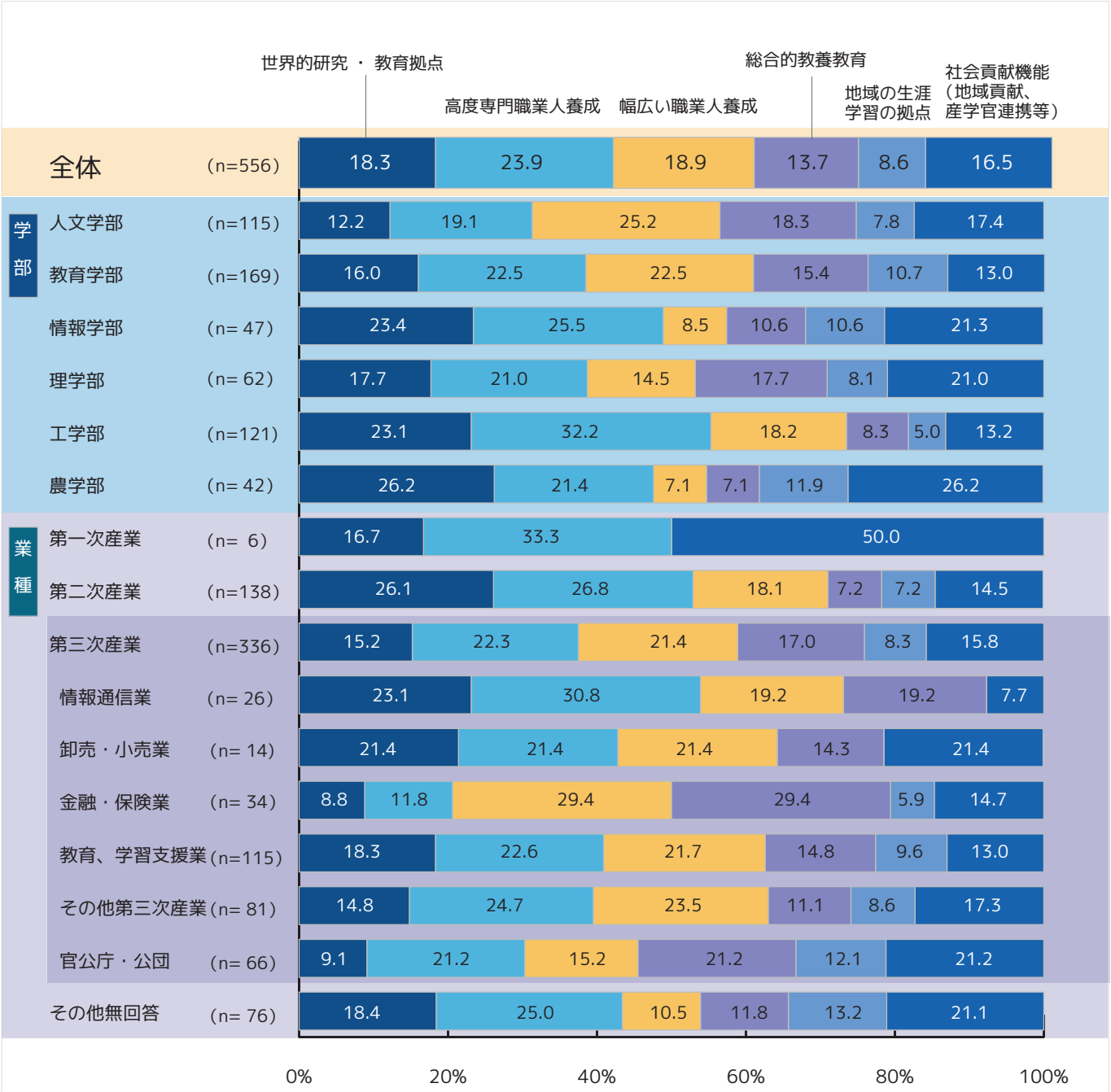
解　説

- 学部別にみると、「世界的研究・教育拠点」は「農学部」（26.2%）、「高度専門職業人養成」は「工学部」（32.2%）、「幅広い職業人養成」は「人文学部」（25.2%）で高い。また、「農学部」において「社会貢献機能」の回答割合が高い。
- 「地域の生涯学習の拠点」は、全体でみると回答割合が最も低い。

回答者数 298 人 =100



静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）



静岡大学に関する意見や期待

改善要望について

- とても気持ち良く学べたキャンパスでした。現在社会人として働いている卒業生がお互いにコンタクトを取り合って関係し合える場があればいいなと思います。(SNS などではなく)(教育学部)
- 授業に関して、学生時代はあまり積極的な学習が出来なかったことが、社会人になってもっと真面目に取り扱っておけばよかったとよく思います。学生はいくら伝えてもなかなか伝わらない事が多いですが、やっぱり学生時代、学べる事はきちんと吸収しておくべきだと生徒達に理解させていって欲しいです。(工学部)
- 会社に入ってからは時間がないので、英語の勉強の時間や海外の人との交流をする場を設けるとよいと思います。(工学部)
- 就職して大学の大切さがわかることが多いと思う。それを大学生に知らせることができれば、自主的に取り組む生徒も増えるのではないか。(農学部)
- 静岡県内での知名度はあるが、全国規模での知名度は低いのでもっとアピールしていけばよいと思う。また、静岡県内以外の企業への就職支援にも力を入れて欲しい。アットホームな雰囲気や自然いっぱいのキャンパスはこれからも大切にしてほしい。(人文学部)
- ①サークルに所属していない学生にも他キャンパスとの交流の機会が設けられていればと思いました(在学中) ②東海地方だけでなく関東地方(もちろん全国各地でも)における知名度向上に努めていただきたいと思います。(情報学部)
- 教育実習の割合をもっと増やしてもいいと思う。大学の授業の中で学んだ事よりも実習で経験したことの方が教師を目指す人には役立つと思う。(教育学部)
- 在学中を通して、とりあえず卒業できれば就職できればよいと考えている人が多かったように思います。意識の低さは学生にも責任はありますが、学校として、学生のモチベーションを高める工夫が必要と感じます。受験後、大学に入った時が学力のピークでは、大学に行く意味はありません。資格を取得する為の講座を増やすなど、学生が一生懸命やろうと思える環境を作って欲しいです。(人文学部)
- 私生活を含め大変有意義な大学生活を送ることができました。また大学に帰ってきやすいような、還元できるような場があればいいなと思います。地元出身なので特に思うのですが、市民向けのイベント等を学校が中心になって告知等していかなければいけないと思います。(理学部)

今後の期待について

- 徹底した指導により、学生が一度は壁にぶつかる機会を創出してあげてほしい。人間的に大きく成長できるのが大学という場だと思いますので、今後も自立した学生を世に送り出して下さい。自分は静岡大学で学べて本当に良かったと思っています。(工学部)
- 静大で過ごした日々は大切な青春の１ページです。これからも大学らしい大学であり続け、学生に最後のモラトリアム期を満喫させてあげてください。学業でも部活でもバイトでも、何かに打ち込むことは時勢の糧になると思います。何かやりたいと思ったときに、手段があることが学生にとってはありがたいのではないでしょうか。偏差値や就職率も大事ですけれど、高校までのように縛りつけない、懐の深い大学であってほしいと思います。(農学部)

謝辞等

- 大学は、学生が自ら学ぶ所だというイメージを持っていたのですが、静岡大学は親切、丁寧に対応して頂いたと思います。講義で分からないところは、質問する時間、スペースが設けてあったり、(数学の広場など)分かりやすい講義になるように工夫してくださったり、就職のお世話をして頂いたり。ありがとうございました。(工学部)

「習得した能力の役立ち度」に関する考察

「学部卒業生アンケート調査」の問６は、学生生活を通じて身につけることができたと思う能力について聞いている。全体の集計結果は次の通りである。

身についた（「とても身についた」と「やや身についた」の合計）とする割合が最も高い能力は「専門分野に関する知識・技能」で 86.7%、低い能力は「英語の能力」19.7%や「初修外国語の基礎知識」29.0%である。

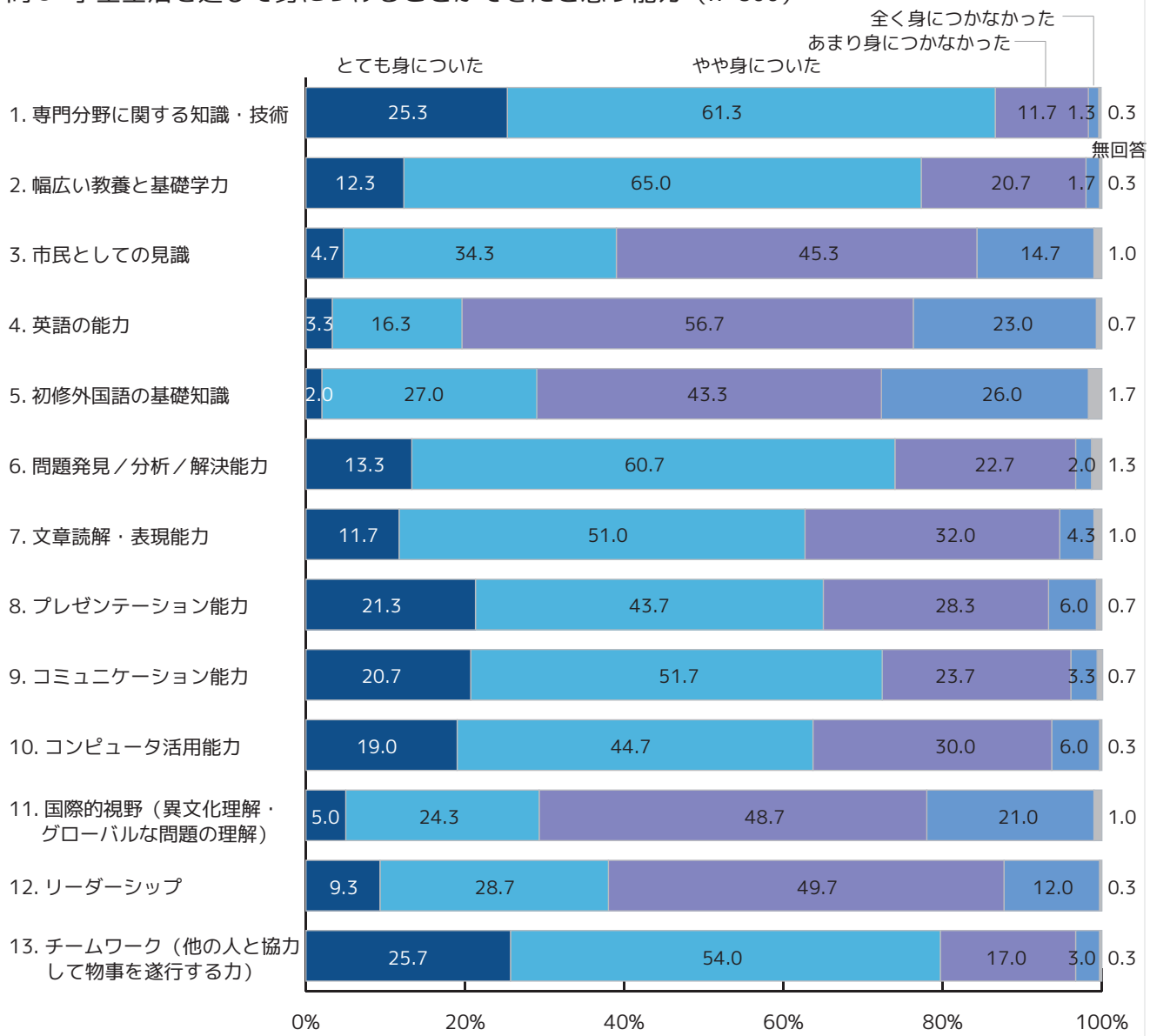
他方、問８では問６と同じ能力について、仕事や日常生活の中で、静岡大学で学んだことや経験がどの程度役立っているかについて聞いている。全体の集計結果は次ページの通りである。

役に立っている（「とても役に立っている」と「ある程度役に立っている」の合計）とする割合が最も高い能力は「幅広い教養と基礎力」の 72.7%で、最も低い能力は「初修外国語の基礎知識」11.7%である。

しかし、問８の集計結果は、その能力を身につけていない者の回答も含んでおり、身につけた能力がどの程度役立っているかを表していない。

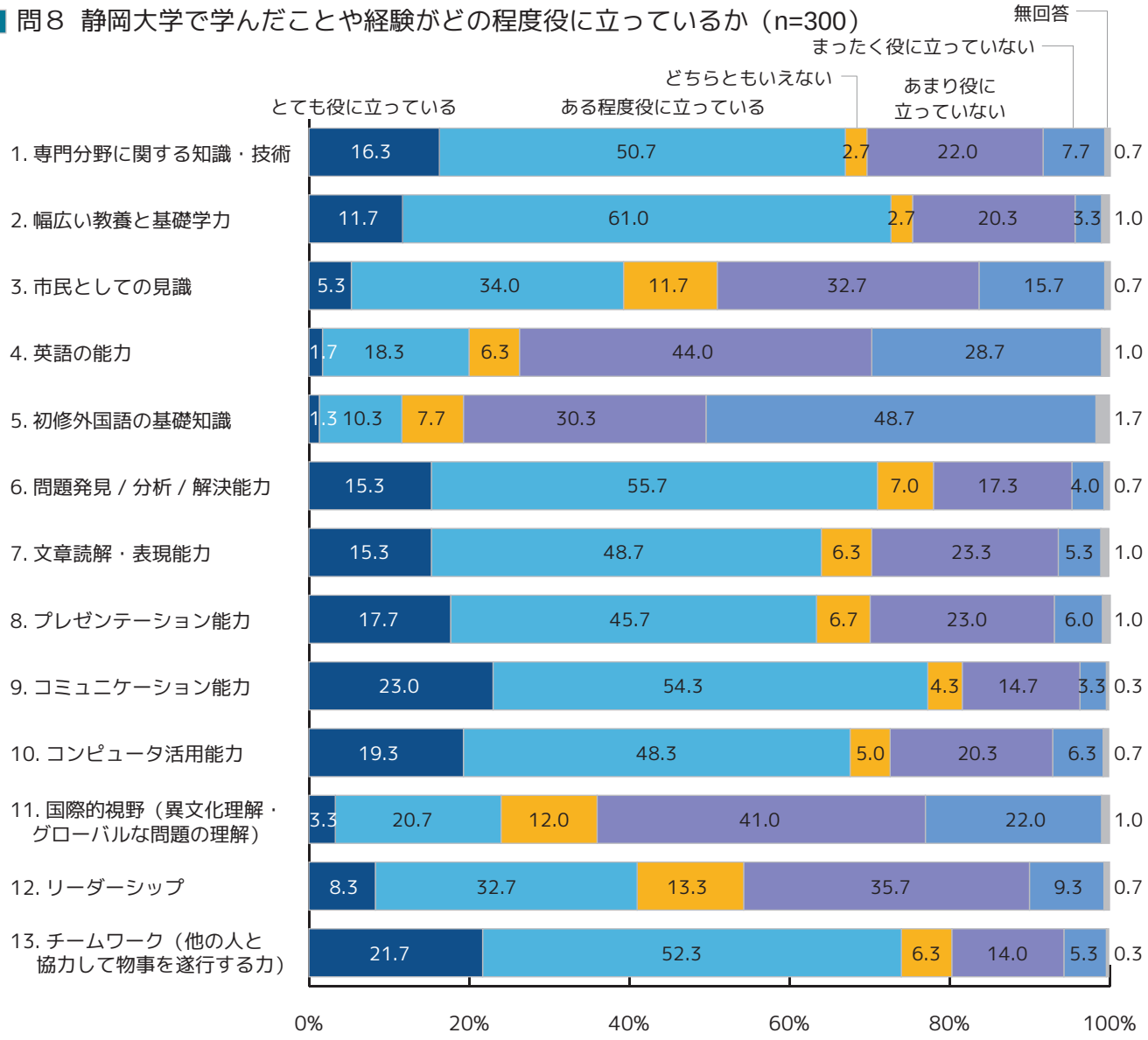
身についたと思う能力が、仕事や日常生活の中でどの程度役立っているかについて分析する為には、問６と問８をクロス集計することが必要である。クロス集計により「とても身についた」あるいは「やや身についた」と答えた学部卒業生のみにおいて、その能力が「とても役立っている」あるいは「ある程度役立っている」と答えた者の割合を把握することができる。

■ 問６ 学生生活を通じて身につけることができたと思う能力（n=300）



「習得した能力の役立ち度」に関する考察

■ 問８ 静岡大学で学んだことや経験がどの程度役に立っているか（n=300）



「習得した能力の役立ち度」に関する考察

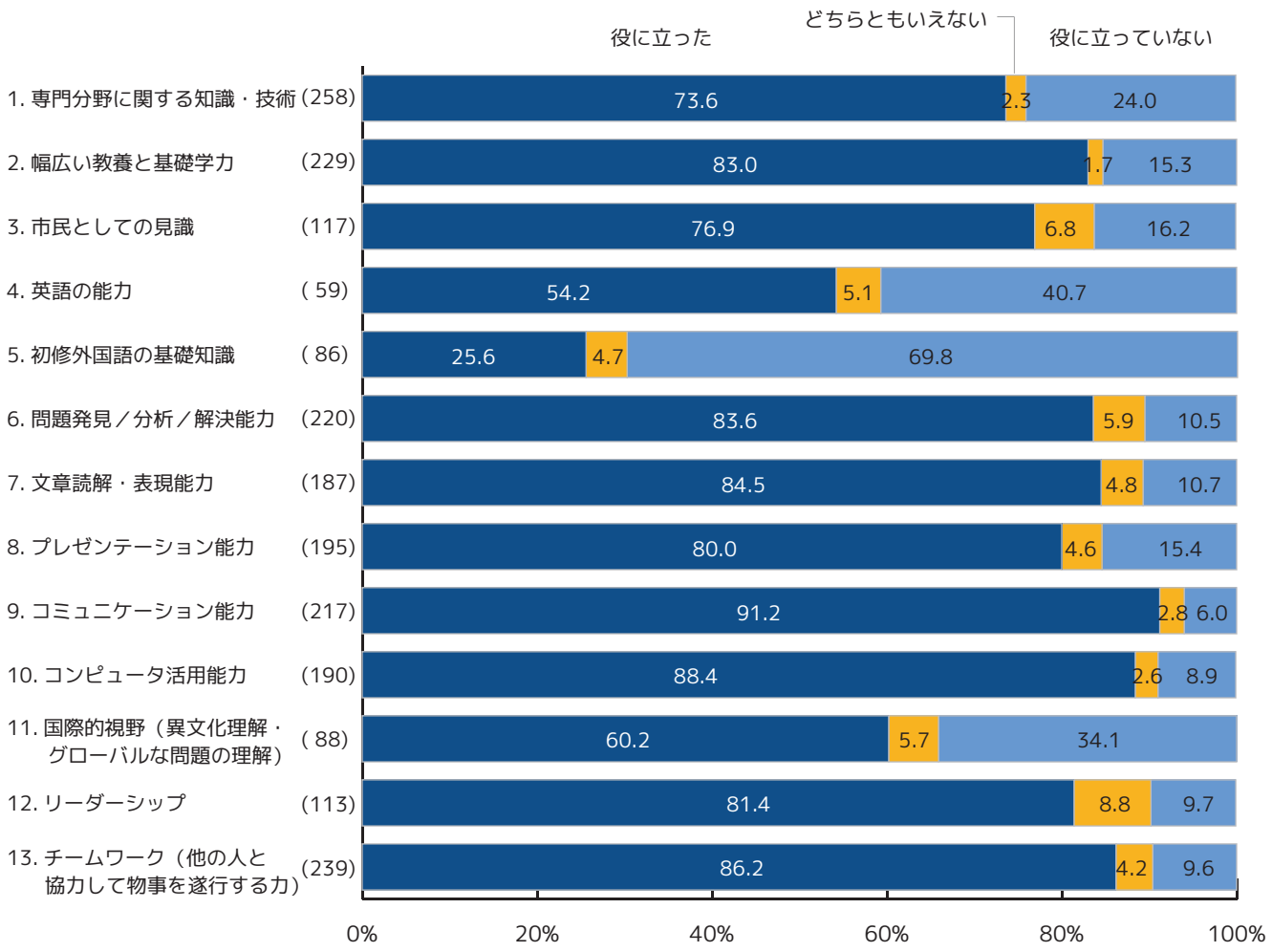
次のグラフが問６と問８のクロス集計結果である。

例えば、「専門分野に関する知識・技術」に関して見ると、身につかなかった者も含めた単純な役立ち度（「とても役立っている」と「ある程度役立っている」の合計）は 67.0%であるが、「専門分野に関する知識・技術」を身につけたとする者のうち、それが「役立った」と回答した者は 73.6%であることが読み取れる。

「英語の能力」については、単純な役立ち度は 20.0%であるが、「英語の能力」を身につけた者の 54.2%が役立っていると回答していることに注目する必要がある。

全体的に、大学で身につけた能力は、身につけさえすれば「初修外国語の基礎知識」を除いて、仕事や日常生活の中で役立っていると判断されているといえよう。「初修外国語の基礎知識」は、たとえ身につけたとしても「仕事や日常生活の中で」や役立つと感じる機会が少ないことに主要な原因があると考えられる。「英語の能力」や「国際的視野」については、それぞれ役立ち度は 54.2%と 60.2%ではあるが、今後、経済社会のグローバル化の進展の中でそれらの能力が発揮される機会は増えていくことは容易に想像される。

■ 各能力を習得したと思う学生のみにおける役立ち度



（　）内は「習得・ある程度習得」の回答数ｎ

＜学部卒業生用＞

平成２４年８月

「静岡大学に関するアンケート調査」

静岡大学　副学長（企画・評価担当）浅利 一郎

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、本学では静岡大学を卒業された皆様に、静岡大学での学生生活、教育・研究を振り返っていただき、その内容について評価をしていただきたくアンケート調査を行うことと致しました。

この調査は、学習、生活や進路に対する学生サービス面、及び教育の成果や効果の検証について、卒業生による評価・意見を調査し、教育の質的向上と魅力ある大学のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

つきましては、ご多忙のところ恐れ入りますが、アンケートにご協力いただきたくお願い申し上げます。なお、回答はすべてコンピュータによる統計的な集計を行い、個々の情報として取り扱うことは決してございません。お手数ですが８月３１日（金）までに同封の返信用封筒にてご投函願います。

敬具

なお、この調査に関するご質問やお問い合わせ等は下記までお願いします。

担　当　企画部企画課評価係
連絡先　静岡市駿河区大谷８３６
０５４－２３８－４５７６

※アンケートご記入にあたってのご注意

・本調査は平成 21 年度に卒業された方を対象としています。

・本調査は入学時にご登録いただいた保護者様の住所に送付しています。

・〇の数は設問の指示に従い、選択肢番号をしっかり〇で囲んでください。

＜例＞　性別をお知らせください。

① 男性
２ 女性

・補問が設定されている設問もあります。その設問は選択番号に〇をつけた後に矢印に従ってお答えください。

●まず、あなたご自身についてお伺いします。

性別をお知らせください。

1	男性
2	女性

所属していた学部をお知らせください。

1	人文学部
2	教育学部
3	情報学部
4	理学部
5	工学部
6	農学部

現在のご職業をお知らせください。

1	会社員	7	パート・アルバイト
2	公務員	8	専業主婦（夫）
3	経営者・役員	9	学生
4	自由業（開業医・弁護士 等）	10	無職
5	自営業（商店・サービス業 等）	11	その他（　　）
6	農林漁業		

現在のご職業の業種をお知らせください。

1	農業	8	情報通信業	15	教育、学習支援業
2	林業	9	運輸業	16	複合サービス事業
3	漁業	10	卸売・小売業	17	サービス業
4	鉱業	11	金融・保険業	18	官公庁・公団
5	建設業	12	不動産業	19	教育委員会
6	製造業	13	飲食店、宿泊業	20	その他（　　）
7	電気・ガス・熱供給・水道業	14	医療、福祉		

●静岡大学についてお伺いします。

問１　あなたが静岡大学を選択した理由は何ですか。以下の中から当てはまるものに〇を付けてください。（〇は３つまで）

１	入試の難易度・偏差値が合っていたから
２	入試科目・選抜方法が合っていたから
３	専攻したい学問分野があったから
４	教員スタッフが充実していたから
５	専攻したい学問分野を専門とする教員がいたから
６	国立大学であるから
７	伝統や知名度があるから
８	大学のイメージがよいから
９	校風やキャンパスの雰囲気が自分に合っているから
10	施設・設備がよいから
11	就職状況がよいから
12	大学院が設備されているから
13	取りたい資格・免許が取得できるから
14	自宅から通えるから
15	出身地（帰省地）の近隣県であるから
16	“静岡”あるいは“浜松”という土地柄やイメージがよいから
17	東京・名古屋などの大都市へのアクセスが良い土地柄だから
18	授業料が安いから
19	周囲の人に勧められたから
20	その他（　　）

問２　あなたが進学先を検討するうえで、どなたに相談しましたか。
最も相談した方をお知らせください。（〇は１つ）

１	家族
２	親戚
３	先輩
４	友人・知人
５	学校・予備校・塾の先生
６	その他（　　）
７	なし（自分自身で決定）

問３　静岡大学に入学したことは、あなたの希望どおりでしたか。（○は１つ）

１　希望どおり
２　ほぼ希望どおり
３　やや不本意
４　かなり不本意
５　どちらともいえない

問４　静岡大学の学生生活を振り返って、総合的にみてどの程度満足されていますか。（○は１つ）

１　非常に満足	２　概ね満足	３　やや不満	４　非常に不満	５　どちらともいえない

問５　静岡大学の学生生活で、次にあげる各項目の満足度をお知らせください。
（それぞれの項目について、あてはまる満足度１つに○を付けてください）

	満足度				
	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満	どちらともいえない
１　受けるべき授業が適切に配置された時間割であった	１	２	３	４	５
２　全学共通教育を通じて、幅広い教養や基本的知識・スキルを得ることができた	１	２	３	４	５
３　英語教育を通じて、英語の能力を高めることができた	１	２	３	４	５
４　初修外国語教育を通じて、その基本的知識を身につけることができた	１	２	３	４	５
５　情報処理教育・IT 教育を通じて、情報処理能力を高めることができた	１	２	３	４	５
６　専門科目を通じて、それぞれの分野に応じた能力を身につけることができた	１	２	３	４	５
７　講義・演習・実験・実習等の授業形態の組み合わせが適切であった	１	２	３	４	５
８　取得しようとする資格に必要な授業が整備されていた	１	２	３	４	５
９　講義室・実験室の設備や備品が整備されていた	１	２	３	４	５
10　自習スペースやラウンジが整備されていた	１	２	３	４	５
11　自由に使用できる「自学用教材」が充実していた	１	２	３	４	５
12　インターネットにアクセスする環境が整備されていた	１	２	３	４	５
13　図書館に勉学に必要な蔵書や学習環境が整備されていた	１	２	３	４	５
14　外国人留学生との交流、国際交流の機会に恵まれていた	１	２	３	４	５
15　授業・講義以外で教員とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとれる体制が整備されていた	１	２	３	４	５
16　就職･進学のための情報提供や相談窓口が整備されていた	１	２	３	４	５
17　就職等に必要な資格取得のための支援体制が整備されていた	１	２	３	４	５
18　企業（関係者）や卒業生から職場の話を聞く機会があった	１	２	３	４	５
19　職員の窓口対応が適切に行われていた	１	２	３	４	５

問６　あなた自身が学生生活を通じて、身につけることができたと思う能力についてお知らせください。
（それぞれの項目について、あてはまる習得度１つに〇を付けてください）
また、これらの項目の中で、この頃にもっと身につけたかったと思うものに、いくつでも〇を付けてください。

	とても身についた	やや身についた	あまり身につかなかった	全く身につかなかった		この頃にもっと身につけたかった
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4		
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	→	
3　市民としての見識	1	2	3	4	→	
4　英語の能力	1	2	3	4	→	
5　初修外国語の基礎知識	1	2	3	4	→	
6　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	→	
7　文章読解・表現能力	1	2	3	4	→	
8　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	→	
9　コミュニケーション能力	1	2	3	4	→	
10　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	→	
11　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	→	
12　リーダーシップ	1	2	3	4	→	
13　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	→	

問６－１　上記の１～13 で回答いただいた項目のうち、あなたが最も習得できなかったと思うもの１つ（番号で記入）とその理由をお知らせください。

（番号）	（理由）

問７　仕事や日常生活の中で、静岡大学で学んだことや経験が役に立っていると感じることはありますか。（〇は１つ）

１	十分役に立っている
２	ある程度役に立っている
３	あまり役に立っていない
４	まったく役に立っていない
５	どちらともいえない

問８　以下の項目について、仕事や日常生活の中で、静岡大学で学んだことや経験がどの程度役に立っているかお知らせください。

（それぞれの項目について、役立っている程度１つに〇を付けてください）

	役に立っている程度				
	十分役に立っている	ある程度役に立っている	あまり役に立っていない	まったく役に立っていない	どちらともいえない
１　専門分野に関する知識・技術	１	２	３	４	５
２　幅広い教養と基礎学力	１	２	３	４	５
３　市民としての見識	１	２	３	４	５
４　英語の能力	１	２	３	４	５
５　初修外国語の基礎知識	１	２	３	４	５
６　問題発見／分析／解決能力	１	２	３	４	５
７　文章読解・表現能力	１	２	３	４	５
８　プレゼンテーション能力	１	２	３	４	５
９　コミュニケーション能力	１	２	３	４	５
10　コンピュータ活用能力	１	２	３	４	５
11　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	１	２	３	４	５
12　リーダーシップ	１	２	３	４	５
13　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	１	２	３	４	５

問９　あなた自身の希望として、再び静岡大学で学ぶ機会を持ちたいと思いますか。

１　はい	⟶ 問９－１へ
２　いいえ	⟶ 問 10 へ

問９－１　上記 問９で「１　はい」を選択した方に伺います。

どのようなことを学ぶ機会を持ちたいですか。（○はいくつでも）

１　資格などを取得するための専門的知識・技術を学ぶ機会
２　仕事をしていく中で役立つような知識を身につけるための機会
３　仕事とは関係ないことを広く教養として学ぶ機会
４　その他（　　）

問 10　全員がお答えください。

現在、静岡大学は企業や社会など学外に向けたＰＲをしていると思いますか。（○は１つ）

１　積極的にしている	２　まあまあしている	３　あまりしていない	４　全くしていない	５　どちらともいえない

上記問 10 で「１　積極的にしている」または「２　まあまあしている」と回答した方に伺います。

どのような点についてそう思いますか。

上記問 10 で「３あまりしていない」、「４全くしていない」、「５どちらともいえない」と回答した方に伺います。

どのような取り組みをしたらよいと思いますか。

問 11　全員がお答えください。

今後、静岡大学が重点的に取り組むべき方向性はどのようなものだと思いますか。

以下の６つの項目の中から２つ選んでください。

１　世界的研究・教育拠点
２　高度専門職業人養成
３　幅広い職業人養成
４　総合的教養教育
５　地域の生涯学習の拠点
６　社会貢献機能（地域貢献、産学官連携等）

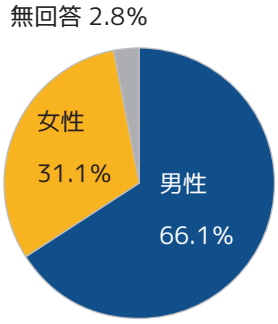
問 12　静岡大学に関するご意見や期待がございましたらお書きください。

ーご協力ありがとうございましたー

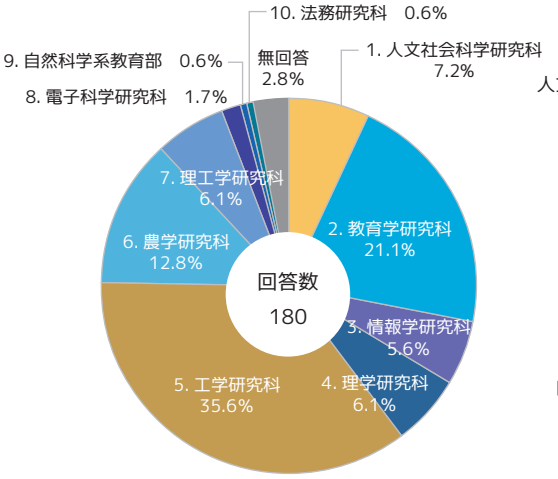
回答者の属性

アンケート送付対象：平成 19・21 年度修了生全員（修了後３・５年目）
送付数：1,300 件　不達数：109 件　回答数：180 件
回収率：15.1％（不達数を除いた回収率：研究科別内訳は下記「研究科別回収率」参照）

回答者の性別

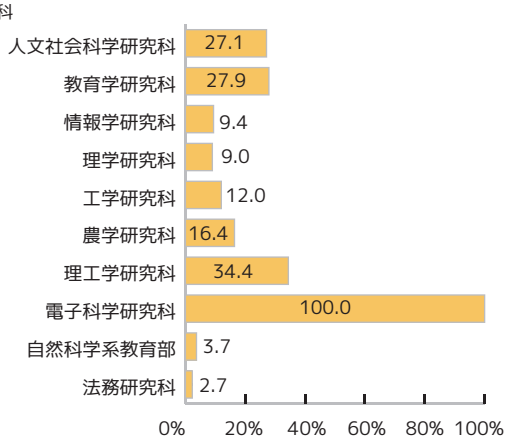


所属していた研究科

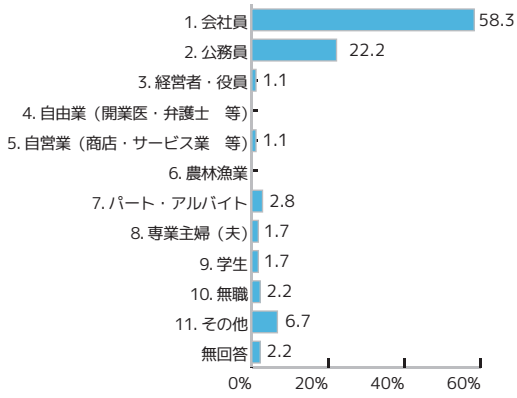


※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

研究科別回収率（％）

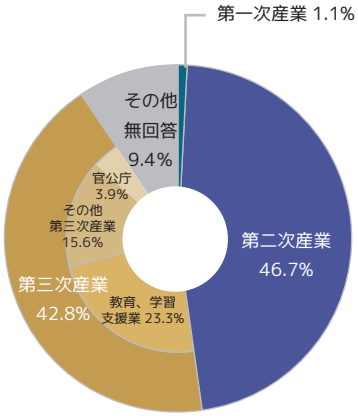


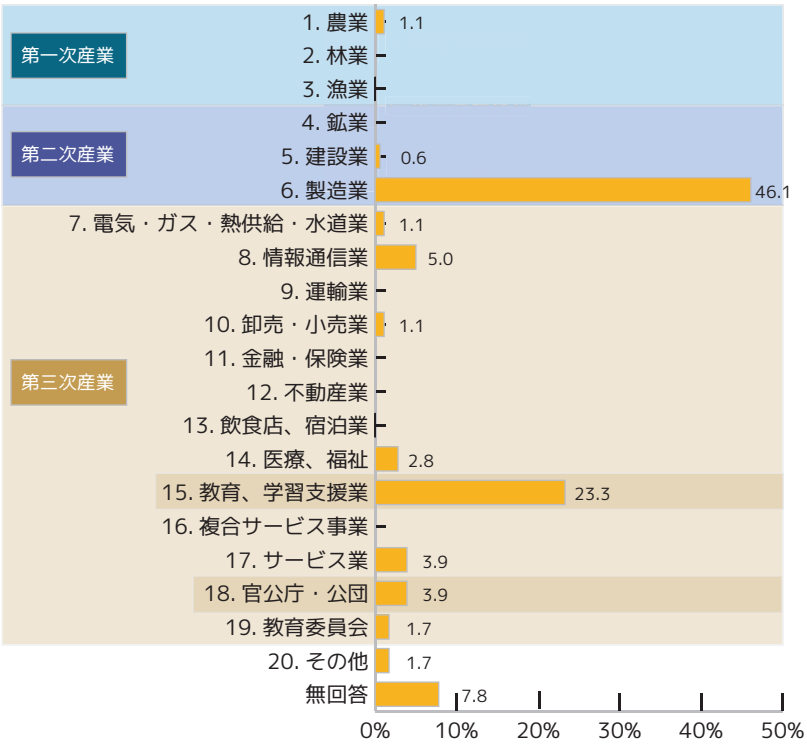
回答者の現在の職業



11. その他の内訳
・非常勤講師 -5 件　・看護師 -1 件　・大学教員 -1 件
・高等学校教師 -1 件　・大学（私立）職員 -1 件

回答者の業種（大分類）

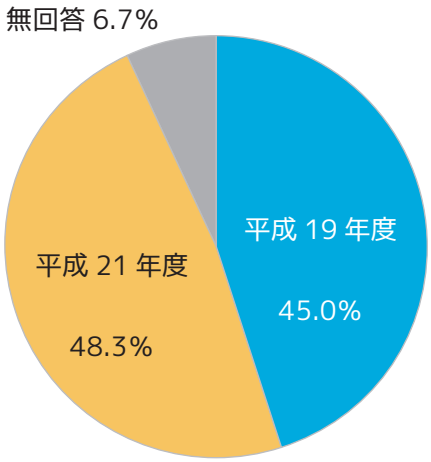




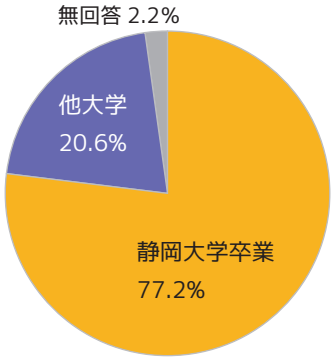
20. その他の内訳
・大学院生－２件　・教員－１件　・無職－１件

クロス集計用業種分類　業種により回答数が０のものがあるため、左円グラフ［回答者の業種（大分類）］をクロス集計用の業種とする

修了年次



出身大学



他大学

北海道教育大学
東北学院大学
玉川大学
武蔵野大学
日本女子大学
日本体育大学
日本大学
慶応義塾大学
早稲田大学
麻布大学
明治大学
東京工業大学
二松学舎大学
京都女子大学
洗足学園音楽大学
上越教育大学
信州大学
聖徳学園岐阜教育大学
常葉学園大学
常葉学園短期大学
東海大学
愛知工科大学
名城大学
中京大学
和歌山大学
大阪大学
大阪体育大学
奈良大学
奈良女子大学
高知大学

※都道府県別に表示、国立・私立分類については順不同

出身学部

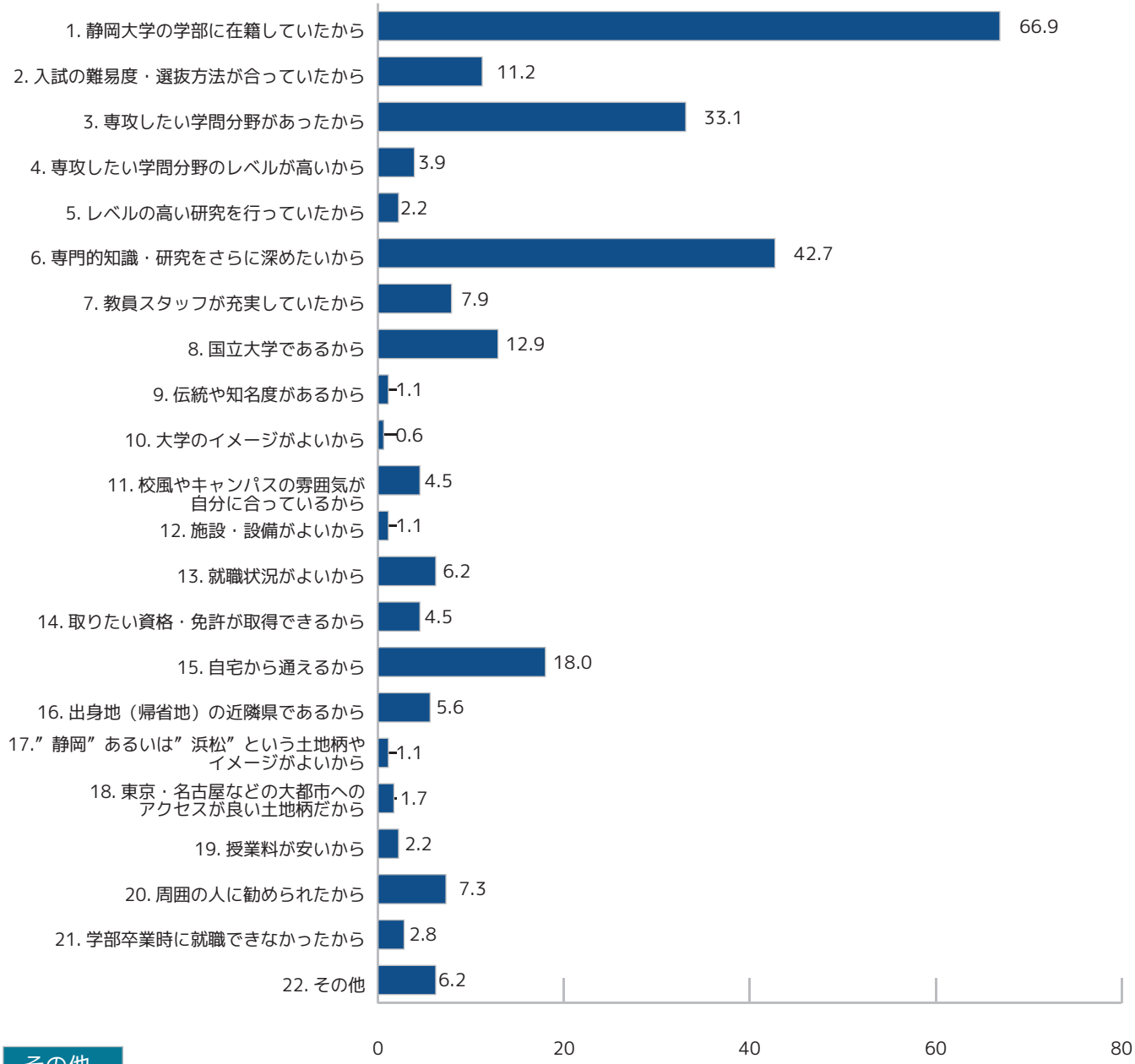
学部名	回答数	構成比（%）
音楽	1	2.7
海洋	1	2.7
学芸	1	2.7
学校教育	1	2.7
環境保健	1	2.7
基礎工	1	2.7
教育	5	13.5
工	4	10.8
心理	2	5.4
人間社会	1	2.7
政治経済	1	2.7
専攻科	1	2.7
体育	2	5.4
第二文	1	2.7
農	2	5.4
文	3	8.1
文学部教育	1	2.7
文理	1	2.7
理	3	8.1
無回答	4	10.8
合計	37	100.0

静岡大学大学院を選択した理由（複数回答可）

「静岡大学の学部に在籍していたから」（66.9%）が最も高く、「専門的知識・研究をさらに深めたいから」（42.7%）が次ぐ。

静岡大学大学院を選択した理由

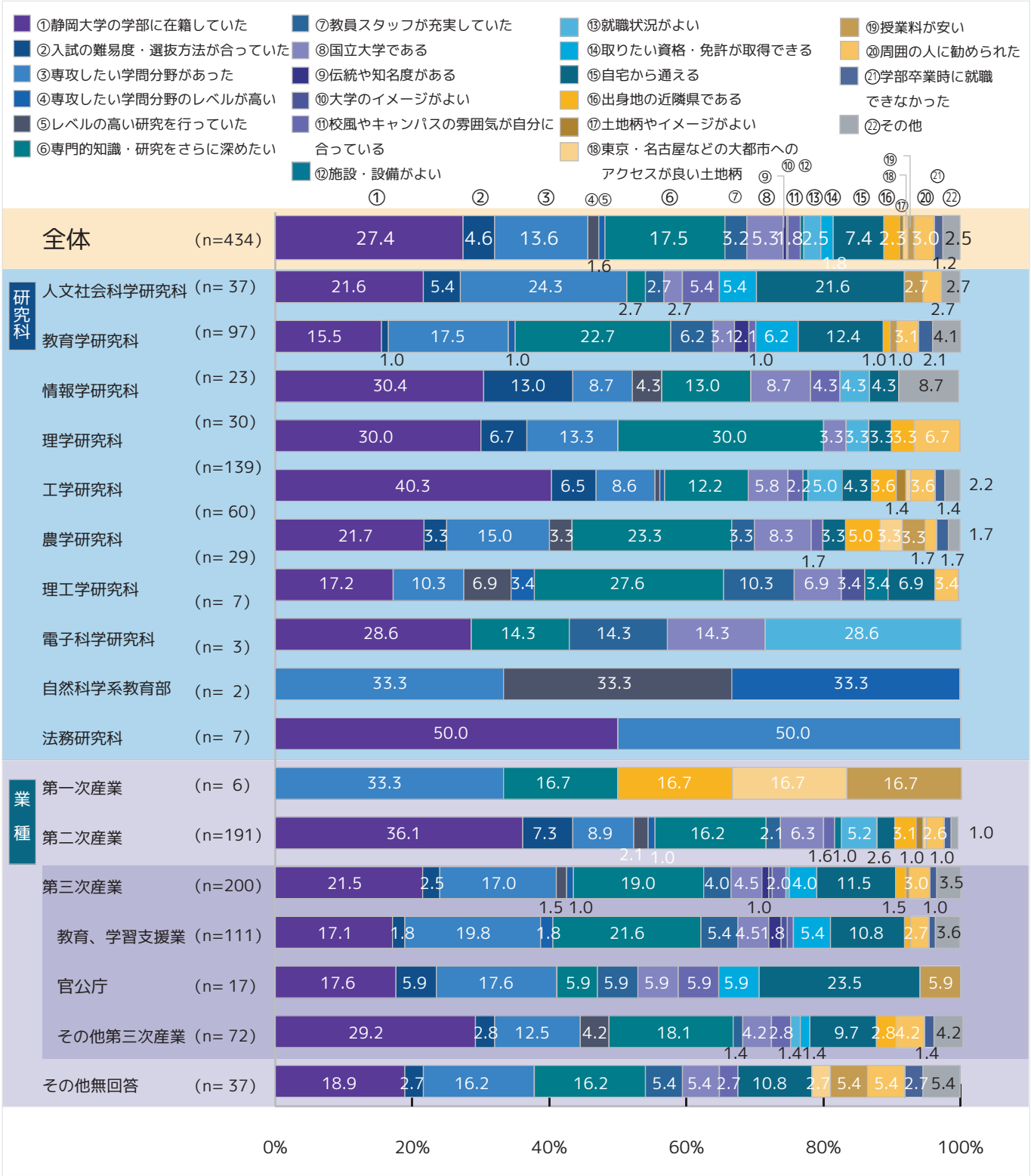
回答者 178 人＝100



その他

- 自分がどこまで出来るか試したかったから（工学研究科）
- 研究室に配属済みで、研究テーマ、内容、指導教官、環境に満足していたため。（情報学研究科）
- 自分のやりたかった研究を行うことができたから（農学研究科）
- 出身地だから（人文社会科学研究科）
- 募集に上司が申し込んだので（教育学研究科）
- 習いたい先生がいたから（教育学研究科）
- 14 条派遣を勧められたから（教員）（教育学研究科）
- 推薦があった為、受験日が同じだった。（工学研究科）
- 推薦があったから（工学研究科）
- 就活をしたくなかったから（学部卒業時）（情報学研究科）
- 教職 14 条派遣（教育学研究科）

静岡大学大学院を選択した理由（複数回答可）

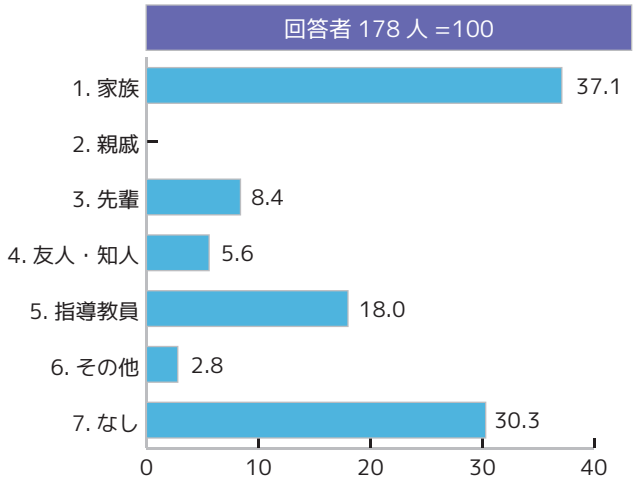


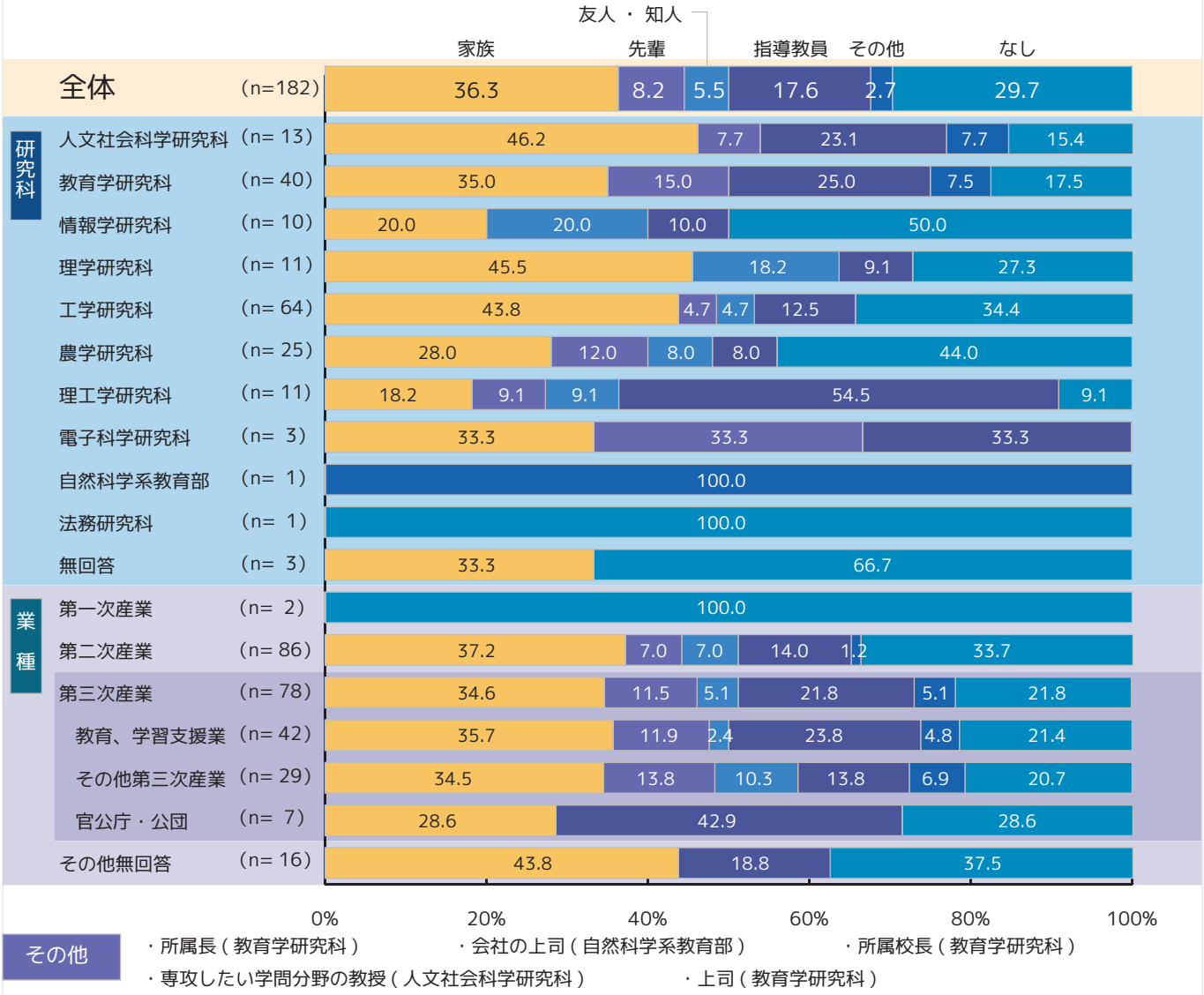
進学先を検討する上で最も相談した人

全体でみると、「家族」の回答割合（36.3%）が回答肢の中では最も高いが、学部卒業生アンケート結果と比べるとその割合は低い。（学部：51.6%）。

解　説

- 研究科別にみると、「なし」の回答割合が「情報学研究科」で 50.0%と、他研究科に比べ高い。
- 全体でみても、「なし」の回答割合が、学部卒業生アンケート結果と比べ高い。（学部：16.6%）





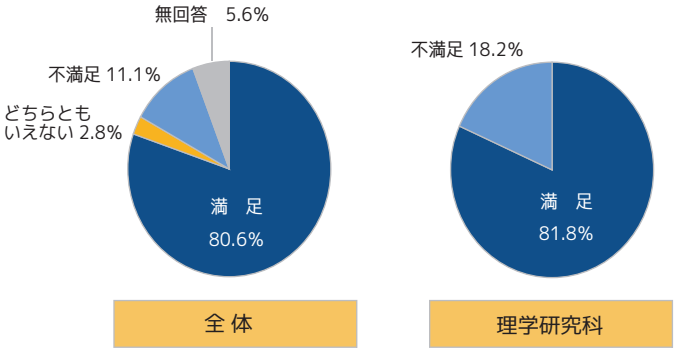
その他
- 所属長（教育学研究科）
- 会社の上司（自然科学系教育部）
- 所属校長（教育学研究科）
- 専攻したい学問分野の教授（人文社会科学研究科）
- 上司（教育学研究科）

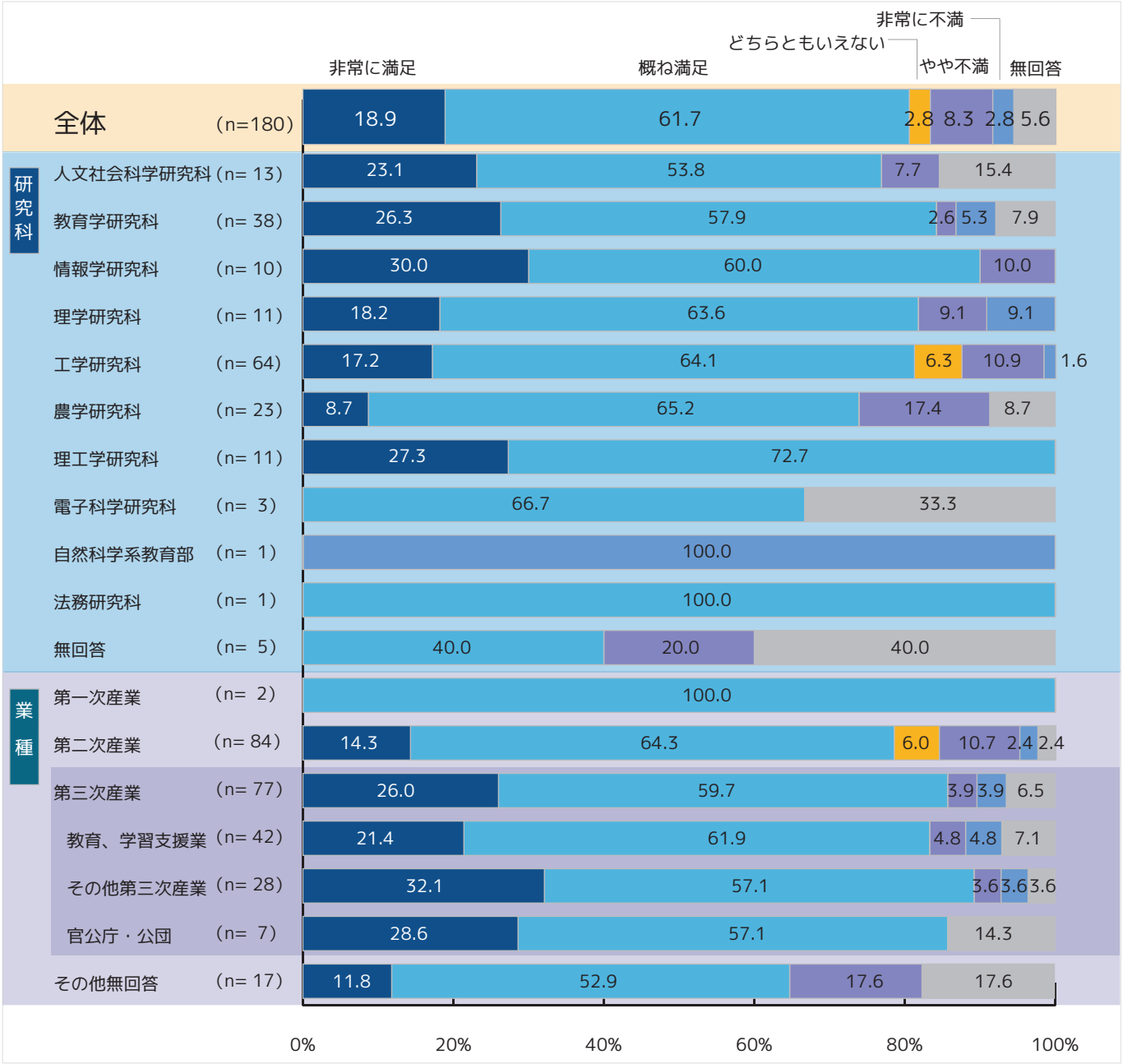
静岡大学大学院の学生生活について総合的な満足度

全体でみると、「非常に」と「概ね」満足の回答割合の合計は 80.6%。ただし、「非常に満足」の回答割合は 18.9%にとどまる。

解　説

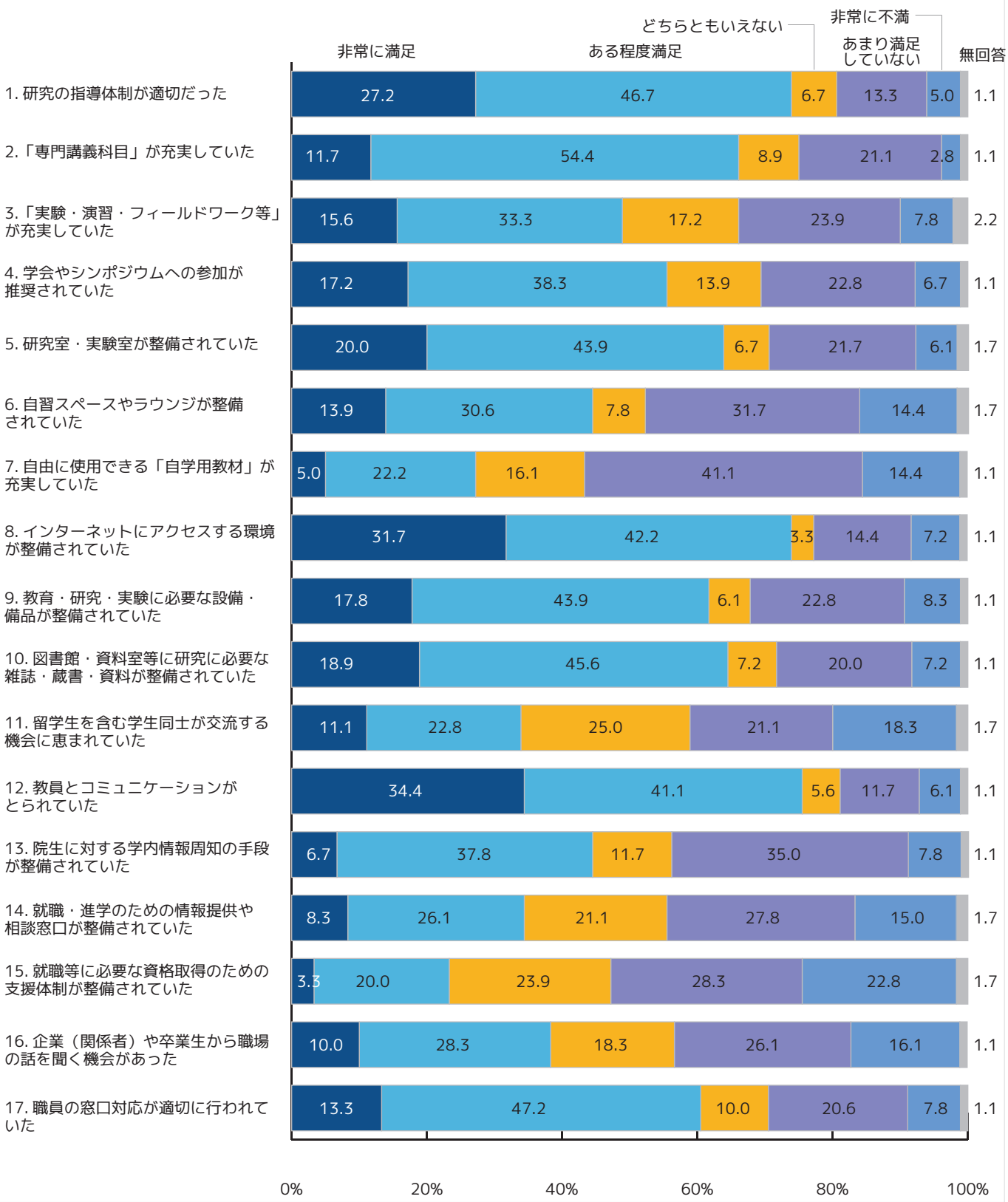
- 研究科別でみると、肯定的回答割合は「情報学研究科」（90.0%）が最も高く、否定的回答割合は「理学研究科」（18.2%）が最も高い。
- 学部卒業生アンケート結果と比べ、肯定的回答割合は若干下回る。（学部：88.7%）





静岡大学大学院の学生生活の各項目についての満足度

肯定的回答割合は、「教員とコミュニケーションがとられていた」（75.6%）、「研究の指導体制が適切だった」（73.9%）、「インターネットにアクセスする環境が整備されていた」（73.9%）において高い。

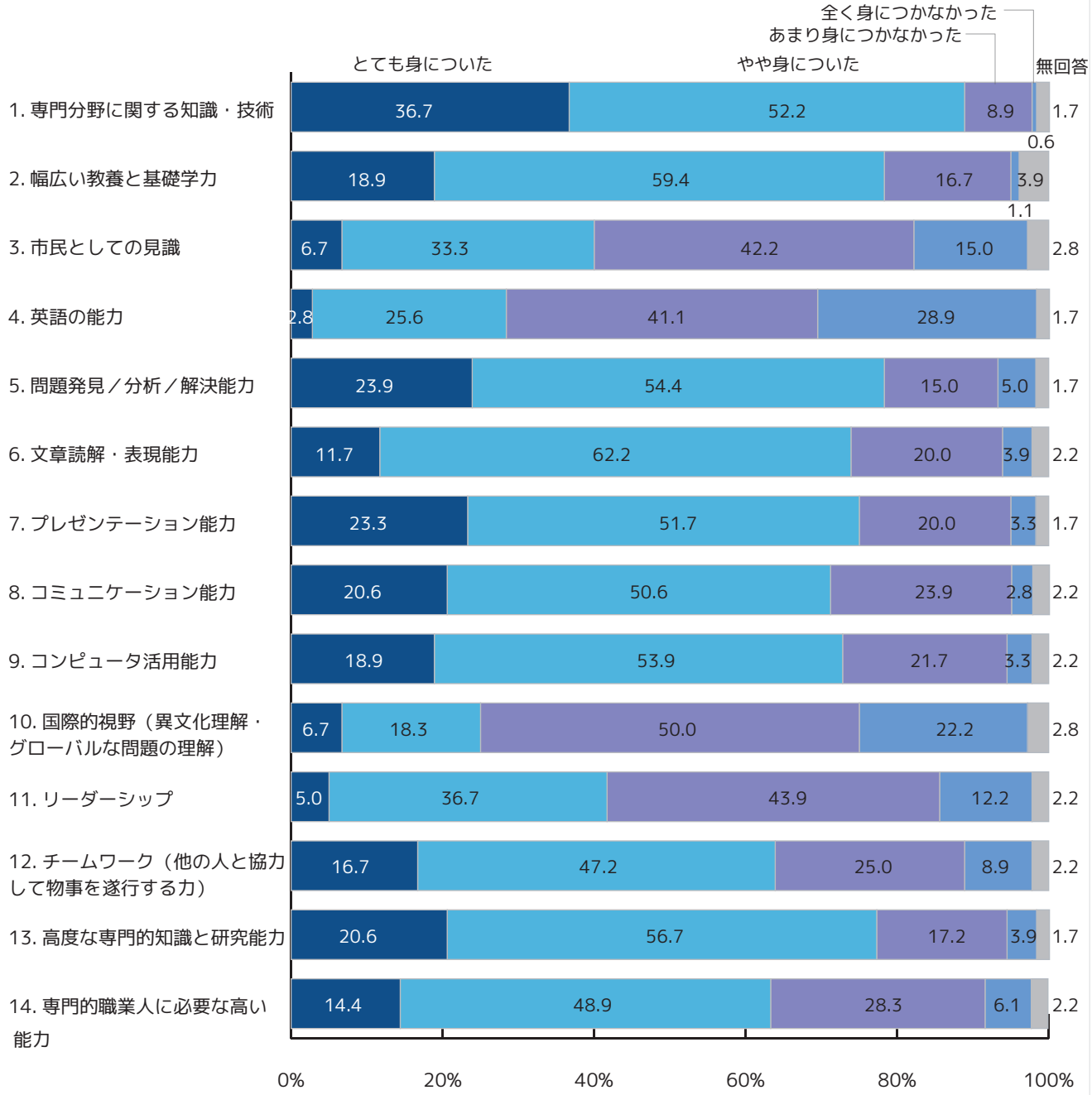


学生生活を通じて身につけることができたと思う能力

肯定的回答割合は、「専門分野に関する知識・技術」(88.9%)、「幅広い教養と基礎学力」(78.3%)、「問題発見 / 分析 / 解決能力」(78.3%) が高い。

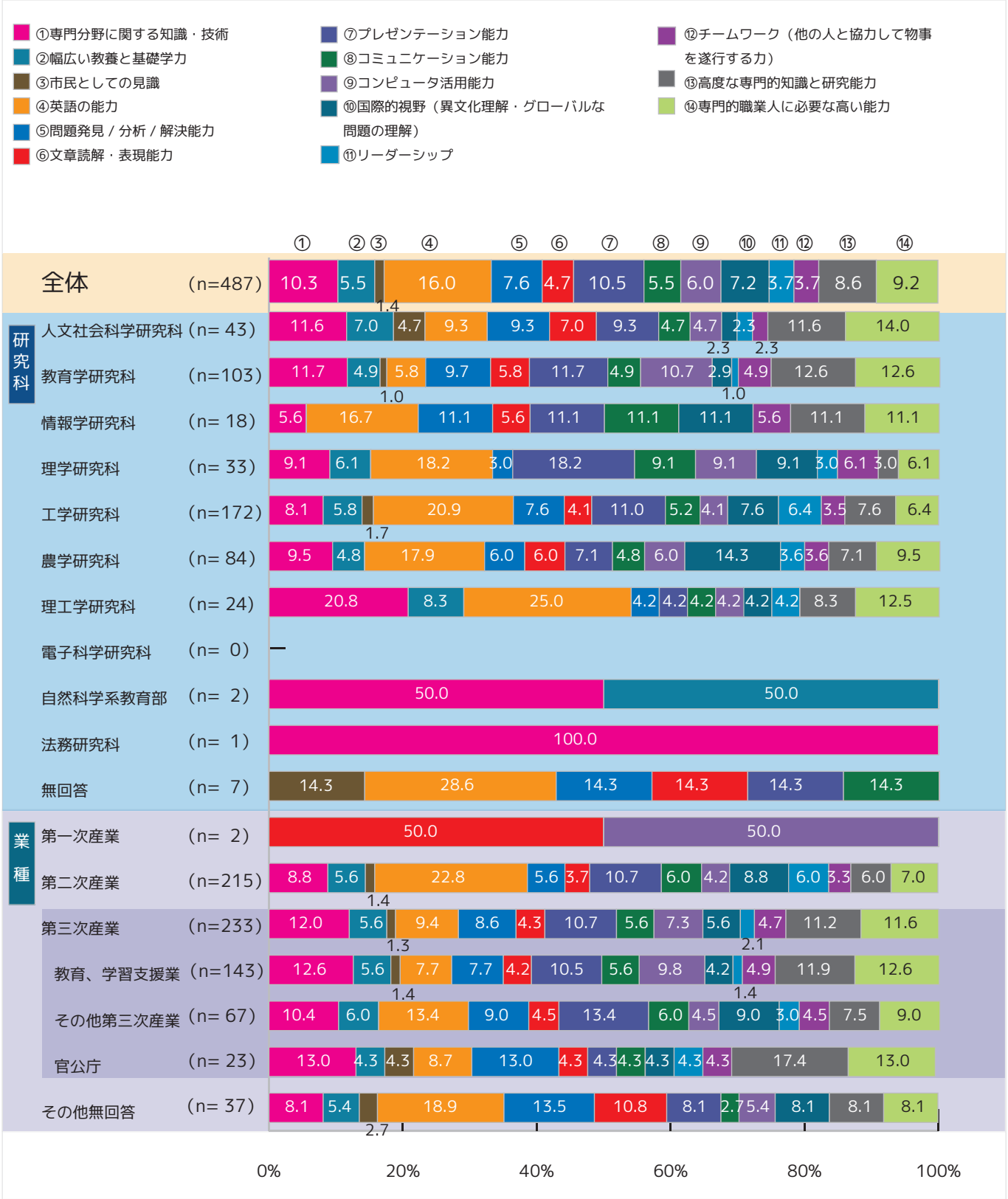
解　説

否定的回答割合は、「国際的視野」(72.2%)、「英語の能力」(70.0%)、「市民としての見識」(57.2%) が高い。特に、「英語の能力」において「全く身につかなかった」の回答割合が 28.9%にのぼる。



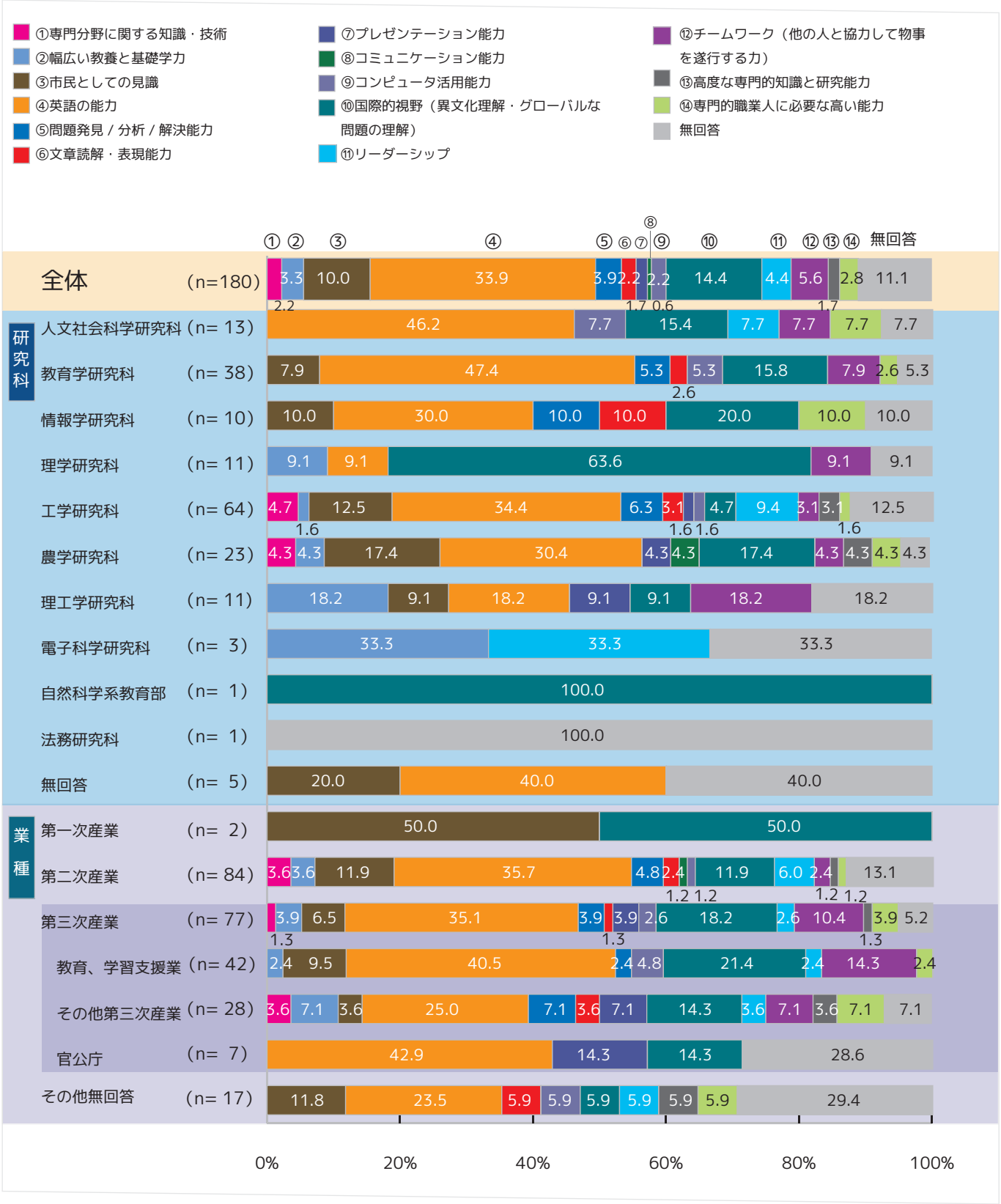
学生生活の中でもっと身につけたかったと思う能力（複数回答可）

全体でみると、「英語の能力」（16.0%）、「プレゼンテーション能力」（10.5%）、「専門分野に関する知識・技術」（10.3%）の順に回答割合が高い。
これら上位３つは学部卒業生アンケート結果と同じ。（順位は相違あり）



学生生活の中で最も習得できなかったと思う能力

全体でみると、「英語の能力」（33.9%）、「国際的視野」（14.4%）、「市民としての見識」（10.0%）の順に回答割合が高い。学部卒業生アンケート結果においても「英語の能力」の回答割合が最も高い。（学部：29.7%）



学生生活の中で最も習得できなかったと思う能力（理由）

幅広い教養と基礎学力

- 専門以外の本も読んで勉強する余裕がなかったため。（理学研究科）
- 研究活動に没頭し、他の分野の学力(授業)を受けなかったから。（理工学研究科）

市民としての見識

- 市民として関わる活動が無かったため。研究が主となっていたため、市民としての見識についてはほとんど意識していなかったため。（工学研究科）

英語の能力

- 講義で英語を必要とするものが少なかったことと、英語で書かれた論文を積極的に読む事をしなかったため。（教育学研究科）
- 社会に出てから英語力が必要であるという意識付けの機会が無かったため、高校受験、大学受験と同様に詰め込み学習となってしまった。特に理系学生は、将来英語が必須であるという意識付けの機会、学習へ取り組む動機付けの機会が重要だと感じます。(工学研究科)
- 社会人になった今と比べると英語に触れる機会は少なかった。当時からもっと英語が必要な状態だったらより勉強していたと思う。（工学研究科）
- 身につける学習ではなく、点数がとれる学習しかできなかったから。周りに留学生等が居たのにもったいなかったと思う。（農学研究科）
- TOEIC を受けようとしなかったので、論文英語しかやらなかった。今、会社ですごく英語が重要視されており、時間のある学生のうちに勉強しておくべきでした。（工学研究科）

問題発見／分析／解決能力

- 与えられた課題をこなすことに終始し、発展的な課題を自ら見出すことができなかったから。(情報学研究科)
- 社会に出ると”現状では結論の出せない問題”にぶつかることが頻繁にあります。そのような時に、いかに課題を設定し解決していくか、考え方や手法などを学ぶ機会が無かったように思います。（工学研究科）

文章読解 ・ 表現能力

- 現在、他分野の論文を書く際に、まったく文章の基礎的な構成能力に欠けると感じたから。（教育学研究科）
- 学生生活で、文章読解･表現を訓練する場はあまり無く、また、あまりその能力は必要なかった。（工学研究科）

プレゼンテーション能力

- 会社に入社した後、必要だと感じたから。（見せ方や説明の仕方で）（工学研究科）

コンピュータ活用能力

- 海外の web サイトでの文献検索を習得しきれなかったから。（人文社会科学研究科）
- 習得する機会があまりなかった（教育学研究科）

国際的視野

- 国際社会への憧れはあるものの、英会話能力や留学生とのコミュニケーションをする力を伸ばす事ができなかった。自らもっと進んで関係を作るべきだった。（理学研究科）
- 国際的な関わりは無かったから。(人文社会科学研究科)

チームワーク

- 院生同士の交流の場が少なかった。（人文社会科学研究科）
- 学習や論文に費やす時間が多く、みんなで何かをやり遂げる場面がほとんど無かった。（教育学研究科）
- ゼミが一人であったため、他人と協力して物事に取り組むという機会が無かったため。（理学研究科）

高度な専門的知識と研究能力

- 一般的な研究であり、先進的な研究ではなかったから。（農学研究科）
- 単位を取る、卒業する事が目標になっていて、必要以上に勉強していなかった。（工学研究科）

専門的職業人に必要な高い能力

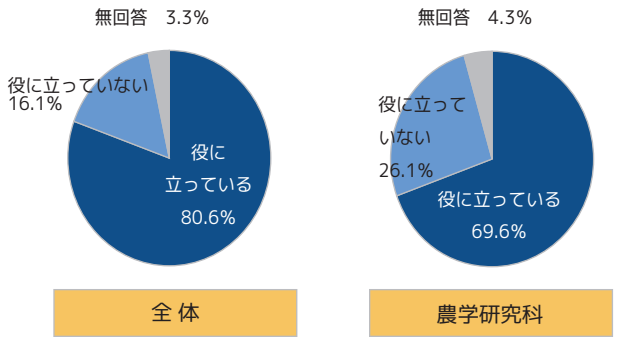
- 今の仕事の中で、能力が身についていないことを痛感するから。（人文社会科学研究科）
- 研究室で学んでいてもやはり学生レベルであり、また、自身も甘えがあり、社会に出ても不十分であった。もっと社会での現状を知っておくことが必要だと思った。（農学研究科）
- どのような能力が必要で、どのような学習を行えばよいか、当時ははっきりと理解できていなかった。（情報学研究科）

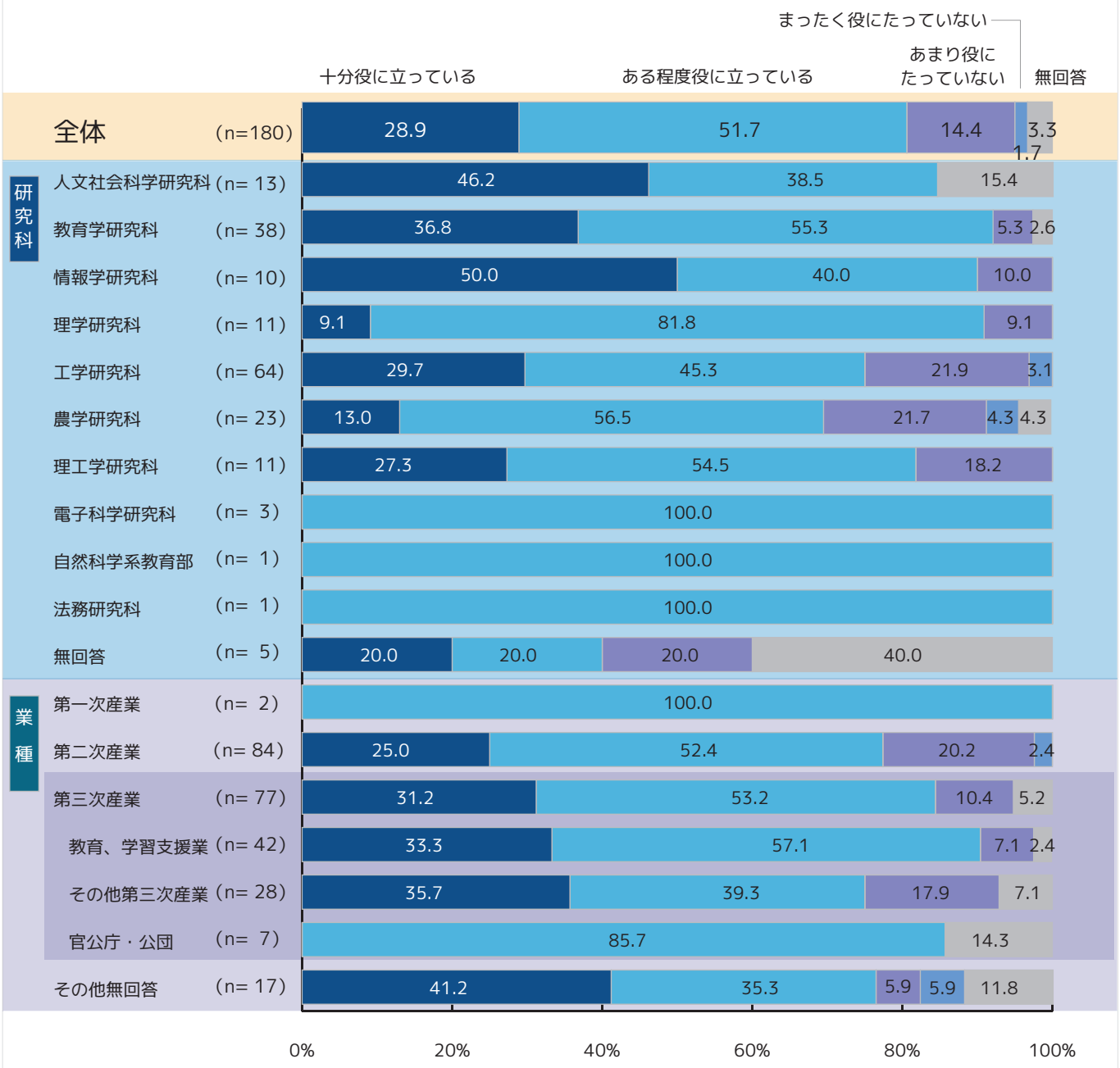
仕事や日常生活の中で静岡大学大学院で学んだ事や経験の総合的な役立ち度

全体における肯定的回答割合は 80.6%で、「十分役に立っている」の回答割合も28.9%にのぼる。

解　説

- 学部卒業生アンケート結果に比べ、「十分役に立っている」の回答割合が高い。（学部：19.3%）
- 研究科別にみると、「十分役に立っている」の回答割合が「情報学研究科」（50.0%）、「人文社会科学研究科」（46.2%）で高い。



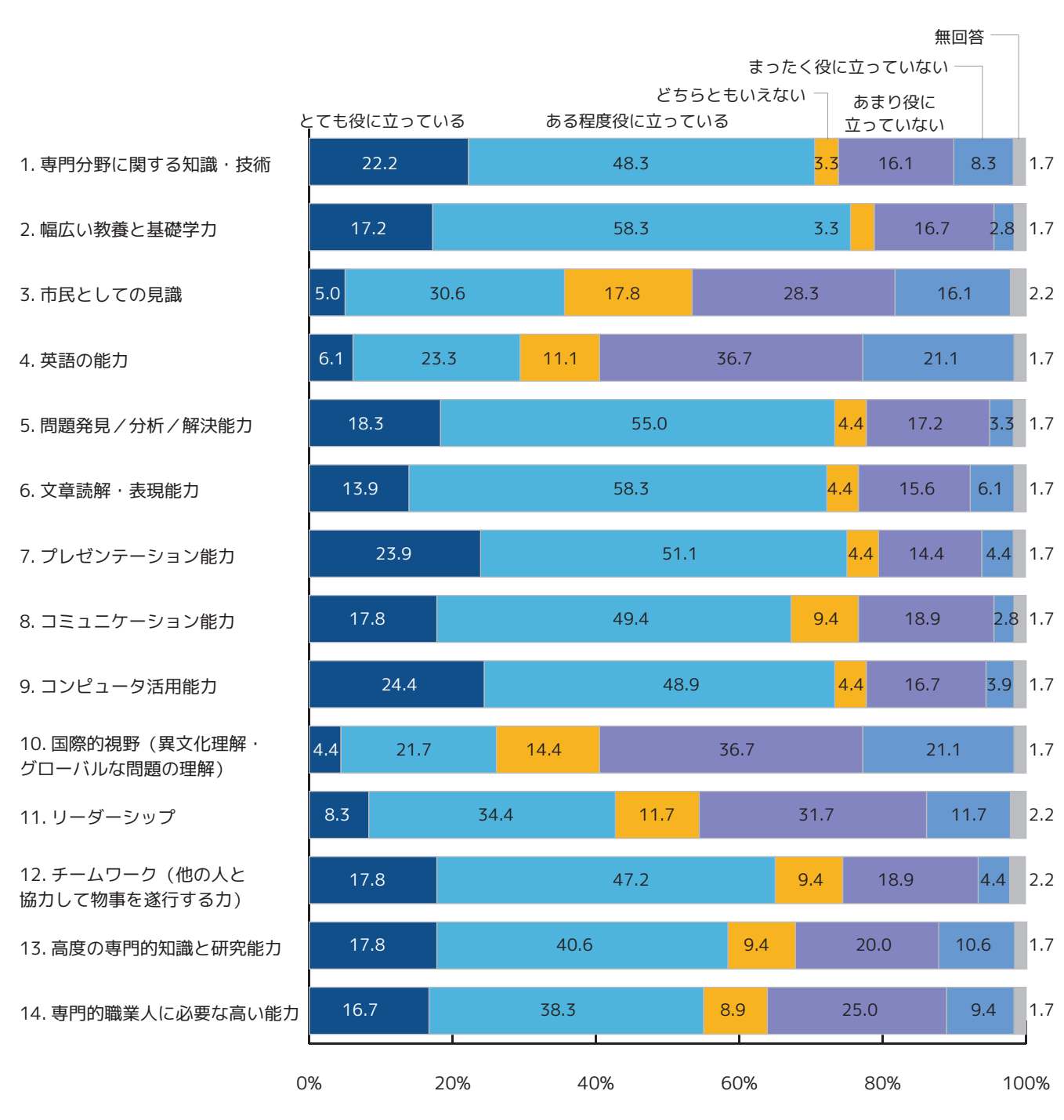


静岡大学大学院で学んだことや経験が役に立っていると感じること（項目別）

肯定的回答割合は、「幅広い教養と基礎学力」（75.6%）、「プレゼンテーション能力」（75.0%）が高い。

解　説

否定的回答割合は、「英語の能力」(57.8%)、「国際的視野」(57.8%)、「市民としての見識」(44.4%)が高い。これらは、「学生生活を通じて身につけることができたと思う能力」の問いでも否定的回答割合が高い。（順不同）

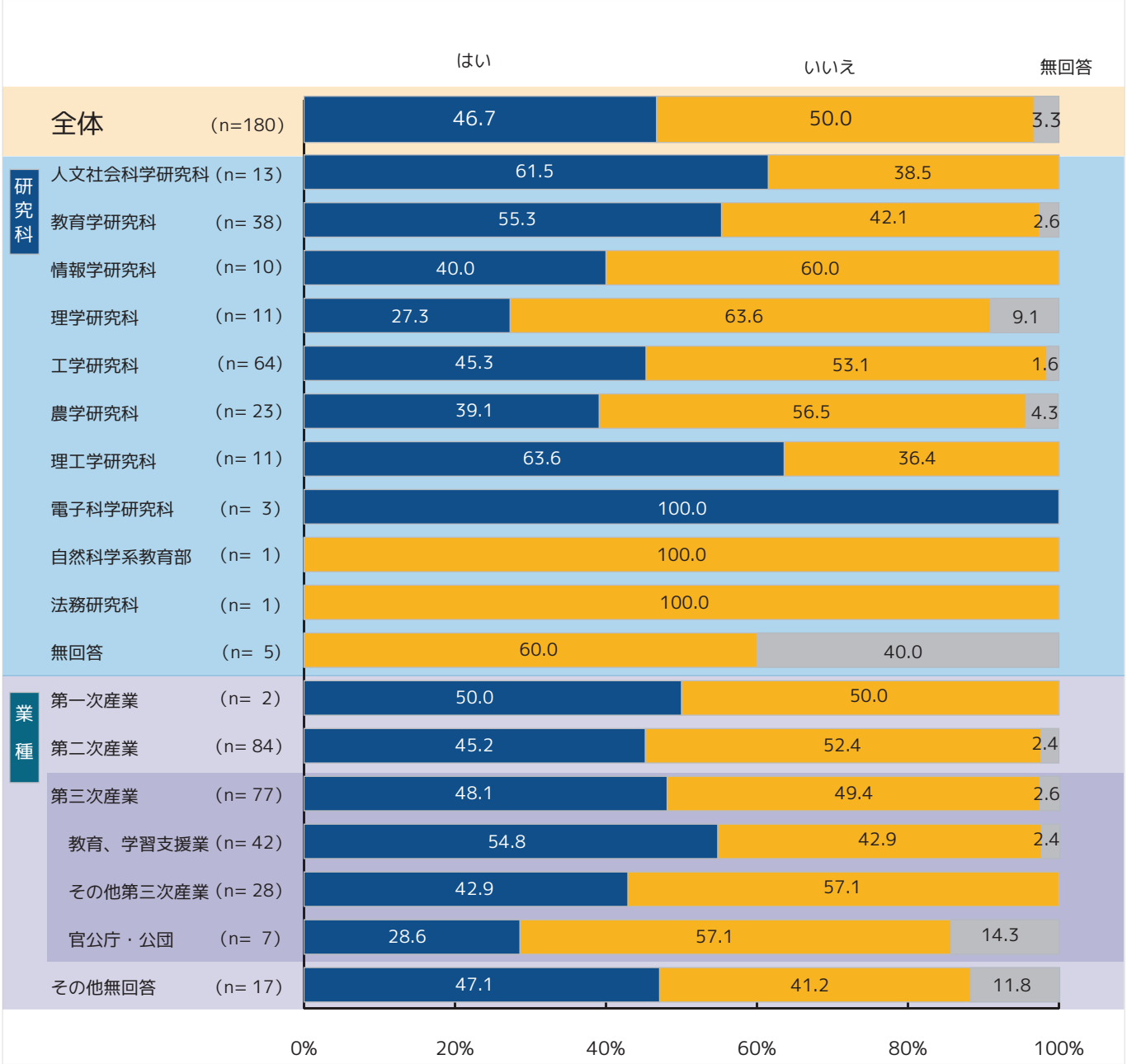


静岡大学大学院で再び学ぶ機会を持つ希望の有無

全体でみると、「いいえ」（50.0%）が「はい」（46.7%）を若干上回る。
学部卒業生アンケート結果と比べ、「はい」の回答割合（学部：50.7）は若干低い。

解　説

- 研究科別でみると、「はい」の回答割合は、「理工学研究科」（63.6%）、「人文社会科学研究科」（61.5%）で高い。
- 一方、「いいえ」の回答割合は、「理学研究科」（63.6%）、「情報学研究科」（60.0%）で高い。



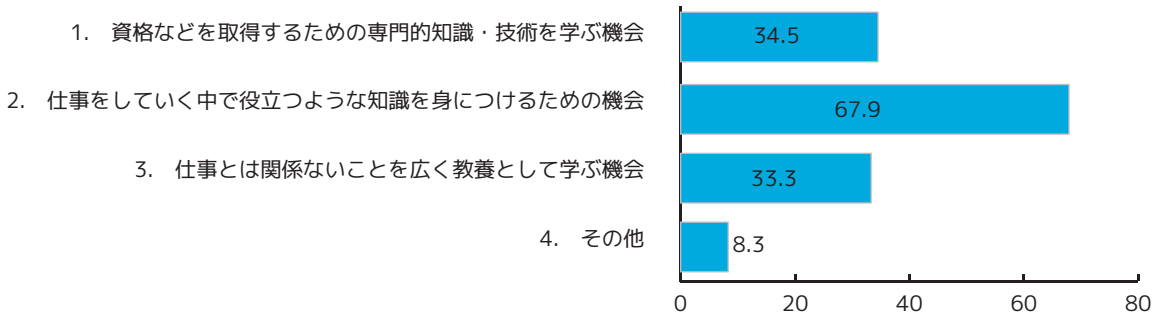
静岡大学大学院で再び学びたい機会の内容（希望者のみ回答、複数回答可）

再び学びたい内容としては、「仕事で役立つような知識を身につける機会」の回答割合（67.9%）が最も高い。

解　説

- 学部卒業生アンケート結果でも「仕事で役立つような知識を身につける機会」の回答割合が最も高かったが、その割合は大学院修了生に比べ低い。（学部：58.3%）

回答者数 84 人 =100



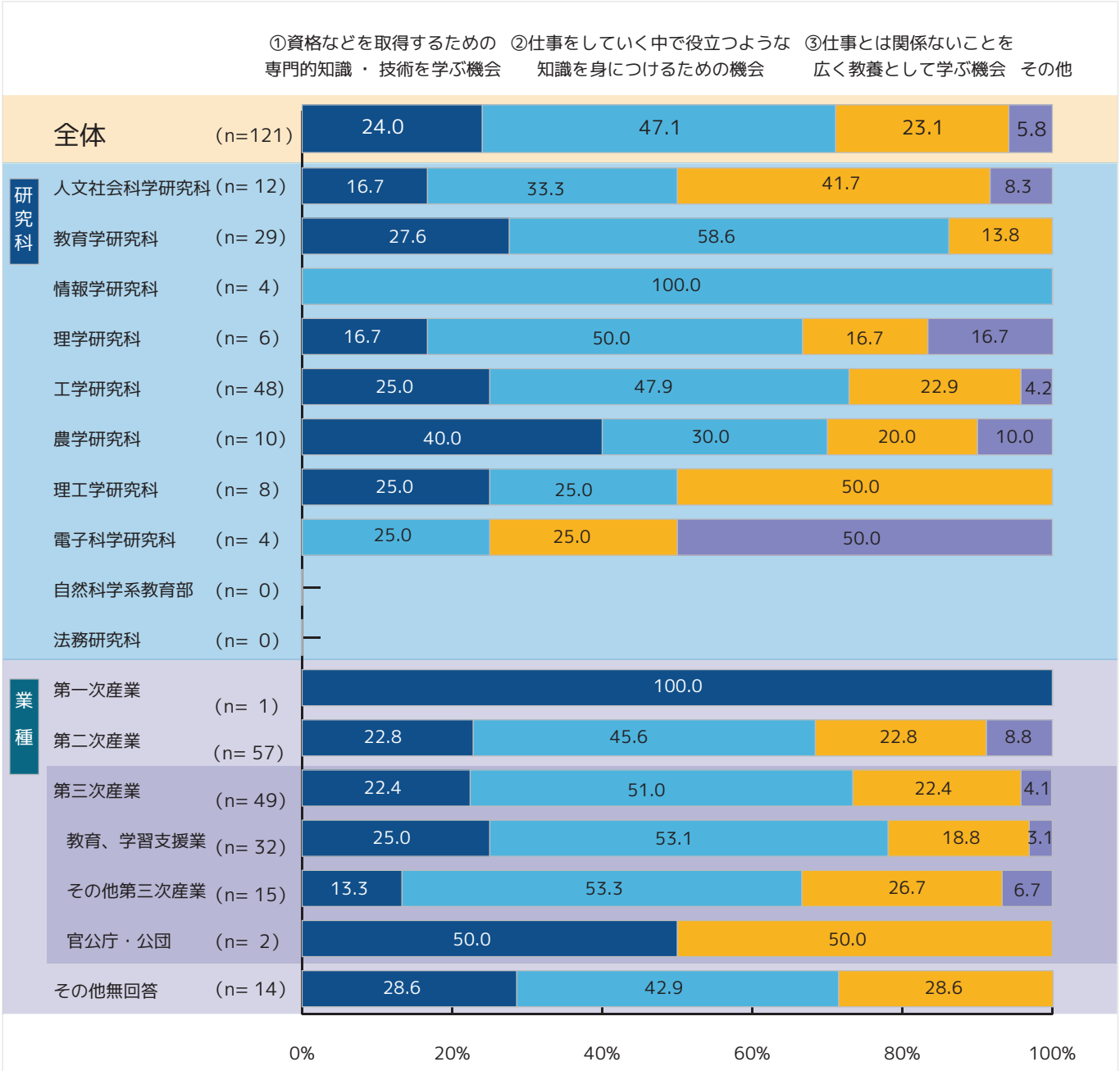
その他

- 自分の研究したい事を研究する機会 (農学研究科)
- 社会人２～３年目で役に立つようなことを、土 or 日曜に学べたらうれしいです。(理学研究科)
- 情報処理能力 (電子科学研究科)

静岡大学大学院で再び学びたい機会の内容（希望者のみ回答、複数回答可）

解　説

研究科別にみると、「資格等を習得するための知識・技術を学ぶ機会」の回答割合は「農学研究科」（40.0%）で最も高い。
「仕事で役立つような知識を身につける機会」の回答割合は「情報学研究科」（100.0%）で最も高く、「仕事とは関係ない教養を学ぶ機会」の回答割合は「理工学研究科」（50.0%）で最も高い。

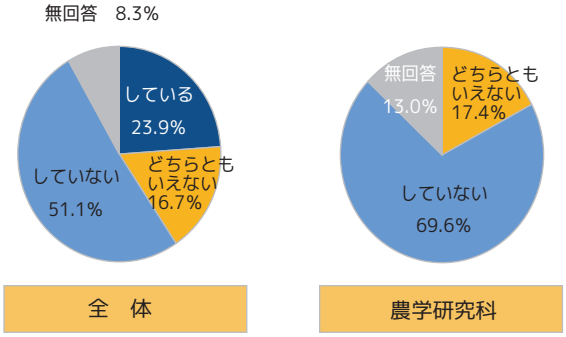


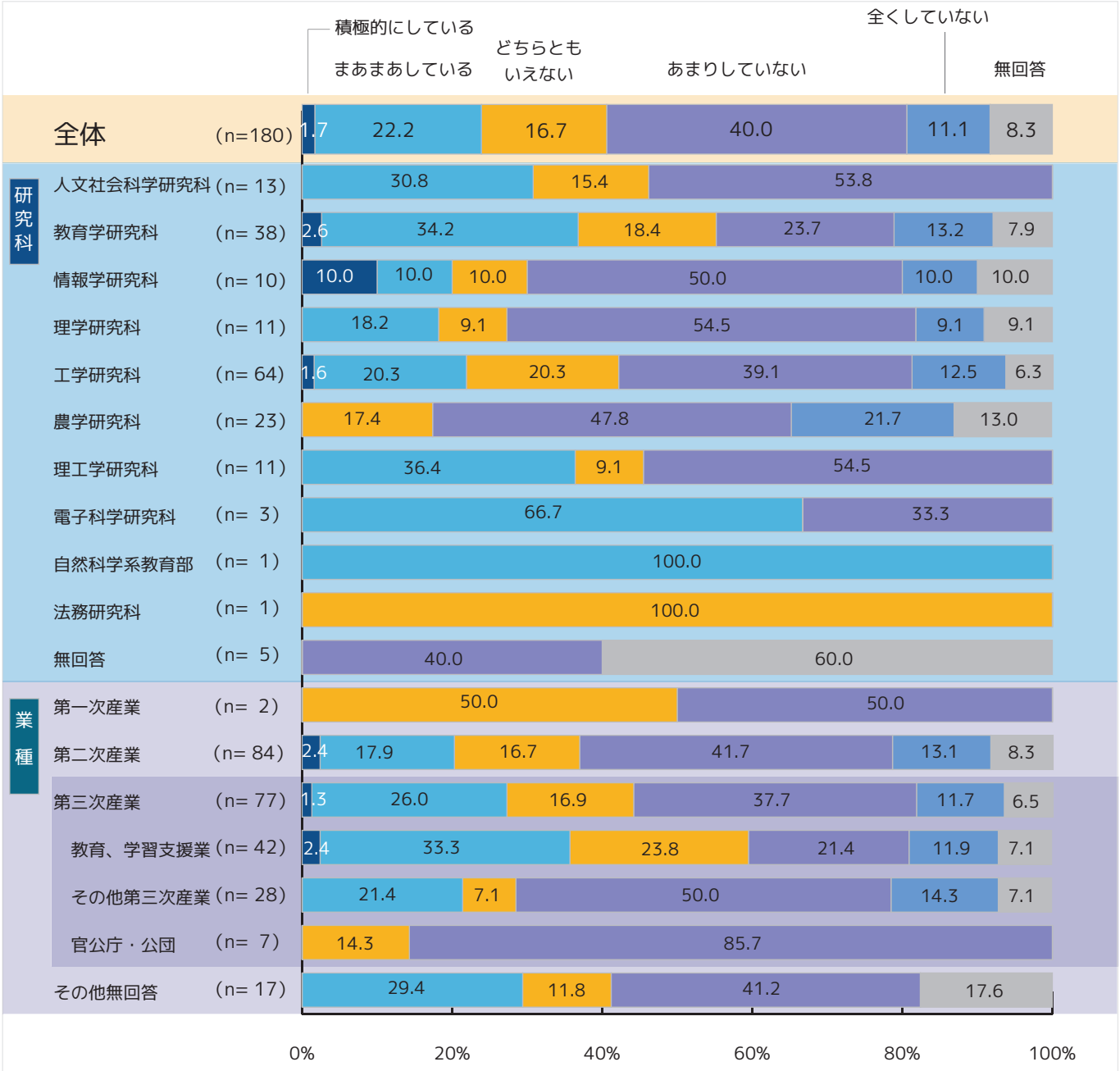
静岡大学の学外向け（企業や社会など）ＰＲ活動について

全体でみると、否定的回答割合が 51.1％で半数を超える。
「積極的にしている」の回答割合はわずか 1.7％にとどまる。

解　説

- 研究科別でみると、「農学研究科」における肯定的回答はゼロ。
- 肯定的回答割合は「教育学研究科」（36.8％）で比較的高い。





静岡大学の学外向け（企業や社会など）ＰＲ活動について

ＰＲしていると思われる点

- 宣伝のポスターをよく見かける。新聞に講演の案内が掲載されている。（教育学研究科）
- 新聞等でも企業、地域と協力体制を築こうとしていることが分かるため。（情報学研究科）
- 社会人に向けた講座のチラシなどを目にする事があるので。（教育学研究科）
- 新聞等で、シンポジウムや市民講座などの詳しい記事を読む機会が増えた。（人文社会科学研究科）
- 教授の論文や講演を目にすることがあるため。（教育学研究科）
- サイエンスカフェなど大学名を見る機会がある。（理学研究科）
- 産官学の連携がなされている。共同研究がよくなされている。（電子科学研究科）
- 就職率は充分に高いため、PR はできているように思う。（工学研究科）
- HP が定期的に更新されていて学会で表彰されたことや新聞・ニュースで取材された事について良く公表されていると思うため。（工学研究科）
- 大学の教員の方々が積極的に小・中・高校に来て授業をしてくれるようになった。でももっと進んでやって欲しい。（教育学研究科）
- 各種イベントを通じた研究成果の発表。（工学研究科）

ＰＲのためのアイデア等

- HP の充実。マスメディアへの露出。（教育学研究科）
- 佐鳴湖浄化に、今以上に力を入れ、企業、他大学と共に、考察・改善を行う事で、名を PR する。（工学研究科）
- 学生が主体となって学外へ PR する機会を増やす取組みをしたらよいと思う。（人文社会科学研究科）
- PR できるものを創ること。人材や研究成果など。（農学研究科）
- 共同研究(企業との)をより進めていく。静岡大学がトップである研究テーマを社会に対してもっと知ってもらう。（工学研究科）
- 高校へ PR 広報をしに行く。（農学研究科）
- OB や OG との交流をすること。（工学研究科）
- 教育に力を入れるのはもちろんですが、研究で名を知られる大学になって欲しいです。又、地域と協同で社会貢献して欲しいです。（教育学研究科）
- 近隣、もしくは附属との連携だけでなく、特に東部の学校にも協力して研究支援をしていただけるように、PR も含めて積極的に行ってほしい。（教育学研究科）
- 産学連携による新製品の開発とマスメディアへのアピール。（農学研究科）
- 大学での研究がどのように進められ、研究がどれだけ素晴らしいものか PR できれば良い。（教育学研究科）
- カリキュラムの国際化と留学生の積極的な受け入れ。そしてそれを各種広告媒体で県外に対してアピールしていく。（農学研究科）
- 卒業生等を呼んで就職説明会をするなど、学外とのつながりをもっと作った方が良いと思います。（理工学研究科）
- 成果を上げる事で知名度を上げる。また、それを上手く PR 材料として使う。（農学研究科）
- 大学が何を求めているかよく分からないため、どのような PR をすれべよいかも分からない。（農学研究科）
- 学生がどの様な教育を、どの様な方針のもとに受けているのか公開すべき。どの様な学生が育つのか、具体的なイメージが沸かない。（工学研究科）
- 在学生と卒業生との交流の機会を増やす。（情報学研究科）
- 静岡県外で静大の名前を聞く機会がないので、県外でも PR をすべきではないか。（情報学研究科）
- 静岡大学が他大学と異なる部分、特色などの個性を持ち、それらを PR すべき。（理学研究科）
- 人材育成の面での PR。静大ならではの”売り”がもっと見える大学であって欲しい。（教育学研究科）
- 様々なマスメディアを通じての広報活動。（教育学研究科）
- 大学ブランドの農産物や加工品の販売。（農学研究科）
- 私大とまでは言わないが、メディアへの登場回数を増やす。学内のイベントについての広報活動を強める、など。（工学研究科）
- 企業向け（就職につながるような）アピールを増やすと良い。（理学研究科）
- 静岡大学出身と言うと、テレビやカメラが専門なのかと聞かれることがよくある。これは大学の特徴や強みが認知されているという面で非常に良い事だと思うが、その反面でその他の取組みや成果の PR が不足しているのだと思う。（工学研究科）
- 地域への研究発表会、展示会みたいなもの。（工学研究科）

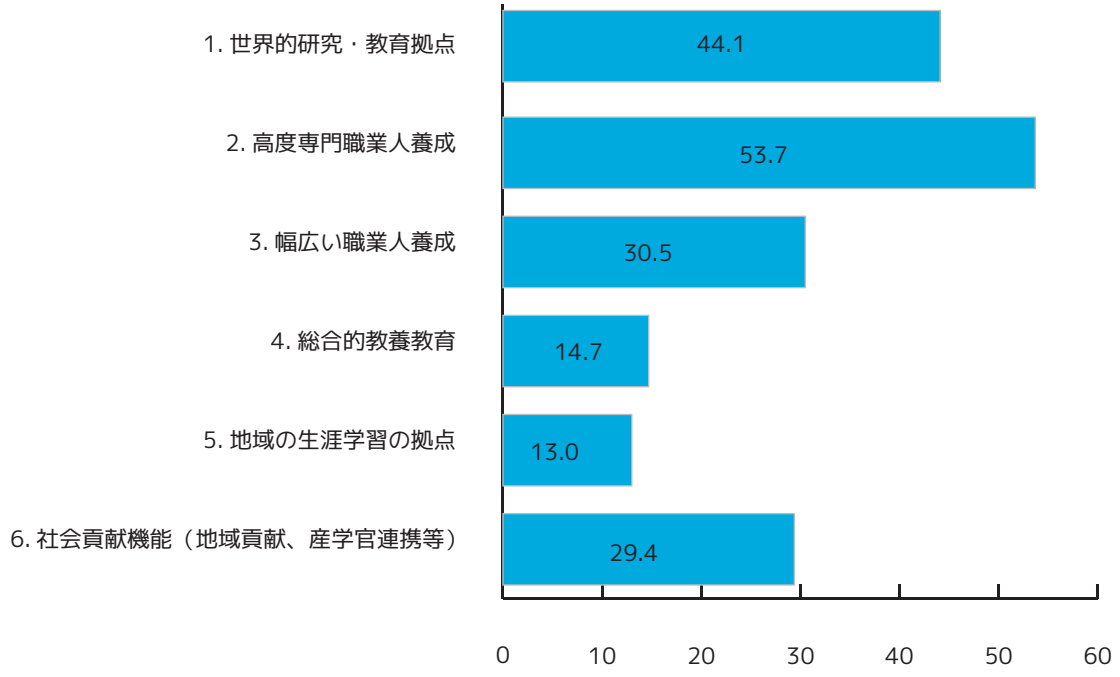
静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）

「高度専門職業人養成」（53.7％）、「世界的研究・教育拠点」（44.1％）、「幅広い職業人養成」（30.5％）の順に高い。

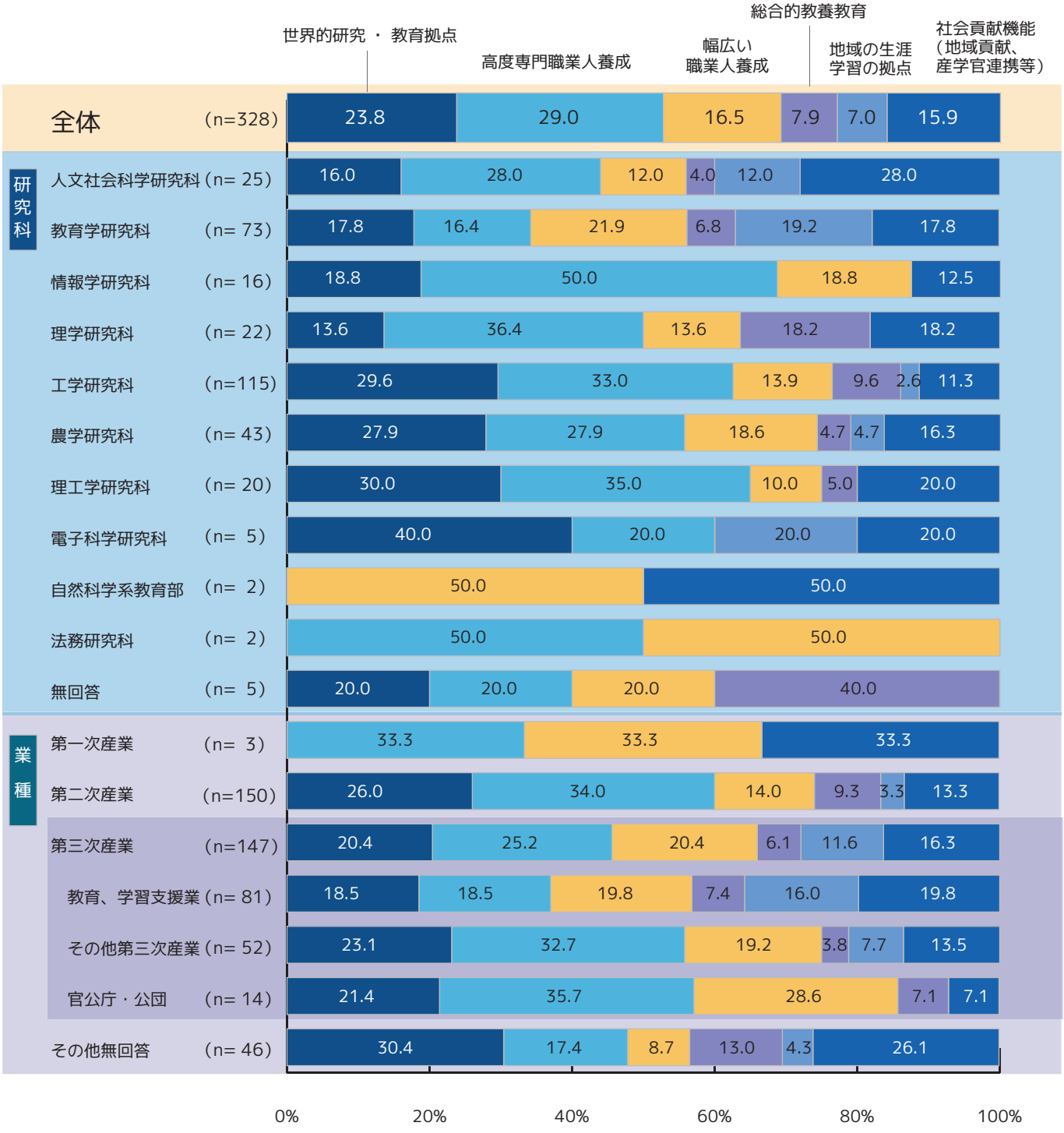
解　説

- 上位３つは学部卒業生アンケート結果と同じ。（順位は相違あり）
- 研究科別にみると、「世界的研究･教育拠点」は「電子科学研究科」（40.0％）、「高度専門職業人養成」は「情報学研究科」（50.0％）、「幅広い職業人養成」は「教育学研究科」（21.9％）において回答割合が高い。

回答者数 177 人 =100



静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）



静岡大学に関する意見や期待

改善要望について

- 工学部に研究費をもっとたくさんあげて下さい。現状では、今の大学からの費用では研究していくのが困難です。（電子科学研究科）
- 静岡と浜松の交流が少ないため改善して欲しい。（工学研究科）
- 教員によって教える熱意やスキルに差が大きい。期末のアンケート結果が教員や授業内容に反映されない。ＩＴのスキルは身についたし、仕事でも役に立っている。全体としては満足している。（情報学研究科）
- 工学研究科と電子工学研究所では、各研究室の研究予算に大きな隔たりがあり、それが設備の充実度に反映されていた。この格差を是正して、学生に等しく研究環境を提供していただきたい、以上。（工学研究科）
- 就職窓口の充実化。（農学研究科）
- 社会との距離を縮めてほしい。今でも就職に悩んでいる静大院卒の友人が多くいます。（教育学研究科）
- 工学部は研究が大事です。社会に認められるためにも、マンパワーは有ると思うので（学生）、なるべくお金を使って良い成果を出して下さい。（工学研究科）
- 静岡大学に限った事ではないが、研究科としてのカリキュラムやシステムとしての充実度は弱く、指導教官の個人的努力によってサポートされていたように思う。そのため、所属した研究室によって充実度の差が非常に大きかった。もっと大学組織として学生を教育する必要があるのではと思う。また、私は教育学研究科であったが、設備があまりに古かった。予算も少なく、充実した研究環境とは言えなかった。指導教官の先生方には本当に鍛えていただいた。今でも感謝している。（教育学研究科）
- 研究レベルのさらなる向上と、それに伴う能力の高い人材の育成を目指していただきたいです。また、私が在籍していた専攻・時期の話になりますが、研究室の数に対して助教の人数がやや少ないのではないかと思いました。若手研究者の活躍の場を広げることは、上述の「研究レベルの向上」や「能力の高い人材育成」につながると思います。（工学研究科）
- 地元志向は良い点も多いが、似たような学生が増えて視野が広まらない可能性がある。他県の学生や他大卒の学生を積極的に受入れることも大事かと思います。（農学研究科）
- 社会人としての即戦力教育をもう少し拡充してもよい。（ＣＡＤ等の積極活用）（工学研究科）

今後の期待について

- せっかく質の高い研究を行っているので、地域にとどまらず、もっとグローバルにも連携の幅を広げていった方がよい。（理工学研究科）
- 製造メーカーで６年目となりました。大学時代は、情報科学科で、主にソフトの分野を学びましたが、社会に出ると、情報、電気、電子、機械、材料･･･と幅広い知識、ものの見方が求められると感じています。できれば、卒業生に、卒業した学部、研究科以外の学部講義を開講していただけるとうれしいです。（できれば安く！）（情報学研究科）
- 能力、モチベーションが高い学生に入学してもらう為に、高校や地域とのつながりが大切かと思います。又、授業も、回数を保持するだけでなく、ゼミや演習などは少人数で内容を吟味し、厳しく鍛えるという姿勢が若い人々のためになると考えます。（人文社会科学研究科）
- 静岡大学を選んだ事は間違いなかったと思っている。今後も教養のある人材育成をすると共に、新しい事へのチャレンジもして、静大の名前を売っていって欲しい。（工学研究科）
- 就職する上では何もマイナスになる点が無いと思います。今後はもっと専門的に学ぶことができる環境が整備されることを期待します。（工学研究科）

謝辞等

- 教授の方々も、休日にも丁寧にご指導くださり本当にありがたかったです。今の教員人生があるのも、静岡大学のおかげです。本当にありがとうございました。（教育学研究科）
- 学生に対する支援の姿勢が見られ、とても良い環境で学べたと思います。のびのびと学習できるのが静大の良い所だと思っています。今後、社会の変化と共に大学も変化していくと思います。静岡大学が発展してくれる事を期待しております。（理学研究科）

「習得した能力の役立ち度」に関する考察

「大学院修了生アンケート調査」の問５は、学生生活を通じて身につけることができたと思う能力について聞いている。全体の集計結果は次の通りである。

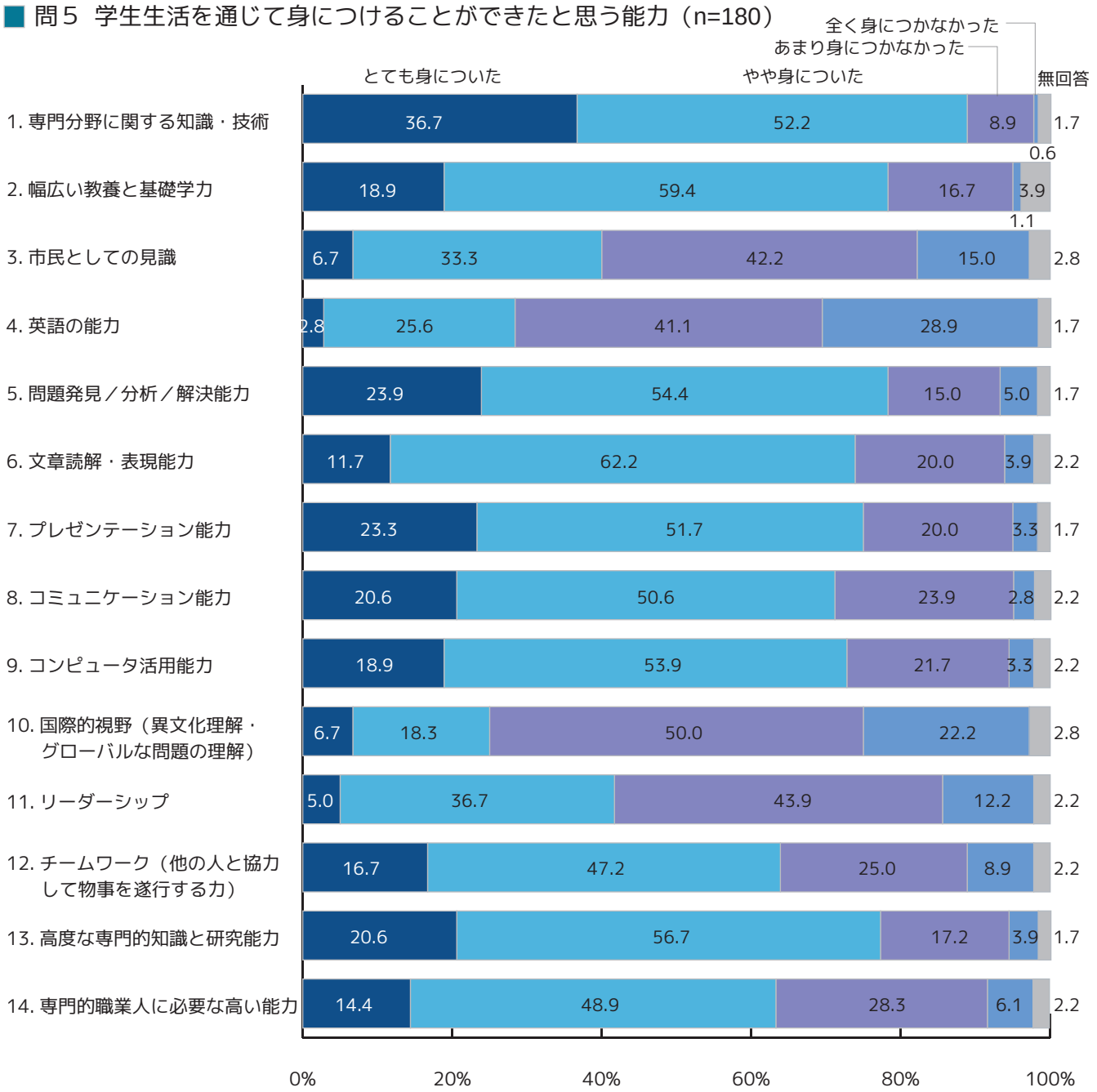
他方、問７では問５と同じ能力について、仕事や日常生活の中で、静岡大学で学んだことや経験がどの程度役立っているかについて聞いている。全体の集計結果は次ページの通りである。

役に立っている（「とても役に立っている」と「ある程度役に立っている」の合計）とする割合が最も高い能力は「幅広い教養と基礎力」の 75.6％で、最も低い能力は「国際的視野」26.1％である。

しかし、問７の集計結果は、その能力を身につけていない者の回答も含んでおり、身につけた能力がどの程度役立っているかを表していない。

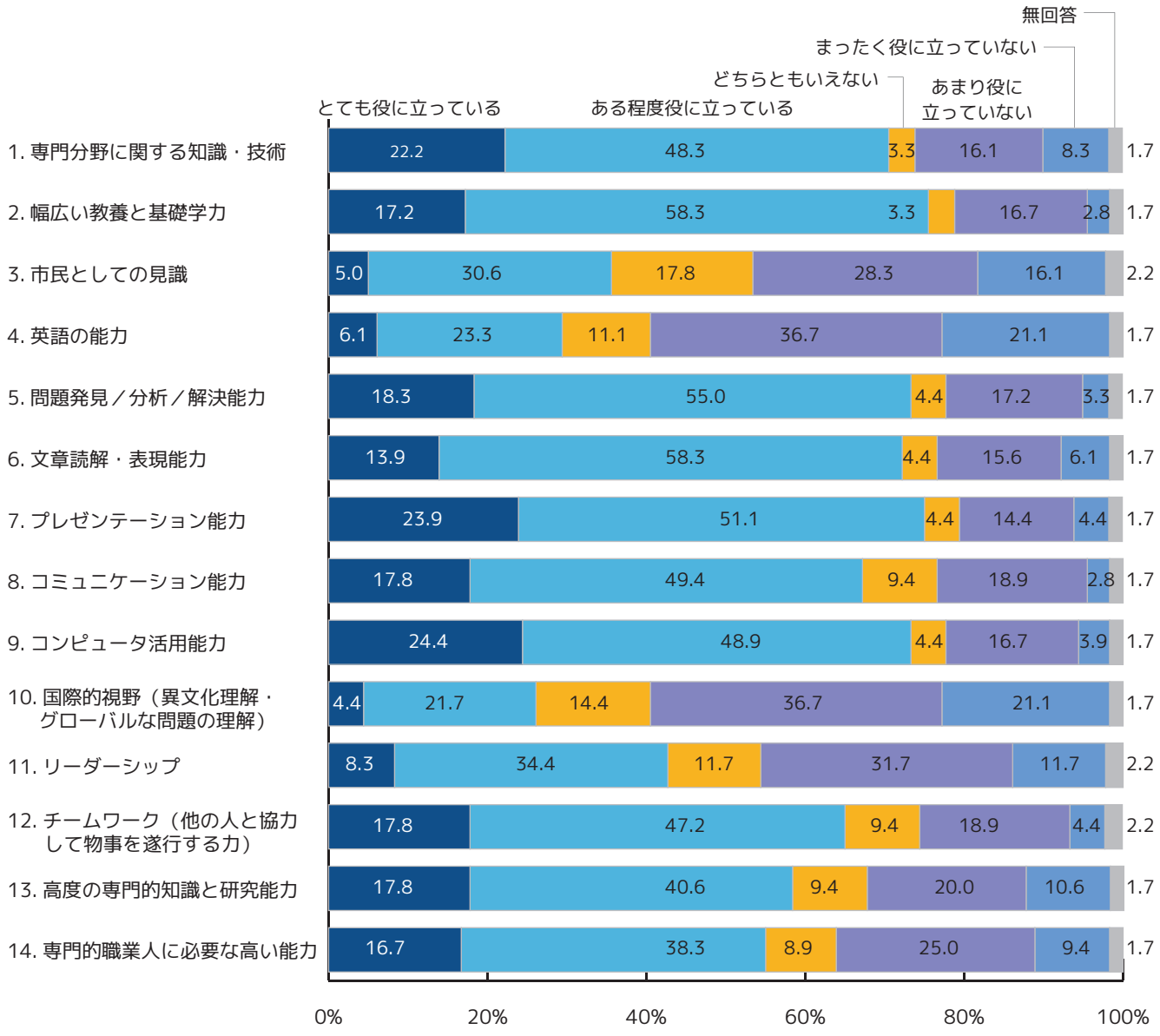
身についたと思う能力が、仕事や日常生活の中でどの程度役立っているかについて分析する為には、問５と問７をクロス集計することが必要である。クロス集計により「とても身についた」あるいは「やや身についた」と答えた大学院修了生のみにおいて、その能力が「とても役立っている」あるいは「ある程度役立っている」と答えた者の割合を把握することができる。

■ 問５　学生生活を通じて身につけることができたと思う能力（n=180）



「習得した能力の役立ち度」に関する考察

■ 問７　静岡大学で学んだことや経験がどの程度役に立っているか（n=180）



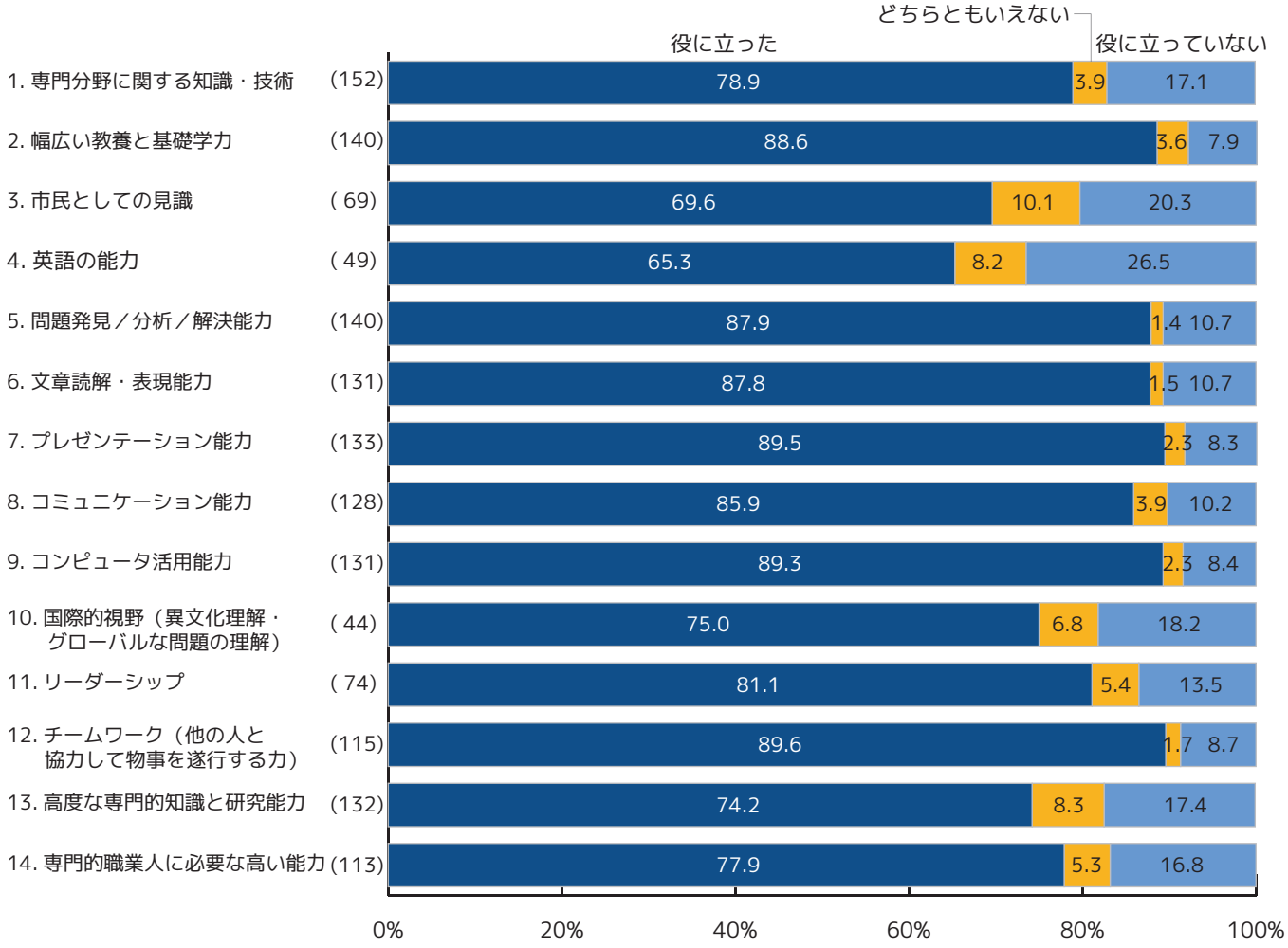
「習得した能力の役立ち度」に関する考察

次のグラフが問５と問７のクロス集計結果である。

各能力について、学生生活を通じて身につけることができたと思う学生のみにおける、仕事や日常生活の中で役立っていると回答している本学修了生の割合は全般的に高い。また、「英語の能力」を例にしてみると、身につかなかった者も含めた単純な役立ち度（「とても役立っている」と「ある程度役立っている」の合計）は 29.4%であるが、「英語の能力」を身につけた者のうち、それが役立ったと回答した者は 65.3%であることが読み取れる。

「英語の能力」については、回答を寄せた大学院修了生の４分の 1 の者が身につけ、そのうちの約 3 分の２の者が、仕事や日常生活で役立てているということであるので、その結果、回答を寄せた本学修了生の６人に１人は、「英語の能力」を身につけた上で仕事や日常生活で英語の能力を役立てていることになる。

■ 各能力を習得したと思う学生のみにおける役立ち度



（　）内は「習得・ある程度習得」の回答数ｎ

＜大学院修了生用＞

平成２４年８月

「静岡大学に関するアンケート調査」

静岡大学　副学長（企画・評価担当）浅利 一郎

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、本学では静岡大学大学院を修了された皆様に、静岡大学での学生生活、教育・研究を振り返っていただき、その内容について評価をしていただきたくアンケート調査を行うことと致しました。

この調査は、学習、生活や進路に対する学生サービス面、及び教育の成果や効果の検証について、修了生による評価・意見を調査し、教育の質的向上と魅力ある大学のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

つきましては、ご多忙のところ恐れ入りますが、アンケートにご協力いただきたくお願い申し上げます。なお、回答はすべてコンピュータによる統計的な集計を行い、個々の情報として取り扱うことは決してございません。お手数ですが８月３１日（金）までに同封の返信用封筒にてご投函願います。

敬具

なお、この調査に関するご質問やお問い合わせ等は下記までお願いします。

担　当　企画部企画課評価係
連絡先　静岡市駿河区大谷８３６
０５４－２３８－４５７６

※アンケートご記入にあたってのご注意

- 本調査は平成 19 年度、平成 21 年度に修了された方を対象としています。
- 本調査は入学時にご登録いただいた保護者様の住所に送付しています。
- ○の数は設問の指示に従い、選択肢番号をしっかり○で囲んでください。

＜例＞　性別をお知らせください。

① 男性
２ 女性

- 補問が設定されている設問もあります。その設問は選択番号に○をつけた後に矢印に従ってお答えください。

●まず、あなたご自身についてお伺いします。

性別をお知らせください。

1	男性
2	女性

修了年次をお知らせください。

1	平成 19 年度（各研究科修了３年目）
2	平成 21 年度（各研究科修了５年目）

所属していた研究科をお知らせください。

1	人文社会科学研究科	2	教育学研究科
3	情報学研究科	4	理学研究科
5	工学研究科	6	農学研究科
7	理工学研究科	8	電子科学研究科
9	自然科学系教育部	10	法務研究科

出身（卒業した学部）の大学をお知らせください。

1	静岡大学卒業
2	他大学卒業　（具体的に　　大学　　学部　）

現在のご職業をお知らせください。

1	会社員	7	パート・アルバイト
2	公務員	8	専業主婦（夫）
3	経営者・役員	9	学生
4	自由業（開業医・弁護士 等）	10	無職
5	自営業（商店・サービス業 等）	11	その他（　　）
6	農林漁業		

現在のご職業の業種をお知らせください。

1	農業	8	情報通信業	15	教育、学習支援業
2	林業	9	運輸業	16	複合サービス事業
3	漁業	10	卸売・小売業	17	サービス業
4	鉱業	11	金融・保険業	18	官公庁・公団
5	建設業	12	不動産業	19	教育委員会
6	製造業	13	飲食店、宿泊業	20	その他（　　）
7	電気・ガス・熱供給・水道業	14	医療、福祉		

●静岡大学についてお伺いします。

問１　あなたが静岡大学大学院を選択した理由は何ですか。以下の中から当てはまるものに〇を付けてください。（〇は３つまで）

１	静岡大学の学部に在籍していたから
２	入試の難易度・選抜方法が合っていたから
３	専攻したい学問分野があったから
４	専攻したい学問分野のレベルが高いから
５	レベルの高い研究を行っていたから
６	専門的知識・研究をさらに深めたいから
７	教員スタッフが充実していたから
８	国立大学であるから
９	伝統や知名度があるから
10	大学のイメージがよいから
11	校風やキャンパスの雰囲気が自分に合っているから
12	施設・設備がよいから
13	就職状況がよいから
14	取りたい資格・免許が取得できるから
15	自宅から通えるから
16	出身地（帰省地）の近隣県であるから
17	“静岡”あるいは“浜松”という土地柄やイメージがよいから
18	東京・名古屋などの大都市へのアクセスが良い土地柄だから
19	授業料が安いから
20	周囲の人に勧められたから
21	学部卒業時に就職できなかったから
22	その他（　　）

問２　あなたが進学先を検討するうえで、どなたに相談しましたか。
最も相談した方をお知らせください。（〇は１つ）

１	家族
２	親戚
３	先輩
４	友人・知人
５	指導教員
６	その他（　　）
７	なし（自分自身で決定）

問３　静岡大学の学生生活を振り返って、総合的にみてどの程度満足されていますか。（○は１つ）

１　非常に満足	２　概ね満足	３　やや不満	４　非常に不満	５　どちらともいえない

問４　静岡大学の学生生活で、次にあげる各項目の満足度をお知らせください。
（それぞれの項目について、あてはまる満足度１つに○を付けてください）

	満足度				
	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満	どちらともいえない
１　研究の指導体制が適切だった	１	２	３	４	５
２　「専門講義科目」が充実していた	１	２	３	４	５
３　「実験・演習・フィールドワーク等」が充実していた	１	２	３	４	５
４　学会やシンポジウムへの参加が推奨されていた	１	２	３	４	５
５　研究室・実験室が整備されていた	１	２	３	４	５
６　自習スペースやラウンジが整備されていた	１	２	３	４	５
７　自由に使用できる「自学用教材」が充実していた	１	２	３	４	５
８　インターネットにアクセスする環境が整備されていた	１	２	３	４	５
９　教育・研究・実験に必要な設備・備品が整備されていた	１	２	３	４	５
10　図書館・資料室等に研究に必要な雑誌・蔵書・資料が整備されていた	１	２	３	４	５
11　留学生を含む学生同士が交流する機会に恵まれていた	１	２	３	４	５
12　教員とコミュニケーションがとられていた	１	２	３	４	５
13　院生に対する学内情報周知の手段が整備されていた	１	２	３	４	５
14　就職･進学のための情報提供や相談窓口が整備されていた	１	２	３	４	５
15　就職等に必要な資格取得のための支援体制が整備されていた	１	２	３	４	５
16　企業（関係者）や卒業生から職場の話を聞く機会があった	１	２	３	４	５
17　職員の窓口対応が適切に行われていた	１	２	３	４	５

問５　あなた自身が学生生活を通じて、身につけることができたと思う能力についてお知らせください。
（それぞれの項目について、あてはまる習得度１つに〇を付けてください）
また、これらの項目の中で、この頃にもっと身につけたかったと思うものに、いくつでも〇を付けてください。

	とても身についた	やや身についた	あまり身につかなかった	全く身につかなかった		この頃にもっと身につけたかった
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4		
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	→	
3　市民としての見識	1	2	3	4	→	
4　英語の能力	1	2	3	4	→	
5　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	→	
6　文章読解・表現能力	1	2	3	4	→	
7　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	→	
8　コミュニケーション能力	1	2	3	4	→	
9　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	→	
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	→	
11　リーダーシップ	1	2	3	4	→	
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	→	
13　高度な専門的知識と研究能力	1	2	3	4	→	
14　専門的職業人に必要な高い能力	1	2	3	4	→	

問５－１　上記の１～14 で回答いただいた項目のうち、あなたが最も習得できなかったと思うもの１つ（番号で記入）とその理由をお知らせください。

（番号）	（理由）

問６　仕事や日常生活の中で、静岡大学で学んだことや経験が役に立っていると感じることはありますか。（〇は１つ）

１	十分役に立っている
２	ある程度役に立っている
３	あまり役に立っていない
４	まったく役に立っていない
５	どちらともいえない

問７　以下の項目について、仕事や日常生活の中で、静岡大学で学んだことや経験がどの程度役に立っているかお知らせください。

（それぞれの項目について、役立っている程度１つに〇を付けてください）

	役に立っている程度				
	十分役に立っている	ある程度役に立っている	あまり役に立っていない	まったく役に立っていない	どちらともいえない
１　専門分野に関する知識・技術	１	２	３	４	５
２　幅広い教養と基礎学力	１	２	３	４	５
３　市民としての見識	１	２	３	４	５
４　英語の能力	１	２	３	４	５
５　問題発見／分析／解決能力	１	２	３	４	５
６　文章読解・表現能力	１	２	３	４	５
７　プレゼンテーション能力	１	２	３	４	５
８　コミュニケーション能力	１	２	３	４	５
９　コンピュータ活用能力	１	２	３	４	５
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	１	２	３	４	５
11　リーダーシップ	１	２	３	４	５
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	１	２	３	４	５
13　高度な専門的知識と研究能力	１	２	３	４	５
14　専門的職業人に必要な高い能力	１	２	３	４	５

問８　あなた自身の希望として、再び静岡大学大学院で学ぶ機会を持ちたいと思いますか。

１　はい	⟶ 問８－１へ
２　いいえ	⟶ 問９へ

問８－１　上記 問８で「１　はい」を選択した方に伺います。

どのようなことを学ぶ機会を持ちたいですか。（○はいくつでも）

１　資格などを取得するための専門的知識・技術を学ぶ機会
２　仕事をしていく中で役立つような知識を身につけるための機会
３　仕事とは関係ないことを広く教養として学ぶ機会
４　その他（　　）

問９　全員がお答えください。

現在、静岡大学は企業や社会など学外に向けたＰＲをしていると思いますか。（○は１つ）

１　積極的にしている	２　まあまあしている	３　あまりしていない	４　全くしていない	５　どちらともいえない

上記問９で「１ 積極的にしている」または「２ まあまあしている」と回答した方に伺います。

どのような点についてそう思いますか。

上記問９で「３あまりしていない」、「４全くしていない」、「５どちらともいえない」と回答した方に伺います。

どのような取り組みをしたらよいと思いますか。

問 10　全員がお答えください。

今後、静岡大学が重点的に取り組むべき方向性はどのようなものだと思いますか。

以下の６つの項目の中から２つ選んでください。

１　世界的研究・教育拠点
２　高度専門職業人養成
３　幅広い職業人養成
４　総合的教養教育
５　地域の生涯学習の拠点
６　社会貢献機能（地域貢献、産学官連携等）

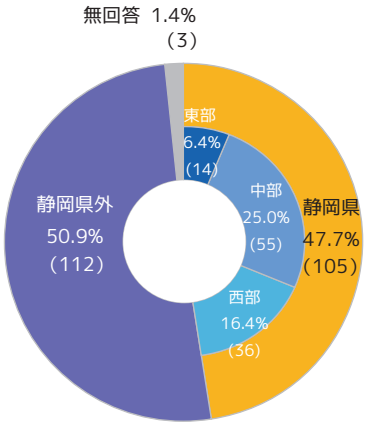
問 11　静岡大学に関するご意見や期待がございましたらお書きください。

ーご協力ありがとうございましたー

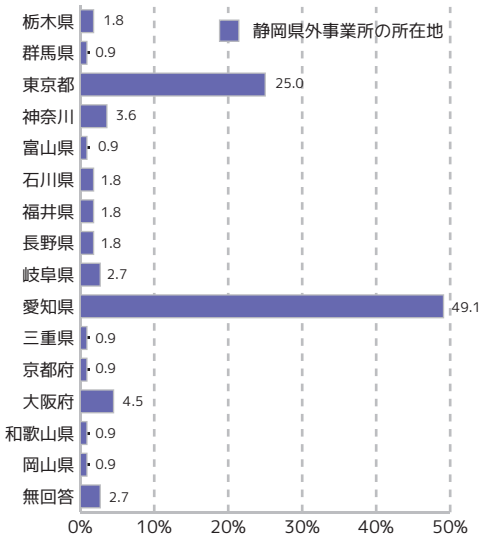
回答企業等の属性および回収率

アンケート票送付対象：過去 5 年間に 2 人以上就職している企業等
送付数：600 件　　回答数：220 件　　回収率：36.7%
回答先企業等のうち静岡県内：47.7%　静岡県外：50.9%

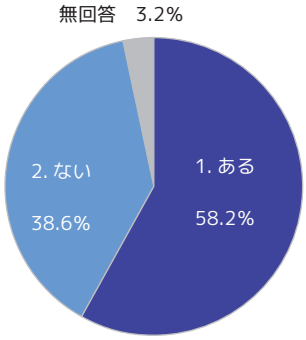
回答企業等の所在地



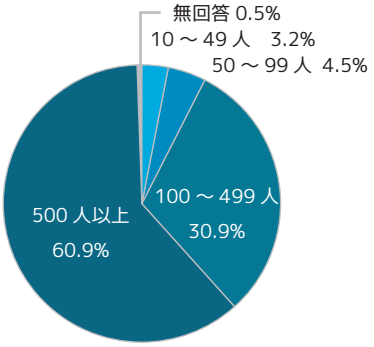
※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。



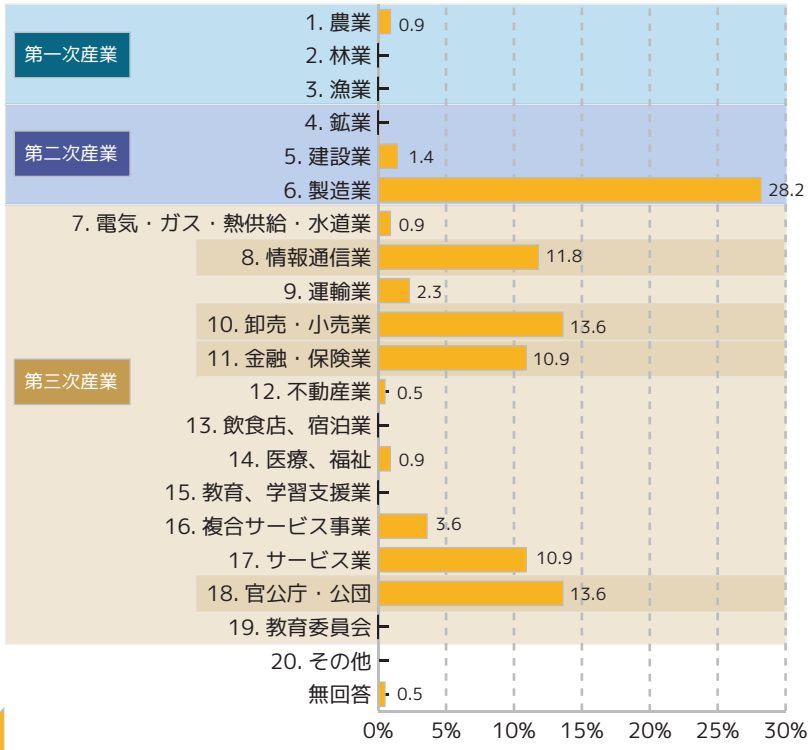
静岡県内における支所・事務所の有無



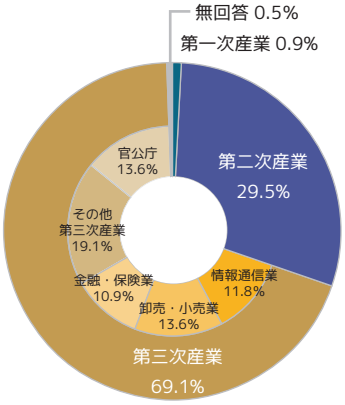
回答企業等の全従業員・全職員数



回答企業等の業種



回答企業等の業種（大分類）



クロス集計用業種分類　業種により回答数が 0 のものがあるため、左円グラフ [回答企業等（大分類）] をクロス集計用の業種とする

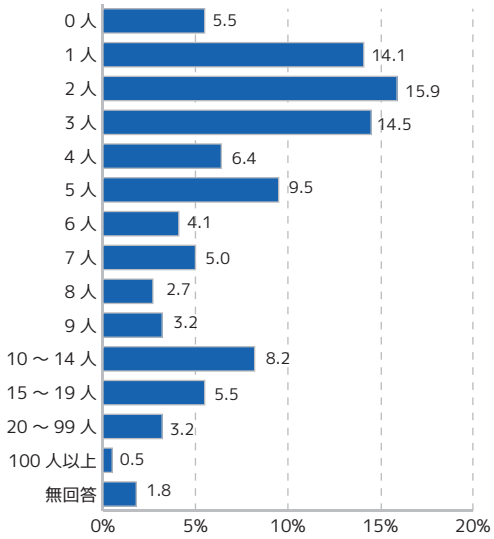
過去 5 年間で採用した静岡大学生のうち現在も勤務している卒業生の人数

（平成 19 年度～平成 23 年度）

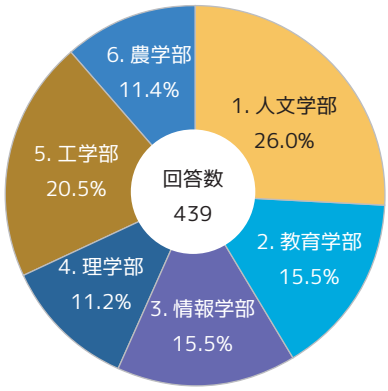
回答 220 の企業等において、過去 5 年間に採用し現在も勤務している本学卒業生人数の 1 社平均は 6.1 人。

■ 過去５年間の採用で現在も勤務している本学学部卒業生の人数

（H19 年度～ H23 年度）



■ 現在も勤務している卒業生の出身学部



※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

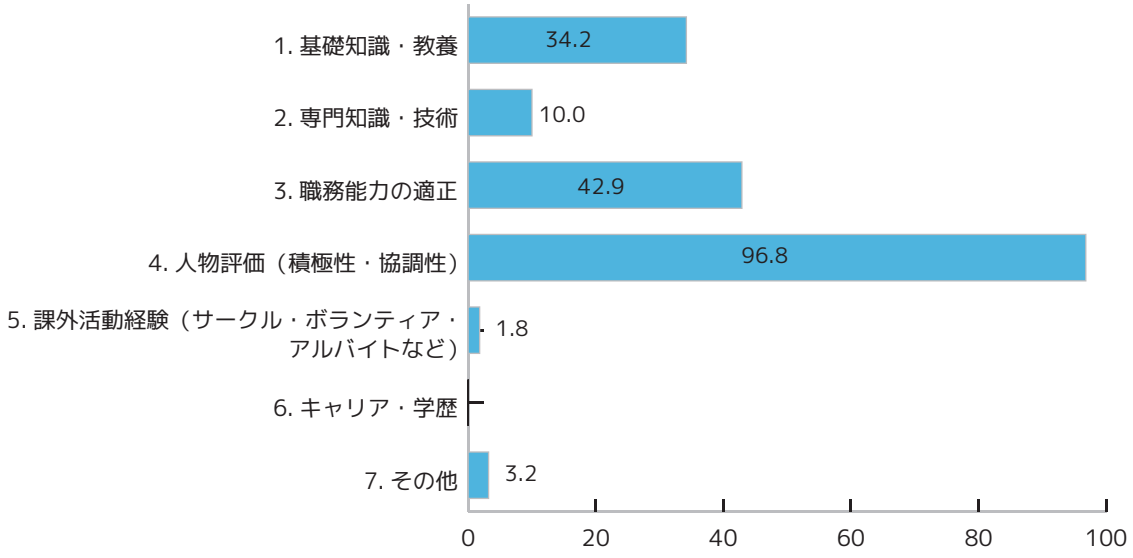
学生を採用するにあたって重視すること（複数回答可）

採用側が最も重視しているのは、「人物評価（積極性・協調性）」。
次いで、「職務能力の適正」「基礎知識・教養」が続く。

解 説

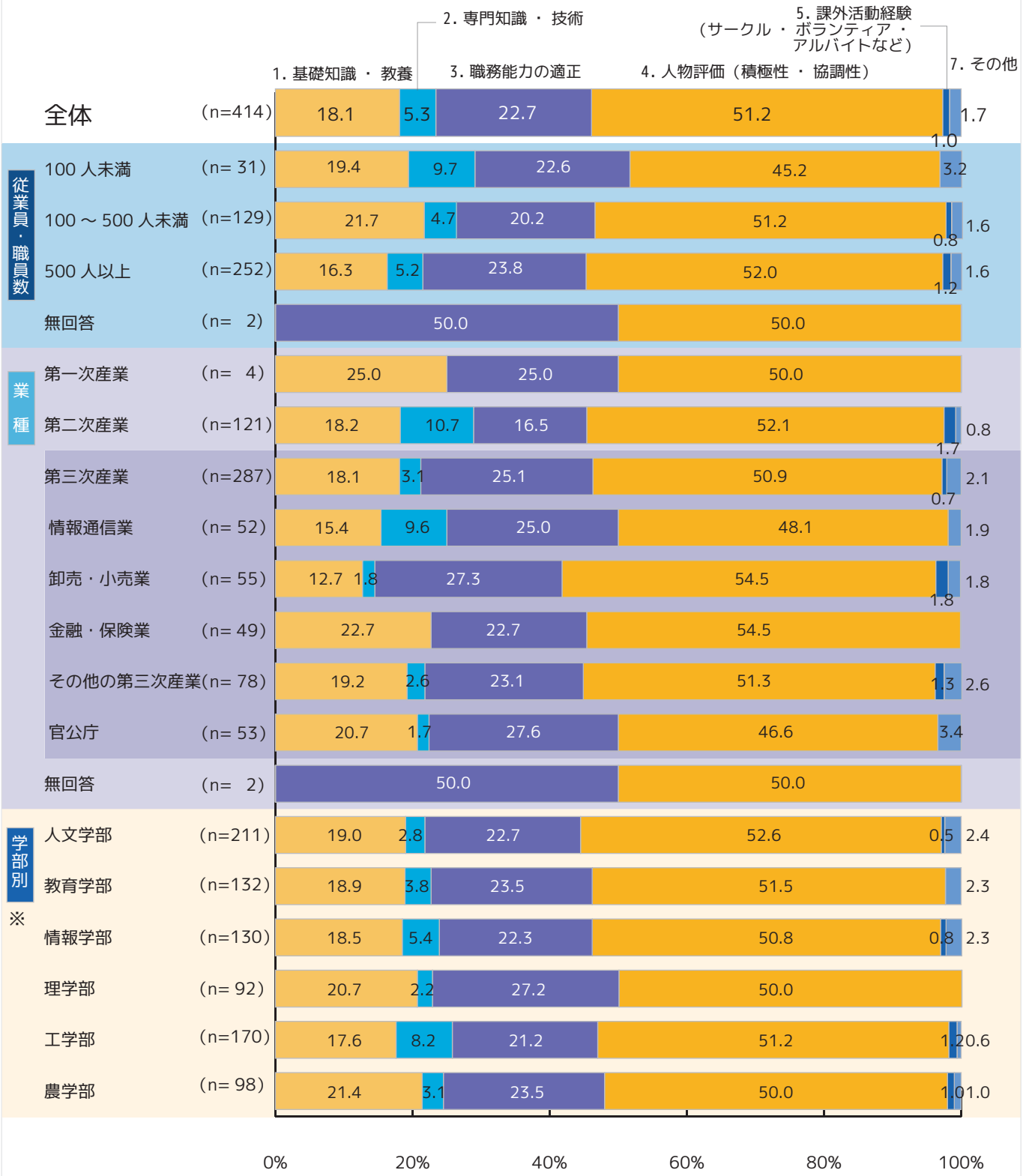
- 採用側が最も重視していていることは「人物評価（積極性・協調性）」で全体、事業規模、業種別ともにほぼ 5 割にのぼっている。
- 「6. キャリア・学歴」を重視している回答企業等はゼロ。
- 学部卒業生に対しては、即戦力となる「専門知識・技術」や「課外活動経験」の要素は重視されていないが、「職務能力の適正」や「基礎知識・教養」といった人物評価と関係の深い要素は採用に重視されている。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 219 人 =100



7. その他の詳細

- コミュニケーション能力、向上心（卸売・小売業）
- 企業理解度（第二次産業）
- 笑顔（その他の第三次産業）
- 社会人基礎力の高い方（情報通信業）
- 静岡県職員採用試験に合格し、採用された者（官公庁）
- 採用試験合格（官公庁）
- 県西部に関りのある方、志望度（その他の第三次産業）



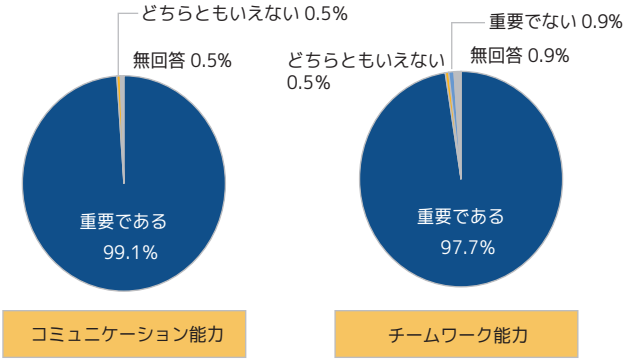
※過去 5 年で採用した卒業生の出身学部が複数回答のため、学部の合計 833 は全体の回答数 414 とあわない。

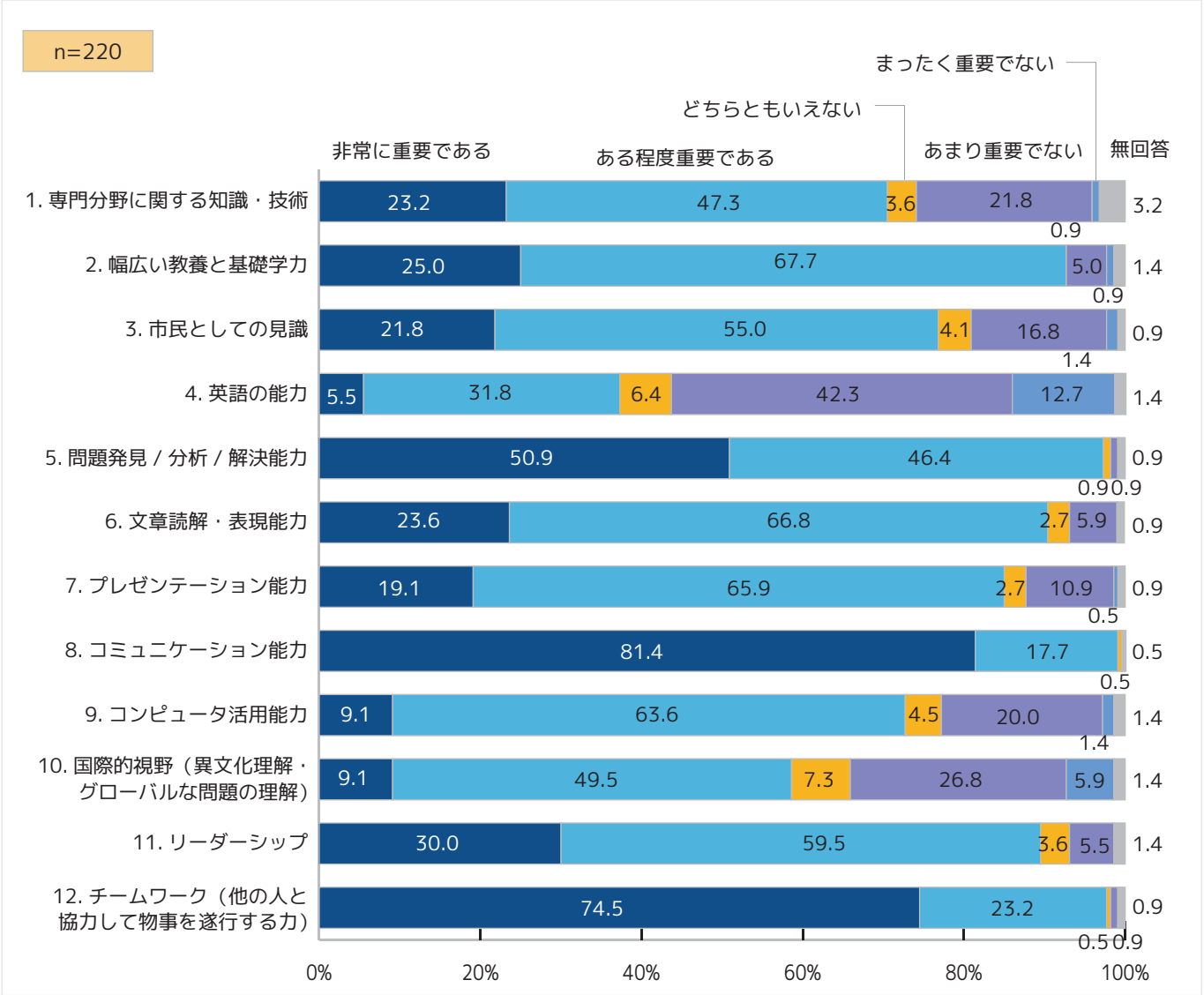
業務を遂行する中で重要であると思う能力

「非常に重要である」は、「コミュニケーション能力」(81.4%)、「チームワーク」(74.5%)、「問題発見 / 分析 / 解決能力」(50.9%) の順に高い。

解 説

- ほぼ全ての企業等が業務遂行において、「コミュニケーション能力」が「重要である」と回答(「非常に重要」(81.4%)「ある程度重要である」(17.7%) の合計で 99.1%)。
- 半数以上の企業等では「英語の能力」は「重要でない」と回答。「国際的視野」に関しても重要でない割合が約 3 割を占める。





業務を遂行する中で重要であると思う能力（その他重要と思われる能力について）

採用側は、能力や技術よりも、個人がもっている素質を重視していることがうかがえる。

その他

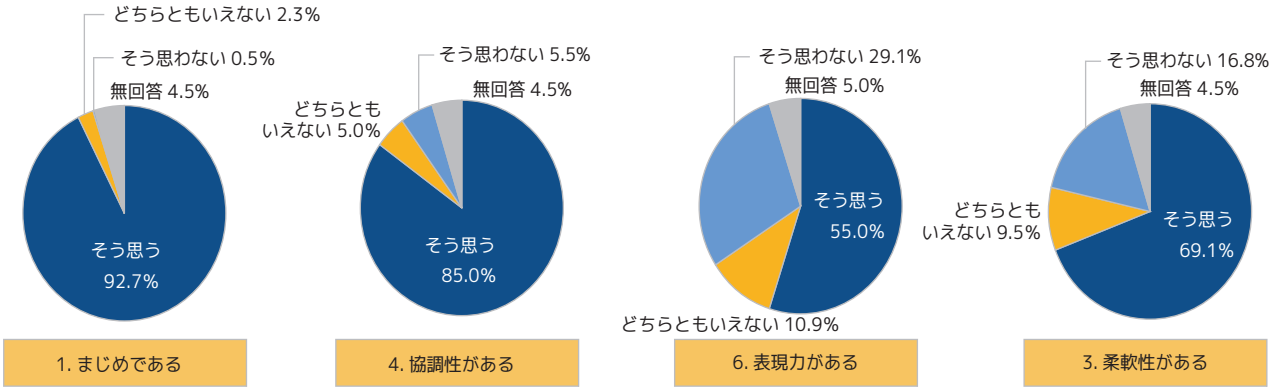
- 基本的なマナー (卸売・小売業)
- 問題解決しようとする意欲、向上心が必要だと思います。(情報通信業)
- 好奇心があること (第二次産業)
- 明るさ、元気の良さ (官公庁)
- 体調管理能力 (情報通信業)
- 自ら目標を設定し、その目標に対して自分で考えて行動できる力 (卸売・小売業)
- 起業家精神。(その他の第三次産業)
- 能力ではありませんが、責任感・約束を守る姿勢・謙虚さ・柔軟さは重要だと考えております。(その他の第三次産業)
- コミュニケーション能力 (第二次産業)
- ヴァイタリティ (金融・保険業)
- 一般常識（大学生の常識は社会に出て非常識という事も指摘されている)、笑顔・挨拶（コミュニケーションの第 1 歩)、臨機応変な受け答え（接客には当然必要とされる能力）(卸売・小売業)
- 変化への対応力 (第二次産業)
- 部門間調整力（コミュニケーション能力に通じるかもしれませんが、他の組織を巻き込んでものごとを進められる能力）(第二次産業)
- 挫折を消化し栄養にする力 (第二次産業)
- ストレス耐性 (官公庁)
- 旺盛な学習意欲（「専門分野に関する知識・技術」をより向上させるために）　・柔軟な発想（「問題発見 / 分析 / 解決能力」をスムーズに行うために）(情報通信業)
- 現実対峙力 (情報通信業)
- ものづくり（創造）力・情報収集（アンテナ）(情報通信業)
- 向上心 (その他の第三次産業)
- 行動力 (第二次産業)
- 人と関わる事(接客)が好きな、スマイルコンシェルジュを目指している方 (その他の第三次産業)
- 「業務意欲」です。(非常に基本的なことですが・・・) 仕事を通しての「自分の理想」「なりたい姿」「夢」など考えたこともなく、結果、自分の「こだわり」を持てず、他者に追随するのみの社員が残念ながらおります。(卸売・小売業)
- 気遣い・思いやり (卸売・小売業)
- 困難な状況においても物事をやりぬく意思の強さ、タフさ (第二次産業)
- 論理的思考能力、物事を深堀りする能力（その他の第三次産業)
- 他者（従業員やお客様）に興味を持ち、関心を抱くことができるか。自己成長・自己利益だけでなく、周囲の人の成長、利益、会社の成長、利益、社会への貢献などを「自分事」として考えることができるか。(卸売・小売業)
- 向学心 (情報通信業)
- 学習能力、情報適応能力 (第二次産業)
- 警察官の場合、体力及び職務遂行に必要となる身体状態並びに正義感 (官公庁)
- 根本的なエネルギー、活力、勉強が苦にならないこと (金融・保険業)
- 責任感 (その他の第三次産業)
- 健康面 (第二次産業)
- ものごとをやり抜く力 (その他の第三次産業)
- 主体的に行動する力 (情報通信業)
- 独創性（オリジナリティ有る発想・感性)。(その他の第三次産業)
- 何事も「チャレンジ精神」を持って積極的に対応する人間を期待しております。(第二次産業)
- 笑顔 (その他の第三次産業)
- 自主性、自立性、自己啓発意欲 (第二次産業)
- 弊社として求める人物像は「成長意欲がある」「主体的に行動できる」「適応力がある」です。その 3 つを潜在的に持ち合わせている方を必要としています。(その他の第三次産業)
- 政策実施力、指導・育成力 (官公庁)
- どの能力も重要だと思います。「あまり重要でない」の３項目についても、入社当初はそれほど重要視しないという意味であり、社会人としての経験及び年齢を重ねれば必要になってくると思います。(但し、英語の能力については、実務上、あまり使うことがありません) (その他の第三次産業)
- 積極性・意欲 (第二次産業)
- 行政職はもとより技術職においても幅広い分野の業務に携わることになるため、様々な分野の知識を習得し、多様な能力を身につけて業務に活かしていくことが求められる。(官公庁)
- 柔軟な発想と行動力 (官公庁)

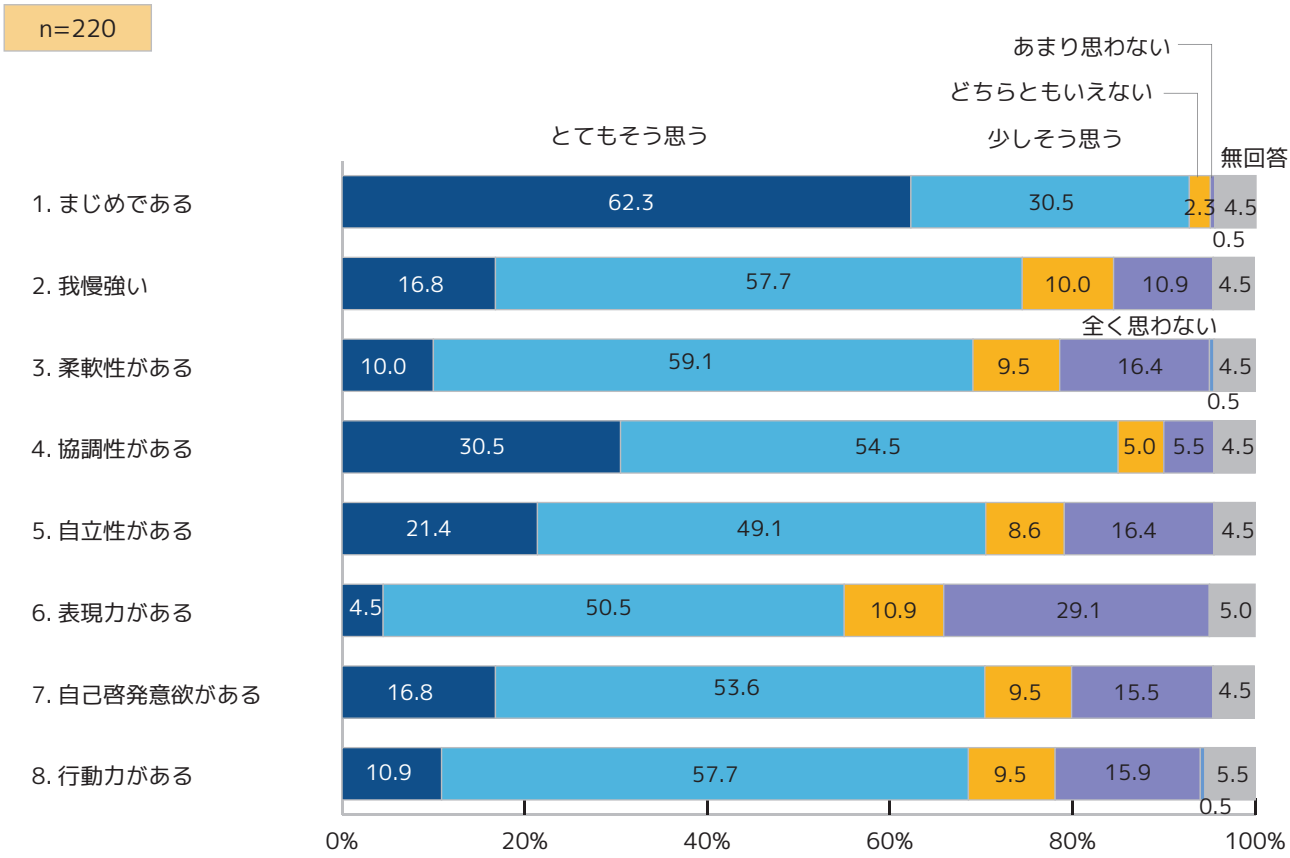
静岡大学卒業生の印象・特徴

学部卒業生の印象として最も高いのは「まじめである」(92.7%)。
「表現力がある」が最も少ない。

解 説

まじめで協調性がある印象・特徴が強い反面、表現力がやや弱い（29.1%）傾向にある。





静岡大学卒業生の印象・特徴（その他）

その他の学部卒業生の印象として、「リーダーシップ」「理解力がある」「体力がある」「元気がある、明るい」「素直である」があった。

■ その他の静岡大学卒業生の印象 ・ 特徴（自由記述）

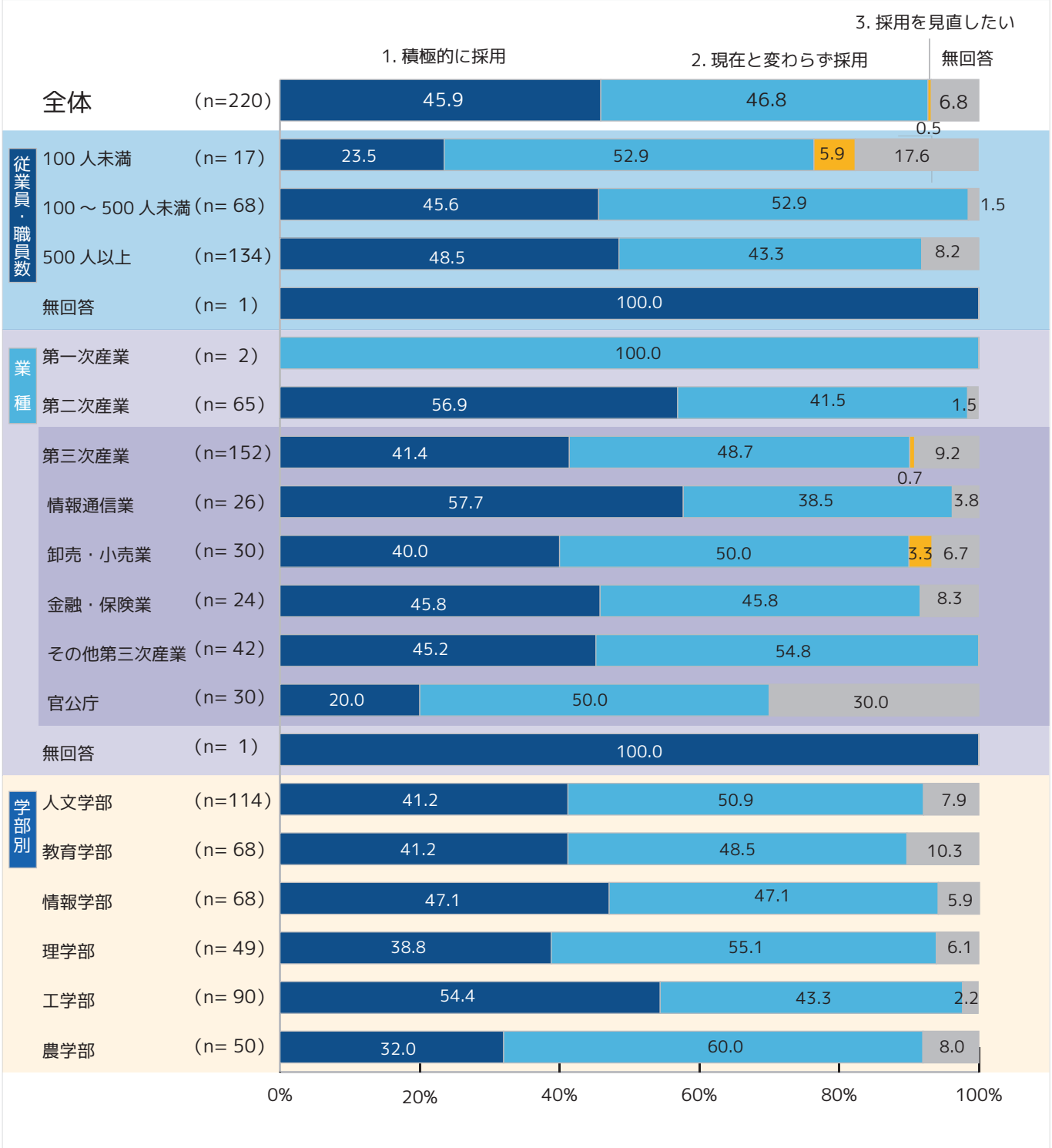
- リーダーシップ（第二次産業）
- 理解力がある（第二次産業）
- 体力がある（第二次産業）
- 元気がある、明るい（その他の第三次産業）
- 素直である（その他の第三次産業）

今後の静岡大学卒業生の採用意向

「積極的に採用」と「現在と変わらず採用」の合計で９割超。学部別では、「工学部」で「積極的に採用」との回答割合が他学部に比べ高い。

解 説

「100 人未満」の 5.9%、「卸売・小売業」の 3.3% で「採用を見直していきたい」と回答。



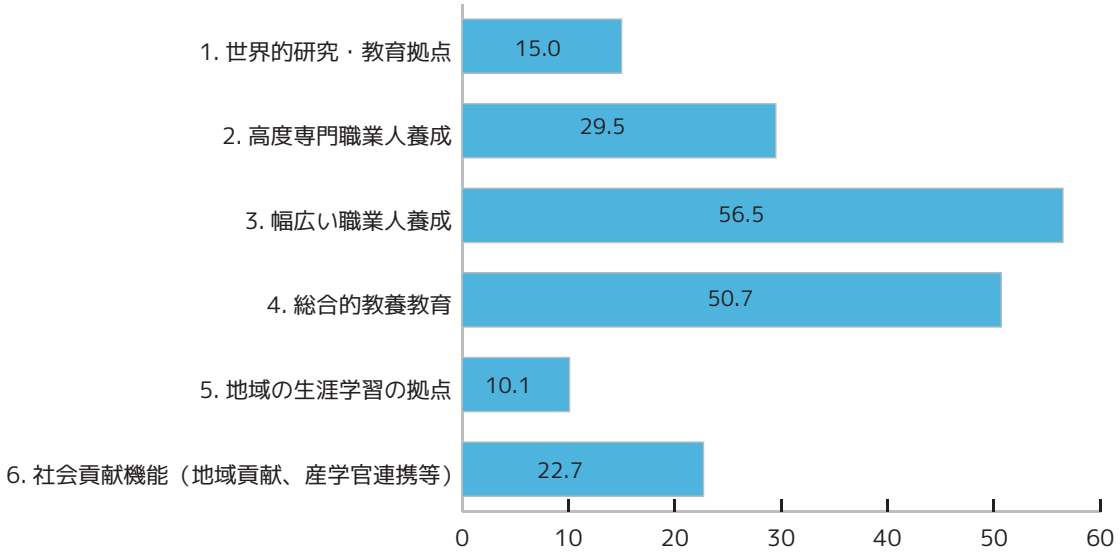
静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）

「幅広い職業人養成」、「総合的教養教育」、「高度専門職業人養成」の順に高い。

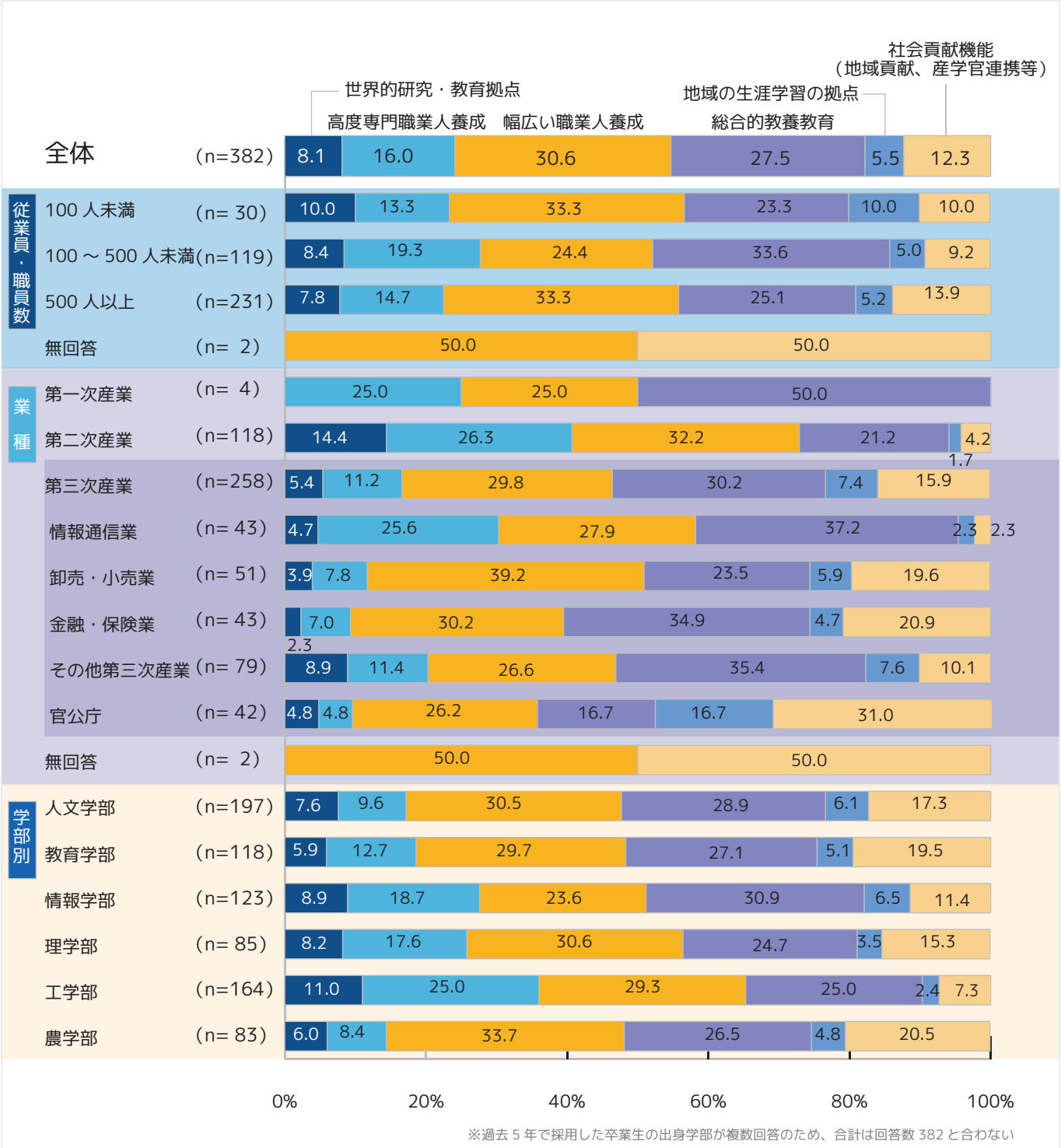
解 説

「幅広い職業人養成」の回答を業種別にみると、「卸売・小売業」が最も高い。「社会貢献機能」の回答を業種別にみると、「官公庁」（31.0%）、「金融・保険業」（20.9%）、「卸売・小売業」（19.6%）の順に高い。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 207 人 =100



静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）



※過去 5 年で採用した卒業生の出身学部が複数回答のため、合計は回答数 382 と合わない

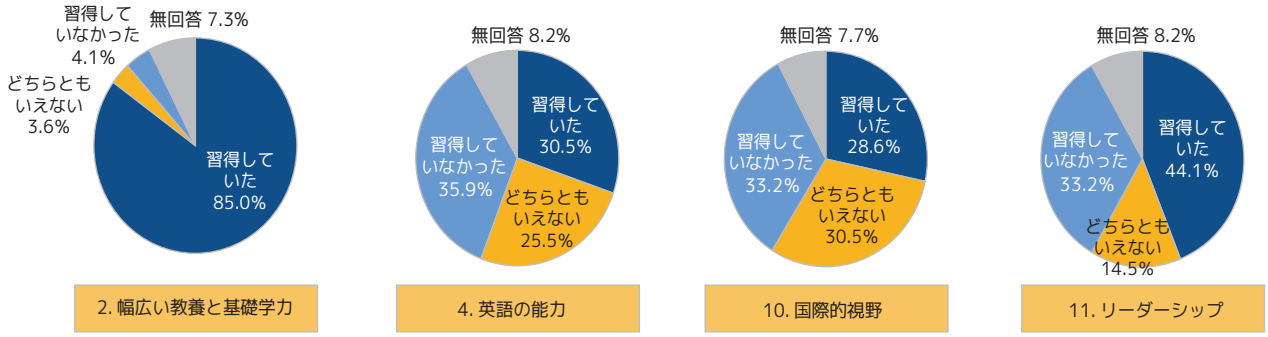
（H19 年度～ H23 年度）

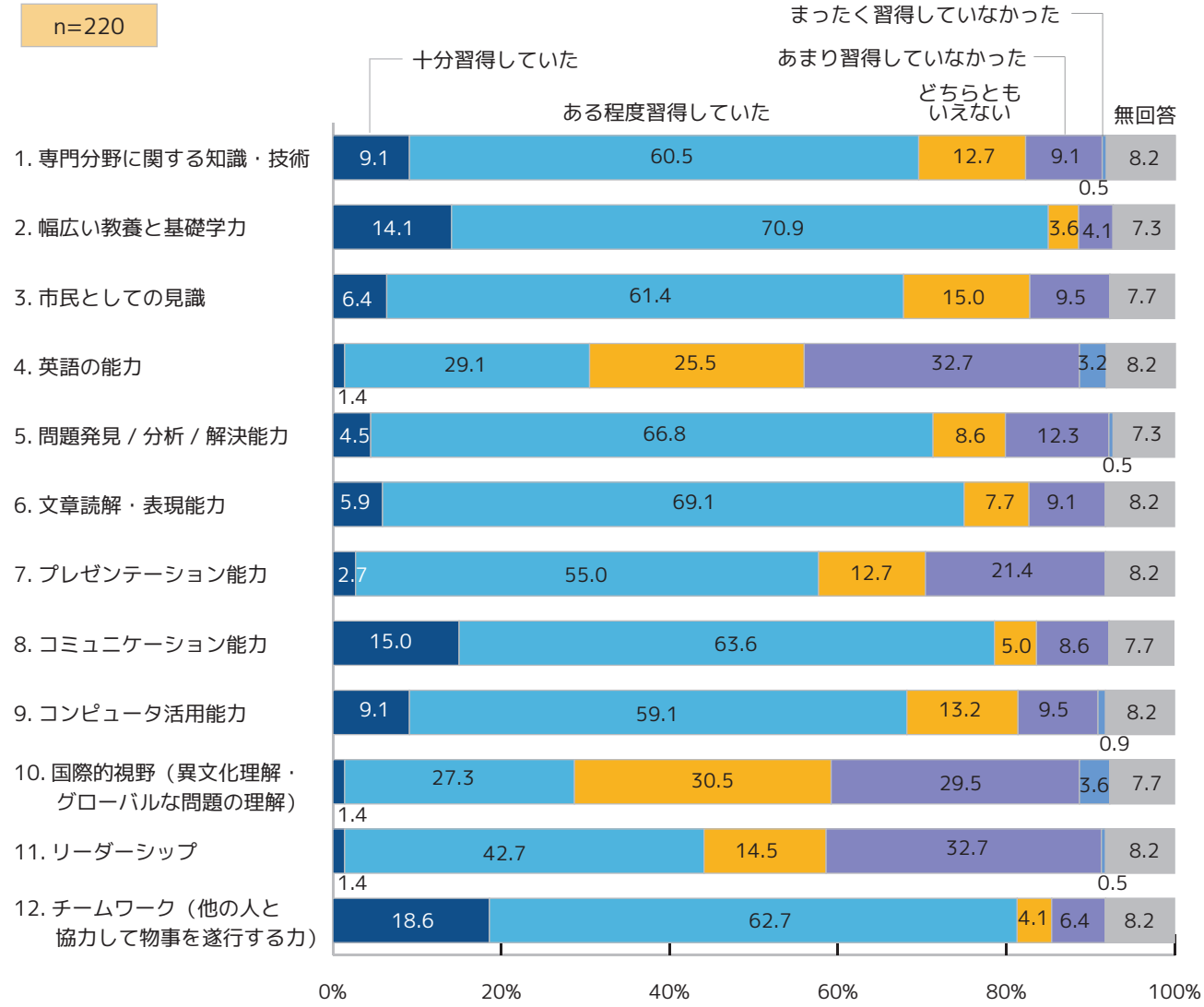
過去 5 年間に採用した静岡大学卒業生の能力の習得度

肯定的回答が多かった習得度は、「幅広い教養と基礎学力」（85.0%）「チームワーク」（81.3%）「コミュニケーション能力」（78.6%）の順。

解 説

- 否定的回答が多かった習得度は「英語の能力」（35.9%）、「国際的視野」（33.2%）、「リーダーシップ」（33.2%）。



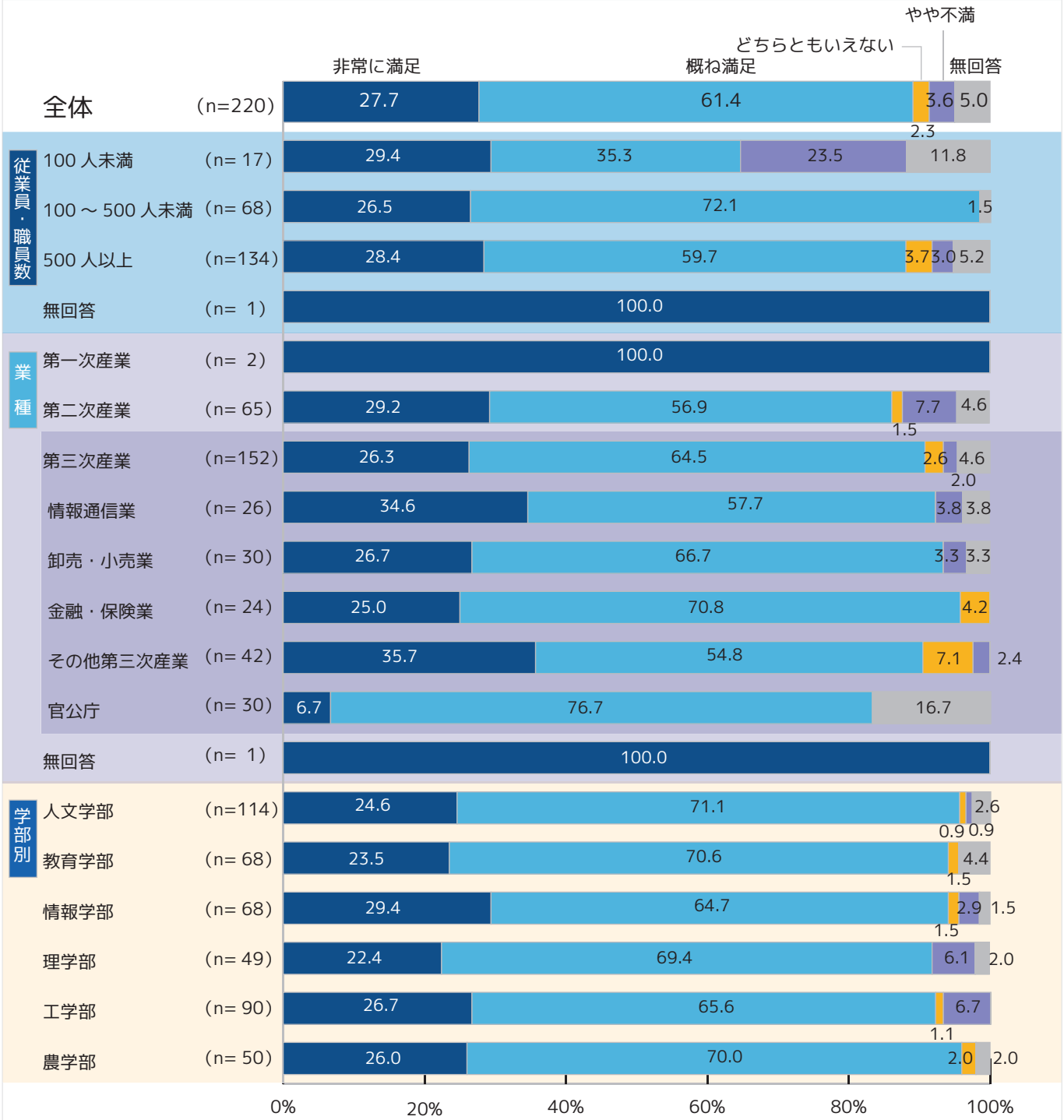


静岡大学卒業生を採用したことについての満足度

肯定的回答は全体で９割弱と高く、うち「非常に満足」は３割弱。
「非常に不満」の回答は０であった。

解 説

業種別では、「第二次産業」の 7.7% が「やや不満」と回答。



※過去５年で採用した卒業生の出身学部が複数回答のため、合計は回答事業所数 220 と合わない

静岡大学に関するご意見・ご要望

感想

- 静大卒の職員はハツラツとして元気が良く気持ちいいです。今後ともよろしくお願い致します。(官公庁)
- 新卒の学生としてはそこそこバランスが取れていると思います。(卸売・小売業)
- 今後ともよろしくお願い致します。企業との懇親会、情報交換会など例年どおりの開催を期待しております。(その他の第三次産業)
- 静大就職祭に参加させて頂きありがとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。(第二次産業)
- 貴学卒業生の方には、弊社の中核的な人材として活躍をいただいております。今後についても、弊社の重要な業務を担っていただけるような人材を採用させていただきたく思っておりますので、今まで通り、基礎学力・専門分野の教育を進めていただければと思います。(卸売・小売業)
- 非常に優秀な人材が多い学校と判断します。今後とも宜しくお願いいたします。(その他の第三次産業)
- 過去にも採用しました学生について言えば、皆レベルが高い方でしたので、今後とも同様の教育を実施していただけましたらと思います。また、継続的に採用させて頂くにあたり、是非学内セミナーへも参加させて頂きたいと感じております。(第二次産業)

意見・要望

- 地元の最上位校として弊社の採用活動では欠かすことのできない存在となっています。基礎能力が高く、短い研修期間で会社に貢献してくれていますが、首都圏の学生に比べややおとなしいと感じます。地域性かもしれませんが、積極性・コミュニケーション力 UP に注力した教育に期待します。(情報通信業)
- 全ての大学に求めたいのは「社会に出る」「就職する」という事はどのような事であるか、という事をもっともっと学生に伝えて欲しい。ただ単に就職率を上げるだけでは、定着率はどんどん低迷していくであろう。(卸売・小売業)
- 首都圏出身者に比べ、経験不足が目立ち大人になりきっていない。学生だけのコミュニティではなく、もっと外に出て社会を勉強してくるべき。(その他の第三次産業)
- 特にございませんが、1・2 年生からの就職を意識した講座や、指導などを積極的に取り組んでいただければ良いのではないかと思います。その中で、「大学で学ぶこと」と「社会に出てから必要となること」を上手く結びつけることができれば、学業にもより取り組めるのではないかと思います。(卸売·小売業)
- まじめさ（素直さ）はとても満足しております。これに「積極性」が加われば大満足ですね。ご期待申し上げます。(第二次産業)
- 授業への取組み姿勢や学生様のバイタリティーをより向上させる為には、一方的なものではなく、ディスカッション形式のような相互意見を交換し合い、自分の意見をしっかりと言い、相手の意見を吸収できる環境が構築できればよいと考えております。弊社としても会社説明会より学生様とのディスカッションを多く行い、体で弊社を知って頂く努力をしております。(その他の第三次産業)
- 教育という視点とは若干異なるが、貴学の学生さんとお話をしていると就職活動の際に、企業規模という条件で企業選びをされている方が多く（他の国立大の学生さんも同じですが）見受けられます。貴学学生さんの優秀な能力を中小優良企業の発展に活かしていただきたく、就職指導やキャリア教育の際にそういったところを教育していただければと思います。(その他の第三次産業)
- 語学力を持った理系学生が増えることを望みます。(第二次産業)
- 昨今、語学や先端技術などが注目されがちですが、それよりも基礎的な国語力や数的推測力を身につけた学生を魅力に感じます。また、一定程度のコミュニケーション能力は不可欠であり、苦手とする方もトレーニングしてきて欲しいと思います。(第二次産業)

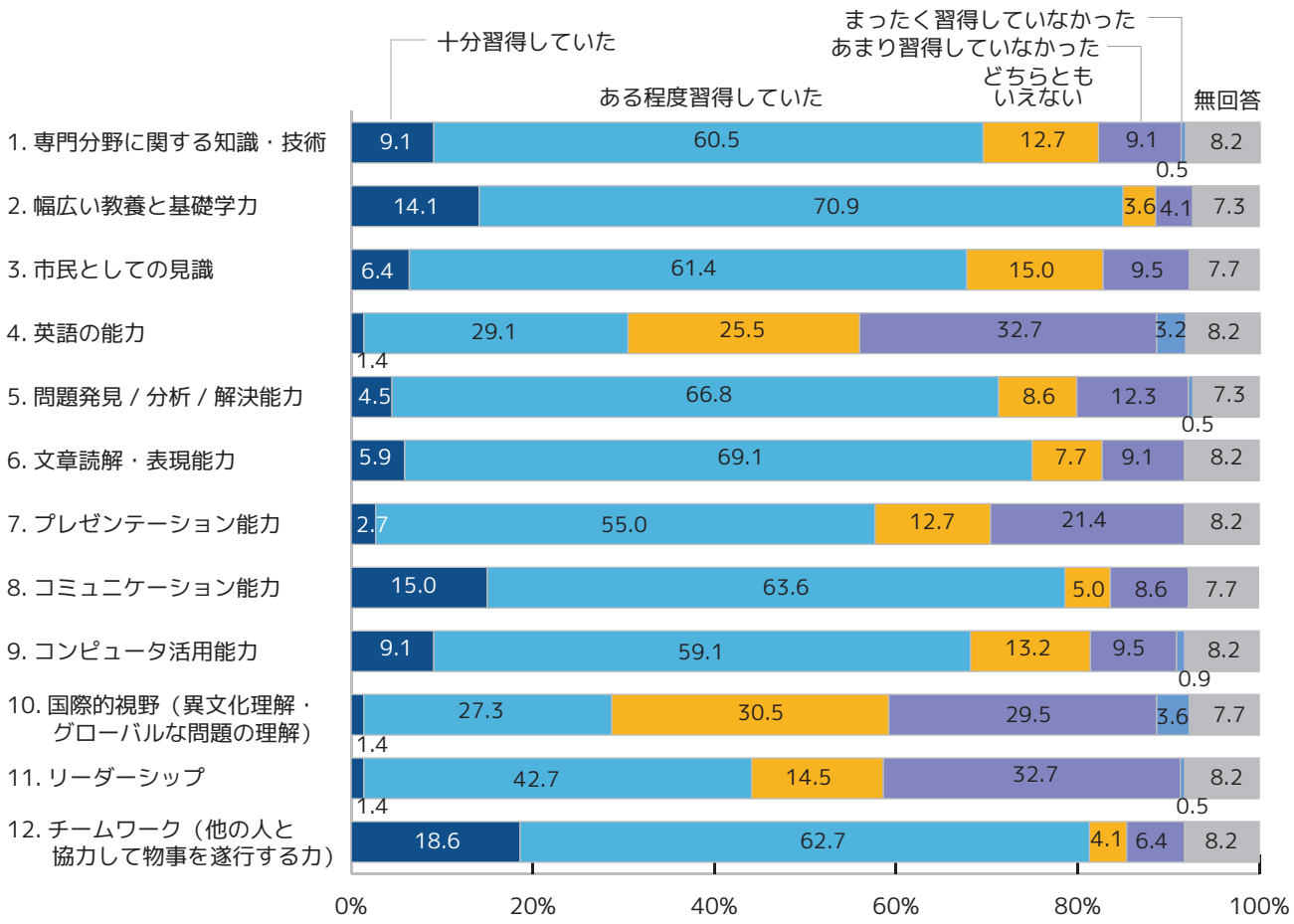
「業務上重要となる能力の習得度」に関する考察

「学部卒業生就職先アンケート調査」の問２は、業務を遂行していく中で重要であると思われる能力について聞いている。他方、問６では問２と同じ能力について、採用した本学卒業生がどの程度習得していたかについて聞いている。

下のグラフは、問６について回答した企業全体の回答構成比である。

このグラフで、例えば「英語の能力」について見ると、「十分習得していた」1.4%、「ある程度習得していた」29.1%で、本学卒業生を採用した企業のうち 30.5%の企業は「英語の能力」を習得していたと評価している。しかし、これらの企業の中には「業務を遂行していく中で」「英語の能力」を「重要である」としない企業も含まれており、本学卒業生の「英語の能力」の習得度の評価としては十分ではない。業務を遂行していく中で「英語の能力」が重要であると考える企業のみにおいて、本学卒業生が「英語の能力」をどの程度習得したと判断しているかを見る必要がある。そのために問２と問６をクロス集計することで、業務を遂行していく中で「重要である」と回答した企業のみにおいて、本学の卒業生が実際に当該能力をどの程度習得していたかについて、企業の評価を知ることができる。

■ 問６　過去５年間に採用した本学学部卒業生の能力の習得度 (n=220)



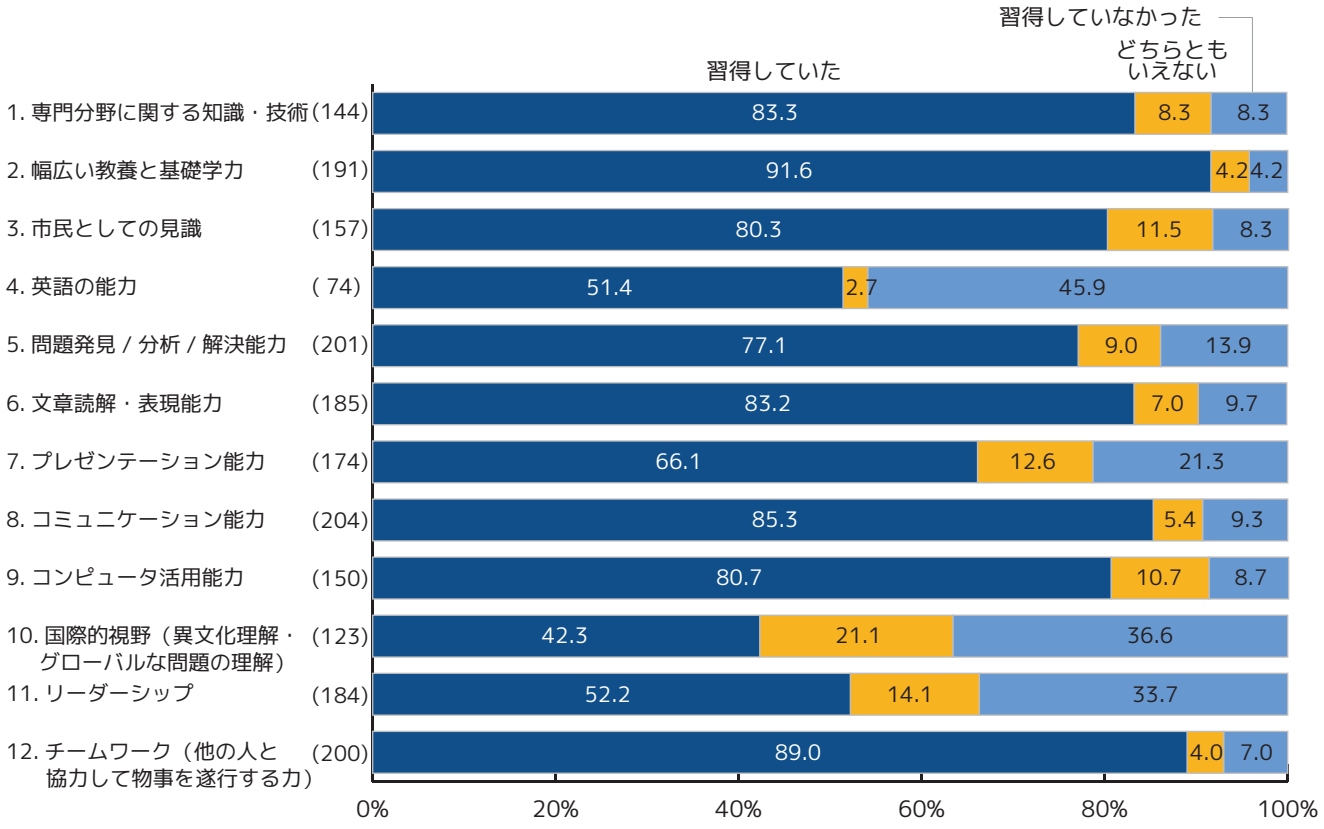
「業務上重要となる能力の習得度」に関する考察

問２と問６をクロス集計した結果が次の構成比グラフである。

各能力の習得度に関する単純集計（「英語の能力」を業務遂行上重要と考えているかを問わない）とクロス集計（「英語の能力」を業務遂行上重要と考える企業のみ）の見方を「英語の能力」を例として説明すると、単純集計では、「英語の能力」を習得していたと評価している割合は 30.5％であった。それに対し、クロス集計では、半数以上（51.4％）の企業が「英語の能力」を習得していたと評価していることを表している。クロス集計の習得度は、企業が採用にあたってそれぞれの能力や資質についてある一定レベル以上を期待している中で、本学の卒業生がその期待にどの程度応えているかを表していると言える。

一般にどの能力についても、習得度は単純集計よりクロス集計の方が高く、特に「英語の能力」（＋20.9％）、「専門分野に関する知識･技術」（＋13.8％）でその差が大きい。クロス集計結果は、「国際的視野」を除くと、どの能力に関してもその習得度は 50% 以上～ 90% 以上である。

■ 各能力を「重要」と考える企業のみにおける学部卒業生の習得度



(注)問２において、各能力を「業務を遂行していく中で」「非常に重要である」および「ある程度重要である」とした企業が、その能力を問６で「十分習得していた」および「ある程度習得していた」と回答した企業の割合を「習得度していた」と示している。

（　）内は「習得・ある程度習得」の回答数ｎ

＜学部卒業生就職先用＞

平成２４年６月

「静岡大学卒業生に関するアンケート調査」

静岡大学　副学長（企画・評価担当）浅利 一郎

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、静岡大学では、教育の質的向上と魅力ある大学づくりを目指すため、日頃、本学卒業生を受け入れていただいております皆様に対してアンケート調査を行うことと致しました。

この調査は、本学の教育により習得した能力が社会においてどの程度役立っているのか、社会・企業が求めている人材育成ができているのか、などについて評価・意見を聴取させていただき、今後の大学教育のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

つきましては、ご多忙のところ恐れ入りますが、アンケートにご協力いただきたくお願い申し上げます。なお、回答はすべてコンピュータによる統計的な集計を行い、個々の情報として取り扱うことは決してございません。お手数ですが６月３０日（土）までに同封の返信用封筒にてご投函願います。

敬具

なお、この調査に関するご質問やお問い合わせ等は下記までお願いします。

担　当　企画部企画課評価係
連絡先　静岡市駿河区大谷８３６
０５４－２３８－４５７６

※アンケートご記入にあたってのご注意

・〇の数は設問の指示に従い、選択肢番号をしっかり〇で囲んでください。

＜例＞　支社を含めた全従業員・全職員数をお知らせください。（〇は１つ）

１　9 人以下
②　10～49 人

・実数を記入する設問もあります。
・本調査は、過去５年間（平成１９年度～平成２３年度）において貴社が採用した静岡大学卒業生を対象としてお答えください。

●まず、貴社・貴組織の概要についてお伺いします。

貴社・貴組織の名称	
所在地 （**本社・本部所在地**）	１　静岡県東部 ２　静岡県中部 ３　静岡県西部 ４　静岡県外（※都道府県名をご記入ください　　）
静岡県内における 支所、事務所の有無	１　ある ２　ない

支社を含めた全従業員・全職員数をお知らせください。（○は１つ）

１	9 人以下
２	10～49 人
３	50～99 人
４	100～499 人
５	500 人以上

貴社・貴組織の業種をお知らせください。（○は１つ）

１	農業	８	情報通信業	15	教育、学習支援業
２	林業	９	運輸業	16	複合サービス事業
３	漁業	10	卸売・小売業	17	サービス業
４	鉱業	11	金融・保険業	18	官公庁・公団
５	建設業	12	不動産業	19	教育委員会
６	製造業	13	飲食店、宿泊業	20	その他（　　）
７	電気・ガス・熱供給・水道業	14	医療、福祉		

過去５年間（平成１９年度～平成２３年度）で採用した静岡大学卒業生のうち、**現在も勤務している卒業生の数**をお知らせください。

人

※わかる範囲でお答えください。

現在も勤務している卒業生の**出身学部**をお知らせください。

１	人文学部
２	教育学部
３	情報学部
４	理学部
５	工学部
６	農学部

●貴社・貴組織の採用基準についてお伺いします。

問１　貴社・貴組織が学生を採用するにあたって重視されることは何ですか。（○は２つまで）

１　基礎知識・教養
２　専門知識・技術
３　職務能力の適正
４　人物評価（積極性・協調性）
５　課外活動経験（サークル・ボランティア・アルバイトなど）
６　キャリア・学歴
７　その他（具体的に　　）

問２　貴社・貴組織で業務を遂行していく中で、重要であると思われる能力についてお知らせください。
（それぞれの能力について、その重要度１つに○を付けてください）

	重　要　度				
	非常に重要である	ある程度重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	どちらともいえない
１　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
２　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
３　市民としての見識	1	2	3	4	5
４　英語の能力	1	2	3	4	5
５　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
６　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
７　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
８　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
９　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5

問２－１　上記問２　１～12 の項目以外に重要だと思われる能力についてお知らせください。

●次に、静岡大学や静岡大学卒業生についてお伺いします。

問３　静岡大学卒業生の印象・特徴についてどのように思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものをお知らせください。（それぞれの印象・特徴について、あてはまるもの１つに○を付けてください）

	とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらともいえない
1　まじめである	1	2	3	4	5
2　我慢強い	1	2	3	4	5
3　柔軟性がある	1	2	3	4	5
4　協調性がある	1	2	3	4	5
5　自立性がある	1	2	3	4	5
6　表現力がある	1	2	3	4	5
7　自己啓発意欲がある	1	2	3	4	5
8　行動力がある	1	2	3	4	5
9　その他（　　）	1	2	3	4	5
10　その他（　　）	1	2	3	4	5

問４　今後の静岡大学卒業生の採用意向をお知らせください。（○は１つ）

1　積極的に採用していきたい（現在よりも増加していきたい）
2　現在と変わらず採用していきたい（現在と同程度採用していきたい）
3　採用を見直していきたい（現在よりも減少していきたい）

問５　静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性を以下の６つの項目の中から２つまで選んでください。

1　世界的研究・教育拠点
2　高度専門職業人養成
3　幅広い職業人養成
4　総合的教養教育
5　地域の生涯学習の拠点
6　社会貢献機能（地域貢献、産学官連携等）

●採用していただいた静岡大学卒業生についてお伺いします。

問６　問２でお伺いした能力について、**過去５年間（平成１９年度～平成２３年度）に採用した**静岡大学卒業生はどの程度習得されていると思われますか。項目ごとにあてはまるものを選んでください。途中退職者も含めてお答えください。（それぞれの能力について、その習得度１つに○を付けてください）

	習得度				
	十分習得していた	ある程度習得していた	あまり習得していなかった	まったく習得していなかった	どちらともいえない
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
3　市民としての見識	1	2	3	4	5
4　英語の能力	1	2	3	4	5
5　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
6　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
7　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
8　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
9　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5

問７　静岡大学卒業生を採用したことは、総合的に見てどの程度満足されていますか。（○は１つ）

1　非常に満足	2　概ね満足	3　やや不満	4　非常に不満	5　どちらともいえない

問８　静岡大学の教育に関するご意見・ご要望がございましたら、何でも結構ですのでお書きください。

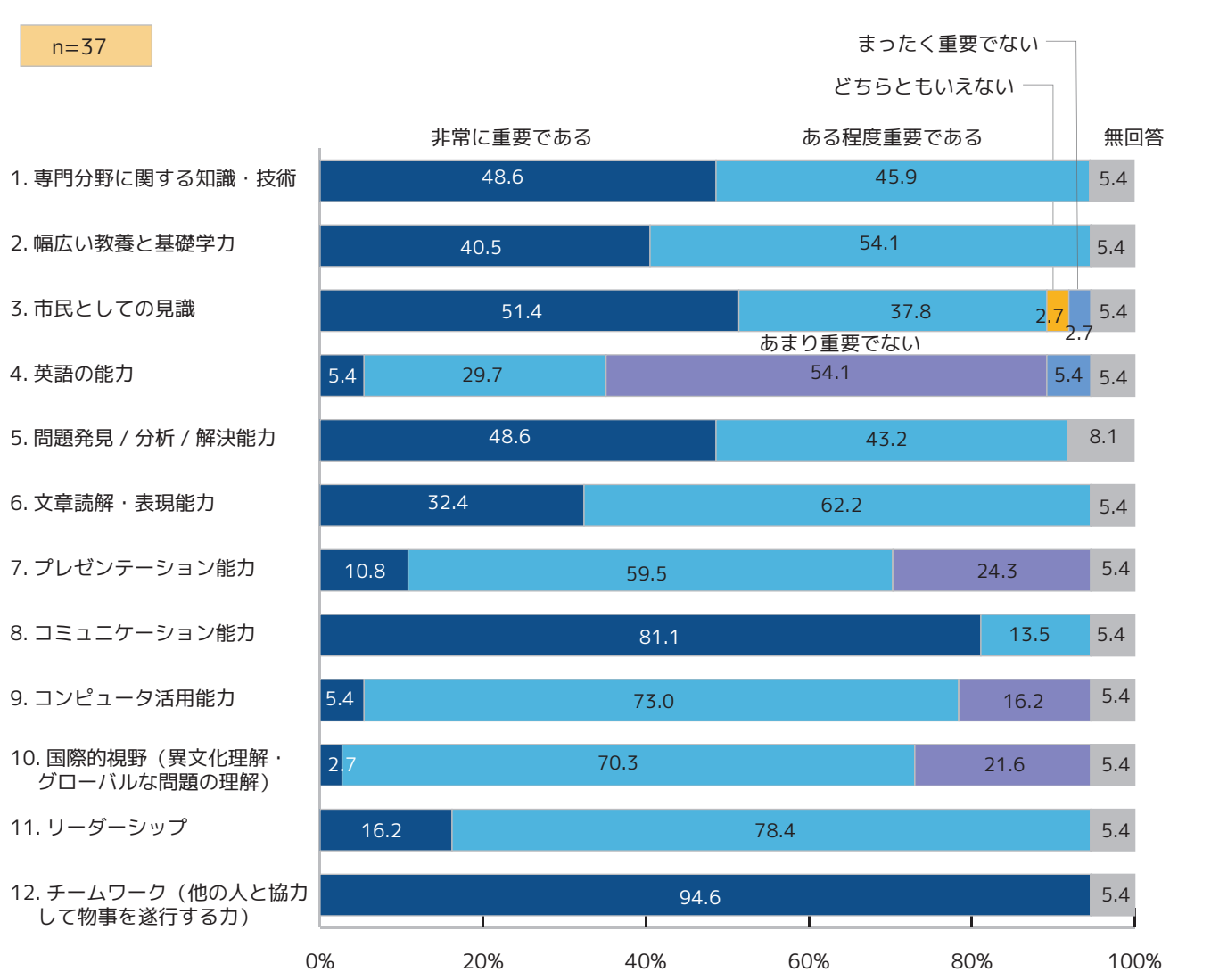
ーご協力ありがとうございましたー

職務を遂行していく中で重要と思われる能力

「非常に重要である」の回答割合が最も高いのは「チームワーク」(94.6%)。次いで「コミュニケーション能力」(81.1%)。

解 説

- 「英語の能力」の重要度は高くないとの回答割合は 59.5%と半数以上。連動するかのように、「国際的視野（異文化理解･グローバルな問題の理解）」についての「あまり重要でない」も 21.6%と比較的高い。
- 「プレゼンテーション能力」の「あまり重要でない」も 24.3% と高い。



その他の重要と思われる能力

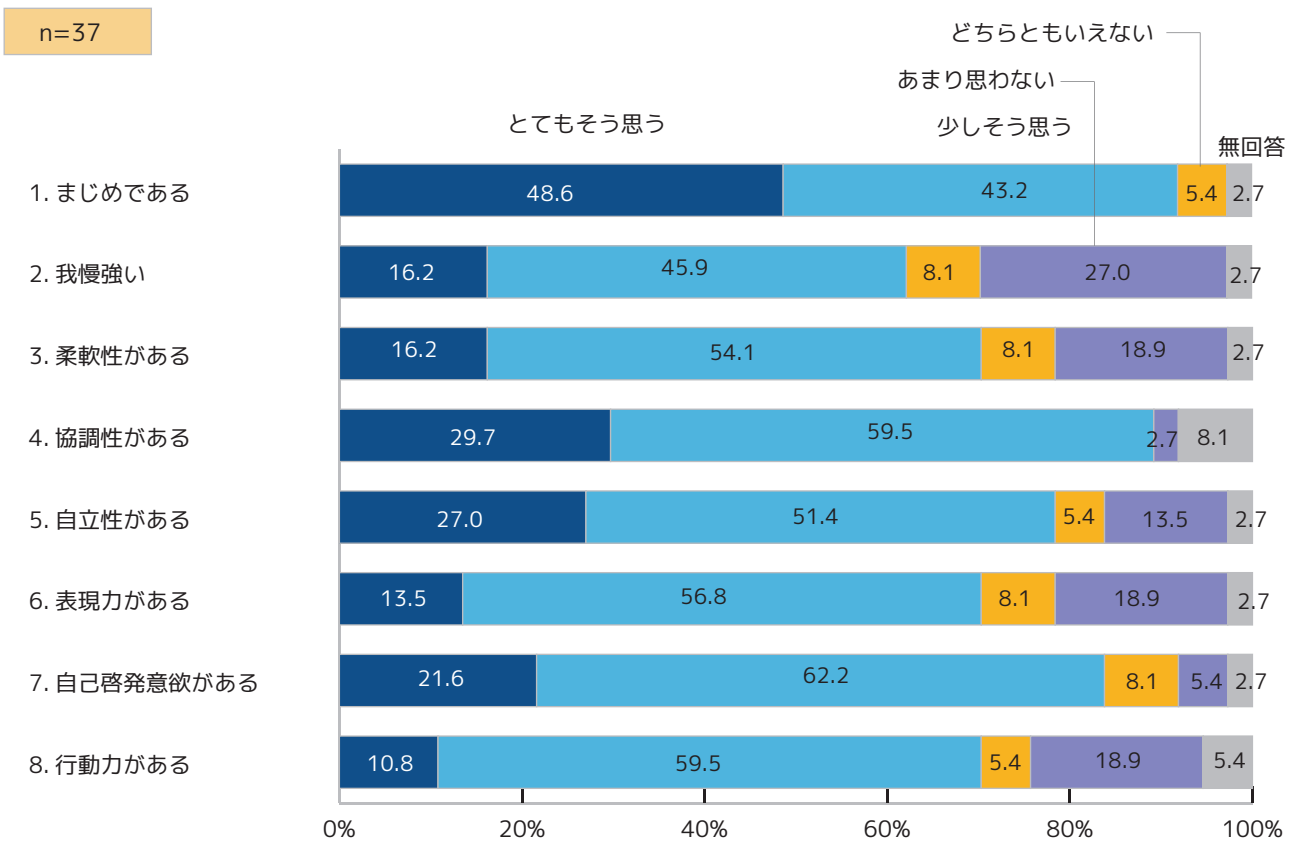
- 「生き方」「愛情」「持続力」
- 健康面も含めた自己管理能力、自己統制能力
- 社会人としての常識、スポーツの技能力
- 正しい人権意識を備えていること、子どもを無条件に愛せる力
- 1～ 12 の項目がきちんとできることをまず目指していただきたいと思います。
- あまり悩まないこと、良い意味での適当さ、整理整頓の能力
- 通勤、身体を動かすことが好き
- カウンセリング能力
- 危機管理能力
- 個人の人格からくる魅力
- 子供の表情や動作などから、感情や考えを受けとめ、理解しようとする能力
- 自己教育力
- 責任感、使命感といった公務員としての必要な能力
- 能力も大事であるが、使命感や教育愛のような資質が重要

静岡大学卒業生の印象・特徴

肯定的回答が最も高いのは「まじめである」(91.9%)。次いで「協調性がある」(89.2%)、「自己啓発意欲がある」(83.8%) が続く。

解 説

「あまり思わない」との回答は、「我慢強い」(27.0%)、「柔軟性がある」(18.9%)、「表現力がある」(18.9%)、「行動力がある」(18.9%) が高い。



その他の印象 ・ 特徴

- ハングリーでない（ほんわか）
- 早起きである
- 対応力（生徒指導）

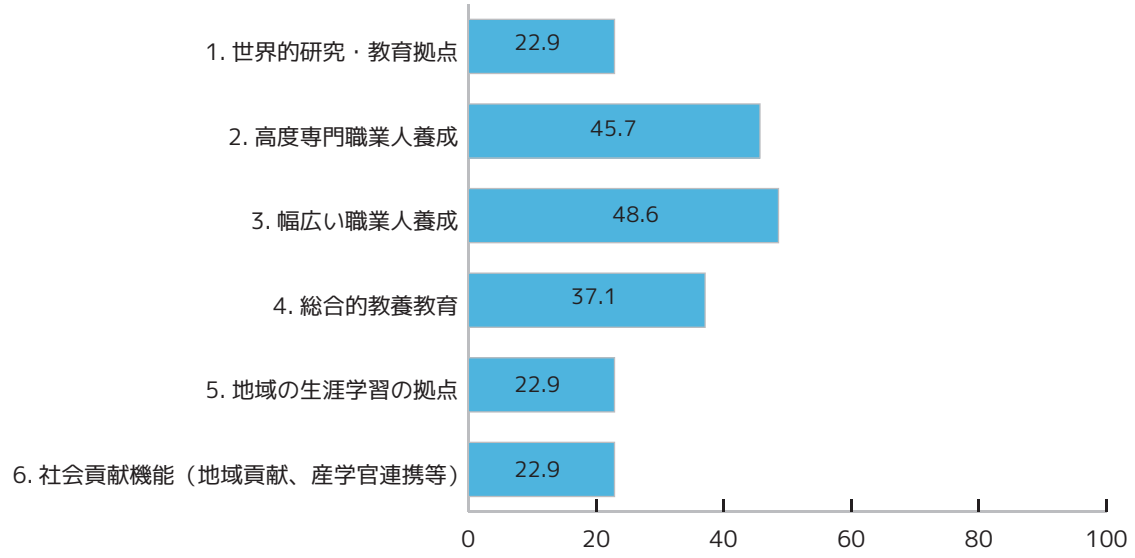
静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）

「幅広い職業人養成」が最も高く、次いで「高度専門職業人養成」、「総合的教養教育」が続く。

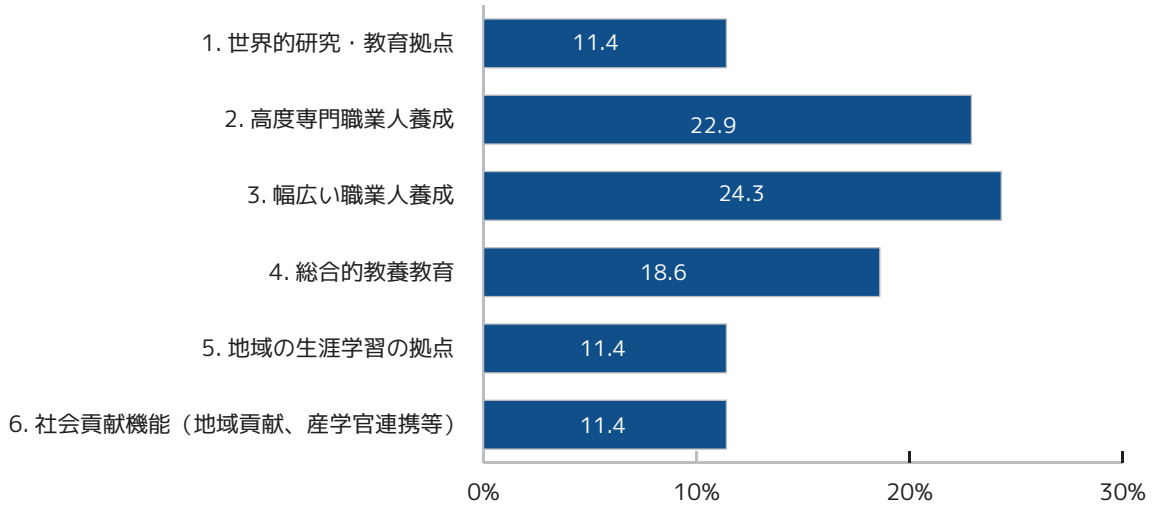
解 説

「世界的研究・教育拠点」「地域の生涯学習の拠点」「社会貢献機能」は同率。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 35 人 =100



n=70

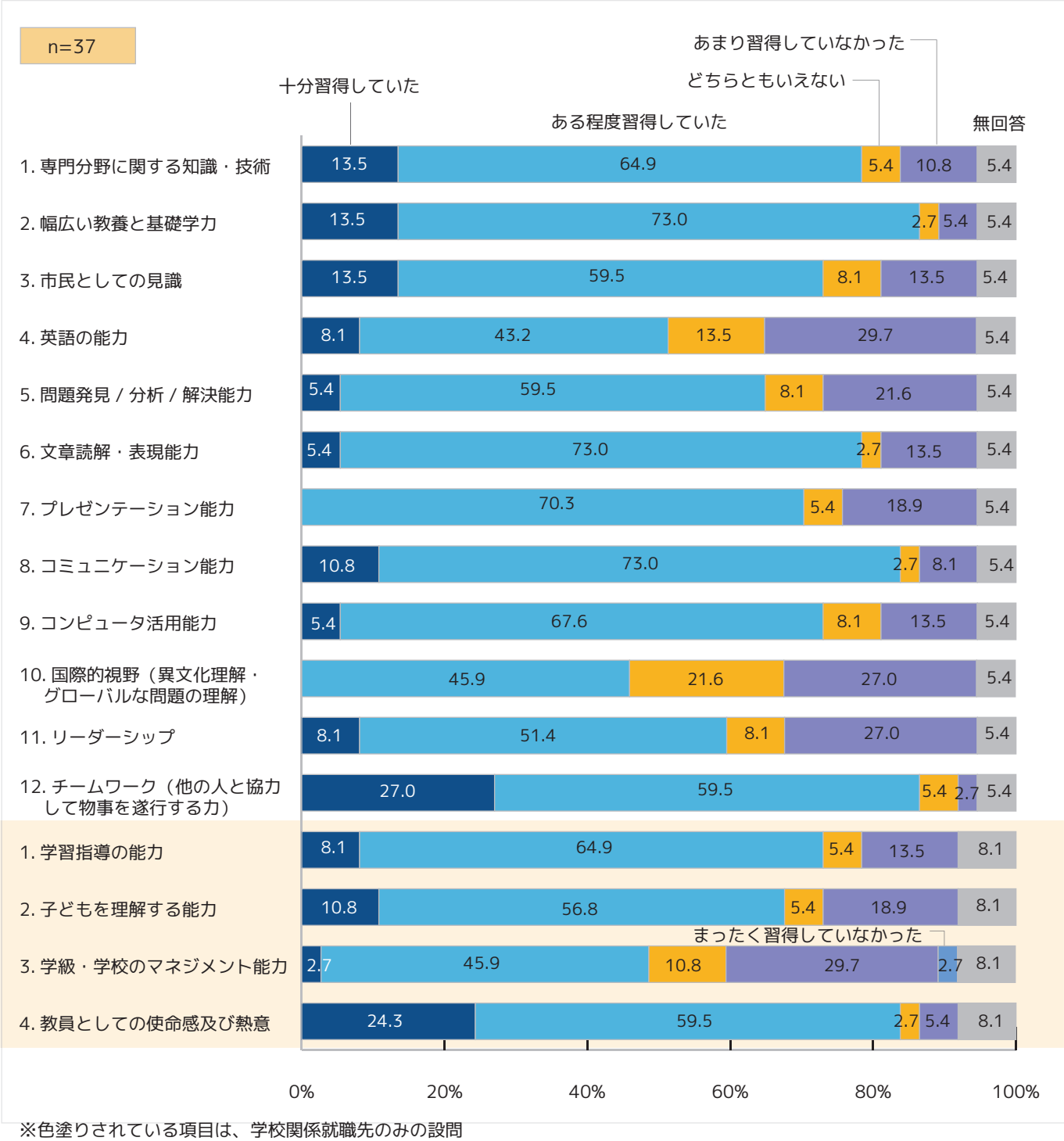


職務を遂行する中で重要であると思われる能力の習得度

「チームワーク」「幅広い教養と基礎学力」ともに肯定的回答が 86.5% と高く、「チームワーク」に関しては 27.0% が「十分習得していた」と回答。

解 説

「学級･学校のマネジメント能力」を「あまり習得していなかった」割合が「英語の能力」とともに高い。



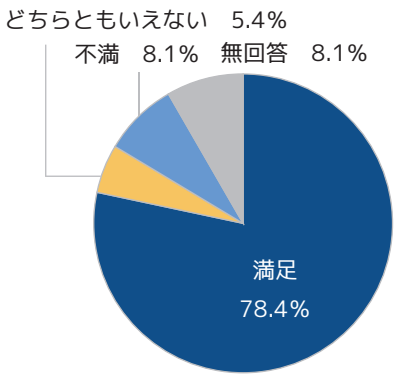
※色塗りされている項目は、学校関係就職先のみの設問

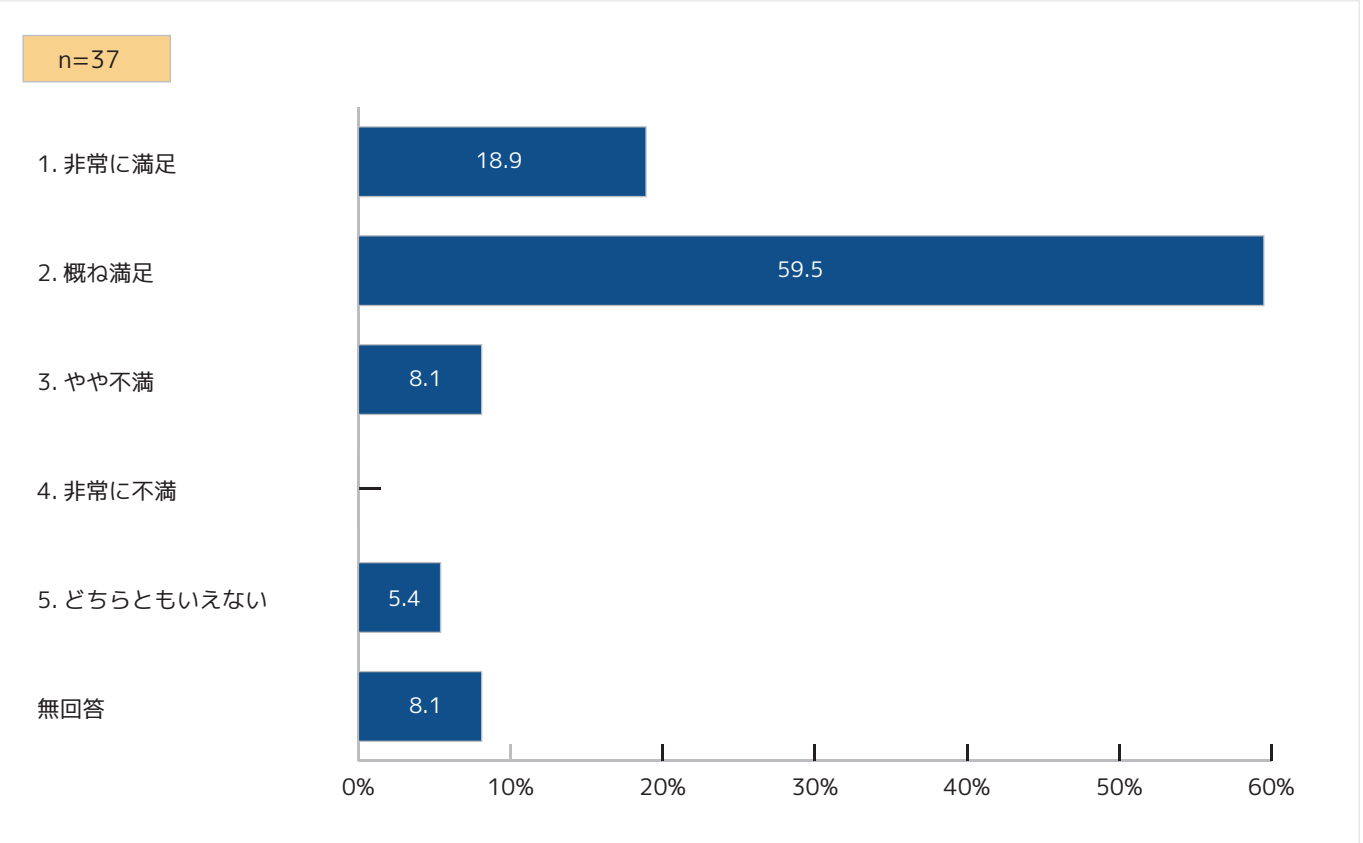
静岡大学卒業生の総合的な満足度

総合的な満足度は 78.4% が肯定的回答。「やや不満」が 8.1%。

解 説

「非常に満足」は 18.9%、「概ね満足」が 59.5%、「非常に不満」は０であった。





静岡大学の教育に関する意見・要望

意見 ・ 要望

- 自由の中に規律をもった人間味のある人材育成をお願いします。

- 自ら課題を見つけ、それを主体的に解決していく資質を育ててほしいと思います。また幅広い教養と小学であっても特定の教科の専門性を身に付けさせてほしいです。

- 学校現場における教員（特に国・公立大学卒業生）は自分の子どもの頃に、学習面でも家庭生活面でも、それほど苦労のない中で育ってきている。現在、学校には様々な問題をかかえている子どもたちが来ている。そういう子どもたちへの対応に苦慮し、悩みこんでしまう教員が増えてきているのが現実である。様々なケースに対応し、よりよい方向を見つけられる、幅広い見識と子どもに寄り添える教員としての資質を身につけた若者の育成に期待しています。

- 静岡県教育を推進できる人物。学校現場を中核となって支える人物を送り出す機関となることを期待しています。

- 根性、根気が他校の卒業生より低いように思います。自分から学ぶというよりも、教えてもらうのを待っている受身の姿勢が気になります（そういう私も静大卒で、反省の日々を送っています）。

- 上辺の教育用語を活用した教育論の前に、自分の生き方について真剣に考える大人になる。その刺激を用意してあげていただけたらと思っています。子どもの将来についても、生き方についても、心の中から導いてあげようとする教員であっていただけたら子どもも育つと思います。

- 「卒業生の印象・特徴」については、静大の卒業生だからという視点では判断できかねる。 「業務上重要と思われる能力の習得度」、「総合的な満足度」については、現在本校に勤務している（5 年未満 1 人で）職員で判断している。

＜学部卒業生学校関係就職先用＞

平成２４年６月

静岡大学卒業生に関するアンケート調査のお願い

静岡大学　副学長（企画・評価担当）浅利　一郎

拝啓

貴校におかれましては、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、静岡大学では、教育の質的向上と魅力ある大学づくりを目指すため、過去５年間の本学卒業生が勤務している学校の校長先生またはご関係の先生から、本学卒業生が在学中に身に付けた学力や資質・能力についてお尋ねするために、アンケート調査を実施することと致しました。

つきましては、大変お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、アンケート調査にご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なお、本調査に関しましては、事前に静岡県教育委員会より、ご了解を頂いております。

また、本調査は、特定の個人を対象としたものではなく、本学卒業生全般に関わることとしてご回答頂けると幸いです。

以上、甚だ勝手なお願いではありますが、６月３０日（土）までに同封の返信用封筒にてご投函願います。

何卒よろしくご協力の程お願い申し上げます。

敬具

なお、この調査に関するご質問やお問い合わせ等は下記までお願いします。

担　当　企画部企画課評価係

連絡先　静岡市駿河区大谷８３６
　　０５４－２３８－４５７６

※アンケートご記入にあたってのご注意

・○の数は設問の指示に従い、選択肢番号をしっかり○で囲んでください。

＜例＞　**問１　貴校で職務を遂行していく中で、重要であると思われる能力についてお知らせください。**
（それぞれの能力について、その重要度１つに○を付けてください）

	重要度				
	非常に重要である	ある程度重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	どちらともいえない
１　専門分野に関する知識・技術	(1)	2	3	4	5
２　幅広い教養と基礎学力	1	(2)	3	4	5

問１　貴校で職務を遂行していく中で、重要であると思われる能力についてお知らせください。（それぞれの能力について、その重要度１つに〇を付けてください）

	重　要　度				
	非常に重要である	ある程度重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	どちらともいえない
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
3　市民としての見識	1	2	3	4	5
4　英語の能力	1	2	3	4	5
5　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
6　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
7　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
8　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
9　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5

問１－１　上記問１　１～12 の項目以外に重要だと思われる能力についてお知らせください。

問２　静岡大学卒業生の印象・特徴についてどのように思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものをお知らせください。（それぞれの印象・特徴について、あてはまるもの１つに〇を付けてください）

	とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらともいえない
1　まじめである	1	2	3	4	5
2　我慢強い	1	2	3	4	5
3　柔軟性がある	1	2	3	4	5
4　協調性がある	1	2	3	4	5
5　自立性がある	1	2	3	4	5
6　表現力がある	1	2	3	4	5
7　自己啓発意欲がある	1	2	3	4	5
8　行動力がある	1	2	3	4	5
9　その他（　　）	1	2	3	4	5
10　その他（　　）	1	2	3	4	5

問３　静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性を以下の６つの項目の中から２つまで選んでください。

1　世界的研究・教育拠点
2　高度専門職業人養成
3　幅広い職業人養成
4　総合的教養教育
5　地域の生涯学習の拠点
6　社会貢献機能（地域貢献、産学官連携等）

問４　問１でお伺いした能力について、静岡大学卒業生はどの程度習得されていると思われますか。項目ごとにあてはまるものを選んでください。（それぞれの能力について、その習得度１つに〇を付けてください）

	習得度				
	十分習得していた	ある程度習得していた	あまり習得していなかった	まったく習得していなかった	どちらともいえない
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
3　市民としての見識	1	2	3	4	5
4　英語の能力	1	2	3	4	5
5　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
6　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
7　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
8　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
9　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5

以下の能力の習得度についてもお答えください。

1　学習指導の能力	1	2	3	4	5
2　子どもを理解する能力	1	2	3	4	5
3　学級・学校のマネジメント能力	1	2	3	4	5
4　教員としての使命感及び熱意	1	2	3	4	5

問５　本学卒業生について、総合的に見てどの程度満足されていますか。（〇は１つ）

1　非常に満足	2　概ね満足	3　やや不満	4　非常に不満	5　どちらともいえない

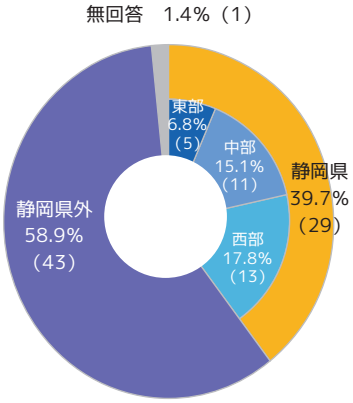
問６　静岡大学の教育に関するご意見・ご要望がございましたら、何でも結構ですのでお書きください。

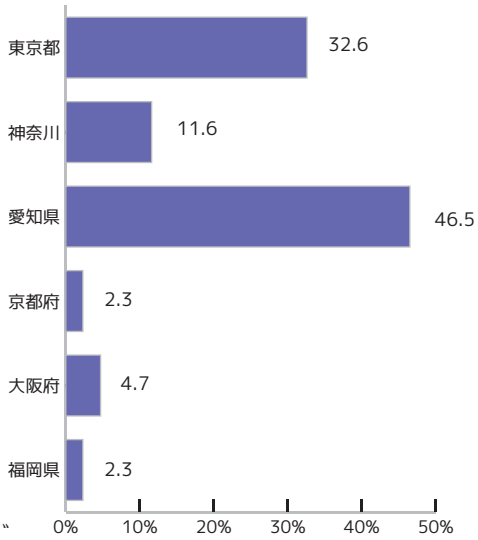
ーご協力ありがとうございましたー

回答企業等の属性

アンケート票送付対象：過去 5 年間に 2 人以上就職している企業等
送付数：287 件　　回答数：73 件　　回収率：25.4%
回答先企業等のうち静岡県内：39.7%　静岡県外：58.9%

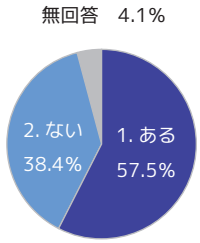
回答企業等の所在地



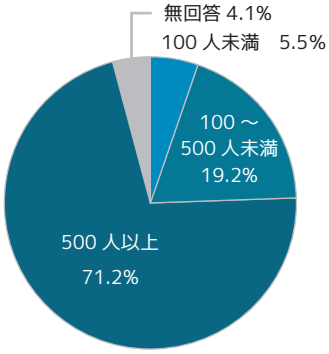


※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

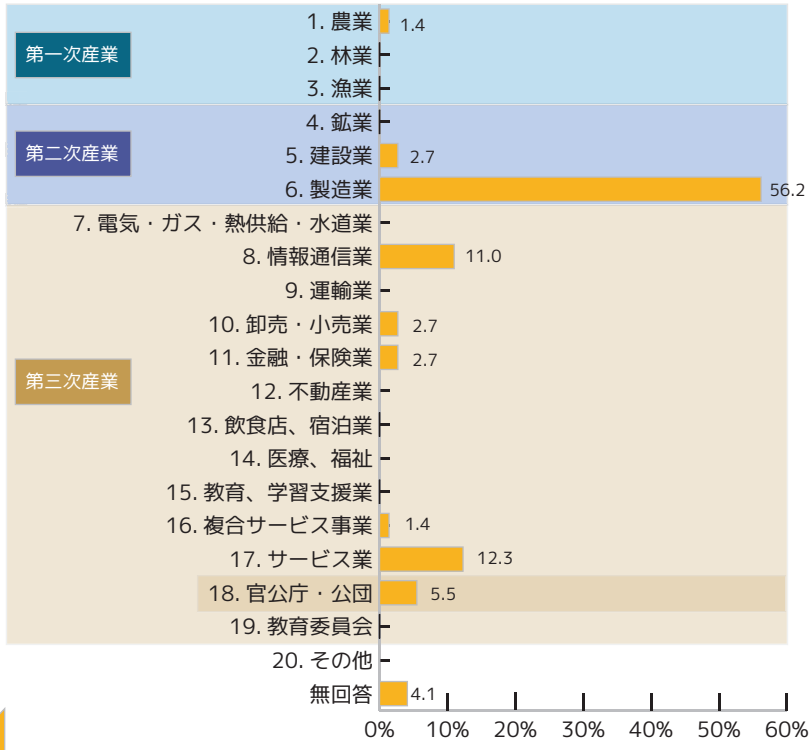
静岡県内における支所・事務所の有無



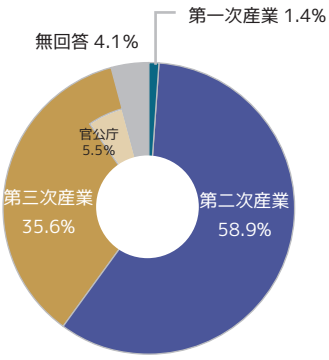
回答企業等の全従業員・全職員数



回答企業等の業種



回答企業等の業種（大分類）



クロス集計用業種分類　業種により回答数が 0 のものがあるため、左円グラフ [回答企業等（大分類）] をクロス集計用の業種とする

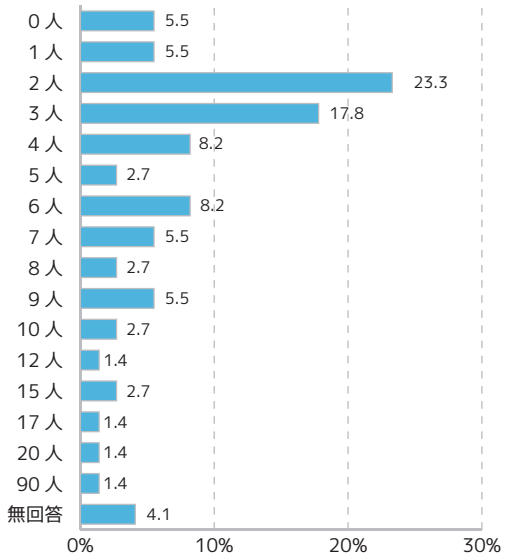
過去 5 年間で採用した静岡大学生のうち現在も勤務している卒業生の人数

（H19 年度～ H23 年度）

回答 73 の企業等において、過去 5 年間に採用し現在も勤務している本学修了生人数の 1 社平均は 5.7 人。

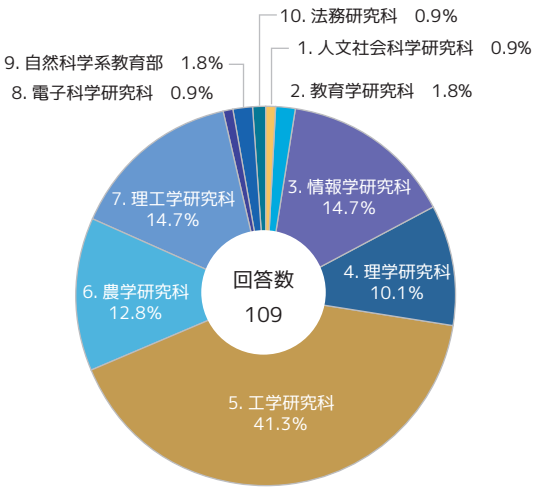
（H19 年度～ H23 年度）

■ 過去５年間の採用で現在も勤務している本学大学院修了生の人数



（内 3 事業所は人数無回答）

■ 現在も勤務している修了生の出身研究科



※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

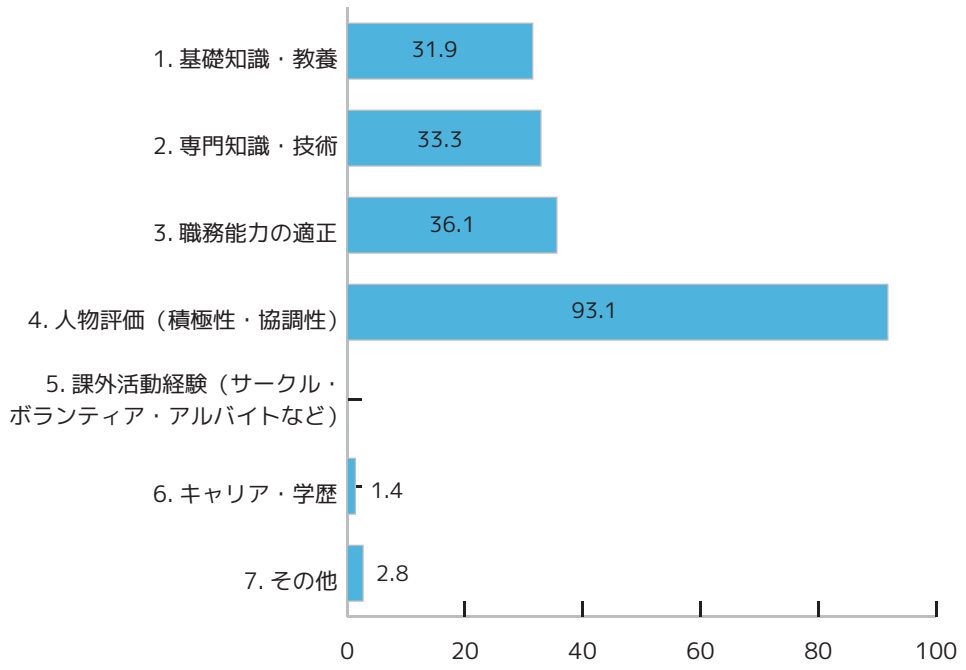
学生を採用するにあたって重視すること（複数回答可）

採用側が最も重視しているのは、「人物評価（積極性・協調性）」。
業種別では「官公庁」(57.1%)、研究科別では「情報学研究科」(51.6%) において、「人物評価」の回答割合が高い。

解 説

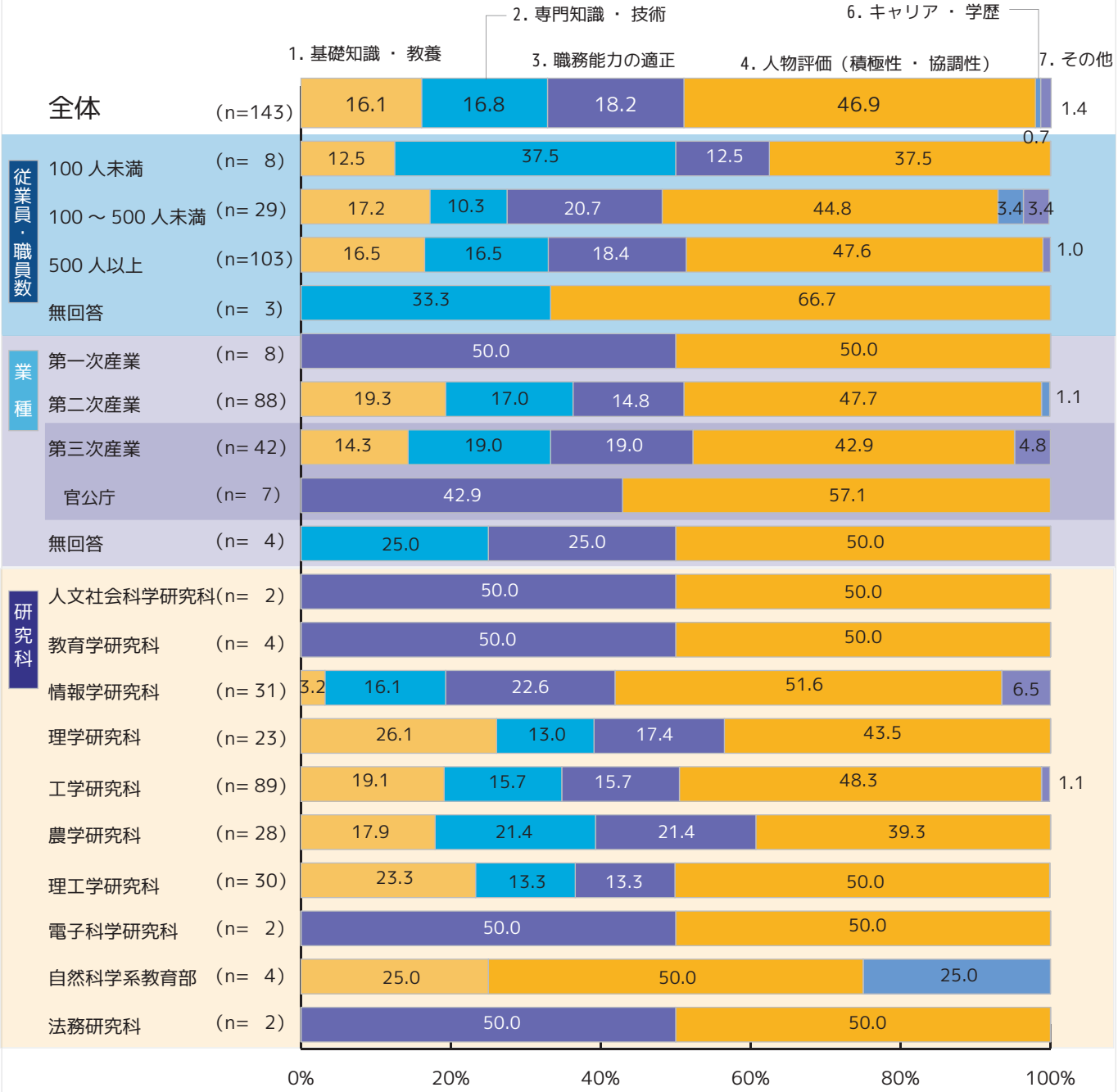
全体でみると「人物評価（積極性・協調性）」に次いで「職務能力の適正」が高い。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 72 人 =100



7. その他の詳細

- 基礎学力（第三次産業）
- 論理性（第三次産業）



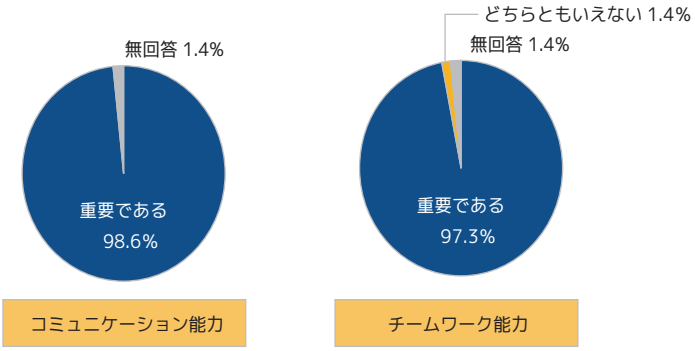
※過去 5 年で採用した大学院修了生の出身研究科が複数回答のため、合計は回答数 143 と合わない

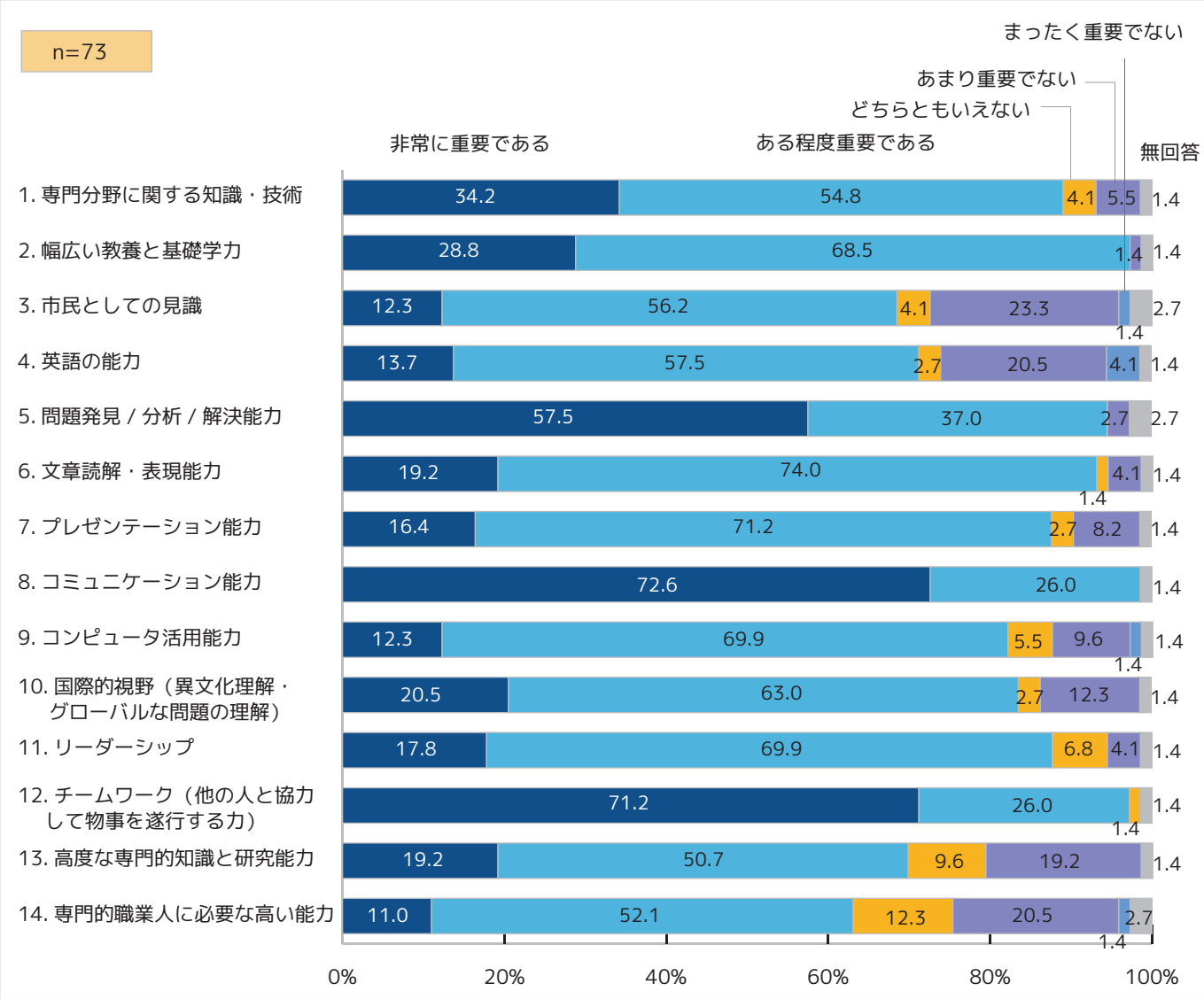
業務を遂行する中で重要であると思う能力

「非常に重要である」は、「コミュニケーション能力」(72.6%)、「チームワーク」(71.2%)、「問題発見 / 分析 / 解決能力」(57.5%) の順に高い。

解 説

- 「コミュニケーション能力」の肯定的回答が 98.6% と非常に高い。(「非常に重要」72.6%、「ある程度重要」26.0%)。
- この結果は学部卒業生就職先とほぼ同じであった。
- 「高度な専門的知識と研究能力」「専門的職業人に必要な高い能力」については、約 2 割の企業等が「あまり重要でない」と回答。





業務を遂行する中で重要であると思う能力（その他重要と思われる能力について）

その他

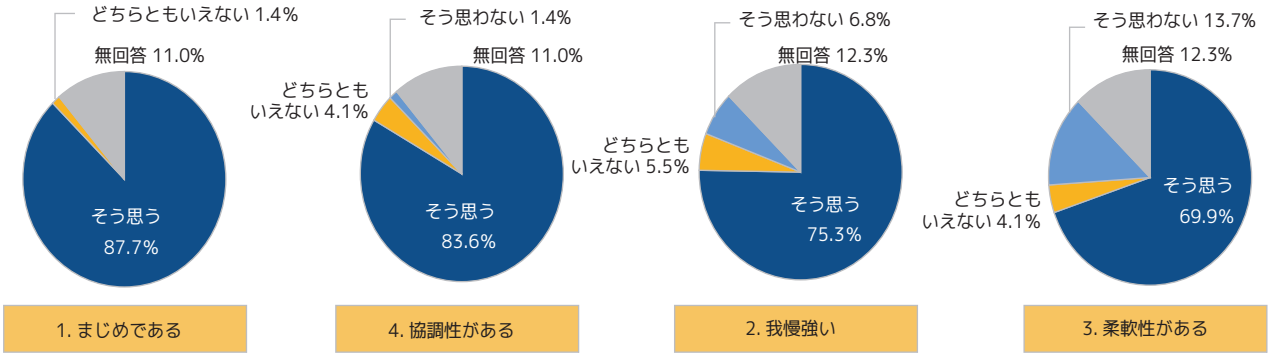
- 変化への対応力 (第二次産業)
- 創造的思考力 (第二次産業)
- 部門間調整力（コミュニケーション能力に通じるかもしれませんが、他の組織等を巻き込んでものごとを進められる能力）(第二次産業)
- 弊社の測量業は現場作業のため体力と持久力があることが重要である。(第三次産業)
- 困難な状況においても物事をやり抜く意思の強さ、タフさ (第二次産業)
- チャレンジ性（積極性、変化対応能力、向上心など）、社会適応能力 (第二次産業)
- 根本的なエネルギー・活力、勉強が苦にならないこと (第三次産業)
- 論理的思考力、ものごとをやり抜く力 (第三次産業)
- 主体的に行動する力 (第三次産業)
- 段取り・計画力 (第三次産業)

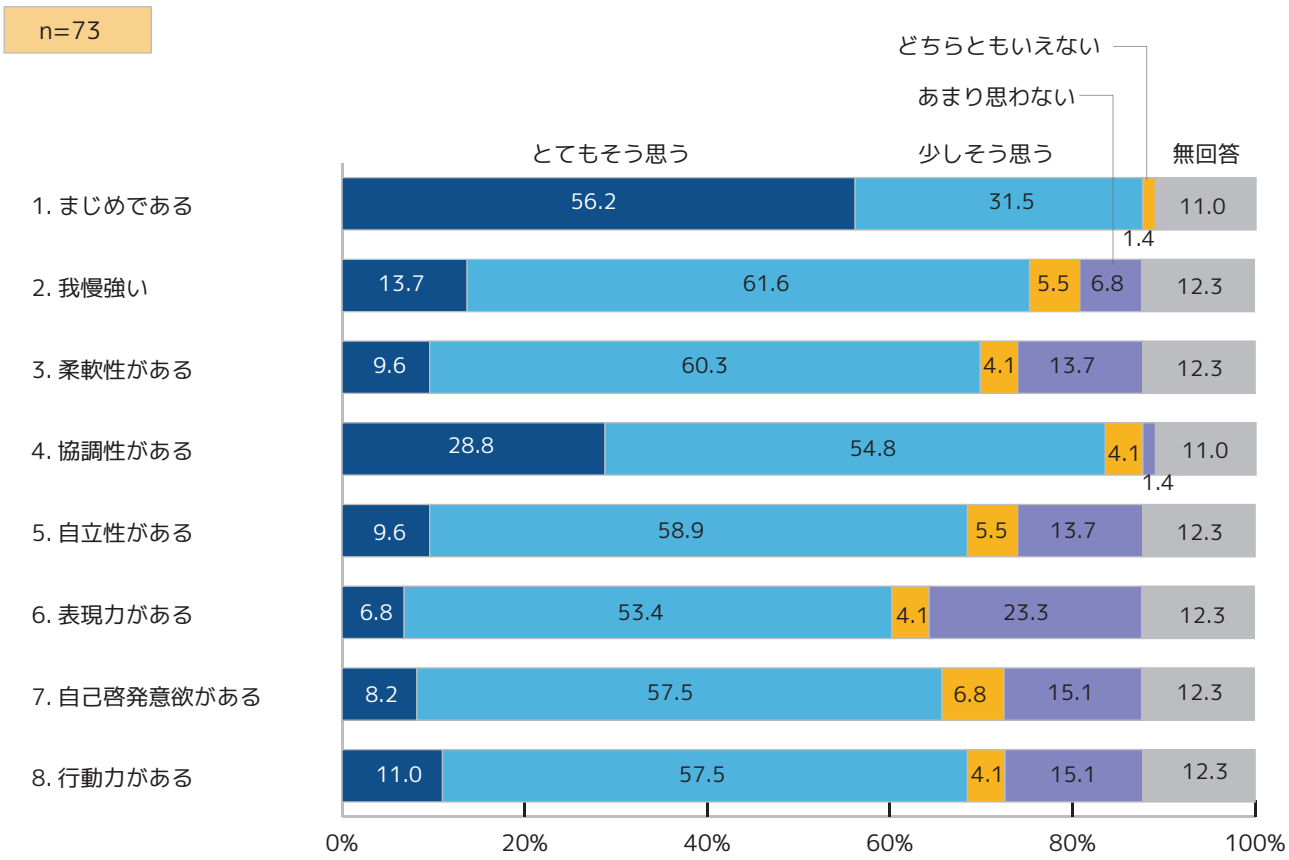
静岡大学大学院修了生の印象・特徴

肯定的回答は、「まじめである」（87.7%）、「協調性がある」（83.6%）、「我慢強い」（75.3%）の順に高い。

解 説

- 「あまり思わない」との回答割合は、「表現力がある」（23.3%）、「自己啓発意欲がある」（15.1%）、「行動力がある」（15.1%）で高い。
- 学部卒業生就職先の結果と比べ、「とてもそう思う」の割合が「自立性がある」（学部：21.4%、大学院：9.6%）、「自己啓発意欲がある」（学部：16.8%、大学院：8.2%）で低い。





静岡大学大学院修了生の印象・特徴（その他）

その他の大学院修了生の印象・特徴として、「海外業務に適する」「熱心である」等がある。

■ その他の静岡大学大学院修了生の印象・特徴（自由記述）

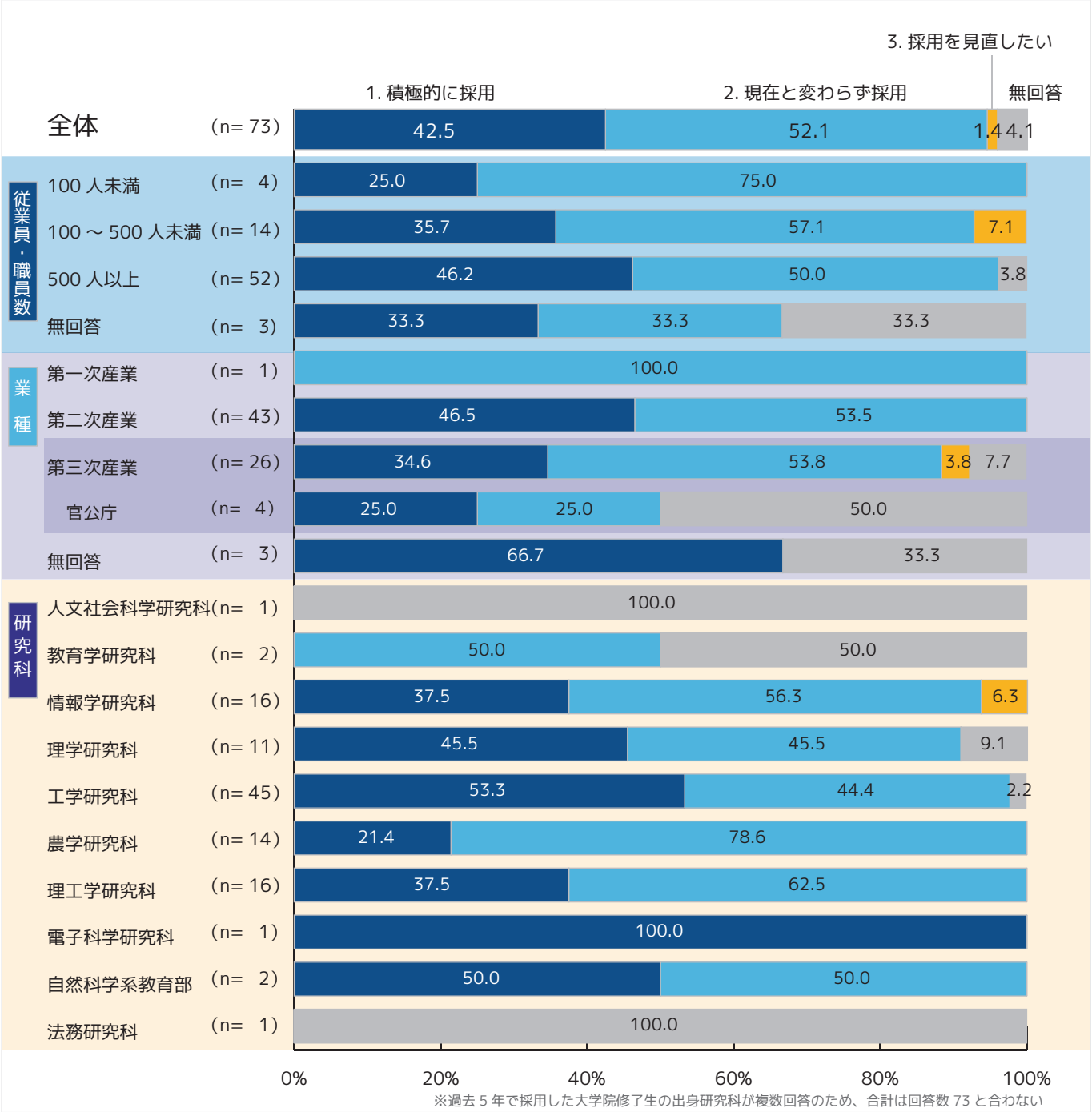
- 体力と持久力がある（第三次産業）
- 海外業務に適する（第三次産業）
- 熱心である（第二次産業）

今後の静岡大学卒業生の採用意向

「積極的に採用」と「現在と変わらず採用」の合計は 94.5% と高い。

解 説

従業員・職員数別では、規模が大きくなるにつれ「積極的に採用」の回答割合が高まっている。研究科別では、「工学研究科」の「積極的に採用」が 53.3% と高い。



※過去 5 年で採用した大学院修了生の出身研究科が複数回答のため、合計は回答数 73 と合わない

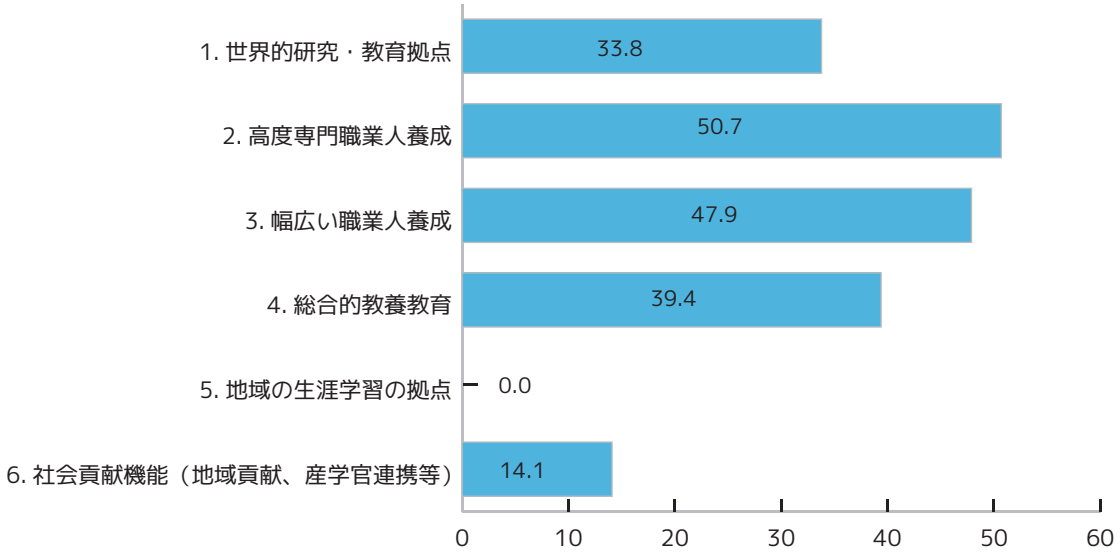
静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答）

企業等が求める静岡大学が今後重点的に取組むべき方向性は、「高度専門職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「総合的教養教育」の順に高い。

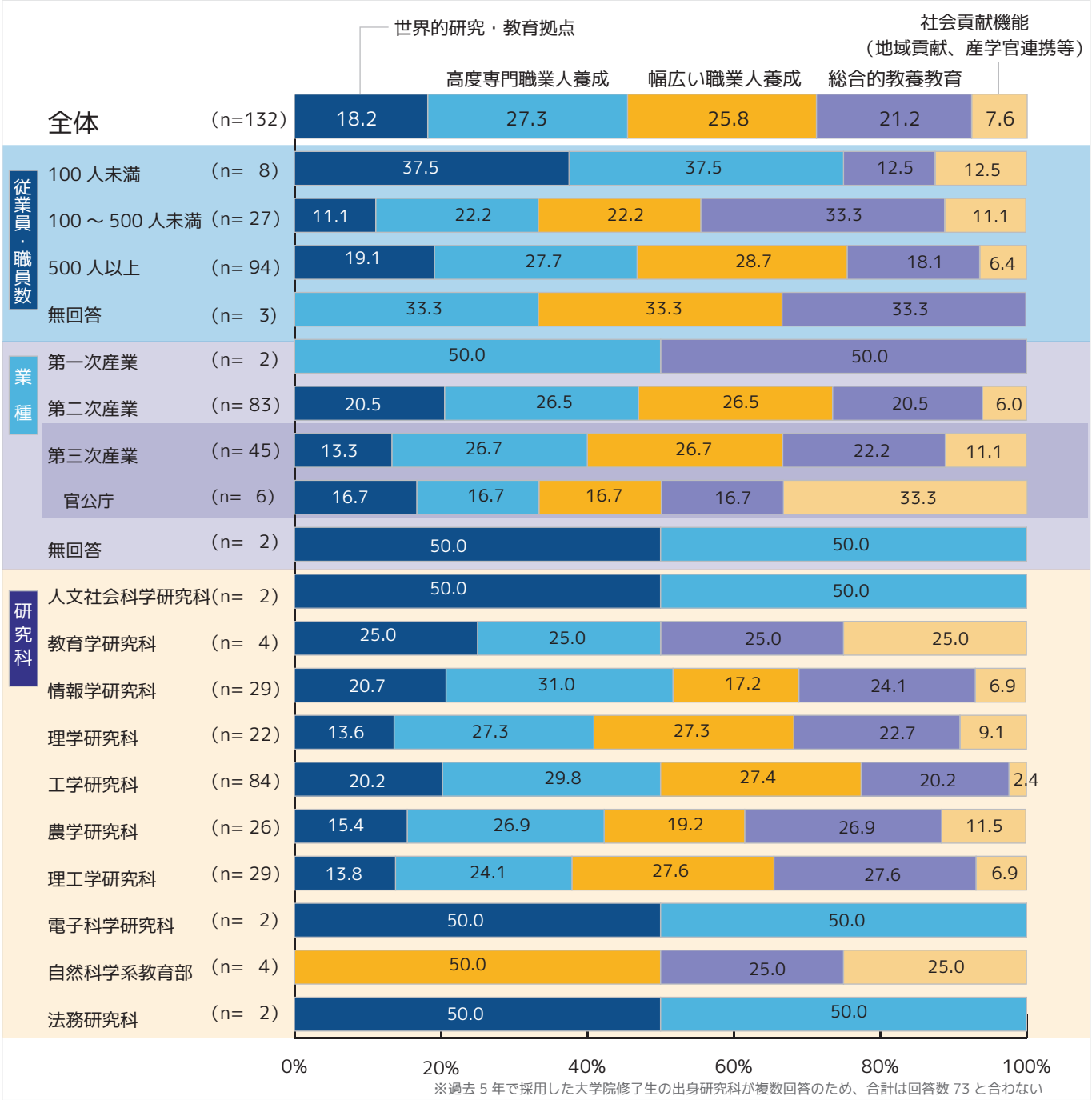
解 説

- 学部卒業生就職先の結果と比べ、「高度専門職業人養成」の回答割合が高い。（学部：29.5%、大学院：50.7%）
- 「地域の生涯学習の拠点」を回答した企業等は無かった。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 71 人 =100



静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）



※過去 5 年で採用した大学院修了生の出身研究科が複数回答のため、合計は回答数 73 と合わない

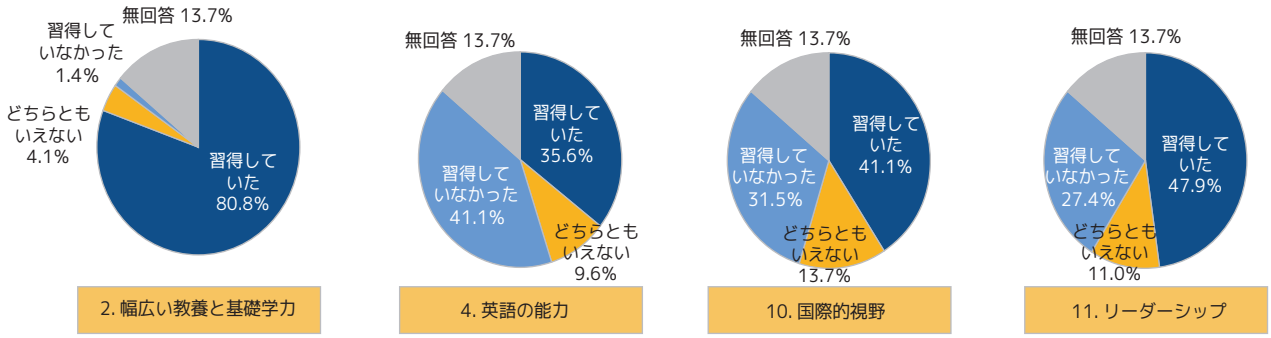
（H19 年度～ H23 年度）

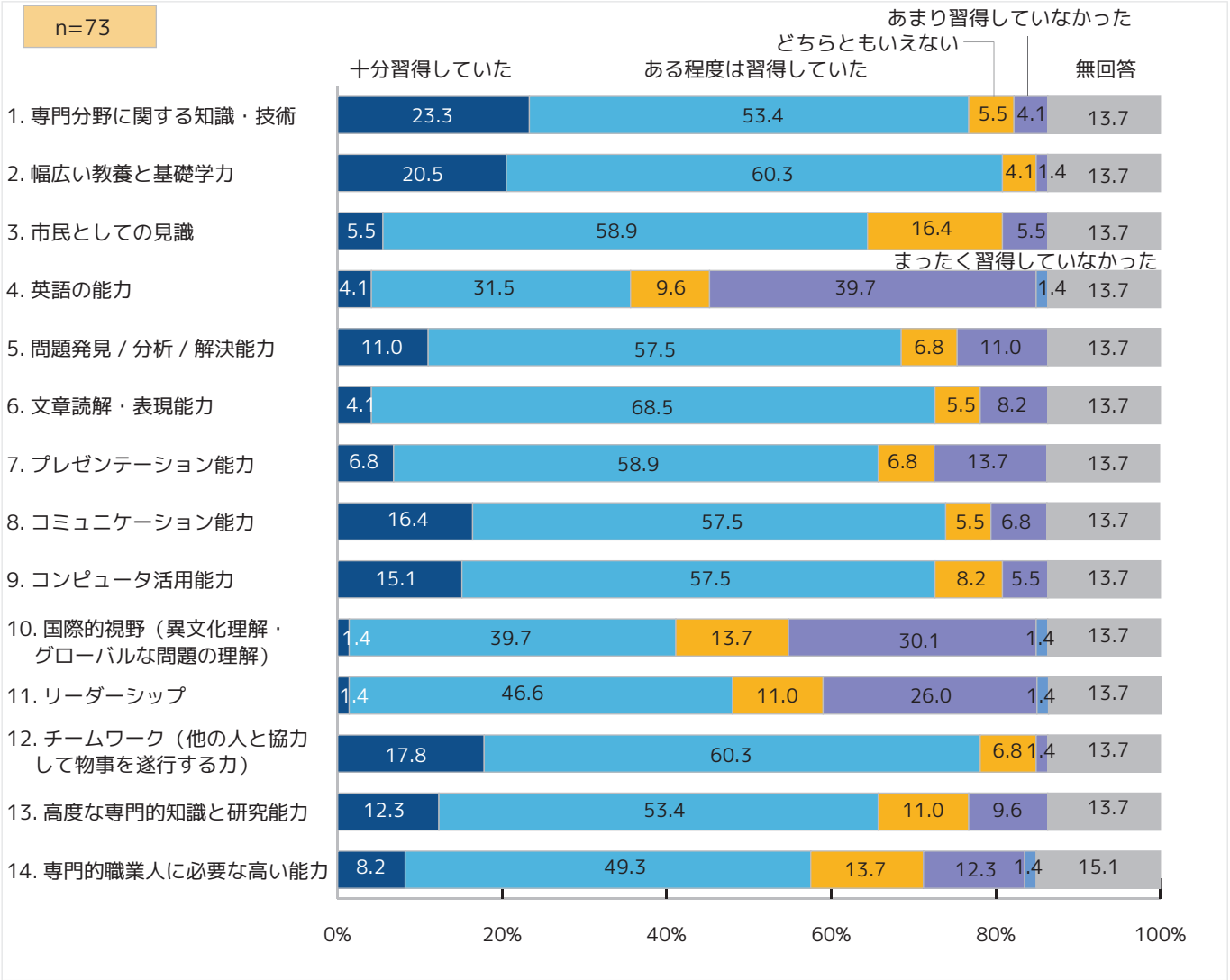
過去 5 年間に採用した静岡大学大学院修了生の能力の習得度

肯定的回答割合は､｢幅広い教養と基礎学力｣（80.8%）｢チームワーク｣（78.1%）｢専門分野に関する知識・技術｣（76.7%）の順に高い。

解 説

- 学部卒業生就職先の結果と比べ、「専門分野に関する知識・技術」の肯定的回答割合が高い。（学部：69.5%、大学院：76.7%）
- 否定的回答割合が高い習得度は、「英語の能力」（41.1%）「国際的視野」（31.5%）「リーダーシップ」（27.4%）。これは、学部卒業生就職先の結果と同じ。



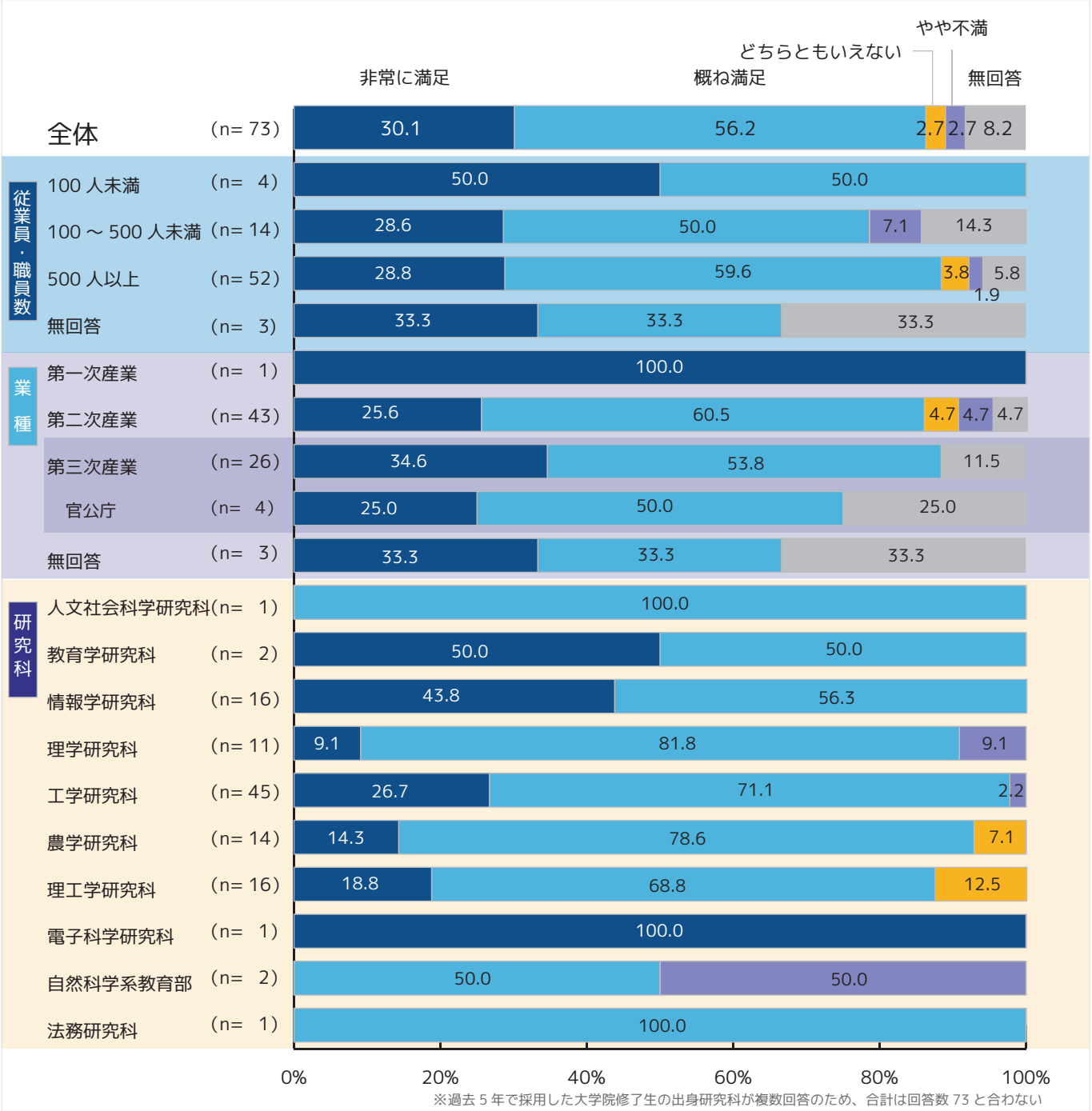


静岡大学大学院修了生を採用したことについての満足度

全体における肯定的回答割合は 86.3% と高く、「非常に満足」も 3 割を超える。
「非常に不満」という回答は０。

解 説

- ほぼ全ての区分で、肯定的回答割合が 7 割を超える。



※過去 5 年で採用した大学院修了生の出身研究科が複数回答のため、合計は回答数 73 と合わない

静岡大学に関するご意見・ご要望

感想

- 技術系の業務にも今後より一層スピードや対応力が求められると考えています。そういった人材を今後も採用していきたいと思いますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。(第二次産業)

- 弊社は、静岡県内に拠点を置く企業として、今後も貴大学との連携を強めて行きたいと思っております。高い能力を持ち、グローバル展開に寄与できる人材を求めています。宜しくお願い申し上げます。(第二次産業)

意見 ・ 要望

- 問題発見と解決能力に関する日頃の訓練が必要。修論時の教育における重点項目としてほしい。(第二次産業)

- 県内での就職希望者が多い印象を受ける。優秀な学生が多く居るので、その意識改革をするような教育（県外・国外への関心・知識）をしていただくとよいと思う。(第二次産業)

- 個人によって評価は様々だと思います。個性を伸ばせるような教育をして頂きたいと思います。本年度採用した方は大変優秀でバランスの良い教育を受けられたのではないかと思います。(第二次産業)

- 弊社では JICA の ODA 測量を受注しています。静大院卒の彼らは、専門技術は非常にその能力を発揮しています。しかし、英語についてはもう少し努力しないとせっかくのいい成果を挙げた業務も評価されない。これからの日本の多くの業種は海外での活路を開いていきます。大学として、力を入れていただく教育として是非英語(TOEIC)を重視願います。(第三次産業)

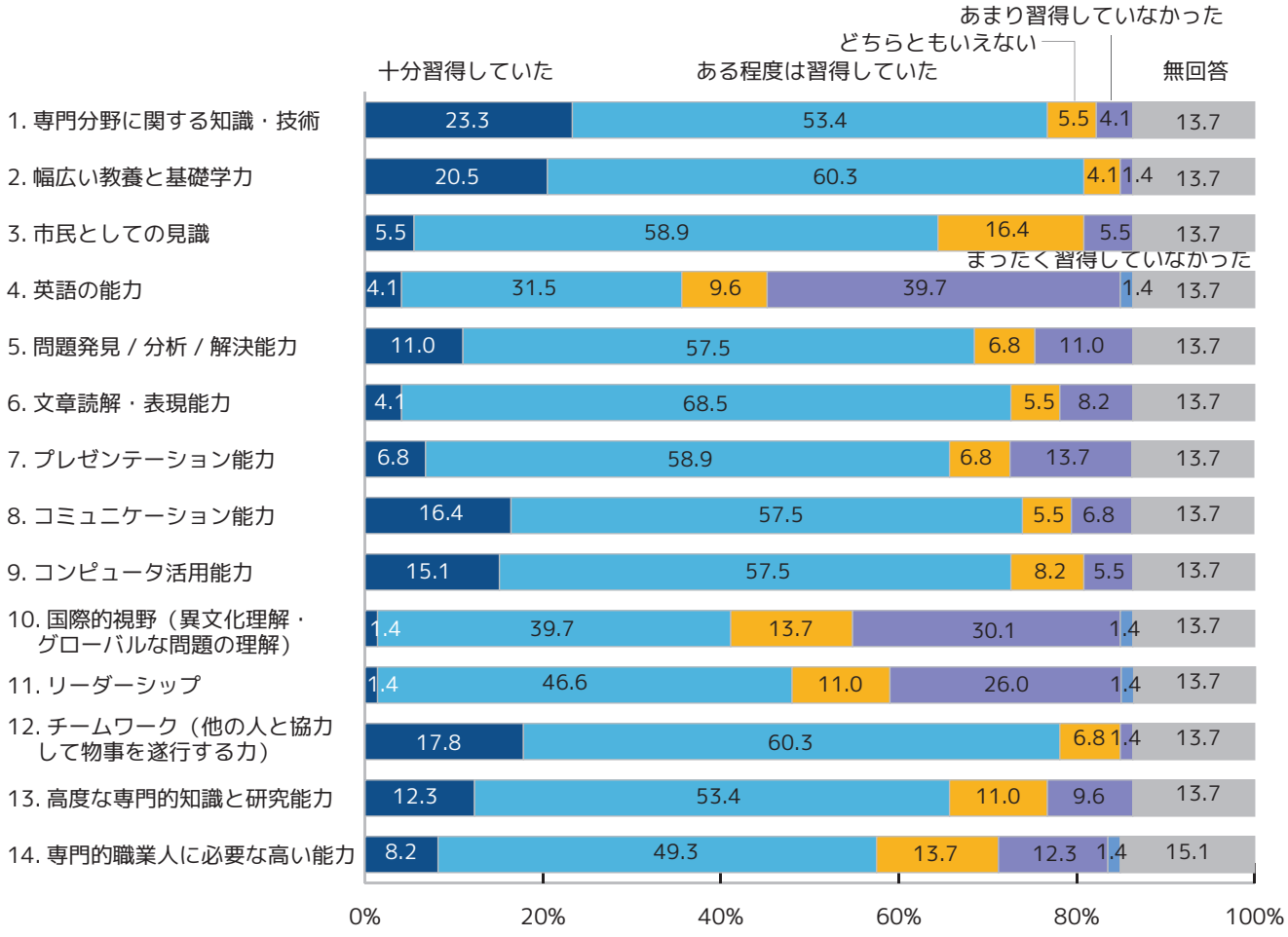
「業務上重要となる能力の習得度」に関する考察

「大学院修了生就職先アンケート調査」の問２は、業務を遂行していく中で重要であると思われる能力について聞いている。他方、問６では問２と同じ能力について、採用した本学修了生がどの程度習得していたかについて聞いている。

下のグラフは、問６について回答した企業全体の回答構成比である。

このグラフで､例えば「専門的職業人に必要な高い能力」について見ると､「十分習得していた」8.2%、「ある程度習得していた」49.3%で、本学修了生を採用した企業のうち 57.5%の企業は「専門的職業人に必要な高い能力」を習得していたと評価している。しかし、これらの企業の中には「業務を遂行していく中で」「専門的職業人に必要な高い能力」を「重要である」としない企業も含まれており、本学修了生の「専門的職業人に必要な高い能力」の習得度の評価としては十分ではない。業務を遂行していく中で「専門的職業人に必要な高い能力」が重要であると考える企業のみにおいて、本学修了生が「専門的職業人に必要な高い能力」をどの程度習得したと判断しているかを見る必要がある。そのために問２と問６をクロス集計することで、業務を遂行していく中で「重要である」と回答した企業のみにおいて、本学の修了生が実際に当該能力をどの程度習得していたかについて、企業の評価を知ることができる。

■ 問６　過去５年間に採用した本学大学院修了生の能力の習得度（n=73）

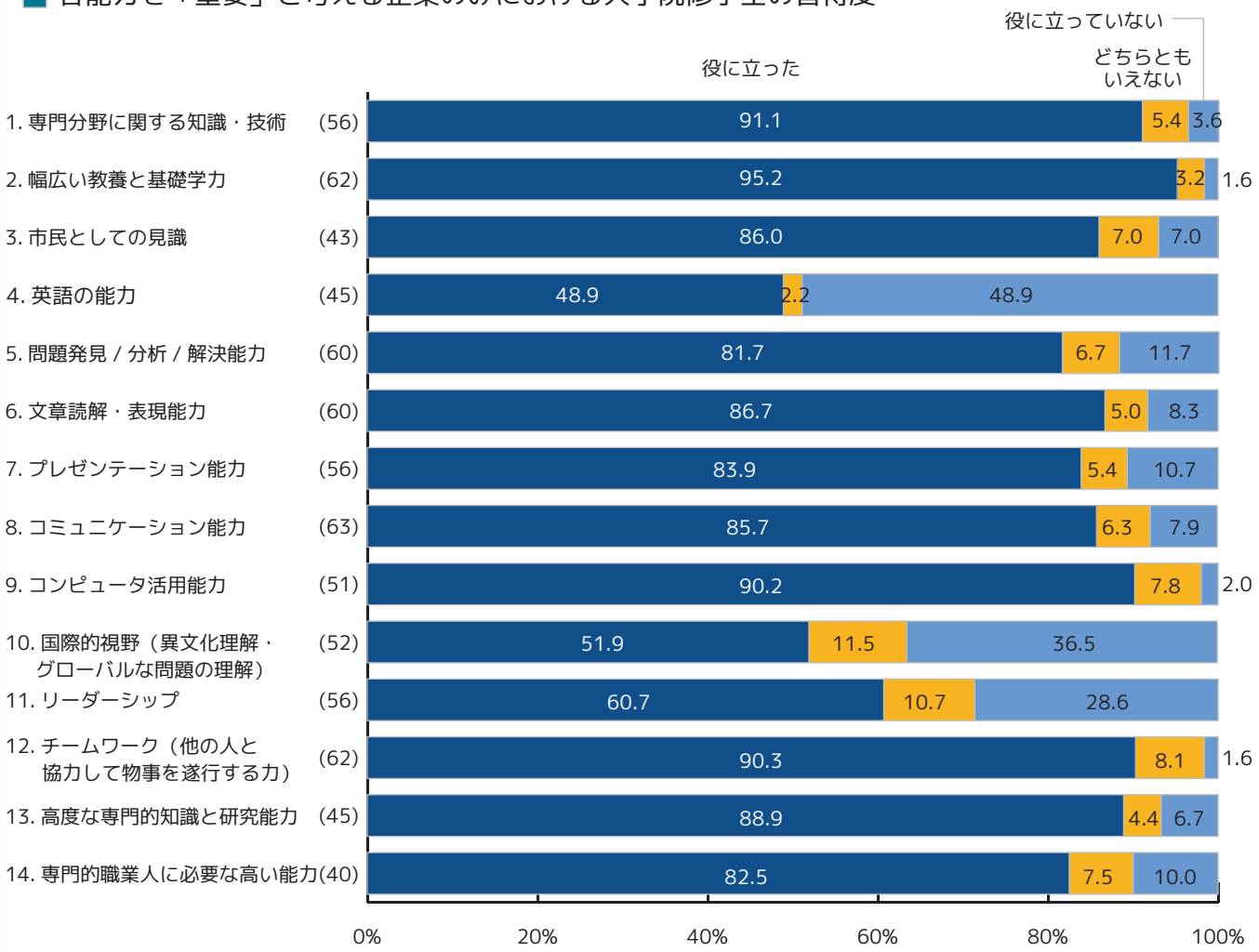


「業務上重要となる能力の習得度」に関する考察

問２と問６をクロス集計した結果が次の構成比グラフである。

どの能力についても、単純集計（当該能力を業務遂行上重要と考えているかを問わない）よりクロス集計（当該能力を業務遂行上重要と考える企業のみ）の方が高く、特に「専門的職業人に必要な高い能力」（＋25.0%）、「高度な専門的知識と研究能力」（＋23.2%）でその差が大きい。クロス集計結果は「英語の能力」を除くと、その習得度は 50%以上～ 90%以上である。

■ 各能力を「重要」と考える企業のみにおける大学院修了生の習得度



(注)問２において、各能力を「業務を遂行していく中で」「非常に重要である」および「ある程度重要である」とした企業が、その能力を問６で「十分習得していた」および「ある程度習得していた」と回答した企業の割合を「習得度していた」と示している。

（　）内は「習得・ある程度習得」の回答数ｎ

＜大学院修了生就職先用＞

平成２４年６月

「静岡大学大学院修了生に関するアンケート調査」

静岡大学　副学長（企画・評価担当）浅利 一郎

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、静岡大学では、教育の質的向上と魅力ある大学づくりを目指すため、日頃、本学大学院修了生を受け入れていただいております皆様に対して、アンケート調査を行うことと致しました。

この調査は、本学の教育により習得した能力が社会においてどの程度役立っているのか、社会・企業が求めている人材育成ができているのか、などについて評価・意見を聴取させていただき、今後の大学院教育のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

つきましては、ご多忙のところ恐れ入りますが、アンケートにご協力いただきたくお願い申し上げます。なお、回答はすべてコンピュータによる統計的な集計を行い、個々の情報として取り扱うことは決してございません。お手数ですが６月３０日（土）までに同封の返信用封筒にてご投函願います。

敬具

なお、この調査に関するご質問やお問い合わせ等は下記までお願いします。

担　当　企画部企画課評価係
連絡先　静岡市駿河区大谷８３６
０５４－２３８－４５７６

※アンケートご記入にあたってのご注意

・〇の数は設問の指示に従い、選択肢番号をしっかり〇で囲んでください。

＜例＞　支社を含めた全従業員・全職員数をお知らせください。（〇は１つ）

１　9 人以下
②　10～49 人

・実数を記入する設問もあります。
・本調査は、過去５年間（平成１９年度～平成２３年度）において貴社が採用した静岡大学大学院修了生を対象としてお答えください。

●まず、貴社・貴組織の概要についてお伺いします。

貴社・貴組織の名称	
所在地 （**本社・本部所在地**）	1　静岡県東部　　2　静岡県中部 3　静岡県西部　　4　静岡県外（※都道府県名をご記入ください　　）
静岡県内における 支所、事務所の有無	1　ある 2　ない

支社を含めた全従業員・全職員数をお知らせください。（○は１つ）

1　9 人以下	2　10～49 人	3　50～99 人
4　100～499 人	5　500 人以上	

貴社・貴組織の業種をお知らせください。（○は１つ）

1　農業	8　情報通信業	15　教育、学習支援業
2　林業	9　運輸業	16　複合サービス事業
3　漁業	10　卸売・小売業	17　サービス業
4　鉱業	11　金融・保険業	18　官公庁・公団
5　建設業	12　不動産業	19　教育委員会
6　製造業	13　飲食店、宿泊業	20　その他（　　）
7　電気・ガス・熱供給・水道業	14　医療、福祉	

過去５年間（平成１９年度～平成２３年度）で採用した静岡大学大学院修了生のうち、**現在も勤務している修了生の数**をお知らせください。

人

※わかる範囲でお答えください。

現在も勤務している大学院修了生の**出身研究科**をお知らせください。

1　人文社会科学研究科
2　教育学研究科
3　情報学研究科
4　理学研究科
5　工学研究科
6　農学研究科
7　理工学研究科
8　電子科学研究科
9　自然科学系教育部
10　法務研究科

●貴社・貴組織の採用基準についてお伺いします。

問１　貴社・貴組織が学生を採用するにあたって重視されることは何ですか。（○は２つまで）

１　基礎知識・教養	５　課外活動経験（サークル・ボランティア・アルバイトなど）
２　専門知識・技術	６　キャリア・学歴
３　職務能力の適正	７　その他（具体的に　　）
４　人物評価（積極性・協調性）	

問２　貴社・貴組織で業務を遂行していく中で、重要であると思われる能力についてお知らせください。
（それぞれの能力について、その重要度１つに○を付けてください）

	重要度				
	非常に重要である	ある程度重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	どちらともいえない
１　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
２　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
３　市民としての見識	1	2	3	4	5
４　英語の能力	1	2	3	4	5
５　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
６　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
７　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
８　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
９　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5
13　高度な専門的知識と研究能力	1	2	3	4	5
14　専門的職業人に必要な高い能力	1	2	3	4	5

問２－１　上記問２　１～14 の項目以外に重要だと思われる能力についてお知らせください。

●次に、静岡大学や静岡大学大学院修了生についてお伺いします。

問３　静岡大学大学院修了生の印象・特徴についてどのように思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものをお知らせください。（それぞれの印象・特徴について、あてはまるもの１つに○を付けてください）

	とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらともいえない
1　まじめである	1	2	3	4	5
2　我慢強い	1	2	3	4	5
3　柔軟性がある	1	2	3	4	5
4　協調性がある	1	2	3	4	5
5　自立性がある	1	2	3	4	5
6　表現力がある	1	2	3	4	5
7　自己啓発意欲がある	1	2	3	4	5
8　行動力がある	1	2	3	4	5
9　その他（　　）	1	2	3	4	5
10　その他（　　）	1	2	3	4	5

問４　今後の静岡大学修了生の採用意向をお知らせください。（○は１つ）

1　積極的に採用していきたい（現在よりも増加していきたい）
2　現在と変わらず採用していきたい（現在と同程度採用していきたい）
3　採用を見直していきたい（現在よりも減少していきたい）

問５　静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性を以下の６つの項目の中から２つまで選んでください。

1　世界的研究・教育拠点
2　高度専門職業人養成
3　幅広い職業人養成
4　総合的教養教育
5　地域の生涯学習の拠点
6　社会貢献機能（地域貢献、産学官連携等）

●採用していただいた静岡大学大学院修了生についてお伺いします。

問６　問２でお伺いした能力について、**過去５年間（平成１９年度～平成２３年度）に採用した**静岡大学大学院修了生はどの程度習得されていると思われますか。項目ごとにあてはまるものを選んでください。途中退職者も含めてお答えください。（それぞれの能力について、その習得度１つに〇を付けてください）

	習得度				
	十分習得していた	ある程度習得していた	あまり習得していなかった	まったく習得していなかった	どちらともいえない
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
3　市民としての見識	1	2	3	4	5
4　英語の能力	1	2	3	4	5
5　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
6　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
7　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
8　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
9　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5
13　高度な専門的知識と研究能力	1	2	3	4	5
14　専門的職業人に必要な高い能力	1	2	3	4	5

問７　静岡大学大学院修了生を採用したことは総合的に見てどの程度満足されていますか。（〇は１つ）

1　非常に満足	2　概ね満足	3　やや不満	4　非常に不満	5　どちらともいえない

問８　静岡大学の教育に関するご意見・ご要望がございましたら、何でも結構ですのでお書きください。

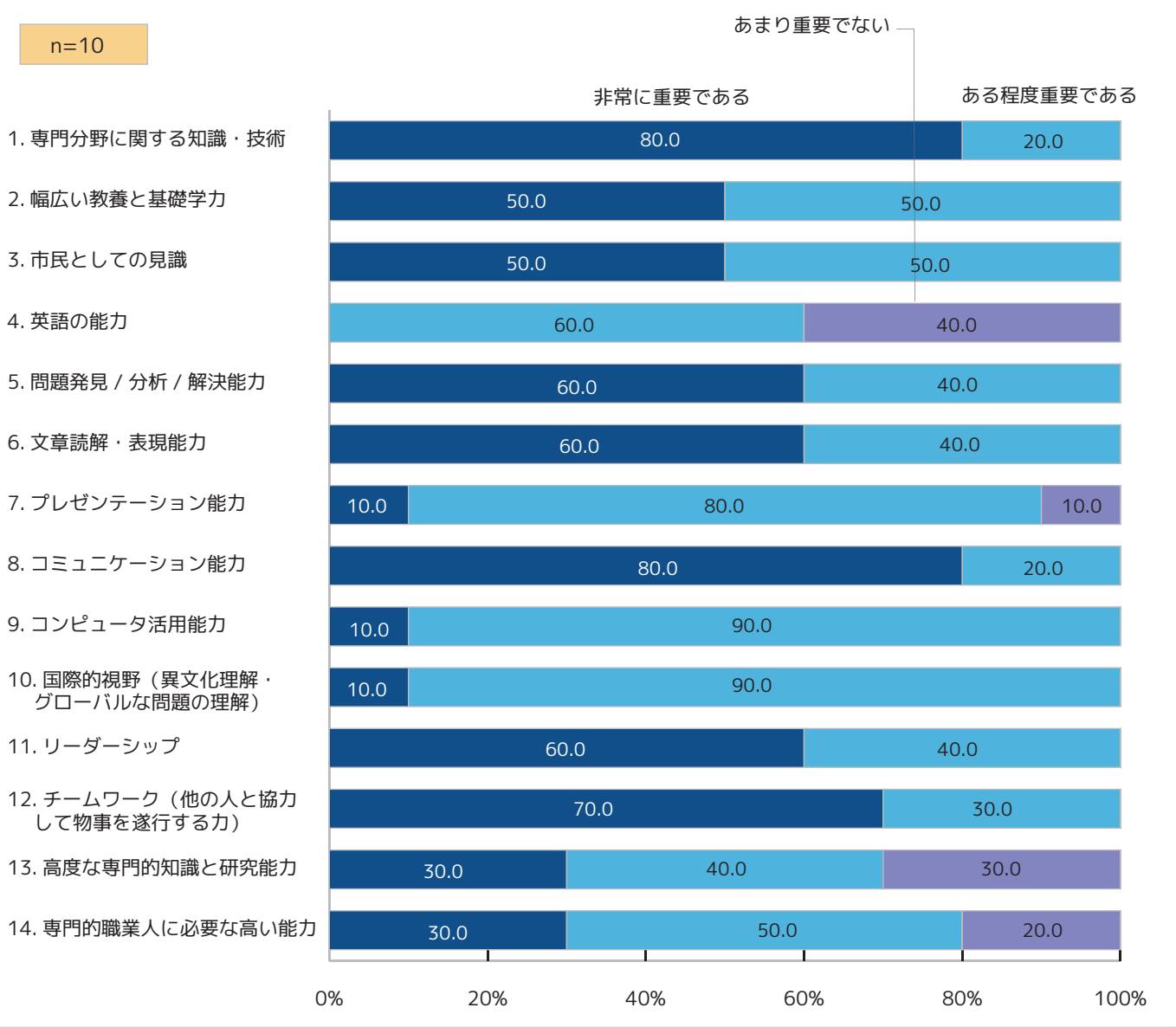
ーご協力ありがとうございましたー

職務を遂行していく中で重要と思われる能力

「専門分野に関する知識・技術」「コミュニケーション能力」の「非常に重要である」との回答割合が８割と高い。

解 説

「あまり重要でない」との回答が「英語の能力」（40.0%）と「高度な専門的知識と研究能力」（30.0%）で高い。



その他の重要と思われる能力

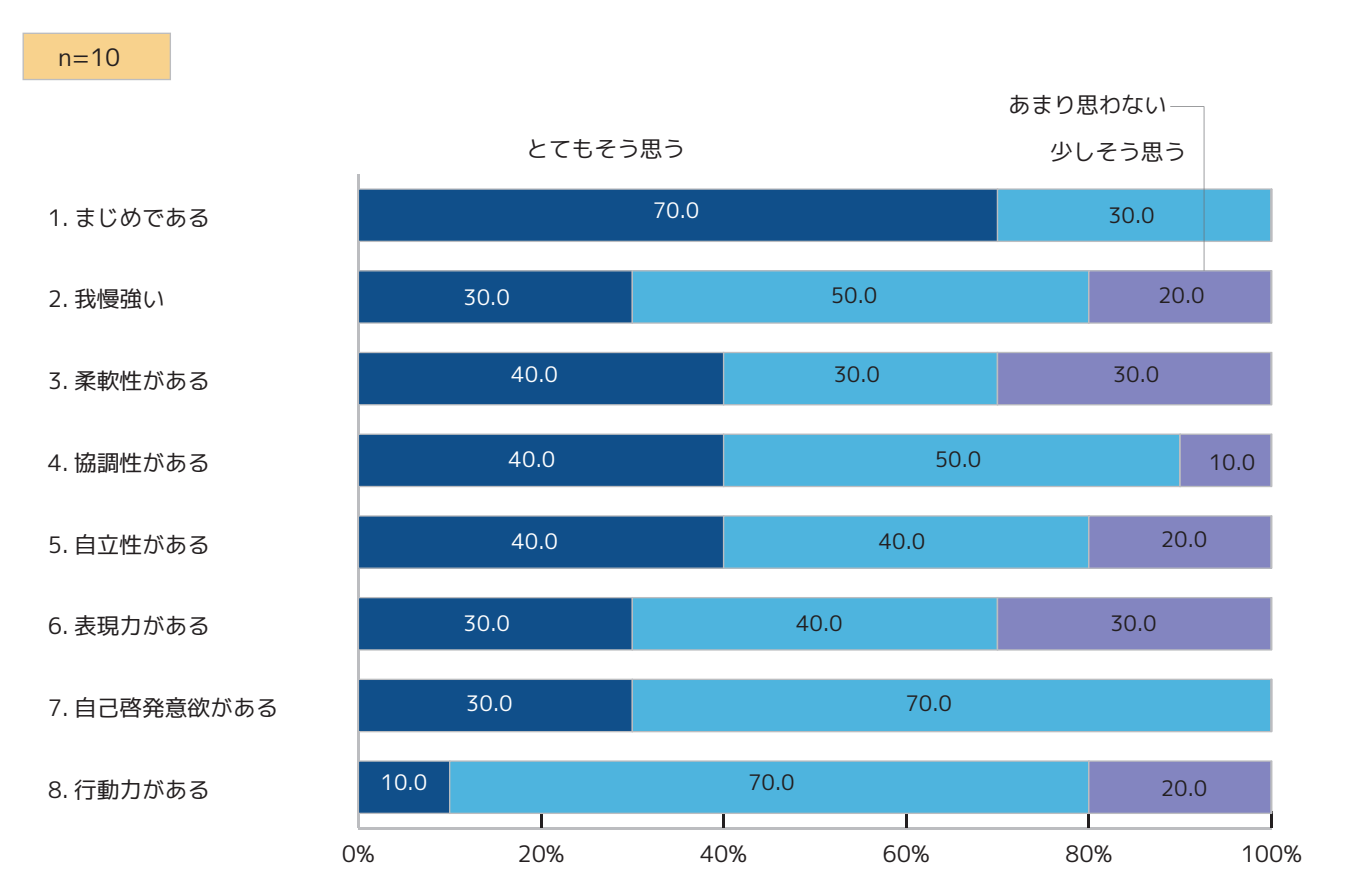
- 運動能力、専門以外の特技
- 危機管理能力
- 基本的な職務遂行能力

静岡大学大学院修了生の印象・特徴

「とても」と「少し」そう思うの合計が、「まじめである」「自己啓発意欲がある」で100%。

解 説

「あまり思わない」の回答は、「柔軟性がある」（30.0%）「表現力がある」（30.0%）で高い。



その他の印象 ・ 特徴

- 奉仕の精神がある。

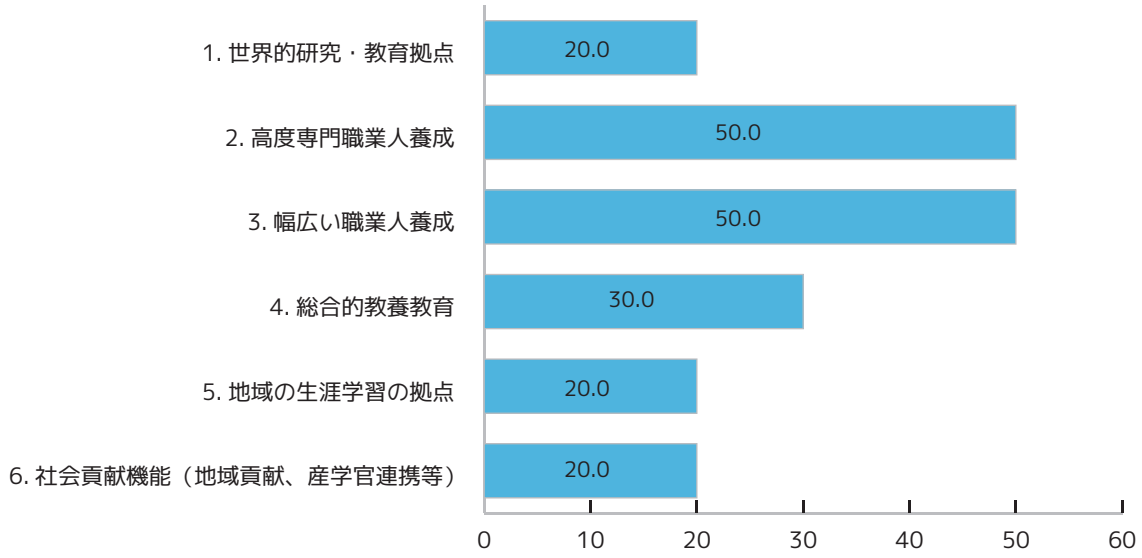
静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）

「高度専門職業人養成」と「幅広い職業人養成」の回答割合が高い。

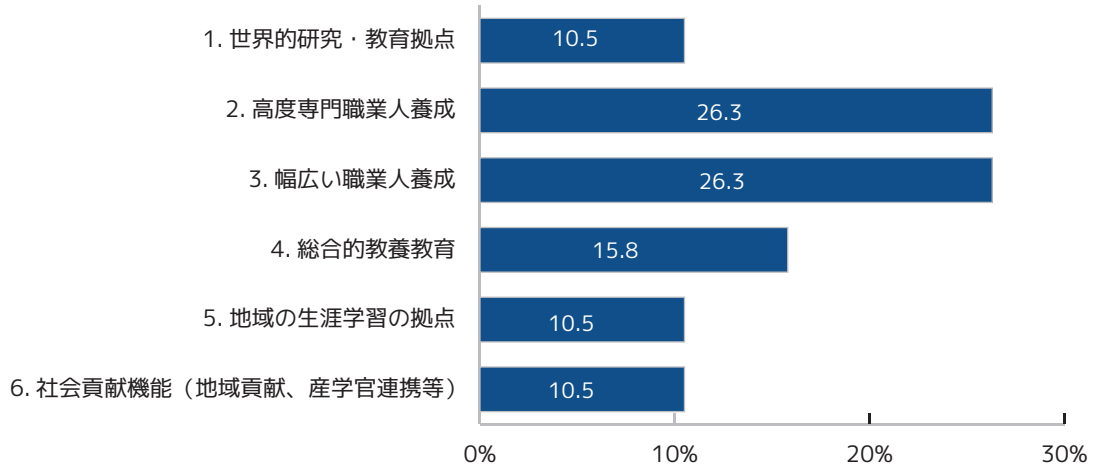
解 説

- 学部卒業生学校関係就職先もほぼ同様の結果。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 10 人 =100



n=19

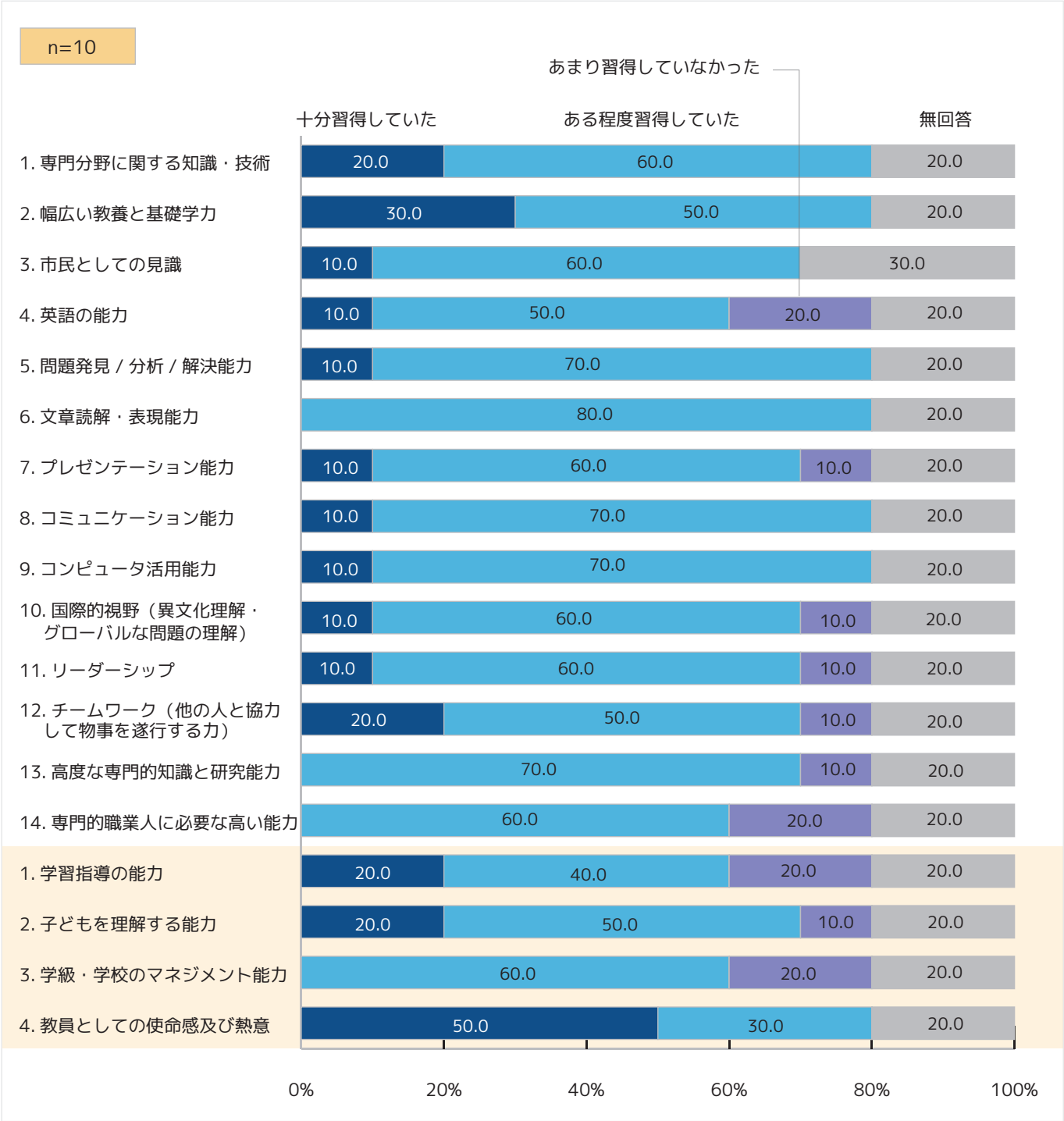


職務を遂行する中で重要であると思われる能力の習得度

「教員としての使命感及び熱意」について 5 割が「十分習得していた」と回答。

解 説

全ての能力について、6 割以上が「十分」または「ある程度」習得していたと回答。



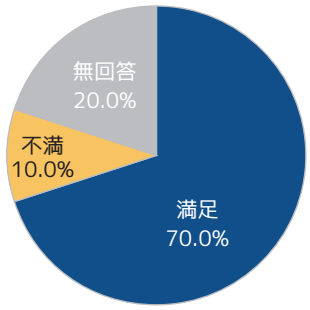
※色塗りされている項目は、学校関係就職先のみの設問

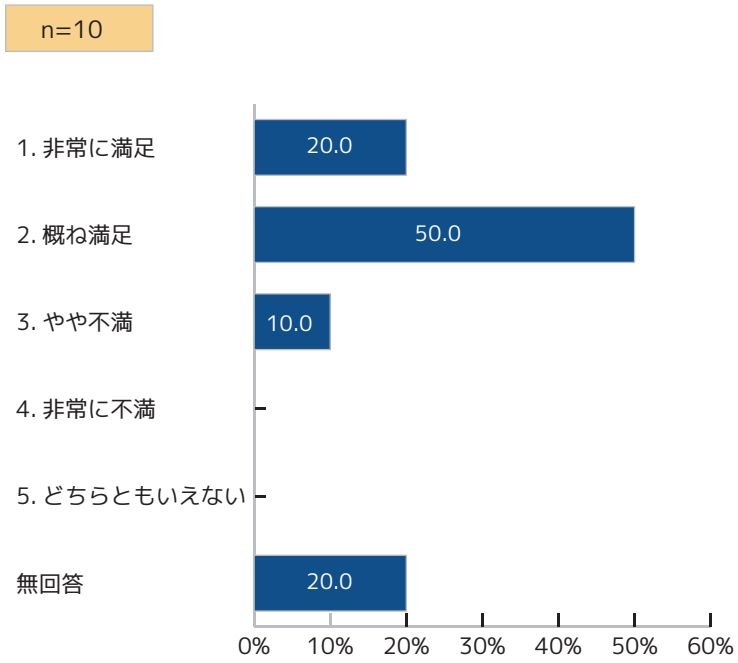
静岡大学大学院修了生の総合的な満足度

「非常に」または「概ね」満足との回答が 7 割を占める。「やや不満」が 10%。

解 説

- 「非常に不満」との回答は０であった。





静岡大学の教育に関する意見 ・ 要望

- 過去 5 年で 2 名を採用しています。ここ 10 年で採用した教員の中で、教師としての資質だけでなく、人間性といった観点でみても、2 人共、群を抜いています。

- 一皮むいておいていただきたい。

＜大学院修了生学校関係就職先用＞

平成２４年６月

静岡大学大学院修了生に関するアンケート調査のお願い

静岡大学　副学長（企画・評価担当）浅利　一郎

拝啓

貴校におかれましては、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、静岡大学では、教育の質的向上と魅力ある大学づくりを目指すため、過去５年間の本学大学院修了生が勤務している学校の校長先生またはご関係の先生から、本学大学院修了生が在学中に身に付けた学力や資質・能力についてお尋ねするために、アンケート調査を実施することと致しました。

つきましては、大変お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、アンケート調査にご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なお、本調査に関しましては、事前に静岡県教育委員会より、ご了解を頂いております。

また、本調査は、特定の個人を対象としたものではなく、本学大学院修了生全般に関わることとしてご回答頂けると幸いです。

以上、甚だ勝手なお願いではありますが、６月３０日（土）までに同封の返信用封筒にてご投函願います。

何卒よろしくご協力の程お願い申し上げます。

敬具

なお、この調査に関するご質問やお問い合わせ等は下記までお願いします。

担　当　企画部企画課評価係

連絡先　静岡市駿河区大谷８３６
０５４－２３８－４５７６

※アンケートご記入にあたってのご注意

・〇の数は設問の指示に従い、選択肢番号をしっかり〇で囲んでください。

＜例＞　**問１　貴校で職務を遂行していく中で、重要であると思われる能力についてお知らせください。**
（それぞれの能力について、その重要度１つに〇を付けてください）

	重　要　度				
	非常に重要である	ある程度重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	どちらともいえない
１　専門分野に関する知識・技術	(1)	2	3	4	5
２　幅広い教養と基礎学力	1	(2)	3	4	5

問１　貴校で職務を遂行していく中で、重要であると思われる能力についてお知らせください。（それぞれの能力について、その重要度１つに○を付けてください）

	重　要　度				
	非常に重要である	ある程度重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	どちらともいえない
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
3　市民としての見識	1	2	3	4	5
4　英語の能力	1	2	3	4	5
5　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
6　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
7　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
8　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
9　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5
13　高度な専門的知識と研究能力	1	2	3	4	5
14　専門的職業人に必要な高い能力	1	2	3	4	5

問１－１　上記問１　１～14 の項目以外で重要だと思われる能力についてお知らせください。

問２　静岡大学大学院修了生の印象・特徴についてどのように思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものをお知らせください。（それぞれの印象・特徴について、あてはまるもの１つに〇を付けてください）

	とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	どちらともいえない
1　まじめである	1	2	3	4	5
2　我慢強い	1	2	3	4	5
3　柔軟性がある	1	2	3	4	5
4　協調性がある	1	2	3	4	5
5　自立性がある	1	2	3	4	5
6　表現力がある	1	2	3	4	5
7　自己啓発意欲がある	1	2	3	4	5
8　行動力がある	1	2	3	4	5
9　その他（　　）	1	2	3	4	5
10　その他（　　）	1	2	3	4	5

問３　静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性を以下の６つの項目の中から２つまで選んでください。

1　世界的研究・教育拠点
2　高度専門職業人養成
3　幅広い職業人養成
4　総合的教養教育
5　地域の生涯学習の拠点
6　社会貢献機能（地域貢献、産学官連携等）

問４　問１でお伺いした能力について、静岡大学大学院修了生はどの程度習得されていると思われますか。項目ごとにあてはまるものを選んでください。

（それぞれの能力について、その習得度１つに〇を付けてください）

	習得度				
	十分習得していた	ある程度習得していた	あまり習得していなかった	まったく習得していなかった	どちらともいえない
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
3　市民としての見識	1	2	3	4	5
4　英語の能力	1	2	3	4	5
5　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
6　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
7　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
8　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
9　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5
13　高度な専門的知識と研究能力	1	2	3	4	5
14　専門的職業人に必要な高い能力	1	2	3	4	5

以下の能力の習得度についてもお答えください。

1　学習指導の能力	1	2	3	4	5
2　子どもを理解する能力	1	2	3	4	5
3　学級・学校のマネジメント能力	1	2	3	4	5
4　教員としての使命感及び熱意	1	2	3	4	5

問５　本学大学院修了生について、総合的に見てどの程度満足されていますか。（〇は１つ）

1　非常に満足	2　概ね満足	3　やや不満	4　非常に不満	5　どちらともいえない

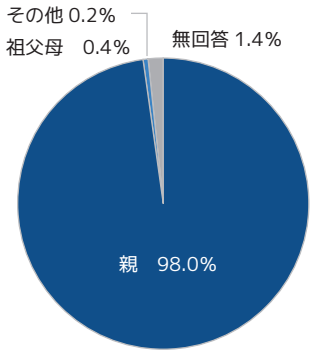
問６　静岡大学の教育に関するご意見・ご要望がございましたら、何でも結構ですのでお書きください。

ーご協力ありがとうございましたー

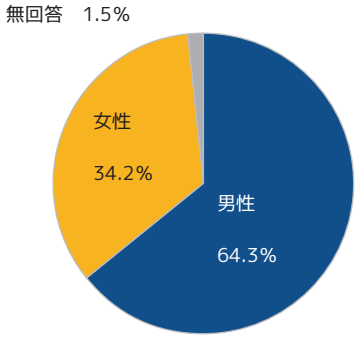
回答者の属性

アンケート票送付対象：各学部 4 年生の保護者全員
送付数：2,585 件　回答数：1,258 件
回収率：48.7%（学部別内訳は下記「学部別回収率」参照）

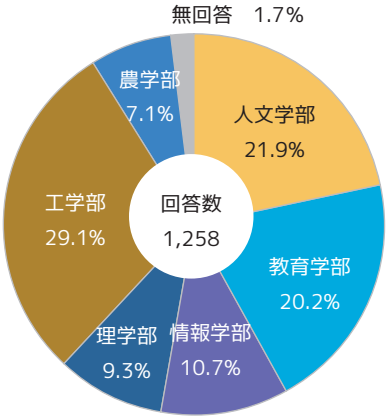
子供から見た回答者の続柄



子供の性別

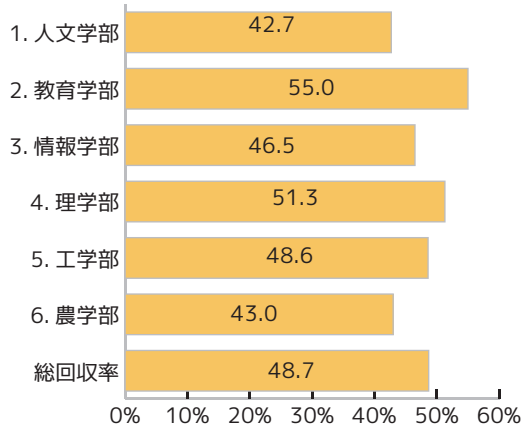


子供が在籍している学部

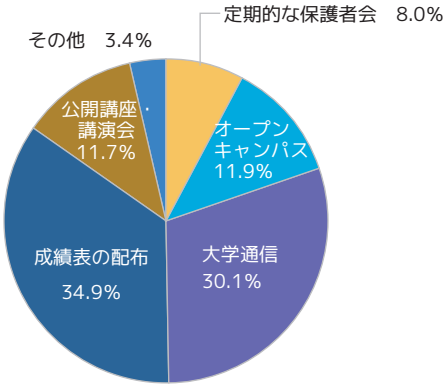


※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

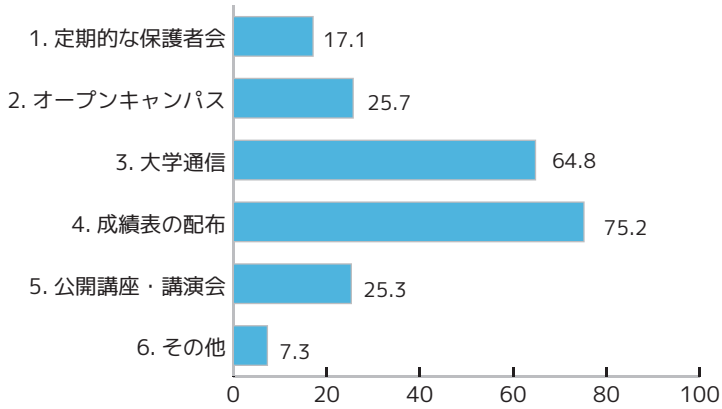
学部別回収率



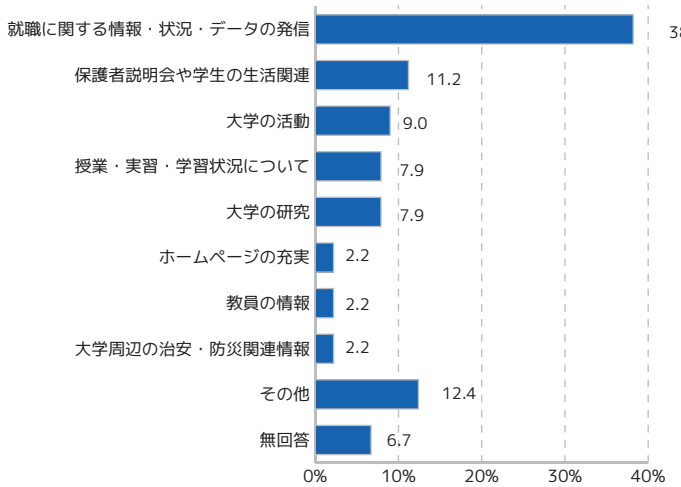
静岡大学から発信してほしい情報等



【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 1,213 人 =100



静岡大学から発信してほしい情報等 「その他」（7.3%）の内訳



※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

（　　）内は子供の所属している学部

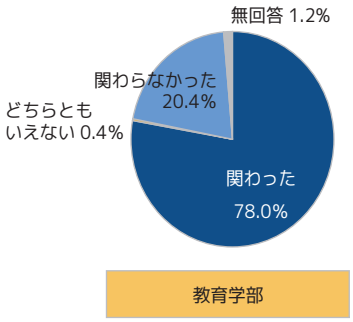
- 片山寮生です。学生自治寮とはいえ、もう少し学校が関わって情報を発信して欲しいです。（人文学部）
- 担当教授と話す機会（人文学部）
- 大学の年間（年度）スケジュール（試験･行事･休暇（春･夏･冬）等）（人文学部）
- 出席状況（人文学部）
- 就職実績の情報（人文学部）
- 就職支援活動状況。静岡は、東海・東南海地震、最近は富士山の火山活動にも言及され、生活・生命への影響が心配なので、大学での危機管理状況と学生への周知、あるいは学生一人一人が自らの生命をいかに守るのか自覚できるよう情報を発信していただきたい。（人文学部）
- 事業概況説明会（人文学部）
- インターネット情報をより充実して欲しい。学部毎、子供がどんな勉強や学内活動をしているのか（遠方なのでオープンキャンパスや講演に参加するのは無理なので）（人文学部）
- 大学の活動（人文学部）
- 大学周辺、大学内における安全対策･安全管理についての情報（教育学部）
- 大学院情報、就職先情報、就職過去実績情報（教育学部）
- 保護者会の開催（教育学部）
- 就職関係の記事（教育学部）
- 産学協同研究の内容（教育学部）
- 研究成果（教育学部）
- 教育実習時期について予め保護者に説明して頂きたい。（教育学部）
- 教育に関する制度､国の施策､学校(大学)の取組状況等（教育学部）
- 学部別に進路に向けての情報（教育学部）
- 大学の取組みや取組み中の情報、学生の動きなどホームページで紹介してほしい。（情報学部）
- 出欠の様子（情報学部）
- 就職求人情報（情報学部）
- 就職に関する活動等の情報（情報学部）
- 前年度の就職先一覧表（学部別）（情報学部）
- 授業参観（情報学部）
- 大学の研究成果を要約した冊子を社会に配布（有料でよい）する（理学部）
- 卒業生と現役学生との交流について（卒業生がどの分野で何の活躍をされているのか）（理学部）
- 進路、就職に関して（理学部）
- 就職状況の資料（理学部）
- 就職活動について、どんなフォロー、バックアップがあるか知りたい。（理学部）
- 就職に関しての採用する側の情勢､静大生の現実の状況（理学部）
- 学部学科の詳しい学習内容や取り組み方針がわかる様な情報が知りたい。（理学部）
- 大学生なんだから親は関係ないと思います。（工学部）
- 大学院に関することや就職情報（工学部）
- 大学の年間予定表（夏休み・冬休み・文化祭等）（工学部）
- 大学の就職率と進学率（工学部）
- 先生方の研究について成果とか内容とか研究テーマとか。（工学部）
- 成績表をもう少しわかりやすくしてほしい（工学部）
- 成績表は年２回ほしい。前期と後期で（工学部）
- 出席状況、レポート課題の提出状況（工学部）
- 就職先が大学に求めるものの最大要因（工学部）
- 就職支援体制（工学部）
- 子どもがどんな大学生活を送っているのかがわかる具体的なもの（工学部）
- 産官学の活動実績、研究活動（外部発表、提携）まで（工学部）
- 校内の風景、学食のメニュー等（工学部）
- 工学部からの情報誌は年に何回か配布されていますが、学科の概要、研究等の現状、子供たちの状況が詳細に、保護者会以外で知らせて頂けると有り難いです。（工学部）
- 学部ごとに何をやっているのか知りたい。離れていると何を勉強しているか、全くわからないです。（工学部）
- 学部・学科別の就職先全てが知りたいです。（工学部）
- 各学年必要取得単位と実際取得単位を解り易くし、留年可能性を早目に情報提供していただけるとありがたい（工学部）
- インターネット配信（工学部）
- 「成績表の配布」時は卒業必要単位数も明記してほしい（工学部）
- 就職情報、出身地の先輩等（農学部）
- 行っている授業の内容などもっと分かりやすく（農学部）
- 後期学費納入のお知らせ（農学部）
- 学生、学校生活、活動の行程、年間スケジュール等（農学部）
- ３年次進路状況説明会（保護者向け）（農学部）
- どのように社会に貢献しているか？どんな進展をしているか？就職状況、そのための取り組み、その現状。卒業研究などの状況、その研究がどのように社会に貢献しているのか？（学部無回答）

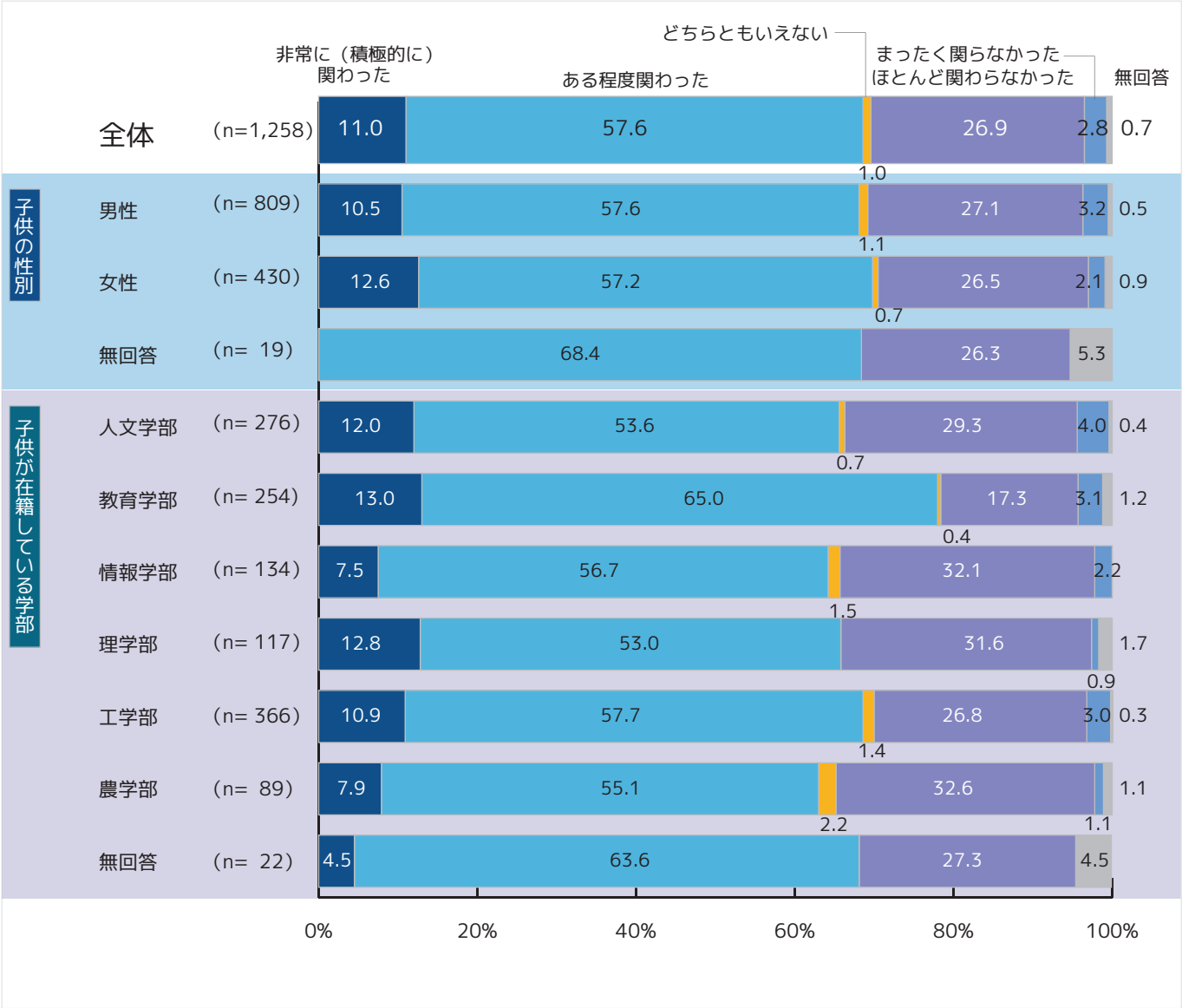
子供の受験に関わった度合い

「非常に」または「ある程度」関わった回答割合の合計は 68.6%。

解 説

- 学部別では､「教育学部」で「非常に」と「ある程度」関わった合計が 78.0% と他学部に比べ高い。
- 「まったく関わらなかった」の回答はどの区分でも 4.0% 以下。



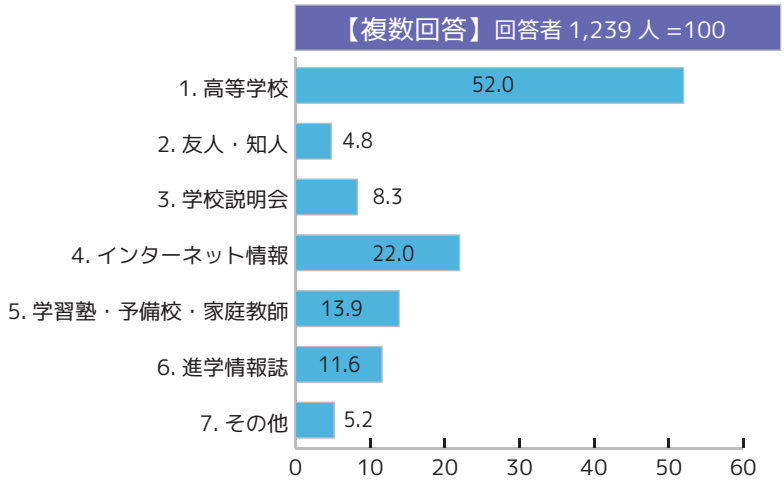


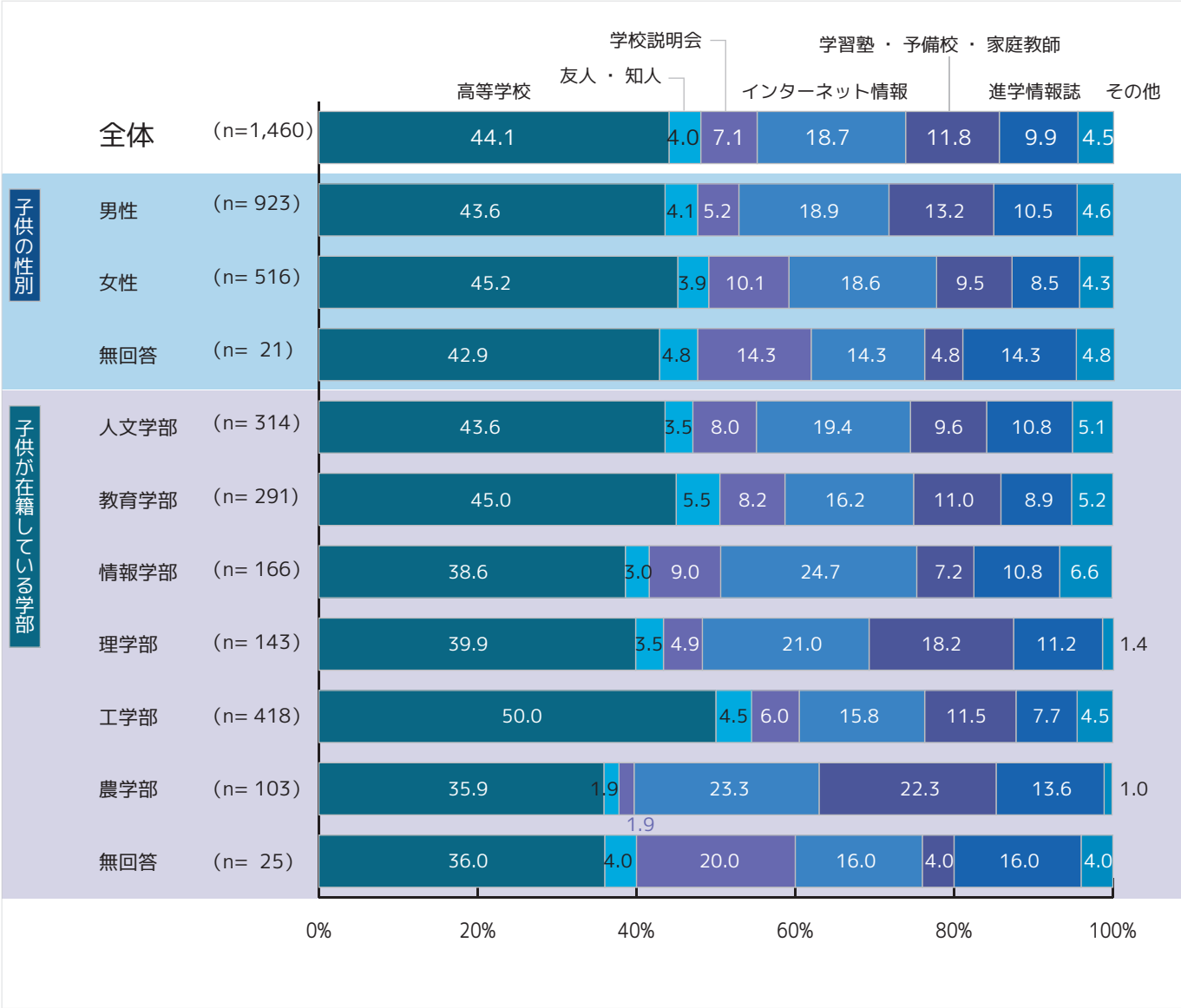
子供と進路先の情報を収集する際に最も参考にしたもの（複数回答可）

進路先の情報を収集する際に最も参考にしたものは「高等学校」

解 説

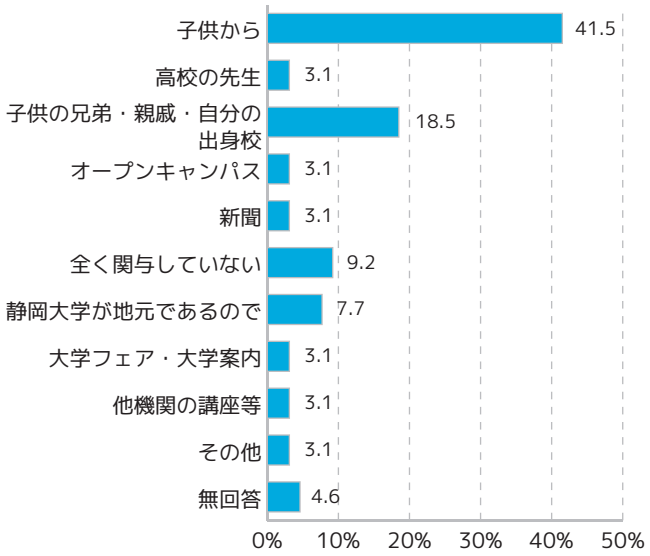
- 「インターネット情報」が「高等学校」に次いで高い。
- 学部別では、「工学部」の「高等学校」が 50.0% と高い。





子供と進路先の情報を収集する際に最も参考にしたもの（複数回答可）

進路先の情報収集で最も参考にしたもの「その他」（5.2%）の内訳



（　　）内は子供の所属している学部

- 前年度の入学情報を静岡新聞の小さな記事で読んだ（ 人文学部）
- 自分ですべて決定したため不明です（人文学部）
- 公務員希望により生協開催の公務員講座（人文学部）
- 私の兄夫婦の話を聞いて（人文学部）
- オープンキャンパス（人文学部）
- 一番近くの大学で授業料の安い大学（人文学部）
- 新聞（人文学部）
- 出身校としての経験（人文学部）
- 自分の知っている情報の範囲（人文学部）
- 子供の入学の時、私が静岡大学夜間主コースの 2 年生に在籍していた関係です（人文学部）
- 本人の意志を尊重（人文学部）
- 卒業生が私の父、妹なので。本人にとっては祖父、叔母（ 人文学部）
- 子供が決めたので。受験する大学を本人（子供）から聞きました。（教育学部）
- 静岡大学は地元なのである程度の情報は持っていた（ 教育学部）
- 進路に最も適した大学（静大は師範学校が母体）（教育学部）
- 兄が進学していた為（教育学部）
- 自分が附属小に勤務していて校長より直接話を聞いた。（教育学部）
- 子供の話を参考にした（教育学部）
- 関らなかったため不明（教育学部）
- 自分も静大卒業のため（教育学部）
- 2 浪して自分に合った進路先を選んだと思う（教育学部）
- 偏差値しかないではないですか？！！（教育学部）
- 子供が先生と話しながら決めてくれたので、親はまったく関わらなかったので参考にしたものはないです（教育学部）
- どこに進学するかを子供に任せた（情報学部）
- 長男が在籍していた（情報学部）
- 本人の希望（情報学部）
- 本人がオープンキャンパスにいって決めてきました（ 情報学部）
- 子供が調べ、私は子供から情報を得た（情報学部）
- 双子だったのでもう 1 人の方の高等学校の担任教師(他校)(情報学部）
- 大学案内（理学部）
- 高校の先生（理学部）
- 通信教育（理学部）
- ほとんど関わらなかったので（工学部）
- 本人の希望に任せた（工学部）
- 夫（工学部）
- 自宅からの通学（工学部）
- 兄弟と相談（工学部）
- 本人の学力、将来の仕事、大学の環境（工学部）
- 関与しなかった（工学部）
- 特に情報を収集していない（工学部）
- 情報は全て本人が収集。本当に行きたい大学を受けてほしかった為。（工学部）
- 大学フェア（工学部）
- 本人は「高等学校」、「インターネット情報」、「学習塾･予備校･家庭教師」等から収集（工学部）
- 本人の 2 人の姉（娘）が 1 ～ 2 年前に受験生だったので、アドバイスを受け参考にした。（工学部）
- オープンキャンパス（工学部）
- 子供から（農学部）
- 兄、親の卒業校（学部無回答）

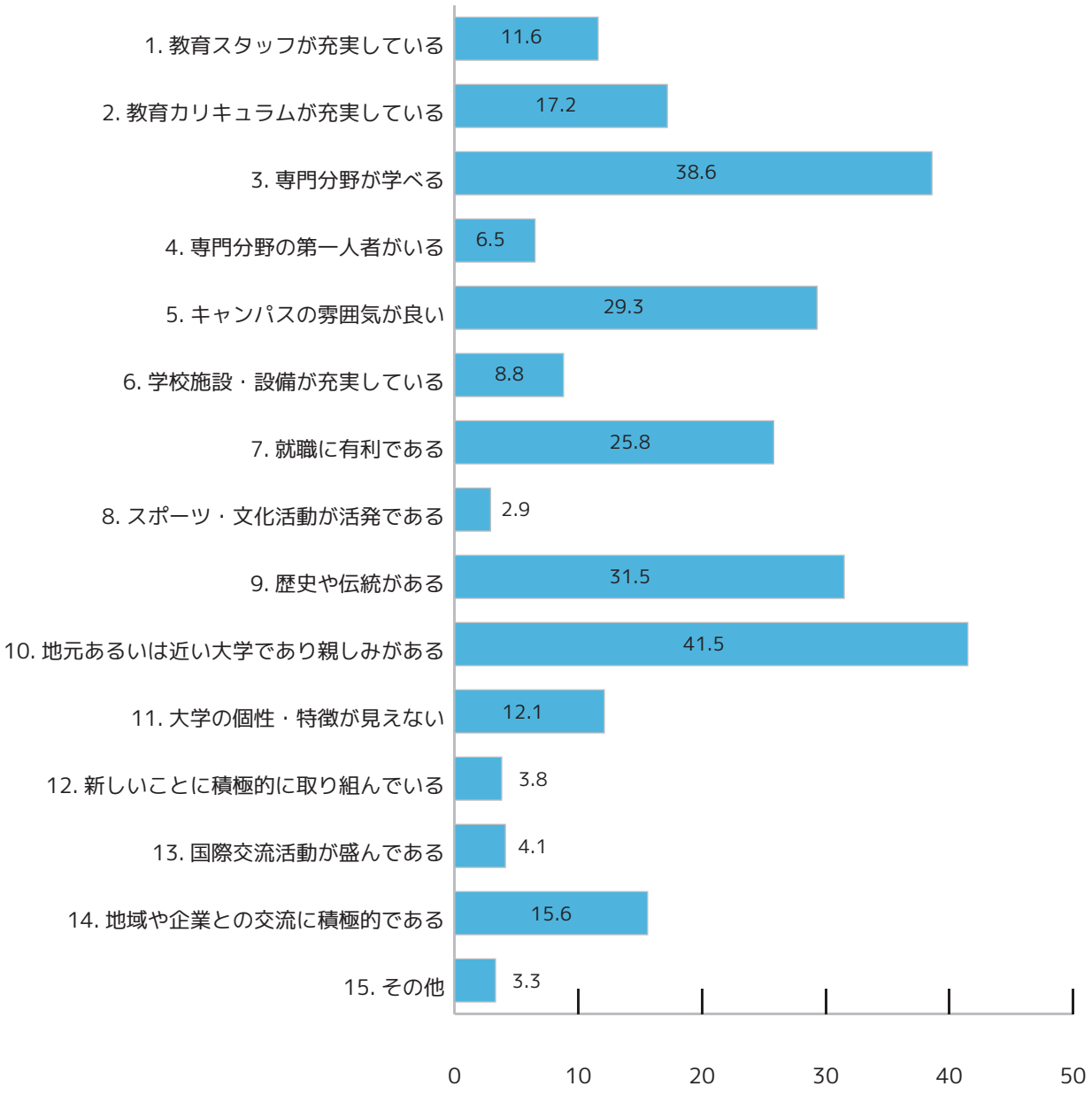
静岡大学のイメージ（複数回答可）

「地元あるいは近い大学であり親しみがある」(41.5%)、「専門分野が学べる」(38.6%)、「歴史や伝統がある」(31.5%) の順に高い。

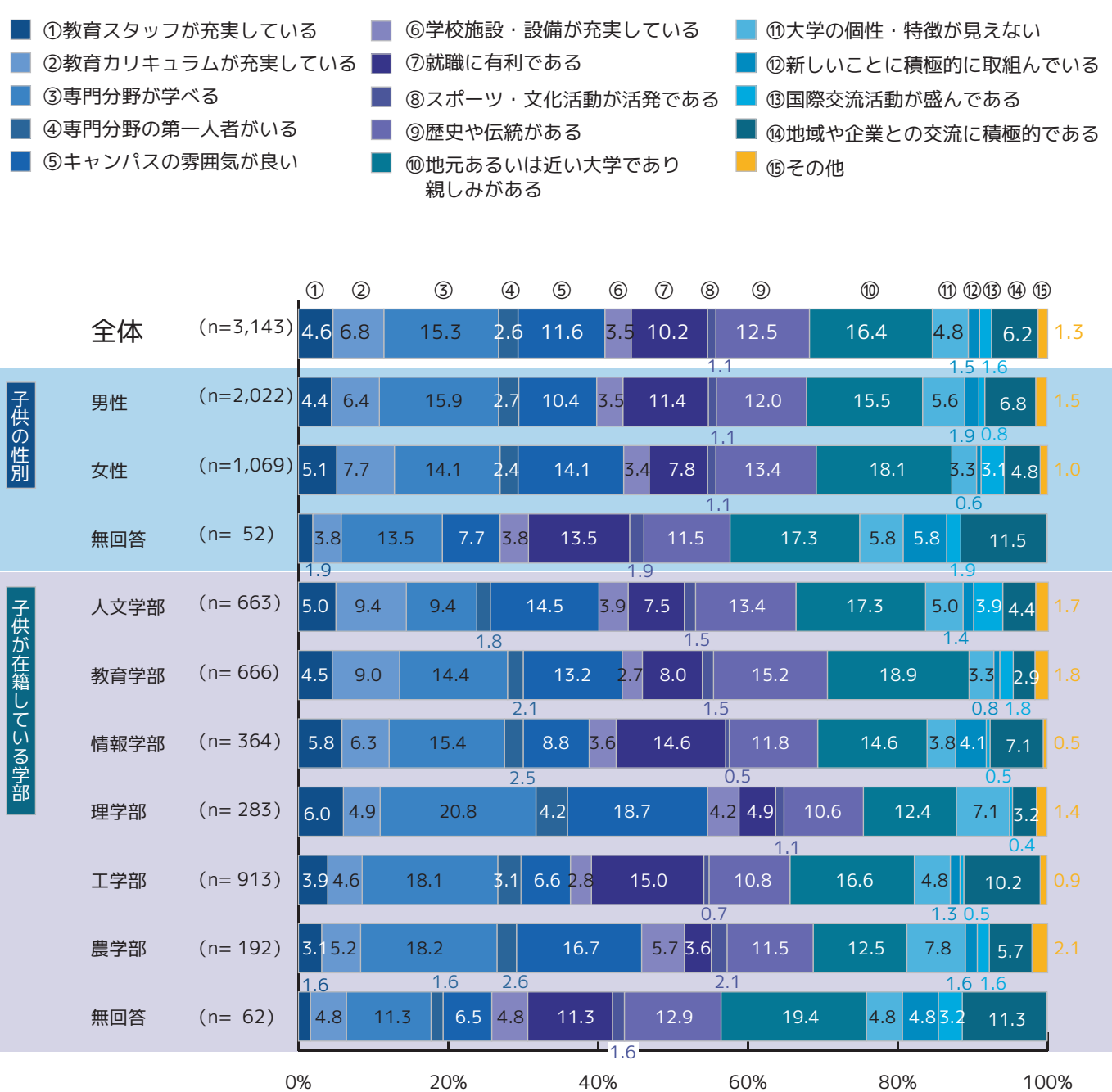
解 説

- 「スポーツ･文化活動が活発である」(2.9%)､「新しいことに積極的に取り組んでいる」(3.8%) は低い。
- 学部別では、「理学部」の「専門分野が学べる」が高い。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 1,245 人 =100



静岡大学のイメージ（複数回答可）



静岡大学のイメージ（複数回答可）

その他

- まじめ (人文学部)
- 学生人数に対する教授 (先生) の人数にゆとりがある (人文学部)
- 地方の国立大学 (人文学部)
- 静岡市は大変良い生活環境で、そこで初めて一人で生活し、学校に通えた事は本当にありがたいと思った。(人文学部)
- 県内で一番良い大学 (人文学部)
- 社会人に対して門戸を開いている (人文学部)
- 静岡を代表する大学であるという顔をもっている (人文学部)
- 県、市といった地域と密着した研究・活動が見えない。例えば信州大学は松本市や地域にとけ込んだセミナーを行っている。(人文学部)
- 保護者とのアプローチが乏しい (教育学部)
- 他の国立大学に比べて独自性や学生によりよい環境づくりに欠けていると思う。(教育学部)
- 先生方が親切に対応してくださった (教育学部)
- 真面目な学生が多いイメージがある (教育学部)
- 何の魅力もインパクトも感じません。(教育学部)
- 寮生活が大変充実している (教育学部)
- 学長が若く変化が感じられる (教育学部)
- 静岡大学のイメージは関わりをもってないので無いです。(教育学部)
- 子供からの情報 (教育学部)
- 静岡という土地に対する信頼。人間性。(教育学部)
- 施設・設備が古い (教育学部)
- 研究室の担当教官がとても良い方で研究室の仲間も良いとの事 (情報学部)
- 母校である為、親近感もあるがもの足りなさも感じる (情報学部)
- 地味である。関東・関西地域の間に埋没している。(理学部)
- ぬるま湯のイメージがある一方、安心できるイメージもあります。とても親切な感じも。(理学部)
- 自分の出身校であり親しみがある。(理学部)
- 大学が有名である (理学部)
- 先生方がたびたびメディアに登場される (工学部)
- 地元に密着している感じを受ける (工学部)
- 浜松キャンパスの整備が遅れており、愛知の国立大と比べて見劣りする。(工学部)
- 全体的に大学のイメージが良い (工学部)
- 全く知らなかったが、勉強面に大変厳しいと思うようになった(子供の性格によるかもしれないが・・・)。(工学部)
- 関西在住です。ほとんどイメージは持っていませんでした。(工学部)
- 基礎的教育がしっかりしている (工学部)
- 遠すぎて情報が入ってこない (農学部)
- 学校については大学通信のみの知識しかない為わからない。(農学部)
- 東京から近い (農学部)

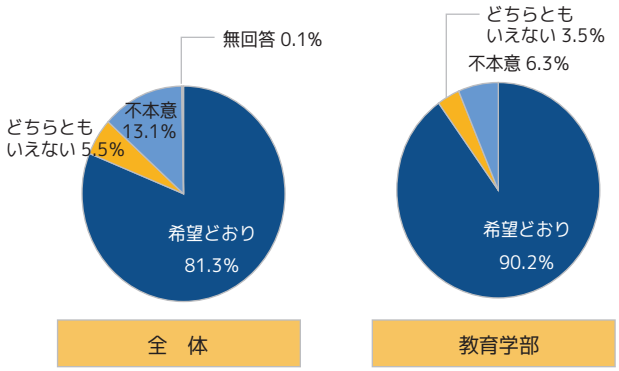
(　　) 内は子供が所属する学部名

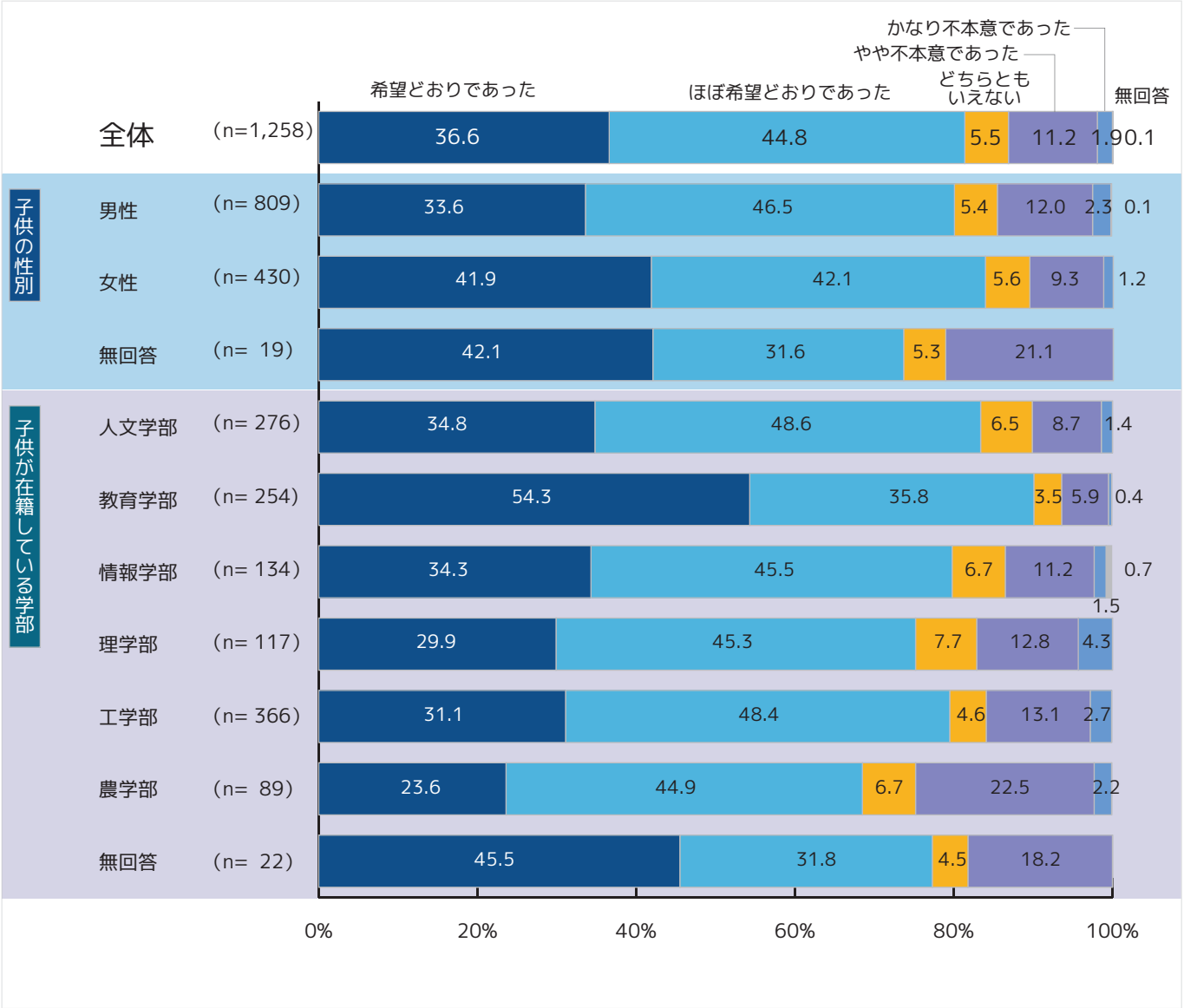
子供が「静岡大学」に入学したことに対する保護者の希望度合い

「希望どおり」と「ほぼ希望どおり」の回答割合の合計は 81.3% と高い。

解 説

- 学部別では「教育学部」で「希望どおり」の回答割合が高く（54.3%）、「ほぼ希望通り」との合計も最も高い。（90.2%）



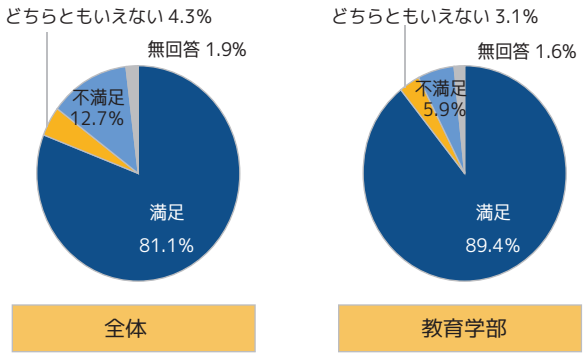


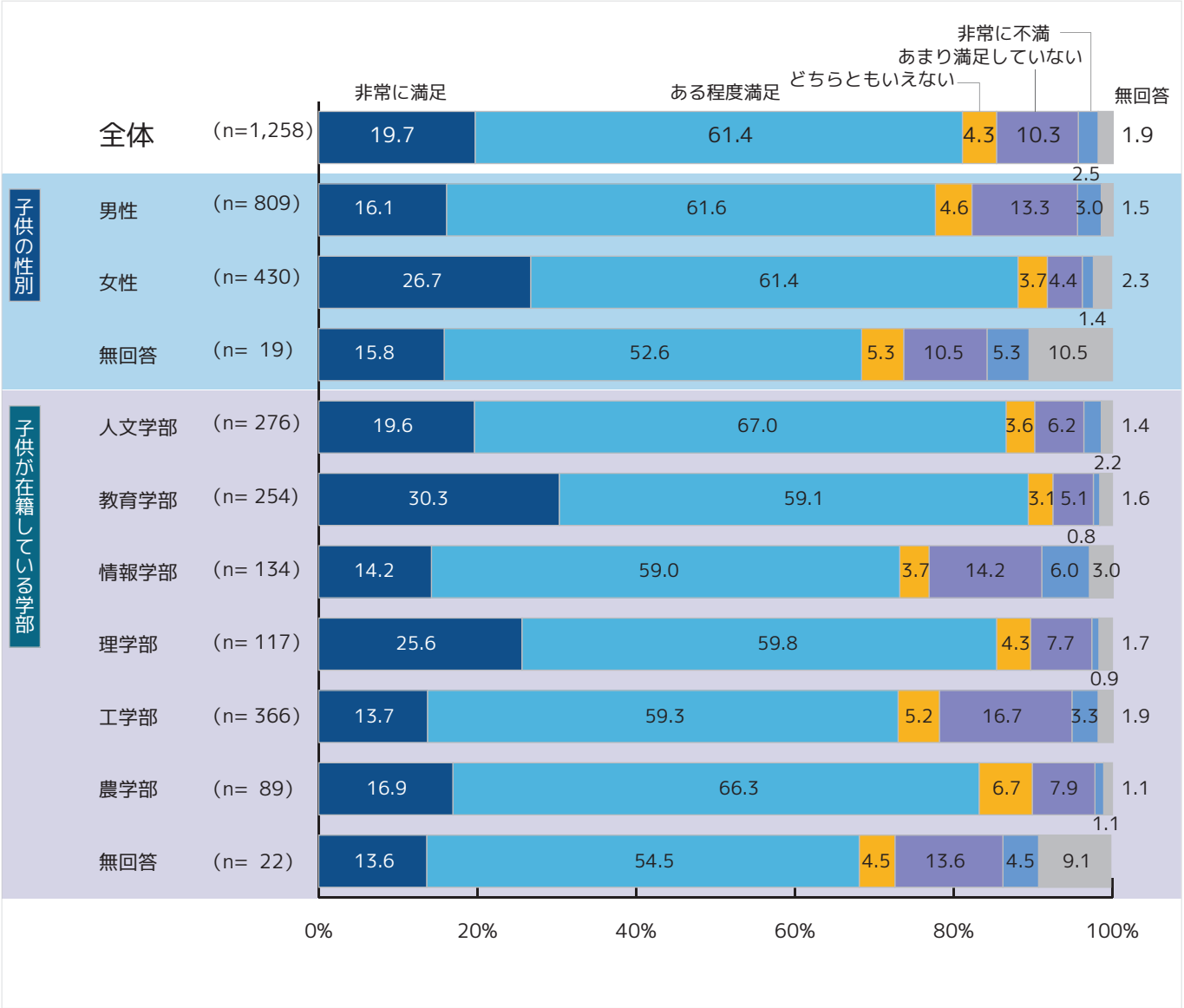
子供の学生生活に関する保護者の総合満足度

肯定的回答割合は 81.1% と高いが、「非常に満足」は 19.7% にとどまる。

解 説

- 「ある程度満足」の回答割合がいずれの区分でも約 6 割ほど。
- 学部別では、「あまり満足していない」と「非常に不満」の合計が、「情報学部」(20.2%)、「工学部」(20.0%) で高い。



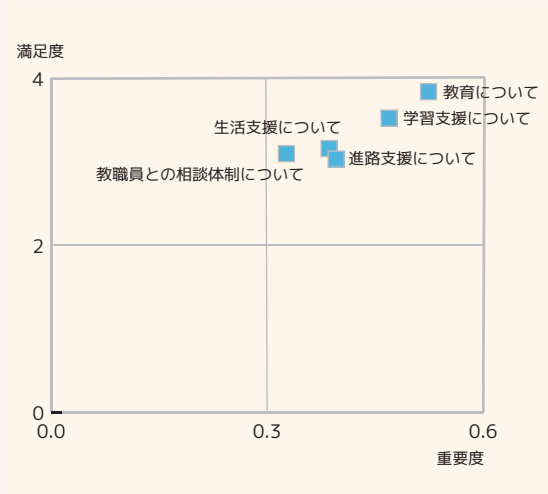


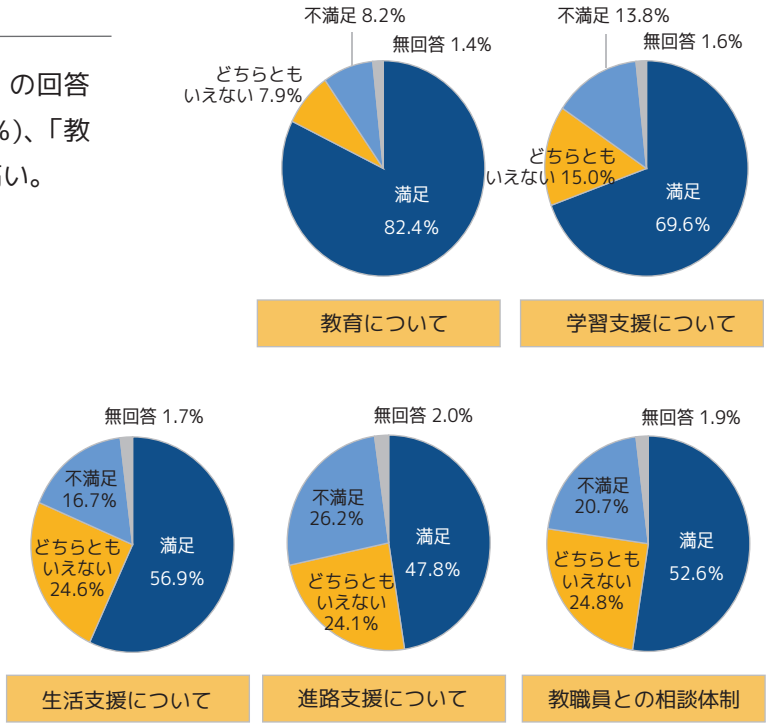
子供の学生生活に関する保護者の満足度（項目別）

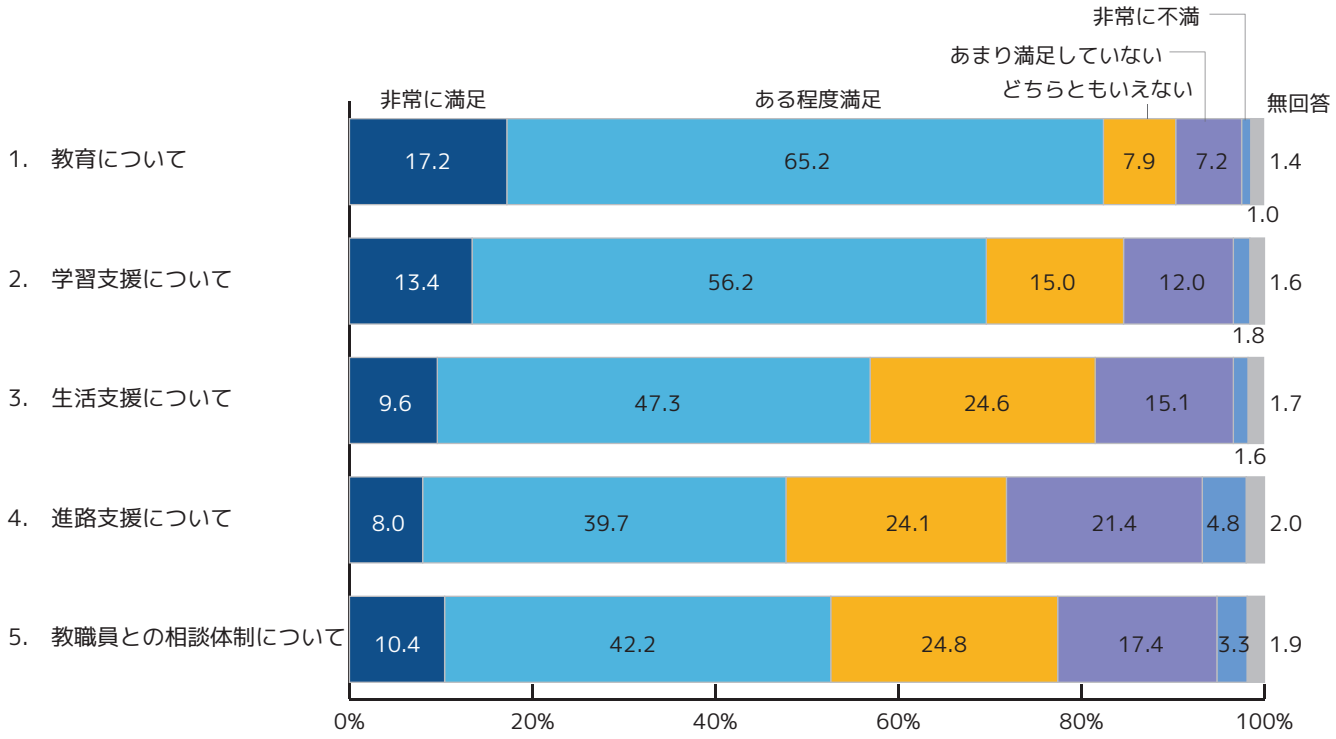
「非常に」または「ある程度」満足の回答割合は「教育について」で８割を超える一方、「進路支援について」は５割を割り込む。

解 説

- 「あまり満足していない」と「非常に不満」の回答割合の合計は「進路支援について」（26.2%）、「教職員との相談体制について」（20.7%）で高い。





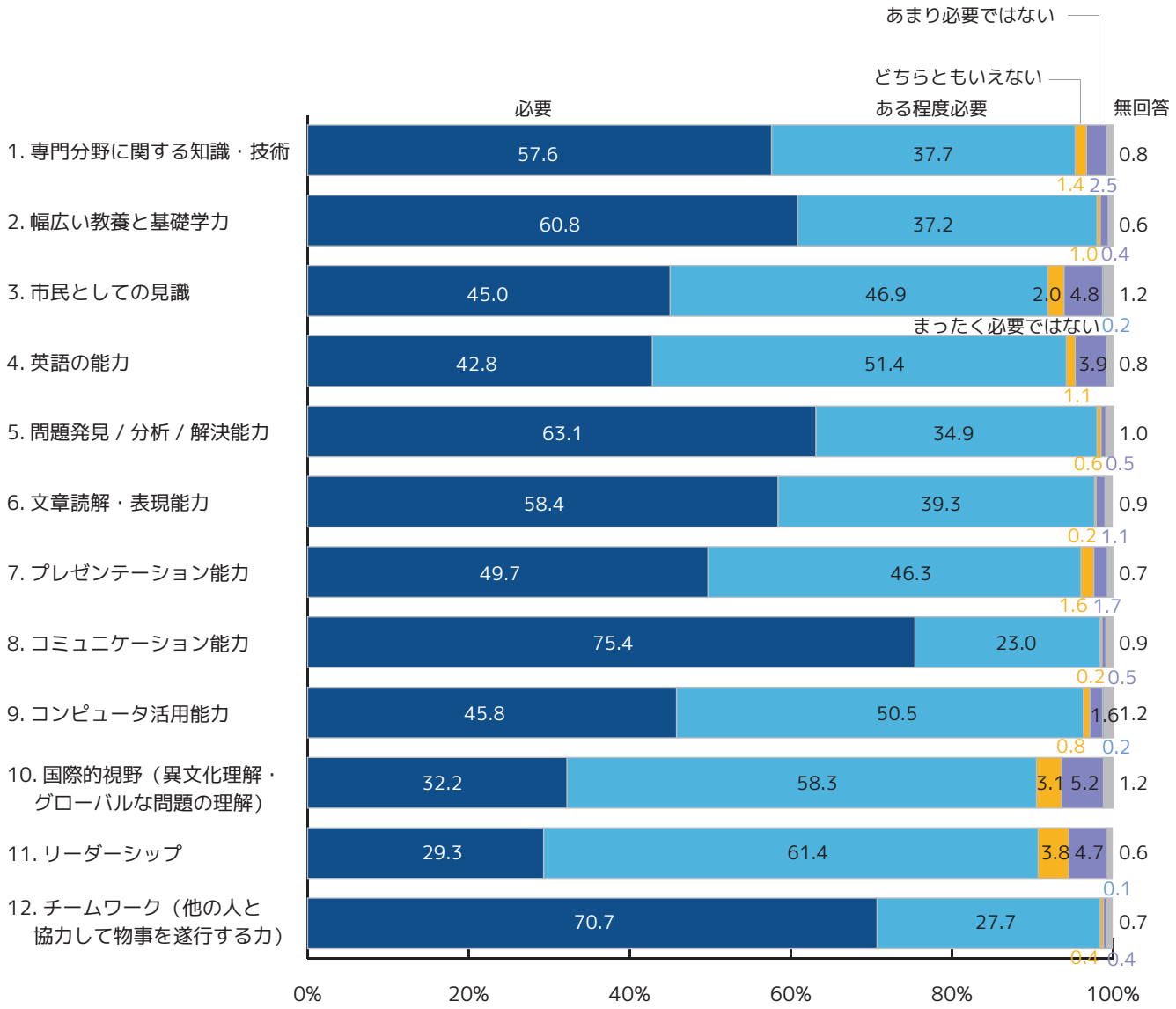


子供が仕事や日常生活を過ごす中で必要と思われる能力

「必要」との回答割合は、「コミュニケーション能力」(75.4%)「チームワーク」(70.7%)「問題発見 / 分析 / 解決能力」(63.1%) の順に高い。
これは、学部卒業生就職先アンケート結果と同じ順序である。

解 説

- 学部卒業生就職先アンケートの結果では業務を遂行する中で「あまり重要ではない」との回答割合が高かった能力も、保護者では「必要」の回答割合が全体的に高い傾向にある。



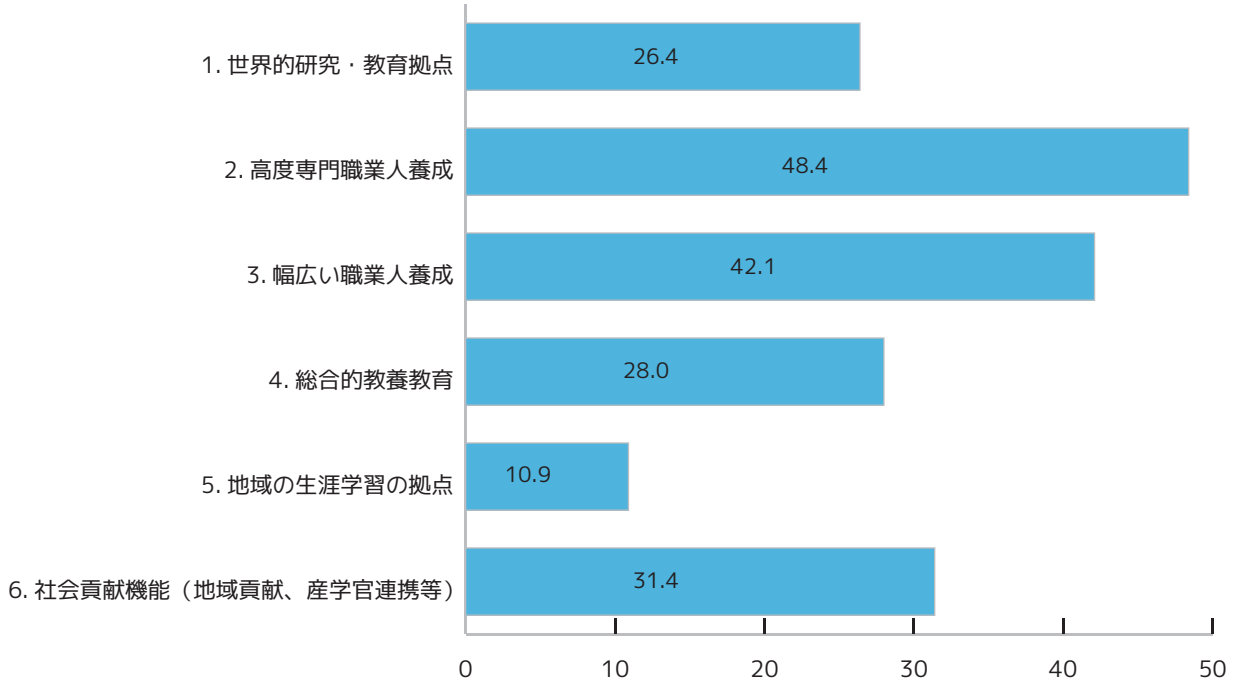
静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）

「高度専門職業人養成」、「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能」の順に高い。

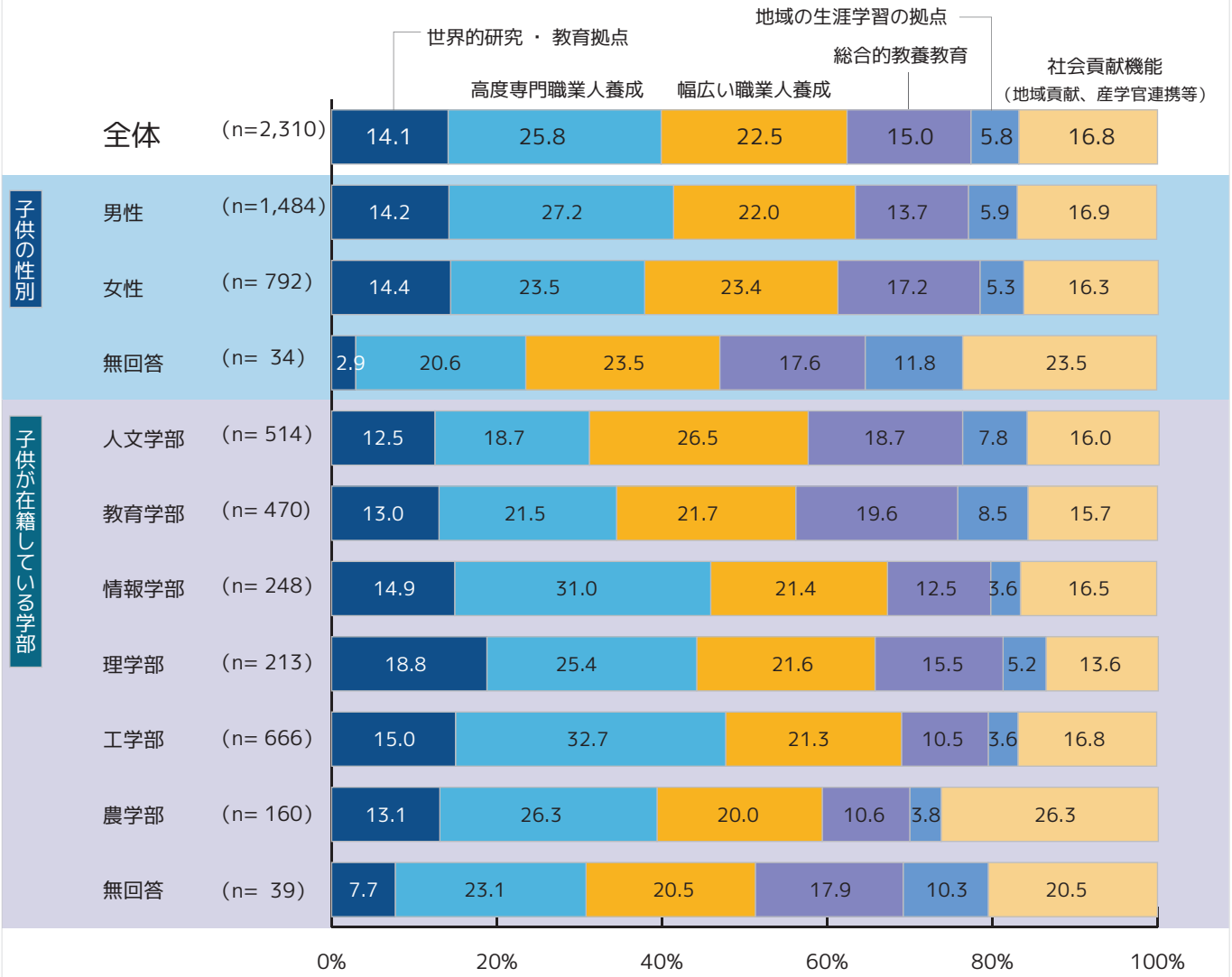
解 説

- 学部卒業生就職先アンケート結果と比べると、保護者の方が「世界的研究・教育拠点」としての方向性を重視している。
- 学部別では、「農学部」の「社会貢献機能」（26.3%）が高いことが目立つ。

【複数回答】 回答者 1,234 人 =100



静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）



静岡大学に関する意見・要望

就職 ・ 進路について

- 学校祭の際、懇談会があるのは良いと思います。子供の所にも寄れますし、学校も見れて、とてもいいです。就職がどうなっているのか全くわからないですが、本人が考えていると思いますので、しっかり進めていってほしいです。(工学部)
- 静岡大学は歴史ある大学と思います。卒業され地元で活躍されている先輩方々も多いと思いますので、先輩方々と現大学生との交流等があったら学生生活や就職活動にも参考になることが多いと感じます。(教育学部)

静大のイメージ ・ 今後の静大のあり方について

- 国内的にも国際的にも、特徴的な専門分野の学問、特に農学について「静大ここにあり」の第一人者的な特異分野の研究場所となる大学になってほしい。(農学部)
- 伝統ある人間味豊かな学風は気に入っています。知識の向上とともに、社会性を養い、社会に貢献できる人間の育成を望みます。(理学部)
- こういうアンケート調査をする事は有意義だと思うし、そういう大学の姿勢は評価されるべきと思います。情報発信も良くされていると思います。今後も、専門能力を身につけた学生を社会に出して頂けますよう御願いします。(工学部)
- 落ち着いた大学だと思います。全体的にもう少し学生にハングリー精神がほしいと感じます。でも親としてとても良い大学に入って育てて下さった事に感謝しています。(人文学部)

謝辞等

- 自分の人生のあり方を今立ち止まって本人は考えています。「自分の人生は自分で決めること」と思っているので親はただ見ているだけです。大学もこんな生徒もやさしく見つめてくれて、これから我が子が進むべき道を見守ってくれている様で心あたたかい大学だと思って本当に感謝しています。生徒の事を第一に考えてくれるすばらしい大学だと思います。ありがとうございます。(人文学部)
- 静岡大学には２人の娘がお世話になっております。将来を見据えての学生生活は自立するために無理なくていねいに過ごしていけたような気がします。何か悩みがあった時、大学の職員の方々、先生方が受止めてくださり問題解決への道しるべになったと申しておりました。すばらしい教育を受けさせていただきましたこと、心より感謝しお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。(理学部)
- 娘が大変お世話になっております。帰省する度に静岡大学に行ってよかったと申しております。それを聞くと親としてほっとします。どこの研究室もという訳ではないようですが、娘の研究室は教職に関しての勉強が大変熱心で、時間があれば現場に出向いて子供と接する機会を作っていただけたり教材研究なども熱心にしているようです。そして採用試験対策についてもここまでするのだ･･･と現職の私もびっくりするぐらいたくさんの情報を集めて指導していただいています。本当に感謝しています。ありがたいことです。あと少しですが、残りの大学生活お世話になります。(教育学部)

学生生活について

- 子供の学生生活にはほとんど関わってこなかった気がします。でも、とても充実した学生生活を送っているようでうれしく思っています。特にサークルにおいても学部においても、先輩、後輩という縦のつながりがあるようで、以外な感じを受けました。それはとても大切な良い事だと思います。長い間お世話になりありがとうございました。(農学部)
- 子供に聞くと学校生活も楽しく勉強の方も一生懸命やれると言っています。親として学校に対する気持ちは満足です。自分の兄が静大卒なので（人文)、様子的には分かっているつもりでした。子供を見ていると親として安心していれます。浜松キャンパスの文化祭は面談もあるので毎年いってます。キャンパスの雰囲気はとってもいいですね。(情報学部)

＜保護者用＞

平成２４年６月

「静岡大学に関するアンケート調査」

静岡大学　副学長（企画・評価担当）浅利 一郎

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、静岡大学では、各学部４年生の保護者の皆様方を対象にしたアンケート調査を行わせていただくことになりました。

この調査は、お子様の進路決定に関することや保護者の方から見た本学のイメージ、及び満足度などについてご意見をお聞かせいただき、キャンパスライフの質的向上と魅力ある大学を目指すための基礎資料を得ることを目的としています。

つきましては、ご多忙のところ恐れ入りますが、アンケートにご協力いただきたくお願い申し上げます。なお、回答はすべてコンピュータによる統計的な集計を行い、個々の情報として取り扱うことは決してございません。

お手数ですが６月３０日（土）までに同封の返信用封筒にてご投函願います。

敬具

なお、この調査に関するご質問やお問い合わせ等は下記までお願いします。

担　当　企画部企画課評価係
連絡先　静岡市駿河区大谷８３６
０５４－２３８－４５７６

※アンケートご記入にあたってのご注意

- **本調査票は各学部の４年生の保護者を対象としています。**
- **○の数は設問の指示に従い、選択肢番号をしっかり○で囲んでください。**

＜例＞　お子様から見たあなたの続柄をお知らせください。

①	親
２	祖父母
３	兄姉
４	その他（　　）

●まず、あなたご自身についてお伺いします。

お子様から見たあなたの続柄をお知らせください。

1　親
2　祖父母
3　兄姉
4　その他（　　）

お子様の性別をお知らせください。

1　男性
2　女性

お子様が在籍している学部をお知らせください。

1　人文学部
2　教育学部
3　情報学部
4　理学部
5　工学部
6　農学部

静岡大学から保護者の皆様へ発信してほしい情報等についてお知らせください。（○はいくつでも）

1　定期的な保護者会
2　オープンキャンパス（下記参考）
3　大学通信
4　成績表の配布
5　公開講座・講演会
6　その他（具体的に　　）

オープンキャンパスとは、入学希望者や保護者あるいは近隣の人々に大学施設等を公開し、大学への関心と理解を深めていただくイベントです。

●お子様の進路決定についてお伺いします。

問１　あなたはお子様の受験にどの程度関わりましたか。

1	非常に(積極的に)関わった	2	ある程度関わった	3	ほとんど関わらなかった	4	まったく関わらなかった	5	どちらともいえない

問２　あなたが、お子様と進路先の情報を収集する際に最も参考にしたものをお知らせください。（〇は１つ）

1　高等学校
2　友人・知人
3　学校説明会
4　インターネット情報
5　学習塾・予備校・家庭教師
6　進学情報誌
7　その他（具体的に　　）

問３　あなたは静岡大学にどのようなイメージをお持ちですか。次の中からあてはまるものを３つまで選んでください。

1　教育スタッフが充実している
2　教育カリキュラムが充実している
3　専門分野が学べる
4　専門分野の第一人者がいる
5　キャンパスの雰囲気が良い
6　学校施設・設備が充実している
7　就職に有利である
8　スポーツ・文化活動が活発である
9　歴史や伝統がある
10　地元あるいは近い大学であり親しみがある
11　大学の個性・特徴が見えない
12　新しいことに積極的に取組んでいる
13　国際交流活動が盛んである
14　地域や企業との交流に積極的である
15　その他（　　）

問４　あなたから見て、お子様が「静岡大学」に入学したことは、あなたの希望どおりでしたか。

1　希望どおりであった
2　ほぼ希望どおりであった
3　やや不本意であった
4　かなり不本意であった
5　どちらともいえない

●お子様の学生生活についてお伺いします。

問５　お子様の学生生活について、あなたの総合満足度をお知らせください。（○は１つ）

1	非常に満足	2	ある程度満足	3	あまり満足していない	4	非常に不満	5	どちらともいえない

問６　お子様の静岡大学の学生生活について、あなたの満足度をそれぞれお知らせください。
（それぞれの項目について、あてはまる満足度１つに○を付けてください）

	満足度				
	非常に満足	ある程度満足	あまり満足していない	非常に不満	どちらともいえない
1　教育について	1	2	3	4	5
2　学習支援について	1	2	3	4	5
3　生活支援について	1	2	3	4	5
4　進路支援について	1	2	3	4	5
5　教職員との相談体制について	1	2	3	4	5

問７　お子様が仕事や日常生活を過ごす中で必要であると思われる能力についてお知らせください。
（それぞれの項目について、あてはまる必要度１つに○を付けてください）

	必要と思われる能力				
	必要	ある程度必要	あまり必要ではない	まったく必要ではない	どちらともいえない
1　専門分野に関する知識・技術	1	2	3	4	5
2　幅広い教養と基礎学力	1	2	3	4	5
3　市民としての見識	1	2	3	4	5
4　英語の能力	1	2	3	4	5
5　問題発見／分析／解決能力	1	2	3	4	5
6　文章読解・表現能力	1	2	3	4	5
7　プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
8　コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
9　コンピュータ活用能力	1	2	3	4	5
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	1	2	3	4	5
11　リーダーシップ	1	2	3	4	5
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	1	2	3	4	5

●最後に、今後の静岡大学のあり方についてお伺いします。

問８　今後、静岡大学が重点的に取り組むべき方向性はどのようなものだと思いますか。
以下の６つの項目の中から２つまで選んでください。

１	世界的研究・教育拠点
２	高度専門職業人養成
３	幅広い職業人養成
４	総合的教養教育
５	地域の生涯学習の拠点
６	社会貢献機能（地域貢献、産学官連携等）

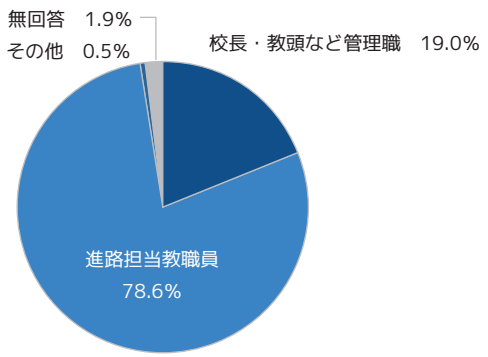
問９　静岡大学に関するご意見・ご要望がございましたら、何でも結構ですのでお書きください。

ーご協力ありがとうございましたー

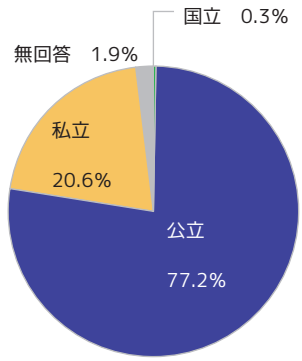
回答者の属性

アンケート送付対象：過去 3 年間の志願者数が 6 人以上の高等学校等（県内校は 10 人以上）
送付数：618 件（静岡県内：85 件　静岡県外：533 件）　　回答数：373 件
回収率：60.4%（静岡県内：74.1%　静岡県外：58.8%）

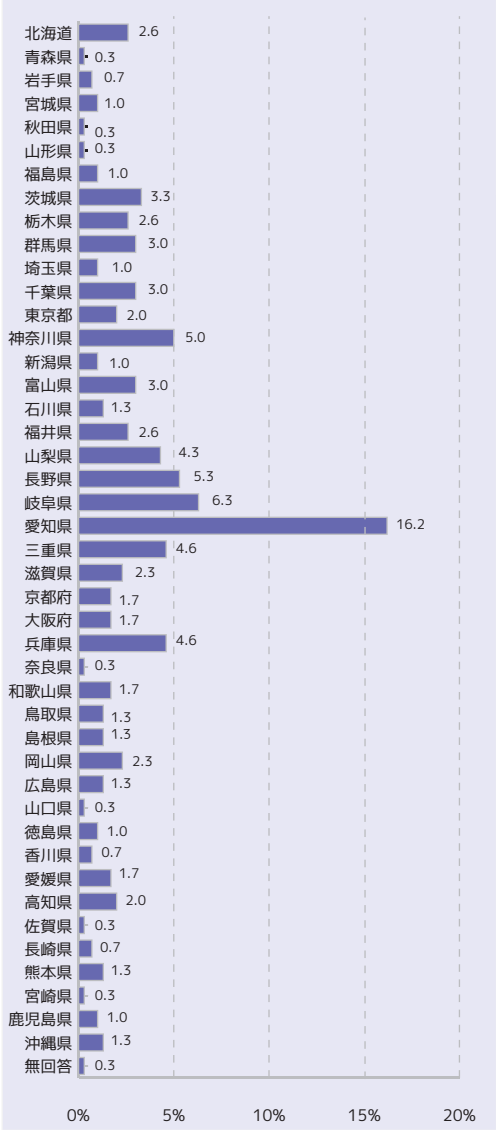
回答者の役職

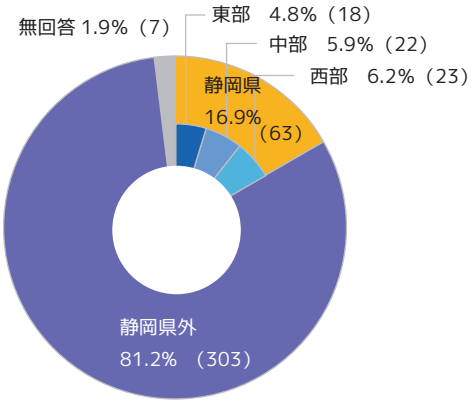


種別

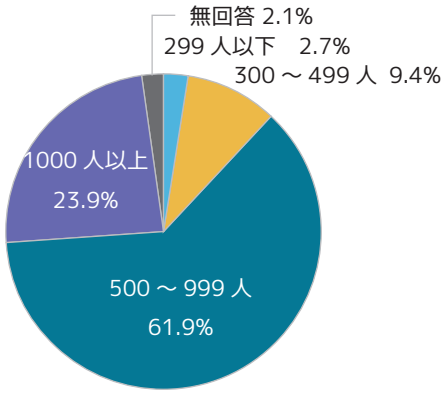


回答高等学校の所在地





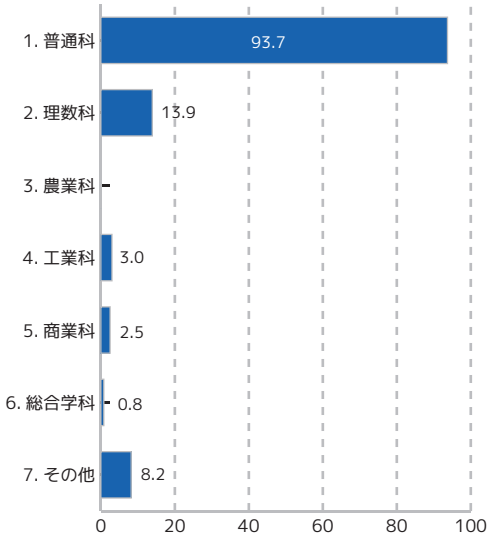
回答高等学校の全校生徒数



※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

回答高等学校に設置の学科の中で、静岡大学への進学を希望する主な学科（複数回答可）

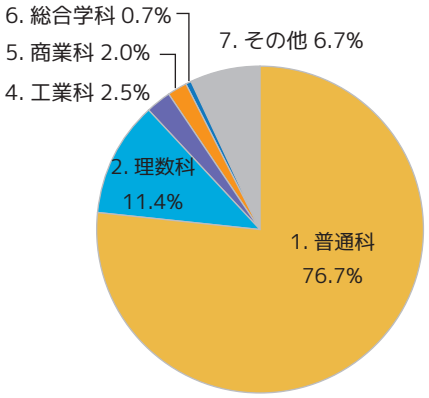
回答者 366 人 =100



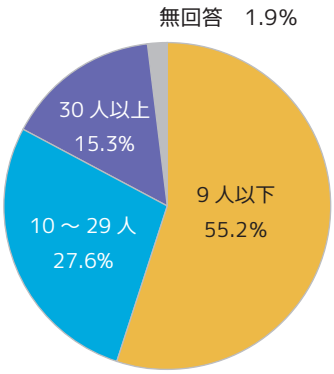
その他の学科

- 英語科
- 英数科
- 音楽科
- 音楽科・美術科
- 教養科学科
- 国際科
- 国際教養科
- 国際英語科
- 情報科
- 文科情報科
- 人文科
- 人文社会科学科
- 文理科
- 文理科学科
- 理数科
- 理数科学科
- 自然科学科

構成比（%）



過去３年間の静岡大学志願者の合計（浪人生含む）



※単位未満四捨五入のため、合計と必ずしも一致しない。

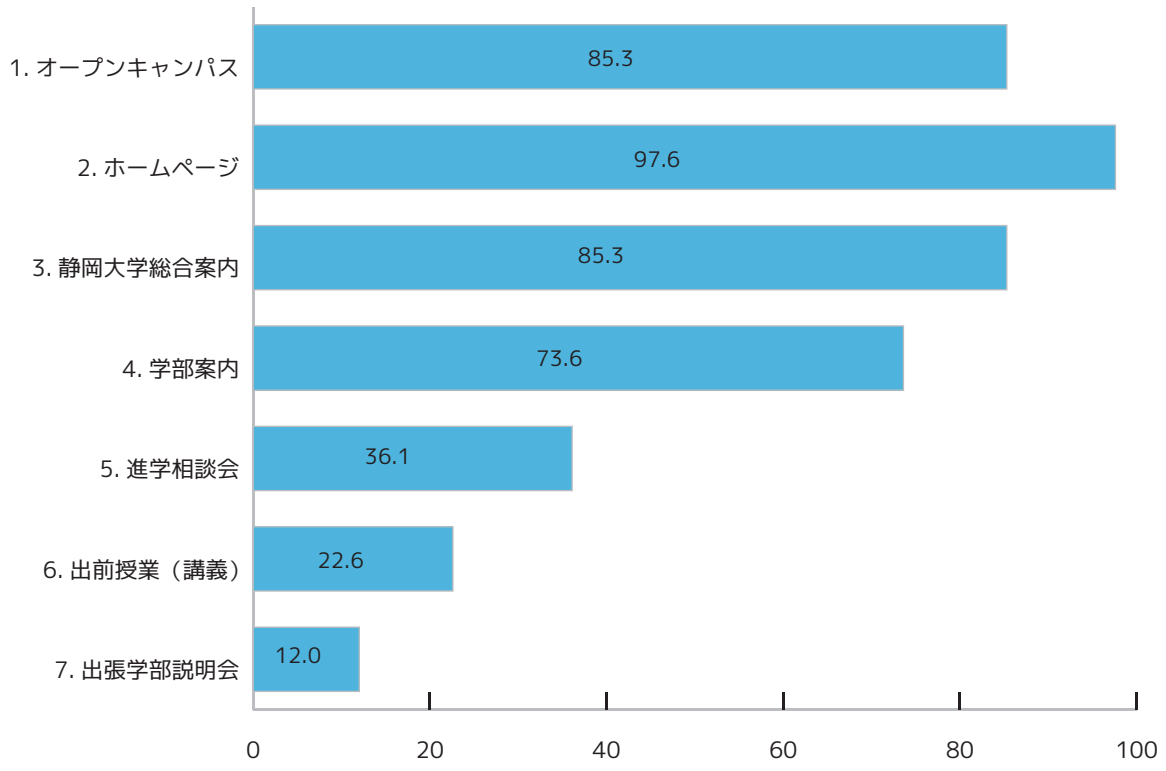
静岡大学の情報発信のメディアの認知度（複数回答可）

認知度の上位３つは、「ホームページ」（97.6%）、オープンキャンパス（85.3%）、「静岡大学総合案内」（85.3%）。

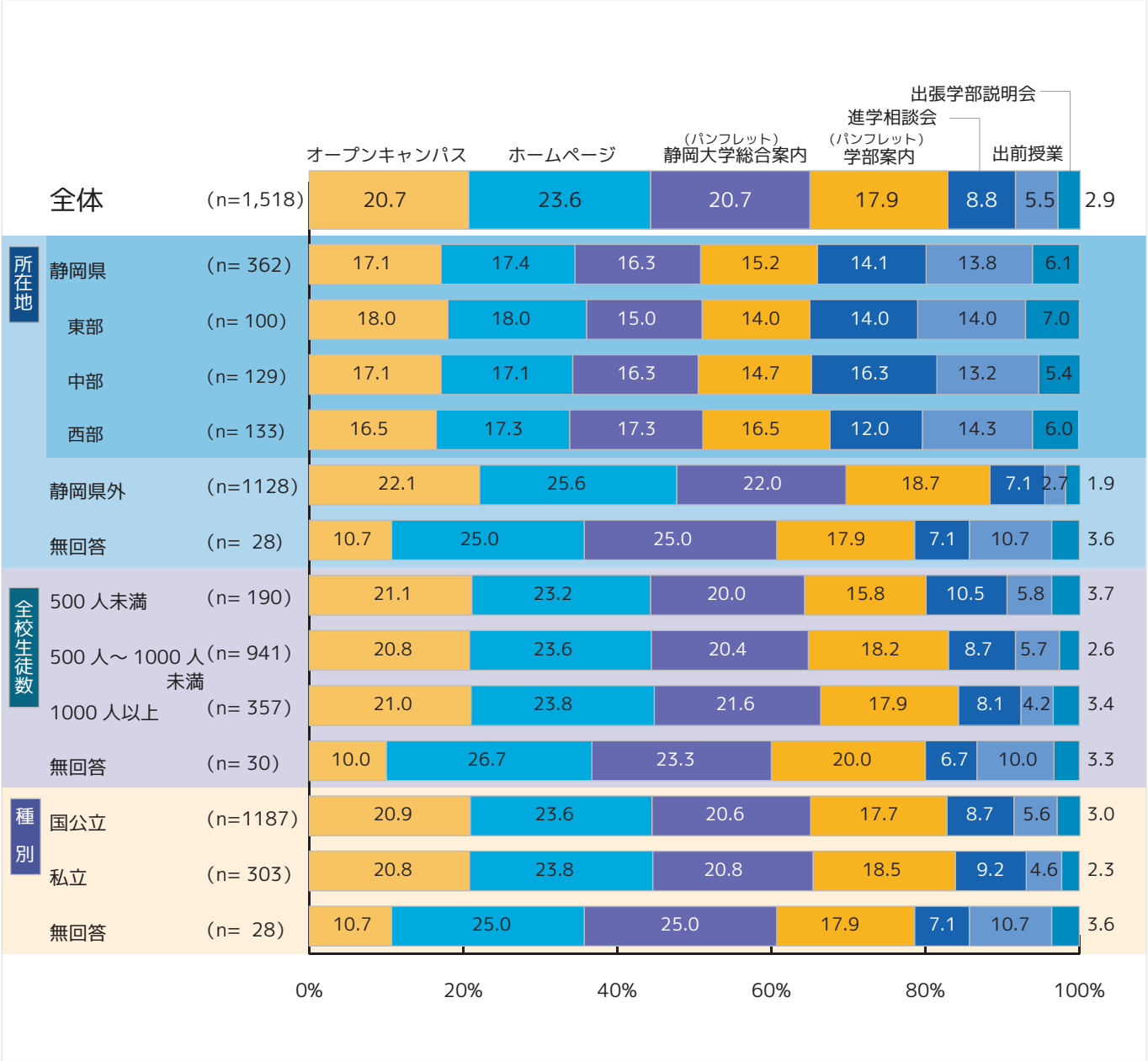
解 説

- 所在地別において、「静岡県外」での「オープンキャンパス」の回答割合が高い（22.1%）ことが特筆される。
- 静岡県内においても「出張学部説明会」は 6.1%、「出前授業」は 13.8%にとどまる。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 368 人 =100



静岡大学の情報発信のメディアの認知度（複数回答可）



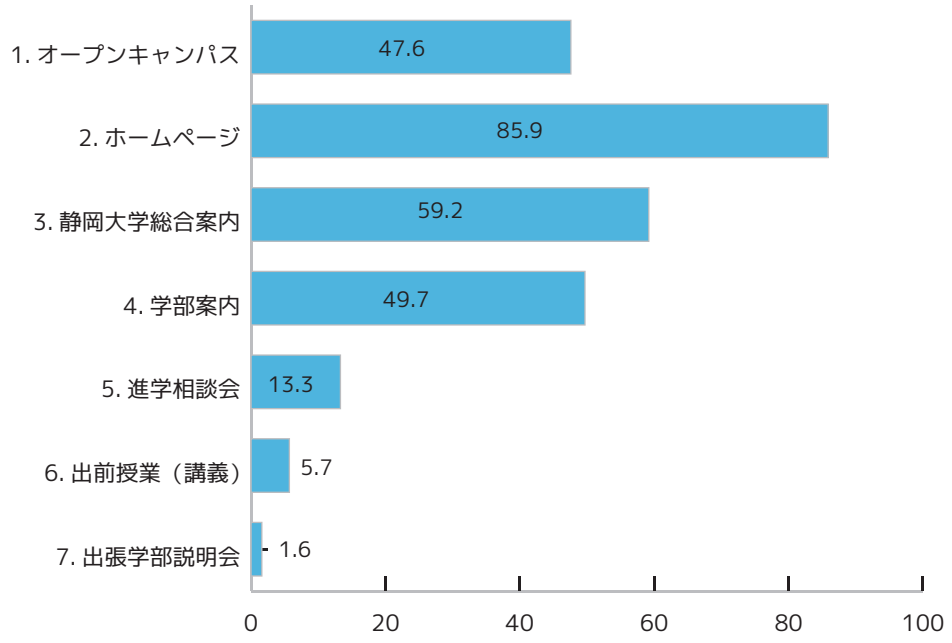
静岡大学の情報発信のメディアで最も役に立っているもの（複数回答可）

役立ち度の上位 3 つは、「ホームページ」（85.9%）、静岡大学総合案内（59.2%）、「学部案内」（49.7%）。

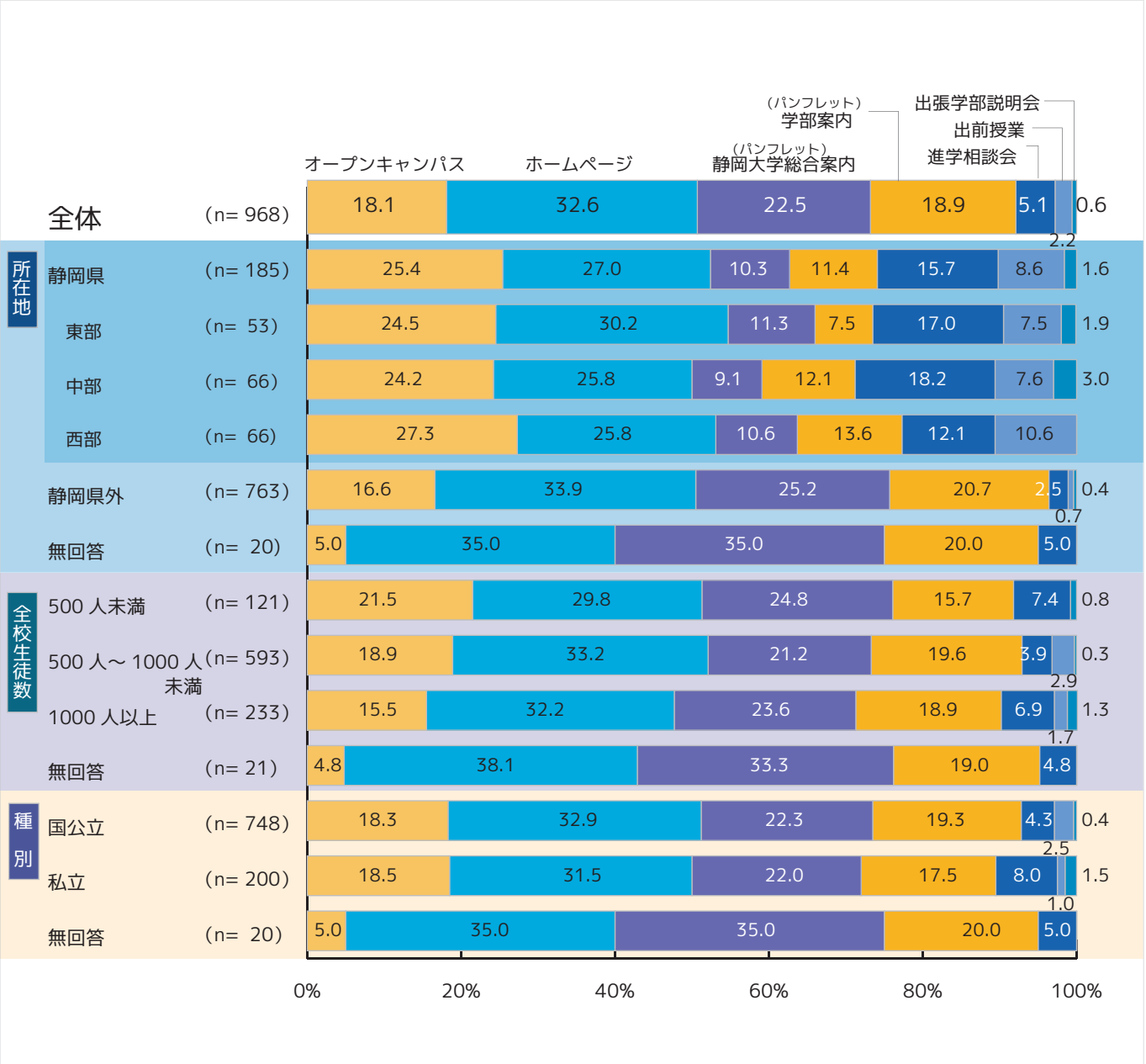
解 説

- 認知度との対比では、「オープンキャンパス」が認知度の高さ（85.3%）に比べ、役立っているとの回答割合が低い（47.6%）。
- 所在地別において静岡県内と県外を対比すると、県外において「オープンキャンパス」「進学相談会」「出前授業」の回答割合が低い。
- 全校生徒数別における「オープンキャンパス」の回答割合は、生徒数が多くなるにつれ低下している。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 368 人 =100



静岡大学の情報発信のメディアで最も役に立っているもの（複数回答可）



その他静岡大学から発信してほしい情報（手段・内容）

入試情報について

- 過去問（推薦入試も含めて）(静岡県中部・国公立)
- 関心を持ち登録した志願者に対し、直接、入試に関するニュースレター(メルマガ)を送ってほしい。(静岡県外・私立)
- 推薦入試に関する情報 (静岡県外・国公立)
- H27 年度入試に関する情報や入試に関する変更など (静岡県外・国公立)
- 専門高校生の入学後の進路・実態。専門高校生が入学合格するためには何をしたらよいか。(静岡県西部・国公立)

説明会 ・ 出前授業 ・ オープンキャンパス等

- 県外の高校ですが出前授業（講義）をしていただけると大変ありがたいです。(静岡県外・国公立)
- 出前授業の内容、高大での連携 (静岡県外・国公立)

就職情報について

- 就職内定状況 (静岡県中部・私立)
- 就職先具体的企業名 (静岡県外・国公立)
- 地震や原発事故等に対する安全対策・就職状況（出身県別）(静岡県外・国公立)
- 地元企業への就職状況 (静岡県東部・国公立)
- 出口（就職・進学）指導の特色、コミュニケーション力（プレゼンテーション・ディスカッションなど）を育成する取り組み（企業等から求められる力と考えられるので）理系学科の特色（SSH 事業に取り組んでいるため）(静岡県外・国公立)

教育研究活動について

- 地域の産学連携の実践報告等 (静岡県中部・私立)
- 研究室の詳しい紹介 (静岡県外・国公立)
- 学生や教授陣が活躍している、地域に貢献しているという情報を新聞やテレビニュースなどのメディアに掲載してほしい (静岡県中部・国公立)
- 教員の研究実績（高校生がわかりやすい形で）(静岡県外・私立)
- 各学科の卒業論文テーマなど、わかりやすくＨＰに載せて頂くと受験希望者の参考になります。(静岡県外・国公立)
- 研究室の情報、静岡大学が取り組んでいる研究の成果や、高校生の進学意欲を高めるような講義内容。研究者の紹介。(静岡県東部・国公立)
- 各学部学科の教育内容を身につけると、どのような分野で活躍できるかということが、分かりやすく伝わると良いと思います。(静岡県西部・私立)

ホームページ ・ パンフレット等について

- 学部の研究内容が分かる（高校生にとって）ページを充実させてほしい (静岡県外・国公立)
- 各学部、学科のパンフレットの内容を充実してほしい。他県の国立大学と比べ、「学び」「研究」についての記載の工夫が必要である。(静岡県東部·国公立)
- 講義やゼミの内容についてホームページで紹介して欲しい。(静岡県中部・国公立)
- なかなか見学に行けないのでホームページを更に充実させて下さい。(静岡県外・国公立)

静岡大学の特徴について

- 大学の特色や就活状況など (静岡県中部・私立)
- 貴大学の強み(他大学と比べて特に強調できる点)(静岡県外・私立)
- 他大学にない特徴 (静岡県外・国公立)

学生生活について

- 学生の校外活動の様子 (静岡県西部・私立)

その他

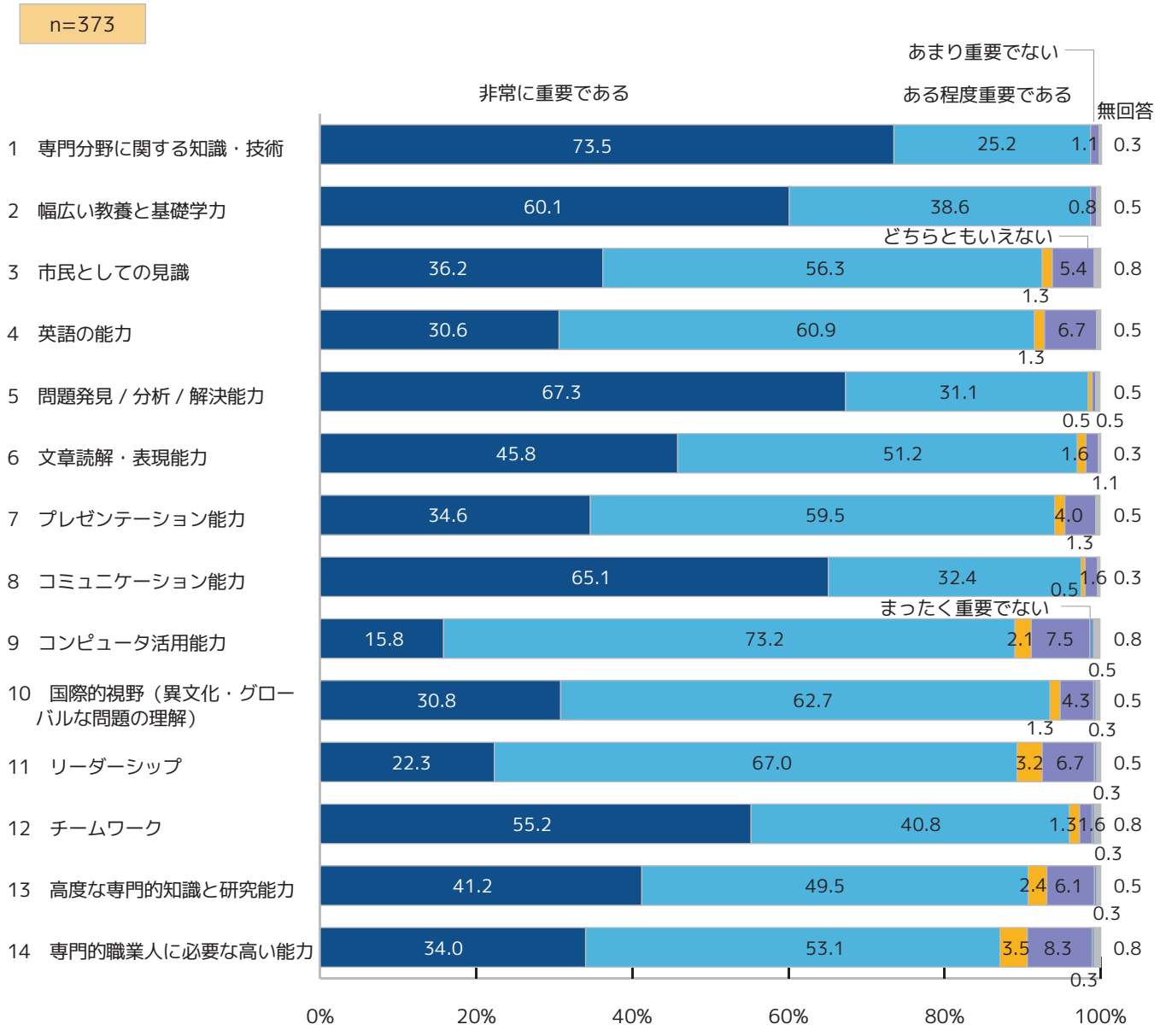
- 今のところ必要十分ではないでしょうか。(静岡県外・私立)
- 東海地震に対する対策 (静岡県外・私立)
- 学生の満足度調査 (静岡県西部・国公立)

生徒が社会生活を送る上で大学で身につけてほしい能力

「非常に重要である」の回答割合は、「専門分野に関する知識・技術」(73.5%)、「問題発見 / 分析 / 解決能力」(67.3%)、「コミュニケーション能力」(65.1%)の順に高い。

解 説

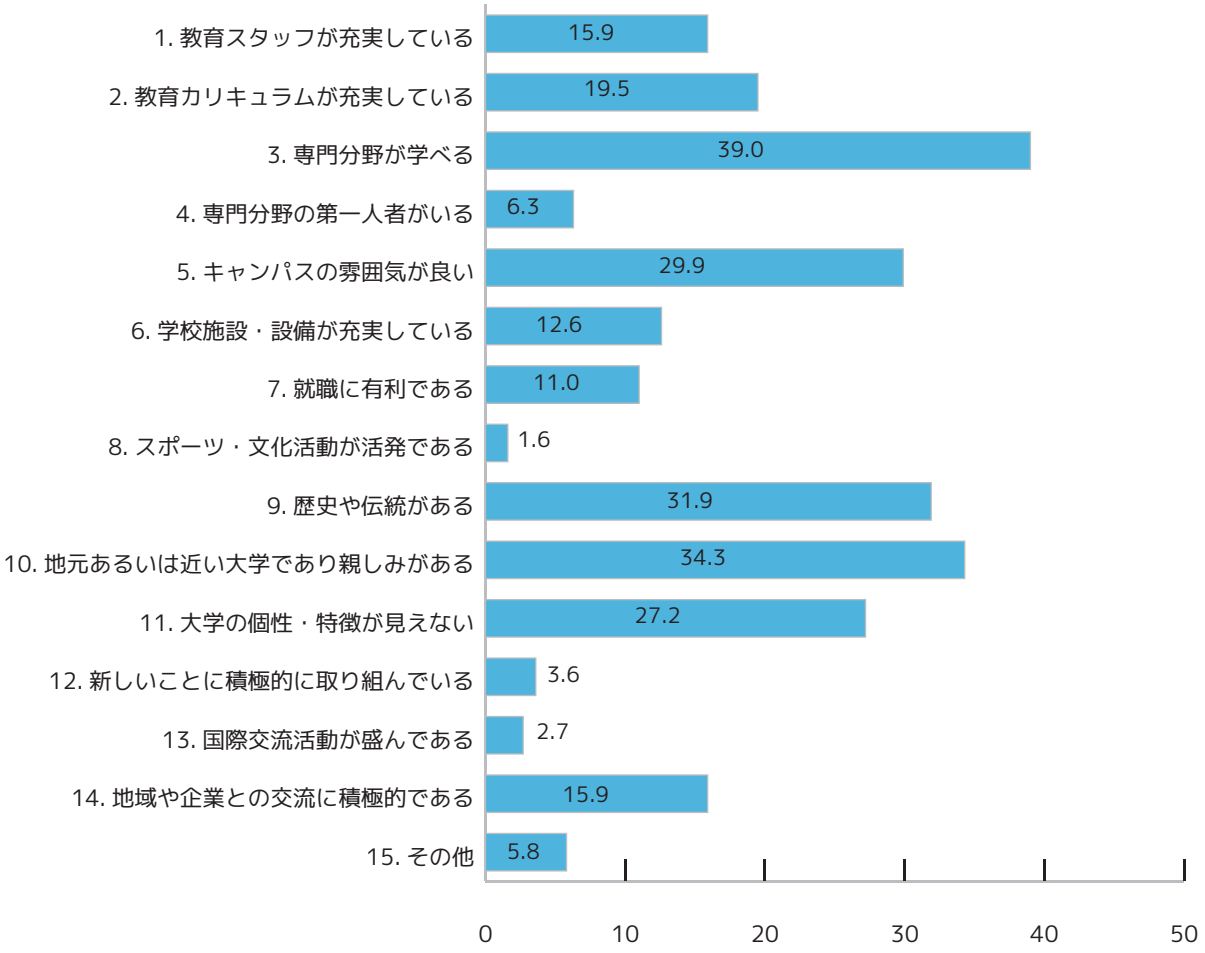
- 「非常に重要である」の回答割合が低い項目は、「コンピュータ活用能力」(15.8%)、「リーダーシップ」(22.3%)、「英語の能力」(30.6%) が挙げられる。
- 学部卒業生就職先アンケート内の「業務を遂行していく中で重要と思われる能力」の結果と比べると、全体的に「非常に重要である」の回答割合が高い傾向にある。(「コミュニケーション能力」、「リーダーシップ」、「チームワーク」を除く)



静岡大学のイメージ（複数回答可）

上位 3 つは「専門分野が学べる」(39.0%)、「地元あるいは近い大学であり親しみがある」(34.3%)、「歴史や伝統がある」(31.9%) の順。

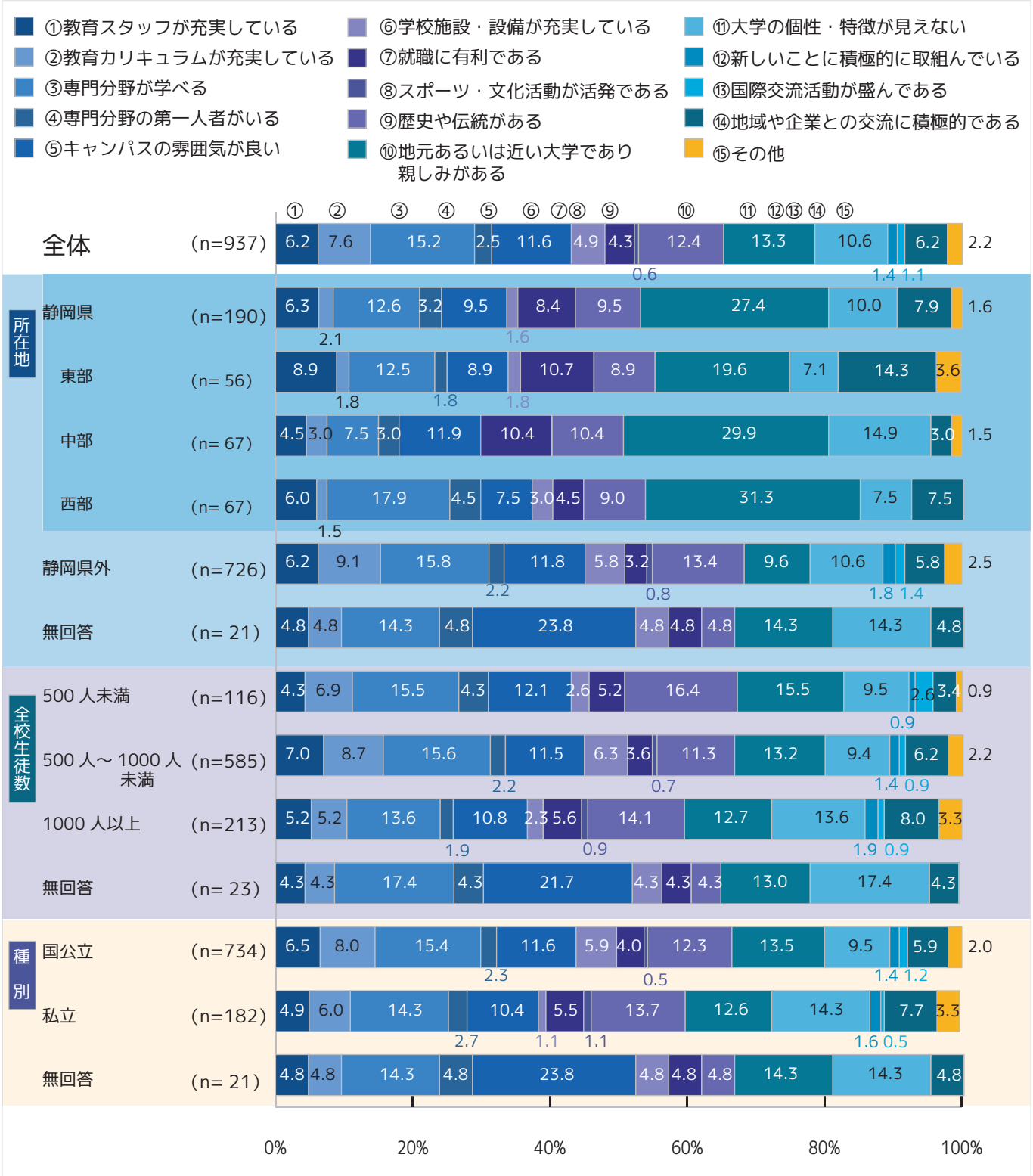
【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 364 人 =100



その他

- 地震 (静岡県外・私立)
- 何も知らない (静岡県外・私立)
- 医学科がない (静岡県外・国公立)
- のどかな雰囲気 (静岡県外・国公立)
- たまに進学する学生がいる程度 (静岡県外・私立)
- 静岡キャンパスと浜松キャンパスとで別の大学というイメージ。浜松の方は大学としては狭い。(静岡県中部・国公立)
- １回生でコース分けをせず 2 回生でコース分けをする→工学部 (静岡県外・国公立)
- 東京からするとやはり「地方の国立大学」ということであまり詳しく認識していない。(静岡県外・私立)
- 中部と関東の中間にあり、地域的に良いポジションにある。(静岡県外・国公立)
- 理科に力を入れている (静岡県外・国公立)
- 本県から離れている事もあり、残念ながら具体的なイメージがありません (静岡県外・私立)
- 浜松ホトニクスなど特色ある企業研修所研究者を輩出している (静岡県外・国公立)
- 堅実な人材を育成する大学である (静岡県東部・国公立)
- 教育学部は充実している (静岡県東部・国公立)
- 法律を学べる国立大学の 1 つ (静岡県外・国公立)

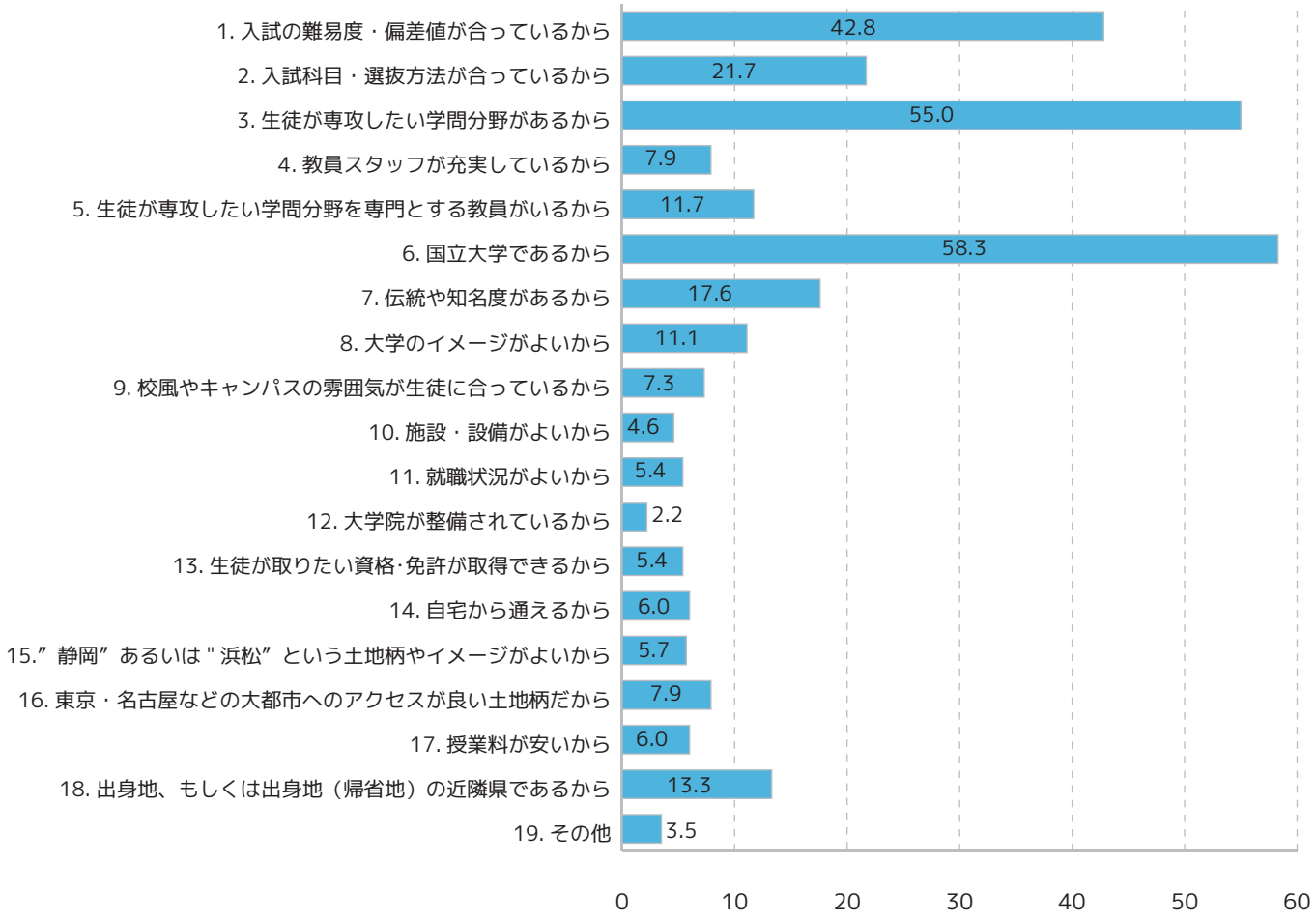
静岡大学のイメージ（複数回答可）



生徒に静岡大学へ進学をすすめる理由（複数回答可）

上位 3 つは、「国立大学である」(58.3%)、「生徒が専攻したい学問分野がある」(55.0%)、「入試の難易度・偏差値が合っている」(42.8%) の順。

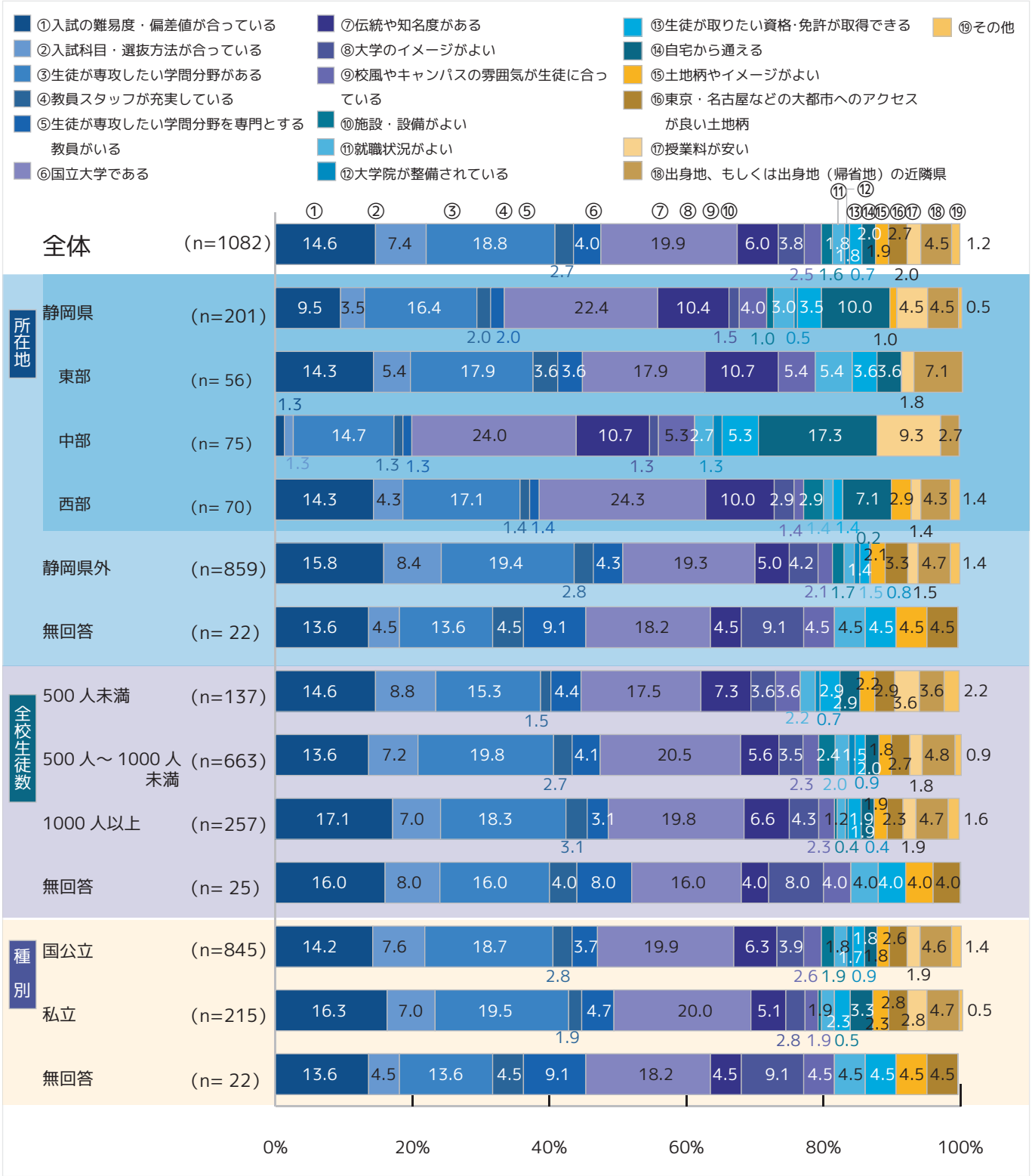
【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 369 人 =100



その他

- 生徒が望むから (静岡県外・国公立)
- 過去に教職課程に進んだ者がいたように思う (静岡県外・私立)
- 教育方法（経済）(静岡県外・国公立)
- 距離的なこともあり、本校から貴学への進学をすすめることはあまりありません。生徒が自ら希望するようです。(静岡県外・国公立)
- 地元大学であることの優位性 (静岡県西部・国公立)
- 生徒に大学を勧めるのでなく、生徒に選択させる指導をしています。(静岡県外・国公立)
- 教育・研究の取組みが充実しているから (静岡県外・国公立)
- 進路希望者がほとんどいないため、詳しくは知りません (静岡県外・国公立)
- 東海道･山陽(新幹線の)ライン上にあるから。(静岡県外･国公立)
- 浜松ホトニクスなど地元企業との連携 (静岡県外・国公立)
- 学習環境の充実（教員、施設、キャンパス等全て含む）(静岡県外・国公立)

生徒に静岡大学へ進学をすすめる理由（複数回答可）



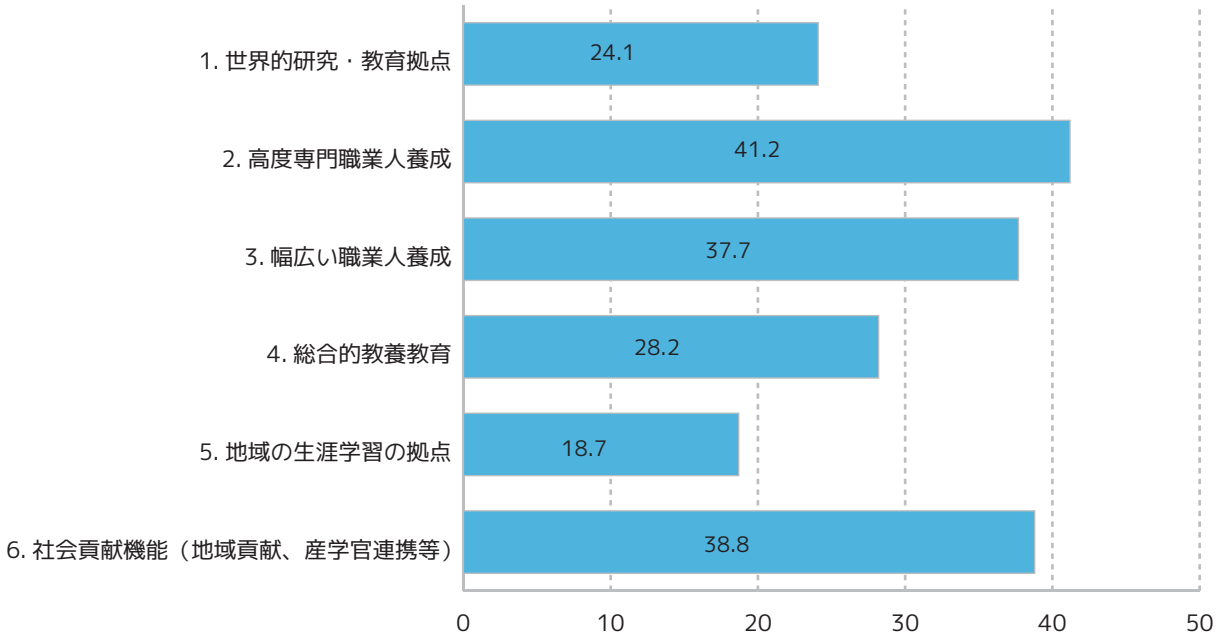
静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）

上位３つは、「高度専門職業人養成」（41.2%）、「社会貢献機能」（38.8%）、「幅広い職業人養成」（37.7%）の順。

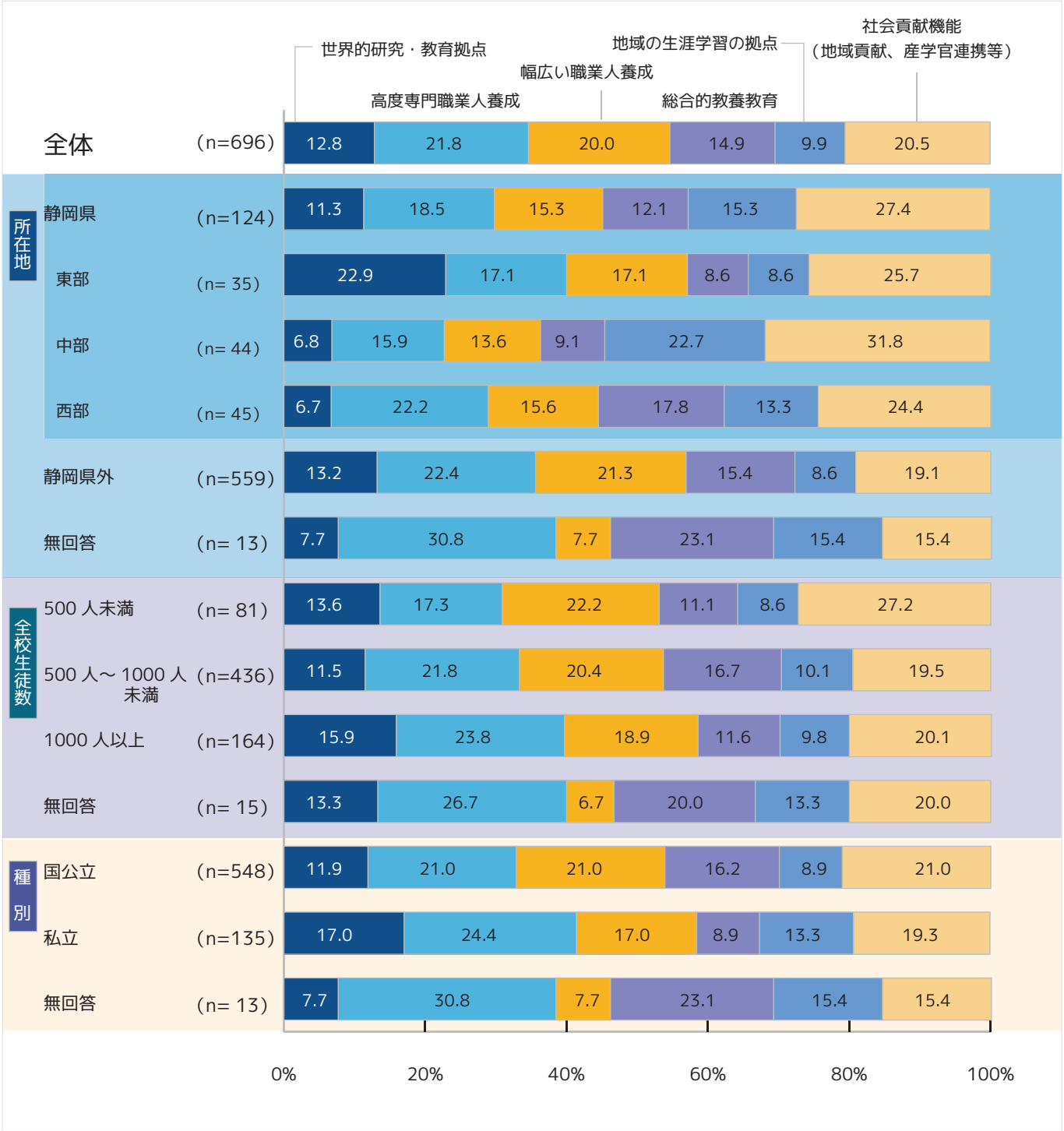
解 説

- 保護者アンケート結果と上位３つは同じ項目（順位は相違有り）。

【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 369 人 =100



静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性（複数回答可）

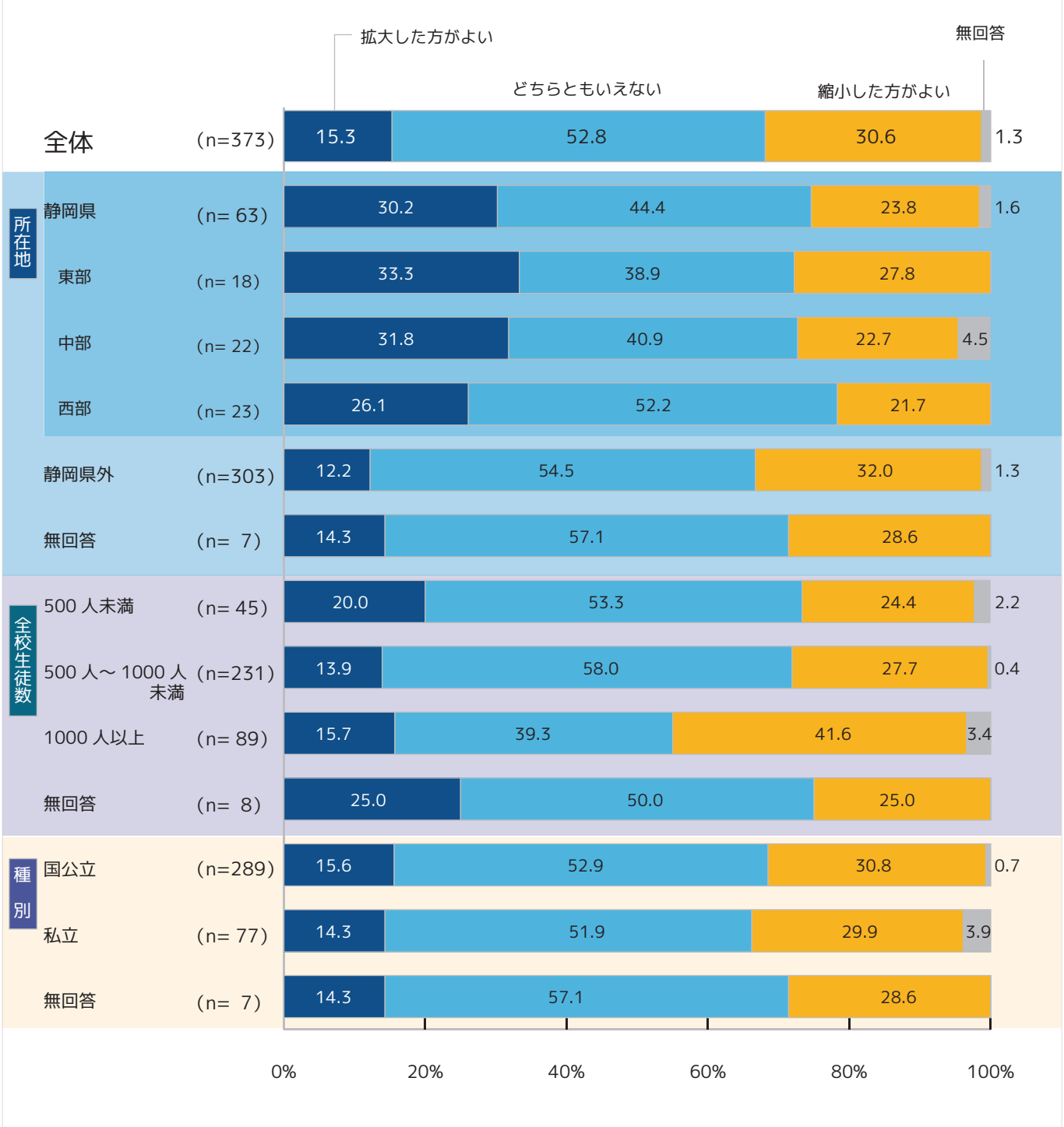


静岡大学の推薦入学及びＡＯ入試の拡大について

全体でみると、「どちらともいえない」（52.8%）の回答割合が最も高い。
「縮小した方がよい」は「拡大した方がよい」の約 2 倍高い。

解 説

「拡大した方がよい」が「縮小した方がよい」を上回っている区分は、静岡県全体及び東部、中部、西部のみであった。



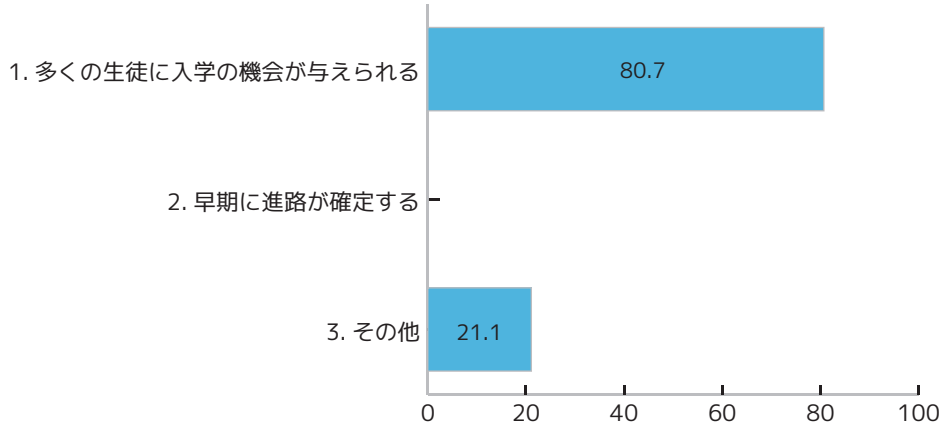
静岡大学の推薦入学及びＡＯ入試を拡大をした方がよい理由（複数回答可）

「多くの生徒に入学の機会が与えられる」が 80.7% と高い。
「早期に進路が確定する」との回答は０であった。

解 説

種別でみると、「多くの生徒に入学の機会が与えられる」の回答割合が「国公立」の方が「私立」より 15% ほど高い。

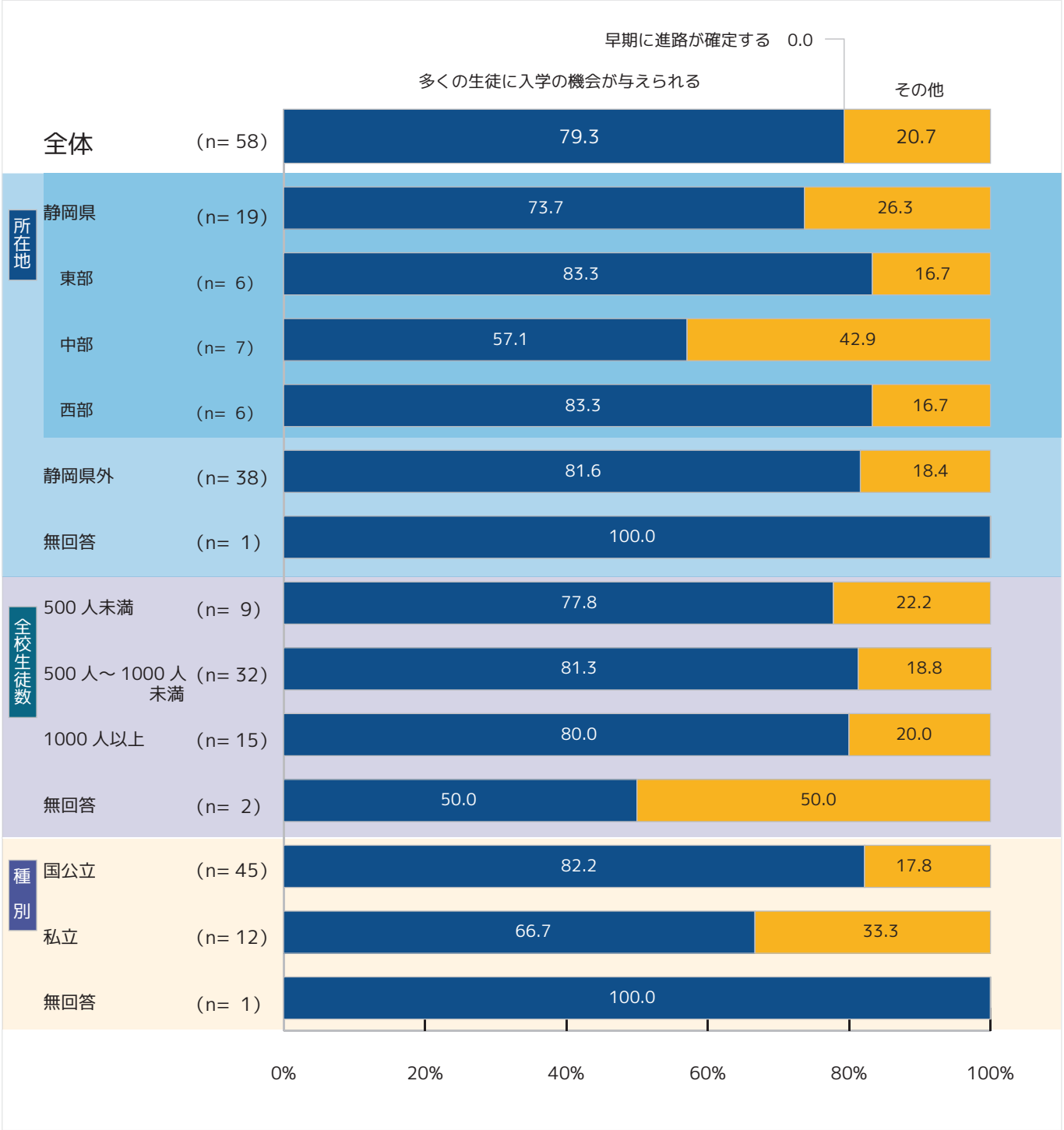
【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 57 人 =100



その他

- 平均的学力を持つ者だけでなく、優れた能力を持つ者が増えれば学内が活気づく (静岡県中部・私立)
- 高校時代の幅広く、奥深い活動を評価することにより、人間性豊かな生徒を育てるとともに、高校教育に与えるよい影響を期待するため。(静岡県中部・国公立)
- 学力だけでは測ることのできない個人の能力を評価して欲しい。(静岡県外・私立)
- 知名度があがり宣伝効果がある (静岡県外・国公立)
- 静岡大学ならではの領域があれば進学を勧めたい (静岡県外・私立)
- 高大連携を考える上で意識・専門的関心の高い生徒を進学させることができる (静岡県外・国公立)
- 専門科(工業､商業など)の生徒に対しては良い (静岡県外･国公立)
- 強い入学の意志を持っている生徒にチャンスを与えられる (静岡県西部・国公立)
- 専門的な内容を学びたい生徒に機会を与えられるから (静岡県外・国公立)
- 定時制・通信制生徒の入学機会の拡大 (静岡県中部・国公立)
- センター利用なら学力・意欲共高い生徒を受けさせられる (静岡県外・私立)
- 県内の生徒により門戸を開く (静岡県東部・国公立)

静岡大学の推薦入学及びＡＯ入試を拡大をした方がよい理由（複数回答可）



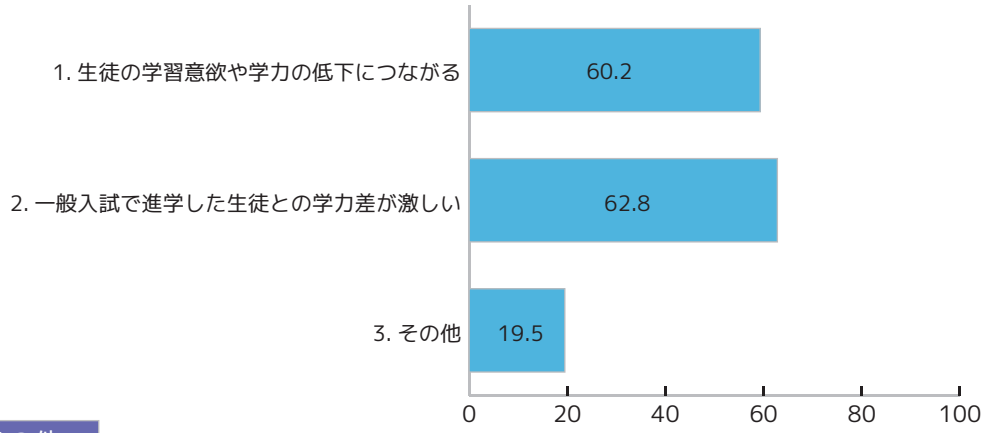
静岡大学の推薦入学及びＡＯ入試を縮小をした方がよい理由（複数回答可）

「生徒の学習意欲や学力の低下につながる」と「一般入試で進学した生徒との学力差が激しい」が、ほぼ同じ割合。

解 説

全校生徒数別でみると、学校規模が大きくなるにつれ「一般入試で進学した生徒との学力差が激しい」の回答割合が上昇する。

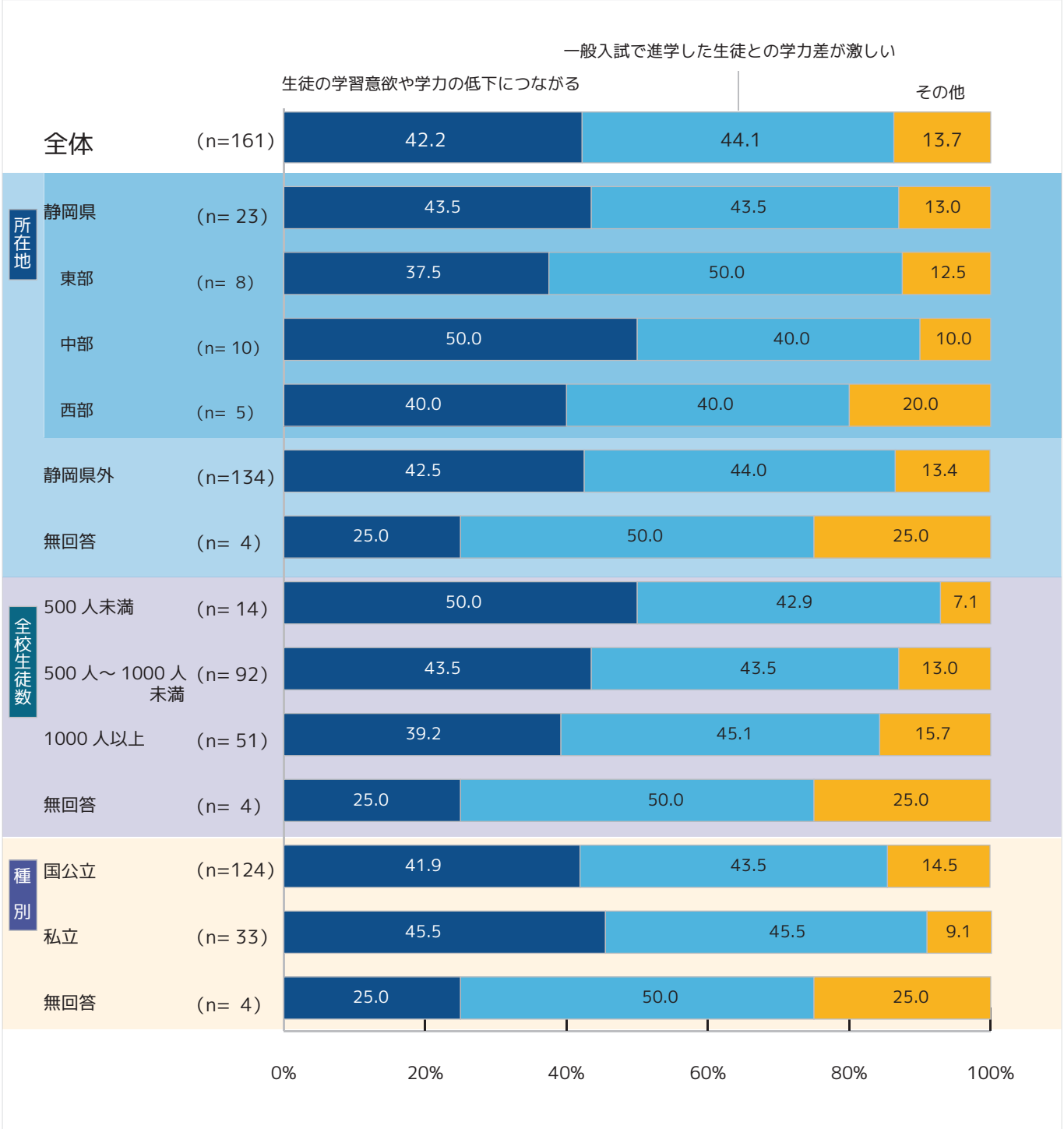
【複数回答】各項目に○をつけた割合　回答者 113 人 =100



その他

- 高校の進路指導が交通整理化する (静岡県中部・私立)
- 合不合が明確に出る入試形式に挑む経験が、今後グローバル化が進む世界において何より大切と考えるから。(静岡県外・私立)
- AO 入試に対する高校教員、生徒、大学教員の意識のあり方に格差があり過ぎます。私はまったく評価しておりません。(静岡県外・国公立)
- 大学の基礎教育についていけない学生を増やすことになるから (静岡県東部・国公立)
- 地域指導枠が多そうなイメージがあり、他県からは受けにくいイメージがある。(静岡県外・国公立)
- ＡＯ入試は受験対策がしにくいので (静岡県外・国公立)
- 工業高校向けなどの政策的な推薦は歓迎するが、AO など安易な入試は望まない。(静岡県外・国公立)
- 一般入試の充実が望ましい (静岡県外・国公立)
- 受験により生きる力が育まれる (静岡県外・国公立)
- 一般入試との掛け持ちになり、小論文等の負担が大きい。(静岡県外・国公立)
- きちんと最後まで受験勉強した者の枠を増やした方がよい。(静岡県外・国公立)
- 最後まで学習を継続できる精神の強さを大切にしたい (静岡県外・国公立)
- 受験という試練を経験した方が生徒は伸びる (静岡県外･国公立)
- 静大のレベルで拡大すると、自主性のない生徒がたくさん受験する大学になってしまうと思います。(静岡県西部・国公立)
- 一生懸命受験勉強に取り組んだ生徒が報われる入試であって欲しい。推薦・AO 合格者にそうした生徒がどれだけいるのか、はなはだ疑問である。(静岡県外・私立)
- 推薦やＡＯで能力を発揮できる人材もいるので不要とは思いません。ただ、この方式にあう受験生はもっと少数だと思います。また、ＳＳＨ枠は不要だと思います（平等性を欠くと思います)。(静岡県外・国公立)
- 推薦入試の準備をして不合格となった生徒は、一般入試の準備が遅れる。又、合格した生徒の学習モチベーションの低下も懸念される。(静岡県外・国公立)
- 早期に進路が決まり、他生徒に悪影響がある (無回答)
- 定時制、通信制生徒の入学機会の拡大 (静岡県中部・国公立)
- 推薦という安易な印象に流れる生徒を作りたくない。正々堂々と実力で勝負させたい。(静岡県外・国公立)
- 大学が期待するような人材はめったに居ない。(静岡県外･国公立)

静岡大学の推薦入学及びＡＯ入試を縮小をした方がよい理由（複数回答可）



静岡大学に関するご意見・ご要望

推薦入試 ・ＡＯ入試について

- 「推薦入学及びＡＯ入試の拡大」については、AO は廃止し､推薦を拡大していただきたいと考えます。(静岡県中部・国公立)
- AO 入試の拡大はお願いしたいところですが、一般入試で進学した生徒との学力差があることは確かですので、AO 入試に低いハードルでかいまいませんが、センター入試を課すなどの方法をとって頂けたらと思います。(静岡県外・国公立)
- 地元枠の推薦入試を期待しています。(静岡県西部・国公立)
- 推薦・AO 入試について、意欲や能力が高い生徒を推薦や AO で合格させていただくことは良いことだと思います。一方で合格が早く決まることには不安もあります。本校では、できるだけ３年生の最後までしっかり勉強させたいと考えています。(静岡県外・国公立)

一般入試について

- ２次試験の配点比率を上げるべき。５教科全てをセンター必要科目として要求すべき。入試の負担を軽くすることが大学のイメージアップ志願者増につながるとは思えない。名古屋で入試会場を設定して欲しい（できれば後期で）(静岡県外・国公立)
- センター試験では、５教科７（6）科目を全ての学部・学科で課してほしい。同試験で、理科総合でも OK というのはありがたくないです（出来ない生徒の逃げ道になっています）(静岡県外・国公立)
- 本校では工業地帯に近い理系の学問分野に強い大学として生徒に勧めています。前期旧帝大、後期静岡大のパターンで受験する生徒が多く、推薦の定員を増やすよりも、後期日程の定員を増やしていただいた方が、本校からの受験生は増えると思います。(静岡県外・国公立)
- 入試で２次（個別）試験で大逆転できるように２次科目をしぼり、配点を高くして点数に差が出るような問題を出題してはどうか。センター試験では失敗（又は全ての科目で点がとれるわけではない）した生徒の中にも特定の科目については素晴らしいものを持った者もいる。全国的にそういった生徒がたくさんいるので、そういう人が集まるような入試を考えたらどうか。(静岡県東部・国公立)

大学運営等

- 大学としての本業に支障のない限り、地域に開かれた大学であって欲しい。見学等は気軽にいつでもできるようにして頂きたい。(静岡県西部・私立)
- 本校卒業生がお世話になっております。地元のニーズに即した研究・開発で、就職にも活かしていただけるとうれしく思います。(静岡県外・国公立)
- 地域貢献という視点でその役割を果たすべく、教育に取り組んでいただけたらと思っております。(静岡県外・国公立)
- 静岡大学については、地域の拠点大学として地域に開かれた大学であると同時に、高い専門性、優れた研究の場としての静岡大学の発展を心から期待しています。優れた研究をアピールしていただき、高い志をもった高校生にその魅力を伝えていくことを、お願いします。(静岡県東部・国公立)
- 地方の国立大学という位置を甘受することなく TV 開発当時のパイオニア精神を強く打ち出し、Honda やスズキ、ホトニクスなどとの連携を更に強化し、産業をリードする大学を目指して欲しい。又、文系学部でも教育界、財界、産業界を担う人材の輩出を今以上に期待しております。(静岡県西部・私立)

その他

- 私個人の考えとしては「専門大学」化はしてほしくないと思う。(静岡県外・国公立)
- 本校は貴学から非常に遠い所にありますが、それでも貴学を志望する生徒がいます。その生徒たちは割合、意志のしっかりした傾向が強いようです。遠くてもあえて選んでいるからだと思います。本校といたしても、そのような生徒たちを大切にしたいと考えています。(静岡県外・国公立)

＜高等学校長等用＞

平成２４年６月

「静岡大学に関するアンケート調査」

静岡大学　副学長（企画・評価担当）浅利 一郎

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、静岡大学では、より魅力ある大学づくりを目指すため、本学に対して志望実績のある高校の進路担当者様にアンケート調査を行うことと致しました。

この調査は、本学が発信している進学情報への要望、本学の教育に期待すること、本学へのイメージなどについて皆様のご意見を聴取し、今後の大学運営のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

つきましては、ご多忙のところ恐れ入りますが、アンケートにご協力いただきたくお願い申し上げます。なお、回答はすべてコンピュータによる統計的な集計を行い、個々の情報として取り扱うことは決してございません。お手数ですが６月３０日（土）までに同封の返信用封筒にてご投函願います。

敬具

なお、この調査に関するご質問やお問い合わせ等は下記までお願いします。

担　当　企画部企画課評価係
連絡先　静岡市駿河区大谷８３６
０５４－２３８－４５７６

※アンケートご記入にあたってのご注意

・〇の数は設問の指示に従い、選択肢番号をしっかり〇で囲んでください。

＜例＞　回答者であるあなたの役職をお知らせください。

〇 1　校長・教頭など管理職	2　進路担当教職員	3　その他（　　）	

・補問が設定されている設問もあります。その設問は**選択番号に〇をつけた後に矢印に従って**お答えください。

●貴校についてお伺いします。

貴校の名称をお知らせください。

回答者であるあなたの役職をお知らせください。

１　校長・教頭など管理職　　２　進路担当教職員　３　その他（　　）

貴校の所在地をお知らせください。

１　静岡県東部	３　静岡県西部
２　静岡県中部	４　県外（具体的に　　都　道　府　県　）

貴校の全校生徒数をお知らせください。

１　299 人以下	２　300～499 人	３　500～999 人	４　1,000 人以上

貴校の種別をお知らせください。

１　国立	２　公立	３　私立

貴校に設置されている学科の中で、静岡大学への進学を希望する**主な**学科をお知らせください。
（○はいくつでも）

１　普通科
２　理数科
３　農業科
４　工業科
５　商業科
６　総合学科
７　その他（　　）

過去３年間の静岡大学志願者の合計数をお知らせください。（浪人生も含めてわかる範囲でお答えください）

１　9 人以下
２　10～29 人
３　30 人以上

●静岡大学についてお伺いします。

問１　現在、静岡大学では以下のメディアや機会を通じて情報を発信しています。この中で**知っているもの全てに〇を**付けてください。（〇はいくつでも）

１　オープンキャンパス	５　進学相談会
２　ホームページ	６　出前授業（講義）
３　静岡大学総合案内（パンフレット）	７　出張学部説明会
４　学部案内（パンフレット）	

問２　上記 問１の中で役に立っているものの番号を**３つ選んで**以下にご記入ください。

問３　静岡大学から発信してほしい情報（手段・内容）などがありましたら、何でも結構ですのでお知らせください。

問４　生徒が社会生活を送るうえで、大学で身につけて欲しいと思われる能力について、あなた自身のお考えをお知らせください。（それぞれの能力について、その重要度１つに〇を付けてください）

	重　要　度				
	非常に重要である	ある程度重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	どちらともいえない
１　専門分野に関する知識・技術	１	２	３	４	５
２　幅広い教養と基礎学力	１	２	３	４	５
３　市民としての見識	１	２	３	４	５
４　英語の能力	１	２	３	４	５
５　問題発見／分析／解決能力	１	２	３	４	５
６　文章読解・表現能力	１	２	３	４	５
７　プレゼンテーション能力	１	２	３	４	５
８　コミュニケーション能力	１	２	３	４	５
９　コンピュータ活用能力	１	２	３	４	５
10　国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）	１	２	３	４	５
11　リーダーシップ	１	２	３	４	５
12　チームワーク（他の人と協力して物事を遂行する力）	１	２	３	４	５
13　高度な専門的知識と研究能力	１	２	３	４	５
14　専門的職業人に必要な高い能力	１	２	３	４	５

問５　あなた自身が考える静岡大学のイメージについて、次の中からあてはまるものを３つまで選んでください。

１	教育スタッフが充実している
２	教育カリキュラムが充実している
３	専門分野が学べる
４	専門分野の第一人者がいる
５	キャンパスの雰囲気が良い
６	学校施設・設備が充実している
７	就職に有利である
８	スポーツ・文化活動が活発である
９	歴史や伝統がある
10	地元あるいは近い大学であり親しみがある。
11	大学の個性・特徴が見えない
12	新しいことに積極的に取組んでいる
13	国際交流活動が盛んである
14	地域や企業との交流に積極的である
15	その他（具体的に　　）

問６　貴校が生徒に静岡大学への進学をすすめる理由は何ですか。次の中からあてはまるものを３つまで選んでください。

１	入試の難易度・偏差値が合っているから
２	入試科目・選抜方法が合っているから
３	生徒が専攻したい学問分野があるから
４	教員スタッフが充実しているから
５	生徒が専攻したい学問分野を専門とする教員がいるから
６	国立大学であるから
７	伝統や知名度があるから
８	大学のイメージがよいから
９	校風やキャンパスの雰囲気が生徒に合っているから
10	施設・設備がよいから
11	就職状況がよいから
12	大学院が整備されているから
13	生徒が取りたい資格・免許が取得できるから
14	自宅から通えるから
15	“静岡”あるいは“浜松”という土地柄やイメージがよいから
16	東京・名古屋などの大都市へのアクセスが良い土地柄だから
17	授業料が安いから
18	出身地、もしくは出身地（帰省地）の近隣県であるから
19	その他（具体的に　　）

問７　静岡大学が今後重点的に取り組むべき方向性はどのようなものだと思いますか。
あなた自身のお考えを以下の６つの項目の中から２つまで選んでください。

１　世界的研究・教育拠点
２　高度専門職業人養成
３　幅広い職業人養成
４　総合的教養教育
５　地域の生涯学習の拠点
６　社会貢献機能（地域貢献、産学官連携等）

問８　静岡大学の推薦入学及びＡＯ入試の拡大についてどのようなお考えをお持ちですか。（○は１つ）

１　拡大した方がよい
２　どちらともいえない
３　縮小した方がよい

問８－１　問８で「１ 拡大した方がよい」と回答した方に伺います。
なぜ拡大した方がよいと思いますか。（○はいくつでも）

１　多くの生徒に入学の機会が与えられる
２　早期に進路が確定する
３　その他（　　）

問８－２　問８で「３ 縮小した方がよい」と回答した方に伺います。
なぜ縮小した方がよいと思いますか。（○はいくつでも）

１　生徒の学習意欲や学力の低下につながる
２　一般入試で進学した生徒との学力差が激しい
３　その他（　　）

問９　静岡大学に関するご意見・ご要望がございましたら、何でも結構ですのでお書きください。

－ご協力ありがとうございました－